

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : A ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL01453a1, L 科 : LL01355a1, D 科・S 科 : IL01362a1, P 科 : YL01418a2, J 科 : JL01364a1, W 科 : WL01343a1, N 科 : NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。			
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。			
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。			
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 9月10日（土）1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（30分） 事後課題：授業の進め方について確認する（30分）
	2	チームビルディング 9月10日（土）2，3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題：チームビルディングの成果をまとめる（30分）
	3	北河内地域に関する講演 9月24日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	4	北河内地域に関する講演 9月24日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	5	グループワーク・プレゼンテーション 9月24日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	6	北河内地域に関する講演 10月1日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	7	北河内地域に関する講演 10月1日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	8	グループワーク・プレゼンテーション 10月1日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	9	北河内地域に関する講演 10月22日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	10	北河内地域に関する講演 10月22日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	11	グループワーク・プレゼンテーション 10月22日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	12	北河内地域に関する講演 11月19日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 11月19日（土）2限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	14	最終発表会 12月3日（土）1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（10時間）
	15	最終発表会 12月3日（土）2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（10時間）
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価 (40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 11号館 10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : A ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL01454a1, L 科 : LL01356a1, D 科・S 科 : IL01363a1, P 科 : YL01419a2, J 科 : JL01365a1, W 科 : WL01344a1, N 科 : NL01345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。 1) ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-9																																																		
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（3つの力）を理解できる。																																																		
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。																																																		
科目学習の効果（資格）	2019 年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 </td><td> ・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2 時間） </td></tr> <tr> <td>2</td><td>ビジネスの定義</td><td> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 </td><td> ・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2 時間） </td></tr> <tr> <td>3</td><td>組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー</td><td> ・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 </td><td> ・事前学修：NPO について調べる（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>4</td><td>ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー</td><td> ・グローバル化の明暗について考察する。 </td><td> ・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>5</td><td>ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー</td><td> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 </td><td> ・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>6</td><td>ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー</td><td> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 </td><td> ・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>7</td><td>ビジネス実務能力</td><td> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 </td><td> ・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2 時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>8</td><td>ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー</td><td> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 </td><td> ・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間） </td></tr> <tr> <td>9</td><td>ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー</td><td> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 </td><td> ・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間） </td></tr> <tr> <td>10</td><td>ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー</td><td> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 </td><td> ・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2 時間） </td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己実現とキャリアプランニングーセルフマネジメントと自己啓発ー</td><td> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 </td><td> ・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。（2 時間） </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2 時間）	2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2 時間）	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べる（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間）	4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間）	5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間）	6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間）	7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2 時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2 時間）	8	ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間）	9	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間）	10	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2 時間）	11	自己実現とキャリアプランニングーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（2 時間）																																																
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（2 時間）																																																
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べる（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間）																																																
4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間）																																																
5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間）																																																
6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間）																																																
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること（2 時間） ・事後学修：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（2 時間）																																																
8	ビジネス実務の基本①ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間）																																																
9	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間）																																																
10	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる（2 時間）																																																
11	自己実現とキャリアプランニングーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定箇所（pp. 164-174）を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。（2 時間）																																																

	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかりと読み込むこと（2 時間）																
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2 時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2 時間）																
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2 時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（2 時間）																
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（2 時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（2 時間）																
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ビジネス実務総論</td><td>全国大学実務教育協会</td><td>紀伊国屋書店</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td><td>ティナ・シーリグ</td><td>阪急コミュニケーションズ</td></tr><tr><td>2</td><td>イノベーションと企業家精神</td><td>P.F. ドラッカー</td><td>ダイヤモンド社</td></tr><tr><td>3</td><td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td><td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td><td>ダイヤモンド社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。																			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△○ : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然？①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然？②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする? ①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする? ②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見! ①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見! ②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何をする? ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする? ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見! ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見! ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何をする? ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする? ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見! ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見! ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー（DP）	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td><td>前期で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポートの言葉と表現</td><td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>レポートの構成</td><td>レポートの構成を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>テーマ決め・資料収集</td><td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td><td>資料を集める</td></tr> <tr> <td>5</td><td>資料を整理する</td><td>集めた資料を整理する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>アウトライン</td><td>レポートのアウトラインを作成する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>序論①</td><td>序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>序論②</td><td>序論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>本論①</td><td>本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>本論②</td><td>本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>本論③</td><td>本論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>結論①</td><td>結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>結論②</td><td>結論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ①</td><td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ②</td><td>作成したレポートを元に発表を行う</td><td>発表のF Bを元に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使ったプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使ったプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使ったプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使ったプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使ったプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>ついでに何をする？①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>ついでに何をする？②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>ウイルス発見！①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>ウイルス発見！②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
	13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
	14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
	15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ o: DP8 o		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1: テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1: テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1: テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3: テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3: テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3: テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
	13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
	14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
	15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	2号館 2階 グローバル教育センター																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。ハンドアウトを使用する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ o: DP8 o		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
	2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
	8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおける Eメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
	9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
	10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
	11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、定期試験 (50%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。 授業の概要は以下の通りです。 ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける																																																																		
授業方法と留意点	ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。 教材はプリントを配布する。 教員は適宜フィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td><td>授業の進め方、自己紹介</td><td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ディスカッションの基本</td><td>意見と根拠を言う</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ディスカッションの基本</td><td>質問する</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ディスカッション①</td><td>自分の意見を整理する。</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ディスカッション①</td><td>意見を整理して報告する</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ディスカッション①</td><td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ディスカッション①</td><td>ディスカッションの小テスト</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ディスカッション②</td><td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ディスカッション②</td><td>意見と根拠に対して質問する／質問に答える</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ディスカッション②</td><td>意見と根拠に対して反論する／再反論する</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ディスカッション②</td><td>結論を出す。</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ディスカッション②</td><td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ディスカッション②</td><td>ディスカッションの練習</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ディスカッション②</td><td>ディスカッションの小テスト</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ディスカッション②</td><td>ディスカッションの振り返り</td><td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2 回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の 研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然？①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然？②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文Ⅱ	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション 涙</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>ついでに何をする?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>ついでに何をする?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>ウイルス発見!①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>ウイルス発見!②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
	13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
	14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
	15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ o: DP8 o		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1: テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1: テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1: テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3: テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3: テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3: テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
	13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
	14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
	15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体） を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	専門日本語 R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。ハンドアウトを使用する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。																																																																		

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。			
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。			
授業方法と留意点	○準備学習の具体的な方法 本授業は指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み要約する（事前学習）。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の基本的な進め方については、毎時間、授業テーマに入る前に授業開始 5 分を利用して教育社会学キーワードテストを行うので、そのための事前学習も必要となる。さらに授業テーマの展開については、グループワークやワークショップ、ディスカッション等の参加型学習方			
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状 （2）中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	3	教師と子ども	教師－生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題：いじめの現状について調べ、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題：格差解消に向けた取り組みについて調べまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：日本、及び諸外国（例：米英中韓等）それぞれの学校教育制度、教育政策について調べまとめる。事後、各国の状況について要約する。
	10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題：地域連携の具体例について調べまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料（読み物）を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題：最終レポートの作成、及びまとめ試験（予定）の準備。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td><td>久富善之、長谷川裕</td><td>学文社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>現代教育社会学</td><td>岩井八郎、近藤博之</td><td>有斐閣ブックス</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新版『教育社会学を学ぶ人のために』</td><td>石戸教嗣</td><td>世界思想社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー</td><td>ブレイディみかこ</td><td>新潮社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス																
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社																
3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社																
評価方法 (基準)	小テスト (30%)、課題 (30%)、発表 (40%) より総合的に評価する。 ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																		
学生への メッセージ	本講義は、毎週、授業を始める前に小テストを行います。内容については第一回目の授業で説明します。																		
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。																		
備考	本授業は総授業時間 (30 時間) に加えて、各回の事前事後学習 (課題・レポートの作成も含めて) に各 2 時間 (全 15 回×4 時間=60 時間) を要する。																		

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
	10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
	11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第7章、第8章
	2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章
	3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章
	4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章
	5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章
	6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章
	7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章
	8	模擬授業と分析 (1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章
	10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章
	11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章
	12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第16章
	13	模擬授業と分析 (2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	14	模擬授業と分析 (3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sunshine English Course 1		開隆堂
	2	Sunshine English Course 2		開隆堂
	3	Sunshine English Course 3		開隆堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
	2	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
	3	英語リーディングの科学ー読めたつものの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法 (基準)	①小テスト・レポート (50%) ②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)
-----------	---

学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階(松田研究室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	-----------------------------

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「話す（発表）」及び「書く」）の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2022年度は、第8・9回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いに見え、聞こえるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・連絡・教
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
	2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（1）
	3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（2）
	4	教材研究と学習指導案の作成（1） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（3）
	5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン：英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（1）
	6	模擬授業と分析（1） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（2）
	7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（1）
	8	教材研究と学習指導案作成（2） ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（2）
	9	ICT活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
	10	模擬授業と分析（2） 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（1）
	11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（2）
	12	教材研究と学習指導案作成（3） ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
	14	模擬授業と分析（3）教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 (ISBN: 9784469246216)	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language (ISBN: 9780194233972)	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・授業時間中に行う実技・レポート) (2) レポート 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALT や担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (齋藤研究室)			
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブローカーではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学習者と英語教員 音声指導（1）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
	2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（2）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
	3	第2言語習得と英語教育 音声指導（3）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
	4	リーディング指導：リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	5	リーディング指導：指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	6	ライティング指導：ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
	7	ライティング指導：指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
	8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
	9	指導案作成と模擬授業（1）：リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
	10	指導案作成と模擬授業（2）：ライティング指導	授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
	11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
	12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
	13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
	14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
	15	英語教育の展望	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標	これまでの自分の学習を振り返る

			と到達のための手がかりを探す																	
関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216</td><td>望月 昭彦 編著</td><td>大修館書店</td></tr><tr><td>2</td><td>The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)</td><td>Brigit Viney</td><td>Oxford UP</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店	2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店																	
2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>学習指導要領 (文部科学省 HP)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	学習指導要領 (文部科学省 HP)																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (LESSンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし																			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)																			
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。																																																																		
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>英語教育の基礎理論</td><td>英語科教育法とは 英語科教育法の目的</td><td>序章</td></tr> <tr><td>2</td><td>英語教育の基礎理論</td><td>英語教育と英語教育学</td><td>第1章</td></tr> <tr><td>3</td><td>英語教育の基礎理論</td><td>英語の国際化と日本の英語教育</td><td>第2章</td></tr> <tr><td>4</td><td>英語教育の基礎理論</td><td>学習指導要領</td><td>第3章</td></tr> <tr><td>5</td><td>英語教育の実践編</td><td>リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成</td><td>第10章</td></tr> <tr><td>6</td><td>英語教育の実践編</td><td>リスニング：教科書を使った模擬授業</td><td>第10章</td></tr> <tr><td>7</td><td>英語教育の実践編</td><td>スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成</td><td>第11章</td></tr> <tr><td>8</td><td>英語教育の実践編</td><td>スピーキング：教科書を使った模擬授業</td><td>第11章</td></tr> <tr><td>9</td><td>英語教育の実践編</td><td>ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成</td><td>第13章</td></tr> <tr><td>10</td><td>英語教育の実践編</td><td>ライティングの指導：教科書を使った模擬授業</td><td>第13章</td></tr> <tr><td>11</td><td>英語教育の実践編</td><td>文法の指導：教材研究及び学習指導案作成</td><td>第18章</td></tr> <tr><td>12</td><td>英語教育の実践編</td><td>文法の指導：教科書を使った模擬授業</td><td>第18章</td></tr> <tr><td>13</td><td>英語教育の実践編</td><td>語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成</td><td>第19章</td></tr> <tr><td>14</td><td>英語教育の実践編</td><td>語彙・表現：教科書を使った模擬授業</td><td>第19章</td></tr> <tr><td>15</td><td>英語教育の実践編及びまとめ</td><td>異文化理解の指導及びまとめ</td><td>第2章、第9章</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章	2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章	3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章	4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章	5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章	6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章	7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章	8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章	9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章	10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章	11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章	12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章	13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章	14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章	15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章																																																																
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章																																																																
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章																																																																
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章																																																																
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章																																																																
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章																																																																
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章																																																																
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章																																																																
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章																																																																
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章																																																																
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章																																																																
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章																																																																
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章																																																																
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章																																																																
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章																																																																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Sunshine English Course 1</td><td></td><td>開隆堂</td></tr> <tr><td>2</td><td>Sunshine English Course 2</td><td></td><td>開隆堂</td></tr> <tr><td>3</td><td>Sunshine English Course 3</td><td></td><td>開隆堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Sunshine English Course 1		開隆堂	2	Sunshine English Course 2		開隆堂	3	Sunshine English Course 3		開隆堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Sunshine English Course 1		開隆堂																																																																
2	Sunshine English Course 2		開隆堂																																																																
3	Sunshine English Course 3		開隆堂																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>英語多読・多聴指導マニュアル</td><td>高瀬敦子</td><td>大修館書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学</td><td>門田修平</td><td>コスモビア</td></tr> <tr><td>3</td><td>英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から</td><td>白井知彦</td><td>大修館書店</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店	2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア	3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店																																																																
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア																																																																
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店																																																																
評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）																																																																		
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらい入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階(松田研究室)																																																																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																																																																		

科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語および中国語教授法についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。発音や文法の指導のなかでつまづきやすい問題を重点的に理解を深め、それを伝えるためにはどうすればよいのかを考える。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。ただし、文法項目ごとに授業方法に関するプレゼンテーションを課すなど演習形式も取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音 1・「是」・副詞	中国語の発音指導のポイントとその指導法。	事後にこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	2	発音 2・指示代名詞・「口馬」疑問文と反復疑問文	日本人にとって習得が難しい声調。疑問文における英語、日本語、中国語の対比。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	3	形容詞述語文とその否定や疑問	英語 be 動詞を例にとった中国語「是」の教え方と注意点。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	4	「的」	日本語「の」と中国語「的」を対比させた教え方とその問題点。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	5	前置詞「在」・「是～的」構文・疑問詞疑問文	疑問詞疑問文と「口馬」疑問文の違い、中国語の前置詞フレーズの文中位置を英語の前置詞フレーズと比較しながら教える。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	6	数詞・疑問数詞・文末助詞「口尼」	日本語と中国語の間で数詞を比較する。「几」と「多少」の使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	7	量詞・「二」と「兩」・動詞「有」と「在」	「二」と「兩」の使い分け。「ある」を表す「有」と「在」の意味と文型の違い。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	8	二種類の「怎麼」・「為什麼」「這麼」「那麼」	How の「怎麼」と Why の「為什麼」の使い分けと見分ける方法について。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	9	進行文・「ねばならない」助動詞群	助動詞の使い方を英語助動詞と対比させることで理解を促す。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	10	連動文・使役を表す「叫」と「讓」・兼語文	使役文が兼語文からの派生であることを理解し、教授法に取り入れる。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	11	「不」と「没」・二重目的語・様態補語	中国語の授与動詞や二重目的語文型を英語の give 文と対比させながら理解する。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	12	「できる」助動詞群・「したい」助動詞群・了	可能表現にまつわる助動詞文と可能補語文の違いと使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	13	アスペクト「着」「過」	時制とアスペクトの違いとその中国語での文法形式について。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	14	「了 1」と「了 2」・2 つの「着」「快～了」	「了 1」と「了 2」の使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	15	「把」構文・結果補語・受け身	「把」構文を使う目的とその条件。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 入門ルール 66	相原茂 / 玄宜青	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加 60%、レポート 40%
-----------	-------------------

学生への メッセージ	比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 中西研究室
備考	事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえつつ、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が必要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。			
到達目標	教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができるようになる。 教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につけることができる。			
授業方法と留意点	オンライン形式で授業を行う。教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。オンラインながら、実習に十分な時間を当てる。			
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	2	学習指導案作成Ⅰ（発音篇）	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パタンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回に作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	5	学習指導案作成Ⅱ（講読・作文篇）	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe 動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	8	学習指導案作成Ⅲ（リスニング篇）	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	9	ディクテーションとシャドウイング	LL 教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	12	学習者へのフィードバックと成績管理	（1）服務の宣誓 （2）信用失墜行為の禁止 （3）兼職の禁止 等について	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	13	マルチメディアを利用する（1）	CD や DVD あるいは Web で入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	14	マルチメディアを利用する（2）	e-ラーニング及びさまざまな Web サービスを利用した授業を考える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	15	マルチメディアを利用する（3）	CALL 教室で模擬授業をする。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%			
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんとじっくり考えたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考	教材としてプリントを配布します。 事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。 授業時間外に質問がある場合は、「連絡手段」の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語教育の歴史と現状、中国語の学習内容など、中国語および中国語教育の基礎知識を学ぶ。また中国語教科書によって、発音・文法・語彙がどのように教えられているのかを理解する。
到達目標	日本における中国語教育の歴史や現状、学習すべき内容を説明することができる。
授業方法と留意点	受講者は教科書の該当部分をあらかじめしっかりと予習する。授業では教員が補助資料などを示しながら、内容について討論する。
科目学習の効果 (資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入：中国語とは？ (教科書 第 1 章)	中国語の基本情況について学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	2	日本の中国語教育① (第 2 章)	日本における中国語教育の歴史を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	3	日本の中国語教育② (第 3 章)	日本における中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	4	中国の外国人向け中国語教育 (第 4 章)	中国・台湾における外国人向け中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	5	漢字と発音表記 (第 5 章)	漢字や発音表記法について学習し、中国語辞典についても検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	6	発音の学習① (第 6 章)	発音の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	7	発音の学習②	中国語教科書によって、発音の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	8	文法の学習① (第 7 章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	9	文法の学習② (第 7 章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	10	文法の学習③	中国語教科書によって、文法の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	11	語彙の学習① (第 8 章)	語彙の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	12	語彙の学習②	中国語教科書によって、語彙の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	13	基本技能の習得と評価 (第 9 章)	学習目標と評価について検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	14	授業計画と評価	授業計画と評価について検討し、学習指導案を作成する。	事前に中国語教科書をもとに学習指導案を準備し、事後に授業をふまえて指導案を修正する。
	15	まとめ	学習指導案にしたがってプレゼンを実施し、課題や問題点を検討する。	事前にプレゼンを準備し、事後に課題をまとめる。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語の教え方・学び方 中国語科教育法概説	興水優	日本大学文理学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業・課題への取り組み (50%)、レポート (50%) によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
備考	事前・事後にあわせて 60 時間程度の学習を要する。 課題に対する評価は提出後に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければならない。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読み、解説する。中国語教科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読する。高度な内容の論文を読むので、必ず予習が必要である。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>現状と問題</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>文化知識導入の理論と原則</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 1</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 2</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 3</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 4</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>語彙を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>語彙を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文構文を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文構文を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文章構成を中心に</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>話題を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>話題を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ 1</td><td>これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。</td><td>教案を練る。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 2</td><td>前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。</td><td>レポートを書く。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。	15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。																																																																
15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。																																																																
関連科目	中国語教科教育法Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小レポート (60%)、レポート (40%)																																																																		
学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)																																																																		
備考	事前・事後学習総時間は、毎回 4 時間程度とする。																																																																		

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。																
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>道徳科 初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰 編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>教育出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに最終レポートを作成する（2 時間）。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したものと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといえることが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室																			
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。																			

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習
	2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習
	3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
	4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 2 講、第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第 2 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	9	“問題”の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
	10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知、自己意識、道徳性、仲間関係等）	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
	11	相談援助活動の実際 1	不登校.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習
	12	相談援助活動の実際 2	いじめ.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習
	13	相談援助活動の実際 3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習
	14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習
	15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第 15 講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる！教職エクササイズ 3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%、期末試験 50%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 3 階（吉田研究室）
----------	-----------------

備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。
----	---

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは 22 教育相談（月 2） 2022ECMON2 火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは 22 教育相談（火 2） 2022ECTUE2 木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは 22 教育相談（木 1） 2022ECTHU1 木曜 4 限：202
--	---

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実践についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5 単位あるいは 3 単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
	2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
	3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
	4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
	5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
	6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
	7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
	8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
	9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する
	10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	14	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
	15	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・松浦研究室・大野研究室・朝日研究室 (7 号館 3 階) 谷口研究室 (7 号館 4 階)
----------	--

備考	教職フォーラム (10 月最終土曜日)、教育実習総括講義 (11 月最終土曜日) には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。
----	--

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一、朝日 素明、大野 順子、松浦 正典、吉田 佐治子
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員 5 名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1 グループは 10 名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2 回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読 （事後）小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読 （事後）小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育（1）	ジェンダーと教育に関する視聴覚教材の視聴、及び、問題点についてまとめる。	特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。
	5	ジェンダーと教育（2）	第一回目のまとめを全体で共有し、そこからジェンダーに関する問題点をひとつ取り上げ全体で議論する。	特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。
	6	学校の危機管理（1）：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理（2）：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	8	通常学級での特別支援教育（1）	・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。	（事前）教育実習で気になった生徒について、その生徒の特長・担任等の支援の状況をまとめておく。 （事後）講義の内容をもとに対象となる生徒の特長と支援について改良案を考える。
	9	通常学級での特別支援教育（2）	・前時の授業を踏まえ、「授業のユニバーサルデザイン」の概要・目指すものについて理解する。	（事前）前時の授業内容を復習しておく。 （事後）講義や教科書を元に学習内容をまとめる。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ「悩み」を 3 つあげる。 （事後）小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための 1 方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
	12	生徒指導・進路指導（中学校現場での実地学習）（1）	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導（生徒指導・進路指導のあり方）についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導（中学校現場での実地学習）（2）	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導（教科指導のあり方）についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題（1）	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門	専攻教科における分野ごとの課題を整理する

		課題（２）	分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階（朝日、大野、松浦、吉田） 7号館4階（谷口）			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一・疋田 祥人
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭 1 種免許状 (2) 中学校教諭 1 種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう？」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その 1 ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
	9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その 2	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
	10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その 1 ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
	11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その 2	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
	12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	(事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P. 169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
	2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
	3	教師教育と教職の専門性 （1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
	4	教師教育と教職の専門性 （2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
	5	教師教育と教職の専門性 （3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
	6	教師教育と教職の専門性 （4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
	7	文獻・映像に基づく教師像の 探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
	8	文獻・映像に基づく教師像の 探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文獻・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	9	文獻・映像に基づく教師像の 探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」（文獻・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	10	文獻・映像に基づく教師像の 探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
	11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
	12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
	13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
	14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
	15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%
----------	---

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と 1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第 0 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	2	発達と教育と心理学と 2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第 8 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	3	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 9 章, 配付資料による本時の予習と復習
	4	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習
	5	こどもの発達 3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章, 配付資料による本時の予習と復習
	6	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	7	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習
	8	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章, 配付資料による本時の予習と復習
	9	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第 1 章, 配付資料による本時の予習と復習
	10	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章, 配付資料による本時の予習と復習
	11	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	12	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	13	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章, 配付資料による本時の予習と復習
	15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I, 学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (吉田研究室)
----------	------------------

備考	Moodle コース名と登録キー
	火曜 5 限: 2022 教育心理学 (火 5) あるいは 22 教心 (火 5) 2022EPTUE5 木曜 1 限: 2022 教育心理学 (木 1) あるいは 22 教心 (木 1) 2022EPTU1 木曜 5 限: 2022 教育心理学 (木 5) あるいは 22 教心 (木 5) 2022EPTU5 金曜 5 限: 2022 教育心理学 (金 5) あるいは 22 教心 (金 5) 2022EPPRI5
	・期末試験は希望者に返却します。
	・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお発表資料は発表の 1 週間前までに提出することとする。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第 1 章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2 時間)・グループでの役割に応じて 4 回目授業での発表準備を進める (2 時間)
	2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。	・教科書第 2 章をよく読み、質問をまとめておく。(2 時間)・グループでの役割に応じて 4 回目の授業での発表準備を進める (2 時間)
	3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第 3 章をよく読み、質問をまとめておく。(2 時間)・ペアでの役割に応じて、4 回目の授業での発表の資料を A 4 一枚程度(両面可)にまとめ、提出する。(2 時間)
	4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。	・教科書第 1 1 章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2 時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2 時間)
	5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第 1 0 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・グループでの役割に応じて、7 回目の授業での発表資料を A 4 二枚以内 (両面可) にまとめ、提出する。(2 時間)
	6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第 8 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習しておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2 時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正し、提出する。(2 時間)
	8	知的障害・発達障害について (2)	・7 回目終了後に提出した資料をもとに 2 回目のグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習しておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2 時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2 時間)
	9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第 1 2 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・ICF モデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第 5 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	11	通常学級での特別支援教育 (1)	・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。	・第 2 回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2 時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	12	通常学級での特別支援教育 (2)	・前時の授業をもとに、授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。	・前時の授業内容を復習しておく (2 時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する。 ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・特別な教育的支援を必要とする子ども・教科書第 1 3 章・1 4 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2 時間)
	14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実態を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第 1 5・第 1 6 章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2 時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2 時間)

	15	発達障害等に対する指導技法　まとめ	・応用行動分析の考え方を理解する。 ・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。（2時間） ・今までの学修をふりかえる（2時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために</td><td>柘植雅義他</td><td>有斐閣アルマ</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>みんなで考える特別支援教育</td><td>梅永雄二他</td><td>北樹出版</td></tr><tr><td>2</td><td>特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr><tr><td>3</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版	2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版																	
2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」(文部科学省ホームページでダウンロード可能)を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題: シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義: 高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	15	総括: 教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題: 教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1.1～Vol.1.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
	2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
	3			

評価方法(基準)	事前課題及びレポート(30%)と最終試験(70%)により総合的に評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp
----------	--

備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します
----	---

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
--	-----------------------------

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。																
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>道徳科 初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰 編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>教育出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい 学級活動に役立つワーク 6	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
	15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をすること もに最終レポートを作成する（2 時間）。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したものと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 2 9 年告示	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成 2 9 年告示	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといえることが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室																			
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術に関する歴史的変遷に触れ、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。 また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。
到達目標	1 教育方法の基礎的理論と実践について理解している 2 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3 授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 4 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する。 2 講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の1週間前までに提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目 教育方法論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ペア学習：記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 ペア学習：学びのピラミッドを理解する	教科書第5章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(2時間)。
	3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する課題を決める。	教科書第4章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。6から10回目の授業内容のうち担当する授業テーマについて発表の準備を進める。(2時間)
	4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 ミニ講座その1	教科書第1章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。発表の準備を進める。(2時間)
	5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②)	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する ミニ講座その2	教科書第2章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	6	学力をどう高めるか（学力論）	グループ発表・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第6章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。	教科書第7章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	8	8 教育の道具・素材・環境（教材論）	グループ発表・講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。	教科書第8章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	9	何をどう評価するか（評価論）	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。	教科書第9章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。	教科書10章をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	11	授業・学習へのICTの活用	講義：教育の情報化、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、GIGAスクール構想について理解する ミニ講座3	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)。
	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICFへの転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)

			ミニ講座 4																	
	13	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論)	講義: バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座 5	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	14	今求められている学力を育てるために	講義・ペア学習: なぜフィンランドは学力世界一になったかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。 ミニ講座 6	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって	講義: すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいのか2つの教師モデル等から理解する。 最終レポートの課題を知る。	教科書第11章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。(2時間)																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新しい時代の教育方法 改訂版</td><td>田中耕治他</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編	文部科学省	東山書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編	文部科学省	東山書房																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、最終レポート(30%)により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の研究室等	7号館3階(松浦研究室)																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。 Teams のチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付は Moodle を通して行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 朝日研究室
----------	----------------

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。
----	---

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Community-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、大野 順子、谷口 雄一、松浦 正典
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービslラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館3階（大野研究室）、7号館4階（谷口研究室）、7号館3階（松浦研究室）、7号館3階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、大野 順子、谷口 雄一、松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週 1 回 9 0 分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、7 号館 3 階（大野研究室）、7 号館 4 階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1 回の活動に対して、それぞれ 1、2 時間は必要です。																																																																		

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。＊遠隔の場合、リアルタイム配信で行う。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1 件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト 1 を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういう状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーや DV は、個人問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。																			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	6	マーケティングの S T P アプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、S T P アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	8	マーケティングの歴史的探究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的探究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

評価方法	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)
------	---------------------------

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	全学部生のための刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん）、偽計業務妨害（カンニング）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。				
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。				
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を				
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題やフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		10	DV とデート DV	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
		14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形式的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。			
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考				

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 1 章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 1 章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 2 章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 2 章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 3 章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 3 章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	第 I 部 相互信頼から相互不信へ	第 4 章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	第 II 部 対立激化への展開	第 5 章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	第 II 部 対立激化への展開	第 5 章 領土問題の相克と定着化 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	第 II 部 対立激化への展開	第 6 章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	第 II 部 対立激化への展開	第 6 章 民主党政権と李明博政権 (2) 第 7 章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	第 II 部 対立激化への展開	第 7 章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	第 II 部 対立激化への展開	第 8 章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60 分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）																
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―</td><td>木村幹・田中悟・金容民〔編著〕</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>韓国現代史</td><td>木村幹</td><td>中公新書</td></tr><tr><td>2</td><td>日韓歴史認識問題とは何か</td><td>木村幹</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	韓国現代史	木村幹	中公新書	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	韓国現代史	木村幹	中公新書																	
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房																	
3																				
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）																			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。																			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室																			
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。																			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	金融・経済の自由化やグローバル化が進捗し、多様な金融商品やサービスが登場するなど消費者の選択肢が拡大して、これまで以上に利便性や収益機会が得られるようになりました。その一方、私たちに自らの判断と責任において金融取引を行うべきとする、「自己責任」が求められる時代になっています。自立した個人として、実際の問題に対処して自身で合理的な選択や意思決定を行うために必要な知識基盤を身につけることが今、大切です。こうした知識や能力は豊かな暮らしや社会の実現に欠かせないばかりか、さまざまな金銭・金融トラブルから私たちの身を守ることに役立ちます。 この授業では、自身のライフデザインにもとづいた資金計画をはじめ、金融資産の基本的なしくみや特性・リスクとリターン、その活用方法、企業研究など実社会で役立つ金融リテラシー(知力)を広く身につけることを目的とします。				
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。				
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 課題への参加や提出物は期限を厳守してください。				
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格にも役立つでしょう。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力）」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
		5	ライフプランニング②	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。
		6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		8	アセットクラスの基礎知識／株式①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス：資産クラス、資産の種類のこと	課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。
		9	アセットクラスの基礎知識／株式②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
		10	アセットクラスの基礎知識／債券①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや“格付け”についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
		11	アセットクラスの基礎知識／債券②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	12	アセットクラスの基礎知識／投資信託	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介しします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。	

	13	外為市場・外貨建て商品	外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題①キャッシュフロー表 : 25% 課題②株式投資ゲーム参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5%			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11 号館 1 階 (教務課)			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp までメールをしてください。 この講義は、SMB C 日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。																																																																		
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs</td><td>科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)</td><td>事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全</td><td>将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動</td><td>水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>淀川流域の洪水対策</td><td>淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>些細なことでも豊かになる淀川流域の生活</td><td>なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)</td><td>事前: 教科書[第5章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>淀川水系にみる文化と観光の経済学</td><td>文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)</td><td>事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域資源としての淀川の記憶</td><td>淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)</td><td>事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>淀川流域の名所化と文化遺産</td><td>淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)</td><td>事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>所得格差と教育問題</td><td>淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)</td><td>事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>都市農業の歴史的遺産と公益的機能</td><td>淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)</td><td>事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人口移動や通勤流動でみる地域経済</td><td>淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)</td><td>事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>産業連関分析</td><td>淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)</td><td>事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>住民が主役の広報戦略</td><td>淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)</td><td>事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>滋賀県朽木地域の森林利用の変遷</td><td>淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)</td><td>事前: 教科書[第3章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>プラスチックごみの発生源抑制対策</td><td>大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第5章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	12	産業連関分析	淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第3章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第1章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第2章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第14章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第5章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第6章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第7章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第8章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第9章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第10章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第11章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
12	産業連関分析	淀川流域における3市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第12章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第13章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第3章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第4章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む																																																																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源から地球の未来を考えよう</td><td>後藤和子・鳥谷部壤編著</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	第2回目～15回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも5点満点、14回分で計70点) と、期末のレポート (30点) の合計100点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、																																																																		

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生への メッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となっても、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の 研究室等	1号館7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Processing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。			
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。			
授業方法と留意点	毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	講義プリントを用いた復習
	2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたっている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	講義プリントを用いた復習
	3	学習：シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	講義プリントを用いた復習
	4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	講義プリントを用いた復習
	5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	講義プリントを用いた復習
	6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	講義プリントを用いた復習
	7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	講義プリントを用いた復習
	8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	講義プリントを用いた復習
	9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	講義プリントを用いた復習
	10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	講義プリントを用いた復習
	11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	講義プリントを用いた復習
	12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	講義プリントを用いた復習
	13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	講義プリントを用いた復習
	14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	講義プリントを用いた復習
	15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			
評価方法（基準）	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度・クイズと課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。			
学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 寺内研究室			
備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。			

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インターネットや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ（履修者のみがアクセス可能）を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。 また、本科目では【履修学生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果 (資格)	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について C 科 伊藤教授、S 科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
	2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
	3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
	4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
	5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
	6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W 科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
	7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
	8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
	9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
	10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
	11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
	12	データの整理から分析までの連動	オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
	13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
	14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
	15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) CEI 石井教授、S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目	情報リテラシーI、情報リテラシーII、データサイエンス展開			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～	三谷慶一郎	

		e-learning 教材（受講者のみ利用可能）		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進展度（アンケート） 5%、学修ノート 5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室、7 号館 5 階 石井教授室			
備考				

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科 : R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の 4 点を理解することが期待される。 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019 年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる (1 時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3 時間)
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2 時間) ・事後学修: SDGs # 5 がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2 時間)
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモース・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる (2 時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2 時間)
	4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第 5 次男女共同参画基本計画	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2 時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2 時間)
	5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2 時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2 時間)
	6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2 時間) ・事後学修: テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2 時間)
	7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修: ハラスメントの事例の一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2 時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2 時間)
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・6 名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修: 6 名の女性に関するプレゼン (2 時間) ・事後学修: 6 名の女性から学んだことのレポート作成 (2 時間)
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2 時間) ・事後学修: M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2 時間)
	10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べる (2 時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2 時間)
	11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2 時間) ・事後学修: ワークシート #11 (2 時間)
	12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2 時間) ・事後学修: ワークシート #12 (2 時間)

			る																	
	13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（2 時間） ・事後学修：ワークシート#13（2 時間）																
	14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2 時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2 時間）																
	15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（2 時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2 時間）																
関連科目	2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>共に学ぶ女性学</td><td>石井三恵</td><td>泉文堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ジェンダーで学ぶ社会学</td><td>伊藤公男</td><td>世界思想社</td></tr><tr><td>2</td><td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td><td>木村 涼子 他</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>3</td><td>性と法律</td><td>角田 由紀子</td><td>岩波新書</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 （基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Revelation of Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ②, R 科: A ②, A 科: A ②, M 科: A1 ②, E 科: B Δ, C 科: II ②, L 科: DP2 ②, D 科: DP1 ②, S 科: DP1 ②, J 科: DP1 ②, W 科: DP1 ②		
科目ナンバリング	V 科: R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, J 科: JT01374a1～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	インターネットの利用が日常化し、IT による人とのつながりが増えるとともに、影響を受ける場面が飛躍的に増加している。これからの社会においては情報化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていくデータリテラシーを身に付けていることが必要となっている。 しかしながら、データの価値に対する理解や、Society 5.0 で謳われているような分野横断的な連携、社会の変革につながる方向性を伝える教育は十分には行われていない。 摂南大学ではこれまで学部横断の PBL プロジェクトや地域社会と海外に向けた副専攻課程を設置するなど、大学の知を社会の豊かさとなるような成果に結びつける試みを展開してきた。2020 年度より全学の初年次情報科目を統一化し、さらに、2021 年度からは全学開講科目として、3 年次に「使えるデータサイエンス」を開講し、卒業と就職を控えた学生に、より実践的なデータ利用を目指す教育体制を構築し、IT の利点を引き出せる人材育成を進めている。 この流れの中でさらに、初年次と卒業時をつなぐ、2 年次にさらに情報社会で活躍する社会人を育成するために文理を問わず全学を対象とした「データサイエンス展開」を開講する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・A I は、現在進行中の社会変化 (第 4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等) に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであることを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・A I が対象とする「社会 で活用されているデータ」や「データの活用領域」 は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題 を解決する有用なツールになり得ることを理解し説明できる。 (3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され
授業方法と留意点	授業は担当講師がプレゼンツール、板書やグループワーク等のアクティブラーニングで実施する。また、事前学習として予習シート、事後学習としてふりかえりシートを課する。それらの提出には教員の指定する ICT ツールを活用する。
科目学習の効果 (資格)	AI/データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア構築や就職活動に役立てることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的、オリエンテーション、教育効果測定のためのアンケート	事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	2	第 2 回 社会を豊かにするデータサイエンス	Society 5.0 に向けた発展状況を知る。オープンデータの活用による社会活動、研究活動への期待を理解する。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	3	第 3 回 政策とデータサイエンス	政策立案におけるデータ収集から意思決定、評価への流れを知る。With コロナ時代の産業振興策の現状と課題について学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	4	第 4 回 教育とデータサイエンス	数理・データサイエンス・AI 教育が目指すものとこれからの社会へのインパクトについて知る。GIGA スクール構想から大学のデジタルゼーションまで教育の DX について広く学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	5	第 5 回 まちづくりとデータサイエンス	自治体行政の情報化の変遷とその評価について学ぶ。住民視点の行政評価の仕組みその課題を知る。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	6	第 6 回 プロダクト・イノベーションとデータサイエンス	新商品開発におけるデータの活用と生産プロセスでのデータ活用について学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	7	第 7 回 居住空間とデータサイエンス	照明の IT ソリューションに関する最新事例を学ぶ。生活リズムに合わせた照明技術のあり方、生活のデザインへのデータ活用について知る。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	8	第 8 回 広告とデータサイエンス	広告とデータの関係について歴史的に学ぶ。Web やデジタルサイネージなどの新しい形の広告媒体の可能性について視野を広げる。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	9	第 9 回 ミュージアムとデータサイエンス	ミュージアムのデジタルゼーションの現状や課題を知る。高度な測量・分析を用いた研究活動の可能性を学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	10	第 10 回 言語とデータサイエンス	コーパス言語学の概要について学ぶ。言語とデータ化についての歴史や課題を知る。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	11	第 11 回 福祉とデータサイエンス	医療、福祉におけるデータ活用の実態と課題について学ぶ。コミュニティの連携と交流関係を豊かにする活動の要諦を知る。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	12	第 12 回 生命科学とデータサイエンス	医薬品開発、医薬品流通におけるデータの重要性と課題を知る。コロナ以降の医薬業界の DX への期待について学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	13	第 13 回 スポーツとデータサイエンス	戦術におけるデータ活用の歴史と最新の事例を知る。選手のコンディションや戦況を加味した新しいデータ活用の利点と課題を学ぶ。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	14	第 14 回 人間関係とデータサイエンス	人との関わりでの心理影響のデータ化技術について知る。ライフワークバランスを実現するための IT 支援技術の現状を理解する。	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)
	15	第 15 回 社会人としてデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループ	事前学習: 予習シート作成 (60 分) 事後学修: ふりかえりシート (30 分)

			ワークで学ぶ。	
関連科目	情報系科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	予習シート (20%)、課題・授業メモ (50%)、ふりかえりシート (30%) の総合点の 60%以上を合格とする。 なお、出席率 80%以上を成績評価の前提とする。出席に関する不正行為やネガティブな姿勢は関係する学生全員の責任とする。			
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	7 号館 2F 非常勤講師室 1 号館 3F 伊藤教授室			
備考				

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30 分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること (60 分)
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30 分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60 分)
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる (30 分) ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめること (60 分)
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成すること (30 分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60 分)
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をすること (30 分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること (60 分)
	6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをすること (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60 分)
	7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 来客対応プリント②をすること (60 分)
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60 分)
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること (60 分)
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること (60 分)
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30 分) ・事後学修: メール文書を作成すること (60 分)
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べる (30 分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60 分)
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30 分) ・事後学修: 設営事例をまとめること (60 分)
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60 分)
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること (30 分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60 分)
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、無断欠席が4回以上ある場合には成績評価しない。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲、大塚 正人、喜多 大三、久保 廣正、佐藤 大 作、白鳥 武、田中 鉄二、鳥谷部 壘
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。 科目のテーマである SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。 つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養（特に、社会、経済、環境等）を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
	2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
	3	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLdtd5nviw
	4	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 14、15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzjE
	5	地球共生デザインを考える I：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 16、10（特に 10.2、10.3）、5（特に 5.1、5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1、11.2）を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
	6	地球共生デザインを考える II：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 16、10（特に 10.2、10.3）、4（特に 4.5、4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1、11.2）を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ffmpeg.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
	7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
	8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第 1 回レポート
	9	日本の国際貢献 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html
	10	日本の国際貢献 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html
	11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1：目標 2（2.4、2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。（※日本語字幕を選択する。）

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t	
	12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp,London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon	
	13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sd76c	
	14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc	
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事後：第2回レポート 事前：SDGs1-17 の復習 事後：第2回レポート	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%) ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・成果発表・プレゼンテーション1回 (チーム：10%) ・振り返りシート (個人：20%)、・レポート2回 (個人：20%)、・授業資料管理 (個人：5%) ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。				
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。				
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中准教授 (1 号館 7F)、鳥谷部講師 (11 号館)				
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。				

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	熊谷 樹一郎、野長瀬 裕二、野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科 : R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 教務部長 C 科 伊藤教授 都市計画とまちづくり C 科 熊谷教授	事前 : シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後 : 学修ポイントに合った計画の提出
	2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
	3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する
	4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表、討論会 C 科 伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
	5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W 科 野長瀬教授	授業担当者から指示する
	6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S 科 久保准教授	授業担当者から指示する
	7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R 科 稲地准教授	授業担当者から指示する
	8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W 科 野村教授	授業担当者から指示する
	9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表、討論会 C 科 伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
	10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J 科 増田講師	授業担当者から指示する
	11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する
	12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L 科 古矢講師	授業担当者から指示する
	13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A 科 加嶋教授	授業担当者から指示する
	14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A 科 池内教授	授業担当者から指示する
	15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C 科 伊藤教授 C 科 熊谷教授	事前 : これまでの講義の振り返り 事後 : 振り返りレポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の事後レポート			
学生への メッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。			
担当者の 研究室等	1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室			

備考	
----	--

科目名	グローバル・シチズンシップ論（入門）	科目名（英文）	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚 正人、鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。 この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。 受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) および GCE の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。 この講義は、GC と GCED にくついての授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。																																														
到達目標	到達目標は以下の通りである ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている 具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識（ローカルがグローバルに与える影響） ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイディアを共有していくこと ●グ																																														
授業方法と留意点	●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行う。 ●教材の入手、クラスメ																																														
科目学習の効果（資格）																																															
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション（1） 4 月 16 日（土） 3 限目</td><td>オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>2</td><td>イントロダクション（2） 4 月 16 日（土） 4 限目</td><td>チーム・ビルディング</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「グローバル・シチズンシップ」の概念（1） 4 月 23 日（土） 3 限目</td><td>ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「グローバル・シチズンシップ」の概念（2） 4 月 23 日（土） 4 限目</td><td>与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>5</td><td>貧困問題、飢餓問題について 4 月 30 日（土） 3 限目</td><td>ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>6</td><td>健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4 月 30 日（土） 3 限目</td><td>与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ジェンダー問題について、水の問題について 5 月 7 日（土） 3 限目</td><td>ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>8</td><td>エネルギー問題について、経済格差について 5 月 7 日（土） 4 限目</td><td>与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>9</td><td>社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5 月 14 日（土） 3 限目</td><td>ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> <tr> <td>10</td><td>まち（都市）の抱える問題に</td><td>与えられた課題に関して自ら資料を情</td><td>指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション（1） 4 月 16 日（土） 3 限目	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	2	イントロダクション（2） 4 月 16 日（土） 4 限目	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	3	「グローバル・シチズンシップ」の概念（1） 4 月 23 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	4	「グローバル・シチズンシップ」の概念（2） 4 月 23 日（土） 4 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	5	貧困問題、飢餓問題について 4 月 30 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	6	健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4 月 30 日（土） 3 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	7	ジェンダー問題について、水の問題について 5 月 7 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	8	エネルギー問題について、経済格差について 5 月 7 日（土） 4 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	9	社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5 月 14 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	10	まち（都市）の抱える問題に	与えられた課題に関して自ら資料を情	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																												
1	イントロダクション（1） 4 月 16 日（土） 3 限目	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
2	イントロダクション（2） 4 月 16 日（土） 4 限目	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
3	「グローバル・シチズンシップ」の概念（1） 4 月 23 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
4	「グローバル・シチズンシップ」の概念（2） 4 月 23 日（土） 4 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
5	貧困問題、飢餓問題について 4 月 30 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
6	健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4 月 30 日（土） 3 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
7	ジェンダー問題について、水の問題について 5 月 7 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
8	エネルギー問題について、経済格差について 5 月 7 日（土） 4 限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
9	社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5 月 14 日（土） 3 限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												
10	まち（都市）の抱える問題に	与えられた課題に関して自ら資料を情	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																																												

		ついて、持続可能な消費と生産について 5月14日(土) 4限目	報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	う																
	11	気候変動の問題について、水産資源の問題について 5月21日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	12	森林破壊等の問題について、平和と公正に対する問題について 5月21日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	13	グローバル・シチズンシップ教育について(1) 5月28日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	14	グローバル・シチズンシップ教育について(2) 5月28日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
	15	総括 6月4日(土) 3限目	授業全体の振り返りワーク	指定指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う																
関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール</td><td>日本ユニセフ協会</td><td>さ・え・ら書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>SDGs時代の教育</td><td>北村友人他</td><td>学文社</td></tr><tr><td>2</td><td>SDGs時代の学びづくり</td><td>かながわ開発教育センター</td><td>明石書店</td></tr><tr><td>3</td><td>貧しい人を助ける理由</td><td>デイビッド・ヒューム</td><td>日本評論社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社	2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店	3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社																	
2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店																	
3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社																	
評価方法(基準)	平常評価 80%(小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20%(作成過程を含む)																			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒に作りましょう。																			
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス薬学部I号館5階生命融合化学分野																			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論（応用）	科目名（英文）	Global Citizenship（Advanced）
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保、大塚 正人、谷口 葉子
ディプロマポリシー（DP）	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論（入門）履修後に履修することが望ましい。 本科目はグローバル・シチズンシップ論（入門）で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題（多文化共生、外国人労働者、SDGs など）に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。																																																																		
到達目標	・日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる ・さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる ・身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる																																																																		
授業方法と留意点	・いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 ・取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 ・本科目は 2022 年度後期 90 分授業 x 2・3 コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。 初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておく必要がある。 ・その他、履修にあたって不明																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>2</td><td>グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援</td><td>ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>3</td><td>グローバルシチズンシップと人権①</td><td>ゲストレクチャー</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>4</td><td>グローバルシチズンシップと人権②</td><td>マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>5</td><td>グローバルシチズンシップと経済①</td><td>ゲストレクチャー</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>6</td><td>グローバルシチズンシップと経済②</td><td>自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>7</td><td>グローバルシチズンシップと起業①</td><td>ゲストレクチャー（パネルディスカッション）社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>8</td><td>グローバルシチズンシップと起業②</td><td>同上</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>9</td><td>学生団体との意見交換会①</td><td>他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>10</td><td>学生団体との意見交換会②</td><td>他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>11</td><td>実践に向けて①</td><td>これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>12</td><td>実践に向けて②</td><td>同上</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>13</td><td>実践に向けて③</td><td>同上</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表</td><td>11 回目から 3 回目で話し合ってきたことを発表する</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体のまとめ、ふりかえり</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う	2	グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援	ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る	指定された教材の読解、課題を行う	3	グローバルシチズンシップと人権①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う	4	グローバルシチズンシップと人権②	マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと	指定された教材の読解、課題を行う	5	グローバルシチズンシップと経済①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う	6	グローバルシチズンシップと経済②	自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか	指定された教材の読解、課題を行う	7	グローバルシチズンシップと起業①	ゲストレクチャー（パネルディスカッション）社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る	指定された教材の読解、課題を行う	8	グローバルシチズンシップと起業②	同上	指定された教材の読解、課題を行う	9	学生団体との意見交換会①	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う	10	学生団体との意見交換会②	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う	11	実践に向けて①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う	12	実践に向けて②	同上	指定された教材の読解、課題を行う	13	実践に向けて③	同上	指定された教材の読解、課題を行う	14	発表	11 回目から 3 回目で話し合ってきたことを発表する	指定された教材の読解、課題を行う	15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
2	グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援	ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
3	グローバルシチズンシップと人権①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
4	グローバルシチズンシップと人権②	マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
5	グローバルシチズンシップと経済①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
6	グローバルシチズンシップと経済②	自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
7	グローバルシチズンシップと起業①	ゲストレクチャー（パネルディスカッション）社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
8	グローバルシチズンシップと起業②	同上	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
9	学生団体との意見交換会①	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
10	学生団体との意見交換会②	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
11	実践に向けて①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
12	実践に向けて②	同上	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
13	実践に向けて③	同上	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
14	発表	11 回目から 3 回目で話し合ってきたことを発表する	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常評価 60% （平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価） プレゼンテーション課題 40%（作成過程を含む）																																																																		
学生への	身近な場所から自ら行動が起これるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、																																																																		

メッセージ	積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門) . This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.																																														
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr																																														
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c																																														
科目学習の効果 (資格)																																															
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Course introduction.</td><td>Introduction to course outline and materials</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)</td><td>Lecture, pair work, group work</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)</td><td>Lecture, pair work, group work</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Human rights and equality</td><td>Lecture, pair work, group work</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights</td></tr> <tr> <td>5</td><td>War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)</td><td>Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)</td><td>Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)</td><td>Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)</td><td>Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Politics and the role of citizens</td><td>Lecture, pair work, group work</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Economic justice</td><td>Lecture, pair work, group work</td><td>1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials		2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights	5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																												
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials																																													
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship																																												
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs																																												
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights																																												
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																																												

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%			
学生への メッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with students in the United States to learn about the common war history and poverty together through online video exchanges. This will be a			
担当者の 研究室等	2号館2階グローバル教育センター (旧: 国際交流センター)			
備考				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科：R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。																																																																		
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要																																																																		
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣さ																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> 年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の </td><td> 派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。 </td><td> 事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 浅野 慎一, 石井 三恵, 伊藤 譲, 木下 和紗, 瀬川 智広, 瀧 千波, 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ◎, E 科: B △, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, J 科: DP1 ◎, W 科: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TKY1458a1, L 科: LKY1360a1, D 科・S 科: IKY1367a1, J 科: JKY1369a1, W 科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABD による読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読む (1.5 時間以上)
	2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む (1.5 時間以上)
	3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む (1.5 時間以上)
	4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) 事後学習:第 1 回レポート
	7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDG s とは何か、指定した資料を調べる (3 時間以上)
	8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDG s とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5 時間以上)
	9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAI とは何かを調べる 事後学習:第 2 回レポート
	10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上)
	14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)

				事後学習：第3回レポート (2時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第4回レポート (2時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・取り組み姿勢（チーム：20%） ・中間発表・まとめ（チーム：20%） ・レポート 4回（個人：20%） ・振り返りシート（個人：15%） ・理解度確認クイズ（個人：15%） ・事前学習シート（個人：5%） ・授業資料の管理（個人：5%） 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、木下和沙（11号館7F）、瀬川智広（スポ振）、瀧千波（スポ審）、浅野慎一（7号館5F）、堀田裕子（5号館1F）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博. 浅野 慎一. 東 武大. 石井 三恵. 伊藤 謙. 上野山 裕土. 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1458a1, L 科 : LKY1360a1, D 科・S 科 : IKY1367a1, J 科 : JKY1369a1, W 科 : WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。																																																										
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができている。 (2) ABD による読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。																																																										
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。																																																										
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？</td><td>アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p. 18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート</td><td>『おとなの教養 2』序章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」</td><td>チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート</td><td>教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」</td><td>解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート</td><td>教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」</td><td>解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート</td><td>教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目、振り返り</td><td>ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート</td><td>教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第 1 回レポート</td></tr> <tr> <td>6</td><td>このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」</td><td>解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート</td><td>『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」</td><td>QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート</td><td>教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」</td><td>解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート</td><td>教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」</td><td>解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート</td><td>教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表 2 回目、振り返り</td><td>ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート</td><td>ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第 2 回レポート</td></tr> <tr> <td>11</td><td>教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』</td><td>解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート</td><td>『星の王子さま』1～10 章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』</td><td>解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート</td><td>教科書 11～20 章を読み、事前学習シートを作成する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』</td><td>解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）</td><td>教科書 21～27 章を読み、事前学習シートを作成する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p. 18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート	『おとなの教養 2』序章を読み、事前学習シートを作成する。	2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。	3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。	4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）	5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第 1 回レポート	6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。	7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。	8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。	9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。	10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表 2 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第 2 回レポート	11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）	12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み、事前学習シートを作成する	13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）	教科書 21～27 章を読み、事前学習シートを作成する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																								
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p. 18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート	『おとなの教養 2』序章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）																																																								
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表 1 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第 1 回レポート																																																								
6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。																																																								
10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表 2 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第 2 回レポート																																																								
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）																																																								
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み、事前学習シートを作成する																																																								
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）	教科書 21～27 章を読み、事前学習シートを作成する																																																								

			振り返りシート																	
	14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する																
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>おとなの教養2</td><td>池上彰</td><td>NHK 出版</td></tr><tr><td>2</td><td>星の王子さま</td><td>サン＝テグジュペリ</td><td>新潮文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>コロナ後の世界</td><td>大野和基（編）</td><td>文春新書</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15％）、・ファイリング（個人：5％） ・ポスター発表（チーム：20％） ・レポート 3回（個人：30％）、・振り返りシート（個人：10％） ・理解度確認クイズ（個人：10％） ・事前学習シート（個人：10％） 以上の評価点の合計で60％以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80％以上の学生とする。																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	伊藤譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、東武大（5号館1F）、浅野慎一、堀田裕子																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安 : 30 分) ・実力テストを復習しておくこと (目安 : 30 分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安 : 2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安 : 30 分) ・実力テストを復習しておくこと (目安 : 30 分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安 : 2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
----------	------------------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安 : 30 分) ・実力テストを復習しておくこと (目安 : 30 分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安 : 2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Profile	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。 例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	2	Sports	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	3	Special Occasions	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	4	Families	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	5	Review 1	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	6	Japan Quiz	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	7	Love and Marriage	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	8	Life History	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	9	Leisure	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	10	Review 2	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	11	College Life	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	12	On Vacation	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	13	Out and About	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	14	Review 3	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	15	Future Plans	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）。

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar New Edition	Atsuko Yamamoto	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスケジュールボードにて対応する。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Rules	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。 例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	2	Folk Tales	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	3	News & Events	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	4	Amazing Animals	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	5	Review 1	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	6	Feelings	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	7	World Quiz	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	8	Business	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	9	Environment	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	10	Review 2	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	11	Old Sayings	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	12	Professions	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	13	What if?	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	14	Review 3	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	15	Holidays & Special Days	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）。

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar New Edition	Atsuko Yamamoto	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Class Assignments 60%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスケジュールボードにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	--

学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン バーミンガム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation Students will familiarise themselves with the textbook. We will set up e-reader and students will choose their first book.	Students should study the content of the day's lesson
	2	Read This Intro Unit 1 Education Chapter 1 Late Start E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Read This Chapter 1 continued E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Read This Chapter 2 First Write... It helps E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Read This Chapter 2 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Read This Chapter 3 Student Government E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Read This Chapter 3 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Read This Unit one Wrap Up- Quiz, vocabulary, discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Read This Unit 2 Sociology Chapter 4 A strange place to live e-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Read This Chapter 4 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Read This Chapter 5 King Peggy E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Chapter 5 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Chapter 6 Quidditch; The world of Harry Potter comes to Life E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Chapter 6 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Unit 2 Wrap up Quiz, vocabulary, discussion E-reader - wrap up	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey
			出版社名
			CAMBRIDGE

	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																		
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.																		
担当者の 研究室等																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																		

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン バーミンガム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Read This Unit 3 Science Chapter 7 Rescue in Chile E-reader	Introduction to the second semester. New students will familiarise themselves with the textbook. We will set up e-reader and students will choose their first book of the semester	Students should study the content of the day's lesson
	2	Read This Chapter 7 Rescue in Chile E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Read This Chapter 8 Sleeping Beauty. E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Read This Chapter 8 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Read This Chapter 9 Memory Palace E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Read This Chapter 9 continued. E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Read This Unit 3 Wrap Up - Quiz, Vocabulary, Discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Unit 4 Marketing Chapter 10 Memory Palace E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Read This Chapter 10 continued e-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Read This Chapter 11 Guerilla Marketing E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Read This Chapter 11 continued E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 4 Wrap Up - Quiz, vocabulary, discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 5 TV and Film Studies Chapter 13 Mean Judges E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Chapter 13 Continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Unit 5 Wrap up - Quiz, vocabulary, discussion E-reader - wrap up	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の発音練習を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	2	Power-Up College English <IntroP>	JACET リスニング研究会	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	語学力の基礎となる内容ですので、しっかり学習していきましょう。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館 5階 鈴木研究室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることによって今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	2	Power-Up College English <Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20%
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	7 号館 5 階鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。 また、実際の海外ドラマや映画を使った様々な活動も行なっていきます。 ※初回で詳しい内容を説明します。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演（海外ドラマや映画も使用します）を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。 ※初回で詳しい内容を説明します。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	言語表現と身体表現	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	ロミオとジュリエット①	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	海外ドラマ・映画①	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	ロミオとジュリエット②	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	海外ドラマ・映画②	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ロミオとジュリエット③	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	海外ドラマ・映画③	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	ロミオとジュリエット④	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	海外ドラマ・映画④	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ロミオとジュリエット⑤	ジュリエットとロミオの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	海外ドラマ・映画⑤	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	最終課題の準備①	最終課題（ドラマ上演）について説明をし、準備と練習を進める。	最終課題（ドラマ上演）の準備と練習を進める。(1 時間)
	14	最終課題の準備②	最終課題（ドラマ上演）について説明をし、準備と練習を進める。	最終課題（ドラマ上演）の準備と練習を進める。(1 時間)
	15	ドラマ上演	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	これまでに学んだことやドラマ上演の振り返るを行う。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	随時配布		
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト、発言・討論、宿題、レポート、提出物等：100% ※初回で詳しい内容を説明します。
----------	---

学生へのメッセージ	演劇、海外ドラマ、映画を通して楽しくいろんな表現方法を一緒に学んでいきましょう！ Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything,
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。 ※初回授業に改めて説明をします。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。 ※初回授業に改めて説明をします。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、英語プレゼンテーションを行う。指定の教科書及び授業で使用するハンドアウトを持参してください。 ※初回授業に改めて説明をします。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	教科書の指定された箇所の事前学習を行う。(1 時間)
	2	The Story Message	プレゼンテーションの構成について、理解を深め、実際にプレゼンのアウトラインを作成する。自己紹介プレゼンに向けての準備を行う。	講義で学んだことを復習し、プレゼンの準備を行う。(1 時間)
	3	Presentation Presentation ① : Introduction Presentation and Posture and Eye Contact	自己紹介プレゼンテーションを実施する。また、立ち位置やアイコンタクトについて、理解を深める。	実施したプレゼンテーションについての振り返り。(1 時間)
	4	Gestures	ジェスチャーについて、理解を深める。ペア・プレゼンテーションに向けての準備。小テスト① (Unit 3: The Story Message)	ジェスチャーに関する表現方法を復習する。(1 時間)
	5	Voice Inflection	発声練習について、理解を深める。ペア・プレゼンテーションに向けての準備。	発声に関する表現方法を復習する。(1 時間)
	6	Presentation Project ② : Pair Presentation	ペア・プレゼンテーションを実施する。	実施したプレゼンテーションについての振り返り。(1 時間)
	7	Effective Visuals	パワーポイントのスキルについて、理解を深める。グループ・プレゼンテーションに向けての準備。小テスト② (Unit 1: Physical Message)	パワーポイントのスキルについての復習。(1 時間)
	8	Explaining Visuals	パワーポイントのスキルについて、理解を深める。グループ・プレゼンテーションに向けての準備。	パワーポイントのスキルについての復習。(1 時間)
	9	Presentation Project ③ : Group Presentation	グループ・プレゼンテーションを実施する。	実施したプレゼンテーションについての振り返り。(1 時間)
	10	Unit 1 から 3 の復習	これまでに学んだスキルについて全体で復習し、最終課題に備える。小テスト③ (Unit 2: Visual Message)	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	11	Presentation Project ④ : Reflective Presentation	これまで行ったプレゼンに対して自分なりの振り返りをまとめたプレゼンテーションを行う。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	Final Presentation Project の準備 (個別指導)	最終プレゼンテーションの構成や原稿のチェックを行う。(基本的には個別指導)	最終プレゼンテーションの構成や原稿の作成を行う。(1 時間)
	13	Final Presentation Project の準備 (個別指導)	最終プレゼンテーションの構成や原稿のチェックを行う。(基本的には個別指導)	最終プレゼンテーションの構成や原稿、パワーポイントの作成を行う。(1 時間)
	14	Final Presentation Project (1)	最終プレゼンテーションを実施する。	実施したプレゼンテーションについての振り返り。(1 時間)
	15	Final Presentation Project (2)	最終プレゼンテーションを実施する。	実施したプレゼンテーションについての振り返り。(1 時間)

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech (Premium Edition)	Charles LeBeau	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	随時配布		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション(5回実施予定) 60 % 小テスト(3回実施予定) 20% 提出物 20% ※初回授業に改めて説明をします。			
学生への メッセージ	【重要】 初回授業の2日前までに必ず Teams の入っておいてください。当日の指示などを掲載連絡をします。 プレゼンテーションスキルの向上、どのように表現するとうまく伝わるのかを楽しく学んでいきましょう！ You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on maki			
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価方法など説明	教科書に目を通しておく
	2	Introduction : What is Critical Thinking①	批評的思考を取得し、グループ内で英語で意見を言えるようになる	事前：教科書 pp.6-8 予習 事後：授業の復習
	3	Introduction : What is Critical Thinking②	スピーチ作成	事前：教科書 pp.9-13 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	4	Introduction : What is Critical Thinking③ Unit1: Cosmetic Surgery①	グループ内でスピーチ発表	事前：スピーチ準備 教科書 pp.14-15 予習
	5	Unit1: Cosmetic Surgery② Post-test Unit1	批評的思考を取得し、クラス内で英語で意見を言えるようになる	事前：教科書 pp.16- 19 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	6	Unit1: Cosmetic Surgery③	スピーチ作成	事前：教科書 pp.20-23 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	7	Unit1: Cosmetic Surgery④	クラス内でスピーチ発表	事前：スピーチ準備 事後：スピーチに対するコメントの確認
	8	Unit2: English as In-House Language①	Oral Aspects 1	事前：教科書 pp.24-25, 33 予習
	9	Unit2: English as In-House Language② Post-test Unit2	批評的思考を取得し、英語で意見を言えるようになる	事前：教科書 pp.26- 29 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	10	Unit2: English as In-House Language③	スピーチ作成.	事前：教科書 pp.30-31 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	11	Unit2: English as In-House Language③	グループ内 or クラス内スピーチ発表	事前：スピーチ準備 事後：スピーチに対するコメントの確認
	12	Unit3:Ladies First ①	Oral Aspects 2	事前：教科書 pp.34-35、43 予習
	13	Unit3:Ladies First ② Post-test Unit3	批評的思考を取得し、構成に注意しながら英語で意見を言えるようになる	事前：教科書 pp.36- 39 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	14	Unit3:Ladies First ③	スピーチ作成.	事前：教科書 pp.40-41 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	15	Unit3:Ladies First ③	グループ内 or クラス内スピーチ発表	事前：スピーチ準備 事後：スピーチに対するコメントの確認

関連科目	トピックスタディーズⅡなど
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Exchanges Views!	Mitsuko Yukishige	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加、貢献 40% 提出物 20% Post-text 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit4: Are the Olympics Business①	授業の進め方、成績評価方法など説明	事前：教科書 pp. 44-45 予習 事後：授業の復習
	2	Unit4: Are the Olympics Business② Post-test Unit4	Oral Aspect3	事前：教科書 pp. 46- 49, 53 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	3	Unit4: Are the Olympics Business③	スピーチ作成	事前：教科書 pp. 50-51 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	4	Unit4: Are the Olympics Business④ Unit5: International Marriage①	グループ内 or クラス内でスピーチ発表	事前：スピーチ準備、教科書 pp.54-55 予習 事後：スピーチに対するコメントの確認
	5	Unit5: International Marriage② Post-test Unit5	プレゼンテーション内で効果的なジェスチャーの仕方を学ぶ	事前：教科書 pp. 56- 59, 63 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	6	Unit5: International Marriage③	スピーチ作成	事前：教科書 pp. 60-62 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	7	Unit5: International Marriage④ Unit6: Is GM Food Safe?①	グループ内 or クラス内でスピーチ発表	事前：スピーチ準備、教科書 pp. 64-65 予習 事後：スピーチに対するコメントの確認
	8	Unit6: Is GM Food Safe?② Post-test Unit6	プレゼンテーション内でのデーターの効果的な示し方を学ぶ	事前：教科書 pp. 66-69, 73 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	9	Unit6: Is GM Food Safe?③	スピーチ作成	事前：教科書 pp. 70-71 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	10	Unit6: Is GM Food Safe?④ Unit7: Social Networks and Personal relations ①	グループ内 or クラス内スピーチ発表	事前：スピーチ準備、教科書 pp. 74-75 予習 事後：スピーチに対するコメントの確認
	11	Unit7: Social Networks and Personal relations ② Post-test Unit7	構成、データー、ジェスチャーを効果的に使用した英語のプレゼンテーションの方法について学ぶ	事前：教科書 pp. 76- 79 予習 Post-test 準備 事後：Opinion Building 作成
	12	Unit7: Social Networks and Personal relations ③	スピーチ作成、プレゼンの際の質疑応答の方法を学ぶ	事前：教科書 pp. 80-83 予習 事後：スピーチ原稿を完成させる
	13	Unit7: Social Networks and Personal relations ④	クラス内スピーチ発表 (前半)	事前：スピーチ準備 事後：スピーチに対するコメントの確認
	14	Unit7: Social Networks and Personal relations ⑤	クラス内スピーチ発表 (後半)	事前：スピーチ準備 事後：スピーチに対するコメントの確認
	15	一年間のまとめ	一年間の振り返り	事前：質問を考えておくこと

関連科目	トピックスタディーズ Ia など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Exchanges Views!	Mitsuko Yukishige	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加、貢献 20% 提出物 20% Post-text 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	1 年時に学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT 等を用いて、コミュニケーション能力の向上に主眼を置きながら、4 技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT 教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICT を用いた所定の e-learning 課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1	人やものが存在するという行き先や目的を述べる	授業中に指示（1 時間）
	2	Unit 2	いつ～するのと言ういつ開始するか言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	3	Unit 2	いつ完了するか言う頻度を言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	4	Unit 3	習慣・事実・未来進行・状態・継続	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	5	Unit 3	過去・完了経験	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	6	Unit 4	他人の行動を見聞きする	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	7	Unit 4	他人の行動を強制・依頼・許可する	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	8	Unit 5	説明される名詞が動詞の「目的語」説明される名詞が「所有者」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	9	Unit 5	説明される部分が「義務・用途」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	10	Unit 6	確実に起きること・もう起きたこと起きるかどうかわからないこと	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	11	Unit 6	起こりそうもないこと願望	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	12	Unit 7	意見・感想を述べる時制の一致	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	13	Unit 7	意見・感想の尋ね方予想との違い	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	14	Unit 8	好き嫌いの表し方可能の表し方	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	15	Unit 8	移動の方向やりもらいと貸し借り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Useful Hints and Examples on Basic English Writing	鈴木卓	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ICT 教材課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	S C D C a r n a v a l	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 20% In-class quizzes, Homework assignments, Class participation and attitude, ability 60% SPECIAL NOTE: 20% is given to online practice, as outlined by the faculty, d
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson. The textbook is essential.
担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2] レベルを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>出発に向けて</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>異文化への心構え</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>下準備/手荷物確認/空港</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ロールプレイ: 空港にて/機内にて</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホームステイ先にて/学生寮にて</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>プレゼントを渡す、生活環境を知る</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>自己紹介/これまでの海外経験について話す</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教室にて/英語を学ぶ目的について話す</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>オリジナルのロールプレイを作成する</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>小グループでロールプレイ練習</td><td>ペアおよびグループ演習</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>合同ロールプレイ大会と学生による自己評価</td><td>グループ演習・自己評価記入</td><td>リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)	15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td><td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td><td>Perceptia Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%																																																																		
学生へのメッセージ	I'm looking forward to working with you all in order to level up your English abilities through group work and discussion. Hopefully by the end of this course you will feel ready to take on anything in the real world!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2] レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	3	下準備／手荷物確認／空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	4	ロールプレイ: 空港にて／機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	5	ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	7	自己紹介／これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	8	ロールプレイ: ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	9	教室にて／英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	10	モチベーション作り: 目標を達成するには／英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	11	良い質問の仕方／教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today. ZOOM ID: 972 9304 0988 PASS CODE: 412345
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スタンジャー アレサントロ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリンガポルタによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no. 1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	1. Carefully read the course syllabus. 2. Prepare necessary materials for the course.
	2	トピック: 期末試験	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	3	トピック: 留学	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	4	トピック: 映画製作	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	5	トピック: 期待の若手アスリート	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	6	トピック: 人体の驚異	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	7	トピック: 自由時間	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	1. Review contents of Units 1-6. 2. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 3. Finish classroom assigned tasks.
	9	トピック: 音楽の世界	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	10	トピック: 進路	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	11	トピック: 食文化	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	12	トピック: 宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	13	トピック: 食と環境	Individual tasks and pair work.	1. Review for the vocabulary test. 2. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 3. Finish classroom assigned tasks.
	14	トピック: 未来に向けて	Individual tasks and pair work.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 2. Finish classroom assigned tasks.
	15	レビュー 2	Individual tasks and pair work.	1. Review contents of Units 7-12. 2. Review new vocabulary, grammar and expressions from the class. 3. Finish classroom assigned tasks.

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	多読が成績の 20%を占めますので、易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
	2	トピック：期末試験	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	トピック：留学	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	トピック：映画製作	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	トピック：期待の若手アスリート	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	トピック：人体の驚異	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	トピック：自由時間	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	Review the contents of Units 1-6.
	9	トピック：音楽の世界	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	トピック：進路	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	トピック：食文化	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	トピック：宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	トピック：食と環境	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
	14	トピック：未来に向けて	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	15	レビュー 2	Individual tasks.	Review the contents of Units 7-12.

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	海外の大学では想像以上にたくさん読んで考えることが求められるので、留学の前に読む力を養っておくことは非常に大切です。ですが、ただ「読む」だけではなく、常に「考える」、「調べる」ということも行いながら授業に参加してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンス	Creating topic sentences	Review / Preview
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview
	4	サポーティングセンテンス (1) 描写のパラグラフを書く	Creating supporting sentences	Review / Preview
	5	サポーティングセンテンス (2) 描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview
	6	描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview
	7	時系列・手順のパラグラフを書く	Improving detail sentences	Review / Preview
	8	結びのセンテンスとは 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation
	9	中間チェック	In-class paragraph test	Review / Preview
	10	エッセイの「設計図」を描く：アウトライン	Unity	Review / Preview
	11	比較対照 (1)	Coherence	Review / Preview
	12	比較対照 (2)	Cohesion	Review / Preview
	13	論述のエッセイ：下書きを編集するスキル	Editing techniques	Review / Preview
	14	論述のエッセイ：いろいろなスタイルを試す	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation
	15	まとめ	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英英・英日・日英・類義語など 各種の辞書		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中のディスカッション等グループワーク 30% 課題および提出物 70%
----------	--

学生へのメッセージ	毎回予習して出席し、課題を次々クリアしていきましょう。量をこなすことで、判断も早くなります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンス	Creating topic sentences	Review / Preview
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview
	4	サポーティングセンテンス (1) 描写のパラグラフを書く	Creating supporting sentences	Review / Preview
	5	サポーティングセンテンス (2) 描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview
	6	描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview
	7	時系列・手順のパラグラフを書く	Improving detail sentences	Review / Preview
	8	結びのセンテンスとは 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation
	9	中間チェック	In-class paragraph test	Review / Preview
	10	エッセイの「設計図」を描く：アウトライン	Unity	Review / Preview
	11	比較対照 (1)	Coherence	Review / Preview
	12	比較対照 (2)	Cohesion	Review / Preview
	13	論述のエッセイ：下書きを編集するスキル	Editing techniques	Review / Preview
	14	論述のエッセイ：いろいろなスタイルを試す	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation
	15	まとめ	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	パラグラフ・ライティング基礎演習	Yoshihito Sugita 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英英・英日・日英・類義語など 各種の辞書		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中のディスカッション等グループワーク 30% 課題および提出物 70%
----------	--

学生へのメッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Global Issues	科目名 (英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2017c0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディングとディスカッションを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。Global Issues に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	Global Issues に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1 時間)。
	2	What are Sustainable Development Goals (SDGs)?	SDGs についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDGs に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	3	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	4	人口増加	人口増加についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	人口増加に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	5	質の高い教育	質の高い教育についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	質の高い教育に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	6	サステイナブルシティ	サステイナブルシティについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	サステイナブルシティに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	7	オンライン国際協働学習 (1)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
	8	オンライン国際協働学習 (2)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
	9	オンライン国際協働学習 (3)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
	10	ブラック企業	ブラック企業についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ブラック企業に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	11	プラスチック削減	プラスチック削減についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	プラスチック削減に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	12	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	13	手頃な価格でクリーンエネルギー	手頃な価格でクリーンエネルギーについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	手頃な価格でクリーンエネルギーに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	14	サステイナブルツーリズム	サステイナブルツーリズムについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	サステイナブルツーリズムに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2 時間)

関連科目	Academic Reading, Academic Writing
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	まとめテスト 30% 提出物等 70%
学生へのメッセージ	As our English improves to a certain level, we can start to use English to communicate serious issues, and this course provides the opportunity to do so. We will be using English to discuss global issues, so that we will become prepared to exchange ideas
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応

	する。
--	-----

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2018c0		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。																																																																		
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。																																																																		
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction</td><td>授業内容と説明 導入</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Orientation for College Courses</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Archaeology</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Communication Studies: Emoticons</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Cognitive Science: Types of Memory</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Gender Differences in Language and Communication</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>What is Positive Psychology?</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>History of the Kingdom of Hawaii</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Children and New Media</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Cool Computers</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Why do people get married?</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>What is a planet?</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>What does the "First Lady" do?</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Confusing Weights and Measures</td><td>Listening, Structure, Reading</td><td>Unit 予習・復習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Copperheads and Cottonmouths</td><td>Listening, Structure, Reading Review</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業内容と説明 導入	Unit 予習・復習 (1 時間)	2	Orientation for College Courses	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	3	Archaeology	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	4	Communication Studies: Emoticons	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	5	Cognitive Science: Types of Memory	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	6	Gender Differences in Language and Communication	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	7	What is Positive Psychology?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	8	History of the Kingdom of Hawaii	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	9	Children and New Media	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	10	Cool Computers	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	11	Why do people get married?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	12	What is a planet?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	13	What does the "First Lady" do?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	14	Confusing Weights and Measures	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)	15	Copperheads and Cottonmouths	Listening, Structure, Reading Review	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業内容と説明 導入	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
2	Orientation for College Courses	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
3	Archaeology	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
4	Communication Studies: Emoticons	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
5	Cognitive Science: Types of Memory	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
6	Gender Differences in Language and Communication	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
7	What is Positive Psychology?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
8	History of the Kingdom of Hawaii	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
9	Children and New Media	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
10	Cool Computers	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
11	Why do people get married?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
12	What is a planet?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
13	What does the "First Lady" do?	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
14	Confusing Weights and Measures	Listening, Structure, Reading	Unit 予習・復習 (1 時間)																																																																
15	Copperheads and Cottonmouths	Listening, Structure, Reading Review	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>All-Round Practice for the TOEFL Test</td><td>菊地恵太&Jeffrey Durand</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	All-Round Practice for the TOEFL Test	菊地恵太&Jeffrey Durand	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	All-Round Practice for the TOEFL Test	菊地恵太&Jeffrey Durand	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、課題、提出物等 100%																																																																		
学生へのメッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Do your best to make a positive atmosphere in class by supporting one another
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 Taura 研究室 (Online from my home) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English a、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop a と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1 時間)

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Staying in English for the entire class is your goal
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 Amanda Taura's office
----------	--------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダービー スタンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊦, DP8㊦		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English a、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop a と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1 時間)

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
学生へのメッセージ	Effort and cooperation with the instructor and other students will build your skills with English. Use as much English as possible during class time.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン バーミンガム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
学生へのメッセージ	We will follow the same format as in 1st term. Please try to join the online class from your home, as this makes the class easier to conduct with masks off. But if you need to be masked and on campus, just do your best to find a quiet space. Let's focus o
担当者の研究室等	From home online
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アサー リンクス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English b、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop b と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1 時間)

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダービー スタンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Common Unit Quizzes (same in every class) 20% Class discussions and participation in English, other assignments 80%
学生へのメッセージ	Effort and cooperation with the instructor and classmates will help improve your skills with English. Use English as much as possible during class time.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2 の映像視聴
	3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5 の映像視聴
	11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6 の映像視聴
	13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6 総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
------	----------------------------

(基準)	Benchmark Test 20% 多読 10%
学生への メッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2 の映像視聴
	3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5 の映像視聴
	11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6 の映像視聴
	13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6 総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
------	----------------------------

(基準)	Benchmark Test 20% 多読 10%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	The Comprehensive English course is part of an integrated course divided into three parts: Comprehensive English, English Writing Workshop, and English for Global Communication. Each of the parts focuses on different sections of a common textbook: Contemporary Topics 1. In this course we will focus on oral communication and will talk about the themes and content as in the schedule below. 総合英語コースは、3つのパートに分かれた総合コースの一部です。総合英語「English Writing Workshop」「English for Global Communication」の3つのパートに分かれています。各パートは、共通の教科書の異なるセクションに焦点を当てています。コンテンポラリー・トピックス1このコースでは、オーラルコミュニケーションに焦点を当て、以下のスケジュールのようにテーマと内容話を話していきます。																																																																		
到達目標	The objective of this course is for students to be able to think and speak critically about topics introduced in the textbook, which have been studied and written about in the English Writing Workshop and English for Global Communication parts of the course																																																																		
授業方法と留意点	This class will be conducted using pair-work, small group work, short presentations and lectures. Because this is an English communication class, students are expected to participate and use their English as much as possible. この授業は、ペアワーク、小グループワーク、ショートプレゼン																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation</td><td>Orientation</td><td>No preparation required.</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1 Psychology</td><td>Happiness</td><td>Pages 2-3, 5-7</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 1 Psychology continued</td><td>Happiness continued</td><td>Pages 4-7, 10</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 2 Linguistics</td><td>A Time to Learn</td><td>Pages 12-13, 16-17</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 2 Linguistics continued</td><td>A Time to Learn continued</td><td>Pages 14-17, 20</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 3 Public Health</td><td>Sleep</td><td>Pages 22-23, 26-27</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 3 Public Health continued</td><td>Sleep continued</td><td>Pages 24-27, 30</td></tr> <tr><td>8</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 4 Business</td><td>Negotiating</td><td>Pages 32-33, 35-36</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 4 Business continued</td><td>Negotiating continued</td><td>Pages 34, 36-37, 40</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 5 Art History</td><td>Modern Art</td><td>Pages 42-43, 46-47</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 5 Art History continued</td><td>Modern Art continued</td><td>Pages 44, 46-47, 50</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 6 Engineering</td><td>Robots</td><td>Pages 52-53, 56-57</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 6 Engineering continued</td><td>Robots continued</td><td>Pages 54, 56-57, 60</td></tr> <tr><td>15</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	Orientation	No preparation required.	2	Unit 1 Psychology	Happiness	Pages 2-3, 5-7	3	Unit 1 Psychology continued	Happiness continued	Pages 4-7, 10	4	Unit 2 Linguistics	A Time to Learn	Pages 12-13, 16-17	5	Unit 2 Linguistics continued	A Time to Learn continued	Pages 14-17, 20	6	Unit 3 Public Health	Sleep	Pages 22-23, 26-27	7	Unit 3 Public Health continued	Sleep continued	Pages 24-27, 30	8	Flex Week	Flex Week	Flex Week	9	Unit 4 Business	Negotiating	Pages 32-33, 35-36	10	Unit 4 Business continued	Negotiating continued	Pages 34, 36-37, 40	11	Unit 5 Art History	Modern Art	Pages 42-43, 46-47	12	Unit 5 Art History continued	Modern Art continued	Pages 44, 46-47, 50	13	Unit 6 Engineering	Robots	Pages 52-53, 56-57	14	Unit 6 Engineering continued	Robots continued	Pages 54, 56-57, 60	15	Flex Week	Flex Week	Flex Week
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	Orientation	No preparation required.																																																																
2	Unit 1 Psychology	Happiness	Pages 2-3, 5-7																																																																
3	Unit 1 Psychology continued	Happiness continued	Pages 4-7, 10																																																																
4	Unit 2 Linguistics	A Time to Learn	Pages 12-13, 16-17																																																																
5	Unit 2 Linguistics continued	A Time to Learn continued	Pages 14-17, 20																																																																
6	Unit 3 Public Health	Sleep	Pages 22-23, 26-27																																																																
7	Unit 3 Public Health continued	Sleep continued	Pages 24-27, 30																																																																
8	Flex Week	Flex Week	Flex Week																																																																
9	Unit 4 Business	Negotiating	Pages 32-33, 35-36																																																																
10	Unit 4 Business continued	Negotiating continued	Pages 34, 36-37, 40																																																																
11	Unit 5 Art History	Modern Art	Pages 42-43, 46-47																																																																
12	Unit 5 Art History continued	Modern Art continued	Pages 44, 46-47, 50																																																																
13	Unit 6 Engineering	Robots	Pages 52-53, 56-57																																																																
14	Unit 6 Engineering continued	Robots continued	Pages 54, 56-57, 60																																																																
15	Flex Week	Flex Week	Flex Week																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Contemporary Topics 1</td><td>Helen Solorzano, et al.</td><td>Pearson</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano, et al.	Pearson	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano, et al.	Pearson																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Benchmark Test 20% 多読 10% その他 (up to each teacher) 70% Participation, attitude, attendance: 50%, tests, quizzes, writing, short presentation: 50%.																																																																		
学生へのメッセージ	As students of English, you will be expected to actively participate in English. This as well as attitude and attendance is considered very important to get a good grade. Students who are absent more than three times will not be able to pass the course. 英語																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館 2階																																																																		
備考	英語でのコミュニケーションを学ぶコースです。単に授業に出席し、テストに合格するだけでなく、授業に積極的に参加し、英語を使うことが期待されています。また、学習態度も重要である。これらの点を考慮し、成績評価を行う。This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to actively participate and use En																																																																		

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8 の映像視聴
	3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	生物学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 7-8 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10 の映像視聴
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 9 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	歴史学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11 の映像視聴
	11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	哲学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12 の映像視聴
	13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	情報技術の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12 の総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Benchmark Test 20% 多読 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8 の映像視聴
	3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	生物学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 7-8 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10 の映像視聴
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 9 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	歴史学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11 の映像視聴
	11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	哲学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12 の映像視聴
	13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	情報技術の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12 の総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 多読 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	The Comprehensive English course is part of an integrated course divided into three parts: Comprehensive English, English Writing Workshop, and English for Global Communication. Each of the parts focuses on different sections of a common textbook: Contemporary Topics 1. In this course we will focus on oral communication and will talk about the themes and content as in the schedule below. 総合英語コースは、3つのパートに分かれた総合コースの一部です。総合英語「English Writing Workshop」「English for Global Communication」の3つのパートに分かれています。各パートは、共通の教科書の異なるセクションに焦点を当てています。コンテンポラリー・トピックス 1 このコースでは、オーラルコミュニケーションに焦点を当て、以下のスケジュールのようにテーマと内容と話していきます。																																																																		
到達目標	The objective of this course is for students to be able to think and speak critically about topics introduced in the textbook, which have been studied and written about in the English Writing Workshop and English for Global Communication parts of the course.																																																																		
授業方法と留意点	This class will be conducted using pair-work, small group work, short presentations and lectures. Because this is an English communication class, students are expected to participate and use their English as much as possible. この授業は、ペアワーク、小グループワーク、ショートプレゼン																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation</td><td>Orientation</td><td>No preparation required</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 7 Media Studies</td><td>Interactive Games</td><td>Pages 62-67</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7 Media Studies continued</td><td>Interactive Games continued</td><td>Pages 64-67</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 8 Biology</td><td>Genetically Modified Food</td><td>Pages 72-77</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 8 Biology continued</td><td>Genetically Modified Food continued</td><td>Pages 74-77</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 9 Business</td><td>Design Thinking</td><td>Pages 82-87</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 9 Business continued</td><td>Design Thinking continued</td><td>Pages 84-87</td></tr> <tr><td>8</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 10 History</td><td>Shackelton</td><td>Pages 92-97</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 10 History continued</td><td>Shackelton continued</td><td>Pages 94-97</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 11 Philosophy</td><td>Ethics</td><td>Pages 102-107</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 11 Philosophy continued</td><td>Ethics continued</td><td>Pages 104-107</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12 Information Technology</td><td>Big Data</td><td>Pages 112-117</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 12 Information Technology continued</td><td>Big Data continued</td><td>Pages 114-117</td></tr> <tr><td>15</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td><td>Flex Week</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	Orientation	No preparation required	2	Unit 7 Media Studies	Interactive Games	Pages 62-67	3	Unit 7 Media Studies continued	Interactive Games continued	Pages 64-67	4	Unit 8 Biology	Genetically Modified Food	Pages 72-77	5	Unit 8 Biology continued	Genetically Modified Food continued	Pages 74-77	6	Unit 9 Business	Design Thinking	Pages 82-87	7	Unit 9 Business continued	Design Thinking continued	Pages 84-87	8	Flex Week	Flex Week	Flex Week	9	Unit 10 History	Shackelton	Pages 92-97	10	Unit 10 History continued	Shackelton continued	Pages 94-97	11	Unit 11 Philosophy	Ethics	Pages 102-107	12	Unit 11 Philosophy continued	Ethics continued	Pages 104-107	13	Unit 12 Information Technology	Big Data	Pages 112-117	14	Unit 12 Information Technology continued	Big Data continued	Pages 114-117	15	Flex Week	Flex Week	Flex Week
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	Orientation	No preparation required																																																																
2	Unit 7 Media Studies	Interactive Games	Pages 62-67																																																																
3	Unit 7 Media Studies continued	Interactive Games continued	Pages 64-67																																																																
4	Unit 8 Biology	Genetically Modified Food	Pages 72-77																																																																
5	Unit 8 Biology continued	Genetically Modified Food continued	Pages 74-77																																																																
6	Unit 9 Business	Design Thinking	Pages 82-87																																																																
7	Unit 9 Business continued	Design Thinking continued	Pages 84-87																																																																
8	Flex Week	Flex Week	Flex Week																																																																
9	Unit 10 History	Shackelton	Pages 92-97																																																																
10	Unit 10 History continued	Shackelton continued	Pages 94-97																																																																
11	Unit 11 Philosophy	Ethics	Pages 102-107																																																																
12	Unit 11 Philosophy continued	Ethics continued	Pages 104-107																																																																
13	Unit 12 Information Technology	Big Data	Pages 112-117																																																																
14	Unit 12 Information Technology continued	Big Data continued	Pages 114-117																																																																
15	Flex Week	Flex Week	Flex Week																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Contemporary Topics 1</td><td>Helen Solorzano, et al.</td><td>Pearson</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano, et al.	Pearson	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano, et al.	Pearson																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% Benchmark Test 20% 多読 10%																																																																		
学生へのメッセージ	As students of English, you will be expected to actively participate in English. This as well as attitude and attendance is considered very important to get a good grade. Students who are absent more than three times will not be able to pass the course. 英語																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階																																																																		
備考	英語でのコミュニケーションを学ぶコースです。単に授業に出席し、テストに合格するだけでなく、授業に積極的に参加し、英語を使うことが期待されています。また、学習態度も重要である。これらの点を考慮し、成績評価を行う。This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to actively participate and use En																																																																		

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題(エッセイ課題) 20%
------	------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I am looking forward to teaching you this year :) Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams if we need to use it!
担当者の 研究室等	7号館3階 Herke's office 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階 Herke's office 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I look forward to working with you this year to help you improve your writing skills.
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題(エッセイ課題) 20%
------	------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I am looking forward to teaching you this year :) Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams if we need to use it!
担当者の 研究室等	Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I am looking forward to continue teaching you this year and helping you to further improve your academic writing skills.
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I am looking forward to continue teaching you this year and helping you to further improve your academic writing skills.
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダービー スタンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人間関係論(Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4時間)
	2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)
	7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	12	レポート作成演習:トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	13	レポート作成演習:初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	14	レポート作成演習:第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストを復習します。	ノートを復習します。(4時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メ ッ セ ー ジ	Your efforts and cooperation with the instructor and classmates will help improve your skills with English. Use English as much as possible during class time.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	利ハ [*] ケイブ [*] レト [*]
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人間関係論(Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4時間)
	2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)
	7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	12	レポート作成演習:トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	13	レポート作成演習:初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	14	レポート作成演習:第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メ ッ セ ー ジ	This is an interactive lecture-style class, so be ready to participate in active discussion in this course.			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人 間 関 係 論 (Human Relations) 序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。 (4 時間)
	2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	4	「感情知性」 (Emotional Intelligence) とは何か	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。 (4 時間)
	7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習します。 (4 時間)
	12	レポート作成演習: トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習: 初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習: 第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。 (4 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	For this course, we will be using parts of an online textbook: Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版). Textbook materials will be provided in class by the teacher. However, if you would like to get the entire textbook, you can download it from

担当者の 研究室等	7 号館 3 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダービー スタンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット運動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習：初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習：第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。 (4 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メッセージ	Your effort and cooperation will improve your skills with English. Use English as much as possible during class time.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	利ハ [*] ケイブ [*] レット [*]
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。 このコースでは、非同期性の授業でムードルトとチームズを使います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習：初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習：第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。 (4 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2	Human Relations, (Open Textbook	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132

		Library, ダウンロード版)		
	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メッセージ	The continued aims of this course are to provide the opportunity to participate in Western-style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepare			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。 グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	12	レポート作成演習: トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習: 初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習: 第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。 (4 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG)		
	2			
	3			

評価方法（基準）	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
----------	--

学生へのメッセージ	For this course, we will be using parts of an online textbook: Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版). Textbook materials will be provided in class by the teacher. However, if you would like to get the entire textbook, you can download it from
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English Lecture II a	科目名 (英文)	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3027b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。講義テーマは国際語としての英語である。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。
授業方法と留意点	- 授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 - 必ず辞書を持参すること。 - 作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation, What is a global language?	Review (4 時間)
	2	Why a global language? Why English?	Why do we need a global language? What are the dangers of a global language?	Preview/ review (4 時間)
	3	The historical context [1]	English varieties of the Inner Circle	Preview/ review (4 時間)
	4	The historical context [2]	English varieties of the Outer Circle	Preview/ review (4 時間)
	5	The historical context [3]	English varieties of the Expanding Circle	Preview/ review (4 時間)
	6	English in Japanese society	English in Japan	Preview/ review (4 時間)
	7	The cultural foundation	Political developments and access to knowledge	Preview/ review (4 時間)
	8	The cultural legacy [1]	International relations and the media	Preview/ review (4 時間)
	9	The cultural legacy [2]	International travel, international safety	Preview/ review (4 時間)
	10	Review week	Review and summary of what has been covered so far	Preview/ review (4 時間)
	11	In-class test and feedback	In-class test and feedback	Preview/ review (4 時間)
	12	The future of global English [1]	Contrasting attitudes	Preview/ review (4 時間)
	13	The future of global English [2]	The linguistic character of new Englishes	Preview/ review (4 時間)
	14	The future of global English [3]	The future of English as a world language	Preview/ review (4 時間)
	15	Summary and feedback	Summary of the course, feedback	Preview/ review (4 時間)

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English as a Global Language (Canto classics edition)	David Crystal	Cambridge University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Englishes: A Resource Book for Students (3rd edition)	Jennifer Jenkins	Routledge
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation 50% In-class test 30% Final project 20%
学生へのメッセージ	Let's learn and think about the reality of English as an international language.
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
備考	授業内容については、進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture II b	科目名 (英文)	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3028b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This course is an introduction to the history, culture, economy and sociology of Canada.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking and listening skills and building up the vocabulary necessary to understand Canada.
授業方法と留意点	- 授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 - 必ず辞書を持参すること。 - 作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 Assignments 60% Midterm 20% Final 20%
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course. (4 時間)
	2	First Nations	Lecture, readings & discussion	Listening and speaking techniques. Essay writing (4 時間)
	3	Early Colonists	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	4	English or French	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	5	Westward Expansion	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	6	The US	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	7	Multiculturalism	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	8	Midterm	Evaluation	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	9	School Life	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	10	Tourism & Travel	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	11	Industry	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	12	Literature	Lecture, readings & discussion	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	13	Music	Lecture, readings & discussion	Final Essay (4 時間)
	14	Canadian Icons	Lecture, readings & discussion	Final Essay due for assessment (4 時間)
	15	Final review	Evaluations	Verbal Presentations on final essay topics (4 時間)

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Assignments 60% Midterm 20% Final 20%
学生への	There is more to Canada than smoked salmon and maple syrup. It is a large and complex country with many contradictory elements.

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Debate & Presentation a	科目名 (英文)	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3029b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。 ・教科書は2冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は3回で1回欠席扱いとなります。4回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 導入 UNIT17 No place like home 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・めざしたい発表を考える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	2	単語テスト1 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 仕上げ UNIT17 No place like home 2	プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・インタビュー	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	3	単語テスト2 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 発表 UNIT 10 Boomerang Children 1	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・その場にはいない人物を描写する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
	4	単語テスト3 プレゼンテーション 英語 と自分 導入 UNIT 10 Boomerang Children 2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング ・問題点を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	5	テスト1回目 UNIT5 Plagiarism	内容チェックテスト1 リスニング リピーティング 語彙	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	6	単語テスト4 プレゼンテーション 英語 と自分 仕上げ UNIT15 Life Online	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・解決案を提案する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	7	コミュニティの中のルール 単語テスト5 プレゼンテーション 英語 と自分 発表 UNIT4 Rules1	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・規則を説明する ・日本の習慣を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
	8	コミュニティの中のルール 単語テスト6 プレゼンテーション マイ ヒストリー 導入 グループ分け UNIT4 Rules2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・グループ対抗でプレゼン	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	9	要約をする 単語テスト7 プレゼンテーション 調 査 UNIT3 Why care? 1	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・会話を要約する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	10	要約をする テスト2回目 UNIT3 Why care? 2	内容チェックテスト2 プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・書かれた文章を要約する	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	11	意見を掘り下げる 単語テスト8 プレゼンテーション マイ ヒストリー 発表1 UNIT1 Cosmetic Surgery	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・根拠を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	12	意見を掘り下げる 単語テスト9 プレゼンテーション マイ ヒストリー 発表2 UNIT19 One-sided love	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・具体例を挙げる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	13	質問をする 単語テスト10 プレゼンテーション 夏休 み 導入 UNIT12 The compromise 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・予定を尋ねる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	14	質問をする	プレゼンテーション 発展	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成

		単語テスト 1 1 プレゼンテーション 夏休み 仕上げ UNIT12 The compromise 2	題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	(2 時間)
	15	テスト 3 回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表	内容チェックテスト 3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2 時間)
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	One-minute Presentation in English	松岡 昇／傍島一夫	松柏社
	2	Impact Issues 3 3rd edition	Richard R Day	Longman
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 26% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 74% 欠席が 3 回を超える者は評価対象外とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Debate & Presentation b	科目名 (英文)	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3030b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起りやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。CEFR-J[B1-2]レベルの表現力を目標とする。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション: What makes a good/better presentation?	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	2	描写 (1) ニュースリポーターの話し方を分析してみる	時系列にそって出来事を伝える。ニュースリポーターの話し方、息継ぎ、その効果などを観察し分析する。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	3	描写 (2) ニュースリポーターの話し方をコピーしてみる	重要な情報が際立つように伝える。ニュースリポーターの話し方をコピーしてみる。自分との違いは何か、考える。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1時間)
	4	アドバイス 自分の経験を、下級生に伝える (オンライン英会話プログラムの効果的な使い方・失敗を防ぐには 等)	経験の中から、アドバイスをするための構成を考える。失敗例を話してから成功する方法を伝えるのか、よい方法とまずい方法の比較をするのか、等。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	5	比較を用いたディベート (1) 対面 vs オンライン	それぞれの利点と弱点を探す。それらをどう並べれば、何を主張しやすいのか、考える。	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	6	比較を持ちいたディベート (2) 対面 vs オンライン	話す自分が信じていることを、合理的な因果関係を示しながら伝える。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	7	オリジナルのスピーチを作成する (1): Main idea and outline	作り方を説明する。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1時間)
	8	オリジナルのスピーチを作成する (2): Effective opening	ディスカッション	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	9	オリジナルのスピーチを作成する (3): how to deliver examples to support the main idea	ディスカッション	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	10	スピーチ発表と相互フィードバック	発表	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	Yes/No の質問で話を方向づける。	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	5W1H の質問で話を展開する。	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	13	異なる立場で考える (1)	代替エネルギー vs 化石燃料	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	15	最終プレゼンテーション	(課題は前の週に発表)	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)

関連科目	English for Global Communication b など
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report	Makoto Shishido, Kevin Murphy, Mariko Takahashi	Seibido
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% + 小テスト・発言・討論・提出物等 80%
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	社会問題は、どのような見方をするかによって、対立する意見が生じるものです。異なる立場についても考えつつ、英語で自分の意見を明確に主張できるよう、プレゼンテーションやディベートのスキルを伸ばしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はストゥーデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Oral Communication a	科目名 (英文)	Oral Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石倉 綾乃
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3031b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。 この授業では近現代美術の作品を題材にディスカッション等を行います。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Briefing on what we are going to study in this class	Announced weekly in class (4 時間)
	2	Describe what you see 1	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	3	Describe what you see 2	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	4	Describe what you see 3	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	5	Short presentation	Short presentation on what you created	Announced weekly in class (4 時間)
	6	History and technique 1	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	7	History and technique 2	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	8	History and technique 3	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	9	Short presentation	Short presentation on what you learned	Announced weekly in class (4 時間)
	10	Arts and controversy 1	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	11	Arts and controversy 2	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	12	Arts and controversy 3	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	13	Arts and controversy 4	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	14	Final Assignment	Presentation	Announced weekly in class (4 時間)
	15	Final Assignment	Presentation	Announced weekly in class (4 時間)

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜資料配付		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Oral Communication b	科目名 (英文)	Oral Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石倉 綾乃
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3032b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。 この授業では近現代美術の作品を題材にディスカッション等を行います。前期に学んだことを踏まえ、より発展的に自分の意見を述べたり、議論したりすることを目指します。
到達目標	CEFR-J [B2-I]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Briefing on what we are going to study in this class	Announced weekly in class (4 時間)
	2	Describe what you see 1	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	3	Describe what you see 2	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	4	Describe what you see 3	Get used to paying attention to the details	Announced weekly in class (4 時間)
	5	Short presentation	Short presentation on what you created	Announced weekly in class (4 時間)
	6	Histroy and technique 1	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	7	History and technique 2	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	8	History and technique 3	Learn and discuss the specifics	Announced weekly in class (4 時間)
	9	Short presentation	Short presentation on what you learned	Announced weekly in class (4 時間)
	10	Arts and controversy 1	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	11	Arts and controversy 2	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	12	Arts and controversy 3	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	13	Arts and controversy 4	Learn and discuss the controversy in art history	Announced weekly in class (4 時間)
	14	Final Assignment	Presentation	Announced weekly in class (4 時間)
	15	Final Assignment	Presentation	Announced weekly in class (4 時間)

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜資料配付		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Advanced English a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3033b0		

授業概要・目的	Students will develop skills in all areas of English, with a particular focus on listening and speaking.
到達目標	The students will build upon skills and proficiency learned in their first three years of English study.
授業方法と留意点	Students are expected to speak English in class. A wide variety of academic and general topics are included, and students will have opportunities to use new vocabulary and key phrases to express opinions about these topics.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Preview/ review course introduction Get textbook
	2	Unit 1 - Sociology	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Extensive Listening and Reading 1
	3	Unit 1 - Sociology	Speaking focus	Preview/ review Writing 1
	4	Unit 2 - Linguistics	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Extensive Listening and Reading 2 Presentation 1 Topic choice
	5	Unit 2 - Linguistics	Speaking focus	Preview/ review Writing 2 Presentation 1 Research
	6	Unit 3 - Psychology	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Extensive Listening and Reading 3
	7	Unit 3 - Psychology	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 1
	8	Test 1	Brief review and test	Preview/ review Presentation 1 Worksheet Practice presentation
	9	Presentation 1	Sharing presentations in groups	Preview/ review Extensive Listening and Reading 4
	10	Unit 4 - Business	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Writing 3 Presentation 2 Topic choice
	11	Unit 4 - Business	Speaking focus	Preview/ review Extensive Listening and Reading 5 Presentation 1 Research
	12	Unit 5 - Education	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Writing 4
	13	Unit 5 - Education	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 2
	14	Test 2	Brief review and test	Preview/ review Presentation 2 Worksheet Practice presentation
	15	Presentation 2	Sharing presentations in groups	Optional course review

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 2	Kisslinger	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Tests (2) 25% Brief Presentations (2) 20% Extensive Listening and Reading (5) 25% Brief Writing Assignments (4) 20% Active participation 10%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who are generally interested in topics related to learning, psychology, language, or health will find this course interesting and helpful for developing their communication skills.
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	Homework includes: 1. Brief writing assignments 2. Reviewing lessons for tests 3. Researching and preparing a brief presentation
----	---

	4. Extensive listening and reading
--	------------------------------------

	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに
--	---

科目名	Advanced English b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3034b0		

授業概要・目的	Students will develop skills in all areas of English, with a particular focus on vocabulary building, listening, and speaking.
到達目標	The students will build upon skills and proficiency learned in their first three years of English study.
授業方法と留意点	Students are expected to speak English in class. A wide variety of academic and general topics are included, and students will have opportunities to use new vocabulary and key phrases to express opinions about these topics.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Preview/ review course introduction
	2	Unit 6 - History	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Extensive Listening and Reading 1 Presentation 1 Topic choice
	3	Unit 6 - History	Speaking focus	Preview/ review Writing 1
	4	Unit 7 - Social Psychology	Vocabulary and listening focus	Preview / review Extensive Listening and Reading 2 Presentation 1 Research
	5	Unit 7 - Social Psychology	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 1 Writing 2
	6	Test 1	Brief review and test	Preview/ review Presentation 1 Worksheet Practice presentation
	7	Presentation 1	Sharing slides and speaking	Preview / review Extensive Listening and Reading 3
	8	Unit 8 - Architecture	Vocabulary and listening focus	Preview / review Writing 3
	9	Unit 8 - Architecture	Speaking focus	Preview / review Extensive Listening and Reading 4
	10	Unit 9 - Public Health	Vocabulary and listening focus	Preview / review Writing 4 Presentation 1 Topic Choice
	11	Unit 9 - Public Health	Speaking focus	Extensive Listening and Reading 5
	12	Unit 10 - Urban Planning	Vocabulary and listening focus	Preview / review Presentation 1 Research
	13	Unit 10 - Urban Planning	Speaking focus	Prepare for Quiz 2
	14	Test 2	Brief review and test	Preview/ review Presentation 1 Worksheet Practice presentation
	15	Presentation 2	Sharing slides and speaking	Course review

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 2	Kisslinger	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Tests (2) 25% Brief Presentations (2) 20% Extensive Listening and Reading (5) 25% Brief Writing Assignments (4) 20% Active participation 10%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who are generally interested in topics related to learning, psychology, language, or health will find this course interesting and helpful for developing their communication skills.
-----------	---

担当者の研究室等	The instructor can be contacted by email or in the part-time teacher's office on class days only.
----------	---

備考	Homework includes: 1. Brief writing assignments 2. Reviewing lessons for tests 3. Researching and preparing a brief presentation 4. Extensive listening and reading 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! Be prepared to speak lots of English in each and every class. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classm
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better. Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams if we need to use it!
担当者の研究室等	非常勤講師室 (号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better. Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams!
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English speaking and reading abilities through fun, relevant activities. I will do my best to help you achieve your English goals.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for in
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit 1 Speaking About Yourself	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	Unit 1 Speaking About Yourself	ペアワークとグループワーク ミニプレゼンテーション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	Unit 2 What Do You Do?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	Unit 2 What Do You Do?	ペアワークとグループワーク レポート作成	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	Unit 3 What Does He Look Like?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	Unit 3 What Does He Look Like?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り	ペアワークとグループワーク quiz (Unit 1-3)	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	Unit 4 Where Are You From?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	Unit 4 Where Are You From?	ペアワークとグループワーク プレゼンテーション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	Unit 5 Likes and Dislikes	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	Unit 5 Likes and Dislikes	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	Unit 6 What's She Like?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	Unit 6 What's She Like?	ペアワークとグループワーク レポート作成	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	学習内容の確認と振り返り	ペアワークとグループワーク quiz (Unit 4-6)	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	ピーター・ビンセント他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加 30% 英語 writing 30% 課題 40%
学生へのメッセージ	毎回出席することを心掛けて下さい。スピーキングのクラスですので積極的な授業態度を期待します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは適宜行う。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb (大学オリジナル教材)	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you in class every week. Be sure to come to class every week prepared to speak lots of English. Remember, "practice makes perfect"! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an exc
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. If you miss a Talk Time session, please contact me to arrange a substitute session. Students who consistently approach the classr
担当者の研究室等	7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. If you miss a Talk Time session, please contact me to arrange a substitute session.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today. Please use the same ZOOM login from Semester 1: Topic: Monday 1 Speaking & Writing 11b Time: This is a recurring meeting Meet anytime Join Zoom Meeting https://testkindai.zoom.us/j/92926480516?
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English speaking and reading abilities through fun, relevant activities. I will do my best to help you achieve your English goals.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85% If lessons must be conducted online, you must complete EVERY weekly assignment to be considered for a passing grade.
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit 7 Tell Me About Your Family	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	Unit 7 Tell Me About Your Family	ペアワークとグループワーク ミニプレゼンテーション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	Unit 8 Communication	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	Unit 8 Communication	ペアワークとグループワーク レポート作成	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	Unit 9 How Are You Feeling?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	Unit 9 How Are You Feeling?	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り	ペアワークとグループワーク quiz (Unit 7-9)	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	Unit 10 Memories	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	Unit 10 Memories	ペアワークとグループワーク プレゼンテーション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	Unit 11 Talking About Health	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	Unit 11 Talking About Health	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	Unit 12 Mindset	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	Unit 12 Mindset	ペアワークとグループワーク レポート作成	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	学習内容の確認と振り返り	ペアワークとグループワーク quiz (Unit 9-12)	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	ピーター・ビンセント他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加 30% 英語 writing 30% 課題 40%
学生へのメッセージ	毎回出席することを心掛けて下さい。スピーキングのクラスですので積極的な授業態度を期待します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは適宜行う。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Make sure you have your textbooks. Get a graded reader from the library.
	2	Speed reading Exercises 1 and 2 Unit 1 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	3	Speed reading Exercises 3 & 4 Unit 2 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	4	Speed reading Exercises 5 & 6 Unit 3 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	5	Speed reading Exercises 7 & 8 Unit 4 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	6	Speed reading Exercises 9 & 10 Unit 5 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	7	Review Unit 1-5 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and other progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	8	Speed reading Exercises 11 & 12 Unit 6 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	9	Speed reading Exercises 13 & 14 Unit 7 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	10	Speed reading Exercises 15 & 16 Unit 8 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	11	Speed reading Exercises 17	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Extensive Reading of Graded Readers

		& 18 Unit 9 from Reading Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	12	peed reading Exercises 19 & 20 Unit 10 from Reading Advantage 2	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	13	Review Unit 6-10 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	14	Test of Intensive Reading. Chapters 1-10 Reading Advantage 2. and review.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Ensure all tasks are complete and records handed in.
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Extensive Reading (Graded Readers)10% Speed Reading 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、様々なトピックの英文を読むことができるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	事前学習（予習）にて扱うトピックの基礎知識を確認し、英文読解へとすすむ。また英単語、英文法も確認し、最後に内容を確認するためのリスニングを行う。各 Chapter ごとに小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方など。	シラバスの確認
	2	Chapter 1 The English Language	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	3	Chapter 1 The English Language	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 1 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	4	Chapter 2 Postcolonialism	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	5	Chapter 2 Postcolonialism	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 2 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	6	Chapter 3 Neocolonialism	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	7	Chapter 3 Neocolonialism	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 3 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	8	Chapter 4 The UK	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	9	Chapter 4 The UK	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 4 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	10	Chapter 5 Ireland	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	11	Chapter 5 Ireland	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 5 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	12	Chapter 6 Nigeria	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	13	Chapter 6 Nigeria	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 6 の内容を確認、英単語の習得（1 時間）
	14	Chapter 7 South Africa	Warm-up - Reading	事前に英文を読解しておく（1 時間） 英文の内容を確認する（30 分）
	15	Chapter 7 South Africa	Comprehension Questions - Listening	Comprehension Questions に取り組んでおく（1 時間） Chapter 1 - 7 までの内容を確認し、期末課題に取り組む

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present	JA Kusaka, Jesse Elam, Dax Thomas	松柏社
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation 他	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト：70% 期末課題：20% 授業態度（事前学習の取り組みなど）：10% ※多読活動・速読活動各 20%を含む
----------	---

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	授業ないで英文読解の時間はとりません。事前に読んできていることを前提として授業は進めます。
----	---

	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室にて対応する。
--	---

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文学的表現とは？日常的な表現との違いについて</td><td>授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>比喩表現について（1）直喩</td><td>直喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>比喩表現について（2）暗喩</td><td>暗喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>比喩表現について（3）換喩</td><td>換喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>比喩表現について（4）比喩複合</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>擬人法について</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>倒置法について</td><td>倒置法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>反復法について</td><td>反復法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）																																																																
2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Portraits of Japan</td><td>Paul Stapleton/Atsuko Uemura</td><td>センゲージラーニング</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 各 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習、宿題、提出物。授業態度等 80% 詳しくは第1回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	この授業では、英文リーディングスキルとして、速読と多読のトレーニングを行う。テキストには、スポーツ、ビジネス、テクノロジー、科学、ライフスタイル、健康問題、娯楽、環境問題といったトピックが含まれている。練習問題として、英文の内容理解、語彙、文法演習、リスニング等のアクティビティが盛り込まれており、これらに取り組むことで、英語の総合的な力を確実に身につけてもらいたい。また、英語の各種検定試験の点数アップも目指す。
到達目標	リーディング教材を用いて、速読、多読のスキルの向上を目指すとともに、リスニング、ボキャブラリーを含めた英語の総合的な運用能力を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	授業の冒頭に速読用のテキストを用いて授業を行う。その後、多読に取り組む。多読用の本は各自図書館にて借りて毎回授業に持ってくる。それから、テキストに沿って読み進むとともに各種練習問題に取り組んでいく。
科目学習の効果 (資格)	英語語彙力の増強、TOEIC のスコアアップ、英検におけるレベルアップ T O E I C テストに有効な単語力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: Millennials	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 9-12 練習問題を行うこと。
	2	Unit 1: Millennials Unit 2: Green Profits	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 13-14 および p. 15-18 練習問題を行うこと。
	3	Unit 2: Green Profits	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 19-20 練習問題を行うこと。
	4	Unit 3: Well-Loved Pets	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 21-26 練習問題を行うこと。
	5	Unit 4: Italy's Fashion Kings	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 27-32 練習問題を行うこと。
	6	Unit 5: Viral Marketing	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 33-38 練習問題を行うこと。
	7	Unit 6: TED Talks	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 39-44 練習問題を行うこと。
	8	復習、 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	9	Unit 7: The Gossip Media	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 45-50 練習問題を行うこと。
	10	Unit 8: Replanting the World's Forests	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 51-56 練習問題を行うこと。
	11	Unit 9: Adventure Tourism	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 57-62 練習問題を行うこと。
	12	Unit 10: The Cannes Film Festival	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 63-68 練習問題を行うこと。
	13	Unit 11: Giving Away Billions	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 69-74 練習問題を行うこと。
	14	復習、 臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
	15	Unit 12: Computer Actors	速読、多読 リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p. 75-80 練習問題を行うこと。

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency	Paul Nation/Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Pass 2 Second Edition	Andrew E. Bennett	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読 10% 多読 10% 臨時テスト (30%×2=60%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%)
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
----------	------------------

備考	毎回授業開始時に速読・多読を行います。 臨時テスト、単語テスト等の提出物は授業中にフィードバックする。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>INTRODUCTION</td><td>授業の進め方など。</td><td>授業の内容を確認する。</td></tr> <tr><td>2</td><td>ANNE'S FAMILY</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>3</td><td>THE RISE OF THE NAZIS</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>4</td><td>LITTLE WOMEN</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>5</td><td>HITLER STARTS A WAR</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>6</td><td>HITLER TAKES HOLLAND</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>7</td><td>CHANGES IN THE FRANK FAMILY</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>8</td><td>REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM</td><td>これまでの復習及び中間試験</td><td>試験の準備</td></tr> <tr><td>9</td><td>LIFE IN HIDING</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>10</td><td>FLITZ PFEFFER JOINS</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>11</td><td>ANNE AS A TEENAGER</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>12</td><td>DISCOVERY</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>13</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>14</td><td>AUSCHWITZ-BIRKENAU</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備</td></tr> <tr><td>15</td><td>REVIEW 2 AND FINAL EXAM</td><td>これまでの復習及び最終試験</td><td>試験の準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	INTRODUCTION	授業の進め方など。	授業の内容を確認する。	2	ANNE'S FAMILY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	3	THE RISE OF THE NAZIS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	4	LITTLE WOMEN	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	5	HITLER STARTS A WAR	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	6	HITLER TAKES HOLLAND	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	7	CHANGES IN THE FRANK FAMILY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	8	REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM	これまでの復習及び中間試験	試験の準備	9	LIFE IN HIDING	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	10	FLITZ PFEFFER JOINS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	11	ANNE AS A TEENAGER	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	12	DISCOVERY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	14	AUSCHWITZ-BIRKENAU	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備	15	REVIEW 2 AND FINAL EXAM	これまでの復習及び最終試験	試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	INTRODUCTION	授業の進め方など。	授業の内容を確認する。																																																																
2	ANNE'S FAMILY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
3	THE RISE OF THE NAZIS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
4	LITTLE WOMEN	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
5	HITLER STARTS A WAR	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
6	HITLER TAKES HOLLAND	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
7	CHANGES IN THE FRANK FAMILY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
8	REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM	これまでの復習及び中間試験	試験の準備																																																																
9	LIFE IN HIDING	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
10	FLITZ PFEFFER JOINS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
11	ANNE AS A TEENAGER	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
12	DISCOVERY	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
14	AUSCHWITZ-BIRKENAU	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備																																																																
15	REVIEW 2 AND FINAL EXAM	これまでの復習及び最終試験	試験の準備																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>The Story of Anne Frank アンネ・フランク物語</td><td>ニーナ・ウェグナー</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The Story of Anne Frank アンネ・フランク物語	ニーナ・ウェグナー	IBC パブリッシング	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The Story of Anne Frank アンネ・フランク物語	ニーナ・ウェグナー	IBC パブリッシング																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 各 10% MIDTERM & FINAL EXAMS 各 20% 授業中の小テスト・発表・予習、宿題、提出物。授業態度等 40% 詳しくは第 1 回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Make sure you have your textbooks. Get a graded reader from the library.
	2	Speed reading Exercises 21 and 22 Unit 11 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	3	Speed reading Exercises 23 & 24 Unit 12 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	4	Speed reading Exercises 25 & 26 Unit 13 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	5	Speed reading Exercises 27 & 28 Unit 14 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	6	Speed reading Exercises 29 & 30 Unit 15 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	7	Review Unit 11-16 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and other progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	8	Speed reading Exercises 31 & 32 Unit 16 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	9	Speed reading Exercises 33 & 34 Unit 17 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	10	Speed reading Exercises 35 & 36 Unit 18 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	11	Speed reading Exercises 37	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Extensive Reading of Graded Readers

		& 38 Unit 19 from Reading Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	12	Speed reading Exercises 39 & 40 Unit 20 from Reading Advantage 2	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	13	Review Unit 16-20 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2
	14	Test of Intensive Reading. Chapters 11-20 Reading Advantage 2. and review.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Ensure all tasks are complete and records handed in.
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Extensive Reading (Graded Readers)10% Speed Reading 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 1 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 3 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	韻について（1）頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 5 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	7	韻について（2）脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 7 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	9	韻について（3）押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 9 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 1 1 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 1 3 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2 (3rd edition)	Casey Malarcher	CENGAGE
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	速読 10% 多読 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習・宿題・提出物・授業態度 80%
----------	--

学生へのメッセージ	This course will most benefit students who participate enthusiastically in activities, preview and review lessons and complete their homework assignments.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅡb	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>同語反復について</td><td>同語反復に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>省略について</td><td>省略に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>韻について (1) 頭韻</td><td>頭韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>韻について (2) 脚韻</td><td>脚韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>韻について (3) 押韻</td><td>押韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>パロディについて</td><td>パロディに関する英文を読み、理解を深める。</td><td>パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>レトリックについて</td><td>レトリックに関する英文を読み、理解を深める。</td><td>レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Portraits of Japan</td><td>Paul Stapleton/Atsuko Uemura</td><td>センゲージラーニング</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読 各10% 平常点 40% まとめのテスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	さく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Explanation of the course contents and major goals of the classes.	Try to bring your textbooks to class.
	2	Unit 11 Vocabulary building and reading comprehension.	Using suffixes and prefixes to expand vocabulary.	Review the vocabulary for Unit 11. Fill out the Vocabulary Expansion worksheet.
	3	Unit 11 follow-up (Sharing information)	Forming questions in English. Sharing information in a Gap-fill exercise.	Review Question formation strategies.
	4	Unit 12 Motivating Students	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	5	Unit 13 Mystery Mansion	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	6	Unit 14 International Baseball	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	7	Unit 15 Strange Foods	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	8	Mid-Term Review Test	Vocabulary and reading comprehension test for the first half of the semester.	Preview the vocabulary from the units we studied up until now.
	9	Unit 16 A Special Station	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	10	Unit 16 Follow-up	Forming questions in English. Sharing information in a Gap-fill exercise.	Review Question formation strategies.
	11	Unit 17 Taekwondo	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	12	Unit 18 White Sands	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	13	Unit 19 Paper Products	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	14	Unit 20 Camouflage Art	Vocabulary Expansion and Reading Comprehension.	Preview the unit vocabulary. Fill out the Vocabulary Expansion Worksheet at home. Do the Reading Comprehension exercised at home.
	15	End-Term Review Test	Vocabulary and reading comprehension test for the second half of the semester.	Preview the vocabulary from the units we studied up until now. Submit Timed Reading and Speed Reading results.

関連科目	リーディング Ia, Ib		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法 (基準)	The grading consists of three parts; - speed reading activity 10% - extensive reading activity 10% - activities using your textbook 20% - Mid-term Exam 30% - End-term Exam 30%			
学生への メッセージ	I hope you didn't forget your English over the break. Let's continue improving your English reading skills.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>INTRODUCTION</td><td>授業の進め方など。</td><td>授業の内容を確認する。 (2時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>THE SETTING</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>THE CHANGE IN HELEN</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>THE FIRST VISION TO BOSTON</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>A NEW GOAL</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>PREPARING FOR RADCLIFFE</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>THE STORY OF MY LIFE</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM</td><td>これまでの復習及び中間試験</td><td>試験の準備 (2時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>THE LECTURE PATH</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>THE SOCIALIST AND THE PACIFIST</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>INTO SHOW BUSINESS</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>THE AMERICAN FOUNDATION FOR THE BLIND</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>HELEN'S LIFE WITHOUT ANNE</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>IN BRIEF</td><td>英文を読み、理解を深める。</td><td>前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>REVIEW 2 AND FINAL EXAM</td><td>これまでの復習及び最終試験</td><td>試験の準備 (2時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	INTRODUCTION	授業の進め方など。	授業の内容を確認する。 (2時間)	2	THE SETTING	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	3	THE CHANGE IN HELEN	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	4	THE FIRST VISION TO BOSTON	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	5	A NEW GOAL	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	6	PREPARING FOR RADCLIFFE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	7	THE STORY OF MY LIFE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	8	REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM	これまでの復習及び中間試験	試験の準備 (2時間)	9	THE LECTURE PATH	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	10	THE SOCIALIST AND THE PACIFIST	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	11	INTO SHOW BUSINESS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	12	THE AMERICAN FOUNDATION FOR THE BLIND	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	13	HELEN'S LIFE WITHOUT ANNE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	14	IN BRIEF	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)	15	REVIEW 2 AND FINAL EXAM	これまでの復習及び最終試験	試験の準備 (2時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	INTRODUCTION	授業の進め方など。	授業の内容を確認する。 (2時間)																																																																
2	THE SETTING	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
3	THE CHANGE IN HELEN	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
4	THE FIRST VISION TO BOSTON	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
5	A NEW GOAL	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
6	PREPARING FOR RADCLIFFE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
7	THE STORY OF MY LIFE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
8	REVIEW 1 AND MIDTERM EXAM	これまでの復習及び中間試験	試験の準備 (2時間)																																																																
9	THE LECTURE PATH	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
10	THE SOCIALIST AND THE PACIFIST	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
11	INTO SHOW BUSINESS	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
12	THE AMERICAN FOUNDATION FOR THE BLIND	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
13	HELEN'S LIFE WITHOUT ANNE	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
14	IN BRIEF	英文を読み、理解を深める。	前回の学習箇所を音読。語彙テストの準備(2時間)																																																																
15	REVIEW 2 AND FINAL EXAM	これまでの復習及び最終試験	試験の準備 (2時間)																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Helen Keller ヘレン・ケラー</td><td>マーガレット・リーヴァスミュー</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Helen Keller ヘレン・ケラー	マーガレット・リーヴァスミュー	IBC パブリッシング	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Helen Keller ヘレン・ケラー	マーガレット・リーヴァスミュー	IBC パブリッシング																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 各 10% MIDTERM & FINAL EXAMS 各 20% 授業中の小テスト・発表・予習・宿題、提出物。授業態度等 40% 詳しくは第 1 回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	欧米のメディアが英語で発信する政治、社会、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。映像（および音声）によるニュースをメインに、文字による記事等も含めバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	Teams を使ったリアルタイム・双方向のオンライン授業。英語による最新の映像ニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（2 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	British News Update 4	Timothy Knowles, 田中みんなね、中村美帆子、馬上紗矢香	金星堂
	2	Meet the World 2022	若 有 保彦	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	期末の課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、宿題・提出物等 80%
学生へのメッセージ	受講マナーを守ること。授業への積極的な参加を期待しています。 日頃から様々な事柄に興味を持ち、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 テキストの内容に関する web 動画の視聴など、予習、復習もしっかり行ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。それぞれのニュースに対する自分自身の意見を持ち、それを授業で発表し、クラスメートと共有することができるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新の世界のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（1 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerrett, Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Class participation, Review quiz 85 % Final presentation 15%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グリアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)</td><td>環境と経済に関する講義とグループワーク</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による環境と経済に関する発表</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>国際スポーツに関する講義とグループワーク</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による国際スポーツに関する発表</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>気候に関する講義とグループワーク</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による気候に関する発表</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>学生による日本国内のツーリズムに関する発表</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による日本国内の交通機関に関する発表</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>災害救助に関する講義とグループワーク</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による災害救助に関する発表</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>高速鉄道に関する講義とグループワーク</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による高速鉄道に関する発表</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>ニュース英語表現に関する講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Prints/ Material provided by teacher</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Prints/ Material provided by teacher			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Prints/ Material provided by teacher																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% プレゼンテーション、授業中の小テスト・発言、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)</td><td>環境と経済に関する講義とグループワーク</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による環境と経済に関する発表</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>国際スポーツに関する講義とグループワーク</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による国際スポーツに関する発表</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>気候に関する講義とグループワーク</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による気候に関する発表</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>学生による日本国内のツーリズムに関する発表</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による日本国内の交通機関に関する発表</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>災害救助に関する講義とグループワーク</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による災害救助に関する発表</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>高速鉄道に関する講義とグループワーク</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による高速鉄道に関する発表</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>ニュース英語表現に関する講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>CNN Student News for Reading & Writing</td><td>Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CNN Student News for Reading & Writing	Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	CNN Student News for Reading & Writing	Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点 60 点（授業内の小テスト、提出物、授業参加度等を総合評価） 「まとめのテスト」 40 点 詳しい評価方法は第 1 回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。</td><td>教科書のはじめにを読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Chapter 1 Global Competition in the Sky</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.11-16 予習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Chapter 2 Library on Wheels</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.17-22 予習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.23-28 予習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Chapter 4 Olympic Pride</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.29-34 予習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Chapter 5 The Big Business of Water</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.35-40 予習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>教科書 Chapter 1-5 復習</td><td>教科書 Chapter1-5 復習</td><td>教科書 P.11-40 復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間試験</td><td>教科書 Chapter1-5 試験</td><td>教科書 P.11-40 試験勉強</td></tr> <tr> <td>9</td><td>中間試験解説及び評</td><td>試験返却及び見直し</td><td>別に無し</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Chapter 6 Evacuation Shelters for Pets</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.41-46 予習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.47-52 予習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Chapter 8 Home Is Where the Heart Is</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.53-58 予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P.59-64 予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>教科書 Chapter 6-9 復習</td><td>教科書 Chapter 6-9 復習</td><td>Chapter 6-9 復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>教科書 Chapter 6-9 テスト</td><td>教科書 Chapter6-9 試験</td><td>試験勉強</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書のはじめにを読む	2	Chapter 1 Global Competition in the Sky	教科書演習	教科書 P.11-16 予習	3	Chapter 2 Library on Wheels	教科書演習	教科書 P.17-22 予習	4	Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents	教科書演習	教科書 P.23-28 予習	5	Chapter 4 Olympic Pride	教科書演習	教科書 P.29-34 予習	6	Chapter 5 The Big Business of Water	教科書演習	教科書 P.35-40 予習	7	教科書 Chapter 1-5 復習	教科書 Chapter1-5 復習	教科書 P.11-40 復習	8	中間試験	教科書 Chapter1-5 試験	教科書 P.11-40 試験勉強	9	中間試験解説及び評	試験返却及び見直し	別に無し	10	Chapter 6 Evacuation Shelters for Pets	教科書演習	教科書 P.41-46 予習	11	Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle	教科書演習	教科書 P.47-52 予習	12	Chapter 8 Home Is Where the Heart Is	教科書演習	教科書 P.53-58 予習	13	Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures	教科書演習	教科書 P.59-64 予習	14	教科書 Chapter 6-9 復習	教科書 Chapter 6-9 復習	Chapter 6-9 復習	15	教科書 Chapter 6-9 テスト	教科書 Chapter6-9 試験	試験勉強
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書のはじめにを読む																																																																
2	Chapter 1 Global Competition in the Sky	教科書演習	教科書 P.11-16 予習																																																																
3	Chapter 2 Library on Wheels	教科書演習	教科書 P.17-22 予習																																																																
4	Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents	教科書演習	教科書 P.23-28 予習																																																																
5	Chapter 4 Olympic Pride	教科書演習	教科書 P.29-34 予習																																																																
6	Chapter 5 The Big Business of Water	教科書演習	教科書 P.35-40 予習																																																																
7	教科書 Chapter 1-5 復習	教科書 Chapter1-5 復習	教科書 P.11-40 復習																																																																
8	中間試験	教科書 Chapter1-5 試験	教科書 P.11-40 試験勉強																																																																
9	中間試験解説及び評	試験返却及び見直し	別に無し																																																																
10	Chapter 6 Evacuation Shelters for Pets	教科書演習	教科書 P.41-46 予習																																																																
11	Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle	教科書演習	教科書 P.47-52 予習																																																																
12	Chapter 8 Home Is Where the Heart Is	教科書演習	教科書 P.53-58 予習																																																																
13	Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures	教科書演習	教科書 P.59-64 予習																																																																
14	教科書 Chapter 6-9 復習	教科書 Chapter 6-9 復習	Chapter 6-9 復習																																																																
15	教科書 Chapter 6-9 テスト	教科書 Chapter6-9 試験	試験勉強																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Insights 2022</td><td>Junko Murao et al.</td><td>KINSEIDO</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Insights 2022	Junko Murao et al.	KINSEIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Insights 2022	Junko Murao et al.	KINSEIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 30% 中間・期末試験 70%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎授業、確認テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。 5. 辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	① 授業時間外の質問等は、メールにて受け付けます。 ② 授業中の課題等のフィードバックは、Google Classroom で行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	欧米のメディアが英語で発信する政治、社会、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。映像（および音声）によるニュースをメインに、文字による記事等も含めバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	British News Update 4	Timothy Knowles, 田中みんね、中村美帆子、馬上紗矢香	金星堂
	2	Meet the World 2022	若手 保彦	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	学期末の課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、課題・提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	受講マナーを守ること。授業への積極的な参加を期待しています。 日頃から様々な事柄に興味を持ち、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 テキストの内容に関する web 動画の視聴など、予習、復習もしっかり行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メール（あるいはチャット）で対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。それぞれのニュースに対する自分自身の意見を持ち、それを授業で発表し、クラスメートと共有することができるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新の世界のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（1 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerrett, Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Class participation, Review quiz 85 % Final presentation 15%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Prints/ Material provided by teacher</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Prints/ Material provided by teacher			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Prints/ Material provided by teacher																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、宿題・提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>CNN Student News for Reading & Writing</td><td>Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CNN Student News for Reading & Writing	Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	CNN Student News for Reading & Writing	Fuyuhiko Sekido/Jake Arnold 他	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点 60 点（授業内小テスト、提出物、授業参加度等を総合評価） 「まとめのテスト」40 点 詳しい評価方法は第 1 回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Chapter 11 More layers Make You Feel Cooler</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 71-76</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Chapter 12 Impossible May Be Possible</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 77-82</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Chapter 13 No Teens Allowed</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 83-88</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 89-94</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Chapter 15 Looking for a Microcosmic World</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 95-100</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Chapter 11-15 復習</td><td>Chapter 11-15 の復習</td><td>教科書 P. 71-100 復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>中間テスト</td><td>Chapter 11-15 までの内容についてテスト</td><td>教科書 P. 71-100 試験勉強</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間試験解説及び評</td><td>中間試験返却及び見直し</td><td>別に無し</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Chapter 16 Physical Ability of Teens in Japan</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 101-106</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Chapter 17 We Still Don't Have Choices</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 107-112</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Chapter 18 Urban Farming in Singapore</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 113-118</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Chapter 19 The Power of Design Creates a Pleasant Buzz</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 119-124</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto</td><td>教科書演習</td><td>教科書 P. 125-131</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Chapter 16-20 総復習</td><td>Chapter 16-20 の復習</td><td>教科書 P. 101-131 復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Chapter 16-20 テスト</td><td>Chapter 16-20 までの内容についてテスト</td><td>教科書 P. 101-131 試験勉強</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Chapter 11 More layers Make You Feel Cooler	教科書演習	教科書 P. 71-76	2	Chapter 12 Impossible May Be Possible	教科書演習	教科書 P. 77-82	3	Chapter 13 No Teens Allowed	教科書演習	教科書 P. 83-88	4	Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara	教科書演習	教科書 P. 89-94	5	Chapter 15 Looking for a Microcosmic World	教科書演習	教科書 P. 95-100	6	Chapter 11-15 復習	Chapter 11-15 の復習	教科書 P. 71-100 復習	7	中間テスト	Chapter 11-15 までの内容についてテスト	教科書 P. 71-100 試験勉強	8	中間試験解説及び評	中間試験返却及び見直し	別に無し	9	Chapter 16 Physical Ability of Teens in Japan	教科書演習	教科書 P. 101-106	10	Chapter 17 We Still Don't Have Choices	教科書演習	教科書 P. 107-112	11	Chapter 18 Urban Farming in Singapore	教科書演習	教科書 P. 113-118	12	Chapter 19 The Power of Design Creates a Pleasant Buzz	教科書演習	教科書 P. 119-124	13	Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto	教科書演習	教科書 P. 125-131	14	Chapter 16-20 総復習	Chapter 16-20 の復習	教科書 P. 101-131 復習	15	Chapter 16-20 テスト	Chapter 16-20 までの内容についてテスト	教科書 P. 101-131 試験勉強
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Chapter 11 More layers Make You Feel Cooler	教科書演習	教科書 P. 71-76																																																																
2	Chapter 12 Impossible May Be Possible	教科書演習	教科書 P. 77-82																																																																
3	Chapter 13 No Teens Allowed	教科書演習	教科書 P. 83-88																																																																
4	Chapter 14 The Truth about the Deer in Nara	教科書演習	教科書 P. 89-94																																																																
5	Chapter 15 Looking for a Microcosmic World	教科書演習	教科書 P. 95-100																																																																
6	Chapter 11-15 復習	Chapter 11-15 の復習	教科書 P. 71-100 復習																																																																
7	中間テスト	Chapter 11-15 までの内容についてテスト	教科書 P. 71-100 試験勉強																																																																
8	中間試験解説及び評	中間試験返却及び見直し	別に無し																																																																
9	Chapter 16 Physical Ability of Teens in Japan	教科書演習	教科書 P. 101-106																																																																
10	Chapter 17 We Still Don't Have Choices	教科書演習	教科書 P. 107-112																																																																
11	Chapter 18 Urban Farming in Singapore	教科書演習	教科書 P. 113-118																																																																
12	Chapter 19 The Power of Design Creates a Pleasant Buzz	教科書演習	教科書 P. 119-124																																																																
13	Chapter 20 A New Dream Found in Kyoto	教科書演習	教科書 P. 125-131																																																																
14	Chapter 16-20 総復習	Chapter 16-20 の復習	教科書 P. 101-131 復習																																																																
15	Chapter 16-20 テスト	Chapter 16-20 までの内容についてテスト	教科書 P. 101-131 試験勉強																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Insights 2022</td><td>Junko Murao et al.</td><td>KINSEIDO</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Insights 2022	Junko Murao et al.	KINSEIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Insights 2022	Junko Murao et al.	KINSEIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 30% 中間・期末試験 70%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎授業、確認テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。 5. 辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	① 授業時間外での質問等は、教室にて受け付けます。 ② 授業中の課題等のフィードバックは、翌週の授業中に行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業である。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とする。 現代の政治・経済の分野においては「グローバル」なパースペクティブがクローズアップされることが多い。それでも、活動領域が何であれ異文化コミュニケーションが生じる場においてはいわゆる「国際」感覚が養われていることが不可欠である。すなわち、国際的な場面での活動に従事したり情報交換をするためには、異なるナショナルリティーを背景にもつ自己と他者双方の社会制度、生活習慣、文化等を相対化し、相手を理解し尊重する姿勢が求められ、同時に自らの固有の立場を発信し理解を得る努力も重要となる。そこでツールとなるのが幅広い教養と言語（英語）である。ある目的の達成や問題解決に至るまでに行われるコミュニケーションは、その社会で慣習化された作法に従って進行することが多い。この授業では、そのような文化的に慣習化されたコミュニケーションの在り方を見える化」（専門用語で「スキーム化」）し、多種多様な目的に適した英語運用の仕組みを知り、実践する。																																																																		
到達目標	英語をコミュニケーションのツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、読む、書く、聞く、話す、そしてそれらを総合して特定の目的（specific purposes）に応じたコミュニケーションを適切に行えるようにすることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて他者の意見を聞き、自分の見解を発信するための力を身に着けることも本科目の目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進める。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC や英検 など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>文化を相対化する</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ジャンル：目的別英語コミュニケーションのテクスチャ</td><td>講義と演習</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>学術的な文章を読む</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学術的な文章を読む</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>新聞を読む</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>新聞を読む</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>物語文を読む</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>物語文を読む</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>フォーマル・カジュアルな会話</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>フォーマル・カジュアルな会話</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スピーチ</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>スピーチ</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>映像メディアの英語</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>映像メディアの英語</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>レビューテスト</td><td>この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。</td><td>授業内容のふりかえり（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	文化を相対化する	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	2	ジャンル：目的別英語コミュニケーションのテクスチャ	講義と演習	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	3	学術的な文章を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	4	学術的な文章を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	5	新聞を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	6	新聞を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	7	物語文を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	8	物語文を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	9	フォーマル・カジュアルな会話	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	10	フォーマル・カジュアルな会話	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	11	スピーチ	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	12	スピーチ	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	13	映像メディアの英語	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	14	映像メディアの英語	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	15	レビューテスト	この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。	授業内容のふりかえり（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	文化を相対化する	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
2	ジャンル：目的別英語コミュニケーションのテクスチャ	講義と演習	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
3	学術的な文章を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
4	学術的な文章を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
5	新聞を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
6	新聞を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
7	物語文を読む	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
8	物語文を読む	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
9	フォーマル・カジュアルな会話	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
10	フォーマル・カジュアルな会話	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
11	スピーチ	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
12	スピーチ	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
13	映像メディアの英語	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
14	映像メディアの英語	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
15	レビューテスト	この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。	授業内容のふりかえり（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング II a, b など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜、授業にて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、授業にて指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜、授業にて指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜、授業にて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、授業にて指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜、授業にて指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	レビューテスト 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業は、各トピックを通じて ESP の知識や技能を（1）学び（2）実践することに主眼を置く。特に実践においては、トピックの特性に応じて課題の形態も多種多様になる。授業では積極的に発言し、他の学生との協働にも主体的に取り組んでほしい。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 船本研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。
授業方法と留意点	1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めますが、スマートフォンを辞書として活用することは認めません。 2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	2	Unit 1 Email Mania Night at the Museum	単語テスト1 Volume explosion 映画 1	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	3	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト2 Irritated by spam 映画 2	Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	4	テスト Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト3 Fighting spam 映画 3	テスト勉強 Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	5	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	第一回チェックテスト Scam spam 映画 4	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	6	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト4 Getting personal information 映画 5	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	7	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト5 LOL and more 映画調整日	Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	8	テスト Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト6 Getting your point across 映画後半	テスト勉強 Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	9	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト7 Ending it with a click of the mouse 映画 6	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	10	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	第二回チェックテスト Virtual goodbyes 映画 7	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	11	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト8 Email on the go 映画 8	Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	12	テスト Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト9 Youth Shun Email 映画 9	テスト勉強 Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	13	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト10 Faster communication 映画 10	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	14	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト11 Businessman prefer Email 映画調整日	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	15	テスト Night at the Museum	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか 三修社
	2	Night at the Museum ナイトミュージアム	Robert B Grant 他 松柏社
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語小テスト 33% 授業中テスト 54% 授業に対する積極的な姿勢 13% ※欠席4回未満、総合点60点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思います。 口語表現やメディア用語は難しく思えるかもしれませんが、ひとつひとつ覚えていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室(木曜午前中)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。																																																																		
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。																																																																		
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、復習を忘れずに行ってください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>評価方法、授業の進め方、基本会話</td><td>授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する（1時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>接客コミュニケーション</td><td>接客の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>接客の上で必要な英語の英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>機内サービス</td><td>機内サービスの案内・利用に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>機内サービスの案内・利用に必要な英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>LCC と FSC</td><td>航空業界での用語や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>航空業界での用語や表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>面接重視の航空会社</td><td>面接場面での英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>面接場面での英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>チケット販売</td><td>チケット等の販売における英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>チケット等の販売における英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>アトラクション</td><td>アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トラブル発生</td><td>テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>業界の先輩メッセージ</td><td>テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ホテル業務内容</td><td>ホテル業務において必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>ホテル業務において必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>料飲部門 (F&B)</td><td>レストラン業務で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>レストラン業務で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>トラブル発生</td><td>テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ホテル業界就職活動編</td><td>テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td><td>テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループワーク発表</td><td>初回で発表する課題についてグループワークの成果を発表し、互いに講評する。</td><td>グループ内で発表の分担や順番について打ち合わせをする。（1時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめのテスト</td><td>これまで学んできた授業内容について復習テストをする。</td><td>これまで学んできた授業内容について総復習する。（1時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する（1時間）	2	接客コミュニケーション	接客の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	接客の上で必要な英語の英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）	3	機内サービス	機内サービスの案内・利用に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	機内サービスの案内・利用に必要な英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）	4	LCC と FSC	航空業界での用語や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	航空業界での用語や表現について予習・復習する。（1時間）	5	面接重視の航空会社	面接場面での英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	面接場面での英語の表現について予習・復習する。（1時間）	6	チケット販売	チケット等の販売における英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	チケット等の販売における英語の表現について予習・復習する。（1時間）	7	アトラクション	アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	8	トラブル発生	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	9	業界の先輩メッセージ	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	10	ホテル業務内容	ホテル業務において必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル業務において必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	11	料飲部門 (F&B)	レストラン業務で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	レストラン業務で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	12	トラブル発生	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	13	ホテル業界就職活動編	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）	14	グループワーク発表	初回で発表する課題についてグループワークの成果を発表し、互いに講評する。	グループ内で発表の分担や順番について打ち合わせをする。（1時間）	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。（1時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する（1時間）																																																																
2	接客コミュニケーション	接客の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	接客の上で必要な英語の英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
3	機内サービス	機内サービスの案内・利用に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	機内サービスの案内・利用に必要な英語の語彙や表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
4	LCC と FSC	航空業界での用語や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	航空業界での用語や表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
5	面接重視の航空会社	面接場面での英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	面接場面での英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
6	チケット販売	チケット等の販売における英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	チケット等の販売における英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
7	アトラクション	アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	アトラクション施設の紹介や注意に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
8	トラブル発生	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
9	業界の先輩メッセージ	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
10	ホテル業務内容	ホテル業務において必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル業務において必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
11	料飲部門 (F&B)	レストラン業務で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	レストラン業務で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
12	トラブル発生	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界におけるトラブルに関する対処の上で必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
13	ホテル業界就職活動編	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	テーマパーク業界に勤める上での書類捌きや自己分析に必要な英語の表現について予習・復習する。（1時間）																																																																
14	グループワーク発表	初回で発表する課題についてグループワークの成果を発表し、互いに講評する。	グループ内で発表の分担や順番について打ち合わせをする。（1時間）																																																																
15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。（1時間）																																																																

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality Communication	Yasunori Nishina 他	三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ課題 20% 授業参加、小テスト 50% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。			
担当者の 研究室等	質問等は非常勤講師室（主に木曜の昼休みのみ入室）にて対応する。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1 の導入	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit1: Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit 1 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	3	Unit1: Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回の Unit 1 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	4	Unit2: Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit2 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	5	Unit2: Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回の Unit 2 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	6	Unit3: Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit3 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	7	Unit3: Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回の Unit3 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	8	Unit4: Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit4 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	9	Unit4: Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回の Unit4 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	10	Unit5: Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit5 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	11	Unit5: Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑧	今回の Unit5 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	12	Unit6: Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑨	Unit6 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	13	Unit6: Giving Your Opinion Unit7: Making Requests	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7 の導入	今回の Unit6 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit7: Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter 7 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト Unit1~7 のまとめ	Unit1~7 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思います。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ 3 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対 応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジュリア クネヴィッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から外国語専門職に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業目的： - 観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 - 基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 - 英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 - ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 - 業界についての知識の習得。 - 業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 - 業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 - 業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	2	Do you like to watch kabuki?	歌舞伎案内や推奨に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	3	The Sapporo Snow Festival	雪まつり案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	雪まつりなどイベントに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Hiraizumi as the Buddhist Pure Land	歴史や仏教の教えなどの案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史や仏教の教えなど内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Yokohama Port	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Mt. Fuji	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Omi Province and its Military History	日本の地域歴史案内に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本の地域歴史案内の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	The Deer in Nara	奈良案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	奈良案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Kyoto Station	京都案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	京都案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Let's Explore Osaka	大阪案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	大阪案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Port City Kobe	神戸案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	神戸案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Sand Dunes in Tottori	鳥取案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	鳥取案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	The Atomic Bomb Dome	広島案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	広島案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dazaifuku/The Shimazu and Satsuma Culture	歴史案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディング II a, b など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Hospitality English	Miyuki Kido 他
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文 20% 宿題、提出物等 80% フィードバック致します。			
学生への メッセージ	I look forward to working with you all in learning and improving our skills of using English in real life situations you might find yourself in while working in various industries in or out of Japan.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 質問等についてメールにて願います。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。
到達目標	グローバルな視点から国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。様々な組織や人々の国際的な貢献を紹介します。様々な資料や情報に基づき議論やプレゼンテーションを行います。 To be able to understand and present information on organisations related to international contribution.
授業方法と留意点	特に国際貢献で必要とされる英語を中心に学習します。 Please check the Moodle and prepare for class、授業に出席してください。 折々小テストをしますので、復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction. Getting to know your teacher, your classmates and what we will be doing in this course. Immigration	Listening, reading followed by group discussion and writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	2	Various types of organisations. What are NPOs, NFPO, NGOs, Governmental Agencies	Listening, reading followed by a writing exercise writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	3	What is Greenpeace? Past achievements.	Listening, reading followed by group discussion and writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	4	What is Greenpeace doing now?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	5	What is WWF. (and I don't mean the world wrestling federation)	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	6	Current example of WWF's Work	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	7	Wild Bird Society Japan	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	8	BirdLife International.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	9	Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	10	Doctors Without Borders (MSF)	Listening, reading followed by group discussion and/or writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	11	Fair Trade	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	12	Student presentations and discussions on selected topics.	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	13	Student presentations and discussions on selected topics.	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	14	Student presentations and discussions on selected topics.	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	15	Review feedback and any remaining issues.		Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (課題の出来具合や積極的な姿勢) How well you are prepared. How well and how clearly you speak (on the topic) in class. How well you were able to listen and understand the teacher, your classmates, and any recorded material. 10% Weekly Tasks: (mainly reflectio			
学生への メッセージ	To get the most out of this course, please be prepared to give your opinion, and listen with respect to other peoples ideals.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 Building 7, 2 floor.			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ペル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1 の導入	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit1: Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit 1 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	3	Unit1: Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回の Unit 1 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	4	Unit2: Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit2 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	5	Unit2: Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回の Unit 2 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	6	Unit3: Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit3 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	7	Unit3: Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回の Unit3 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	8	Unit4: Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit4 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	9	Unit4: Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回の Unit4 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	10	Unit5: Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit5 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	11	Unit5: Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑧	今回の Unit5 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	12	Unit6: Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑨	Unit6 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	13	Unit6: Giving Your Opinion Unit7: Making Requests	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7 の導入	今回の Unit6 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit7: Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter 7 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト Unit1~7 のまとめ	Unit1~7 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出課題 30% 授業への取り組みの評価 20% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「外国語専門職」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1 の導入	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit1: Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit 1 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	3	Unit1: Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回の Unit 1 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	4	Unit2: Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 外国語を仕事で使う時の注意事項を理解する	Unit2 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	5	Unit2: Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 外国語を仕事で使うときの注意事項を理解する	今回の Unit 2 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	6	Unit3: Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit3 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	7	Unit3: Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回の Unit3 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	8	Unit4: Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit4 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	9	Unit4: Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回の Unit4 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	10	Unit5: Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit5 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	11	Unit5: Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回の Unit5 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	12	Unit6: Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit6 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	13	Unit6: Giving Your Opinion Unit7: Making Requests	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7 の導入	今回の Unit6 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit7: Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter 7 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト Unit1~7 のまとめ	Unit1~7 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出課題 20% 授業への取り組みの評価 30% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業である。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とする。 現代の政治・経済の分野においては「グローバル」なパースペクティヴがクローズアップされることが多い。それでも、活動領域が何であれ異文化コミュニケーションが生じる場においてはいわゆる「国際」感覚が養われていることが不可欠である。すなわち、国際的な場面での活動に従事したり情報交換をするためには、異なるナショナルリティーを背景にもつ自己と他者双方の社会制度、生活習慣、文化等を相対化し、相手を理解し尊重する姿勢が求められ、同時に自らの固有の立場を発信し理解を得る努力も重要となる。そこでツールとなるのが幅広い教養と言語（英語）である。ある目的の達成や問題解決に至るまでに行われるコミュニケーションは、その社会で慣習化された作法に従って進行することが多い。この授業では、そのような文化的に慣習化されたコミュニケーションの在り方を見える化（専門用語で「スキーム化」）し、多種多様な目的に適した英語運用の仕組みを知り、実践する。																																																																		
到達目標	英語をコミュニケーションのツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、読む、書く、聞く、話す、そしてそれらを総合して特定の目的（specific purposes）に応じたコミュニケーションを適切に行えるようにすることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて他者の意見を聞き、自分の見解を発信するための力を身に着けることも本科目の目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進める。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC や英検 など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>文化を相対化する</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レジスター：場面によることばの選択</td><td>講義と演習</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>映像メディアの英語</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>映像メディアの英語</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>行動する英語（1）</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>行動する英語（1）</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>行動する英語（2）</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>行動する英語（2）</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>エッセイライティング</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>エッセイライティング</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>手紙／電子メールを書く</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>手紙／電子メールを書く</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>履歴書を書く</td><td>読解・ディスカッション</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>履歴書を書く</td><td>課題・発表</td><td>授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>レビューテスト</td><td>この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。</td><td>授業内容のふりかえり（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	文化を相対化する	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	2	レジスター：場面によることばの選択	講義と演習	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	3	映像メディアの英語	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	4	映像メディアの英語	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	5	行動する英語（1）	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	6	行動する英語（1）	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	7	行動する英語（2）	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	8	行動する英語（2）	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	9	エッセイライティング	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	10	エッセイライティング	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	11	手紙／電子メールを書く	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	12	手紙／電子メールを書く	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	13	履歴書を書く	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	14	履歴書を書く	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）	15	レビューテスト	この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。	授業内容のふりかえり（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	文化を相対化する	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
2	レジスター：場面によることばの選択	講義と演習	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
3	映像メディアの英語	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
4	映像メディアの英語	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
5	行動する英語（1）	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
6	行動する英語（1）	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
7	行動する英語（2）	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
8	行動する英語（2）	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
9	エッセイライティング	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
10	エッセイライティング	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
11	手紙／電子メールを書く	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
12	手紙／電子メールを書く	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
13	履歴書を書く	読解・ディスカッション	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
14	履歴書を書く	課題・発表	授業のポイントを整理する 教材・課題に取り組む（1 時間）																																																																
15	レビューテスト	この授業で学んだ内容を振り返り、テストを通じて理解度・習熟度を確認する。	授業内容のふりかえり（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング II a, b など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜、授業にて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、授業にて指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜、授業にて指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜、授業にて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、授業にて指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜、授業にて指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	レビューテスト 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業は、各トピックを通じて ESP の知識や技能を（1）学び（2）実践することに主眼を置く。特に実践においては、トピックの特性に応じて課題の形態も多種多様になる。授業では積極的に発言し、他の学生との協働にも主体的に取り組んでほしい。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 船本研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。
授業方法と留意点	1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めますが、スマートフォンを辞書として活用することは認めません。 2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 Social Networking Sites Charade	授業の進め方と評価方法等の説明 The Facebook Phenomenon 映画 1	Unit 8 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	2	Unit 8 Social Networking Sites Charade	単語テスト 1 Social Networking Trouble 映画 2	Unit 8 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	3	Unit 9 Blogging Charade	単語テスト 2 Telling the World 映画 3 & 4	Unit 9 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	4	テスト Unit 9 Blogging Charade	第一回チェックテスト Popular Japan 映画 5	テスト勉強 Unit 9 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	5	Unit 10 Information Superhighway Charade	単語テスト 3 Knowledge Haven 映画 6	Unit 10 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	6	Unit 10 Information Superhighway Charade	単語テスト 4 Sharing What You Know 映画 7	Unit 10 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	7	Unit 11 Online Gambling Charade	単語テスト 5 Clicking, Chances and Control 映画 8	Unit 11 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	8	テスト Unit 11 Online Gambling Charade	単語テスト 6 Online Casinos and Japan 映画 9 & 10	テスト勉強 Unit 11 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	9	Unit12 Citizen Journalism Charade	単語テスト 7 On-the-Scene Reporting 映画 1 1	Unit 12 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	10	Unit12 Citizen Journalism Charade	第二回チェックテスト OHMYNEWS in Japan 映画 1 2	Unit 12 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	11	Unit13 Online Shopping Charade	単語テスト 8 E-Commerce Boom 映画 1 3	Unit 13 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	12	テスト Unit13 Online Shopping Charade	単語テスト 9 On line Shopong and Social Networks 映画 1 4	テスト勉強 Unit 13 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	13	Unit14 Internet Advertising Charade	単語テスト 10 Cyberspace Sales 映画 1 5	Unit 14 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	14	Unit14 Internet Advertising Charade	単語テスト 11 Japan connected to Advertising 映画 1 6 まとめレポート 4	Unit 14 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。
	15	テスト 復習	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (2 時間) 授業でやった後以外の表現も丁寧に読み込むこと。

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか
			出版社名
			三修社

	2	Charade	Kenzo Soneda 他	開文社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語小テスト 33% 授業中テスト 54% 授業に対する積極的な姿勢 13% ※欠席4回未満、総合点60点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思うので頑張りましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室（木曜日午前中）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時（木曜日午前中）に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。 授業概要： テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	・リスニングやリーディングを基本としながらも、ロールプレイなども取り入れて学習していきます。 ・テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方と評価についての説明 (対面)	教科書を購入し、一読しておく。 次の授業で扱うチャプター1でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	2	Unit1: Where are you from?	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター2でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	3	Unit2: This is my first time studying abroad.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター3でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	4	Unit3: May I have your name, please?	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター4でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	5	Unit4: We will be arriving in New York in 15 minutes.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター5でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	6	Unit5: To the station, please.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター6でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	7	Unit6: Your attention, please.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター7でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	8	Unit7: What's today's special?	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター8でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	9	Unit8: I'll go there again.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター9でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	10	Unit9: Can I try these shoes on?	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター10でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	11	Unit10: welcome to Barrod's Department Store.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター11でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	12	Unit11: Have a nice stay.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター12でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	13	Unit12: We look forward to serving you.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター13でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	14	Unit13: May I take pictures there?	リスニング リーディング	チャプター1～13の復習をする (1時間)

			ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	
	15	まとめ(復習)のテスト 総括	これまで学んできた授業内容について 復習テストをする。 (Microsoft Teams)	これまで学んできた授業内容について総復習する。 (1時間)
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Listen Up! For Better Active Communication --20 の場面で学ぶ実践リスニング--	Kyoko Arai 他	鶴見書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加 30% 小テスト、作文課題 40% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	本クラスでは前期で学んだ旅行の諸場面に関する背景知識を前提に、会話リスニングに重きを置きながら学びを深めていきます。発音やアクセントによる微妙なニュアンスの違いを聞き分け、場面に応じてとっさに適切な受け答えができるようになることを目指して頑張ってください。			
担当者の 研究室等	質問等は非常勤講師室(木曜昼休みのみ入室)にて対応する。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit8: Asking Permission	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、 リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	Unit8 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回の Unit8 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回の Unit9 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回の Unit10 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回の Unit11 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回の Unit12 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit13 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit14 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit15 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Go Global	Garry Pearson 他
			出版社名
			成美堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% 報告レポート 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ150時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対 応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェリア クネグアイツ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から観光ホスピタリティに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	世界の様々な国で起きている、自然、動物と人間との関わりストーリーを通して、環境問題、グローバリズムについて考え映像を見ることによってリスニングスキルを身につけると共に、ストーリーのイメージを掴みます。また、写真とともに地図や図表も使用し、内容を多角的に読み取ることができるようになる。「観光ホスピタリティ」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	リスニングやリーディングを基本としながら、ライティングも交えながら演習形式で授業を進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction. Getting reacquainted. Course overview.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	2	Where would you take a foreign visitor?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	3	Culture and street food.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	4	School Lunches.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	5	School Lunches part 2.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	6	International Aid.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	7	JICA.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	8	Environmental Issues.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	9	The trouble with trash.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	10	The problem with plastic	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	11	Art as a means of creating awareness and promoting change.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	12	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	13	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	14	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class
	15	Review Test.		

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Materials will be provided.		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（課題の出来具合や積極的な姿勢） 10% Weekly tasks, 50% Presentation 20% Final Test 20%				
学生への メッセージ	To get the most out of this course, please be prepared to give your opinion, and listen with respect to other peoples ideals.				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問等については出講時に非常勤講師室にて対応する。授業の進度は、上記の表を目安としますが、開講後のクラスの状況を見て、必要があれば調整します。				

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。
到達目標	グローバルな視点から国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 様々な組織や人々の国際的な貢献を紹介します。様々な資料や情報に基づき議論やプレゼンテーションを行います。
授業方法と留意点	The course will introduce organisations and people international contribution. There will be a great deal of reading discussion, as well as students giving presentations. Asking questions and participating in discussion is encouraged.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction. Getting reacquainted. Course overview.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	2	Buddies for international students. Where would you take a foreign visitor?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	3	Types of volunteer work.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	4	International Aid. Why should rich countries help poor countries?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	5	JICA.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	6	A JICA case study.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	7	Donating use clothing. Is it a good thing?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	8	Environmental Issues. Alan Walker. Greta Thunberg.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	9	Do Greta Thunberg, Mari Copeny and Lesein Mutunkei represent the future?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	10	Art as a means of creating awareness and promoting change. Vik Muniz and H. A. Schult.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	11	Mago Nagasaka. Presentation Outlines.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	12	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	13	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	14	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	15	Review. Feedback. Resolving Issues. Looking to the future.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle for Materials. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
関連科目	リーディング II a, b など			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Materials will be provided.		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（課題の出来具合や積極的な姿勢） 20% Weekly tasks, 60% Presentation 20%			
学生への メッセージ	Please be prepared to discuss issues and listen to the opinions of others. Completing weekly tasks and your presentation on time is important. Most of the weekly tasks will be reflection reports, which you are only eligible to do if you attended that clas			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7号館 2階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問等については出講時に非常勤講師室にて対応する。授業の進捗は、上記の表を目安としますが、開講後のクラスの状況を見て、必要があれば調整します。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ペル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit8: Asking Permission	授業の進め方や評価方法の説明、 リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	Unit8 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回の Unit8 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回の Unit9 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回の Unit10 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回の Unit11 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回の Unit12 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit13 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit14 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit15 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Go Global	Garry Pearson 他
	2		成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物 30% 授業への取り組みの評価 20 % 報告レポート 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「外国語専門職」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit8: Asking Permission	授業の進め方や評価方法の説明、 リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	Unit8 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回の Unit8 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回の Unit9 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回の Unit10 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回の Unit11 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回の Unit12 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit13 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit14 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit15 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Go Global	Garry Pearson 他
	2		成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物 20% 授業への取り組みの評価 30% 報告レポート 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応 する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロンクン
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Status.	How the role of status and identify play a role in the decisions and cultural responses	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Technology.	The role of tech and data driven systems play a role in society.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Space Race	The role of global systems and its affect on the individual	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Music and culture	Music reflected in culture	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Living arrangements	Reflecting on housing and its role in society	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Economics	The role of economics in society and employment	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Amazon	How the worlds largest companies have changed the face of society	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Podcasts	A review of how and where we get our information	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Education and upbringing	Reflections on the different ways various societies look at education and upbringing.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Pandemics	How pandemics have shaped society.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Fine Art.	How Fine Art has reflected society.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 History	Ways and why's of how history is recorded and debated.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	カウボーイ、インディアン、パイオニア：西部開拓時代の文学とドラマ Cowboys, indians and pioneers: the literature and drama of the wild west
到達目標	アメリカ西部の開拓の歴史を学び、テーマに関するディスカッションで知識を深め、英語の表現力を身に着ける。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Columbus and the Horses (1492)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Manifest Destiny (19th century)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	The Leatherstocking Tales	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	The First Dime Novel (1860)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Wild Bill (1867)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	The Gunfight at the OK Corral (1881)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Buffalo Bill's Wild West Show (1883)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	The Virginian (1902)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	The Great Train Robbery (1903)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	Henry Writes The Caballero's Way (1907)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Broncho Billy (1909)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	The Covered Wagon (1923)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Cimarron Wins Best Picture (1931)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Honoring Native Americans (1950s)	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Student Presentations	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 (プレゼンテーション) 15%, Class attitude 40% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Portfolio writing assignments 35%, Staying in the En
-----------	---

学生へのメッセージ	Study hard, speak English and have fun!
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	英語の文献・映像資料などを通じて、異文化について学ぶ。この授業では、インドをテーマに、新聞や統計資料、小説や旅行記など多様な文献を読解し、またテレビ番組や映画、インターネット上の映像からも情報を得る。ポピュラーカルチャーから論文まで、多種多様な英語に触れることになるだろう。異文化への理解と同時に自分たちの文化を見つめ直し、国際人としての意識を高めてほしい。
到達目標	さまざまな話題を扱う英語に親しむ。異文化を理解し、それに対する自らの意見をまとめ、発信する方法を身につける。
授業方法と留意点	1つのテーマにつき3週にわたって学ぶ。おおまかな枠組みとしては、1週目に教員から基本的な情報を提供し、それを参考に受講生は各自で英文テキストを予習する。2,3週目の授業で内容を確認し、意見発表や交換のための時間をもつ。積極的な参加を期待します。
科目学習の効果 (資格)	さまざまな種類の英文に親しむ。幅広い視点と異文化への理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスおよび言語 (1)	授業の進め方、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。言語に関する基本情報。	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	2	言語 (2)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	3	言語 (3)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	4	食生活 (1)	文化・食生活に関する基本情報。	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	5	食生活 (2)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	6	食生活 (3)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	7	IT エリートと教育 (1)	教育に関する基本情報。	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	8	IT エリートと教育 (2)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	9	IT エリートと教育 (3)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	10	恋愛と結婚 (1)	結婚に関する基本情報。	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	11	恋愛と結婚 (2)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	12	恋愛と結婚 (3)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	13	今日のインド (1)	急速な都市化や経済発展、そして新型コロナウイルスによる影響など今日のインドに関する情報。	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	14	今日のインド (2)	文献の内容確認と討論	テキストの予習 (読解)、授業で習った重要な英語表現を復習する。
	15	まとめのテスト	授業中に扱った話題をもとに、英語文献の読解テストを行う。	授業で習った文化事象と英語表現を復習する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コピーを配布します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席は毎回とり、4 回以上欠席した場合は原則として単位を認定しない。授業態度 (英語文献の予習、内容に関する発表、討論における積極性など) 70%、まとめのテスト 30%。
学生へのメッセージ	この授業の目標は、必ずしもインドに詳しくなることだけではありません。私たちと異なる世界を知り、視野を広げ、そして差異を認め、尊重する姿勢を学んでほしいと思います。ぜひ楽しみながら、英文を読みましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の3つである。 (1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) 異文化理解
到達目標	(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分で考えを整理しそれを英語で表現できる。 (3) 他国の文化を知りその論理と背景を理解することで、日本の文化を相対化し客観的に把握することができる。
授業方法と留意点	(1) 各 Unit に対する予習 (関連知識の事前学習、本文の大意把握、単語の把握) をしてくることが求められる。 (2) 辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	(1) 4技能の向上。 (2) TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (60 分)
	2	Unit1 Canada: Natural Beauty Abounds	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	3	Unit1 Canada: Natural Beauty Abounds	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	4	Unit2 Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	5	Unit2 Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	6	Unit3 Germany: Leaders in Protecting Our Environment	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	7	Unit3 Germany: Leaders in Protecting Our Environment	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	8	中間のまとめと理解度確認テスト	Unit1-3 の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120 分)
	9	Unit4 Turkey: Finish Up Your Coffee	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	10	Unit4 Turkey: Finish Up Your Coffee	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	11	Unit5 Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	12	Unit5 Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	13	Unit6 Israel: A Land of Tradition and Technology	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (120 分)
	14	Unit6 Israel: A Land of Tradition and Technology	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (120 分)
	15	期末のまとめと理解度確認テスト	Unit4-6 の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120 分)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Guess What? -Intercultural Surprises-	Natsuki Matsui, Yasuhiro Iida, Naoko Kaneda, Ken Wing Poon, Hitoshi Yokoyama	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題, 提出物 30% 中間の理解度確認テスト 35% 期末の理解度確認テスト 35%
学生への メッセージ	1) 予習・復習は欠かさず行って下さい。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少変更する可能性があります。
担当者の 研究室等	7号館 5階 森研究室
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ15時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) フィードバックは基本的に翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロソクン
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡa など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Startup Level 3	Ken Beatty	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席は必ずすること。3 週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備 (単語・文法の使い方) も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。 評価割合は「授業前準備 2 0 %、授業態度 3 0 %、スピーキングクイズやテスト 5 0 %」とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	ナショナルジオグラフィックと TED Talks からさまざまなトピックについて、最新のコンテンツを「聞き」内容を理解し(Listening)、その内容を要約し、自分の意見を加えて「話す」こと (Speaking)、またトピックに関するエッセイを「読み」内容を理解し(Reading)、自分の意見を英語でまとめながら書き(Writing)、4 技能を高めることを目的とする。
到達目標	さまざまなトピックに関連する映像を視聴し、写真を見ながら、斬新なアイデアに触れ、自らも発信する表現方法を身に付ける。
授業方法と留意点	ICT を活用し、音声・映像を活用した演習を通して 4 技能の力を高めます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介しながら、さまざまな英語学習方法を試します。Online 教材も備えたテキストですので、積極的に Activity に取り組んで下さい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション	授業運営について 成績・評価方法などの説明 テキストの構成説明 My World English Online の説明	事前学習：シラバスの内容を読んでくこと (1 時間) 事後学習：Unit1 の予習を行うこと。新出単語は辞書で確認してくこと (1 時間)
	2	Unit 1 Food for Life	A: Contrast General and Current Actions (Vocabulary & Grammar 演習) B: Describe Regional Foods: (Listening & Communication 演習)	事前学習:Unit1A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	3	Unit 1 Food for Life	C: Describe Favorite Dishes (Conversation ペアワーク) D: Discuss Diet Trends (Reading 演習)	事前学習:Unit1C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	4	Unit 1 Food for Life Video Journal	E: Give Details to Support Your Ideas (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit1E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	5	Unit 2 Express Yourself	A: Talk about Yourself Actions (Vocabulary & Grammar 演習) B: Make Small Talk with New People(Listening & Communication 演習)	事前学習：Unit2 A/B 内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	6	Unit 2 Express Yourself	C: Start a Conversation (Conversation ペアワーク) D: Discuss Endangered Languages (Reading 演習)	事前学習:Unit2C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	7	Unit 2 Express Yourself Video Journal	E: Endangered Languages (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit2 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	8	Unit 3 Cities	A: Make Prediction about Your City(Vocabulary & Grammar 演習) B: Explain What makes a good neighborhood (Listening & Communication 演習)	事前学習:Unit3A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	9	Unit 3 Cities	C: Discuss the Pros and Cons of City Life (Conversation ペアワーク) D: Streets for People (Reading 演習)	事前学習：Unit 3 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	10	Unit 3 Cities Video Journal	E: Explain What Makes a Good City (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit 3 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	11	Unit 4 The Body	A: Discuss Ways to Stay Healthy (Vocabulary & Grammar 演習) B: Talk about Healthy Lifestyles (Listening & Communication 演習)	事前学習：Unit 4 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	12	Unit 4 The Body	C: Suggest Helpful Natural Remedies (Conversation ペアワーク) D: Attitude Is Everything(Reading 演習)	事前学習：Unit 4 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	13	Unit 4 The Body Video Journal	E: Explain an Idea Using Details (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit 4 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	14	TED Talks に関するディスカッション	TED Talks を視聴し、ディスカッションを行う	事前学習：指定する TED Talks を前もって視聴すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	15	Review Test	既習内容の到達度確認問題	事前学習：これまでの既習内容を総復習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)

関連科目	トピックスタディーズⅡa		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	World English 2A Third Edition (ISBN:978-0-357-13031-5)	Kristen L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase
			出版社名
			National Geographic Learning

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Review Test 30% 提出課題、クラスでの貢献度や発表 50% My World English Online 進捗度 20%			
学生への メッセージ	ICT を積極的に活用したさまざまな英語学習法を授業内で紹介して行きます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介して行きますので、是非試してみてください。自分にあった学習法が見つければ、自然と英語学習時間が増え、自信につながります。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の3つである。 (1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) 「グローバル化」についての考察
到達目標	(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分で考えを整理しそれを英語で表現できる。 (3) 「グローバル化」について自分なりの考えを表現できる。
授業方法と留意点	(1) 各 Unit に対する予習 (関連知識の事前学習、本文の大意把握、単語の把握) をしてくることが求められる。 (2) 辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	(1) 4技能の向上。 (2) TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (60 分)
	2	Unit1 Globalization and the Global Society	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	3	Unit1 Globalization and the Global Society	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	4	Unit2 How Do You Define a Global Citizen?	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	5	Unit2 How Do You Define a Global Citizen?	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	6	Unit3 You Can Become a Global Citizen	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	7	Unit3 You Can Become a Global Citizen	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	8	中間のまとめと理解度確認 テスト	Unit1-3 の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120 分)
	9	Unit4 Saying “Yes” or “No” Clearly	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	10	Unit4 Saying “Yes” or “No” Clearly	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	11	Unit5 Start Conversations with a Nice Compliment	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	12	Unit5 Start Conversations with a Nice Compliment	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	13	Unit6 Why Can't People Read the Atmosphere?	①Case Study ②Key Vocabulary ③Reading ④Comprehension	授業の予習・復習 (120 分)
	14	Unit6 Why Can't People Read the Atmosphere?	⑤Writing Practice ⑥Noteworthy Expressions ⑦Listening Practice ⑧Sharing Your Ideas	授業の予習・復習 (120 分)
	15	期末のまとめと理解度確認 テスト	Unit4-6 の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120 分)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Surviving in a Global World	Junji Nakagawa, Justin Charlebois
			出版社名
			成美堂

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題, 提出物 30% 中間の理解度確認テスト 35% 期末の理解度確認テスト 35%			
学生への メッセージ	1) 予習・復習は欠かさず行って下さい。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少変更する可能性があります。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 森研究室			
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ15時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) フィードバックは基本的に翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。			

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Great Writing 2 (5th Edition)	Keith S. Folse	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	随時配布		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 % ※詳しい内容は初回授業で説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	どのようにして英作文を書けばいいのか？より良いエッセイにするためには？など、ライティングに必要なスキルとプロセスを楽しんでいきましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低 1 度は読む習慣をつけて下さい。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1: Paragraphs	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	---

学生へのメッセージ	We will focus on paragraph writing, and we will discuss the ideas that you write about. Be ready to express your ideas on the topics that we discuss in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	利バー ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You'll have a lot of opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas!
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials. If you have any questions, come see me anytime.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1: Paragraphs	Cynthia A. Boardman	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	け
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	This course will help you express yourself in English. You will have lots of opportunities to improve your speaking and writing skills.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1: Paragraphs	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	ライティングだけでなくスピーキングのトレーニングを行う授業、またネイティブスピーカーの先生が担当されることも多い授業ですので、できるだけ英語で授業をしたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室でのアポイントにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Great Writing 2 (5th Edition)	Keith S. Folse	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	随時配布		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 % ※詳しい内容は初回授業で説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	前期で学んだライティングスキルをより向上させ、説得力のあるエッセイが書けるように楽しみながら学習していきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Online session for orientation	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	8	これまで学んだスキルについて復習する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	9	統一性 (Unity) について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	10	一貫性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	11	結束性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	14	英語のプレゼンテーション (発表会 1/2)	Online oral presentations (1/2)	Online oral presentations
	15	英語のプレゼンテーション (発表会 2/2)	Online oral presentations (2/2)	Online oral presentations

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Online session for orientation	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	8	これまで学んだスキルについて復習する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	9	統一性 (Unity) について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	10	一貫性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	11	結束性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	14	英語のプレゼンテーション (発表会 1/2)	Online oral presentations (1/2)	Online oral presentations
	15	英語のプレゼンテーション (発表会 2/2)	Online oral presentations (2/2)	Online oral presentations

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1: Paragraphs	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You will have many opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーに対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	利ハ・ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講時間内の課題提出 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	--

学生へのメッセージ	You will have many opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate: Paragraphs	Cynthia A. Boardman	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	---

学生へのメッセージ	If you have any questions, come see me anytime. There is no textbook for this class. Setsunan added the textbook by mistake after I deleted it. If you have the textbook, please return it to the school bookstore for a refund.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	け
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 1	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講時間内の課題提出 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	You will have many opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas.
担当者の研究室等	You will have many opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 1 5 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ディアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちよつと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills</td><td>Donald J. Sobol</td><td>英宝社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	授業や課題について質問がある学生は、学籍番号、名前、クラス名、受講曜日を必ず記入し下記のアドレスに連絡して下さい。 richardpdiasinosaka@yahoo.com 授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちよっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 3</td><td>Paul Nation, Casey Mararcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちよっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2	Timed Reading for Fluency 3	Paul Nation, Casey Mararcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちよっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 3	Paul Nation, Casey Mararcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題提出 40%、課題評価 40%で行う。																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ペル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題レポート 80%																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサントロ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>英和辞典・和英辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英和辞典・和英辞典			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英和辞典・和英辞典																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。使用言語:英語・日本語の併用。授業で使用する主な言語は英語です。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ディアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。 *授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	非常勤講師室 email: richardpdiasinosaka@yahoo.com Please write your name, student number, class name, day and period at the top of your email.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。今学期は1-6週をオンライン授業、7週以降は対面授業へ変更する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入(速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく(1時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>美容の最新事情</td><td>美容について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宇宙開発</td><td>宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>海外における教育の現状</td><td>海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地球規模の環境問題</td><td>地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ネット中毒と治療</td><td>ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>問題解決を担う天才の育成</td><td>問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ(テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言葉の変化と語彙の増加</td><td>言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>機械化とその弊害</td><td>機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>旅の意義</td><td>旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の親としての役割</td><td>現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>児童を取り巻く問題</td><td>児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の囚人事情</td><td>世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括(まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)	8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)	15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)																																																																
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)																																																																
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢa など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちよっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 3</td><td>Paul Nation, Casey Mararcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちよっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2	Timed Reading for Fluency 3	Paul Nation, Casey Mararcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちよっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 3	Paul Nation, Casey Mararcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 教員評価 80% (小テスト30%、まとめテスト50%)で全体の評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ペル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>美容の最新事情</td><td>美容について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宇宙開発</td><td>宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>海外における教育の現状</td><td>海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地球規模の環境問題</td><td>地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ネット中毒と治療</td><td>ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>問題解決を担う天才の育成</td><td>問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言葉の変化と語彙の増加</td><td>言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>機械化とその弊害</td><td>機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>旅の意義</td><td>旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の親としての役割</td><td>現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>児童を取り巻く問題</td><td>児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の囚人事情</td><td>世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢa など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題レポート 80% (授業内で、課題・小テスト・後期末試験を実施)																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スタンジュ アレサントロ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。使用言語:英語・日本語の併用。授業で使用する主な言語は英語です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	最新技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文 20% 宿題、提出物等 80%
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	今、世界では何が起こっているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。 英語を学ぶだけでなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。 The Current English course and text will help you navigate your way through a world where definitions and usage of language are dependent on knowing how to cop
担当者の	非常勤講師室 7 号館 2 階

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2022: English through Newspapers	Yasuhiko Wakaari	Seibido Publishing
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 50% 作文課題 20% Assignments, practice and study will be flexible, according to
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェリア クネググイッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	送信される英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括テスト	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	世界で今何が起きているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	最新技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文 20% 宿題、提出物等 80%
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。環境や科学技術といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	今、世界では何が起こっているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。英語を学ぶだけではなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2022: English through Newspapers	Yasuhiko Wakaari	Seibido Publishing
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability, 作文課題 80% Assignments, practice, study are flexible, due to whether lessons are 'online' or 'face-to-face' classes. Please consult the teacher.
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェリア クネグイッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括テスト	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	世界で今何が起こっているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。環境や科学技術といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2022	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャープ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7oDP8◎		
科目ナンバリング	LDL3051c0		

授業概要・目的	グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。E メールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際キャリアコース 4 年次の学生を対象とし、ビジネスに関する英語を聞いたり読んだりして、その情報や考えなどを理解することができるようになること、そして、ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことと書くことができるようになることを目標およびテーマとする。
授業方法と留意点	The course will focus on these three main areas: 1. Profiles and histories of notable companies (classwork) 2. Effective communication (practice in class) 3. Current issues in business (homework and class discussion)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Overview of the schedule Discussion of course contents, homework, and assessment	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	2	Company profile 1	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	3	Communication practice 1	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	4	Company profile 2	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	5	Communication practice 2	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	6	Company profile 3	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	7	Communication practice 3	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	8	Test 1	Assessment: Company profiles 1~3 Communication practice 1~3	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	9	Presentation 1	Prepared presentations are shared in groups	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	10	Company profile 4	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	11	Communication practice 4	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	12	Company profile 5	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	13	Communication practice 5	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	14	Test 2	Assessment: Company profiles 4~5 Communication practice 4~5	事前に教科書の重要な語句や構文について調べながら問題を解くとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	15	Presentation 2	Prepared presentations are shared in groups	これまでに学習した内容の要点や重要な表現などを整理する (1 時間)。

関連科目	リーディング IIIa, IIIb など
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
	2	Outstanding Monozukuri Companies in Japan/知られざる日本の「ものづくり」企業の世界	井上 治 吉野成美 Paul Leeming Justin Harris	松柏社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	Tests (2): 40% Extensive listening homework (5): 25% Presentations (2): 20% Participation: 15%			
学生への メッセージ	Students who have an interest in developing their business communication skills in addition to learning the history of notable companies will be motivated to do well in this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	- The total number of hours for pre- and post-study is about 15 hours. - Feedback is given in class and using online tools after the completion of tests, presentations, and homework.			

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャープ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7oDP8◎		
科目ナンバリング	LDL3052c0		

授業概要・目的	グローバルにビジネスを展開している企業の業務において想定される取引先との商談および交渉のスキルを習得するために、意見交換、条件提示、譲歩・妥結、合意・契約など様々な場面・状況の英語表現について実践的に学習する。さらに、聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うため、特定の場面や状況を設定したロールプレイ方式の演習や、実例に基づいた英文契約書を読み、自ら書いてみる練習なども取り入れて総合的に学んでいく。
到達目標	この科目は、主として国際キャリアコース 4 年次の学生を対象とし、ビジネスにおける商談や交渉において想定される英語表現を学び、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことと書くことができるようになること、そして英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	The course will focus on these three main areas: 1. Profiles and histories of notable companies (classwork) 2. Effective communication (practice in class) 3. Current issues in business (homework and class discussion)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Overview of the schedule Discussion of course contents	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	2	Company profile 6	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	3	Communication practice 6	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	4	Company profile 7	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	5	Communication practice 7	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	6	Company profile 8	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	7	Communication practice 8	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	8	Test 1	Assessment: Company profiles 6~8 Communication practice 6~8	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	9	Presentation 1	Prepared presentations are shared in groups	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	10	Company profile 9	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	11	Communication practice 9	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	12	Company profile 10	Vocabulary, listening, and/or focus: one unit focusing on a successful manufacturing company is covered	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	13	Communication practice 10	Speaking focus: students practice 2~3 performance areas related to professional communication	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	14	Test 2	Assessment: Company profiles 9~10 Communication practice 9~10	事前に教材の重要な語句や構文について調べるとともに、事後に授業で学んだ重要な表現を暗記・暗唱する (1 時間)。
	15	Presentation 2	Prepared presentations are shared in groups	これまでに学習した内容の要点や重要な表現などを整理する (1 時間)。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
	2	Outstanding Monozukuri Companies in Japan/知られざる日本の「ものづくり」企業の世界	井上 治 吉野成美 Paul Leeming Justin Harris	松柏社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	Tests (2): 40% Extensive listening homework (5): 25% Presentations (2): 20% Participation: 15%			
学生への メッセージ	Students who have an interest in developing their business communication skills in addition to learning the history of notable companies will be motivated to do well in this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	- The total number of hours for pre- and post-study is about 15 hours. - Feedback is given in class and using online tools after the completion of tests, presentations, and homework.			

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。 「中国語を聞く I a」では、主に「読む」と「聞く」に重点を置き、中国語による文章表現力の基礎を身につけます。中国語を読んで適切に理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えることを学びます。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。課題やレポートに対するフィードバックはできるだけ詳細な講評を加えたい教室で行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音編 第 1 課～第 3 課 動詞述語文 形容詞述語 過去の表現	自習：p6～p34 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	第 4 課～第 5 課 名詞述語文 量詞 疑問詞疑問文	自習：p38～p46 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 6 課～第 7 課 前置詞 文末助詞 反復疑問文	自習：p50～p58 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	第 8 課～第 9 課 連動文 助動詞	自習：p62～p70 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 9 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	第 10 課～第 11 課 完了表現 比較 選択疑問文	自習：p74～p82 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	第 12 課～第 13 課 省略疑問文 程度の表現 意志・勧誘表現	自習：p86～p94 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 14 課～第 15 課 お金の言い方 許可を表す助動詞 主述述語文	自習：p98～p106 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	第 16 課～第 17 課 進行を表す副詞 二重目的語	自習：p110～p118 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	第 10 課～第 17 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	第 18 課～第 19 課 方向補語 様態補語 結果補語	自習：p122～p130 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 20 課～第 21 課 疑問詞＋都 可能補語	自習：p134～p142 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	第 22 課～第 23 課 存現文 受け身文 使役文	自習：p146～p154 の音声聞いて発音すること； 各課ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	第 24 課 持続を表す表現	自習：p158～p160 の音声聞いて発音すること； ポイントの訳してみよう。	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 18 課～第 24 課	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楊凱榮・張麗群	中国語で伝えよう！	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度と課題：40% 単元テスト：60%			
学生への メッセージ	努力すればきっと報われる。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることできる。			

科目名	中国語を読むⅠ a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1055e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解くⅠ」で奇数課、「表現するⅠ」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話するⅠ」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 発音編 1	声調／単母音／複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	2	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音／またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	3	第五課 どうぞよろしく	人称代名詞／挨拶ことば／“是”／“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	4	第七課 ご出身は	指示代名詞「こそあど」／“的”／“都”と“也”／動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	5	第九課 おいくつ	数詞／年齢の言い方／量詞／“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	6	復習 (1)	第五課, 第七課, 第九課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	7	復習 (2) と単元テスト	第一課, 第三課, 第五課, 第七課, 第九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
	8	第十一課 家庭訪問	助動詞の“要”／主述述語文／比較の言い方／前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	9	第十三課 道案内	“怎麼”／前置詞の“離”“从”“往”／“得” (助動詞)／動詞の“在”／動詞のあとの“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	10	第十五課 食事の前は	時刻の言い方／時間量の言い方／禁止表現“別”／“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	11	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”／前置詞の“在”／“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	12	第十七課 カニの季節 (2)	可能補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”／進行の表し方／“是…的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	14	第十九課 おみやげ (2)	“讓”rang 使役文／“～着”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	15	復習と単元テスト	第十一課, 第十三課, 第十五課, 第十七課, 第十九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1057e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一～二課 発音の復習	1p14～15 の発音練習、2 p 20～21 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	2	第三～四課 発音の復習	1p26～27 の発音練習、2 p 32～33 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	3	第五～六課 会話練習・課題発表	どうぞよろしく、p 42～43 (国名、紹介)／お名前は、p 48～49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	4	第七課 会話練習・課題発表	ご出身は、p54～55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	5	第八～九課 会話練習・課題発表	飲み物は、p 60～61 (喫茶店の飲み物と食べ物)／おいくつ、p 66～67 (親族の言い方・数え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	6	第十課 会話練習・課題発表	和食はいかが、p 72～73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	7	復習 (1) と単元テスト 1	第六課、第七課、第九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
	8	第十一～十二課 会話練習・課題発表	家庭訪問、p 78～78 (形容表現その 2)／買い物、p 84～85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	9	第十三～十四課 会話練習・課題発表	道案内、p 90～91 (乗り物と駅前の建物)／中秋節、p 96～97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	10	第十五～十六課 会話練習・課題発表	食事の前は、p 102～103 (一日の日程)／手作り料理、p 108～109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	11	第十七課 会話練習・課題発表	カニの季節、p 114～115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	12	第十八課 会話練習・課題発表	スキー場で、p 120～121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	13	第十九課 会話練習・課題発表	おみやげ、p126～127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	14	第二十課 会話練習・課題発表	空港まで、p 132～133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	15	復習 (2) と単元テスト 2	第十七課、第十八課、第十九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	愈研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定リスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第二課 発音編 2	声母表／無気音と有気音／そり舌音／消える o と e／同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	2	第四課 発音編 4	第 3 声＋第 3 声→第 2 声＋第 3 声／不の声調変化／一の声調変化／轻声／声調の組み合わせ／隔音マーク／r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	3	第六課 お名前は	姓名の言い方／“ne”／呼びかけのことは／“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	4	第八課 飲み物は	疑問詞／助動詞の“想”／反復疑問文／“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	5	第十課 和食はいかが	“過”guo／“請”qing／“還是”haishi／形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	6	復習 (1)	第六課, 第八課, 第十課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	7	復習 (2) と単元テスト	第二課, 第四課, 第六課, 第八課, 第十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
	8	第十二課 買い物	助動詞“可以”／動詞の重ね型／方向補語／連動文／お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	9	第十四課 中秋節	年月日・曜日の言い方／“快～了”／“了” (文末の了)／前置詞の“跟”／“一边～一边～”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	10	第十六課 手作り料理	助動詞の“会”／結果補語／“不”と“没”／方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	11	第十八課 スキー場で (1)	様態補語と程度補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	12	第十八課 スキー場で (2)	前置詞の“用”／“一下”／二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文／“被”構文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	14	第二十課 空港まで (2)	存現文／“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
	15	復習と単元テスト	第十二課, 第十四課, 第十六課, 第十八課, 第二十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1061e0		

授業概要・目的	今まで学んだ知識を土台に、より発展した文法事項や会話表現の習得を目指す。一定分量の文章を読むことにより読解力、語彙力、書く力、表現力など総合的な中国語能力を向上させよう。言語と文化は切り離すことができない。文化は言語の基礎、言語は文化の現れと普通に言えると思う。この授業で中国語と中国文化両方を修得し、一石二鳥の目的を達成してほしいと思う。また、ビジネス関連の内容も授業で取り上げる。																																																																		
到達目標	コミュニケーションの相手と実際にやり取りすることが目標である。中国語検定試験 4 級レベルに達する。																																																																		
授業方法と留意点	1. 演習形式で授業を行いながら、他の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、課題の発表を通して既習項目を定着させ応用能力を高める。 2. 授業で学んだ内容についてテストを行うほか、手書き原稿を Teams など ICT ツールに提出することを求め、またその評価をフィードバックする。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験 4 級の受験が可能。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>授業の進め方、第 1 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>2</td><td>第 2 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>3</td><td>第 3 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>4</td><td>第 4 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>5</td><td>第 5 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>6</td><td>第 6 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>7</td><td>復習、中間テスト (第 1 課～第 6 課)</td><td>第 1 課から第 6 課までの内容を復習する。</td><td>テストを準備、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>8</td><td>第 7 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>9</td><td>第 8 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>10</td><td>第 9 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>11</td><td>第 10 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>12</td><td>第 11 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>13</td><td>第 12 課</td><td>単語、本文、文法、練習問題</td><td>授業の内容と復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr><td>14</td><td>復習、まとめ</td><td>第 7 課から第 12 課までの内容を復習する。</td><td>復習とテストを準備する。</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表会</td><td>発表内容のチェック</td><td>発表内容を準備する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、第 1 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	2	第 2 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	3	第 3 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	4	第 4 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	5	第 5 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	6	第 6 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	7	復習、中間テスト (第 1 課～第 6 課)	第 1 課から第 6 課までの内容を復習する。	テストを準備、次の内容を予習する。	8	第 7 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	9	第 8 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	10	第 9 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	11	第 10 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	12	第 11 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	13	第 12 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。	14	復習、まとめ	第 7 課から第 12 課までの内容を復習する。	復習とテストを準備する。	15	発表会	発表内容のチェック	発表内容を準備する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、第 1 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第 2 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第 3 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第 4 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
5	第 5 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第 6 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
7	復習、中間テスト (第 1 課～第 6 課)	第 1 課から第 6 課までの内容を復習する。	テストを準備、次の内容を予習する。																																																																
8	第 7 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第 8 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第 9 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第 10 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第 11 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第 12 課	単語、本文、文法、練習問題	授業の内容と復習、次の内容を予習する。																																																																
14	復習、まとめ	第 7 課から第 12 課までの内容を復習する。	復習とテストを準備する。																																																																
15	発表会	発表内容のチェック	発表内容を準備する。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>そうだったん！中国 慧眼看中国</td><td>李 軼倫</td><td>金星堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	そうだったん！中国 慧眼看中国	李 軼倫	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	そうだったん！中国 慧眼看中国	李 軼倫	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	中間テスト：20% 期末テスト：40% 発表と課題：40%																																																																		
学生へのメッセージ	目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 6 割以上を正解することできるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 1 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 1 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (1)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 2 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 2 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (2)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 3 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 3 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (3)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 4 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 4 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (4)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 6 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 6 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (5)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。
----	---

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 6 割以上を正解することできるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 1 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 1 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (1)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 2 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 2 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (2)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 3 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 3 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (3)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 4 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 4 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (4)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 6 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 6 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (5)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊟, DP8㊟		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級または 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 7 割以上を正解するリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級または 2 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 7 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 7 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (6)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 8 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 8 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (7)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 9 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 9 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (8)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 11 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 11 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (9)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 12 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 12 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (10)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級または 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 7 割以上を正解するリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級または 2 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 7 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 7 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (6)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 8 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 8 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (7)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 9 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 9 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (8)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 11 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 11 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (9)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 12 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 12 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (10)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。
----	---

科目名	中国語を読むⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2067e0		

授業概要・目的	1 年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練し、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語検定試験 3 級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で 6 割以上を正解することのできる読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行い、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級レベルの中国語の読解力を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業方法のガイダンス、1 年生の文法の復習	1 年生の文法を復習する。
	2	第 1 課 過“洋節”	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	3	第 1 課 過“洋節”	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	4	第 2 課 直率	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	5	第 2 課 直率	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	6	第 3 課 軍訓	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	7	第 3 課 軍訓	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	8	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 1 回単元テスト	第 1～3 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
	9	第 4 課 餐厅	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	10	第 4 課 餐厅	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	11	第 5 課 媽媽和儿子	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	12	第 5 課 媽媽和儿子	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	13	第 6 課 陪床	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	14	第 6 課 陪床	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	15	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 2 回単元テスト	第 4～6 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」「メディア中国語 a」「観光中国語 a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための現代中国 12 話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：60% 単元テスト：40%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してください。事前・事後に各 1 時間の学習を要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	単元テスト授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。
----	--

科目名	中国語を読むⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2068e0		

授業概要・目的	1 年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練し、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語検定試験 3 級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で 6～7 割以上を正解することのできる読解力を身につける。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級レベルの中国語の読解力を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業方法のガイダンス、前期の文法の復習	前期の文法を復習する。
	2	第 7 課 簽證	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	3	第 7 課 簽證	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	4	第 8 課 待遇	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	5	第 8 課 待遇	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	6	第 9 課 北京的天空	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	7	第 9 課 北京的天空	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	8	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 1 回単元テスト	第 7～9 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
	9	第 10 課 男朋友	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	10	第 10 課 男朋友	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	11	第 11 課 没想到	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	12	第 11 課 没想到	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	13	第 12 課 貝多芬和样板戲	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	14	第 12 課 貝多芬和样板戲	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	15	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 2 回単元テスト	第 10～12 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」「メディア中国語 b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための現代中国 12 話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：30% 単元テスト：70%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してください。事前・事後に各 1 時間の学習を要します。
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を書くⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2069e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中級文法で、語順体系をもとに約35課300例文を習得する。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。			
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得することができる。			
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。試験や課題に対して次回授業で必ずフィードバックを行う。			
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級受験可能。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教科書のコンセプトの紹介	一、文の構造と語順 ①単文の語順習得ポイント ②複文の語順習得ポイント 二、日本語から中国語への変換するトレーニングについて 三、前期の目標	p6～p36を読んでおくこと。
	2	中級の基本文型を覚える①	(1)「述語＋目的語」のバリエーション ・1～3 離合詞	p38～43の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp196を学習すること。
	3	中級の基本文型を覚える②	(2) 述語のバリエーション① ・4～5 様態補語 ・6～7 程度補語	p44～51の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp197を学習すること。
	4	中級の基本文型を覚える③	述語のバリエーション② ・8～9 可能補語 ・10 形容詞の重ね型	p52～57の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp198を学習すること。
	5	*復習と単元テスト1 中級の基本文型を覚える④	・単元テスト1 (3)「述語＋目的語」のバリエーション 11 存在文 ・12 現象文 ・13「是・・・的」構文	第1回～4回までの例文を復習すること。 p58～63の録音を聞いて例文を覚えること。
	6	中級の基本文型を覚える⑤	(4) 動詞の修飾 ・14 受け身文 ・15～16「把」構文	p64～69の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp199を学習すること。
	7	中級の基本文型を覚える⑥	動詞の修飾 ・17～18「把」構文 ・19「～地」の連用修飾表現	p70～75の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp200を学習すること。
	8	補語のバリエーションを覚える①	(5) 述語のバリエーション① ・20～22 結果補語	p78～83の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp201を学習すること。
	9	補語のバリエーションを覚える②	述語のバリエーション② ・23～25 方向補語の派生用法	p84～89の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp202を学習すること。
	10	*復習と単元テスト2 補語のバリエーションを覚える③	・単元テスト2 述語のバリエーション③ ・26～27 方向補語の派生用法	第5回～9回までの例文を復習すること。 p90～93の録音を聞いて例文を覚えること。
	11	補語のバリエーションを覚える④	(6)「述語＋目的語」のバリエーション① ・28～29 方向補語の派生用法	p94～97の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp203を学習すること。
	12	補語のバリエーションを覚える⑤	「述語＋目的語」のバリエーション② ・30～31 方向補語の派生用法	p98～101の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp204を学習すること。
	13	補語のバリエーションを覚える⑥	「述語＋目的語」のバリエーション③ ・32～33 方向補語の派生用法	p102～105の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp205を学習すること。
	14	補語のバリエーションを覚える⑦	「述語＋目的語」のバリエーション④ ・34～35 方向補語の派生用法	p106～109の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp206を学習すること。
	15	*復習と単元テスト3	・単元テスト3 ・p207～p216 のフレーズトレーニングの学習	第10回～14回までの例文を復習すること。トレーニングのp207～p216を復習すること。
関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 初級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題提出 50%、単元テスト 50%			
学生へのメッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。			
担当者の	事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
	7号館3階(兪研究室)			

研究室等	
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員にメールで問い合わせること。

科目名	中国語を書くⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2070e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、後期も、中級文法で、語順体系をもとに約 40 課 3 0 0 例文を習得する。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。試験や課題に対して次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	補語のバリエーションを覚える	・後期の目標 (7) 複文表現① ・36～38「就」の呼応表現	p112～117 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p217 を学習すること。
	2	副詞を用いた文を覚える①	(7) 複文表現② ・39「就」の呼応表現 ・40「也」の呼応表現 ・41「都」「也」の呼応表現	p118～123 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p218 を学習すること。
	3	副詞を用いた文を覚える②	複文表現③ ・42～44「都」「也」の呼応表現	p124～129 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p219 を学習すること。
	4	副詞を用いた文を覚える③	複文表現④ ・45「都」「也」の呼応表現 ・46「才」の呼応表現 ・47「就」の表現	p130～135 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p220 を学習すること。
	5	*復習と単元テスト 1 副詞を用いた文を覚える⑤	・単元テスト 1 複文表現⑤ ・48「也」の表現 ・49「就」と「才」の表現	第 1 回～4 回までの例文を復習すること。 p136～139 の録音を聞いて例文を覚えること。
	6	中国語特有の慣用表現①	(8) 慣用表現① ・50～52「除了・・・」「先・・・再・・・」「一边・・・」	p142～147 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p221 を学習すること。
	7	中国語特有の慣用表現②	慣用表現② ・53～55「或者・・・」「一会・・・」「不然・・・」	p148～153 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p222 を学習すること。
	8	中国語特有の慣用表現③	慣用表現③ ・56～58「有・・・」「与其・・・」「越・・・」	p154～159 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p223 を学習すること。
	9	中国語特有の慣用表現④	慣用表現④ ・59～61「只能・・・」「不但・・・」「雖然・・・」	p160～165 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p224 を学習すること。
	10	*復習と単元テスト 2 中国語特有の慣用表現⑤	・単元テスト 2 慣用表現⑤ ・62～64「不是・・・」「又・・・」「因為・・・」	第 5 回～9 回までの例文を復習すること。 p166～171 の録音を聞いて例文を覚えること。
	11	中国語特有の慣用表現⑥	慣用表現⑥ ・65～67「対・・・來說・・・」「・・・是・・・, 但・・・」「好像・・・」	p172～177 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p225 を学習すること。
	12	中国語特有の慣用表現⑦	慣用表現⑦ ・68～70「有点・・・」「非・・・不可」「非得・・・」	p178～183 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p226 を学習すること。
	13	中国語特有の慣用表現⑧	慣用表現⑧ ・71～73「難怪・・・」「一則・・・」「難道・・・」	p184～189 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p227 を学習すること。
	14	中国語特有の慣用表現⑨	慣用表現⑨ ・74～75「要・・・」「寧可・・・也・・・」	p190～193 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p228 を学習すること。
	15	*復習と単元テスト 3	・単元テスト 3 ・p229～p233 のフレーズトレーニングの学習	第 10 回～14 回までの例文を復習すること。トレーニングの p229～p233 を復習すること。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 上級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 50%、単元テスト 50%
学生への	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。

メッセージ	事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 はじめての授業①	・前置詞「從」 ・文型「…是…的」 ・表現「看上去」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p9 - p10) を解答してくること。第 1 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくること。第 1 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17 - p18) を解答してくること。第 2 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくること。第 2 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 1 ～ 2 課の復習 ☆ 単元テスト 1	第 1 ～ 2 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…就…」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25 - p26) を解答してくること。第 3 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくること。第 3 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33 - p34) を解答してくること。第 4 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくること。第 4 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 3 ～ 4 課の復習 ☆ 単元テスト 2	第 3 ～ 4 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41 - p42) を解答してくること。第 5 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくること。第 5 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49 - p50) を解答してくること。第 6 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくること。第 6 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 5 ～ 6 課の復習 ☆ 単元テスト 3	第 5 ～ 6 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「メディア中国語 a」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷葵	駿河台出版社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。			

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 はじめての授業①	・前置詞「從」 ・文型「...是...的」 ・表現「看上去」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p9?p10) を解答してくる。第 1 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第 1 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第 2 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第 2 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 1～2 課の復習 ・単元テスト 1	第 1～2 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果...就...」 ・文型「一...就...」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第 3 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第 3 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越...」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第 4 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第 4 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 3～4 課の復習 ・単元テスト 2	第 3～4 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第 5 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第 5 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第 6 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第 6 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習	・第 5～6 課の復習 ・単元テスト 3	第 5～6 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。			

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	読む、書く、文法応用練習などで、文法を習得する。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 「中国語を話すⅡ b」Lクラスの担当者は樂玉璽先生。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 自由市場で果物を買う①	・文型「又・・・又・・・」 ・表現「・・・点」 ・助動詞「能」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p57～p58) を解答してくる。第 7 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59～p61) を解答してくる。第 7 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65～p66) を解答してくる。第 8 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67～p69) を解答してくる。第 8 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 7～8 課の復習 テスト	第 7～8 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一辺・・・一辺・・・」 ・文型「A 跟 (和) B 一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73～p74) を解答してくる。第 9 課の話 (前半) を覚えること。
	7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75～p77) を解答してくる。第 9 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「・・・」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81～p82) を解答してくる。第 10 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83～p85) を解答してくる。第 10 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 9～10 課の復習 テスト	第 9～10 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89～p90) を解答してくる。第 11 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91～p93) を解答してくる。第 11 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「・・・」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97～p98) を解答してくる。第 12 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99～p101) を解答してくる。第 12 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 11～12 課の復習 テスト	第 11～12 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く II b」「メディア中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷葵	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出：50% テスト：50%
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 自由市場で果物を買う①	・文型「又・・・又・・・」 ・表現「・・・点」 ・助動詞「能」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p57 - p58) を解答してくること。第 7 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59 - p61) を解答してくること。第 7 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65 - p66) を解答してくること。第 8 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67 - p69) を解答してくること。第 8 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 7～8 課の復習 ☆ 単元テスト 1	第 7～8 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一辺・・・一辺・・・」 ・文型「A 跟 (和) B 一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73 - p74) を解答してくること。第 9 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75 - p77) を解答してくること。第 9 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81 - p82) を解答してくること。第 10 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83 - p85) を解答してくること。第 10 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 9～10 課の復習 ☆ 単元テスト 2	第 9～10 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89 - p90) を解答してくること。第 11 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答してくること。第 11 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「?」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97 - p98) を解答してくること。第 12 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99 - p101) を解答してくること。第 12 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 11～12 課の復習 ☆ 単元テスト 3	第 11～12 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目	「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・課題： 50% テスト： 50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることできる。			

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2073e0		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成することができる。検定 3 級レベルから 2 級レベルに焦点を合わせた授業によりこれらの級を取得することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各 60 分の学修を要する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 対面授業 状況によりオンラインによる双方向授業を実施。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定 3 級合格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	入学 1	基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	2	入学 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	3	入学 まとめ 祝日手当 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	4	祝日手当 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	5	祝日手当 まとめ お母さん 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	6	お母さん 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	7	まとめ 先払い 1	単元テスト 第 1～6 回 まとめ 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	8	先払い 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	9	先払い まとめ 贈り物 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	10	贈り物 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	11	贈り物 まとめ 地方出身者 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	12	地方出身者 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	13	地方出身者 まとめ 三種の神器 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	14	三種の神器 2	会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	15	まとめ	単元テスト 第 7～14 回まとめ	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための現代中国 12 話Ⅲ	杉野元子・黄漢青	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	チェックテスト、単元テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 (教科書を購入しない者には単位が認定できない) 授業への参加度とチェックテスト: 40% 単元テスト: 60%
学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 倉) を通じて問い合わせることもできる。

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2074e0		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。																																																																		
到達目標	中国語の総合力を養うことで、検定 3 級から 2 級合格する力をつけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定 3 級～2 級合格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>宅配員 1</td><td>基礎知識の演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>2</td><td>宅配員 2</td><td>文章読解 ・ 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>4</td><td>結婚相手を探す 2</td><td>文章読解・基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>5</td><td>結婚相手を探す 復習 会食 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>6</td><td>会食 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>7</td><td>復習 証人 1</td><td>単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>8</td><td>証人 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>9</td><td>証人 復習 家を借りる 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>10</td><td>家を借りる 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>11</td><td>家を借りる 復習 新聞購読 1</td><td>チェックテスト 文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>12</td><td>新聞購読 2</td><td>文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>13</td><td>新聞購読 復習 新聞購読 3</td><td>チェックテスト 文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>14</td><td>新聞購読 4</td><td>文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>15</td><td>復習</td><td>単元テスト 第 7～14 回 復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	宅配員 1	基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	2	宅配員 2	文章読解 ・ 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	3	宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	4	結婚相手を探す 2	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	5	結婚相手を探す 復習 会食 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	6	会食 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	7	復習 証人 1	単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	8	証人 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	9	証人 復習 家を借りる 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	10	家を借りる 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	11	家を借りる 復習 新聞購読 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	12	新聞購読 2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	13	新聞購読 復習 新聞購読 3	チェックテスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	14	新聞購読 4	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	15	復習	単元テスト 第 7～14 回 復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	宅配員 1	基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
2	宅配員 2	文章読解 ・ 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
3	宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
4	結婚相手を探す 2	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
5	結婚相手を探す 復習 会食 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
6	会食 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
7	復習 証人 1	単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
8	証人 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
9	証人 復習 家を借りる 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
10	家を借りる 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
11	家を借りる 復習 新聞購読 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
12	新聞購読 2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
13	新聞購読 復習 新聞購読 3	チェックテスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
14	新聞購読 4	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
15	復習	単元テスト 第 7～14 回 復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生のための現代中国 1 2 話 III</td><td>杉野元子・黄漢青</td><td>白帝社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生のための現代中国 1 2 話 III	杉野元子・黄漢青	白帝社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生のための現代中国 1 2 話 III	杉野元子・黄漢青	白帝社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	チェックテストおよび単元テスト、授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表、平常評価 : 40% 単元テスト : 60%																																																																		
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	講師控室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	観光中国語 a	科目名 (英文)	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2075e0		

授業概要・目的	近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付けることができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課</td><td>LOVE！上海 1 の復習課</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 1 課 虹橋空港にて</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 2 課 地下鉄に乗って</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 3 課 上海の交通は便利です</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 4 課 2 週間上海にいます</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 5 課 豫園でショッピング</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>復習 1、総合練習、小テスト</td><td>第 5 課までの内容を復習する</td><td>第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 6 課 道を尋ねる</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 7 課 オールドジャズバンド</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 8 課 ジャズバーで飲みながら</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 9 課 上海人の友達の家で</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 10 課 朝食後は何をする？</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 11 課 市場にて</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習 2、総合練習、小テスト</td><td>第 6 課から第 11 課までの内容を復習する</td><td>第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表会</td><td>発表の内容をチェックする</td><td>発表の内容を暗唱する (2 時間)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	2	第 1 課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	3	第 2 課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	4	第 3 課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	5	第 4 課 2 週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	6	第 5 課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	7	復習 1、総合練習、小テスト	第 5 課までの内容を復習する	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。	8	第 6 課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	9	第 7 課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	10	第 8 課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	11	第 9 課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	12	第 10 課 朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	13	第 11 課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	14	復習 2、総合練習、小テスト	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
2	第 1 課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
3	第 2 課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
4	第 3 課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
5	第 4 課 2 週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
6	第 5 課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
7	復習 1、総合練習、小テスト	第 5 課までの内容を復習する	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。																																																																
8	第 6 課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
9	第 7 課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
10	第 8 課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
11	第 9 課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
12	第 10 課 朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
13	第 11 課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
14	復習 2、総合練習、小テスト	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>LOVE！上海 2 初級～中級編</td><td>楊凱榮・張麗群</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE！上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE！上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：30% テスト：70%																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前・事後に各 60 分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	観光中国語 b	科目名 (英文)	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2076e0		

授業概要・目的	近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付けることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	2	第 13 課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	3	第 14 課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	4	第 15 課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	5	復習 3、小テスト	第 12 課から第 15 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。
	6	第 16 課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	7	第 17 課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	8	第 18 課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	9	第 19 課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	10	復習 4、小テスト	第 16 課から第 19 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。
	11	第 20 課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	12	第 21 課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	13	第 22 課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。
	14	復習 5、小テスト、作文を書く	第 20 課から第 22 課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2 時間)。
	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LOVE！上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢 ((課題) などを総合して評価する。 授業への参加度と発表 : 40% 単元テスト : 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	貿易中国語 a	科目名 (英文)	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3077e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。																																																																		
到達目標	ビジネス中国語の文法への理解およびビジネス文書の読解力を養うことができる。 ビジネス中国語の用語、文法を学習するとともに、ビジネス中国語のコミュニケーション能力を高めることができる。 中国語検定 2 級に必要な語彙力、外国語でのコミュニケーション力を高めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級や通訳案内士試験の受験。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 2 課 レストランに食事に行く</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 3 課 銀行にて</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 4 課 商談をする</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 5 課 宴会のセッティングをする</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 6 課 有給休暇をとる</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 7 課 フライトを待つ</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習、中間テスト</td><td>第 1 課から第 7 課までの内容を復習する</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 8 課 アフターサービス</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 9 課 コンテナ輸送</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 10 課 待遇</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 11 課 病院にて</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 12 課 国際入札</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 13 課 財務</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ、発表会</td><td>第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする</td><td>発表の内容を準備する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	2	第 2 課 レストランに食事に行く	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	3	第 3 課 銀行にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	4	第 4 課 商談をする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	5	第 5 課 宴会のセッティングをする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	6	第 6 課 有給休暇をとる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	7	第 7 課 フライトを待つ	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	8	復習、中間テスト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する	9	第 8 課 アフターサービス	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	10	第 9 課 コンテナ輸送	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	11	第 10 課 待遇	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	12	第 11 課 病院にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	13	第 12 課 国際入札	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	14	第 13 課 財務	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	15	まとめ、発表会	第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
2	第 2 課 レストランに食事に行く	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
3	第 3 課 銀行にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
4	第 4 課 商談をする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
5	第 5 課 宴会のセッティングをする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
6	第 6 課 有給休暇をとる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
7	第 7 課 フライトを待つ	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
8	復習、中間テスト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
9	第 8 課 アフターサービス	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
10	第 9 課 コンテナ輸送	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
11	第 10 課 待遇	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
12	第 11 課 病院にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
13	第 12 課 国際入札	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
14	第 13 課 財務	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
15	まとめ、発表会	第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する																																																																
関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>やさしいビジネス中国語</td><td>三瀧正道・金子伸一</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしいビジネス中国語	三瀧正道・金子伸一	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしいビジネス中国語	三瀧正道・金子伸一	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>DVD で学ぶライブビジネス中国語</td><td>LiveABC</td><td>東方書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>みんなの接客中国語</td><td>広瀬直子・顧蘭亭</td><td>アルク</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店	2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店																																																																
2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テストと課題：60%																																																																		
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。																																																																		

科目名	貿易中国語 b	科目名 (英文)	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3078e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。																																																																		
到達目標	ビジネス中国語の文法への理解およびビジネス文章の読解力を養うことができる。 ビジネス中国語の用語、文法を学習するとともに、ビジネス中国語のコミュニケーション能力を高めることができる。 中国語検定 2 級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。 単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級や通訳案内士試験の受験。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 2 課 銀行サービスのご案内</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 3 課 不動産産業</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 4 課 会社概要</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 5 課 パソコンの新製品</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 6 課 取締役会の議事録</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 7 課 生産部門</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト</td><td>第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 9 課 物流業界</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課 投資方法の紹介</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課 経営管理の課題</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 12 課 環境/再生利用</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 13 課 労働契約の締結</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 14 課 アフターサービスの方針</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 15 課 経理と財務まとめ</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する</td><td>授業の内容を復習する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	2	第 2 課 銀行サービスのご案内	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	3	第 3 課 不動産産業	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	4	第 4 課 会社概要	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	5	第 5 課 パソコンの新製品	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	6	第 6 課 取締役会の議事録	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	7	第 7 課 生産部門	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	8	復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	9	第 9 課 物流業界	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	10	第 10 課 投資方法の紹介	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	11	第 11 課 経営管理の課題	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	12	第 12 課 環境/再生利用	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	13	第 13 課 労働契約の締結	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	14	第 14 課 アフターサービスの方針	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	15	第 15 課 経理と財務まとめ	単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する	授業の内容を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第 2 課 銀行サービスのご案内	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第 3 課 不動産産業	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第 4 課 会社概要	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	第 5 課 パソコンの新製品	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第 6 課 取締役会の議事録	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	第 7 課 生産部門	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第 9 課 物流業界	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第 10 課 投資方法の紹介	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第 11 課 経営管理の課題	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第 12 課 環境/再生利用	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第 13 課 労働契約の締結	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	第 14 課 アフターサービスの方針	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
15	第 15 課 経理と財務まとめ	単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する	授業の内容を復習する。																																																																
関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>商経学部生のための読む中国語</td><td>大羽りん・趙青</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	商経学部生のための読む中国語	大羽りん・趙青	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	商経学部生のための読む中国語	大羽りん・趙青	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>DVD で学ぶライブビジネス中国語</td><td>LiveABC</td><td>東方書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>みんなの接客中国語</td><td>広瀬直子・顧蘭亭</td><td>アルク</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店	2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店																																																																
2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%																																																																		
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。																																																																		

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。 課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ディズニーランドの人気の理由	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	犬を飼うとはどういうことか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	引越しとふるさと	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	8	パラダイム転換	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	適切な経済状態	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	10	超二流をめざせ	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	他人を信じられますか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	正しく歩くには何が必要か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	身近なハイテク	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の 研究室等	7 号館 3 階
備考	読み上げ音声の課題提出を求めることがある。

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。 課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ディズニーランドの人気の理由	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	犬を飼うとはどういうことか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	引越しとふるさと	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	8	パラダイム転換	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	適切な経済状態	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	10	超二流をめざせ	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	他人を信じられますか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	正しく歩くには何が必要か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	身近なハイテク	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	読み上げ音声の課題提出を求めることがある。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礒 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。流暢に話せるのを旨とする。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 繰り返し学習活動が特に求められる。 課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出世のゴール	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	不使用の自由はないのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	スポーツと経済の関係	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	友達の定義	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	変わらない理由	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	8	日本の技術力をどう利用するか	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。 共同プレゼン会の準備をする。
	10	共同プレゼン会	1、共同プレゼンテーション。	共同プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	11	若い友人の結婚	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	宝塚「ブスの 25 か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	やる気をもって自ら困難を克服しよう	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	自己肯定	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題発表 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
------	-------------------

研究室等	
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。流暢に話せるのを旨とする。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 繰り返し学習活動が特に求められる。 課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出世のゴール	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	不使用の自由はないのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	スポーツと経済の関係	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	友達の定義	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	変わらない理由	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	8	日本の技術力をどう利用するか	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。 共同プレゼン会の準備をする。
	10	共同プレゼン会	1、共同プレゼンテーション。	共同プレゼン会の準備をする。 与えられた課題に取り組む。
	11	若い友人の結婚	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	宝塚「ブスの 25 か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	やる気をもって自ら困難を克服しよう	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	自己肯定	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。与えられた課題に取り組む。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋読 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題発表 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の	兪研究室 (7 号館 3 階)

研究室等	
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3081d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 1 課から第 2 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第三課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第三課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第四課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第四課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 3 課から第 4 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第五課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第五課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第六課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第六課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	15	おさらい *単元テスト③	第 5 課から第 6 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、倉) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語コミュニケーション b	科目名 (英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3082d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第七課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第八課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第八課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第九課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第九課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第十課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第十課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第十一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第十一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第十二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第十二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	15	おさらい *単元テスト③	第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・会話 40% テスト : 60%
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、倉) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	スペイン語基礎 A	科目名 (英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1086e0		

授業概要・目的	「スペイン語基礎 A」、「同 B」、「同 C」は同じ教科書をベースとして使い、リレー形式でスペイン語文法を学ぶ。必ず、「基礎 A、B、C」を併せて受講すること。プリントを使つての練習問題の数をこなしながら、理解、暗記につなげる。 「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、しばしば単語テストを課す。 「スペイン語入門」で学んだことを今一度、確認し、しっかり身につける。 過去時制、完了時制、未来時制などさまざまな時制の用法を理解する。 過去分詞、現在分詞、不定詞の使い方を理解する。 各時制の動詞活用をしっかりと身につける。 「基礎 A」、「基礎 B」、「基礎 C」の全てを併せて履修すること。 プリントを多用するので、それをまとめるファイルを用意すること。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 辞書の使用を含めて、外国語の学習方法が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期範囲の復習 (1)</td><td>ser, estar, hay</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期範囲の復習 (2)</td><td>一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>前期範囲の復習 (3)</td><td>名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>前期範囲の復習 (4)</td><td>目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>前期範囲の総復習</td><td>第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 10 課</td><td>再帰動詞、無人称表現</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 11 課</td><td>不定詞、現在分詞、過去分詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 12 課</td><td>現在完了 不定語、否定語</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 14 課</td><td>点過去</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 16 課</td><td>線過去 線過去と点過去の使い分け</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 16、17 課</td><td>関係詞 過去完了</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 17、18 課</td><td>未来形、過去未来形など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>既習内容の確認、応用など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間	2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間	5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間	7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間	8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間	9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間	10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間	12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間	13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間	14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
関連科目	スペイン語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>去年の教科書を使う</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	去年の教科書を使う			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	去年の教科書を使う																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	スペイン語基礎 A、B、C を総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 3 度の理解度確認テスト (60%)、単語テスト (20%)、課題など提出物 (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	外国語を身につけるにはまず暗記です。1 度や 2 度、覚えたつもりでは記憶に定着しません。何度も覚え、何度も忘れ、また覚えることが必要です。一度にたくさん覚えることを覚えようとしても無理です。繰り返し、繰り返し、助走を長くすると、その結果も長く残るものです。できるだけ長い時間、その言葉に触れる、耳、口、目、手などを色々な手段を通してその言葉に触れることです。楽しんで語学を身につけるようになれば、しめたものです。																																																																		
担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		

科目名	スペイン語基礎B	科目名 (英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1087e0		

授業概要・目的	「スペイン語基礎 A」、「同 B」、「同 C」は同じ教科書をベースとして使い、リレー形式でスペイン語文法を学ぶ。必ず、「基礎 A、B、C」を併せて受講すること。プリントを使つての練習問題の数をこなしながら、理解、暗記につなげる。 「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、しばしば単語テストを課す。 「スペイン語入門」で学んだことを今一度、確認し、しっかり身につける。 過去時制、完了時制、未来時制などさまざまな時制の用法を理解する。 過去分詞、現在分詞、不定詞の使い方を理解する。 各時制の動詞活用をしっかりと身につける。 「基礎 A」、「基礎 B」、「基礎 C」の全てを併せて履修すること。 プリントを多用するので、それをまとめるファイルを用意すること。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 辞書の使用を含めて、外国語の学習方法が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期範囲の復習 (1)</td><td>ser, estar, hay</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期範囲の復習 (2)</td><td>一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>前期範囲の復習 (3)</td><td>名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>前期範囲の復習 (4)</td><td>目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>前期範囲の総復習</td><td>第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 10 課</td><td>再帰動詞、無人称表現</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 11 課</td><td>不定詞、現在分詞、過去分詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 12 課</td><td>現在完了 不定語、否定語</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 14 課</td><td>点過去</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 16 課</td><td>線過去 線過去と点過去の使い分け</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 16、17 課</td><td>関係詞 過去完了</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 17、18 課</td><td>未来形、過去未来形など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>既習内容の確認、応用など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間	2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間	5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間	7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間	8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間	9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間	10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間	12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間	13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間	14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
関連科目	スペイン語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>去年の教科書を使う</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	去年の教科書を使う			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	去年の教科書を使う																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	スペイン語基礎 A、B、C を総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 3 度の理解度確認テスト (60%)、単語テスト (20%)、課題など提出物 (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	外国語を身につけるにはまず暗記です。1 度や 2 度、覚えたつもりでは記憶に定着しません。何度も覚え、何度も忘れ、また覚えることが必要です。一度にたくさん覚えることを覚えようとしても無理です。繰り返し、繰り返し、助走を長くすると、その結果も長く残るものです。できるだけ長い時間、その言葉に触れる、耳、口、目、手などを色々な手段を通してその言葉に触れることです。楽しんで語学を身につけるようになれば、しめたものです。																																																																		
担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		

科目名	スペイン語基礎C	科目名 (英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1088e0		

授業概要・目的	「スペイン語基礎 A」、「同 B」、「同 C」は同じ教科書をベースとして使い、リレー形式でスペイン語文法を学ぶ。必ず、「基礎 A、B、C」を併せて受講すること。プリントを使つての練習問題の数をこなしながら、理解、暗記につなげる。 「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、しばしば単語テストを課す。 「スペイン語入門」で学んだことを今一度、確認し、しっかり身につける。 過去時制、完了時制、未来時制などさまざまな時制の用法を理解する。 過去分詞、現在分詞、不定詞の使い方を理解する。 各時制の動詞活用をしっかりと身につける。 「基礎 A」、「基礎 B」、「基礎 C」の全てを併せて履修すること。 プリントを多用するので、それをまとめるファイルを用意すること。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 辞書の使用を含めて、外国語の学習方法が身につく。																																																																		
授業方法と留意点																																																																			
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期範囲の復習 (1)</td><td>ser, estar, hay</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期範囲の復習 (2)</td><td>一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>3</td><td>前期範囲の復習 (3)</td><td>名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>4</td><td>前期範囲の復習 (4)</td><td>目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>5</td><td>前期範囲の総復習</td><td>第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 10 課</td><td>再帰動詞、無人称表現</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 11 課</td><td>不定詞、現在分詞、過去分詞</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 12 課</td><td>現在完了 不定語、否定語</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 14 課</td><td>点過去</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>10</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 16 課</td><td>線過去 線過去と点過去の使い分け</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 16、17 課</td><td>関係詞 過去完了</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 17、18 課</td><td>未来形、過去未来形など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>14</td><td>既習範囲の総復習</td><td>教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>既習内容の確認、応用など</td><td>予習と暗記で 1.5 時間</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間	2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間	4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間	5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間	7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間	8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間	9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間	10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間	12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間	13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間	14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間	15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期範囲の復習 (1)	ser, estar, hay	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
2	前期範囲の復習 (2)	一般動詞 (規則変化動詞、語幹母音変化動詞、 1 人称単数形だけ不規則な動詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
3	前期範囲の復習 (3)	名詞を修飾するもの (冠詞、所有詞、指示詞、形容詞など)	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
4	前期範囲の復習 (4)	目的語と目的格代名詞 gustar 型動詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
5	前期範囲の総復習	第 1 週～第 4 週の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
6	第 10 課	再帰動詞、無人称表現	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
7	第 11 課	不定詞、現在分詞、過去分詞	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
8	第 12 課	現在完了 不定語、否定語	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
9	第 14 課	点過去	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
10	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 14 課 (第 13 課を除く) の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
11	第 16 課	線過去 線過去と点過去の使い分け	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
12	第 16、17 課	関係詞 過去完了	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
13	第 17、18 課	未来形、過去未来形など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
14	既習範囲の総復習	教科書第 10 課～第 18 課の理解度確認テスト	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
15	総括	既習内容の確認、応用など	予習と暗記で 1.5 時間																																																																
関連科目	スペイン語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>去年の教科書を使う</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	去年の教科書を使う			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	去年の教科書を使う																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	スペイン語基礎 A、B、C を総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 3 度の理解度確認テスト (60%)、単語テスト (20%)、課題など提出物 (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	外国語を身につけるにはまず暗記です。1 度や 2 度、覚えたつもりでは記憶に定着しません。何度も覚え、何度も忘れ、また覚えることが必要です。一度にたくさん覚えることを覚えようとしても無理です。繰り返し、繰り返し、助走を長くすると、その結果も長く残るものです。できるだけ長い時間、その言葉に触れる、耳、口、目、手などを色々な手段を通してその言葉に触れることです。楽しんで語学を身につけるようになれば、しめたものです。																																																																		
担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1092e0		

授業概要・目的	初修外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけなくてはならない。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し活かしながら、スペイン語文の読解と練習問題に取り組むことで理解を深めることを目指す。
到達目標	練習問題とスペイン語で書かれた文章を通して、文法の基礎を理解しながら読解の力をつける。 できるだけ多くの文章を読むことで、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布されるスペイン語圏の歴史・文化についての読み物からスペイン語の読解に親しむ。
授業方法と留意点	・すでに学んだ文法事項を再確認しながら課題に取り組むことで、その定着を図る。 ・正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。疑問を持ち、考え、質問することが求められる。
科目学習の効果（資格）	文法項目の確認とアウトプットの練習。読解力がつき、要点を把握できるようになる。 スペイン語検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期学習内容の復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞を中心に練習問題および文章読解	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	第 10 課 再帰動詞	再帰動詞、無人称文、感嘆文	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第 10 課、第 11 課 再帰動詞、感嘆文、過去分詞	基数 101-1,000,000、序数、過去分詞	予習と復習 (Lectura 10) 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第 11 課 直説法現在完了	Lectura 10 の確認、直説法現在完了、現在分詞	予習と復習 (Lectura 11) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	5	第 10・11 課の学習内容に関する確認テストと復習	Lectura 11 の確認、再帰動詞の用法、直説法現在完了、過去分詞・現在分詞を中心に確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	6	第 12 課 直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞）、不定語と否定語、比較表現	予習と復習 (Lectura 12) 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第 13 課 直説法点過去（不規則動詞）	Lectura 12 の確認、直説法点過去の活用と用法を文章を読みながら理解する。	予習と復習 (Lectura 13) 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第 14 課 直説法線過去	Lectura 13 の確認、再帰動詞の点過去、受身表現、直説法線過去	予習と復習 (Lectura 14) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	9	点過去と線過去の使い分け	Lectura 14 の確認、直説法点過去か線過去かを判断し使い分け、正しく活用する練習をまとまりある文章の中で学ぶ。	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	10	第 12～14 課の学習内容に関する確認テストと復習	直説法点過去と線過去の使い分けについての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第 15 課 直説法未来、過去未来	直説法未来、過去未来の活用と用法、関係詞の説明（補足教材）	予習と復習 (Lectura 15) 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第 16 課 命令文	Lectura 15 の確認、5 通りの相手に対する命令文（肯定命令と否定命令）、接続法現在	予習と復習 (Lectura 16) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	13	第 16 課までの学習内容に関する確認テスト、総復習	Lectura 16 の確認、直説法未来、未来完了、命令文についての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	難解な事項の質疑応答 前期学習内容全般の理解度確認テスト	再帰動詞、過去分詞・現在分詞、現在完了、点過去、線過去、未来、過去未来、命令文の重点的復習、理解度確認テストの実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
	15	理解度確認テストの解説	理解度確認テストの返却と解答解説、前期に学習した内容の包括的解説、質疑応答	復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語基礎 A、B、C、スペイン語オラルⅡ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版—ベーシック・スペイン語—	青砥清一ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社

	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験（小テストと期末の試験） 70%、授業時間内の応答・予復習及び課題の内容 30%			
学生への メッセージ	初修外国語に早く親しむには毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 わからないことがあれば、いつでも質問してもらいたい。理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	・事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。			

科目名	スペイン語総合A	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2093e0		

授業概要・目的	・1 年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1 年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひととおり理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い、知識の定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。自習の中で疑問点を把握し、授業で確認することを習慣づける。
授業方法と留意点	教材の配布や課題の提出にはWebFolderを用いることがある。 文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する（配布物の管理をきちんと行うこと）。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 年次での学修内容の復習 (1) 第 1～2 課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第 13 課までを参照するとよい。
	2	1 年次での学修内容の復習 (2) 第 2～3 課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第 10 課から 15 課を参照するとよい。
	3	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法 (a: 願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第 17 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	4	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	5	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	6	中間試験 1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
	7	接続法現在完了と直説法未来完了 第 5 課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
	8	第 6 課 肯定命令	肯定命令	「入門」・「基礎」の教科書で第 18 課を参照するとよい。
	9	否定命令、直説法過去未来 第 7 課	直説法過去未来の活用と用法 (現在の事実に対する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	10	中間試験 2	第 5～7 課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	11	接続法過去、比較表現 第 8 課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	12	第 8 課 直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第 9 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	13	第 9 課 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第 10 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	14	第 10 課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	臨時試験（中間テスト・小テストを含む） 80%、受講のための取り組み（課題を含む） 20%			
学生への メッセージ	毎回必ず予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、配布物の有無を WebFolder 上で確認すること（課題提出に必要）。 予習段階で疑問点をまとめ、授業内で確認（質問）できるようにしておくとい。			
担当者の 研究室等	安達研究室			
備考	1 年次の教科書を引き続き併用し、ドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。 事前・事後学習の総時間数の目安は 15 時間。			

科目名	スペイン語総合B	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2094e0		

授業概要・目的	・1 年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1 年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひととおり理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い、知識の定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。自習の中で疑問点を把握し、授業で確認することを習慣づける。
授業方法と留意点	教材の配布や課題の提出にはWebFolderを用いることがある。 文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する（配布物の管理をきちんと行うこと）。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 年次での学修内容の復習 (1) 第 1～2 課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第 13 課までを参照するとよい。
	2	1 年次での学修内容の復習 (2) 第 2～3 課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第 10 課から 15 課を参照するとよい。
	3	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法 (a: 願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第 17 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	4	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	5	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	6	中間試験 1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
	7	接続法現在完了と直説法未来完了 第 5 課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
	8	第 6 課 肯定命令	肯定命令	「入門」・「基礎」の教科書で第 18 課を参照するとよい。
	9	否定命令、直説法過去未来 第 7 課	直説法過去未来の活用と用法 (現在の事実に対する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	10	中間試験 2	第 5～7 課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	11	接続法過去、比較表現 第 8 課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	12	第 8 課 直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第 9 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	13	第 9 課 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第 10 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	14	第 10 課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の大枠を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	臨時試験（中間テスト・小テストを含む） 80%、受講のための取り組み（課題を含む） 20%			
学生への メッセージ	毎回必ず予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、配布物の有無を WebFolder 上で確認すること（課題提出に必要）。 予習段階で疑問点をまとめ、授業内で確認（質問）できるようにしておくとい。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（7号館2階）			
備考	1年次の教科書を引き続き併用し、ドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。 事前・事後学習の総時間数の目安は15時間。			

科目名	スペイン語トピックス	科目名 (英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2095e0		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVD などの視覚教材を用いて、スペイン語圏をめぐる様々なテーマについての理解を深める。																																																																		
到達目標	スペイン語の読解力と語彙力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	・授業スケジュール及び内容は一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 ・授業で扱ったテーマを掘り下げた発表やレポートを課す（テーマなどは授業内に指示する）。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方や評価基準について</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スペインの文化、歴史（1）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スペインの文化、歴史（2）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スペインの世界遺産（1）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>スペインの世界遺産（2）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>まとめ</td><td>復習（小テストを含む）</td><td>既習事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>イスパノアメリカの地理と郷土文化</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>イスパノアメリカにおける地球規模課題の実践</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>イスパノアメリカの歴史（1）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>イスパノアメリカの歴史（2）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>イスパノアメリカの世界遺産（1）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>イスパノアメリカの世界遺産（2）</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>まとめ</td><td>復習（小テストを含む）</td><td>既習事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表（1）</td><td>履修生による発表（1）</td><td>事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表（2）</td><td>履修生による発表（2）</td><td>事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。	2	スペインの文化、歴史（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	3	スペインの文化、歴史（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	4	スペインの世界遺産（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	5	スペインの世界遺産（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	6	まとめ	復習（小テストを含む）	既習事項の確認、復習	7	イスパノアメリカの地理と郷土文化	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	8	イスパノアメリカにおける地球規模課題の実践	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	9	イスパノアメリカの歴史（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	10	イスパノアメリカの歴史（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	11	イスパノアメリカの世界遺産（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	12	イスパノアメリカの世界遺産（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	13	まとめ	復習（小テストを含む）	既習事項の確認、復習	14	発表（1）	履修生による発表（1）	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。	15	発表（2）	履修生による発表（2）	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。																																																																
2	スペインの文化、歴史（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
3	スペインの文化、歴史（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
4	スペインの世界遺産（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
5	スペインの世界遺産（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
6	まとめ	復習（小テストを含む）	既習事項の確認、復習																																																																
7	イスパノアメリカの地理と郷土文化	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
8	イスパノアメリカにおける地球規模課題の実践	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
9	イスパノアメリカの歴史（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
10	イスパノアメリカの歴史（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
11	イスパノアメリカの世界遺産（1）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
12	イスパノアメリカの世界遺産（2）	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
13	まとめ	復習（小テストを含む）	既習事項の確認、復習																																																																
14	発表（1）	履修生による発表（1）	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。																																																																
15	発表（2）	履修生による発表（2）	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題の取り組み・レポート・発表など 50%、臨時試験（小テスト） 50%																																																																		
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリント必ず熟読し、授業に臨むこと。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。																																																																		

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2096e0		

授業概要・目的	映画・ショートフィルム・ドラマの場面を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。																																																																		
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習得した語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduccion al curso</td><td>授業の概要説明、映画について話すための紹介と語彙。</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Actividades con peliculas (1-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション。</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Actividades con peliculas (1-2)</td><td>見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Actividades con peliculas (1-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Actividades con peliculas (2-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Actividades con peliculas (2-2)</td><td>見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Actividades con peliculas (2-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Actividades con peliculas (3-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Actividades con peliculas (3-2)</td><td>見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Actividades con peliculas (3-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Actividades con peliculas (4-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Actividades con peliculas (4-2)</td><td>見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Actividades con peliculas (4-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduccion al curso	授業の概要説明、映画について話すための紹介と語彙。	授業後に新出単語および表現を覚えること。	2	Actividades con peliculas (1-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション。	授業後に新出単語および表現を覚えること。	3	Actividades con peliculas (1-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。	4	Actividades con peliculas (1-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと	5	Actividades con peliculas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。	6	Actividades con peliculas (2-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	7	Actividades con peliculas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	授業後に新出単語および表現を覚えること。	8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	9	Actividades con peliculas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。	10	Actividades con peliculas (3-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。	11	Actividades con peliculas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	12	Actividades con peliculas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。	13	Actividades con peliculas (4-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。	14	Actividades con peliculas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduccion al curso	授業の概要説明、映画について話すための紹介と語彙。	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
2	Actividades con peliculas (1-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション。	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
3	Actividades con peliculas (1-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
4	Actividades con peliculas (1-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと																																																																
5	Actividades con peliculas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
6	Actividades con peliculas (2-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
7	Actividades con peliculas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
9	Actividades con peliculas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
10	Actividades con peliculas (3-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
11	Actividades con peliculas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
12	Actividades con peliculas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
13	Actividades con peliculas (4-2)	見た作品を自分の言葉で文章と口頭で説明する。	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
14	Actividades con peliculas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題 70%、小テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。																																																																		

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名 (英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2097e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という 3 つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1 年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	1 年次に学習したスペイン語の基礎知識を駆使しながら、スペイン語での簡単な応答練習を繰り返す。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Unidad 1 Un nuevo curso	直接法現在 疑問詞 動詞+不定詞 接続詞と接置詞 点過去 1 規則活用 完結した 命令 1	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Unidad 1 Un nuevo curso	直接法現在 疑問詞 動詞+不定詞 接続詞と接置詞 点過去 1 規則活用 完結した 命令 1	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Unidad 2 Mi familia y mis amigos	線過去 1 点過去 2 規則活用 関係詞	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Unidad 2 Mi familia y mis amigos	線過去 1 点過去 2 規則活用 関係詞 1	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Unidad 3 Mi barrio	線過去 2 点過去 3 不規則活用 頻度表現 線過去と点過去 1 関係詞 2 命令 2	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Unidad 3 Mi barrio	線過去 2 点過去 3 不規則活用 頻度表現 線過去と点過去 1 関係詞 2 命令 2	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Unidad 4 Mi tiempo libre	時を表す表現 1 過去 点過去 4 線過去と点過去 2 現在分詞	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Unidad 4 Mi tiempo libre	時を表す表現 1 過去 点過去 4 線過去と点過去 2 現在分詞	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Unidad 5 Mi ultimo viaje	点過去 5 線過去と点過去 3 命令 3 直接目的語と間接目的語	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Unidad 5 Mi ultimo viaje	点過去 5 線過去と点過去 3 命令 3 直接目的語と間接目的語	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Unidad 6 Alimentacion	現在完了 時を表す表現 2 現在完了 過去完了	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Unidad 6 Alimentacion	現在完了 時を表す表現 2 現在完了 過去完了	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	臨時試験と解説	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy bien! Curso de espanol 2	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、毎週の課題提出状況 (70%)、提出された課題の内容と質 (30%)			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)			
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後には解説を行う。			

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名 (英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2098e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という 3 つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1 年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	スペイン語で聞き取り話すことに慣れるための授業であるため、積極的な発言と質問を行うことが大切である。課題の提出は指定された方法・期限を厳守すること (E-mail で提出し、添削を受信後必ず確認する)。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 5 級～4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習しましょう Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Unidad 7 Cuando termine la universidad, empezare a trabajar	時を表す 3 未来 未来 条件節 1 接続法現在 1 活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Unidad 7 Cuando termine la universidad, empezare a trabajar	時を表す 3 未来 未来 条件節 1 接続法現在 1 活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Unidad 8 Quieres venir a mi casa?	過去未来 命令 4 Que+形容詞 接続法現在 2 活用 接続法現在 3 活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Unidad 8 Quieres venir a mi casa?	過去未来 命令 4 Que+形容詞 接続法現在 2 活用 接続法現在 3 活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Unidad 9 Estudiar en el extranjero	接続法現在 4 命令 5 無人称の se	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Unidad 9 Estudiar en el extranjero	接続法現在 4 命令 5 無人称の se	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Unidad 10 Cambios sociales en España e Hispanoamérica	接続法現在 5 大きな数字 派生語 関係詞 3 直接法と接続法	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Unidad 10 Cambios sociales en España e Hispanoamérica	接続法現在 5 大きな数字 派生語 関係詞 3 直接法と接続法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Unidad 11 Deportes	接続法過去 接続法現在と過去 条件節 2	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Unidad 11 Deportes	接続法過去 接続法現在と過去 条件節 2	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Unidad 12 Terminamos el curso	形容詞と所有詞強形 名詞の補語と不定語 形容詞、動詞、名詞の修飾語 接辞	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Unidad 12 Terminamos el curso	形容詞と所有詞強形 名詞の補語と不定語 形容詞、動詞、名詞の修飾語 接辞	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	臨時試験とスペイン語での発表	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy bien! Curso de español 2	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題 80%、臨時試験（口頭）の成績 20%			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は 15 時間を目安とする。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2099e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和西辞典は必須です。必ず購入しておくこと。辞書は必ず授業に持参すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。 受講生の理解度によっては、授業計画の進捗がずれる可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 文の要素	授業の概要についての説明 主部・述部、句・節、単文・複文・重文、 目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
	2	ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞 と副詞の正確な使い方	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
	3	冠詞、所有制、指示詞、数量 詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、 所有詞、指示詞、数量詞の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
	4	不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
	5	一般動詞と不定詞 天候・気候の表現	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の文 天候・気候を正しく表現する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
	6	gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等 の動詞	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
	7	比較の表現	比較級と最上級	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の準備 (和文)
	8	前半のまとめ	既習項目の復習	既習事項の復習 (配布プリント)
	9	完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の西訳
	10	点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為・出来事を正しく表現 する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿 を作成する
	11	再帰動詞 (1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理と動詞の活用の確認 スピーチ原稿の西訳
	12	再帰動詞 (2)	再帰動詞の相互・転意の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
	13	受身の se を使った文 動詞三人称複数形を使った 表現 ser + 過去分詞	再帰受動文と ser 受動文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
	14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、 同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネー ション、表現力などの指導を行う
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (配布プリント)

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲度 30%、臨時試験 70%			
学生への メッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。 自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師控室			
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2100e0		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。 語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	既習項目の復習	点過去、線過去、現在完了、再帰動詞などの復習	点過去、線過去、現在完了の活用と用法の確認と再帰動詞の用法の確認 語彙の整理
	2	一般の se を使った表現	特定の主語を立てず、一般の se を使った文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	3	未来	未来、推量の文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	4	命令表現（1）	目的格人称代名詞を伴う命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	5	命令表現（2）	再帰動詞の命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	6	接続法現在（1）	名詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	7	接続法現在（2）	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の復習	前半の学習項目の復習 語彙の整理
	9	接続法過去（1）	名詞節での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	10	接続法過去（2）	形容詞節と副詞節及び現在の事実に対する条件文での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	11	スピーチコンテスト	発表	原稿の暗唱 スピーチの練習
	12	過去未来	過去における推量と現在の事実に対する条件文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	13	複合時制	多様な時制の完了形を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	14	関係詞	関係代名詞、関係形容詞、関係副詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	15	後半のまとめ	既習項目の確認	後半の学習項目の復習 語彙の整理

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	練習問題の予習、提出物、スピーチの作成過程などの授業参加意欲 40% 臨時試験 60%
----------	--

学生へのメッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	授業スケジュールや内容は一応の目安であり、理解度や状況によって変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。
----	--

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	・教科書に基づいて、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の書き写しと和訳に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・語彙力の確認のために定期的に単語テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級 (直説法終了まで)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語の文章読解のポイント 第 1 課 ミレニアル世代の若者たち (1)	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明 文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認、発音練習	文の構造を解析する課題の提出、『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える 教科書 1 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	2	第 1 課 ミレニアル世代の若者たち (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 1 課の和訳の再確認、2 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
	3	第 2 課 新党台頭：シウダダノスとボデモス (1)	文法 (gustar と不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト (pp. 56-61)	教科書 2 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
	4	第 2 課 新党台頭：シウダダノスとボデモス (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 2 課の和訳の再確認、3 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
	5	第 3 課 チリと日本の防災協力 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 62-65)	教科書 3 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
	6	第 3 課 チリと日本の防災協力 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 3 課の和訳の再確認、4 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
	7	中間テストと既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力のテストおよびテストの解説	教科書 1～3 課を総復習してテストに備える。テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (1 時間)
	8	第 4 課 スペインの健康保険事情 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 66-71)	教科書 4 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
	9	第 4 課 スペインの健康保険事情 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 4 課の和訳の再確認、5 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
	10	第 5 課 黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 72-77)	教科書 5 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	11	第 5 課 黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 5 課の和訳の再確認、6 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	12	第 6 課 世界タパスデー (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 78-82)	教科書 6 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	13	第 6 課 世界タパスデー (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 6 課の和訳の再確認、7 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	14	第 7 課 スペインにおける家族形態の変化	西文和訳と正誤問題	教科書 7 課の和訳の再確認 (1 時間)
	15	理解度確認テストと既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	教科書 4～7 課を総復習してテストに備える。テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (1 時間)

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースを聞こう！中級スペイン語 (Es noticia)	中島聡子ほか	三修社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳 (1 年次使用のもの)	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。 ・課題提出状況および課題の質 (30%) ・単語テスト (20%) ・中間および理解度確認テスト (50%)
-----------	---

学生へのメッセージ	・2 年次は語学学習において基礎固めができる重要な時期です。大学に慣れて気が緩みがちになりやすいので、集中して取り組むよう意識してください。 ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	各回の事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。 テストは返却時に解答の見直しを行う。
----	--

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度及び一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	・教科書に基づいて、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の内容理解に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・ニュース記事の読解では読解の精度に関してグループディスカッションを取り入れる。 ・『書き込み式 スペイン語単語帳』の Nivel 1～Nivel 3 までの単語の総合テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級～3 級 (3 級の語彙は難易度が高い)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	8 課 臓器移植 (1)	文法 (副詞節と関係詞節での接続法現在) と語彙の確認、音読練習	8 課の文法問題、語彙の意味調べ、記事の本文写しと和訳
	2	8 課 臓器移植 (2)	西文和訳と正誤問題	8 課の和訳の再確認、9 課の文法問題、語彙の意味調べ
	3	9 課 キューバと日本 (1)	文法 (名詞節・副詞節での接続法) と語彙の確認、音読練習	9 課の文法問題、語彙の意味調べ、記事の本文写しと和訳
	4	9 課 キューバと日本 (2)	西文和訳と正誤問題	9 課の和訳の再確認、10 課の文法問題、語彙の意味調べ
	5	10 課 スペインにおける難民 (1)	文法 (名詞節・副詞節での接続法) と語彙の確認、音読練習	10 課の記事の本文写しと和訳
	6	10 課 スペインにおける難民 (2)	西文和訳と正誤問題	10 課の和訳の再確認及び 8～10 課を総復習しテストに備える。
	7	中間テストと既習事項の解説	接続法現在の用法及び読解力と語彙力の確認	11 課の文法問題、語彙の意味調べ
	8	11 課 カタルーニャとスペイン (1)	文法 (接続法現在完了) と語彙の確認、音読練習	11 課の記事の本文写しと和訳
	9	11 課 カタルーニャとスペイン (2)	西文和訳と正誤問題	11 課の和訳の再確認、12 課の文法問題、語彙の意味調べ
	10	12 課 スペイン語の経済効果 (1)	文法 (接続法過去・名詞節) と語彙の確認、音読練習	12 課の記事の本文写しと和訳
	11	12 課 スペイン語の経済効果 (2)	西文和訳と正誤問題	12 課の和訳の再確認、14 課の文法問題、語彙の意味調べ
	12	14 課 国境なきライバル (1)	文法 (接続法過去・形容詞節と副詞節) と語彙の確認、音読練習	14 課の記事の本文写しと和訳
	13	14 課 国境なきライバル (2)	西文和訳と正誤問題	14 課の和訳の再確認及び語彙力診断テストに備える。
	14	語彙力診断テスト	『単語帳』の Nivel 1～3 を範囲に単語 100 問のテスト	11～14 課を総復習しテストに備える。
	15	理解度確認テストおよび既習範囲の復習	接続法過去及び完了形、及び読解力と語彙力の確認	テストの見直し、学習事項の理解度の点検

関連科目	その他スペイン語科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースを聞こう！中級スペイン語 (Es noticia)	中島聡子ほか	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。 ・課題提出状況および課題の質 (30%) ・語彙力診断テスト (20%) ・中間テストと理解度確認テスト (50%)
学生へのメッセージ	・2 年次は語学学習において基礎固めができる重要な時期です。大学に慣れて気が緩みがちになりやすいので、集中して取り組むよう意識してください。 ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室
備考	各回の事前・事後学習に要する総時間数は 15 時間を目安とする。 テストは返却時に解答の見直しを行う。理解度確認テストの返却と見直しは研究室で行う。 語彙力診断テストをボキャブラリ・コンテストとして実施する場合は授業進度が変更になる可能性がある。

科目名	スペイン語オラルⅤ	科目名 (英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3103d0		

授業概要・目的	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。 De acuerdo a las habilidades del idioma español adquiridas hasta el segundo año, el objetivo no es solo comunicarse, sino también adquirir conocimientos básicos desde diversos temas que permitan ampliar las habilidades de conversación.
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。 Para lograr una conversación diaria en el futuro, el objetivo del curso será investigar distintos temas por adelantado y explicarlo con sus propias palabras y conocimientos e
授業方法と留意点	教科書は用いず、教材を配布する。 Se distribuirán materiales didácticos sin usar libros de texto.
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Presentarse con sus compañeros. Debate y opinión a partir de una infografía.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en español según países hispanohablantes.
	2	Que te sugiere esta fotografía?	Describir por escrito una fotografía.	Presentar una historia a partir de una fotografía.
	3	Que te sugiere esta pintura?	Describir por escrito una pintura	Presentar una historia a partir de una pintura
	4	Turismo 1	Escuchar una presentación sobre turismo actual.	Discutir entre compañeros sobre el turismo en Japón y en el mundo actualmente.
	5	Turismo 2	Buscar y describir lugares dentro de Japón y países de hispanoamérica como tema de conversación sobre el turismo.	Discutir y comparar sobre el turismo en la actualidad entre Japón y otros países de hispanoamérica
	6	Turismo 3	Buscar y describir lugares dentro de Japón y países de hispanoamérica como tema de conversación sobre el turismo.	Discutir y comparar sobre el turismo en la actualidad entre Japón y otros países de hispanoamérica
	7	Lecturas 1	Escuchar la reseña de un cuento o novela	Discutir y preguntar sobre la reseña de un cuento o novela
	8	Lecturas 2	Escuchar la reseña de un cuento o novela	Discutir y preguntar sobre la reseña de un cuento o novela
	9	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1	Escuchar y practicar español real.	Hablar de una película favorita
	10	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2	Escuchar y practicar español real.	Hablar de una película favorita
	11	Biografía sobre un personaje que admires 1	Escuchar la historia de un personaje de hispanoamérica	Buscar un personaje favorito para presentar en clase
	12	Biografía sobre un personaje que admires 2	Escuchar la historia de un personaje de hispanoamérica	Buscar un personaje y para presentar en clase
	13	Mi trabajo ideal.	Escoger en que les gustaría trabajar usando el español.	Buscar y hablar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 años.	Imaginarse que estarán haciendo en 30 o 50 años, que tipo de personas serán.	Presentar opiniones en clase
	15	Presentación oral examen final	Escribir un tema original	Presentar de memoria una tema original.

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題 (50%) 期末試験 (50%) から総合的に評価する。 Evaluación de las tareas de la clase (50%) Examen final oral (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学習に各 1 時間を要する。
-----------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3104d0		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。教科書は用いず、教材を配布する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにできること。 スペイン語検定 3 級 (とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Presentarse con sus compañeros. Debate y opinion a partir de una infografia.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en espanol segun paises hispanohablantes.
	2	Que te sugiere esta imagen?	Describir por escrito una fotografia.	Presentar una historia a partir de una fotografia.
	3	Que te sugiere esta pintura?	Describir por escrito una pintura.	Presentar una historia a partir de una pintura.
	4	Turismo 1	Escuchar una presentacion sobre turismo actual.	Discutir entre companeros sobre el turismo en Japon y en el mundo actualmente.
	5	Turismo 2	Buscar y describir lugres dentro de Japon y paises de hispanoamericanos como tema de conversacion sobre el turismo.	Discutir y comparar sobre el turismo en la actualidad entre Japon y otros paises de hispanoamerica.
	6	Turismo 3	Buscar y describir lugres dentro de Japon y paises de hispanoamericanos como tema de conversacion sobre el turismo.	Discutir y comparar sobre el turismo en la actualidad entre Japon y otros paises de hispanoamerica.
	7	Lecturas 1	Escuchar la resena de un cuento o novela	Discutir y preguntar sobre la resena de un cuento o novela.
	8	Lecturas 2	Escuchar la resena de un cuento o novela	Discutir y preguntar sobre la resena de un cuento o novela.
	9	Películas y/o cortometrajes para aprender espanol real 1	Escuchar y practicar espanol real.	Hablar de una pelicula favorita.
	10	Películas y/o cortometrajes para aprender espanol real 2	Escuchar y practicar espanol real.	Hablar de una pelicula favorita.
	11	Biografia sobre un personaje que admires 1	Escuchar la historia de un personaje de hispanoamerica.	Buscar un personaje para presentar en clase.
	12	Biografia sobre un personaje que admires 2	Escuchar la historia de un personaje de hispanoamerica.	Buscar un personaje para presentar en clase.
	13	Mi trabajo ideal.	Escoger en que les gustaria trabajar usando el espanol.	Buscar y hablar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 anos.	Imaginarse que estarn haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas seran.	Presentar opiniones en clase.
	15	Presentacion como examen.	Escribir un tema original.	Presentar de memoria un tema original.

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題 (50%)、期末試験 (50%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。 La dinamica de la participacion constante sera considerada para evaluacion. 授業への背景的参加と発言を高く評価する。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	事前・事後学修に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3105e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級～3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項 (接続法現在の用法) の復習	接続法現在の活用 (規則形・不規則形) を確認しておくこと
	2	第 22 課 食生活	和文西訳	和文西訳 (94～95 頁) をしておくこと 語彙の整理
	3	第 23 課 天候・気象	和文西訳	和文西訳 (96～97 頁) をしておくこと 語彙の整理
	4	第 24 課 歴史上の出来事	和文西訳	和文西訳 (98～99 頁) をしておくこと 語彙の整理
	5	第 25 課 大学生活	和文西訳	和文西訳 (100～101 頁) をしておくこと 語彙の整理
	6	第 26 課 環境問題	和文西訳	和文西訳 (102～103 頁) をしておくこと 語彙の整理
	7	第 27 課 医療	和文西訳	和文西訳 (104～105 頁) をしておくこと 語彙の整理
	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習	既習範囲 (94～105 頁) の復習
	9	第 28 課 日本の伝統文化	和文西訳	和文西訳 (106～107 頁) をしておくこと 語彙の整理
	10	政治と経済	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	11	趣味・娯楽	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	12	交通・旅行	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	13	通信、数量表現	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	14	人生・人間関係	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (106～107 頁、配布プリント)

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	練習問題の予習・提出物など授業参加意欲 30%、臨時試験 70%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名（英文）	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3106e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。 スピーチコンテスト（全員参加）に向けて原稿の作成、添削、暗唱を行う。																																																																		
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。 スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。																																																																		
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級～3 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導</td><td>スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プリント①：都市（1）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲</td></tr> <tr> <td>3</td><td>プリント②：都市（2）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲</td></tr> <tr> <td>4</td><td>プリント③：著名人（1）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲</td></tr> <tr> <td>5</td><td>プリント④：著名人（2）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲</td></tr> <tr> <td>6</td><td>プリント⑤：世界遺産（1）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲</td></tr> <tr> <td>7</td><td>プリント⑥：世界遺産（2）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>前半のまとめと学習事項の確認</td><td>既習項目の復習</td><td>既習内容の復習 スピーチの練習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>プリント⑦：社会問題（1）</td><td>和文西訳 スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>プリント⑧：社会問題（2）</td><td>和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>スピーチコンテスト</td><td>発表</td><td>原稿の暗唱 スピーチの練習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>プリント⑨：歴史、文化（1）</td><td>和文西訳</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理</td></tr> <tr> <td>13</td><td>プリント⑩：歴史、文化（2）</td><td>和文西訳</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理</td></tr> <tr> <td>14</td><td>プリント⑪：歴史、文化（3）</td><td>和文西訳</td><td>事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理</td></tr> <tr> <td>15</td><td>後半のまとめと学習事項の確認</td><td>既習項目の復習</td><td>既習内容の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出	2	プリント①：都市（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲	3	プリント②：都市（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲	4	プリント③：著名人（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲	5	プリント④：著名人（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲	6	プリント⑤：世界遺産（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲	7	プリント⑥：世界遺産（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習項目の復習	既習内容の復習 スピーチの練習	9	プリント⑦：社会問題（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習	10	プリント⑧：社会問題（2）	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習	11	スピーチコンテスト	発表	原稿の暗唱 スピーチの練習	12	プリント⑨：歴史、文化（1）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理	13	プリント⑩：歴史、文化（2）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理	14	プリント⑪：歴史、文化（3）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理	15	後半のまとめと学習事項の確認	既習項目の復習	既習内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出																																																																
2	プリント①：都市（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲																																																																
3	プリント②：都市（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲																																																																
4	プリント③：著名人（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲																																																																
5	プリント④：著名人（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲																																																																
6	プリント⑤：世界遺産（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲																																																																
7	プリント⑥：世界遺産（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習																																																																
8	前半のまとめと学習事項の確認	既習項目の復習	既習内容の復習 スピーチの練習																																																																
9	プリント⑦：社会問題（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習																																																																
10	プリント⑧：社会問題（2）	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理 スピーチの練習																																																																
11	スピーチコンテスト	発表	原稿の暗唱 スピーチの練習																																																																
12	プリント⑨：歴史、文化（1）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理																																																																
13	プリント⑩：歴史、文化（2）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理																																																																
14	プリント⑪：歴史、文化（3）	和文西訳	事前に配布されたプリントの和文西訳をする 語彙の整理																																																																
15	後半のまとめと学習事項の確認	既習項目の復習	既習内容の復習																																																																
関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プリント配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 40%、臨時試験 60%																																																																		
学生へのメッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。 教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）																																																																		

備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じる。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。
----	--

科目名	スペイン語通訳Ⅰ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour GuidesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3107e0		

授業概要・目的	日本の習慣・文化・歴史・地理などをスペイン語で説明できることを目指す。 外国語に上達するには「外国語で考えろ」とよく言われる。確かにその通りだが、では「外国語で考えるにはどうすればよいのか」について種明かしている本も人もあまりいないように思う。バイリンガル、マルチリンガルではない環境で、その術を身につける方法（取り立てて言うほど新しい方法ではない）もこの授業で実践していく。																																																																		
到達目標	自分の身の回りのことをスペイン語で説明できるようになることを目指す。我々日本人にとっては当たり前すぎて、日本人同士では説明する必要のないようなことも、異文化圏の人からは説明を求められることが多い。日常生活の中で質問に出くわす事柄をスペイン語で臨機応変に説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	スムーズにスペイン語が出てくることを目指すため、日本語をスペイン語にスイッチする練習を中心に行う。 ほぼ毎回、和 → 西の単語帳を作る課題を出す。語彙レベルは基本的なものとし、短時間での提出を求める。 授業では基本的な構文を使った和文西訳を中心とする。教材はプリントで配布する。和西辞典と西和辞典を必ず授業に持ってくること。 日本料理について説明する架空会話（エアーガイド）を、課題として与えられた料理や食材について自分で作り、スペイン語に訳したものを教材とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（ガイド）資格取得の一助となる。 関西万博（2025）などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション:授業の進め方</td><td>「通訳案内士」（ガイド）試験とは？</td><td>通訳案内士の国家試験について調べ、単語を覚える努力をする。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>エアーガイド（例題）メニューを説明する（１）</td><td>料理の種類を説明する</td><td>単語課題（１）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>エアーガイド（例題）メニューを説明する（２）</td><td>食材の説明</td><td>単語課題（２）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>エアーガイド（例題）メニューを説明する（３）</td><td>レシピの説明</td><td>単語課題（３）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>エアーガイド（例題）メニューを説明する（４）</td><td>お箸の持ち方、用い方 種類の食べ方など</td><td>単語課題（４）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>到達度確認テスト（１）</td><td>これまで学習した単語や表現について確認する</td><td>総復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>エアーガイド教材（１）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（５）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>エアーガイド教材（２）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（６）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>エアーガイド教材（３）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（７）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>エアーガイド教材（４）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（８）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>エアーガイド教材（５）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（９）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>エアーガイド教材（６）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（１０）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>エアーガイド教材（７）</td><td>割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話</td><td>単語課題（１１）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>到達度確認テスト（２）</td><td>これまでに学習したことの確認</td><td>総復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>テストの振り返り</td><td>前回までのテストの確認</td><td>既習事項の見直し</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション:授業の進め方	「通訳案内士」（ガイド）試験とは？	通訳案内士の国家試験について調べ、単語を覚える努力をする。	2	エアーガイド（例題）メニューを説明する（１）	料理の種類を説明する	単語課題（１）	3	エアーガイド（例題）メニューを説明する（２）	食材の説明	単語課題（２）	4	エアーガイド（例題）メニューを説明する（３）	レシピの説明	単語課題（３）	5	エアーガイド（例題）メニューを説明する（４）	お箸の持ち方、用い方 種類の食べ方など	単語課題（４）	6	到達度確認テスト（１）	これまで学習した単語や表現について確認する	総復習	7	エアーガイド教材（１）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（５）	8	エアーガイド教材（２）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（６）	9	エアーガイド教材（３）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（７）	10	エアーガイド教材（４）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（８）	11	エアーガイド教材（５）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（９）	12	エアーガイド教材（６）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１０）	13	エアーガイド教材（７）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１１）	14	到達度確認テスト（２）	これまでに学習したことの確認	総復習	15	テストの振り返り	前回までのテストの確認	既習事項の見直し
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション:授業の進め方	「通訳案内士」（ガイド）試験とは？	通訳案内士の国家試験について調べ、単語を覚える努力をする。																																																																
2	エアーガイド（例題）メニューを説明する（１）	料理の種類を説明する	単語課題（１）																																																																
3	エアーガイド（例題）メニューを説明する（２）	食材の説明	単語課題（２）																																																																
4	エアーガイド（例題）メニューを説明する（３）	レシピの説明	単語課題（３）																																																																
5	エアーガイド（例題）メニューを説明する（４）	お箸の持ち方、用い方 種類の食べ方など	単語課題（４）																																																																
6	到達度確認テスト（１）	これまで学習した単語や表現について確認する	総復習																																																																
7	エアーガイド教材（１）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（５）																																																																
8	エアーガイド教材（２）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（６）																																																																
9	エアーガイド教材（３）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（７）																																																																
10	エアーガイド教材（４）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（８）																																																																
11	エアーガイド教材（５）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（９）																																																																
12	エアーガイド教材（６）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１０）																																																																
13	エアーガイド教材（７）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１１）																																																																
14	到達度確認テスト（２）	これまでに学習したことの確認	総復習																																																																
15	テストの振り返り	前回までのテストの確認	既習事項の見直し																																																																
関連科目	スペイン語の語学系科目（オラル、文章構成など）全般および日本の歴史・文化に関する科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>和西辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	和西辞典			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	和西辞典																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	単語課題（基本語彙を和 → 西）の期間内提出 ２０％ 期間内に提出された西訳作文課題 ３０％ 到達度確認テスト ５０％																																																																		
学生へのメッセージ	オリンピック、万博など大きなイベントだけでなく、来日外国人観光客の増加が期待されます。接触機会が増えると、日本のことを意外と説明できないことに気づくでしょう。また留学先でも日本について聞かれ、答えに困ることがよくあります。ごく当たり前のことでもどう説明するか、日頃から考え、必要な語彙を補っておきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間は約１５時間。 授業の始めに、単語課題についてのフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題や次週の授業で発表させ講評を行う。 なお、受講生の人数によってはエアーガイドの内容や方式を変更することもある。																																																																		

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3108e0		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	日本の風習や文化についてスペイン語で説明できることを目指す。 おもに京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。 世界無形文化遺産である「和食」、日本人の生活習慣等、異文化圏の人に対して客観的にスペイン語で説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	課題の提出は締め切りを守る。 毎回、単語課題を課す。教材はプリントで配布する。最初は主に、寺社仏閣を架空案内する会話を例題として出すが、残りの回は学生に寺社仏閣を割当て、それについて調べたうえで架空会話（エアーガイド）を考え、スペイン語に訳したものを教材とする。 西和辞典と和西辞典を必ず用意すること。 なお、受講生の数によってはエアーガイドの内容などを変更することもある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 3 級、通訳案内士（ガイド）資格取得の一助となる。 関西万博（2025）などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の内容の復習</td><td>もう一度、単語テスト</td><td>前期の見直し</td></tr> <tr><td>2</td><td>エアーガイド例題（1）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（1）</td></tr> <tr><td>3</td><td>エアーガイド例題（2）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（2）</td></tr> <tr><td>4</td><td>エアーガイド例題（3）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（3）</td></tr> <tr><td>5</td><td>エアーガイド例題（4）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（4）</td></tr> <tr><td>6</td><td>到達度確認テスト（1）</td><td>これまで n 単語課題、例題などの教材で学んだ単語、表現の復習</td><td>総復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>エアーガイド教材（1）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（5）</td></tr> <tr><td>8</td><td>エアーガイド教材（2）</td><td>これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習</td><td>単語課題（6）</td></tr> <tr><td>9</td><td>エアーガイド教材（3）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（7）</td></tr> <tr><td>10</td><td>エアーガイド教材（4）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（8）</td></tr> <tr><td>11</td><td>エアーガイド教材（5）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（9）</td></tr> <tr><td>12</td><td>エアーガイド教材（6）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（10）</td></tr> <tr><td>13</td><td>エアーガイド教材（7）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（11）</td></tr> <tr><td>14</td><td>到達度確認テスト（2）</td><td>学習した単語、表現などを駆使してテストに挑戦</td><td>総復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>テストの確認、総復習</td><td>主に学習した単語力の確認</td><td>これまでの学習のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	前期の見直し	2	エアーガイド例題（1）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（1）	3	エアーガイド例題（2）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（2）	4	エアーガイド例題（3）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（3）	5	エアーガイド例題（4）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（4）	6	到達度確認テスト（1）	これまで n 単語課題、例題などの教材で学んだ単語、表現の復習	総復習	7	エアーガイド教材（1）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（5）	8	エアーガイド教材（2）	これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習	単語課題（6）	9	エアーガイド教材（3）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（7）	10	エアーガイド教材（4）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（8）	11	エアーガイド教材（5）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（9）	12	エアーガイド教材（6）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（10）	13	エアーガイド教材（7）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（11）	14	到達度確認テスト（2）	学習した単語、表現などを駆使してテストに挑戦	総復習	15	テストの確認、総復習	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	前期の見直し																																																																
2	エアーガイド例題（1）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（1）																																																																
3	エアーガイド例題（2）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（2）																																																																
4	エアーガイド例題（3）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（3）																																																																
5	エアーガイド例題（4）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（4）																																																																
6	到達度確認テスト（1）	これまで n 単語課題、例題などの教材で学んだ単語、表現の復習	総復習																																																																
7	エアーガイド教材（1）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（5）																																																																
8	エアーガイド教材（2）	これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習	単語課題（6）																																																																
9	エアーガイド教材（3）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（7）																																																																
10	エアーガイド教材（4）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（8）																																																																
11	エアーガイド教材（5）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（9）																																																																
12	エアーガイド教材（6）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（10）																																																																
13	エアーガイド教材（7）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（11）																																																																
14	到達度確認テスト（2）	学習した単語、表現などを駆使してテストに挑戦	総復習																																																																
15	テストの確認、総復習	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ																																																																
関連科目	スペイン語の語学系科目（オラル、文章構成など）全般および日本の歴史・文化に関する科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プリント</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>和西辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	和西辞典			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	和西辞典																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	単語課題（20%）、作文課題（30%）、到達度確認テスト（50%）を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。 配布物が多いので、それらをこの科目のための固有のファイルに綴じて活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学修に要する総時間は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は次週の授業で発表、講評を行う。 臨時試験の答案と解答例は北條研究室において返却する。																																																																		

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3109e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを活用して、スペイン語のヒアリング力と表現力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画作品（字幕付きとは限らない）を指示された方法で部分的に視聴し、映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行う時間を設け、その内容についての質問・応答を行う。重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、修得した語彙や表現を用いて、作品の要約あるいは感想をスペイン語でレポートとして提出する（word 文書で）。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
	5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
	8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
	9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
	12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
	14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
	15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	すべてのスペイン語科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業での活動と発表（50%）、提出物（50%）
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
----	--

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3110e0		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、一般書、新聞、雑誌、ウェブページなどのメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、様々なメディア・文体のスペイン語に慣れる。主に言語学的内容（言語と社会、言語の歴史など）を扱う。様々な文体の存在を知り、国内外の文化的・歴史的・社会的なことがらを知る。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得および様々な文体の文章の読解力向上を目指す。逐語的・機械的な翻訳ではなく、日本語らしい文章で表現できるようになること。日本語や日本社会など、自文化（自分のこと）と関連づけて考える習慣をつけること。																																																																		
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントもしくはPDFやWordファイルにして配布する。また、関連記事やそれに限らない国内外のニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の関心や習熟度を見て、テーマやペースを変える場合がある。毎度、課題等は提出期限を守ること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語の読解力の向上 正確、適切な日本語の作文力の向上 スペイン語検定 4 級、3 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方 メディアの多様性</td><td>授業の内容を理解しておくこと</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語に関するスペイン語の文章（1）</td><td>文化記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>言語に関するスペイン語の文章（2）</td><td>文化記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>言語に関するスペイン語の文章（3）</td><td>社会記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>言語に関するスペイン語の文章（4）</td><td>社会記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中間テスト</td><td>既習事項の再確認</td><td>到達度の確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（1）</td><td>文化記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（2）</td><td>文化記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（3）</td><td>文化記事の訳読 3</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>復習 ボキャブラリーコンテスト</td><td>ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）</td><td>記事の訳読</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）</td><td>記事の訳読</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）</td><td>社会記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）</td><td>社会記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>臨時試験と解説</td><td>既習事項の再確認</td><td>さらなる復習を</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと	2	言語に関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	3	言語に関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	4	言語に関するスペイン語の文章（3）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	5	言語に関するスペイン語の文章（4）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認	7	スペインに関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	8	スペインに関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	9	スペインに関するスペイン語の文章（3）	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	11	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	12	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	13	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	14	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと																																																																
2	言語に関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
3	言語に関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
4	言語に関するスペイン語の文章（3）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
5	言語に関するスペイン語の文章（4）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認																																																																
7	スペインに関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
8	スペインに関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
9	スペインに関するスペイン語の文章（3）	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
11	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
12	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
13	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
14	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業（毎回の課題を含む）での取り組み 50 % と試験 50 %																																																																		
学生へのメッセージ	文法事項もきちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。日本語にも注意を向けること。日ごろから書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																																																																		
備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学習の総時間数として 15 時間以上を要す。																																																																		

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅠ	科目名（英文）	Presentation in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3111d0		

授業概要・目的	3 年次までに修得したスペイン語の基礎文法を素地として、比較文化の多様な観点からテーマを選定し、その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏はもちろん、異文化についての関心を深め、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説資料を提示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの原稿準備を行います。短くて結構です。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあり得ます。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定 3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方 自己紹介に必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	2	自己紹介	発表 誕生日を迎えるにあたって将来の目標を語るための表現と語彙の解説	発表の準備
	3	将来の目標	発表 死生観と「死者の日」についての解説	発表の準備
	4	「死者の日」	発表 「お盆」との比較	発表の準備
	5	「お盆」と「死者の日」の比較	発表 日本文化の独自性 (例: 世界初の小説『源氏物語』) の紹介	発表の準備 過去時制の復習
	6	私が誇りに思う日本文化	発表 中国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	7	私が魅かれる中国文化	発表 スペイン語圏文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	8	この目で見てみたいスペイン語圏文化	発表 米国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	9	私が影響を受けた米国文化	発表 料理についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 命令文の復習
	10	得意料理の作り方	発表 旅行についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 過去未来の復習
	11	旅行するとしたら	発表 買物の場面で必要な表現と語彙（気候、色、衣類、食べ物、飲み物等）	発表の準備
	12	買物の場で	発表	発表の準備
	13	買物の場で	発表	発表の準備
	14	訪日観光客を案内して	発表 固有の社寺を説明するための語彙	発表の準備
	15	訪日観光客を案内して	発表 料理文化についての語彙	発表の成果を振り返る

関連科目	すべてのスペイン語科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業での活動と発表（60%）、課題提出（40%）
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	扱うテーマには履修者の提案を取り入れます。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 受講生は毎回テーマに沿った発表を準備し、時間内に講評を受ける。 毎回の授業の始めに、前回の次学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	---

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅡ	科目名 (英文)	Presentation in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3112d0		

授業概要・目的	スペイン語とその文化がいかに様々な異言語・異文化の影響を取り込んできたかを理解できるよう、テーマを選定します。その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表します。そうすることで、言語とテーマが何であっても、聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるようになることをめざします。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を養います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語とその文化が内蔵する異文化要素を理解し、それについての説明ができるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力と表現力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語で詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定 3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日本語の中に定着したスペイン語	授業の進め方の再確認 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	2	スペイン語・文化が日本に与えた影響	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	3	スペイン語・文化がギリシア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	4	ラテン語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	5	アラビア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	6	スペイン語圏の歴史 (1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	7	スペイン語圏の歴史 (2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	8	スペイン語圏の歴史 (3)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	9	スペイン語圏の政治 (1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	10	スペイン語圏の政治 (2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	11	スペイン語圏の経済	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	12	スペイン語圏の貿易	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	13	通訳としての仕事	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	14	通訳としての実践	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	15	各自最良の発表を行う	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の成果を振り返る

関連科目	すべてのスペイン語科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・発表内容 60%、課題 40%
学生への メッセージ	扱うテーマには履修者の提案を取り入れます。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の発表・学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	インドネシア語入門 b (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1115e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の文法を学び、各課の内容に沿ったかたちで、インドネシア語から日本語、日本語からインドネシア語の基礎的な翻訳課題に取り組むことで、インドネシア語の基礎的な運用能力を修得することを目的とする。
到達目標	インドネシア語の文法を覚え、基礎的な運用能力を修得する。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (2)」と同じテキストおよび辞書 (下記の指定辞書) を用い行っていく。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 15 課	綴りの規則の説明、講読	教科書の第 15 課に目を通しておくこと。 綴りの規則の説明、講読の再確認をしておくこと。
	2	第 16 課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、 接尾辞 -nya の文法説明、講読	教科書の第 16 課に目を通しておくこと。 接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	3	第 17 課	接頭辞 me- の文法説明、講読	教科書の第 17 課に目を通しておくこと。 接頭辞 me- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。
	4	第 18 課	接頭辞 di- の文法説明、講読	教科書の第 18 課に目を通しておくこと。 接頭辞 di- の文法説明、講読の再確認をしておくこ と。
	5	第 19 課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	教科書の第 19 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ter- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。
	6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、 講読	教科書の第 20 課に目を通しておくこと。 共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、講読の再 確認をしておくこと。
	7	第 21 課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説 明、講読	教科書の第 21 課に目を通しておくこと。 接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。
	8	第 15 課から第 21 課の復習	第 15 課から第 21 課を復習し、定着を図 り、中間テストを行う。	第 21 課までの復習をしておくこと。
	9	第 22 課	接尾辞 -i、-kan の文法説明、講読	教科書の第 22 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -i、-kan の文法説明、講読の再確認をして おくこと。
	10	第 23 課	接頭辞 memper- の文法的説明、講読	教科書の第 23 課に目を通しておくこと。 接頭辞 memper- の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。
	11	第 24 課	能動文と受動文の文法説明、講読	教科書の第 24 課に目を通しておくこと。 能動文と受動文の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。
	12	第 25 課	重複の文法説明、講読	教科書の第 25 課に目を通しておくこと。 重複の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	13	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説 明、講読	教科書の第 26 課に目を通しておくこと。 接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。
	14	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	第 15 課から第 27 課に目を通しておくとともに、1 年間の振り返りとして教科書全体を再度確認する こと。
	15	総復習	これまでに学んだことの復習および最 終テスト	これまでに学んだことを復習しておくこと。

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編 著)	小学館
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テスト 40%、最終テスト 40%、積極的な授業参加度の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	1 年次の基本となる授業なので、しっかり出席して基礎を習得してください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)
----------	------------------

備考	予習は基本的には必要ないが、復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、最低でも毎週 1 時間以上行うこと。
----	---

科目名	インドネシア語入門 b (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1116e0		

授業概要・目的	人口 2 億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基本的な運用能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門 a (2)」に引き続き、本授業では特に「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターすることができる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (1)」と同じテキストを用い、行なっていく。 授業時は辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 15 課</td><td>綴りの規則に基づいた文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 15 課)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 16 課</td><td>接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 16 課)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 17 課</td><td>接頭辞 me- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 17 課)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 18 課</td><td>接頭辞 di- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 18 課)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 19 課</td><td>接頭辞 ter- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 19 課)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 20 課</td><td>共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 20 課)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 21 課</td><td>接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 21 課)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト 復習</td><td>これまでに学んだことについての中間テストを行い、達成度を測る。</td><td>これまでに学んだことの復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 22 課</td><td>接尾辞 -i, -kan を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 22 課)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 23 課</td><td>接頭辞 memper- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 23 課)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 24 課</td><td>能動文と受動文</td><td>学んだことの再確認 (第 24 課)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 25 課</td><td>重複の文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 25 課)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 26 課</td><td>接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 26 課)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 27 課</td><td>接辞のまとめおよびその他の接辞</td><td>学んだことの再確認 (第 27 課)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習 (講読・作文実践練習)</td><td>これまでに学んだ構文の講読・作文練習を行い、最終テストを実施する</td><td>これまでに学んだことの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の作文	学んだことの再確認 (第 15 課)	2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 16 課)	3	第 17 課	接頭辞 me- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 17 課)	4	第 18 課	接頭辞 di- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 18 課)	5	第 19 課	接頭辞 ter- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 19 課)	6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 20 課)	7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 21 課)	8	中間テスト 復習	これまでに学んだことについての中間テストを行い、達成度を測る。	これまでに学んだことの復習	9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 22 課)	10	第 23 課	接頭辞 memper- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 23 課)	11	第 24 課	能動文と受動文	学んだことの再確認 (第 24 課)	12	第 25 課	重複の文の作文	学んだことの再確認 (第 25 課)	13	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 26 課)	14	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	学んだことの再確認 (第 27 課)	15	総復習 (講読・作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読・作文練習を行い、最終テストを実施する	これまでに学んだことの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の作文	学んだことの再確認 (第 15 課)																																																																
2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 16 課)																																																																
3	第 17 課	接頭辞 me- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 17 課)																																																																
4	第 18 課	接頭辞 di- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 18 課)																																																																
5	第 19 課	接頭辞 ter- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 19 課)																																																																
6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 20 課)																																																																
7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 21 課)																																																																
8	中間テスト 復習	これまでに学んだことについての中間テストを行い、達成度を測る。	これまでに学んだことの復習																																																																
9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 22 課)																																																																
10	第 23 課	接頭辞 memper- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 23 課)																																																																
11	第 24 課	能動文と受動文	学んだことの再確認 (第 24 課)																																																																
12	第 25 課	重複の文の作文	学んだことの再確認 (第 25 課)																																																																
13	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 26 課)																																																																
14	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	学んだことの再確認 (第 27 課)																																																																
15	総復習 (講読・作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読・作文練習を行い、最終テストを実施する	これまでに学んだことの復習																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 b (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語入門第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語入門第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	中間テスト 40%、最終テスト 40%、「積極的な授業参加」の度合い 10% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (浦野研究室)																																																																		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かせないこと。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ・ティウ イティアリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1118e0		

授業概要・目的	インドネシアへ行くことを想定して、現地の日常生活の中の場面での会話に使われる表現に関連する単語を学習する。
到達目標	インドネシア語の日常会話について、現地の生活習慣やマナーなどを理解できるようになる。
授業方法と留意点	会話を聞く・話す・覚える。毎回会話を練習して。復習確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが能力を付ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インドネシア語コミュニケーション Ia で学んだ内容の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。 (エニ・ティウク)	すでに学んだ授業内容を事前に復習する。
	2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話を練習する。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話を練習すること。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話を練習すること。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	6	第 1 回目～5 回目までの復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。 (エニ)	ペーパーテストを行う。
	7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話を練習すること。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。 (エニ)	授業内容に関連する単語を覚える。
	9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。 (ティウク)	授業内容に関連する単語を覚える。
	10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。 (ティウク)	授業内容に関連する単語を覚える。
	11	第 7 回目～10 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。 (ティウク)	ペーパーテストを行う。
	12	道を尋ねる。	自分の行きたい場所までの道を尋ね、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。 (ティウク)	授業内容に関連する単語を覚える。
	13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。 (ティウク)	授業内容に関連する単語を覚える。
	14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。 (ティウク)	授業内容に関連する単語を覚える。
	15	第 12 回目～14 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。 (ティウク)	到達度の確認課題を行う。

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目のすべて
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラス活動参加(会話練習の取り込む) 50% 聞き取り会話及び筆記テスト 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1120e0		

授業概要・目的	インドネシア語を習得するうえで、語彙力を高めることはきわめて重要である。 この授業では、やや高度なインドネシア語の単語と表現を学び、インドネシア語の語彙数を増やし、豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、インドネシア語の文章や映像を通して生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。
到達目標	インドネシア語のやや高度な単語と表現を習得することができる。
授業方法と留意点	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語のやや高度な単語と表現が習得できる。 インドネシア語技能検定試験のための準備を進めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。 既習事項について復習する。	「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
	2	既習事項の確認	既習事項について復習する。	「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
	3	語彙 1	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	4	語彙 2	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	5	復習 1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	前回の復習
	6	語彙 3	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	7	語彙 4	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	8	語彙 5	政治・経済に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	9	語彙 6	芸術・文化に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	10	復習 2	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。
	11	語彙 7	自然に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	12	語彙 8	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	13	語彙 9	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	14	復習 3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。
	15	総合復習	単語習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。

関連科目	インドネシア語、マレー語に関する科目すべて。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範(編著)	小学館
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・計3回の確認テスト(60%) ・期末テスト(40%) *詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	インドネシア語は、文法構造が他言語と比べてシンプルです。インドネシア語上達のためには、ボキャブラリーを増やすことが重要です。この講義で学ぶ内容の他、動画配信されているニュース番組や、新聞・雑誌のウェブサイトなども日常的にアクセスして、インドネシア語のボキャブラリーを増やす努力を続けてください。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていけるように努めてください。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。
----	--

科目名	初級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1122e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 E 級の過去問題に取り組み、E 級レベルの語彙や文法を学習する。			
到達目標	インドネシア語技能検定試験 E 級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。			
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。			
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験			
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	練習問題(1) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
	2	練習問題(1) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	3	練習問題(1) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	4	練習問題(2) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
	5	練習問題(2) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	6	練習問題(2) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	7	練習問題(3) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
	8	練習問題(3) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	9	練習問題(3) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	10	練習問題(4) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
	11	練習問題(4) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	12	練習問題(4) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
	13	練習問題(5) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
	14	練習問題(5) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	最終確認テスト	これまでに学んだことの再確認	これまでに学んだことを再確認すること	
関連科目	インドネシア語科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	小テスト 50%、最終確認テスト 30%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%			
学生へのメッセージ	検定試験 E 級合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階（金子研究室）			
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習を必ず行うこと。事前・事後学習の総時間数は 15 時間程度を目安とする。			

科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2123e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で実施する。なお、定期試験については「総合インドネシア語」統一試験とし、臨時試験として実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 1 課</td><td>授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 3 課</td><td>基礎力確認演習 (作文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 5 課</td><td>文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 6 課</td><td>文の種類 2 単文 (3) 作文</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 7 課</td><td>文の種類 3 単文と複文 (3) 作文</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 9 課</td><td>基礎力確認演習 総合 1</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 10 課</td><td>新聞に親しんでみよう</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読②</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の購読④</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 12 課</td><td>インドネシアの教科書の購読⑥</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読①</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 13 課</td><td>会話文の購読③</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 14 課</td><td>広告に親しんでみよう</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読②</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの購読⑤</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 1 課	授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明	学んだことの再確認	2	第 3 課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認	3	第 5 課	文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)	学んだことの再確認	4	第 6 課	文の種類 2 単文 (3) 作文	学んだことの再確認	5	第 7 課	文の種類 3 単文と複文 (3) 作文	学んだことの再確認	6	第 9 課	基礎力確認演習 総合 1	予習 学んだことの再確認	7	第 10 課	新聞に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認	8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読②	予習 学んだことの再確認	9	第 10 課	インドネシアの教科書の購読④	予習 学んだことの再確認	10	第 12 課	インドネシアの教科書の購読⑥	予習 学んだことの再確認	11	第 12 課	会話文の講読①	予習 学んだことの再確認	12	第 13 課	会話文の購読③	予習 学んだことの再確認	13	第 14 課	広告に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認	14	第 14 課	エッセイの講読②	予習 学んだことの再確認	15	第 14 課	エッセイの購読⑤	予習 学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 1 課	授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明	学んだことの再確認																																																																
2	第 3 課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認																																																																
3	第 5 課	文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)	学んだことの再確認																																																																
4	第 6 課	文の種類 2 単文 (3) 作文	学んだことの再確認																																																																
5	第 7 課	文の種類 3 単文と複文 (3) 作文	学んだことの再確認																																																																
6	第 9 課	基礎力確認演習 総合 1	予習 学んだことの再確認																																																																
7	第 10 課	新聞に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認																																																																
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
9	第 10 課	インドネシアの教科書の購読④	予習 学んだことの再確認																																																																
10	第 12 課	インドネシアの教科書の購読⑥	予習 学んだことの再確認																																																																
11	第 12 課	会話文の講読①	予習 学んだことの再確認																																																																
12	第 13 課	会話文の購読③	予習 学んだことの再確認																																																																
13	第 14 課	広告に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認																																																																
14	第 14 課	エッセイの講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
15	第 14 課	エッセイの購読⑤	予習 学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 (臨時試験) 80%、 授業中の演習や発表に対する取り組み 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	より高度なインドネシア語運用能力を身につけるために、一生懸命取り組みましょう。 日ごろから日本語のさまざまな文章表現にも留意するようにしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習課題欄を参考に、毎週少なくとも 2 時間程度以上の復習をおこなうこと。 指示する予習もおこなうこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2124e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、最終試験については「総合インドネシア語」統一試験とする。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第 2 課</td><td>基礎力確認演習 (講読)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>第 4 課</td><td>基礎力確認演習 (能動文と受動文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>3</td><td>第 6 課</td><td>文の種類 2 単文 (文法・講読)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>4</td><td>第 7 課</td><td>文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)</td><td>予習 (第 7 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>第 8 課</td><td>基礎力確認演習 (総合②)</td><td>予習 (第 8 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>6</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読①</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>7</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読③</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>8</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読⑤</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>9</td><td>第 11 課</td><td>雑誌に親しんでみよう</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>10</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読②</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>11</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読④</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>12</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読①</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>13</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読③</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>14</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読④</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td><td>学んだことの総復習 期末臨時試験</td><td>これまでに学んだことの復習・再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 2 課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認	2	第 4 課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認	3	第 6 課	文の種類 2 単文 (文法・講読)	学んだことの再確認	4	第 7 課	文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)	予習 (第 7 課) 学んだことの再確認	5	第 8 課	基礎力確認演習 (総合②)	予習 (第 8 課) 学んだことの再確認	6	第 10 課	インドネシアの教科書の講読①	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読③	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	9	第 11 課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認	10	第 12 課	会話文の講読②	学んだことの再確認	11	第 12 課	会話文の講読④	学んだことの再確認	12	第 14 課	エッセイの講読①	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	13	第 14 課	エッセイの講読③	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	14	第 14 課	エッセイの講読④	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	15	総復習	学んだことの総復習 期末臨時試験	これまでに学んだことの復習・再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 2 課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認																																																																
2	第 4 課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認																																																																
3	第 6 課	文の種類 2 単文 (文法・講読)	学んだことの再確認																																																																
4	第 7 課	文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)	予習 (第 7 課) 学んだことの再確認																																																																
5	第 8 課	基礎力確認演習 (総合②)	予習 (第 8 課) 学んだことの再確認																																																																
6	第 10 課	インドネシアの教科書の講読①	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読③	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
9	第 11 課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認																																																																
10	第 12 課	会話文の講読②	学んだことの再確認																																																																
11	第 12 課	会話文の講読④	学んだことの再確認																																																																
12	第 14 課	エッセイの講読①	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
13	第 14 課	エッセイの講読③	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
14	第 14 課	エッセイの講読④	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
15	総復習	学んだことの総復習 期末臨時試験	これまでに学んだことの復習・再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr><td>2</td><td>プログレッシブインドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup Sanggar</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一期末臨時試験 80%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生への メッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の 研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)																																																																		
備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2125e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で実施する。なお、試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう② 手紙の書き方</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう 作文</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 16 課</td><td>ことわざの表現③④</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう 作文</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の購読①</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読③</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑤</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑦</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari①</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう 作文原稿チェック</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari④</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 19 課</td><td>スピーチをしてみよう②</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 21 課</td><td>テレビを観てみよう</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 23 課</td><td>新聞記事の購読①</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 24 課</td><td>後期末臨時試験</td><td>今までに学んだことを細かく再確認しておくこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	手紙を書いてみよう② 手紙の書き方	学んだことの再確認	2	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	学んだことの再確認	3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認	4	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	予習 学んだことの再確認	5	第 18 課	文学作品の購読①	学んだことの再確認	6	第 18 課	文学作品の講読③	予習 学んだことの再確認	7	第 18 課	文学作品の講読⑤	予習 学んだことの再確認	8	第 18 課	文学作品の講読⑦	予習 学んだことの再確認	9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	予習 学んだことの再確認	10	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文原稿チェック	学んだことの再確認	11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	予習 学んだことの再確認	12	第 19 課	スピーチをしてみよう②	学んだことの再確認	13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認	14	第 23 課	新聞記事の購読①	学んだことの再確認	15	第 24 課	後期末臨時試験	今までに学んだことを細かく再確認しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	手紙を書いてみよう② 手紙の書き方	学んだことの再確認																																																																
2	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	学んだことの再確認																																																																
3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認																																																																
4	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	予習 学んだことの再確認																																																																
5	第 18 課	文学作品の購読①	学んだことの再確認																																																																
6	第 18 課	文学作品の講読③	予習 学んだことの再確認																																																																
7	第 18 課	文学作品の講読⑤	予習 学んだことの再確認																																																																
8	第 18 課	文学作品の講読⑦	予習 学んだことの再確認																																																																
9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	予習 学んだことの再確認																																																																
10	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文原稿チェック	学んだことの再確認																																																																
11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	予習 学んだことの再確認																																																																
12	第 19 課	スピーチをしてみよう②	学んだことの再確認																																																																
13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認																																																																
14	第 23 課	新聞記事の購読①	学んだことの再確認																																																																
15	第 24 課	後期末臨時試験	今までに学んだことを細かく再確認しておくこと																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 80 % 授業中の演習や発表に対する取り組み 20 % 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	より高度なインドネシア語運用能力を身につけるために、一生懸命取り組みましょう。 日頃からインドネシア語や日本語のさまざまな文章・文体表現に触れるようにしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階：非常勤講師室																																																																		
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考にして、毎週少なくとも 2 時間程度以上の復習を欠かさないこと。 指示に従って予習もおこなうこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2126e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう①</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 16 課</td><td>ことわざの表現①②</td><td>予習 (第 16 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 16 課</td><td>ことわざの表現⑤⑥</td><td>予習 (第 16 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 17 課</td><td>映画を観てみよう</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読②</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読④</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑥</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑧</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari②</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari③</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 19 課</td><td>スピーチを試みよう①</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 19 課</td><td>スピーチを試みよう③ スピーチコンテストを実施</td><td>スピーチコンテストのための準備学習および学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 22 課</td><td>略語と借用語</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 23 課</td><td>新聞記事の購読②</td><td>予習 (第 23 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 23 課</td><td>新聞記事の購読③</td><td>予習 (第 23 課) 学んだことの再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認	2	第 16 課	ことわざの表現①②	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認	3	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認	4	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認	5	第 18 課	文学作品の講読②	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	6	第 18 課	文学作品の講読④	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	7	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	8	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	学んだことの再確認	10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	学んだことの再確認	11	第 19 課	スピーチを試みよう①	学んだことの再確認	12	第 19 課	スピーチを試みよう③ スピーチコンテストを実施	スピーチコンテストのための準備学習および学んだことの再確認	13	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認	14	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認	15	第 23 課	新聞記事の購読③	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認																																																																
2	第 16 課	ことわざの表現①②	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認																																																																
3	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認																																																																
4	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認																																																																
5	第 18 課	文学作品の講読②	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
6	第 18 課	文学作品の講読④	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
7	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
8	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	学んだことの再確認																																																																
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	学んだことの再確認																																																																
11	第 19 課	スピーチを試みよう①	学んだことの再確認																																																																
12	第 19 課	スピーチを試みよう③ スピーチコンテストを実施	スピーチコンテストのための準備学習および学んだことの再確認																																																																
13	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認																																																																
14	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認																																																																
15	第 23 課	新聞記事の購読③	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブインドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup Sanggar</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 (「総合インドネシア語」統一臨時試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)																																																																		
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2127e0		

授業概要・目的	1 年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。 インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。インドネシアでの様々な状況の会話文を学んで、コミュニケーションを取る練習。
到達目標	相手の発言に対して自分が応えることも重要であるが、まずは過去 1 年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的小さい文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。 積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
	2	インドネシアに上陸する (1)	下宿を探す	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	3	インドネシアに上陸する (2)	家具を買う	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	4	インドネシアに上陸する (3)	乗り物をレンタルする。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	5	小テストおよび第 2 回から第 4 回までの復習	第 2 回から第 4 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	6	インドネシアでの日常生活 ①	大学で出会い	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	7	インドネシアでの日常生活 ②	博物館に訪問	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	8	インドネシアでの日常生活 ③	映画を見る	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	9	インドネシアでの日常生活 ④	手工芸品を見る	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	10	小テストおよび第 6 回から第 9 回までの復習	第 6 回から第 9 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	11	様々な出来事①	講義に遅刻する	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	12	様々な出来事②	運転免許証をうっかりお気を忘れる	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	13	様々な出来事③	郊外で休暇を過ごす	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	14	小テスト第 11 回から 13 回までの復習	第 11 回から第 13 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	15	反省会	学生一人一人感想を語る	全授業内容の復習。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 (聴き取り会話学習) 50% 授業内中間及び期末筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2128e0		

授業概要・目的	この授業は、様々なインドネシアの生活習慣・文化などについて読解を通じて議論を行います。専門用語やインドネシアの社会の知識を高めるとする。																																																																		
到達目標	インドネシア語の読む能力を高め、自分から積極的に議論することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマの配布する資料を読んで、質問を答え、各テーマに議論する。授業に使う資料は教員が配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	各テーマの専門用語や社会・文化の知識高める。インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プロローグ</td><td>授業内容とつづめるかたについて説明。</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>インドネシア多民族国家</td><td>インドネシアの歴史・民族</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>インドネシアの教育</td><td>インドネシアの学校生活の情報</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>インドネシアの伝統文化①</td><td>世界遺産</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>インドネシアの伝統文化②</td><td>無形文化財：パティク</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>小テスト第2回目～5回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>インドネシアの楽器・音楽</td><td>民族楽器～現在の音楽</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>インドネシアの祭り</td><td>伝統的な祭り</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>インドネシアのスポーツ</td><td>国民に人気のスポーツ・競技など。</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>インドネシアの社会・経済</td><td>インドネシアと日本の関係</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>小テスト第6回目～10回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>インドネシア人コミュニティー①</td><td>国際結婚</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>インドネシア人コミュニティー②</td><td>技能実習生</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>インドネシアコミュニティー③</td><td>介護福祉士・看護師</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>小テスト第12回目～14回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	プロローグ	授業内容とつづめるかたについて説明。		2	インドネシア多民族国家	インドネシアの歴史・民族	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	3	インドネシアの教育	インドネシアの学校生活の情報	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	4	インドネシアの伝統文化①	世界遺産	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	5	インドネシアの伝統文化②	無形文化財：パティク	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	6	小テスト第2回目～5回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	7	インドネシアの楽器・音楽	民族楽器～現在の音楽	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	8	インドネシアの祭り	伝統的な祭り	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	9	インドネシアのスポーツ	国民に人気のスポーツ・競技など。	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	10	インドネシアの社会・経済	インドネシアと日本の関係	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	11	小テスト第6回目～10回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	12	インドネシア人コミュニティー①	国際結婚	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	13	インドネシア人コミュニティー②	技能実習生	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	14	インドネシアコミュニティー③	介護福祉士・看護師	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	15	小テスト第12回目～14回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	プロローグ	授業内容とつづめるかたについて説明。																																																																	
2	インドネシア多民族国家	インドネシアの歴史・民族	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
3	インドネシアの教育	インドネシアの学校生活の情報	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
4	インドネシアの伝統文化①	世界遺産	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
5	インドネシアの伝統文化②	無形文化財：パティク	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
6	小テスト第2回目～5回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
7	インドネシアの楽器・音楽	民族楽器～現在の音楽	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
8	インドネシアの祭り	伝統的な祭り	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
9	インドネシアのスポーツ	国民に人気のスポーツ・競技など。	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
10	インドネシアの社会・経済	インドネシアと日本の関係	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
11	小テスト第6回目～10回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
12	インドネシア人コミュニティー①	国際結婚	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
13	インドネシア人コミュニティー②	技能実習生	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
14	インドネシアコミュニティー③	介護福祉士・看護師	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
15	小テスト第12回目～14回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 50% 3 回行う筆記テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回各テーマの内容理解を確認するため、議論を行います。積極的にやってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	旅行インドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2129e0		

授業概要・目的	本授業は、インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、実践的なインドネシア語を学ぶことを目的とする。この授業での学習を通して、インドネシア旅行をより充実させることを目標とする。
到達目標	個人でインドネシアへ観光旅行に行っても困らないインドネシア語の運用能力とインドネシア社会に関する知識を修得することができる。
授業方法と留意点	本授業は、場面ごとの表現について、「読む・聴く・話す・書く」の総合的能力を活かして授業を進めていく。 なお、本授業で用いる教材は、プリント資料を都度配付する。 授業に際しては、辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方、1年次で学んだことの再確認。	1年次で学んだ文法事項を確認しておくこと。 授業で学んだことを復習すること。
	2	基本的な表現	基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習を兼ねて修得する。	1年次で学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いられる会話表現の復習をすること。
	3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	4	空港にて①	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	5	空港にて②	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	6	交通機関を利用する①	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	7	交通機関を利用する②	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	8	復習	これまでに修得したフレーズの再確認を行い、中間テストを実施する。	これまでに学んだことの復習
	9	ホテルにて①	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	10	ホテルにて②	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	11	レストランにて	レストランを利用する際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	12	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	13	トラブルに巻き込まれる	トラブルに巻き込まれたり、病気に罹ったときに必要とされる表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	14	観光をする	観光地を巡る際の会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	15	総まとめ	これまでに習得した表現を再確認し、理解度確認テスト実施する。	これまで学んだ表現や単語を復習すること。

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%、授業への前向きな取り組み姿勢 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1 年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけていきましょう。
担当者の研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	基礎マレー語 a	科目名 (英文)	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2130e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。
到達目標	マレー語の運用能力の基礎を得ることができる。
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。授業の進め方の詳細は初回授業画指示する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
	2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
	9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認
	15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。

関連科目	基礎マレー語 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
	2	基礎マレー語	上田達	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。
-----------	---

学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問してください。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)
----------	------------------

備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。
----	--

科目名	基礎マレー語 b	科目名 (英文)	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2131e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。																																																																		
到達目標	マレー語の基礎的な運用能力を獲得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。 最終課題は授業期間終了後、採点のうえ返却する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文法 1</td><td>マレー語の kata bantu について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文法 2</td><td>マレー語の前置詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文法 3</td><td>マレー語の前置詞と kata arah について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>文法 4</td><td>マレー語の接続詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文法 5</td><td>マレー語の接続詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>表現 1</td><td>簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習 1</td><td>既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。</td><td>既習事項の復習に努めること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>表現 2</td><td>グラフや表を説明する文章を作成する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>演習 1</td><td>マレーシアの小学生向けの小説を読む。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>演習 2</td><td>マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>基礎講読 1</td><td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>基礎講読 2</td><td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習 2</td><td>既習事項 (文法、表現) について復習する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合復習</td><td>理解力を問うための確認テストを行う。 確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。</td><td>既習事項の復習に努めること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。	9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。 確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。 確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
関連科目	基礎マレー語 a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>マレーシア語辞典ポケット版</td><td>小野沢純、本田智津絵</td><td>大学書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基礎マレー語</td><td>上田達</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林	2	基礎マレー語	上田達		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林																																																																
2	基礎マレー語	上田達																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。																																																																		
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、質問してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)																																																																		
備考	拙著の教科書は前期開講の「基礎マレー語」を継続して使用する。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	中級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2132e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (D 級) 受検を想定した授業です。過去の試験問題を元に、出題カテゴリのそれぞれ (①語彙、②文法、③作文、④リスニング) について実践的に学びます。
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (D 級) 合格レベルのインドネシア語能力を修得することができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問題を中心に授業を進めます。その他にも、D 級合格レベルの新聞記事等の読解、短いニュースのディクテーションなども行います。適宜小テストも行う予定です。辞書は必ず携行してください。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の概要と対策について説明	インドネシア語技能検定試験対策の単語リストを配布するので、取り組むこと
	2	長文読解 (1)	ライフスタイルに関する新聞記事を読む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	3	練習問題 (1)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	4	練習問題 (2)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	5	練習問題 (3)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	6	長文読解 (2)	伝統文化に関する新聞記事を読む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	7	長文読解 (3)	社会に関する新聞記事を読む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	8	動画による学習 (1)	ニュース動画の部分的なディクテーションなどに取り組む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	9	動画による学習 (2)	ニュース動画の部分的なディクテーションなどに取り組む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	10	練習問題 (4)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	11	練習問題 (5)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	12	長文読解 (4)	自然・地理に関する新聞記事を読む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	13	長文読解 (5)	身体・精神に関する新聞記事を読む	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	14	練習問題 (6)	インドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問に取り組む。 内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
	15	まとめ	総合的な振り返りを行う。 到達度テストを実施する。	これまでの学習内容を確認しておくこと。 到達度テストの見直しを行うこと。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)	小学館
	2	快速マスターインドネシア語	イワン・スティヤ・ブディ、近藤由美	語研
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的参加度合 20%、小テスト 40%、到達度テスト 40%
学生への	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。

メッセージ	
担当者の 研究室等	金子研究室（7号館5階）
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3133e0		

授業概要・目的	この授業はインドネシア語、マレー語の中級以上の能力を養うことを目的とする。色々な分野のインドネシア語、マレー語の作文を読み書きできると目指す。																																																																		
到達目標	様々なインドネシア語、マレー語の作文を読む能力を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は多読、速読を目指している。指示に従って予習を行うこと。また新聞を読む場合はインターネットで、専門書を読む場合には図書館で、下調べをする必要もある。授業で用いるプリントは教員が用意する。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)	インドネシア語検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、基本的な知識の説明</td><td>新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新聞記事①ニュース: 読み書きを学習する。</td><td>インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>新聞記事②コラム: 読み書きを学習する。</td><td>インドネシア語、マレー語の新聞を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学術的および非学術的論文の読み書きの説明</td><td>インドネシア語、マレー語作文を読む</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>学術的論文の種類</td><td>インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>作文又は論文の段落について</td><td>インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>説明段落</td><td>インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>解説段落</td><td>インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説得段落</td><td>インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>議論の段落</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>物語の段落</td><td>インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>非学術的の作文</td><td>インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Puisi dan Pantun</td><td>インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 今回の提出物の準備。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>短編小説・小説</td><td>インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。</td><td>他の受講生の提出物を読んでおく。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>全ての授業についてをディスカッション</td><td>各自が行ったを受講生同士で批評する。</td><td>各自が行ったを他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、基本的な知識の説明	新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	2	新聞記事①ニュース: 読み書きを学習する。	インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	3	新聞記事②コラム: 読み書きを学習する。	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	4	学術的および非学術的論文の読み書きの説明	インドネシア語、マレー語作文を読む	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	5	学術的論文の種類	インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	6	作文又は論文の段落について	インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	7	説明段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	8	解説段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	9	説得段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	10	議論の段落	インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	11	物語の段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	12	非学術的の作文	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	13	Puisi dan Pantun	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 今回の提出物の準備。	14	短編小説・小説	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	他の受講生の提出物を読んでおく。	15	全ての授業についてをディスカッション	各自が行ったを受講生同士で批評する。	各自が行ったを他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、基本的な知識の説明	新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
2	新聞記事①ニュース: 読み書きを学習する。	インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
3	新聞記事②コラム: 読み書きを学習する。	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
4	学術的および非学術的論文の読み書きの説明	インドネシア語、マレー語作文を読む	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
5	学術的論文の種類	インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
6	作文又は論文の段落について	インドネシア語、マレー語の学術的論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
7	説明段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
8	解説段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
9	説得段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
10	議論の段落	インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
11	物語の段落	インドネシア語、マレー語の学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
12	非学術的の作文	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
13	Puisi dan Pantun	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 今回の提出物の準備。																																																																
14	短編小説・小説	インドネシア語、マレー語の非学術論文を読むための基礎知識を説明する。	他の受講生の提出物を読んでおく。																																																																
15	全ての授業についてをディスカッション	各自が行ったを受講生同士で批評する。	各自が行ったを他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。																																																																
関連科目	インドネシア語の科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業での発表 70%、各自が選んで行った翻訳 (30%)																																																																		
学生への メッセージ	作文・論文を読む際にどのように下調べを行い、どのような辞書を選び、最終的に内容を理解するプロセスを学んで下さい。																																																																		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	実践インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3134e0		

授業概要・目的	日々の文脈で使用されているマレー語に触れながら、話す・書くといったマレー語の実践的な運用能力の獲得を目指す。フォーマル／インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達することの訓練を行う。																																																																		
到達目標	マレー語能力（特に会話と表現）の向上。																																																																		
授業方法と留意点	* 資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 * 授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。</td><td>指示された方法で資料にアクセスする。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>紹介 1</td><td>組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>3</td><td>紹介 2</td><td>受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>4</td><td>紹介 3</td><td>主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。</td><td>紹介文の完成</td></tr> <tr> <td>5</td><td>演習 1</td><td>紹介文を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。</td><td>確認テストのために、既習事項を確認する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文書 1</td><td>マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文書 2</td><td>受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文書 3</td><td>既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。</td><td>文章の完成と推敲</td></tr> <tr> <td>9</td><td>演習 2</td><td>作成した文書を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。</td><td>確認テストのために、既習事項を確認する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>広告 1</td><td>マレー語の広告表現について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>11</td><td>広告 2</td><td>マレー語で広告を作成する。</td><td>広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論説 1</td><td>新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論説 2</td><td>主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。</td><td>文章の完成、プレゼンテーションの準備</td></tr> <tr> <td>14</td><td>演習 3</td><td>第 13 講義までの内容について復習するとともに、理解度を問う確認テストをおこなう。</td><td>既習事項の復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合演習</td><td>これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。</td><td>既習事項の確認と発表のための資料作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。	2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成	5	演習 1	紹介文を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。	6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲	9	演習 2	作成した文書を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。	10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲	12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備	14	演習 3	第 13 講義までの内容について復習するとともに、理解度を問う確認テストをおこなう。	既習事項の復習。	15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。																																																																
2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成																																																																
5	演習 1	紹介文を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。																																																																
6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲																																																																
9	演習 2	作成した文書を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。																																																																
10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲																																																																
12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備																																																																
14	演習 3	第 13 講義までの内容について復習するとともに、理解度を問う確認テストをおこなう。	既習事項の復習。																																																																
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成																																																																
関連科目	時事インドネシア・マレー語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>マレーシア語学習辞典</td><td>川上雄作</td><td>アジアのことばと辞書の会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終課題（60%）、発表等や提出物の提出状況等授業への取り組み（40%）から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	マレー語を使った表現を楽しみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																																																																		
備考	受講者の人数と関心を見て、課題の詳細（作成方法や提出方法等）を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢa	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3135d0		

授業概要・目的	この授業ではインドネシア⇄日本社会における話題や出来事について議論する。																																																																		
到達目標	1. インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 2. インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。 3. プレゼンテーションインドネシア語にも役に立つ。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かさないこと。インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS 等から受講者がニュースや記事を取りあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。</td><td>・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本のニュースを読む。</td><td>会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>3</td><td>インドネシアのニュースを読む。</td><td>会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>4</td><td>日本の文化について一つテーマにする。</td><td>会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>5</td><td>日本の文化について一つテーマにする。</td><td>会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>6</td><td>インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る</td><td>感想又は意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。</td><td>感想文を作成する作業。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第2回～6 回までの各テーマの発表。</td><td>発表又は意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>9</td><td>インドネシア 日本の音楽について。</td><td>動画を見る。音楽を聴く。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>10</td><td>インドネシア 日本の音楽について。</td><td>感想文を発表する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本の観光について。</td><td>新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>12</td><td>インドネシアの観光について</td><td>配信される記事の前後関係を正確に把握する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本 インドネシア観光について。</td><td>感想文あるいは意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>14</td><td>インドネシアの映画を観る</td><td>話や映画のテーマについて確認。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>15</td><td>感想文の発表。</td><td>発表又は意見交換。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習	2	日本のニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	3	インドネシアのニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	4	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	5	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	6	インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る	感想又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	7	第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。	感想文を作成する作業。	準備と予習、復習の徹底	8	第2回～6 回までの各テーマの発表。	発表又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	9	インドネシア 日本の音楽について。	動画を見る。音楽を聴く。	準備と予習、復習の徹底	10	インドネシア 日本の音楽について。	感想文を発表する。	準備と予習、復習の徹底	11	日本の観光について。	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底	12	インドネシアの観光について	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底	13	日本 インドネシア観光について。	感想文あるいは意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	14	インドネシアの映画を観る	話や映画のテーマについて確認。	準備と予習、復習の徹底	15	感想文の発表。	発表又は意見交換。	準備と予習、復習の徹底
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習																																																																
2	日本のニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
3	インドネシアのニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
4	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
5	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
6	インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る	感想又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
7	第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。	感想文を作成する作業。	準備と予習、復習の徹底																																																																
8	第2回～6 回までの各テーマの発表。	発表又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
9	インドネシア 日本の音楽について。	動画を見る。音楽を聴く。	準備と予習、復習の徹底																																																																
10	インドネシア 日本の音楽について。	感想文を発表する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
11	日本の観光について。	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底																																																																
12	インドネシアの観光について	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
13	日本 インドネシア観光について。	感想文あるいは意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
14	インドネシアの映画を観る	話や映画のテーマについて確認。	準備と予習、復習の徹底																																																																
15	感想文の発表。	発表又は意見交換。	準備と予習、復習の徹底																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新聞記事</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新聞記事			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新聞記事																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	1. 準備・予習・復習からなるホームワーク (50%) 2. 授業での発表とレポート (50%) 詳細は、第1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、インドネシア語の記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢb	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3136d0		

授業概要・目的	1. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 2. インドネシア語の詞を読んで、文学的な表現や感情的な表現を理解することが出来る。 3. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。 前期に引きつづきインドネシア語で詩・スピーチ・司会・パーソナリティなど原稿の作成から発表までふさわしい表現出来るようになる。
到達目標	人の前にスピーチや朗読・演劇することが出来るようになる。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。扱う単語もやや難しいので、何度も繰り返し聞いてみましょう。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定C級 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1. プロローグ	1. 授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 2. シャドーイング	授業内容の復習
	2	インドネシア語の詩 ①	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
	3	インドネシア語の詩 ②	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
	4	インドネシアのラジオ①	1. 聞く・内容理解する。 2. 原稿の作成。	授業内容の復習
	5	インドネシアのラジオ ②	1. 原稿の作成。 2. 発表する。	授業内容の復習
	6	インドネシア語のスピーチ ①案内放送	スピーチ内容と原稿の作成	授業内容の復習
	7	インドネシア語のスピーチ ②司会 パーティ・結婚式など。	原稿の作成と発表。	授業内容の復習
	8	広告を作る①	1. 企画：テーマ 2. 原稿の作成	授業内容の復習
	9	広告を作る②	各原稿の発表・議論	授業内容の復習
	10	発表会	第2回目～9回目の中から受講者一人一人関心がある内容について詳しく発表する。	授業内容の復習
	11	ナレーションの朗読①	脚本の作成と読解の演習。	授業内容の復習
	12	ナレーションの朗読②	脚本の読解の発表。	授業内容の復習
	13	演劇①	演劇の脚本の作成と読解の演習	授業内容の復習
	14	演劇②	演劇の脚本の作成と読解の演習	授業内容の復習
	15	演劇 ③発表	演劇の発表	授業内容の復習

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1. クラス活動原稿作成など 50% 2. 発表 50% 第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	前期の『インドネシア語コミュニケーションⅢa』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。 この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	時事インドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3137e0		

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。提出物は原則として翌週に返却する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	基礎マレー語
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題（50%）、確認課題（20%）、提出物等の授業への取り組み（30%）から総合的に評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。			
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階(上田研究室)			
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。			

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3138e0		

授業概要・目的	インドネシア語の力を活かしてインドネシアで働くことを想定した授業です。この授業では、ビジネス会話表現や経済用語だけでなく、ビジネス・パートナーとして共に働くことになるインドネシア人の社会・文化習慣や、社会関係のありようを理解することにも重点を置きます。
到達目標	インドネシア語で働く際に有益なインドネシア語の語彙力や書き言葉、フレーズを修得するとともに、インドネシア人のビジネス慣習や、社会制度、そして社会的・文化的な習慣を理解する。
授業方法と留意点	フォーマルなインドネシア語を中心に学びます。 テキストは各回のテーマに応じた PDF ファイルを配布する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (B、C 級)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義内容についてのオリエンテーション	授業の内容や授業の仕方について	授業の内容確認。
	2	インドネシアの就職活動の方法	求人応募手紙を作成する。	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	3	ビジネス会話②初対面・紹介	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	4	ビジネス会話③出迎え	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	5	ビジネス会話④工場見学	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	6	ビジネス会話⑤商談	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	7	ビジネス会話⑥会食	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	8	1 回～7 回まとめ (小テスト)	復習・中間テスト	1 回から 7 回までに学んだことを再確認。
	9	ビジネスメール①	ビジネスメールの基本書式を学習する。	配布資料を事前学習する。
	10	ビジネスメール②依頼	各種依頼文を学習する。	配布資料を事前学習する。
	11	ビジネスメール③照会・回答	照会文書ならびに回答文書をや共通的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	12	ビジネスメール④お礼・お詫び	お礼・お詫びを述べる際の定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	13	ビジネスメール⑤承諾書・断り	承諾・断りに関する定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	14	ビジネスメール⑥案内・通知	案内・通知に関わる定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	15	ビジネスメール⑦催促・抗議	催促・抗議の定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネスに役立つインドネシア語	小笠原健二・V. R クマラニングラム	IBC パブリッシング
	2	仕事に役立つインドネシア語	佐藤正範	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	インドネシアで働くことを想定した授業なので、やや高度な文語的表現、公式行事における表現、行政制度や金融経済等の専門用語を学んでいきます。さらにビジネス関連のリスニング能力向上のために、BBC Indonesia のポッドキャストなど経済ニュースをインドネシア語で定期的に聴くことを勧めます。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。
----	---------------------------

科目名	上級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3139e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (C 級) 受験を想定した授業です。過去 3 年間の試験問題と、多様な新聞記事などを用い、出題カテゴリのそれぞれ (①読解、②語彙、③文法、④作文、⑤リスニング) について実践的に学びます。
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (C 級) 合格レベルの、インドネシア語運用能力を修得することができます。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に授業を進めます。その他、C 級合格レベルの、多様な分野に関する新聞記事の読解や、ニュース動画を通じた学習、およびリスニング練習などを行います。教科書として、イワン・スティヤ・ブディ、近藤由美、2021 年、『快速マスターインドネシア語』、語研 (2,600 円+税) を用います。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (C 級)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	インドネシア語技能検定の概要および、C 級合格に求められる言語レベル、そして C 級合格に向けた学習方法の説明を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。
	2	練習問題 (1) 前半部分	練習問題 (1) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の重複文について復習する。
	3	練習問題 (1) 後半部分	練習問題 (1) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙、受動態／能動態の変化、直接話法／間接話法の変化などを復習する。
	4	練習問題 (2) 前半部分	練習問題 (2) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の条件文について復習する。
	5	練習問題 (2) 後半部分	練習問題 (2) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙、接頭辞 ter-, pe-, se- などの多様な使われ方などを復習する。
	6	読解／リスニング練習 (1)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な各種表現について復習する。
	7	読解／リスニング練習 (2)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	8	読解／リスニング練習 (3)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 単語リストの単語について、小テストを行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	9	練習問題 (3) 前半部分	練習問題 (3) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの定着に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の慣用表現、ことわざなどについて復習する。
	10	練習問題 (3) 後半部分	練習問題 (3) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの定着に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙を復習する。
	11	練習問題 (4) 前半部分	練習問題 (4) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの定着に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙を復習する。
	12	練習問題 (4) 後半部分	練習問題 (4) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,500 語の単語リストの定着に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙を復習する。
	13	読解／リスニング練習 (4)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,500 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	14	読解／リスニング練習 (5)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	自分が関心を持っているテーマのインドネシア語記事を探して読んでみる。
	15	まとめ	学習内容の振り返りを行い、B 級などさらに高度なインドネシア語技能検定に関する概説を行う。 授業内で到達度テストも行う。	文法、語彙、表現方法など、これまでの総復習をする。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	快速マスターインドネシア語	イワン・スティヤ・ブディ、近藤由美	語研
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)	小学館

	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 40%、到達度テスト 60%			
学生への メッセージ	インドネシア語技能検定 C 級合格に向けて、一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	金子研究室（7 号館 5 階）			
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い 15 時間以上行うこと。			

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3140d0		

授業概要・目的	これまでに学んだインドネシア語を正式な状況で使用することが出来、公の場で話す事が出来ます。 インドネシア語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。			
到達目標	学生は主題を適切かつ正確に伝えることができます。			
授業方法と留意点	*「インドネシア語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。 *資料の収集やインドネシア語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 *授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
	2	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションの種類紹介	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	3	公の場で話すテクニック	様々なプレゼンテーションを学ぶ	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	4	プレゼンテーションの原稿の作成 1	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらインドネシア語による文を作成する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	5	プレゼンテーションの原稿の作成 2	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらインドネシア語による文を作成する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	6	プレゼンテーションの原稿の作成 3	原稿確認・プレゼンテーション練習	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	7	プレゼンテーションの原稿の作成 4	発表会・評価・反省会	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	8	広告 1	広告について説明	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	9	広告 2	広告の作成	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	10	広告 3	広告の発表・評価・反省会	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
	12	スピーチ 1	スピーチについての説明	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	13	スピーチ 2	原稿の作成	文章の完成、プレゼンテーションの準備
	14	スピーチ 3	自習練習	実習練習
	15	スピーチ 4	スピーチのはっぴゅ・これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成
関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	インドネシア語プレゼンテーションコンテスト」を含めて三回実施する演習課題（70%）、その他課題の提出状況等授業への取り組み（30%）から総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	インドネシア語を使った表現を楽しみましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。			

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3141e0		

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後に評価を記して返却する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・エニ担当)	シラバスを読んでおくこと。
	2	講読 1	社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う (エニ担当)	予習をしておくこと。
	3	講読 2	インドネシア語で書かれた文学作品を読む (エニ担当)	予習をしておくこと。
	4	講読 3	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
	5	論文の執筆 1	受講生が興味持つトピックについて論文を精読の執筆を行うための基礎知識を学習する。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
	6	論文の執筆 2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
	7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
	8	プレゼンテーション	5 週目～7 週目までのまとめとして発表する。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。
	9	文献講読 1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	10	文献講読 2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	11	文献講読 3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	12	資料読解 1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	13	資料読解 2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	14	資料読解 3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
	15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じてプリントを用意する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	前半 (エニ担当) と後半 (上田担当) のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み (30%) と、最終課題 (70%) から総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階) 7 号館 5 階 (上田研究室)
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	インドネシア・マレー語学研究	科目名 (英文)	Indonesian-Malay Linguistic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3142e0		

授業概要・目的	インドネシア語やマレー語で書かれた文献に触れることで、インドネシア語、マレー語についての専門的な知識を習得をするだけでなく、当該言語が話されている社会に関する知識を得ることを目的とする。
到達目標	インドネシア語とマレー語の実践的な運用能力を獲得する。
授業方法と留意点	本授業は、教員側から講義するだけでなく、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。プリント/PDF ファイルを配布するが、テーマに応じて、図書館等での文献調査が必要。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語とマレー語に関する理解や、インドネシアやマレーシアの社会についての理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明 (上田・金子担当)	これまで学んできたインドネシア語、マレー語の再確認 次回の予習
	2	マレー語の歴史 1	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	3	マレー語の歴史 2	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	4	マレーシアの歴史 1	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	5	マレーシアの歴史 2	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	6	マレーシアの文化 1	マレーシアのマレー人の衣服について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	7	マレーシアの文化 2	マレーシアのマレー人の食文化について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	8	マレーシアの文化 3	マレーシアのポピュラーカルチャーについて書かれたマレー語文献を読むとともに、到達度を確認する課題に取り組む (上田担当)	総合復習
	9	時事インドネシア語を学ぶ 1	「政治」・「司法」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	10	時事インドネシア語を学ぶ 2	「経済」・「都市問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	11	時事インドネシア語を学ぶ 3	「先端テクノロジー」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	12	時事インドネシア語を学ぶ 4	「医療・健康」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	13	時事インドネシア語を学ぶ 5	「ファッション」・「ライフスタイル」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	14	時事インドネシア語を学ぶ 6	「環境問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	15	時事インドネシア語を学ぶ 7	「宗教」・「国際関係」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶとともに、到達度を確認する課題に取り組む。(金子担当)	今回の復習 課題の準備

関連科目	主言語インドネシア・マレー語の科目すべて
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第 8 回の講義と第 15 回の講義の際に実施する到達度の確認課題 (60%) と平常点 (40%) から評価する
-----------	---

学生へのメッセージ	インドネシア語とマレー語にたくさん触れて、運用能力を高めましょう。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室、7 号館 5 階金子研究室
----------	-----------------------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。
----	--

科目名	英語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1143c0		

授業概要・目的	本授業では、世界に広がる英語と関連する文化について概観し、学ぶことが目的である。																																																																		
到達目標	英語が世界各地でどのような特徴をもち、どのように使われているかについて、各地の文化と合わせて理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	テーマに応じて、視聴覚教材も用いながら授業を進める。発言を多くするなど、積極的な参加を求める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	・教員養成 ・異文化理解 ・教養																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業計画などの説明、世界の英語とは</td><td>授業計画と概要の確認 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>イギリス英語とその方言</td><td>イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化</td><td>イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ケルト語地域の英語</td><td>ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化</td><td>ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アメリカ英語とカナダ英語</td><td>北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化</td><td>アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>オーストラリア英語とニュージーランド英語</td><td>オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化</td><td>オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>英語を第一言語とする、その他の地域</td><td>ジブラルタル、セントヘレナ島などについて</td><td>英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>インドとその周辺地域の英語</td><td>インドへの英語の広まり、インドの英語と文化</td><td>インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>東南アジアの英語</td><td>東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化</td><td>東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>中間テストと解説</td><td>8 週目までの内容に関するテストと解説</td><td>中間テストの予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>アフリカの英語</td><td>アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて</td><td>アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>カリブ地域の英語</td><td>カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明</td><td>カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ヨーロッパの英語</td><td>イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用</td><td>ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>中東における英語</td><td>中東における英語の使用</td><td>中東における英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>東アジアの英語、まとめ</td><td>東アジアにおける英語の使用、まとめ</td><td>東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>期末プロジェクト報告</td><td>報告とフィードバック</td><td>期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の英語とは	授業計画と概要の確認 (4 時間)	2	イギリス英語とその方言	イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化	イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)	3	ケルト語地域の英語	ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化	ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)	4	アメリカ英語とカナダ英語	北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化	アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)	5	オーストラリア英語とニュージーランド英語	オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化	オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)	6	英語を第一言語とする、その他の地域	ジブラルタル、セントヘレナ島などについて	英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)	7	インドとその周辺地域の英語	インドへの英語の広まり、インドの英語と文化	インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)	8	東南アジアの英語	東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化	東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)	9	中間テストと解説	8 週目までの内容に関するテストと解説	中間テストの予習・復習 (4 時間)	10	アフリカの英語	アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて	アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)	11	カリブ地域の英語	カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明	カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)	12	ヨーロッパの英語	イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用	ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)	13	中東における英語	中東における英語の使用	中東における英語の予習・復習 (4 時間)	14	東アジアの英語、まとめ	東アジアにおける英語の使用、まとめ	東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)	15	期末プロジェクト報告	報告とフィードバック	期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の英語とは	授業計画と概要の確認 (4 時間)																																																																
2	イギリス英語とその方言	イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化	イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)																																																																
3	ケルト語地域の英語	ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化	ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
4	アメリカ英語とカナダ英語	北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化	アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
5	オーストラリア英語とニュージーランド英語	オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化	オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
6	英語を第一言語とする、その他の地域	ジブラルタル、セントヘレナ島などについて	英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)																																																																
7	インドとその周辺地域の英語	インドへの英語の広まり、インドの英語と文化	インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
8	東南アジアの英語	東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化	東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
9	中間テストと解説	8 週目までの内容に関するテストと解説	中間テストの予習・復習 (4 時間)																																																																
10	アフリカの英語	アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて	アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
11	カリブ地域の英語	カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明	カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
12	ヨーロッパの英語	イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用	ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
13	中東における英語	中東における英語の使用	中東における英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
14	東アジアの英語、まとめ	東アジアにおける英語の使用、まとめ	東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)																																																																
15	期末プロジェクト報告	報告とフィードバック	期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)																																																																
関連科目	エアスタディーズなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>World Englishes 世界の英語への招待</td><td>田中春美・田中幸子 編</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子 編	昭和堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子 編	昭和堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 30% 中間テスト 40% 期末プロジェクト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	英語は世界の様々な地域で使われています。世界に広がる英語の現状と特徴を学んでみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室																																																																		
備考	授業内容については、進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は 60 時間程度とする。テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	スペイン語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1145a0		

授業概要・目的	スペイン語圏に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。 スペイン語圏のうち、話題はスペインを中心とするが、ラテンアメリカに関しても適宜、触れていく。
到達目標	スペインの各地域について、地理、歴史、文化に関する基本的知識を身につける。 座学、すなわち講義を聞きおもに話し（口述）の内容を要約しながら書き留める作業になれること。 基礎的なスペイン語で、スペイン語圏の文化事象（固有名詞を含む）を正確に言い表せるようになること。
授業方法と留意点	対面での講義となる。書籍としての教科書は使わず、プリントとスライドを使用する。 ただ話を聞くだけでなく、メモを取る力も見ていく。
科目学習の効果（資格）	集中して話を聞くこと、話の内容を要約すること、それを書き出してまとめること。 座学の訓練。スペイン語基礎。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏 スペイン語の特徴	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
	2	スペインの地理（1）	スペインの地形、風土、産物	地図
	3	スペインの地理（2）	スペインの食文化	地図
	4	スペインの地理（3）	行政区分と主要都市 自治州について	スペインの地域区分 17の自治州
	5	スペインの地理（4）	地方と地方文化	スペインは1つの国か
	6	既習事項の確認 ラテンアメリカとは	既習範囲の小テスト ラテンアメリカの意味、地理	ラテンアメリカとは
	7	スペインの歴史（1）	古代と中世 スペインの世界遺産（1）	イベリア半島の歴史
	8	スペインの歴史（2）	近世 スペインの黄金時代	太陽の沈まぬ帝国
	9	ラテンアメリカの歴史（1）	先スペイン期のアメリカ大陸 「発見」と征服、植民地時代	アメリカ大陸の世界遺産
	10	スペイン・ラテンアメリカの歴史	19世紀以降のスペイン語圏の歴史	地図
	11	既習事項の確認 スペイン語の歴史	第7回～第10回の範囲の小テスト スペイン語はいつできたか	スペイン語の中の外来語
	12	スペインの文化（絵画）	近代スペインの天才画家たち	絵画
	13	スペインの芸術、文学	現代スペインの天才画家たち スペイン文学の古典	芸術
	14	理解度確認テスト	既習事項（全般）のテスト	総復習
	15	総括	これまでの総まとめ テスト解説	配布プリント・ノートの整理

関連科目	「エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）」「同（ヨーロッパ）」
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト（2回）30%、理解度確認テスト 70%
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	日ごろから本や新聞記事を読み、ニュースを見聞きし、日本と世界の出来事、歴史を知ろうと努めること。 予習（読解）を必ずノートを作ったうえでやってから授業に臨むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学ぶ。事前・事後学習に各1時間を要する。 興味や関心は、知識や情報から芽生えるものです。予備知識（世界史等）が必要なものとにかく読書する習慣をつけよう。 プリントなどは一度しか配布しない。欠席により不利益を被らないよう意識的に努めること。 試験の答えは実施後次の授業内で返却し解説する。
----	--

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名 (英文)	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, 金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1146a0		

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得する。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、これらの国と結びつきの深いシンガポール、ブルネイ、東ティモールといった国々についても適宜言及する。あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。
到達目標	インドネシア語とマレー語が話されている地域に関する基礎的な知識を得ること、インドネシア・マレー語圏の人々の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解すること、の二点を到達目標とする。
授業方法と留意点	1. 前半は金子が行い、後半は上田が行う。 2. 授業の進め方の詳細は初回の授業時に指示する。 3. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 4. 前半（金子担当）は映像資料やプリントなどを使用した講義が中心であるが、適宜、グループディスカッションのほか、小レポート等の課題を出す。 提出物は評価を付した上で、原則として翌週に返却する。 5. 後半（上田担当）は映像資料やプリントなどを用いて講義を行う。適宜、学習事項に関連した課題を出す。

科目学習の 効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明（上田、金子担当）	関連する文献を紹介するので読むこと。
	2	インドネシア 1：基礎知識	インドネシアの基礎知識を知る（クイズ形式&いくつかの現物資料による紹介あり）。参考文献等の紹介。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
	3	インドネシア 2：近現代史を知ろう	近・現代を中心に歴史を概観することで、現代インドネシアの理解の核とする。近・現代における日本とインドネシアの関係も学ぶ。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
	4	インドネシア 3：消費生活とライフスタイルの変化を知ろう	「消費者」としてのインドネシア人に注目しながらライフスタイルの変化を示す。一般消費財メーカーや飲食業界など多様な日系企業の進出といくつかの導入エピソードから、インドネシアの消費生活とライフスタイルの変化を知る。労働・国内移民・巡礼・観光など、現代インドネシア人の多様な移動・移住を扱う。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
	5	インドネシア 4：民族集団・伝統文化・世界遺産	インドネシアにおける主要な民族集団とその伝統文化を概観していく。世界遺産のボロブドゥル寺院などの紹介あり。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
	6	インドネシア 5：民族誌映画でまなぶ文化的価値観の違い	民族誌映画「Ana Boto1」を観て、自分たちとの文化や価値観の違いを考える。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
	7	インドネシア 6：宗教	インドネシアにおける宗教・信仰の実践を学び、社会のありようや人生観の違いについて学ぶ。（金子担当）	各回のノートを読み、まとめておくこと。 各回の配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。 7 回までの授業で学んだ内容を整理しておくこと。
	8	前半まとめ	授業前半の総括をおこなう。「到達度の確認課題」を課し、評価する。（金子担当）	授業で学んだ内容をノートに整理しておくこと。
	9	マレーシア 1（多民族社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について概説する。多民族社会という概念を説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	10	マレーシア 2（マレー人社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。マレー人の生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	11	マレーシア 3（華人社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。中国系住民の生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	12	マレーシア 4（インド系の人々、少数民族の人々の社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。インド系住民やオランアスリ、サバヤサラワクの人びとの生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	13	ブルネイ	ブルネイという国やブルネイに住む人びとについて概説する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	14	シンガポール	シンガポールという国やシンガポールに住む人びとについて概説する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
	15	まとめ	授業の総括と到達度の確認をはかる課題を実施する。終了後は講評と授業の振り返りをおこなう。（上田担当）	ノートやプリントを使って、授業で学んだ内容を整理しておくこと。
関連科目	インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2	インドネシアの基礎知識	加納啓良	めこん
	3	東南アジア文化事典	信田敏宏	丸善
評価方法 (基準)	前半（金子担当）と後半（上田担当）のそれぞれについて次のような観点から評価したものを総合する。 前半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。 後半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。			
学生への メッセージ	スポーツ・文芸・映像・音楽・動物・交通・ファッション・グルメなど自分の関心分野にあわせて、日常でもインドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポールのニュースや情報を積極的に探してください。			
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室、7号館5階上田研究室			
備考	事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。			

科目名	エリアスタディーズ（日本）	科目名（英文）	Area Studies（Japan）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1147a0		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは宮崎駿監督の映画『もののけ姫』と「和食」です。『もののけ姫』にえがかれる「日本」を題材に日本文化の相対化を行います。また、身近な「食」から、日本の生活史、また現代日本の問題についても考えます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。 教材をMoodleにアップしますので、授業が始まるまでに各自印刷して用意しておいてください。 授業で課した課題については、整理して講義で紹介、講評する。
科目学習の効果（資格）	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	もののけ姫について web や書籍で調べておく
	2	日本の周縁社会 ～『もののけ姫』とエミシの世界～	単一民族国家ではない「日本」の領域と周縁について考えます。	蝦夷について調べておく
	3	日本中世の村と町 ～『もののけ姫』の中の「日本」～	中世における村と町の成立と実態について解説します。	講義で説明した町と村の特質についてまとめておく
	4	製鉄と身分社会 ～『もののけ姫』におけるタタラ場の世界～	製鉄を通して、日本中世の生業、身分について考えます。	タタラ製鉄について web や書籍で調べておく
	5	日本における自然界と神の世界 ～『もののけ姫』におけるシシガミの世界～	日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	web を用いて日本の神社で祀られる獣神の事例をまとめる
	6	『もののけ姫』の語る「日本」1	『もののけ姫』を通して見える「日本」について受講者がそれぞれ考え、議論します。	もののけ姫を題材に日本についての考えを整理しておく
	7	『もののけ姫』の語る「日本」2	『もののけ姫』と日本文化について総括します。	他の受講生の意見を踏まえて自分の考えを整理する
	8	和食の源流	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	自分が住む地域の氏神、祭礼について調べておく
	9	日本における食肉文化	日本における食肉の歴史と、日本人に与えた影響について考えます。	授業で紹介した食肉に関する法令を整理しておく
	10	米・小麦と日本	日本人の主食である米と稲作文化、また小麦の栽培と粉物文化の成立について考えます。	食が体に与えた影響について授業で解説したことをもとに整理する
	11	和食の展開 ～精進料理と本膳料理～	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	精進料理、本膳料理についてしっかり復習しておく
	12	麴と和食	麴菌と調味料の歴史について考えます。	漫画『もやしもん』を読んでおく
	13	和食の広がり ～2つの「かいせきりょうり」～	和食が社会に展開する過程について解説します。	日本における喫茶文化と江戸時代の町人文化について調べておく
	14	世界に広がる和食	現代における和食の実態や問題点について考えます。	和食の世界遺産登録について調べておく
	15	確認テストと授業のまとめ	講義の総括を行います	今までのノートをまとめておく

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題1（20%）、課題2（20%）、確認テスト（60%） 詳しくは初回に説明します。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	エリアスタディーズ（東アジア）	科目名（英文）	Area Studies（East Asia）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1148a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。																																																																		
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心で行う。 第1～9回は中国、第11～15回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入：中国とは？（小都）</td><td>中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。</td><td>配布資料の復習（事後）（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>華北（小都）</td><td>北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>華東（小都）</td><td>上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>華中（小都）</td><td>中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>西南・西北（小都）</td><td>中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>華南（小都）</td><td>広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>台湾（小都）</td><td>台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>華僑・華人（小都）</td><td>世界と日本の華僑・華人について学ぶ。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>授業の中間まとめと確認テスト（小都）</td><td>これまでの内容のまとめと確認テスト</td><td>これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>韓国新聞についての基礎知識（田中）</td><td>韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>韓国社会を読み解くための補助線（田中）</td><td>映像作品の鑑賞と解説</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入：中国とは？（小都）	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習（事後）（1 時間）	2	華北（小都）	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	3	華東（小都）	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	4	華中（小都）	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	5	西南・西北（小都）	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	6	華南（小都）	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	7	台湾（小都）	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	8	華僑・華人（小都）	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	9	授業の中間まとめと確認テスト（小都）	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）	10	韓国新聞についての基礎知識（田中）	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）	11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	14	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	15	韓国社会を読み解くための補助線（田中）	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入：中国とは？（小都）	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習（事後）（1 時間）																																																																
2	華北（小都）	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
3	華東（小都）	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
4	華中（小都）	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
5	西南・西北（小都）	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
6	華南（小都）	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
7	台湾（小都）	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
8	華僑・華人（小都）	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
9	授業の中間まとめと確認テスト（小都）	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）																																																																
10	韓国新聞についての基礎知識（田中）	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）																																																																
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
14	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
15	韓国社会を読み解くための補助線（田中）	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	第1～9回（60%）、第10～15回（40%）を合算して評価します。 第1～9回については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。 第10～15回については、授業内で指示する課題への取り組み（提出状況および内容）に基づいて評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。																																																																		
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）・田中研究室（7 号館 4 階）																																																																		
備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。																																																																		

科目名	エリアスタディーズ（東南アジア）	科目名（英文）	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達、山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1149a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を山本、島嶼部を上田が担当する。
到達目標	＊東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 ＊東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 ＊受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 ＊話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。（上田・山本）	紹介する資料を参照すること。
	2	東南アジア（大陸部）の国々	自然環境、民族、宗教（山本）	紹介する資料を参照すること。
	3	東南アジア（大陸部）の宗教	仏教の広がりとその受容・発展（山本）	紹介する資料を参照すること。
	4	東南アジア（大陸部）の歴史	植民地支配と独立（山本）	紹介する資料を参照すること。
	5	東南アジア（大陸部）の国々——ベトナム	ベトナム ベトナム戦争と日本（山本）	紹介する資料を参照すること。
	6	東南アジア（大陸部）の国々——タイ	タイ 観光、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。
	7	東南アジア（大陸部）の国々——ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。
	8	東南アジア（大陸部）のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（山本）	紹介する資料を参照すること。
	9	東南アジア（島嶼部）の国々	自然環境、民族、宗教（上田）	紹介する資料を参照すること。
	10	東南アジア（島嶼部）の宗教	イスラームとキリスト教の広がり（上田）	紹介する資料を参照すること。
	11	東南アジア（島嶼部）の歴史	植民地支配と独立（上田）	紹介する資料を参照すること。
	12	東南アジア（島嶼部）の国々——マレーシア	マレーシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。
	13	東南アジア（島嶼部）の国々——インドネシア	インドネシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。
	14	東南アジア（島嶼部）の国々——東ティモール	東ティモール（上田）	紹介する資料を参照すること。
	15	東南アジア（島嶼部）のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（上田）	紹介する資料を参照すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社
	3			

評価方法（基準）	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 ＊平常点 40% （授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊到達度の確認を問う課題 60% （授業期間中に行う）
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室 7 号館 2 階（非常勤講師室）
----------	-----------------------------------

備考	＊受講者数等によって、評価方法を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 ＊質問は原則として授業中に受け付ける。 ＊事前事後学習時間は、60 時間以上とする。
----	--

科目名	エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	科目名（英文）	Area Studies（Europe）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1150a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパを理解するために、3つの地域（フランス、イギリス、ドイツ）に焦点をあて、多角的な観点からそれぞれの地域が抱える特徴的な問題を考察する。フランスにおいては、フランス革命から始まる共和政について理解し、ナショナリズムと政教分離（ライシテ）の問題から、国家における多様性と共存のあり方について検討する。イギリスについては、産業革命による社会の近代化、そしてヴィクトリア時代の文化の形成を踏まえたうえで、ジェンダーについて検討する。そして、ドイツについては、ナチス・ドイツをめぐる問題から、人種や戦争、戦後の記憶などについて検討する。今日にも関わる重要な問題を、歴史の視点を含めて考察することで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、人文・社会的知識を習得し、思考力と判断力に基づいて問題を発見する力を養う。																																																																		
到達目標	フランス、イギリス、ドイツの歴史やそれぞれの地域が抱える諸問題を理解するとともに、そうしたことが現代社会にどのような影響を与えているかを説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心で行う。 パワーポイントによる授業を行い、それに関する資料を配布する。また、適宜、その他参考となる資料も配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	フランス、イギリス、ドイツの歴史と地域の特徴をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>現代のヨーロッパ</td><td>・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴</td><td>事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>イギリスの近代</td><td>・産業革命 ・19世紀のイギリス</td><td>産業革命について調べてくる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ヴィクトリア時代のイギリスと女性</td><td>イギリスにおける女性君主</td><td>事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べ、授業後はそれに関して考察する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>イギリスの現代</td><td>・女性の社会進出 ・イギリスの文化や政治</td><td>現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>フランスの近代</td><td>・フランス革命の理念と文化</td><td>フランス革命について調べ、その前と後で何が変わったのかについて考える。事前に、ここ10年くらいのフランスの大きな事件について調べる。授業後は、ここまでのフランスに関する歴史と諸問題について整理する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>フランスのナショナリズム</td><td>フランス人らしさ</td><td>授業前にフランス人らしさについてイメージを書きだし、授業後はフランスのナショナリズムについて考える。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>フランスの政教分離</td><td>フランス人とカトリック</td><td>カトリックについて調べてくる。授業後は、現在のフランスの宗教について調べる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>フランスの現代</td><td>政治と移民</td><td>フランスの抱える現在の問題について調べる。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>フランスに関するまとめ</td><td>これまで講義した内容をまとめ、グループディスカッションを行う。</td><td>事前にこれまでの内容をまとめる。事後、ディスカッションをもとに意見をまとめる。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ナチス・ドイツとは。</td><td>・ナチス・ドイツの全体像</td><td>事前に、ヒトラーについて調べ、20世紀前半のドイツの年表を作る。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ナチス・ドイツの政策（1）</td><td>・プロパガンダ ＊発表を予定</td><td>事前に、ナチス・ドイツが行った政策について調べる。授業後は、その影響力について考察する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ナチス・ドイツの政策（2）</td><td>・優生思想 ＊発表を予定</td><td>事前に、優生思想という言葉調べ。授業後は、そこから生まれた諸問題について確認する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ナチ政権下ドイツの人々</td><td>・ナチスの政策について人々とした反応について学ぶ ＊発表を予定</td><td>当時のドイツの人々の状況を調べる。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ドイツの現代</td><td>・戦後ドイツの歴史 ・ドイツの戦後の記憶 ＊発表を予定</td><td>事前に、戦後のドイツについて年表を作り、戦後から現代にいたるまでの重要な出来事を確認する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>現代ヨーロッパの諸問題</td><td>・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。</td><td>事前に、授業で扱った内容全体を復習する。授業後は、現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。	2	イギリスの近代	・産業革命 ・19世紀のイギリス	産業革命について調べてくる。	3	ヴィクトリア時代のイギリスと女性	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べ、授業後はそれに関して考察する。	4	イギリスの現代	・女性の社会進出 ・イギリスの文化や政治	現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。	5	フランスの近代	・フランス革命の理念と文化	フランス革命について調べ、その前と後で何が変わったのかについて考える。事前に、ここ10年くらいのフランスの大きな事件について調べる。授業後は、ここまでのフランスに関する歴史と諸問題について整理する。	6	フランスのナショナリズム	フランス人らしさ	授業前にフランス人らしさについてイメージを書きだし、授業後はフランスのナショナリズムについて考える。	7	フランスの政教分離	フランス人とカトリック	カトリックについて調べてくる。授業後は、現在のフランスの宗教について調べる。	8	フランスの現代	政治と移民	フランスの抱える現在の問題について調べる。	9	フランスに関するまとめ	これまで講義した内容をまとめ、グループディスカッションを行う。	事前にこれまでの内容をまとめる。事後、ディスカッションをもとに意見をまとめる。	10	ナチス・ドイツとは。	・ナチス・ドイツの全体像	事前に、ヒトラーについて調べ、20世紀前半のドイツの年表を作る。	11	ナチス・ドイツの政策（1）	・プロパガンダ ＊発表を予定	事前に、ナチス・ドイツが行った政策について調べる。授業後は、その影響力について考察する。	12	ナチス・ドイツの政策（2）	・優生思想 ＊発表を予定	事前に、優生思想という言葉調べ。授業後は、そこから生まれた諸問題について確認する。	13	ナチ政権下ドイツの人々	・ナチスの政策について人々とした反応について学ぶ ＊発表を予定	当時のドイツの人々の状況を調べる。	14	ドイツの現代	・戦後ドイツの歴史 ・ドイツの戦後の記憶 ＊発表を予定	事前に、戦後のドイツについて年表を作り、戦後から現代にいたるまでの重要な出来事を確認する。	15	現代ヨーロッパの諸問題	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前に、授業で扱った内容全体を復習する。授業後は、現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。																																																																
2	イギリスの近代	・産業革命 ・19世紀のイギリス	産業革命について調べてくる。																																																																
3	ヴィクトリア時代のイギリスと女性	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べ、授業後はそれに関して考察する。																																																																
4	イギリスの現代	・女性の社会進出 ・イギリスの文化や政治	現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。																																																																
5	フランスの近代	・フランス革命の理念と文化	フランス革命について調べ、その前と後で何が変わったのかについて考える。事前に、ここ10年くらいのフランスの大きな事件について調べる。授業後は、ここまでのフランスに関する歴史と諸問題について整理する。																																																																
6	フランスのナショナリズム	フランス人らしさ	授業前にフランス人らしさについてイメージを書きだし、授業後はフランスのナショナリズムについて考える。																																																																
7	フランスの政教分離	フランス人とカトリック	カトリックについて調べてくる。授業後は、現在のフランスの宗教について調べる。																																																																
8	フランスの現代	政治と移民	フランスの抱える現在の問題について調べる。																																																																
9	フランスに関するまとめ	これまで講義した内容をまとめ、グループディスカッションを行う。	事前にこれまでの内容をまとめる。事後、ディスカッションをもとに意見をまとめる。																																																																
10	ナチス・ドイツとは。	・ナチス・ドイツの全体像	事前に、ヒトラーについて調べ、20世紀前半のドイツの年表を作る。																																																																
11	ナチス・ドイツの政策（1）	・プロパガンダ ＊発表を予定	事前に、ナチス・ドイツが行った政策について調べる。授業後は、その影響力について考察する。																																																																
12	ナチス・ドイツの政策（2）	・優生思想 ＊発表を予定	事前に、優生思想という言葉調べ。授業後は、そこから生まれた諸問題について確認する。																																																																
13	ナチ政権下ドイツの人々	・ナチスの政策について人々とした反応について学ぶ ＊発表を予定	当時のドイツの人々の状況を調べる。																																																																
14	ドイツの現代	・戦後ドイツの歴史 ・ドイツの戦後の記憶 ＊発表を予定	事前に、戦後のドイツについて年表を作り、戦後から現代にいたるまでの重要な出来事を確認する。																																																																
15	現代ヨーロッパの諸問題	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前に、授業で扱った内容全体を復習する。授業後は、現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。																																																																
関連科目	ヨーロッパ史学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学で学ぶ西洋史 [近現代]</td><td>小山哲ほか</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	不定期に授業中に課す課題（発表）や、授業の区切りごとに課す小レポート（50%）、期末レポート（50%）																																																																		
学生へのメッセージ	ヨーロッパのフランス、イギリス、ドイツについて見ていきます。それぞれ特徴的なこともあれば、共通することもあり、こうした地域の持つ問題の多くは、現代の日本社会ともかかわってきます。日々の世界のニュースにも関心を持ち、授業に取り組んでください。 授業の後半においては、グループワークと発表を予定している。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館4階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。

科目名	エリアスタディーズ（アフリカ）	科目名（英文）	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川口 博子
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1151a0		

授業概要・目的	アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。では、みなさんがもっているアフリカについてのイメージや知識とは、どのようなものでしょうか。それらはどこでどのように得られたのでしょうか。 本授業では、アフリカのさまざまなトピック（政治、経済、文化、現代的問題）について、実際に現地へ人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちのよく知っているアフリカ（たとえば紛争や貧困、開発支援など）の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ（伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など）が見えてきます。 本授業では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。
到達目標	・自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解する。 ・アフリカの人びとの実際の生活や現地の実態について理解する。 ・以上を踏まえたうえで、「アフリカとどのように関わることができるか」について考え、自分なりの答えを出す。 ・「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出す。
授業方法と留意点	・課題論文を講読しながら授業をすすめます。課題論文を必ず読んで授業に臨んでください。 ・課題論文は、Web 上で閲覧可能なものを授業中に紹介します。 ・受講者に発表などの課題を課することがあります。 ・授業前・授業後に、学習課題を課します。 ・履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラパスの内容を一部修正する場合があります。
科目学習の効果（資格）	・異文化理解に役立つ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	2	アフリカと日本	日本で入手できるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	3	アフリカの歴史	奴隷貿易や植民地支配といった歴史を振り返りながら、近年の Black Lives Matter 運動をとらえて、人種差別について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	4	自然と生業（１）	アフリカ大陸にみられる各地の自然環境の特徴を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	5	自然と生業（２）	生業（おもに農耕と牧畜）をとらえて、自然環境に根差した人びとの文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	6	自然と生業（３）	自然の保全と人びとの生業の関係について理解し、自然と人の共生のあり方について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	7	アフリカのファッション	アフリカの人びとが好んで身にまとうアフリカンプリント布について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	8	国家と民族（１）	現代アフリカを生きる民族の状況と国家との関係について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	9	国家と民族（２）	アフリカにみれる地域紛争と難民について学び、ローカルな紛争解決の有効性について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	10	国家と民族（３）	アフリカからヨーロッパを目指す移民に焦点をあて、国家の外につながるネットワークについて学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	11	経済と開発（１）	アフリカの都市部における小規模ビジネスとお金の使い方について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	12	経済と開発（２）	農村開発とフェアトレードについて、どうすれば人びとの生活の向上に貢献できるかを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	13	経済と開発（３）	アフリカの外とのつながってビジネスをするアフリカ人について学び、アフリカと日本の対等な関係について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	14	期末試験	これまでの講義の内容に関する筆記試験を実施する。	【事前・事後】これまでの授業内容を振り返り、試験勉強をすること。
	15	総括	前回の試験の解説をもとに、これまでの授業を振り返り総括する。	【事前・事後】試験の結果をもとに、復習をすること。

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
	2	ようこそアフリカ世界へ	遠藤貢・阪本拓人 編	昭和堂
	3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本栄莉ほか編	昭和堂
評価方法 (基準)	①小レポート(全3回、授業内容に関する論文を読み、その内容をもとに自身の考えを記述する)・・・45% ②学習の到達度を測る試験(第14回目に実施)の得点・・・55%			
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階(非常勤講師室)に来てください。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。			

科目名	エリアスタディーズ（北アメリカ）	科目名（英文）	Area Studies（North America）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1152a0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国とカナダが位置する北アメリカ地域の歴史、政治経済、社会文化について多角的、学際的に学ぶ授業です。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目であり、教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。 人種問題、移民問題、銃規制問題、同性婚問題、医療問題など、日本語によるニュース報道も多く比較的身近なアメリカ合衆国の時事問題を取りあげ、それら諸問題の背景を深く掘り下げる形で、まずはアメリカ合衆国の歴史、政治経済、社会文化についての知識と理解を身につけます。続いて、カナダとの対比や日本との関係を視野にいれた学びを進めます。学期終盤には、特定のトピックをより深く掘り下げながら学習内容を振り返る総合演習を行います。
到達目標	（１）アメリカ合衆国とカナダの歴史、政治経済、社会文化の特徴について、具体例を挙げて対比しながら説明することができる。 （２）北アメリカ地域の事例を通じて、多様な文化背景と価値観を持つ人々の共生について批判的に思考し、日本社会における多文化共生についても当事者意識を持ち、事実に基づいた意見を交換できるようになる。
授業方法と留意点	・受講生があらかじめ指示された動画や文献資料を参照しておき、教室では講義ではなく、グループワークや質疑応答、内容確認の小テスト等を行う授業形式である「反転授業」を取り入れた形式で行います。15 回すべて反転授業をするわけではありませんが、毎週、十分な予習・復習時間とインターネット環境を確保し、準備をした上で授業に出席し、積極的な発言（文字投稿による発言を含む）をすることが必要です。 ・予習、復習時はもちろん、授業時間中も Teams と Moodle を常時活用します。これらのツールには早いうちに十分に習熟し、通
科目学習の効果（資格）	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる一般常識、国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる英語圏についての基礎知識。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	2	アメリカの歴史 1 建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで銃規制が難しいのはなんで？：植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	3	アメリカの歴史 2 領土拡張と奴隷制	アメリカで銃規制が難しいのはなぜか？その 2：領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	4	アメリカの歴史 3 南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点：民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	5	アメリカの地理 1 北部・南部	「アメリカ南部」とは？アメリカの南のほう？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	6	アメリカの地理 2 中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	7	アメリカの歴史 4 第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落としたのは悪かった」と思っているのか？：日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	8	アメリカの民族 1 ヨーロッパ系	WASP？ユダヤ系？イタリア系？みんな「白人」じゃないの？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	9	アメリカの民族 2 アジア系	日本人も差別される？アジア系はみんな成功している？「モデルマイノリティ」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（2 時間程度）
	10	アメリカの民族 3 ラティノ／ヒスパニック	中南米系、「ラテンクス」といった呼ばれ方もする移民グループ。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜそれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か？実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（2 時間程度）
	13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。→「日米における原爆投下の歴史記憶」にテーマ変更の可能性あり。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（3 時間程度）
	14	まとめ 1 アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみましょう。	ここまでの全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。（5 時間程度）
	15	まとめ 2	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ

関連科目	日米比較文化、日米文化交流史		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名

	1	シンプルな英語で話すアメリカ史	ジェームス・バーダマン	ジャパンタイムズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 70% (平常の小レポートや小テスト、グループワーク成果物等の提出物、質疑への参加による評価の合計) まとめ課題 30% (平常の自身の Teams 投稿、小レポートや小テスト、グループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出)			
学生への メッセージ	アメリカ合衆国やカナダは実に面白い国です。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカ、北米地域のことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。予習、復習、宿題、レポート等に関する質問やフィードバックはスチューデントアワーまたはアポイントにより研究室に対応する。アポイントは電子メール torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	科目名（英文）	Area Studies（Latin America）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1153a0		

授業概要・目的	ラテンアメリカは古来、先住民の文化的伝統を有しながらも、15 世紀末以降ヨーロッパ諸国による征服と植民地支配を 3 世紀間以上にわたって経験した地域です。その間に文化的混淆と都市部では生活の欧化が進行しました。その後 19 世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて 150 年ほど早く植民地支配からの独立を遂げますが、欧米による政治経済的介入を受け続けることになりました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアンглоアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。6 つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しています。親日的な国々と人びとについて知り、世界観を広げてください。
到達目標	ラテンアメリカとは、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた 33 の独立国と 13 の非独立領土から構成される広大な地域の総称です。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことによって、異文化理解を深めるための一助とすること。
授業方法と留意点	・履修生は毎週、リアクションペーパーに授業の中で最も興味を持った部分についての理解の概要や疑問点を書いて WebFolder に提出する。教員は次の授業で質問に対する解説を行う。これにより、双方向のフィードバックを可能にする。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。 理解度確認のための課題に関するフィードバックは 15 回目のなかで実施する。
科目学習の効果（資格）	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ラテンアメリカの地理（1）	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する 33 ヶ国・13 非独立領を地図上で確認する
	2	ラテンアメリカの地理（2）	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
	3	ラテンアメリカの地理（3）	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
	4	ラテンアメリカの歴史（1）	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
	5	ラテンアメリカの歴史（2）	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	6	ラテンアメリカの歴史（3）	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	7	ラテンアメリカの歴史（4）	20 世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	8	ラテンアメリカの文化（1）	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	9	ラテンアメリカの文化（2）	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	10	ラテンアメリカの文化（3）	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。提示された理解度確認のための課題を指定された期限までに提出する。
	14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	15	総括	総括の後、アメリカ合衆国への移民および「ラティーンロス」がもたらす影響 理解度確認のための課題についてのフィードバック	広く西半球（米州）の相互関係に対して目を向ける。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ラテンアメリカー地球規模課題の実践	畑恵子・浦部宏之編	新評論
	2	ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック	ラテン・アメリカ政経学会編	新評論
	3	ラテンアメリカはどこへ行く	後藤政子・山崎圭一	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）	リアクション・ペーパー 50%＋理解度確認の課題 50%
学生へのメッセージ	ラテンアメリカは日本から遠く離れた地域ですが、日本との親密なつながりもあり、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の	7 号館 5 階 北條研究室

研究室等	
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	エリアスタディーズ（オセアニア）	科目名（英文）	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1154a0		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする Classes conducted 100% in English. The content covers Oceania and the two largest countries in the area, Australia and New Zealand focusing on the history, culture, lifestyle, education, people, multiculturalism and government policies. The goals of this course are to improve students' English skills (speaking, listening, reading, writing) in a content-based format. English note-taking will be undertaken (purchase a notebook).
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	This class is a mini-lecture on the topic, note-taking during class, quiz on the content, readings in English, and pair discussion. Students need to prepare for a final pair or group powerpoint presentation on various Pacific Islands that are part of Oceania.
科目学習の効果（資格）	A great introduction to many countries in Oceania.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction to the course, Online platforms (Line, Moodle, Zoom), Texts	Self-intro video - About yourself and your experience/ knowledge of Oceania?
	2	Overview of Oceania	HW share with partner, lecture, quiz	Comment, notetaking, textbook reading
	3	History of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	4	Geography of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	5	Lifestyle of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	6	Lifestyle (2) of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	7	Australia & New Zealand English	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	8	Education in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	9	Education (2) in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	10	Indigenous peoples in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	11	Minority Policies in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	12	Multiculturalism and Immigration in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	13	Final explanation and practice for your presentation & final report	HW share of comment with partner,	notetaking, sending your powerpoint file, preparing your script in English (in your own words, not a copy paste from the Internet) Practicing for your final presentation
	14	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking
	15	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking

関連科目	英語圏概論など
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Weekly English note-taking in a notebook (in-class note-taking & opinion on the content) 30%, Final pair or group powerpoint presentation 30%, Quizzes (Readings & Mini-Lectures) 20%, Attitude 20% (100% English, enthusiastic, on time, focused).
----------	---

学生へのメッセージ	A Notebook is required. Please prepare and be ready to talk only in English.
-----------	--

担当者の研究室等	Amanda's office, Building 7, 5th floor
----------	--

備考	講義、学生発表、リーディング、レポートは全部100%英語で行うので一生懸命英語で頑張る学生に大歓迎です。 事前事後の総学修時間は60時間を目安とします。
----	---

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1155a0		

授業概要・目的	英語の音韻体系に基づいた調音音声学を中心とし、日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。 ①母音や子音の発音記号とその音声的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象及び強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷、⑤英国から北米・オセアニア・アジアにも広がる国際共通語としての英語の変種などについて具体例とともに学ぶ。
到達目標	この科目は、主として1年次の学生を対象とし、言語の音声の特徴について、英語を軸にし、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。英語の音声の仕組み、英語の文法と音声の関連性、英語の歴史の変遷、国際共通語としての英語の実態などについて理解することをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	・授業は主に講義形式で行う。 ・レポートを（中間と期末の）計2回作成し、提出する。 ・音声学は学問の一分野であり、単なる発音練習ではないので、誤解のないようにしてほしい。 ・提出物（レポート）や発表については、授業中にフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	語学のリスニングやスピーキングの能力の向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション （調音）音声学について	（調音）音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	2	母音について（1）—英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	3	母音について（2）—英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	4	母音からみた英語の変種（方言）について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	5	子音について（1）—英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	6	子音について（2）—英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	7	子音と半母音（接近音）について	子音と半母音（接近音）について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	8	音（音韻）の単位について—分節音と異音、音節とモーラなどレポートの提出	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	9	音韻論と形態論の接点についてレポートのフィードバック	・音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。 ・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	10	音の変化について—連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	11	強勢（アクセント）について	英語の強勢（アクセント）の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	14	音韻の歴史の変遷についてレポートの提出	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと（2時間）。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる（2時間）。
	15	総括	・これまでの学習内容を総括する。	これまでの授業で学んだ内容の要点を整理し、重要

		レポートのフィードバック	・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	な音声現象や用語についてさらに調べてみること（4時間）。
関連科目	他の語学科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント・音声教材を利用する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語教師のための音声指導 Q&A	内田洋子、杉本淳子	研究社
	2	辞書		
	3			
評価方法 （基準）	レポート（60%）、授業中の発言・討論、宿題・提出物等（40%） ※ただし、原則として授業への出席率が80%以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	知的好奇心を持っている人に向いている科目といえるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	・事前・事後学習総時間数は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。			

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1156a0		

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使われる様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	・国際共通語としての英語の多様性について理解を深める ・英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する ・英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。リアクション・ペーパー等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習) (2 時間)
	2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習) (2 時間)
	3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習) (2 時間)
	4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習) (2 時間)
	5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習) (2 時間)
	6	ボライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習) (2 時間)
	7	中間まとめ	確認小テスト	授業内容の復習 (1 時間 30 分)
	8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習) (2 時間)
	9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習) (2 時間)
	10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習) (2 時間)
	11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習) (2 時間)
	12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習) (2 時間)
	13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習) (2 時間)
	14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習) (2 時間)
	15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習 (3 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉の研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらふ機会になれば幸いです。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
備考	

科目名	言語学	科目名 (英文)	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1157a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	生成文法の基本的な考え方を理解し、生成文法の言語観及びごく最初期のモデルに則った分析方法について簡単な説明ができるようになること。
授業方法と留意点	基本的には対面ですが、コロナウイルスの感染状況によってはオンライン授業になる可能性もあります。対面式で授業が実施される場合も課題の提示、提出はウェブ経由で行います。 成果物については授業内でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	生成文法の初歩的な知識を得ることができる。音声学と合わせて 3・4 年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 生成文法の言語観	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。(2時間)
	2	言語機能の基本的な特性	生成文法の言語観に基づく言語機能の基本的な特性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	3	言語能力と言語使用	生成文法の定義する言語能力と言語使用について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	4	生得性と普遍文法	言語の生得性と普遍的文法について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。(2時間)
	5	X バー理論 1	X バー理論の誕生の経緯について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	6	X バー理論 2	範疇選択と意味選択と文、名詞句の内部構造	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	7	X バー理論 3	語彙範疇と機能範疇、付加構造、小節と be 動詞構文の特徴	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。(2時間)
	8	中間まとめ	第 1 回から第 7 回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	9	Move α 理論 1	Move α 理論について	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	10	Move α 理論 2	下接の条件	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	11	Move α 理論 3	格移動	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	12	束縛理論 1	束縛条件、統率と束縛	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。次週までに各自が学んでいる言語の語形変化について確認しておくこと。(2時間)
	13	束縛理論 2	利用可能な主語と空範疇	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	14	束縛理論 3	痕跡	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	15	総復習	総復習を行う。	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。(2時間)

関連科目	音声学・各言語科目等。
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生成統語論入門	阿部 潤	開拓社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の成果物 (50%) 定期試験 (50%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	この授業は、生成文法の基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。但し、中学高校で学んだことのないような内容で、一般に皆さんが文法と言ったときに想像するものとは異なったものですので、忍耐力を持って取り組むことが求められます。いわゆる、コスパのいい授業ではありませんので、よく考えて履修してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。
----	--------------------------------

科目名	日本語史概説	科目名 (英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1158a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。																																																																		
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>授業の進め方、概説 日本の時代区分</td><td>日本史の流れを復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>3つの文字体系の背景 1</td><td>漢字の受容について学ぶ</td><td>万葉仮名について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>3つの文字体系の背景 2</td><td>ひらがなの成立について学ぶ</td><td>ひらがなの用法について整理する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>3つの文字体系の背景 3</td><td>カタカナの成立について学ぶ</td><td>カタカナの用法について整理する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>3つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き</td><td>様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景</td><td>3つの文字体系の用法についてまとめる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>《確認小テスト》 読みの背景 1</td><td>様々な音読みについて学ぶ</td><td>音読みについて整理する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>読みの背景 2</td><td>様々な訓読みについて学ぶ</td><td>訓読みについて整理する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>方言の背景 1</td><td>標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立</td><td>標準語という概念について調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>方言の背景 2</td><td>方言の分布・文法について学ぶ</td><td>様々な方言の分布について調べる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>方言の背景 3</td><td>方言の拡大と現代語について学ぶ</td><td>様々な方言や流行語の広がりについて調べる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>方言の背景 4</td><td>様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ</td><td>様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>《確認小テスト》 発音の変化の背景 1</td><td>古代の発音について学ぶ</td><td>古代の発音を整理する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発音の変化の背景 2</td><td>発音と表記の乖離について学ぶ</td><td>発音と表記について調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発音の変化の背景 3</td><td>外来語の日本語化について学ぶ</td><td>日本語の発音について復習する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>《最終確認テスト》 まとめ</td><td>これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う</td><td>事前：これまでの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する	2	3つの文字体系の背景 1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる	3	3つの文字体系の背景 2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する	4	3つの文字体系の背景 3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する	5	3つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる	6	《確認小テスト》 読みの背景 1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する	7	読みの背景 2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する	8	方言の背景 1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる	9	方言の背景 2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる	10	方言の背景 3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる	11	方言の背景 4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する	12	《確認小テスト》 発音の変化の背景 1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する	13	発音の変化の背景 2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる	14	発音の変化の背景 3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する																																																																
2	3つの文字体系の背景 1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる																																																																
3	3つの文字体系の背景 2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する																																																																
4	3つの文字体系の背景 3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する																																																																
5	3つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる																																																																
6	《確認小テスト》 読みの背景 1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する																																																																
7	読みの背景 2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する																																																																
8	方言の背景 1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる																																																																
9	方言の背景 2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる																																																																
10	方言の背景 3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる																																																																
11	方言の背景 4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する																																																																
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景 1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する																																																																
13	発音の変化の背景 2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる																																																																
14	発音の変化の背景 3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習																																																																
関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終確認テスト（60％）、確認小テスト（10％）、毎回のペーパー（30％）。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。 ※オンライン授業となった場合 最終確認テスト（50％）、確認小テスト（10％）、毎回のペーパー（40％）。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階（橋本研究室）																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約60時間。																																																																		

科目名	英語意味論・語用論	科目名 (英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2159a0		

授業概要・目的	「文法構造」「形式（音声・文字）」「意味」という言語がもつ3つの側面のうち、「意味」は分かったように思えてもそれを記述するとなるとなかなか難しい領域である。しかし、意味が変化したり他の言語表現と関連しあったりする現象には一定の規則性がある。また、辞書に定義される意味というレベルを超えて具体的な場面でなされる個々の発話を観察してみると、「意味」に関する理解を深めるためのアプローチはさらにいくつかあることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図を伝えているのかということを理解することが重要になる。さらに、学期の終盤には意味論・語用論に関する最新の研究動向も紹介する。この講義では、英語の意味・用方を様々な角度から見わたすことで、「ことばの不思議」に興味を持ち、その疑問に対して「なぜか」という問いを深める姿勢を涵養する。			
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的關係を理解できるようになる。 2. 意味とコンテクストの関係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。			
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との関係、意味の変化などについて学ぶ（日本語をはじめとするいくつかの言語にも触れる）。英語が表す「意味」の側面を扱う意味論と、言語が実際の場面でのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「言語使用」を扱う語用論について見ていく。主に講義形式となるが、授業時に課題やアンケート等により理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課すこともある。 授業時に行う課題等に関するフィードバックは、次回以降の授業内で行う。			
科目学習の効果（資格）	教員の免許状取得のための選択科目			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。英語学のいくつかの分野を振り返りながら、日常に見られるさまざまな意味にかかわる現象を紹介し、意味への興味を喚起する。	英語学の諸分野について復習をしておく。（2時間）
	2	英語の意味論と語用論	英語学における意味の扱いと位置づけを明らかにする。意味論と語用論がそれぞれ何を問題としているか、さらに両者が互いにどう関連しあうかを考え、本科目で扱う内容の全体像をつかむ。	「意味」の意味について調べておく。（2時間）
	3	意味と指示物	意味と指示物の関係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。（2時間）
	4	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようなになっているのか、辞書で調べておく。（2時間）
	5	語の意味的關係①	多義性、類義性、同音性、反義性などの意味に関わる性質について学ぶ。	英語の多義語、反意語の例を調べておく。（2時間）
	6	語の意味的關係②	語彙の持つ関係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味関係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。（2時間）
	7	文法と意味	文法は意味と構造を結びつける記号体系の根幹をなす領域であるが、なかでも「構文」と呼ばれる現象から文法と意味の関係を具体的事例をもとに考える	文法と意味の「レベル」とはどういう概念であるか調べておく。（2時間）
	8	意味の変化	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。（2時間）
	9	意味の習得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。（2時間）
	10	意味の普遍性と相対性	色名や親族関係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対的であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。（2時間）
	11	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。（2時間）
	12	会話の成立	P.H. グライスの「強調の原理」という考え方を学び、「会話の格率」（量（Quantity）、質（Quality）、関係（Relation）、様態（Manner））という点から会話の成立要件となる理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。（2時間）
	13	発話行為	具体的な事例を使用して、発話が状況や対人関係に及ぼす影響を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテクストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。（2時間）
	14	意味論・語用論の新しいアプローチ	機能主義言語学における意味と言語使用に関する考え方を紹介する。	日常的に使用する言語表現をいくつか取り上げ、それらが具現する機能を説明できるようにする。（2時間）

	15	まとめテスト	授業時間内に実施する。	この授業をとおして学んだ内容に関するテスト。
関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題等への取り組み (40%) まとめテスト (60%)			
学生への メッセージ	普段から使っている言葉の意味がどうやって生まれてくるのかを考えてみよう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 船本研究室			
備考	配布資料の読み込みなど、事前・事後学習にかかる総時間数を60時間程度とする。			

科目名	日本語音韻論	科目名 (英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2160a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。																																																																		
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 ペーパーについては次回にフィードバックする。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。 毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる</td><td>外国語の音と日本語の音の違いを考える</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語体系の諸単位 調音器官</td><td>言語の要素について 調音器官について知る</td><td>調音器官について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>母音</td><td>母音をどのように発音しているか考える</td><td>日本語、外国語の母音について調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>子音 1</td><td>子音をどのように発音しているか考える</td><td>授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>子音 2</td><td>子音をどのように発音しているか考える</td><td>授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>清音・濁音</td><td>清音・濁音をどのように発音しているか考える</td><td>濁音の調音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>前半のまとめ 《確認小テスト》</td><td>ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題</td><td>ここまでの学習を振り返る</td></tr> <tr> <td>8</td><td>撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題</td><td>撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる</td><td>撥音・促音・調音について調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>拍、音節 五十音図</td><td>日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する</td><td>拍の一覧表をまとめる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本語のリズム</td><td>日本語が持つリズムの特徴について考える</td><td>日本語と外国語のリズムの違いを考える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>アクセント 1</td><td>高低アクセントと強調アクセント アクセントの東西比較</td><td>アクセントの東西の違いをまとめる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>アクセント 2</td><td>アクセントの高低配分</td><td>アクセントの法則を整理し、調べる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アクセント 3</td><td>活用語のアクセント イントネーションとアクセント</td><td>アクセント以外の発音方法について調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>音の交替</td><td>母音交替・連濁</td><td>母音交替、連濁の例を調べる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>《最終確認テスト》 まとめ</td><td>これまでの総括をし、復習テストを行う</td><td>これまでの復習をする</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える	2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる	3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる	4	子音 1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する	5	子音 2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する	6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する	7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る	8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる	9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる	10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える	11	アクセント 1	高低アクセントと強調アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる	12	アクセント 2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる	13	アクセント 3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる	14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える																																																																
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる																																																																
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる																																																																
4	子音 1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する																																																																
5	子音 2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する																																																																
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する																																																																
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る																																																																
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる																																																																
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる																																																																
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える																																																																
11	アクセント 1	高低アクセントと強調アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる																																																																
12	アクセント 2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる																																																																
13	アクセント 3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる																																																																
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする																																																																
関連科目	音声学 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終確認テスト（60%）、確認小テスト（10%）、講義時のペーパー（30%）。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。 （遠隔授業となった場合は、最終確認課題（50%）、確認小課題（10%）、講義時のペーパー（40%）とします。）																																																																		
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（橋本研究室）																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約 60 時間。																																																																		

科目名	英語構造論	科目名 (英文)	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2161a0		

授業概要・目的	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、英語 (の構造) についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション (情報や伝達機能) の視点から考察する。																																																																		
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語 (構造) に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになる。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察ができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	- 基本的にはプリントを配布し、講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 - 本講義は受講生として言語 (とりわけ構造や意味) に興味がある学生を想定している。「英語学概論 (英語学Ⅰ)」や「英語意味論・語用論 (英語学Ⅱ)」を履修済みであることが望ましい。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	- 言語の構造・意味の理解 3 年次以降のゼミや大学院進学 - 教員の免許状取得のための選択科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方と評価方法の説明</td><td>授業の計画・内容の確認と、機能 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>機能 (言語学) 的アプローチ</td><td>機能 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>機能 (言語学) 的アプローチの復習と、言い換え表現の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>言い換え表現 (本当に言い換え可能か?)</td><td>言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>言い換え表現の復習と、トピック (とコメント)・主題 (と題述) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック (とコメント)・主題 (と題述)</td><td>トピック (とコメント)・主題 (と題述) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>トピック (とコメント)・主題 (と題述) の復習と、旧情報と新情報 (there 構文など) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>旧情報と新情報 (there 構文など)</td><td>旧情報と新情報 (there 構文など) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>旧情報と新情報 (there 構文など) の復習と、焦点と強調 (倒置表現など) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>焦点と強調 (倒置表現など)</td><td>焦点と強調 (倒置表現など) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>焦点と強調 (倒置表現など) の復習と、照応と代用 (代名詞など) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>照応と代用 (代名詞など)</td><td>照応と代用 (代名詞など) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>照応と代用 (代名詞など) の復習と、中間のまとめ (テスト) の準備 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。</td><td>これまでの授業内容の復習と、認知 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>認知 (言語学) 的アプローチ</td><td>認知 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>認知 (言語学) 的アプローチの復習と、類像性 (恣意性の有無) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>類像性 (恣意性の有無)</td><td>類像性 (恣意性の有無) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>類像性 (恣意性の有無) の復習と、類義語 (英語) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>類義語① (英語)</td><td>類義語 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>類義語 (英語) の復習と、類義語 (日本語との比較) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>類義語② (日本語との比較)</td><td>類義語 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>類義語 (日本語との比較) の復習と、文法化と意味変化 (英語) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>文法化と意味変化① (英語)</td><td>文法化と意味変化 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>文法化と意味変化 (英語) の復習と、文法化と意味変化 (日本語との比較) の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>文法化と意味変化② (日本語との比較)</td><td>文法化と意味変化 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。</td><td>文法化と意味変化 (日本語との比較) の復習と、総まとめ (確認テスト) の準備 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ (確認テスト)</td><td>これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総まとめ (確認テスト) の準備と、授業後の振り返り (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)	2	機能 (言語学) 的アプローチ	機能 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能 (言語学) 的アプローチの復習と、言い換え表現の予習 (2 時間)	3	言い換え表現 (本当に言い換え可能か?)	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック (とコメント)・主題 (と題述) の予習 (2 時間)	4	トピック (とコメント)・主題 (と題述)	トピック (とコメント)・主題 (と題述) について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック (とコメント)・主題 (と題述) の復習と、旧情報と新情報 (there 構文など) の予習 (2 時間)	5	旧情報と新情報 (there 構文など)	旧情報と新情報 (there 構文など) について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報 (there 構文など) の復習と、焦点と強調 (倒置表現など) の予習 (2 時間)	6	焦点と強調 (倒置表現など)	焦点と強調 (倒置表現など) について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調 (倒置表現など) の復習と、照応と代用 (代名詞など) の予習 (2 時間)	7	照応と代用 (代名詞など)	照応と代用 (代名詞など) について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用 (代名詞など) の復習と、中間のまとめ (テスト) の準備 (2 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)	9	認知 (言語学) 的アプローチ	認知 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知 (言語学) 的アプローチの復習と、類像性 (恣意性の有無) の予習 (2 時間)	10	類像性 (恣意性の有無)	類像性 (恣意性の有無) について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性 (恣意性の有無) の復習と、類義語 (英語) の予習 (2 時間)	11	類義語① (英語)	類義語 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (英語) の復習と、類義語 (日本語との比較) の予習 (2 時間)	12	類義語② (日本語との比較)	類義語 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (日本語との比較) の復習と、文法化と意味変化 (英語) の予習 (2 時間)	13	文法化と意味変化① (英語)	文法化と意味変化 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (英語) の復習と、文法化と意味変化 (日本語との比較) の予習 (2 時間)	14	文法化と意味変化② (日本語との比較)	文法化と意味変化 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (日本語との比較) の復習と、総まとめ (確認テスト) の準備 (2 時間)	15	まとめ (確認テスト)	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ (確認テスト) の準備と、授業後の振り返り (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)																																																																
2	機能 (言語学) 的アプローチ	機能 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能 (言語学) 的アプローチの復習と、言い換え表現の予習 (2 時間)																																																																
3	言い換え表現 (本当に言い換え可能か?)	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック (とコメント)・主題 (と題述) の予習 (2 時間)																																																																
4	トピック (とコメント)・主題 (と題述)	トピック (とコメント)・主題 (と題述) について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック (とコメント)・主題 (と題述) の復習と、旧情報と新情報 (there 構文など) の予習 (2 時間)																																																																
5	旧情報と新情報 (there 構文など)	旧情報と新情報 (there 構文など) について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報 (there 構文など) の復習と、焦点と強調 (倒置表現など) の予習 (2 時間)																																																																
6	焦点と強調 (倒置表現など)	焦点と強調 (倒置表現など) について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調 (倒置表現など) の復習と、照応と代用 (代名詞など) の予習 (2 時間)																																																																
7	照応と代用 (代名詞など)	照応と代用 (代名詞など) について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用 (代名詞など) の復習と、中間のまとめ (テスト) の準備 (2 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)																																																																
9	認知 (言語学) 的アプローチ	認知 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知 (言語学) 的アプローチの復習と、類像性 (恣意性の有無) の予習 (2 時間)																																																																
10	類像性 (恣意性の有無)	類像性 (恣意性の有無) について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性 (恣意性の有無) の復習と、類義語 (英語) の予習 (2 時間)																																																																
11	類義語① (英語)	類義語 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (英語) の復習と、類義語 (日本語との比較) の予習 (2 時間)																																																																
12	類義語② (日本語との比較)	類義語 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (日本語との比較) の復習と、文法化と意味変化 (英語) の予習 (2 時間)																																																																
13	文法化と意味変化① (英語)	文法化と意味変化 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (英語) の復習と、文法化と意味変化 (日本語との比較) の予習 (2 時間)																																																																
14	文法化と意味変化② (日本語との比較)	文法化と意味変化 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (日本語との比較) の復習と、総まとめ (確認テスト) の準備 (2 時間)																																																																
15	まとめ (確認テスト)	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ (確認テスト) の準備と、授業後の振り返り (2 時間)																																																																
関連科目	英語学概論 (英語学Ⅰ)、英語意味論・語用論 (英語学Ⅱ)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>(プリントを配布する)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(プリントを配布する)			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	(プリントを配布する)																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ディスコース—談話の織りなす世界</td><td>橋内 武</td><td>くろしお出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ディスコース—談話の織りなす世界	橋内 武	くろしお出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ディスコース—談話の織りなす世界	橋内 武	くろしお出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の討論や課題、提出物、確認テスト (100%)																																																																		
学生へのメッセージ	講義テーマの性質上、難解に思えるものを扱いますが、言語の構造について深く考えていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																																																																		

科目名	日本語語彙論	科目名（英文）	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3162a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて語彙を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは（そもそも）どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。																																																																		
到達目標	①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。 課題等については授業内でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新語・流行語・死語</td><td>新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>集団語</td><td>集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>性差</td><td>ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>方言（地域語）</td><td>地域による語彙の違いについて学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>標準語</td><td>標準語の内実や歴史について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>差別語</td><td>差別につながる語彙について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>語種の変遷</td><td>語種とその変遷について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>語種の使われ方</td><td>語種とその使われ方について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>語彙体系</td><td>語彙の体系について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>意味関係</td><td>語彙の意味関係について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>語構成</td><td>語構成について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>辞書・語彙調査</td><td>辞書・語彙調査について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総括・試験の案内</td><td>授業内容全体を総括し、試験の案内をする</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>試験</td><td>レポートを提出する （人数が多い場合は教場試験を実施する）</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	3	集団語	集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	4	性差	ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	5	方言（地域語）	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認	6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認	7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認	8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認	9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認	10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認	11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認	12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認	13	辞書・語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認	14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認	15	試験	レポートを提出する （人数が多い場合は教場試験を実施する）	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
3	集団語	集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
4	性差	ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
5	方言（地域語）	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認																																																																
6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認																																																																
13	辞書・語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認																																																																
15	試験	レポートを提出する （人数が多い場合は教場試験を実施する）																																																																	
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目（「日本語文法論」など）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点（コメントシートの内容、積極性） 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室）																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。																																																																		

科目名	中国語文字論	科目名 (英文)	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3163a0		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では『常用漢字コアイメージ辞典』に述べられている意味のイメージに関する記述を参考にしながら、上古（周代）漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでは何を表現しているのかを説明できるようになる。また、未知の漢字に接した時もその意味や読みを推測できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。CALL 教室の機能を利用することで、各学生の手元の作業状況を全員で共有しながら演習の要素も取り入れて授業を進める。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級。漢字能力検定 2 級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス。人体・姿勢	この授業の目的及び目標を概説する。人・女・子・鬼・兄...	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	3	身体部位 2	手・足...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	4	動物 1	牛・馬・羊...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	5	動物 2	犬・鹿・豚...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	6	単元テスト 1 動物 3	第 1 回～第 5 回の理解度を確認する。鳥・虫・蛇...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	7	天体・気象	日・月・水...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	8	鉱物	土・火・金...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	9	人工物	高・示...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	10	単元テスト 2 器具 1	第 6 回～第 10 回の理解度を確認する。方・網・工...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	11	器具 2	玉・父・車...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	12	器具 3	刀・辛・戈...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	13	動作	又・口・之...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	14	状態	束・阜・変...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	15	単元テスト 3 形状	第 10 回～第 14 回の理解度を確認する。宇・王・弗...	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。

関連科目	中国語の知識は必要ないが、中国語科目（専門科目または基礎科目）を履修しておくことでより理解が深まる。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
----------	----------------------------------

学生への メッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)
備考	教材として、プリントを授業中に配布する。

科目名	日本語文法論	科目名 (英文)	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3164a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。																																																																		
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。 コメントシートのフィードバックは授業内に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文の成分</td><td>文の成分について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>形態論</td><td>形態論・統語論について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>品詞 (動詞・形容詞)</td><td>品詞、とくに動詞・形容詞について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>品詞 (名詞・助詞)</td><td>品詞、とくに名詞・助詞について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>語形成</td><td>語形成について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>格・文型</td><td>格と文型について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ヴォイス</td><td>態を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>アスペクト・テンス</td><td>時間を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>モダリティ (ムード)</td><td>態度・認識を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>肯定</td><td>肯定文・否定文について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>とりたて</td><td>とりたてについて学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>複文</td><td>複文について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総括・試験の案内</td><td>授業内容全体を総括し、試験の案内をする</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>試験</td><td>レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)</td><td>授業全体の確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認	3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認	4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認	5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認	6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認	7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認	8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認	9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認	10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認	11	肯定	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認	12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認	13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認	14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認	15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)	授業全体の確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認																																																																
3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認																																																																
4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	肯定	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認																																																																
13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認																																																																
15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)	授業全体の確認																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目 (「日本語語彙論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。																																																																		

科目名	中国語語彙論	科目名 (英文)	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俞 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3165a0		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級レベルでよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力（分析力、理解力、運用力）を高める。
到達目標	日中常用同形語の相違をはっきりさせ、日中混同と誤用を避けられるようになる。そして中国語検定試験 2 級合格を目指すレベルに到達する。
授業方法と留意点	授業は、日中同形語についての論文などを読み、また、3 つずつ口述解説を通じて、受講生と一緒に日中同形語の相違について考える。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験 3 級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。 課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 日中同形語のなぞ① 2 「安定、安心、一定」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 4-11。
	2	1 日中同形語のなぞ② 2 「意思、援助、円満」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 22-37
	3	1 身近な用語のなぞ① 2 「温和、顔色、活動」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 44-63
	4	1 身近な用語のなぞ② 2 「感覚、確実、議論」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 67-79
	5	1 日本から渡った漢語① 2 「気味、工夫、結束」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 82-103
	6	1 日本から渡った漢語② 2 「検討、経験、結構」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 106-117
	7	1 日本での漢語の作られ方 2 「告訴、構造、差別」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。 3 レポートの書き方について。	参考書 p. 126-157 与えられた課題でレポート 1 を作成すること。
	8	1 中国での漢語の作られ方 2 「事情、柔軟、趣味」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 158-175 レポート 1 を提出すること。
	9	1 成り立ちに謎のある漢語 2 「新鮮、損害、単純」	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 180-209
	10	1 日本語と中国語のあいだ 2 情緒、注目、注意	1 荒川清秀の著書『漢語のなぞー日本語と中国語のあいだ』を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 230-247
	11	1 論文を読む① 2 「通過、適当、到底」	1 何龍の論文「日中同形語の学習における母語の影響について」を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 256-281
	12	1 論文を読む② 2 「得意、把握、表現」	1 何龍の論文「日中同形語の学習における母語の影響について」を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 284-341
	13	1 論文を読む③ 2 「評判、批評、披露」	1 何龍の論文「日中同形語の学習における母語の影響について」を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 342-249
	14	1 論文を読む④ 2 「貧乏、不平、勉強」	1 何龍の論文「日中同形語の学習における母語の影響について」を読む。 2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。	参考書 p. 352-367
	15	学期学習のまとめ	レポートの作成について。	与えられた課題でレポート 2 を作成すること。 レポート 2 を提出すること。
関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目（必修と選択）			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	漢語の謎ー日本語と中国語	荒川清秀	ちくま新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本僑報社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	宿題提出 50%、レポート提出 50%。			
学生への メッセージ	授業中は集中して授業内容の理解に努めましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(愈研究室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。			

科目名	日本史学	科目名 (英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2166a0		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	対面で行います。 授業で使用する資料は Teams にアップします。授業が始まるまでに各自で印刷して用意しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	日本史の時代区分について書籍やwebで復習しておく。
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍やwebで復習しておく。
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍やwebで復習しておく。
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍やwebで復習しておく。
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍やwebで復習しておく。
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍やwebで復習しておく。
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍やwebで復習しておく。
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍やwebで復習しておく。
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍やwebで復習しておく。
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸時代の百姓について書籍やwebで復習しておく。
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍やwebで復習しておく。
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍やwebで復習しておく。
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍やwebで復習しておく。
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	太平洋戦争について書籍やwebで復習しておく。
	15	まとめ 確認テスト	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	確認テスト (100%)
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7 号館 4 階)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	中国史学	科目名 (英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2167a0		

授業概要・目的	中国は古くから東アジア世界に影響を与え、20 世紀以降は帝国の崩壊、戦争、社会主義化などをへて大きく変容した。本講義の目的は、中国の歴史を学ぶことによって、現在の中国に対する理解をも深めることである。国際的視野をもって、中国と日本の関係を考えるきっかけとなることを目指す。
到達目標	中国史の流れを理解し、歴史的視野によって中国と日本、東アジアの関係を説明することができる。
授業方法と留意点	配布資料による講義形式で実施し、スライドや関連する映像資料も用いる。なお授業形態によっては、授業計画が前後する可能性がある。課題や確認テストは返却時、または実施後の授業、あるいは後日、ICT ツールを通してフィードバックを行います。
科目学習の効果 (資格)	中国史に関する知識を通して、現在の中国や日中関係についての理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の進めかた・評価方法などのガイダンスを行った後、中国についての基本事項を学ぶ。	配布資料の復習
	2	中国史のみかた	中華の成立とその広がりについて学ぶ。	配布資料の予習・復習
	3	隋唐帝国	隋唐の歴史を学ぶ。	配布資料の予習・復習
	4	宋と北方民族	宋と北方民族の歴史を学ぶ。	配布資料の予習・復習
	5	明と海禁	明朝の歴史を学ぶ。	配布資料の予習・復習
	6	清の統治	清朝の歴史を学ぶ。	配布資料の予習・復習
	7	授業のまとめと確認テスト、解説	前半の講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。	これまでの内容を復習して、確認テストに備える
	8	民国の成立	中華民国時期の中国について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	9	社会主義建設	中国における社会主義建設について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	10	改革開放から社会主義市場経済へ	改革開放以後の中国について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	11	日中関係	近現代の日中関係について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	12	香港・マカオ	近現代の香港・マカオについて学ぶ。	配布資料の予習・復習
	13	台湾	近現代の台湾について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	14	少数民族地域	少数民族地域の歴史について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	15	授業のまとめと確認テスト、解説	後半の講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。	これまでの内容を復習して、確認テストに備える

関連科目	「エリアスタディーズ (東アジア)」などの中国関連科目
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業で指示する課題 (50%) と確認テスト (50%) によって評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国史に関する理解を深め、アジアにおける日本の位置を考えるきっかけをつかんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	事前・事後にあわせて 60 時間程度の学習を要します。
----	-----------------------------

科目名	ヨーロッパ史学	科目名 (英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3168a0		

授業概要・目的	本授業では、ヨーロッパの歴史の重要な局面に注目し、それぞれの時代の特徴を捉え、当時の政治・社会・文化を理解し、どのように現代社会が形成されたのかについて検討する。都市・宗派・啓蒙思想・革命といったヨーロッパの歴史を理解する上での重要な要素を深掘しながら、歴史考察の基礎となる知識の習得を目指す。このようにヨーロッパを題材に、対立や共存を長期的な視点でとらえ、世界の歴史を読み解くことで、現代社会の多様性を理解し、グローバルな視点で多角的に物事を見る力を養う。
到達目標	ヨーロッパの歴史の全体像を理解し、各時代や各地域の特徴を説明できるようになる。また、多角的な立場から現代社会の諸問題を考察できるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントをもちいた授業を実施する。Teams に資料をアップする。 フィードバックは、適宜、授業のなかで実施する。
科目学習の効果 (資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ヨーロッパの歴史の全体像	ヨーロッパの時代区分と地域について学び、「歴史とは何か」を考える	(事前) ヨーロッパの時代区分 (古代・中世・近世・近代・現代) について調べてくる。(事後) ヨーロッパの地域や時代区分を整理する
	2	中世ヨーロッパ (1)	地域形成と身分について	(事前) 中世ヨーロッパについてイメージすることを書きだす。(事後) 中世ヨーロッパの身分における役割を整理する
	3	中世ヨーロッパ (2)	英仏の戦い	(事前) イギリス、フランスのイメージを書きだす。(事後) 英仏の関係性とそれぞれの王朝について整理する。
	4	中世ヨーロッパ (3)	百年戦争とジャンヌ・ダルク	(事前) 百年戦争について調べてくる。(事後) 百年戦争について整理する。
	5	近世ヨーロッパと宗派対立 (1)	・近世ヨーロッパの特徴 ・宗教改革	(事前) ルターについて調べてくる。(事後) カトリックとプロテスタントについて整理する
	6	近世ヨーロッパと宗派対立 (2)	宗派対立の事例 (ネーデルラントとフランス)	(事前) カルヴァン派について調べてくる。(事後) ヨーロッパの宗派について整理する。
	7	近世イギリス (1)	テューダ朝の成立	(事前) ヘンリ 8 世について調べてくる。(事後) テューダ朝の特徴を整理する。
	8	近世イギリス (2)	国教会成立	(事前) イギリスの王室について調べてくる。(事後) イギリスの宗教について整理する。
	9	近世イギリス (3)	メアリ 1 世とエリザベス 1 世	(事前) メアリ 1 世、エリザベス 1 世について調べてくる。(事後) 中間テストのためにこれまで学んだことを整理する。
	10	啓蒙思想	啓蒙思想と中間テスト	(事前) 中間テスト対策をする。(事後) テストでわからなかった部分を確認する。
	11	啓蒙専制君主	中間テストの解説と君主による啓蒙改革について	(事前) マリア・テレジアとヨーゼフ 2 世について調べてくる。(事後) 中間テストを各自振り返る。
	12	近世フランス (1)	フランス貴族とルイ 14 世	(事前) ルイ 14 世について調べてくる。(事後) フランス貴族や宮廷について整理する。
	13	近世フランス (2)	フランス革命とマリ・アントワネット	(事前) フランス革命の年表を作る。(事後) フランス革命の要因についてまとめる。
	14	近世フランス (3)	フランス革命とその影響	(事前) ナポレオンについて調べてくる。(事後) フランスの共和政についてまとめる。
	15	総括	授業全体のまとめ	(事前) 授業プリントを見直し、わからなかったことなどを書きだす。(事後) 授業全体を振り返る。

関連科目	社会文化史、エリアスタディーズ (ヨーロッパ)
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
	2	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (20%)、中間テスト (20%)、期末テスト (60%) の総合点で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	高校の世界史とは違い、大学で学ぶ歴史学とは、過去の重要な事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、その背景や理由を、実証的に考察し、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を深めるよう心掛けてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
----------	---------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。
----	--------------------------

科目名	日米文化交流史	科目名 (英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤澤 宜広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3169a0		

授業概要・目的	アメリカと日本は太平洋を隔てた隣国であり、100 年以上の交流の歴史があります。その交流の歴史の中から、このコースの前半では、主に第二次世界大戦以降における日米関係史を題材にして、経済交流と文化交流に焦点をあてることにより、日米交流の歴史を概観します。後半では、主にポスト冷戦時代におけるアメリカによる対外文化政策のうち、文化事業であるパブリック・ディプロマシーに焦点をあてることにより、日米文化交流のあり方や課題について学びます。さらに、アメリカのパブリック・ディプロマシーの主たる担い手であるアメリカン・センターの活動を中心に、担当者も参加したアメリカ国務省人物交流プログラム等について学びます。
到達目標	1. 日米文化交流の歴史を学び、文化交流の諸問題を学び理解することができる。 2. アメリカという国の歴史・社会・文化を理解し、多文化社会の実態を説明できる。 3. 文化の多様性や異なる文化背景を持つ人々とそれぞれの背景に気を配りながらコミュニケーションを取ることができる。
授業方法と留意点	PowerPoint スライド、配布資料、映像・写真資料を使用します。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容 (概要) を確認する。(2 時間)
	2	戦後日米経済関係 (1)	戦後日米関係の展開	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	3	戦後日米経済関係 (2)	日米経済交流チャンネル	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	4	社会と文化にみる日米戦後史 (1)	深まる戦後の日米文化交流	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	5	社会と文化にみる日米戦後史 (2)	多彩な日米交流チャンネル	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	6	社会と文化にみる日米戦後史 (3)	文化と社会にみる協力と摩擦	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	7	ポスト冷戦時代のパブリック・ディプロマシー (1)	パブリック・ディプロマシーの再構築	これまでの授業内容を復習し、要点を整理する。(2 時間)
	8	ポスト冷戦時代のパブリック・ディプロマシー (2)	イラク開戦後の対日パブリック・ディプロマシー	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	9	パブリック・ディプロマシーとソフト・パワー (1)	パブリック・ディプロマシーの課題	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	10	パブリック・ディプロマシーとソフト・パワー (2)	ソフト・パワーの活用	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	11	オバマ時代のパブリック・ディプロマシー (1)	アメリカにおけるソフト・パワー論	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	12	オバマ時代のパブリック・ディプロマシー (2)	21 世紀のパブリック・ディプロマシー	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	13	パブリック・ディプロマシーとしての国務省人物交流プログラム他 (1)	インターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	14	パブリック・ディプロマシーとしての国務省人物交流プログラム他 (2)	E-Teacher スカラシッププログラム	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2 時間)
	15	パブリック・ディプロマシーとしての国務省人物交流プログラム他 (3)	国際ラジオ放送: Voice of America	これまでの授業内容を総復習し、要点を整理する。(2 時間)

関連科目	「日米比較文化」など
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アメリカン・センター—アメリカの国際文化戦略	渡辺 靖	岩波書店
	2	ソフト・パワーのメディア文化政策—国際発信力を求めて	佐藤卓己他	新曜社
	3	日本とアメリカ—パートナーシップの 50 年	A50 日米戦後史編集委員会	ジャパンタイムズ

評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加度、レスポンスペーパー、宿題) 40% 課題レポート 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	日本とアメリカを比較しながら、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義を学んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とします。 授業の進度は上記の表を目安としますが、開講後の様子を見て必要であれば調整します。 授業時間外での質問等に対する対応方法は主としてメールとなります。
----	---

科目名	東南アジア史学	科目名 (英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3170a0		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、古代から現代に至るまで通時的に概観する。			
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることにより、現在の東南アジア社会、東南アジアと日本との関係、東南アジアを中心とした世界情勢について理解するための基本的な視座を獲得する。			
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。
	4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。
	7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。
	8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。
	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。
	13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。	
関連科目	エリアスタディーズ（東南アジア） など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジア史Ⅰ 大陸部		山川出版社
	2	東南アジア史Ⅱ 島嶼部		山川出版社
	3			
評価方法（基準）	到達度の確認を問う課題（60％）と授業中に行う小レポート（40％）から評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室			
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。 事前・事後学習の総時間数は、60 時間以上とする。			

科目名	社会文化史	科目名 (英文)	History of Society and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3171a0		

授業概要・目的	「ヨーロッパの十字路」、「ヨーロッパが見える国」などといわれるベルギーは、現在でも EU の本部が置かれるなど、ヨーロッパの中心の一つとあって過言ではない。また、中世にはベルギーのフランドル地方はヨーロッパの交易の中枢であり、ヨーロッパでもっとも繁栄した場所の一つであった。近世にはハプスブルク家の支配下となり、宗教改革期には大きな反乱を経験した。そして、ベルギーとして独立した後は言語問題が生じ、オランダ語やフランス語の言語圏などが生まれ複雑な連邦体制がとられている。それぞれの時代でヨーロッパの特徴的な出来事の影響を受け、さらに多様な文化が融合する場所として複雑な事情が生じるベルギー社会を対象として、歴史の大きな動きと社会が受ける影響について深く検討する。こうして、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、言語・文化・国際社会における問題を発見する力を養う。
到達目標	現在に至るまでのベルギー社会の特徴を理解するとともに、政治、地方自治、文化、芸術などさまざまな視点からヨーロッパの歴史を解釈する仕方を身につける。さらに、現在の私たちにとって一見当たり前とされている事柄が長い歴史のなかで形成されてきたことをベルギーの事例から具体的に理解する。
授業方法と留意点	パワーポイントを用い、写真や図、当時の史料を紹介しながら、授業をすすめる。適宜、資料を配布する。フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	歴史学の基礎知識を習得できるとともに、過去を通して現在の社会を考える手法を身につけることができる。これは、現在の国際社会をより深く理解することにもつながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ベルギーという国について	国のなりたちと地理	・ベルギーの位置を地図上で確認する。周りにどんな国があるかも確認する。 ・ベルギーのイメージを書きだす。
	2	中世の都市 (1)	・フランドル地方の特徴 ・中世都市の特徴	・フランドル地方について調べる。
	3	中世の都市 (2)	都市社会とベギン修道会	・ヨーロッパ中世都市の特徴についてまとめる。
	4	君主による統合政策 (1)	・ブルゴーニュ公の支配 ・宮廷文化と都市の文化	・百年戦争とブルゴーニュ公について調べる。
	5	君主による統合政策 (2)	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家について調べる。
	6	カール 5 世の支配 (1)	・ネーデルラント統一	・カール 5 世について調べる。 ・ネーデルラントの領邦について確認する。
	7	カール 5 世の支配 (2)	ネーデルラント総督とヨーロッパの平和	・フランス王フランソワ 1 世について調べる。 ・イタリア戦争について確認する。
	8	ネーデルラントの分離 (1)	・宗派対立と異端審問 ・反乱	・プロテスタントとカトリックの違いを調べる。
	9	ネーデルラントの分離 (2)	・南ネーデルラントの復興 ・再カトリック化 ・小テスト	・対抗宗教改革について調べてくる。 ・これまでの授業をまとめる。
	10	中近世の芸術	・ファン・アイク、ブリュゲル、ルーベンスなどの作品から歴史を考察	・ファン・アイク兄弟、ブリュゲル、ルーベンスについて調べてくる。
	11	オーストリア・ハプスブルク家の支配	・君主の政策 ・啓蒙改革とその反応	・「啓蒙」という言葉を調べる。 ・マリア・テレジアとヨーゼフ 2 世の政策を整理する。
	12	ベルギーの独立	・ベルギーの独立 ・地域による経済格差 ・公用語による諸問題	・ベルギー独立時の政治体制について調べてくる。 ・2つの言語について理解する。
	13	大戦と言語問題の動向	・大戦期のベルギーとその前後の言語問題	・ベルギーの言語圏について確認する。
	14	言語問題と連邦制	・言語圏の対立 ・連邦制	・授業で与えられたテーマについて調べてくる。
	15	現代のベルギー	・授業の総括 ・ベルギーの抱える諸問題	・ベルギーの年表を作り、授業内容を整理する。 ・歴史を通じたベルギーの特徴を考察する。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベルギーを知るための 52 章	小川秀樹	明石書店
	2	スイス・ベネルクス史	森田安一	山川出版社
	3			

評価方法 (基準)	授業のなかで実施する課題 (20%)、小テスト 1 回 (20%)、期末試験 (60%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学で研究する歴史は、広い視点とともに、深く実証的に学ぶことが求められます。この授業では、ベルギーを題材に詳細な事例や歴史史料、図像などをもとに、社会を深く、時に批判的に考察していきます。文献を積極的に読み、ヨーロッパに関する映画やニュースなどにも関心をもって授業に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
----------	---------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。
----	----------------------------

科目名	風土と地理	科目名 (英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1172a0		

授業概要・目的	この授業では地理学という学問分野の基礎知識について学びます。 地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法也多岐にわたっているという特徴を持ちます。 本講義では、こうした地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。																																																																		
到達目標	・地理学の基本となる考え方について説明できること。 ・特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。																																																																		
授業方法と留意点	・主に ①地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。 ・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。 ・提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	担当教員は、地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。 （１）一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。 （２）さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。 （３）個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。 （４）距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。 （５）人と人、																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>地理学とはどのような学問か？</td><td>この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>地図の発達史：古代から現代まで</td><td>古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>自然環境と人類</td><td>自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>人口動態を捉える</td><td>人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>家族形態の地域的多様性</td><td>家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日本の農村と社会</td><td>日本の農村とその社会について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>都市空間の発達と構造</td><td>都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>産業からみた都市の変遷</td><td>産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際貿易の発達</td><td>国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>農と食をめぐる諸問題</td><td>世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人口減少と日本の地域課題</td><td>人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ツーリズムの発達</td><td>地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>疫病の空間的拡散</td><td>疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>モビリティを考える</td><td>モビリティについての社会科学研究について解説します。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>今後の社会を考える：地理学の活用</td><td>授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。</td><td>授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	6	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	7	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	8	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	9	国際貿易の発達	国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	11	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	12	ツーリズムの発達	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	13	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	14	モビリティを考える	モビリティについての社会科学研究について解説します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。	15	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
6	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
7	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
8	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
9	国際貿易の発達	国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
11	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
12	ツーリズムの発達	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
13	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
14	モビリティを考える	モビリティについての社会科学研究について解説します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
15	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>現代人文地理学</td><td>佐藤藤也・宮澤仁編</td><td>放送大学教育振興会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代人文地理学	佐藤藤也・宮澤仁編	放送大学教育振興会	2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代人文地理学	佐藤藤也・宮澤仁編	放送大学教育振興会																																																																
2																																																																			

	3			
評価方法 (基準)	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%			
学生への メッセージ	大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。 (1) 扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。 (2) 試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。 この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえことを切に願います。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林研究室。 ※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)。			
備考				

科目名	異文化接触論	科目名 (英文)	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2174a0		

授業概要・目的	この授業の目的は、多文化共生社会の実現に寄与できる異文化認知力と異文化適応力を養うために、異文化接触の理論を手掛かりに日常的な自分と身近な他者の接触の仕方を分析し、その技能を外国文化の理解にも応用する知識と態度を身につけることである。ICT 技術の発達や人や企業活動の国境を越えた広がりによって、かつてないほど多様な文化的背景をもつ人々と接触し、理解し合わなくてはならない場面が増えている。この授業は、異文化接触の理論と世界の異文化対立の事例を学び、身近な他者や異文化との接触仕方をグループワークによって考え、また、留学時に生じる異文化摩擦における対処法を考える。
到達目標	- 世界の異文化接触の事例を理解する上で重要な理論を説明できる。 - 異文化認識の癖を知るためにグループワークに参加し、積極的に発言できる。 - 自己のアイデンティティについての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を説明できる。 - 外国認識についての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を理論を踏まえて説明できる。
授業方法と留意点	- 講義とグループワークを交えて行う。文化の捉え方や歴史的な異文化接触の事例は資料を配布し講義形式で行う。あわせて自己とクラスメイトの文化認識を比較する個人ワークを 3 回行い、ワークからの発見を中間レポートとして提出する。 - 講義形式の回はリアクションペーパーの課題を課す。 - 学期末には中間レポートからの発見と授業で紹介する異文化接触の理論と事例を総合し、「異文化との豊かな交流のための提言」というテーマで学期末レポートを作成・提出する。 課題に対するフィードバックとして、中間レポートは提出後の授業で講評
科目学習の効果（資格）	- 自文化と異文化の違いを知り、違いを積極的に理解する思考をもって、より多くの文化的背景の異なる人々との交流を広げる。 - 異文化摩擦やカルチャーショックの仕組みを理解することで、留学の際に直面するカルチャーショックを乗り越える力を得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションおよび文化を見る癖について	授業の概要、講師の異文化体験	日常生活における自分の文化の癖を探してリストアップする。
	2	人はどのような時に差別行動に走るのか	新型コロナ禍に伴う差別行動の事例をもとに差別が起きるメカニズムを考える。	配布資料を読んで、自己の日常行動の癖と異文化への視線との関係を考える。
	3	身近な異文化を発見するグループワーク	異文化的存在の他者との接触の際の自分の行動と思考を分析する。	グループワークからの発見をもとに異文化体験の感想をまとめる。
	4	文化の捉え方	「見える文化」と「見えない文化」の文化の重層性の理論を通して、他者をめぐる言説、文化のカテゴリー化の概念を知る。	レジュメと配布資料を見直して文化の重層性の理論を理解する。
	5	異文化への視線	西洋と非西洋の接触の歴史から異文化に対する視線と言説の創造の歴史を知る。	グループワークの下準備として、異文化接触時に想定される自分の行動や他者認識をリストアップする。
	6	自分の文化の構成要素を分析するグループワーク	自己のサブカルチャー構成をリストアップし、他者との比較・分析から、自己を形成する文化的要素を認識する。	グループワークからの発見をもとに、文化のカテゴリー化の概念を用いて、中間レポートを作成する。
	7	価値観の衝突：西洋とイスラーム	西洋とイスラームの文化摩擦の歴史を、言説、文化のカテゴリー化の概念を手がかりに読み解く。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を確認する。および欧米とイスラームの対立が表れている新聞・インターネットの記事を探しておく。
	8	アフリカにおける文化対立の悲劇（1）	ルワンダ内戦の事例から、植民地支配における文化のカテゴリー化の影響力を学ぶ。	配布資料を参考にルワンダ内戦の経緯について調べる。
	9	アフリカにおける文化対立の悲劇（2）	映像資料を通じてルワンダにおける為政者による「他者の創造」と人種・民族の政治的操作の事例を学ぶ。	ルワンダ内戦に関する映画を観て、文化のカテゴリー化と他者の創造が分かる場面をリストアップする。
	10	自己と他者の外国認識の違いを分析するグループワーク	外国に対する認識の違いをクラスメイトと比較し、知識量と外国認識の相関性を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	11	異文化摩擦と接触仮説	多文化共生のための接触仮説の詳細を知り、日本における日系ブラジル人の事例から確認する。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および接触仮説に関する配布資料を読む。
	12	北米の文化対立と多文化主義	米国の文化的分断とカナダの多文化主義の事例を接触仮説に即して読み解く。	米国とカナダの多文化政策に関する配布資料を読む。
	13	多文化共生の条件を考えるグループワーク	多文化状況を描いた映像をもとに、文化の溝が縮まる条件と広がる条件を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	14	留学とカルチャーショック	留学を事例に、個人レベルでの異文化接触とカルチャーショックの諸段階について学ぶ。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および期末レポートの作成と発表準備
	15	レポート講評とふりかえり	レポート作成の技法の確認および講義内容の補足的説明	期末レポートの提出および講評をもとにレポートの見直し

関連科目	日米比較文化、芸術文化論、異文化ビジネス論、異文化コミュニケーション論、国際社会論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 異文化トレーニング ボードレス社会を生きる	八代京子ほか	三修社

	2	イスラム化するヨーロッパ	三井美奈	新潮社
	3	紛争・対立・暴力—世界の地域から考える	西崎文子・武内進一 編著	岩波書店
評価方法 (基準)	授業参加度（リアクションペーパーの内容、個人ワークへの取り組み） 20% 中間レポート 40% 期末レポート 40%			
学生への メッセージ	他者や異文化とのかかわりを客観的に考えられるようになって、より多くの他者・異文化との関係を広げてください。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 藤井研究室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は60時間を目安とする。			

科目名	日米比較文化	科目名 (英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2175a0		

授業概要・目的	19 世紀から現代までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観の変遷と、その背景にある国際政治、国際政治との関わりを、主に映画と音楽から実例をとって年代順にみていく授業です。両国の人々が互いに抱いてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えてもらいます。 外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」という部分を担う位置づけにある授業です。教職課程における「異文化理解」区分の必修科目でもあります。 受講生の皆さんには、あらかじめ動画による講義を視聴し、スケジュール通りに文字資料を読み、参考資料動画等の教材も視聴した上で演習授業に参加し、課題を作成して提出することが要求されます。高度な日本語を読みこなし、理解した内容を自分の言葉にして書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣として身につけ、就職活動や卒業研究レポート作成に対応可能な水準の日本語力も同時に身につけましょう。																																																						
到達目標	・日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。 ・日米間に限らず現代世界一般の人種問題、民族問題について、またメディアと異文化理解の関係についての基礎知識を持ち、多様な文化背景を持った人々との共生のありかたについて当事者意識を備えた意見を述べられるようになる。 ・就職活動や卒業研究レポート作成に向けて活用できる日本語能力、作文能力を身につける。 ・テーマに基づいて読解、作文、質疑を繰り返す学習技法を習得する。 ・ICT を生かす																																																						
授業方法と留意点	・今年度は「反転授業」を試みます。受講生はあらかじめ動画を視聴し、文献資料を読んだ上で授業に出席し、授業時間にはグループワーク、質疑応答をし、小論文課題に取り組みます。 ・15 回授業を 2～3 回ずつに区切って 6 つのユニットとし、6 本の小論文（アウトラインを手書きで作成する予備的な課題を含めると合計 12 本）を作成し、提出していただきます。各ユニットの最初の回では授業時間の中で動画の一部を視聴したり、文献資料の一部を読む時間をとりますが、ユニットの 2 回目では既に全ての動画と資料に目を通していただくことを前提とした																																																						
科目学習の効果（資格）	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる国際教養。																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>受講の方法を確認</td><td>受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。</td><td>配付した資料の予習を開始。（2 時間程度）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」</td><td>ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「黄禍」としての日本人／日系人 その 1 1910 年代の日米関係</td><td>最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「黄禍」としての日本人／日系人 その 2 Cheat (1915) の主要場面を分析する</td><td>最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 1 1920 年代～30 年代の日米関係</td><td>1928 年～1930 年代の日本製「ジャズ」音楽を検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 2 1930 年代の反米知識人</td><td>池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』（1937）など検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「人種戦争」としての第二次世界大戦その 1 アメリカのプロパガンダ</td><td>日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>「人種戦争」としての第二次世界大戦その 2 日本のプロパガンダ</td><td>日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 1 1950 年代の日米関係</td><td>映画『サヨナラ』（1957）を検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 2 『サヨナラ』（1957）と人種・ジェンダー</td><td>映画『サヨナラ』（1957）を検証</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その 1 アメリカのカウンターカルチャー</td><td>ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版</td><td>ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例</td><td>授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	受講の方法を確認	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習を開始。（2 時間程度）	2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	3	「黄禍」としての日本人／日系人 その 1 1910 年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	4	「黄禍」としての日本人／日系人 その 2 Cheat (1915) の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 1 1920 年代～30 年代の日米関係	1928 年～1930 年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 2 1930 年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』（1937）など検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 1 1950 年代の日米関係	映画『サヨナラ』（1957）を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 2 『サヨナラ』（1957）と人種・ジェンダー	映画『サヨナラ』（1957）を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その 1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）	12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版	ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	受講の方法を確認	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習を開始。（2 時間程度）																																																				
2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
3	「黄禍」としての日本人／日系人 その 1 1910 年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
4	「黄禍」としての日本人／日系人 その 2 Cheat (1915) の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915) を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 1 1920 年代～30 年代の日米関係	1928 年～1930 年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 2 1930 年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』（1937）など検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 1 1950 年代の日米関係	映画『サヨナラ』（1957）を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 2 『サヨナラ』（1957）と人種・ジェンダー	映画『サヨナラ』（1957）を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その 1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。（合計 3 時間程度）																																																				
12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版	ウッドストック（1969）と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所																																																				

		その2 日本のカウンターカルチャー	に考える。	を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。 (合計3時間程度)
	13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その1 ジャズとブルース	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。 (合計3時間程度)
	14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2 ファンクとヒップホップ	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。 (合計3時間程度)
	15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。(2時間程度) 授業後、期末レポートを作成する。(5時間程度)
関連科目	エリアスタディーズ (北アメリカ)、日米文化交流史ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定なし※プリント教材、動画等を電子配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える	兼子歩／貴堂嘉之 編	彩流社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全6回の小論文課題 60% (10% x 6本。予備的な課題を含めると全部で12回の課題提出) 質疑応答・ディスカッションへの貢献・小テスト等 40%			
学生への メッセージ	この授業の内容はかなり高度です。全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。メールは torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	中国文学	科目名 (英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2176a0		

授業概要・目的	中国文化の中で文学は最も輝かしいものの一部です。中国文学は中国文化の基本的精神を内包し、中国人の美的な追及を表している。古代の神話から唐詩、宋詞、明清の小説などの作品、背景及び作者の紹介により中国の歴史、文化を知る。																																																																		
到達目標	古代から近代に至る中国文学の基本的な流れを理解する。																																																																		
授業方法と留意点	各時代の主要作品の特徴を把握し、時代や社会との関わりを理解する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	映像、資料を用いて授業を進める。課題や確認テストは返却時、または実施後の授業、あるいは後日、ICT ツールを通してフィードバックを行います。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中国文学概論</td><td>映像、資料を学習する</td><td>講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>中国神話</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>楚辞 屈原</td><td>映像、資料を学習する</td><td>一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>唐詩① 李白</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>唐詩② 杜甫</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>元雜劇</td><td>映像、資料を学習する</td><td>二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>明清小説① 西遊記</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>明清小説② 三国演義</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>明清小説③ 聊齋志異</td><td>映像、資料を学習する</td><td>三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>四大民間伝説</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>現代中国文学 魯迅</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>当代文学① 改革文学</td><td>映像、資料を学習する</td><td>四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>当代文学② 知青文学</td><td>映像、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ノーベル賞受賞者 莫言の作品</td><td>映像、資料を学習する</td><td>最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>資料を学習する</td><td>課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	中国文学概論	映像、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	2	中国神話	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	3	楚辞 屈原	映像、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	4	唐詩① 李白	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	5	唐詩② 杜甫	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	6	元雜劇	映像、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	7	明清小説① 西遊記	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	8	明清小説② 三国演義	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	9	明清小説③ 聊齋志異	映像、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	10	四大民間伝説	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	11	現代中国文学 魯迅	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	12	当代文学① 改革文学	映像、資料を学習する	四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	13	当代文学② 知青文学	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	14	ノーベル賞受賞者 莫言の作品	映像、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	15	まとめ	資料を学習する	課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	中国文学概論	映像、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
2	中国神話	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
3	楚辞 屈原	映像、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
4	唐詩① 李白	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
5	唐詩② 杜甫	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
6	元雜劇	映像、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
7	明清小説① 西遊記	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
8	明清小説② 三国演義	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
9	明清小説③ 聊齋志異	映像、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
10	四大民間伝説	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
11	現代中国文学 魯迅	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
12	当代文学① 改革文学	映像、資料を学習する	四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
13	当代文学② 知青文学	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
14	ノーベル賞受賞者 莫言の作品	映像、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
15	まとめ	資料を学習する	課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	教材の視聴 (出席) 五割、課題五割																																																																		
学生へのメッセージ	中国文化、中国文学を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。																																																																		
担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		

科目名	芸能文化論	科目名 (英文)	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2177a0		

授業概要・目的	【いかにメディアミックスは眼差しを変えるのか】 西洋における「祝祭と美術」の関係を考察する。中世最大の祝祭であるフィレンツェ聖史劇に注目し、衣装・小道具・演出の特徴を確認する。次に、その見物客がどのように舞台を見て感じていたのかを推察する。それと同時に、聖史劇を見る眼差しと交差した可能性がある、当時の絵画を見る眼差しも検討する。ルネサンス期フィレンツェに暮らした市井の人びとは、かならずしも「知的エリート」だったわけではなく「高貴な趣味」を持っていたわけでもない。その彼らが祝祭や美術に触れた際の感情を追体験することで、現代を生きるわたしたちの眼差しと認識がいかに形成されてきたのかに気づくきっかけが得られる。			
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 祝祭が呼び覚ます振れ幅の大きな感情 2. 祝祭が揺り動かす時間と空間の結び目 3. 祝祭が更新する人びとの生			
授業方法と留意点	【講義に出席して、質問を考える】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習を進める。			
科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	2	認識	系譜学と慣習について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	3	実践	系譜学と眼差しについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	4	歴史	中世と聖史劇について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	5	舞台	山と布について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	6	装置	雲と鉄について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	7	素材	翼と羽根について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	8	扮装	女性と男性について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	9	視角	浮力と重力について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	10	屋根	天球と天体について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	11	燃焼	聖霊と火花について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	12	生	人形と人間について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90 分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。

	<table><tr><td>14</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。</td><td>事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120分）。</td></tr><tr><td>15</td><td>総括</td><td>実習課題の振り返りと授業を総括する。</td><td>事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。事後：自分の眼差しを形成してきた経験を書き出し、現在のメディアミックスが作り出しつつある今後の眼差しについて、仮説をまとめる（240分?）。</td></tr></table>	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120分）。	15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。事後：自分の眼差しを形成してきた経験を書き出し、現在のメディアミックスが作り出しつつある今後の眼差しについて、仮説をまとめる（240分?）。											
14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120分）。																	
15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。事後：自分の眼差しを形成してきた経験を書き出し、現在のメディアミックスが作り出しつつある今後の眼差しについて、仮説をまとめる（240分?）。																	
関連科目	暮らしの中の文化／芸術論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ルネサンスの聖史劇</td><td>杉山博昭</td><td>中央公論新社</td></tr><tr><td>2</td><td>ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）</td><td>エミール・マール</td><td>岩波文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>ルネサンス絵画の社会史</td><td>マイケル・バクサンドール</td><td>平凡社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社	2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫	3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社																	
2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫																	
3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社																	
評価方法 （基準）	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の質問に自分で応答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。																			

科目名	英米文学	科目名 (英文)	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3178a0		

授業概要・目的	この授業では古典から最新まで英語圏の文学作品を幅広く紹介します。作品が生まれた背景や経緯（地域性）はもちろん、国・地域・時代を超えて読まれるのに必要な普遍性についても考察していきます。また、作品には読ませるための仕掛けが施されています。実際に作品を読むことで、どのような技巧がテーマを深めるのに用いられているのか探っていきます（これには作品の翻訳を使用し、グループワークの手法を取り入れます）。授業での取り組みをさらに深めるため、学期末にはレポートを作成します。授業で扱った作品を最後まで読み、作品の地域性・普遍性・文体・技法・ジャンル性などを考慮しながら、非英語圏に生きる「我々」ならではの読みを展開してもらえればと思います。
到達目標	・イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の文学・歴史・文化への理解を深める。 ・英語圏文学の特徴を学ぶとともに、翻訳で読むときの注意点を理解している。 ・文学作品を読んで「なに」が「どのように」描かれているのか説明することができる。
授業方法と留意点	授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。 レポート等に関するフィードバックは、レポートを受理した後に行う。
科目学習の効果（資格）	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、学期末レポートについて説明する。	予習と復習（2時間）
	2	英米の古典文学（1）：ナサニエル・ホーソーンとアメリカ	ナサニエル・ホーソーンの文学について紹介する。	予習と復習（2時間）
	3	英米の古典文学（2）：エドガー・アラン・ポーとアメリカ	エドガー・アラン・ポーの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）
	4	英米の古典文学（3）：ウィリアム・シェイクスピアとイギリス・アメリカ・日本	シェイクスピアの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）
	5	翻訳を／で読むⅠ：なぜ物語はそうに始まるのか	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）
	6	文学賞と英語圏文学（1）：ブッカー賞の歴史と受賞作	ブッカー賞について紹介する。	予習と復習（2時間）
	7	文学賞と英語圏文学（2）：ピューリッツァー賞の歴史と受賞作	ピューリッツァー賞について紹介する	予習と復習（2時間）
	8	文学賞と英語圏文学（3）：ノーベル賞の歴史と受賞作	ノーベル賞について紹介する。	予習と復習（2時間）
	9	文学賞と英語圏文学（4）：トニ・モリスンとサルマン・ラシュディ	ノーベル賞を受賞した作家のうち、モリスンとラシュディの紹介をする。	予習と復習（2時間）
	10	翻訳を／で読むⅡ：これは英語でどうなっているの？	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）
	11	文学のスタイルとジャンル（1）：英米文学と冒険ファンタジー	英米文学を代表する冒険ファンタジー小説の紹介をする。	予習と復習（2時間）
	12	文学のスタイルとジャンル（2）：イギリス文学とモンスター	怪物が登場するイギリス文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）
	13	文学のスタイルとジャンル（3）：アメリカ文学と探偵ミステリー	私立探偵が登場するアメリカ文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）
	14	翻訳を／で読むⅢ：反復・象徴・引用・地理	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）
	15	これまでの学習内容の振り返り	これまでの授業内容の振り返り、学期末レポートに向けた説明	これまでの授業内容の復習（2時間）

関連科目	リーディングⅡなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜プリントを配布する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学教授のように小説を読む方法（増補新版）	トーマス・C・フォスター	白水社
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業での取り組み（60%）、レポート等の課題（40%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	天野研究室（7号館3階）

備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を 60 時間程度とする。
----	--

科目名	神話論	科目名 (英文)	Mythology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3179a0		

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入りに、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。 神話は古代のものという見方は誤りである。神話は文化・文明の精髓（エッセンス）である。その証拠に、小説・映画・アニメといった大衆文化から、生活習慣、さらには政治のなかにも、神話モチーフは存在している。 神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から考察を深める。																																																																		
到達目標	・神話というジャンルについて、複数のテーマから説明できる。 ・現代の日本や世界における様々な事象について、神話論的な解釈を試みることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義が中心となる。 毎回テーマに沿って講義し、最後にコメントペーパーを提出する。 ペーパーに対するフィードバックは次の授業内で行う。 また、4 回を学生によるプレゼンテーションに当てる。 コメントペーパーについては次回、プレゼンテーションについてはその場でフィードバックする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>なぜ神話を学ぶのか</td><td>講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。</td><td>神話とはどのようなものを指すのか調べる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 1 部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1</td><td>われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の誕生 2 文明の誕生</td><td>人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>英雄神話</td><td>世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>オイディプス神話とは何か</td><td>ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>シンデレラの謎</td><td>世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 1 部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 1 部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 2 部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ</td><td>神話と地域の伝承について考える</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>神と鬼</td><td>昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>浦島太郎と異界</td><td>浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>一寸法師と下剋上</td><td>一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>縁起 由来を語ること</td><td>ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 2 部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 2 部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	なぜ神話を学ぶのか	講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。	神話とはどのようなものを指すのか調べる	2	第 1 部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1	われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	3	人間の誕生 2 文明の誕生	人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	4	英雄神話	世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	7	第 1 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	8	第 1 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	9	第 2 部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ	神話と地域の伝承について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる	10	神と鬼	昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる	11	浦島太郎と異界	浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	12	一寸法師と下剋上	一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	13	縁起 由来を語ること	ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	14	第 2 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	15	第 2 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	なぜ神話を学ぶのか	講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。	神話とはどのようなものを指すのか調べる																																																																
2	第 1 部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1	われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
3	人間の誕生 2 文明の誕生	人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
4	英雄神話	世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
7	第 1 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
8	第 1 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
9	第 2 部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ	神話と地域の伝承について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
10	神と鬼	昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
11	浦島太郎と異界	浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
12	一寸法師と下剋上	一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
13	縁起 由来を語ること	ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
14	第 2 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
15	第 2 部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
関連科目	文化科目全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポートまたはプレゼンテーション (計 2 回) 60%、授業参加度 (コメントペーパー等) 40% で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (橋本研究室)																																																																		
備考	事前事後の学習時間の目安は計 60 時間。																																																																		

科目名	現代社会論	科目名 (英文)	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2180a0		

授業概要・目的	昨今、私たちの日常において、「3密」や「ステイホーム」、さらには「ブラック企業」や「婚活」、「インスタ映え」、「パワハラ」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまなレンズを使って見直していただくことを通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞ることとした。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となろう。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせることなく、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。 なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。 毎授業時にリアクションペーパーにコメントを記入してもらい、翌週の授業でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
	2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
	3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
	4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
	6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
	7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	8	各国の人口問題 (人口減少社会と人口過剰社会の仕組み)	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
	9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
	11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
	13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみましょう。
	14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール (たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE 等) の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
	15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。 (最終試験)	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題 I・II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の課題および最終試験により評価する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)

備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの授業計画に伴わず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。特にコロナ禍においては、社会変容を引き起こすような事例が多く浮上するため、各回のテーマが変更される可能性が高いことを了承いただきたい。 また、受講者数（50名以下の場合）によっては学生諸君にプレゼンテーションをしてもらいながら授業を進めることとしたい。 なお、授業の方法等の詳細は第1回目の授業で伝える。 本授業における事前・事後学習課題は
----	--

科目名	国際社会論	科目名 (英文)	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2181a0		

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。				
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深めることができる。				
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。				
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第 1 章 国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
		2	国家についての各論考察（1）	第 2 章 国家と暴力	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		3	国家についての各論考察（2）	第 3 章 国家と官僚制	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		4	国家についての各論考察（3）	第 4 章 国家と戦争	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		5	国家についての各論考察（4）	第 5 章 国家と正当性	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		6	国家についての各論考察（5）	第 6 章 国家と社会	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		7	国家についての各論考察（6）	第 7 章 国家と統計（学）	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		8	国家についての各論考察（7）	第 8 章 国家とナショナリズム	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		9	国家についての各論考察（8）	第 9 章 国家と資本主義経済	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		10	国家についての各論考察（9）	第 10 章 国家と民主主義	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		11	国家についての各論考察（10）	第 11 章 国家と社会福祉	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		12	国家とグローバル化（1）	第 12 章 国家のグローバル化	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		13	国家とグローバル化（2）	第 13 章 脱植民地化と「崩壊国家」	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		14	国家とグローバル化（3）	第 14 章 グローバル化のなかの国家	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		15	まとめと補遺	第 15 章 国家の現在、国家の将来 おわりに	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
関連科目					

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 (課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。)			
学生への メッセージ	毎回の授業だけでなく、授業内で提示する課題への取り組みの際にも教科書は必携なので、必ず購入の上で受講すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	哲学と倫理	科目名 (英文)	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3182a0		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義へのイントロダクション	哲学とは何かについて解説をする。 古代ギリシアにおける哲学 近代哲学における精神と物質の二元論 現代哲学の諸課題	哲学に対する自分なりのイメージをまとめておく。
	2	知識について (1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	3	知識について (2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	4	知識について (3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	5	心の問題 (1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	6	心の問題 (2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	7	心の問題 (3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	8	自由と因果性 (1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	9	自由と因果性 (2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	11	生と死 (1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	12	生と死 (2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	15	まとめ	講義を通じて明らかにになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
	2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書
	3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂

評価方法 (基準)	授業内でのレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室
----------	----------------

備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に 60 時間必要。
----	----------------------------------

科目名	現代学術論	科目名 (英文)	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3183a0		

授業概要・目的	世の中には役に立つ学問と役に立たない学問があるのでしょうか。学問の価値は、いま私たちが理解する世界にとって有用であるかどうかだけで測られるものなのでしょうか。			
	文系学部廃止論というのがあります。専門家や既存の知的権威に対して懐疑的な立場をとる反知性主義というものが再び注目されるようになりました。トゥルース（真実）に対してポストトゥルース（ポスト真実）やオルタナティブファクト（もうひとつの事実）を主張する人たちが社会に対して大きな影響力をもつようになりました。子宮頸がんや新型コロナウイルス感染症のワクチンをめぐっては、科学や医学を否定する形で疑問を投げかける陰謀論が大きな社会問題となりました。			
	この四半世紀のあいだにインターネットや SNS の普及がありました。新聞、テレビといった旧来のメディアが伝えることや、専門家が話したり本に書いたりしていることよりも「ネットにこそ真実がある」と考える人が現れてきました。気がつけば、私たちはスマホを常に持ち歩き、巨大な企業が織りなす仮想空間（メタバース）にどっぷりつかって、現実世界と仮想空間で私たちがよりどころとする価値基準が逆転するようなことも起こっています。私たちはスマホ、SNS のユーザーであったはずなのに、実際には私たちが使われる側になっていました。			
	このような時代にあって、学問をするとはどういうことなのでしょう。そもそも学問とはどういうものなのでしょう。この授業では、特定の分野にとらわれず、分野を横断して、できる限り多くの問題をひとつひとつの点として描写しつつ、最終的に浮かび上がってくるものがどのようなもののかを受講生のみなさんとともに考察します。			
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 社会を幅広い視野で眺められるようになる (2) 現代社会の課題について理解できるようになる (3) メディアリテラシーを身につけられるようになる			
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。			
科目学習の効果（資格）	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。			
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。 資本主義がもたらした世界。グローバリゼーションは私たちの生活をどのように変えたのか。マクドナルドのフライドポテトはなぜ S だけになったのか。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
	2	技術革新とイノベーション	印刷術の登場によって世の中は大きく変化しました。その後も、内燃機関、電気、電話、ラジオ、テレビ、インターネットなどが登場するたびに私たちの生活は大きく様変わりしてきました。この回では、技術革新とメディアの変遷について学修します。 【参考文献】 ヴァルター・ベンヤミン (佐々木基一訳) 『複製技術時代の芸術』品文社クラシックス、1999 年	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	3	反オカルト論	高橋昌一郎『反オカルト論』を手掛かりに、私たちがどのようにしてオカルトへはまっていくのかを概観します。また、そうしたオカルトにはすべて科学的に説明可能なカラクリが存在していたということも確認します。その上で、私たちがオカルトにはまらないようにするためにはどのようなことに気をつけなければならないのかを考えます。 【参考文献】 高橋昌一郎『反オカルト論』光文社新書、2016 年	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
4	専門家に対する不信と STS	1986 年、英国では BSE（牛海綿状脳症）問題、旧ソ連（現ウクライナ）ではチェルノブイリ原発事故が起こり、専門家に対する人びとの信頼が大きく揺らぐきっかけとなりました。日本では過去に起きた薬害や予防接種への副反応の経験から、子宮頸がんの原因となっているヒトパピローマウイルスへの感染を予防するワクチン（HPV ワクチン）や新型コロナウイルスへの感染を予防するワクチンへの忌避感が根強くあります。 こうした問題に専門家の立場から何か	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	

			できることはあるのでしょうか。この回では、科学技術社会論（STS）の観点から	
	5	陰謀論	新型コロナウイルスへの感染を予防するワクチンにはマイクロチップが混入されているとか、ワクチンを接種すれば私たちの遺伝子が改変されるとか、あるいは新型コロナウイルスまたはそのワクチンは宇宙人が人類の人口を調整するためにもたらしたものであるなどといった陰謀論が渦巻いています。 アポロ 11 号が本当は月面着陸していなかったという陰謀論は半世紀以上たった今でも残り続けています。 この回では、なぜ私たちがこうした陰謀論にはまってしまうのかを考察します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	6	ポストトゥルース、オルタナティブファクト	ポストトゥルース（ポスト真実）、オルタナティブファクト（もうひとつの事実）、あるいは「ネットにこそ真実がある」といった信念がどのような文脈のなかで出現しどのような社会的インパクトを持っているのか、近年の主要な出来事を参照しつつ考察します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	7	無謬性、無知の知	SNS などで専門家に対して「お前はぜんぜんわかっていない、もっと勉強しろ」といったようなお説教をしている非専門家をしばしば見かけます。こうしたお説教は、その筋の専門家ではない第三者が見ても荒唐無稽なものがほとんどです。いたずらでふざけて言っている人もいるでしょうが、本気でこのようなことを投げかけている人の自信はどこからくるのでしょうか？ この回では、自分自身を正しいと信じて疑わないこと、無謬性、無知の知について学修します。 【参考文献】 バートランド・ラッセル（高村夏輝訳）『哲学入門』ちく	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	8	新たな階級闘争	ブレグジット、排外主義、エスタブリッシュメント、階級闘争、資本主義、グローバリゼーション、知識基盤社会、ICT、マルチタスク、分断と排除について考察します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	9	知識人、専門家とは誰のことなのか？	近年、大学の授業で受講生にとって知識人とはどのような人なのかを尋ねると、思いつかないという人が一定数おり、具体的に名前が挙がるのは、池上彰、西村ひろゆき、中田敦彦の三氏です。 テレビでは専門家と称する（あるいはそのように紹介される）人が登場して、現在社会で起きている問題について解説していますが、解説される内容は解説する人によって大きく異なっており、専門家ではない視聴者がその分野の専門家として信頼に足るかどうかを論評し品定めしています。SNS での状況はより複雑で、混々としています。 そもそも	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	10	SF を通して現在、過去、未来を考える	SF はさまざまな仮説、設定、想像に基づいて構想された現在、過去、未来についての物語です。作品が作られた当時から見て未来のことでも、2022 年現在から見ればすでに過去のことであったり、いままさにその時代を過ごしていたりということがあります。その場合、作品の中で描かれている世界と実際の世界とがどの程度一致し、どの程度一致していないのかを確かめることができます。 この回では、士郎正宗原作の漫画、もしくはアニメ、映画『攻殻機動隊』を手がかりに、作品の中で描かれている状況がどの程度現在の状況に当てはまっている	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。

	11	知識基盤社会、情報社会	知識を基盤とした社会になり、ICT を使いこなすマルチタスクに対応できる者ばかりが評価され、そうでない者が活躍できる場合は急速に失われつつあります。 私たちはかつてないほど多くの情報に囲まれて生活しています。しかしながら、そうした情報のほとんどは構造化されておらず、これらの情報を私たちににとって価値あるものにするためには、自らそれらを構造化するか、誰かが構造化したあまりにも多くの情報の中からさらに取捨選択、つまり構造化された情報のさらなる構造化をしなければなりません。実際、こうした作業にはかなりの知識や経験	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	12	人間の労働はどこまで AI・ロボットに取って変わられるのか	人間的であるとはどういうことなのでしょう。私たちは「非人間的な仕事」などと言うことがありますが、その際に意味している「非人間的」とはどのような仕事のことなのでしょう。人間ではなくてもできる仕事という意味でしょうか。それとも、人間がやるのには向いていない仕事という意味でしょうか。 感情労働が問題になっています。カスタマーハラスメント（カスハラ）によって過労死する人がいます。海外に比べて遅れていると言われていた日本でも、新型コロナ以降、セルフレジや無人販売	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	13	事実を見つめること	私たちはさまざまな認知バイアスをもっています。そうしたバイアスは、社会問題について勉強している人ほど強化され世の中の問題をより深刻に考えてしまう傾向があります。世界中でベストセラーになった『ファクトフルネス』を手がかりに、現在の世界がどんな状態であるのかを、『ファクトフルネス』が示すデータに基づいて確かめます。 【参考文献】 ハンス・ロリング、オーラ・ロリング、アンナ・ロリング・ロンランド（上杉周作、関美和訳）『FACTFULNESS（ファクトフルネス）10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	14	デモクラシーが人文学を必要とする理由	マーサ・ヌスバウムの『経済成長がすべてか？——デモクラシーが人文学を必要とする理由』を手がかりに、人文学の意義と必要性について考察します。 【参考文献】 マーサ・ヌスバウム（小沢自然、小野正嗣訳）『経済成長がすべてか？——デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店、2013 年	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回り、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業で十分に理解できなかったことなどを質問する時間もあります。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
関連科目	文化科目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題（リフレクションシート）30%、中間レポート30%、期末レポート40%で評価します。			

学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	

科目名	現代中国論	科目名 (英文)	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3184a0		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、毎回授業後半には授業の振り返りとしてレポートを課すので、質問などがある際はレポートに付け加える形で書いてほしい。 課題やテストに対する評価は次の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ユニットⅠ 現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
	2	ユニットⅠ 現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
	3	ユニットⅠ 現代中国の概況	インバウンドにみる日本と中国の関係	学習課題：インバウンドが日本にもたらすものを考察してみる。
	4	ユニットⅠ 現代中国の概況	中国経済の今	学習課題：世界経済における中国の立ち位置を考察してくる。
	5	復習	1 チェックテスト	学習課題：現代中国についての基本知識を復習しておく。
	6	ユニットⅠ 現代中国の概況	中国の電気自動車の現況と日本の関係を考える	学習課題：脱炭素化時代に不可欠な電気自動車について調べる
	7	ユニットⅠ 現代中国の概況	少数民族について考える	学習課題：中国の少数民族についてその現況と問題点を考察する。
	8	ユニットⅠ 現代中国の概況	習近平の功績について	学習課題：習近平の生涯とその政治的功績について考える
	9	ユニットⅡ 中国近現代史	中国の現代史について (1)	学習課題：中華人民共和国の成立過程を考察する。
	10	復習	チェックテスト	学習課題：中国の近現代史についてまとめる
	11	ユニットⅡ 中国近現代史	中国の現代史について(2)	学習課題：建国以降の中国の歩みを知る。レポート題目提出。
	12	ユニットⅢ 中国の現代文化	中国の現代文化について	学習課題：中国が発信する文化について学ぶ
	13	ユニットⅢ 中国の政治	ポスト習近平を狙う政治家にういて	学習問題：習近平の次の世代の政治家について調べる
	14	ユニットⅢ 中国とアメリカ	世界 2 大大国の関係	学習課題：アメリカと中国の関係を調べる
	15	復習 中華人民共和国建国以降現在まで	☆ 単元テスト 第 3 回	学習課題：中国近現代の歩みをまとめてみる。

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、レポート (授業最後の時間を利用)、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト 60% レポート、課題 平常評価 40%
学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時レポート、チェックテストを課し、知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。レポートは提出前に自分用にも記録をとることを勧める。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師控室
備考	授業外で連絡の必要場合は水曜昼休みに講師控室までお越しください。

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1185a0		

授業概要・目的	【そもそも博物館とはなにか】 全国で5,700館を数える「博物館」だが、じつは歴史系博物館以外にも、美術館・文学館・記念館・民芸館・動物園・水族館といった施設が含まれる。この授業では、そのなかでもとくに注目すべき成功を収めている「ベネッセハウス」ならびに「ベネッセアートサイト直島」を取り上げ、なぜこの施設・場所・展示が世界的に高い評価を受けているのかを考察する。さらに、同地で展示されている現代美術の具体的な作品を確認し、モダンアートはどこがおもしろく、いかに多くの人びとに影響を及ぼし続けるのかを検討する。この考察・確認・検討は、博物館がどこから来て、なにをするのか、そしてどこへ向かうのかという大きな問題と向かい合う機会となるだろう。			
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 博物館はどこから来たのか（博物館の誕生の経緯）。 2. 博物館はなにをするのか（博物館の社会的役割）。 3. 博物館はどこへ行くのか（博物館の将来の展望）。			
授業方法と留意点	【講義に出席してクイズに答える】 1. 講義に出席する。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズへの応答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布されるフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。			
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する（60分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	4	素材	ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	6	光線	ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	8	普遍	ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。
	9	写真	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する（90分）。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる（90分）。

	10	記憶	クリスチャン・ボルタンスキー作品の由来と魅力について確認する。	分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	11	世界	内藤礼作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	12	夢幻	維新派舞台の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
	13	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。
	14	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。
	15	総括	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:博物館の役割と見学の経験を照らし合わせて自分にとっての博物館の意味を考えつつ、別の博物館を見学しに行ってみる (240 分)。
関連科目	「他の学芸員課程の科目」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン
	2			
	3			
評価方法 (基準)	【クイズの回答によって評価される】 1. 毎回の回答内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。			
学生への メッセージ	【より良い回答をめざす】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にす。 2. さらに、より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。			
担当者の 研究室等	7号館 5 階 杉山研究室			
備考	【自分の回答を自分で採点する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。			

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名 (英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2186a0		

授業概要・目的	【博物館資料の価値とはなにかを学ぶ】 博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえて、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはなにかを考える。その考察をとおして、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として扱う際の基本的知識を裏打ちする。																																																										
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 博物館資料が有するふたつの資料価値 2. 博物館資料の構造的特性と資料価値の関係 3. 上述のふたつの資料価値が衝突する際の対応策																																																										
授業方法と留意点	【講義に出席して、質問を考える】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に、Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習に参加する。																																																										
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>授業の概要と博物館資料の定義について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>絵画資料#1</td><td>絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>絵画資料#2</td><td>絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>絵画資料#3</td><td>絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>絵画資料#4</td><td>絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>絵画資料#5</td><td>絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。</td><td>実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>彫刻資料#1</td><td>彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>彫刻資料#2</td><td>彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>自然史資料</td><td>自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>資料収集</td><td>博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>資料活用</td><td>博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>博物館見学</td><td>〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。</td><td>見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120 分)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>博物館見学</td><td>〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。</td><td>見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	12	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120 分)。	13	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																								
1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
12	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120 分)。																																																								
13	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60 分)																																																								

			を確認する。	向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。																
	14	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3 コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。																
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：博物館資料の価値が衝突する事例を複数考える。その事例に該当する作品を探し、鑑賞しに行く（240 分?）。																
関連科目	「他の学芸員課程の科目」／芸術論／芸能文化論／暮らしの中の文化																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にする。 2. さらに、より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室																			
備考	【自分の質問に自分で応答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。																			

科目名	博物館資料保存論	科目名 (英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2187a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の 1 つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。																																																																		
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。																																																																		
授業方法と留意点	対面で行います。 座学と実習を行います。 本授業は学芸員資格取得に必須となる授業であるため欠席は認めません。必ず毎回参加してください。 連絡事項や課題の提出は Teams で行います。フィードバックは講義の中で行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>資料とは何か、資料保存とは何か</td><td>講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。</td><td>資料の分類と内容について復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>考古資料の保存 (1)</td><td>埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。</td><td>文化財保護法について復習する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>考古資料の保存 (2)</td><td>遺物の接合実習をします。</td><td>考古の接合の事例を書籍や web で調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>考古資料の保存 (3)</td><td>遺物の接合の続きと実測をします。</td><td>実測図を完成させ、次週までに提出する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>民俗資料の保存</td><td>民俗資料の保存の方法について講義します。</td><td>さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>石造物の保存 (1)</td><td>石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。</td><td>実測図、スケッチの続きを行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>石造物の保存 (2)</td><td>石造物の実測、スケッチの続きをします。</td><td>実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>歴史資料の保存 (1)</td><td>歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。</td><td>授業で課した語句、地名について辞書で調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>歴史資料の保存 (2)</td><td>古文書修復の実習をします。</td><td>裏打ちの方法について復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>歴史資料の保存 (3)</td><td>和本の装丁の実習をします。</td><td>和本の装丁をもう一度やってみる。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>燻蒸と I P M</td><td>虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。</td><td>燻蒸と虫干しについて復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>資料保存の現場</td><td>博物館見学</td><td>3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>資料保存の現場</td><td>博物館見学</td><td>3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料保存の現場</td><td>博物館見学</td><td>3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ (確認テスト)</td><td>授業のまとめと筆記試験を行います (持ち込み不可)</td><td>今までのノートをまとめておく。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	資料の分類と内容について復習する	2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する	3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍や web で調べる	4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。	5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する	6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。	7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。	8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる	9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する	10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。	11	燻蒸と I P M	虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する	12	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。	13	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。	14	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。	15	まとめ (確認テスト)	授業のまとめと筆記試験を行います (持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	資料の分類と内容について復習する																																																																
2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する																																																																
3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍や web で調べる																																																																
4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。																																																																
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する																																																																
6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。																																																																
7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。																																																																
8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる																																																																
9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する																																																																
10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。																																																																
11	燻蒸と I P M	虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する																																																																
12	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。																																																																
13	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。																																																																
14	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。																																																																
15	まとめ (確認テスト)	授業のまとめと筆記試験を行います (持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。																																																																
関連科目	他の学芸員課程の講義。日本史学、風土と地理、芸能文化論、文化人類学、社会文化史、暮らしの中の文化、生物と環境。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題および実技テスト (40%)、確認テスト (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。																																																																		
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7 号館 4 階)																																																																		
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課外実習の日程は天候などによって変更する場合があります。																																																																		

科目名	ディスプレイ論	科目名 (英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細田 慈人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2188a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示手法に関する理論の裏付けと実践に活用できる技術を身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示を実際に企画することで、実際に展示を担当する際に必要な技能や知識を養う。また、展示の企画立案を最終目標とするので博物館を見学し、レポートを作成する。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前:博物館施設の活動について調べておくこと (1 時間)。 事後:授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと (1 時間)。
	2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前:博物館施設の役割について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、博物館施設の役割についてまとめておくこと (2 時間)。
	3	学芸員の役割	学芸員の役割について理解する。	事前:学芸員の役割について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、学芸員の役割についてまとめておくこと (2 時間)。
	4	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前:展示の意義について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと (2 時間)。
	5	展示の形態と手法	展示における形態と手法について理解する。	事前:博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと (2 時間)。
	6	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前:博物館施設における展示のための設備と補助具について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと (2 時間)。
	7	展示資料の取り扱い～美術資料と工芸品～	展示資料 (美術資料と工芸品) の取り扱いについて理解する。	事前:博物館施設における展示資料 (美術・工芸品) の取り扱いについて調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと (2 時間)。
	8	展示資料の取り扱い～金属資料と文献資料～	展示資料 (金属・土を素材とするもの、文献資料) の取り扱いについて理解する。	事前:博物館施設における展示資料の取り扱い (金属・文献) について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと (2 時間)。
	9	資料保存について	博物館における資料の保存について、保存環境と保存処理を中心に理解する。	事前:博物館における資料の保存方法について事前に復習しておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、保存環境と処理についてまとめておくこと (2 時間)。
	10	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前:博物館施設における展示の全体について確認しておくこと (5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3 時間)。
	11	展示企画の立案と展示作業	実際に展示を企画・立案し、展示の構成、展示品とその陳列に必要な展示具の適切な選定について理解し、展示案を考える。	事前:事前に自身の展示案について考えておく。(1.5 時間)。 事後:企画した展示案に必要な器具や展示資料についての理解を深めておく (2 時間)。
	12	調書等の作成	資料借用の際に使用する調書等の作成について理解する。	事前:調書作成時における留意事項を想起しておくこと (1.5 時間)。 事後:展示企画時と調書作成時の違いについて反芻しておくこと (1.5 時間)。
	13	借用・返却と梱包	展示資料の借用と返却の実務、また借用・返却に必要な不可欠な梱包について理解する。	事前:企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示物の借用と返却の実務についてまとめておくこと (2 時間)。
	14	展示企画実習	展示に至るまでの立案・資料借用・陳列の三工程について、実例をもとに展示企画を実行する上での留意点を理解する。	事前:展示の立案もしくは展示作業についての手順を確認しておくこと (1.5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示の基準についてまとめておくこと (2 時間)。
	15	展示企画の評価と後半のまとめ	展示もしくは展示案の評価と後半の授業内容について理解度を確認する。	事前:企画展の全体について確認しておくこと (5 時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3 時間)。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
評価方法 （基準）	第10回において課す前半授業理解度の確認レポート（20%）、博物館展示見学レポート（30%=15%×2回）、展示企画書（50%）によって評価する。博物館実務を学ぶための必須となる授業であるため、博物館展示見学レポート及び展示企画書を提出しなかった場合、不合格または評価不能とする。			
学生への メッセージ	第1回の授業において、受講心得と成績評価について資料を配布するので必ず確認すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。 見学レポートについては博物館施設・相当施設・類似施設のいずれか2館を見学したうえでレポートを作成すること。また、第10回目に前半の授業の理解度確認のため、レポートを課す。作成を指示する展示企画案は、第14回以降に評価する。			

科目名	生涯学習論	科目名 (英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 孝成
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2189a0		

授業概要・目的	高齢社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教員の専門とする歴史学習などを取り上げ、市民への文化学習の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけることができます。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持ち、常に疑問を持つことを意識づけ、大学卒業後の指針のひとつとなります。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、板書によって授業を進めていきます。毎回、授業終了後に質問カードを受け付けます。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に各自の「趣味」についてじっくり考えて下さい。(4 時間)
	2	社会教育と生涯学習の歴史 ①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4 時間)
	3	社会教育と生涯学習の歴史 ②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	事前に前回の授業の見直し (1 時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3 時間)
	4	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	事前に近隣自治体の生涯学習を確認し (2 時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2 時間)
	5	生涯学習の内容と生涯各期	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	事前に家族の生涯学習を顧みて (1 時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3 時間)
	6	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	事前に周辺の社会教育施設を確認し (2 時間)、事後、その運営や実態をみる。(2 時間)
	7	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し (1 時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3 時間)
	8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4 時間)
	9	見学	展示施設 (適塾を予定) を見学し、江戸時代の学びを実感しながら、歴史的建造物とその展示について学ぶ。	前回の復習を踏まえて見学を行い、各自が興味のある寺社仏閣や建造物などを見学。(4 時間)
	10	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	事前に新聞の文化財報道などを読んでおき (2 時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2 時間)
	11	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	事前に自身の歴史を振り返り (2 時間)、事後、周囲の歴史についてもう一度考え直す。(2 時間)
	12	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	事前に各自がネットで行う SNS について振り返り (1 時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3 時間)
	13	それぞれの「生涯学習」①	混迷する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	事前に自身の趣味や学びについて考え (1 時間)、事後、各自の趣味などを振りかえる。(3 時間)
	14	それぞれの「生涯学習」②	混迷する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	前回の復習を踏まえ、事後、各自の趣味に沿った活動を行う。(4 時間)
	15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自としての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し (2 時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2 時間)

関連科目	教育系科目群
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
	2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
	3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂

評価方法 (基準)	定期試験 (100%) で、設問の意図をきちんと読み取り、授業内容を的確に把握しているかどうかを査定します。論述問題においては、授業の内容を正確に反映し、さらに各自の見解をどこまで組み入れているのかを評価の基準とします。また、授業方法にて記した質問などが翌週の回答で
-----------	---

	採用された場合は1点の平常点を付与します。そのため、各自の点数は定期試験+αとなります。
学生への メッセージ	「生涯学習論」ですが、これは他者に学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間です。これには授業中に推奨する各自の映画鑑賞や音楽鑑賞、読書、課題の新書書評の時間も含まれます。質問などは原則授業時間前後です。非常勤講師室か教室で受け付けます。

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名 (英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2190a0		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント（博物館経営）が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	対面で行います。 座学とプレゼンを行います。 本授業は学芸員資格取得のため必須となります。欠席は原則認めません。必ず毎回参加してください。 連絡事項や課題の提出を Teams で行います。 フィードバックはプレゼンの場合は発表後、レポートの場合は翌週の授業で行う。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ミュージアムマネジメントとは	博物館には、効果的なマネジメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	2	行財政制度と博物館	博物館に係る法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI 法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI 法、指定管理者制度について、本や WEB で調べておく。
	4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
	5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
	6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
	7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
	8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
	9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
	10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
	11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
	12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本や WEB で博物館のサービスの具体例を調べる。
	13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEB やリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
	14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEB で、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などの HP を見る。
	15	確認テストおよび授業の総括	確認テストを行い、これからの博物館の経営について考える。	確認テストの準備。終了後は見直しをして復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小レポートおよび授業中に行うプレゼン（40%）、確認テスト（60%）
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。
-----------	--

担当者の 研究室等	赤澤研究室（7号館4階）
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	博物館情報・メディア論	科目名 (英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2191a0		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。内容は必要に応じてノートに書きとどめてもらいたい。 質問や提出物に対して口頭または文書でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やWEBで調べる
	2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
	3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
	4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
	5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
	6	都市の記録	都市の写真表象について	19 世紀の写真表現について本やWEBで調べる
	7	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真について本やWEBで調べる
	8	写真と絵画の交わり	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
	9	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代の写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
	10	ヨーロッパの近代写真表現	様々な前衛芸術運動と結びついて広がるヨーロッパの近代写真表現について	前衛芸術運動と写真の結びつきについて本やWEBで調べる
	11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響について	報道写真について本やWEBで調べる
	12	現代写真表現のはじまり	現代写真表現について 1960 年代のアメリカの動向について	現代写真表現について本やWEBで調べる
	13	現代写真表現 2	アメリカのニューカラー、ニュートボグラフィックといった 1970 年代の現代写真表現の方向性について	現代写真表現について本やWEBで調べる
	14	ポストモダンにおける写真表現	ポストモダン (1980 年代以降) の写真表現について	ポストモダンの写真表現について本やWEBで調べる
	15	まとめ	日本の現代写真表現を考察しながら 21 世紀の写真メディアの在り方を考える。	写真について復習する

関連科目	博物館科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み及びレポートにより評価する。
学生へのメッセージ	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室) 水曜 12 時～15 時
備考	

科目名	博物館教育論	科目名 (英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 和浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2192a0		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。 上記の学びを通して、博物館における教育の役割や社会的責務について具体的に説明できるようになる。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介します（受講生による体験レポートによる紹介もあり）。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。 授業中に課す課題については、受講生も含めた質疑応答を行います。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のための必修科目となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションー博物館から何を学んだか？ー	これまでの博物館に対する認識・イメージを振り返り、現代の博物館に期待される役割について考えるきっかけとします。	これまで博物館を訪れた経験や抱いていたイメージを整理しておいてください。
	2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
	6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
	7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
	12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
	13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
	14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
	15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 緒方洪庵と適塾	大阪大学適塾記念センター	大阪大学出版会
	2	佐治敏三”百面相”大阪が生んだ稀代の経営者	松永和浩	大阪大学出版会
	3			

評価方法 (基準)	プレゼン・質疑 80%、提出物 20%
学生への メッセージ	各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12月中の土日いずれか1日、180分間(2コマ分)の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約60時間。

科目名	博物館実習	科目名 (英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3193a0		

授業概要・目的	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（教育が主・研究が主・保存が主など）により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、おおむね夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。 実習で課した課題は、その場もしくは次回の実習で講評する。 博物館実習ノートをもとに成果発表会を行う。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前：出身地にある博物館を見ておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	2	拓本 1	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前：拓本について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	3	拓本 2	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前：拓本の道具を作っておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	4	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学する館について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	5	美術品の扱い方 1	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	6	美術品の扱い方 2	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：絵巻物などの扱い方を調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	7	美術館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90 分) 事後：レポートをまとめる (90 分)
	8	美術品の調査・整理	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前：美術品の計測について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	9	歴史資料の調査・整理	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前：歴史資料について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	10	写真撮影の方法	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前：建築写真について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	11	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90 分) 事後：レポートをまとめる (90 分)
	12	博物館の教育・普及活動	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前：博物館の活動についてWEBで調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	13	展覧会の企画 1	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：展覧会のテーマについて調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	14	展覧会の企画 2	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：指摘された点を改善して企画書を作っておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前：レジメを作り発表の練習をしておく (90 分) 事後：指摘された点を改善してレポートを作る (90 分)

関連科目	学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート・発表 30% 実習博物館による評価 50% 学内実習への取り組み 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は5～14日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	赤澤・・・7号館4階（赤澤研究室） 杉山・・・7号館5階（杉山研究室）
------------	--

科目名	日本語教授法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Teaching MethodologyⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー（DP）	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1194a0		

授業概要・目的	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。																																																																		
到達目標	日本語教育学の基本的な知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、動画視聴、課題、発表も含まれる。 授業の最後にテストについてフィードバックする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法Ⅱ・Ⅲ」の先行科目。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td><td>資料熟読、日本語教育情報収集の課題</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本語教育と外国語教育</td><td>日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育、国内/海外の日本語教育</td><td>資料熟読、日本語教育情報収集の課題</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本語教師について</td><td>教師の資質・能力、ピリーフ、母語話者教師/非母語話者教師</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>4</td><td>日本語教育の歴史</td><td>時代区分別の日本語教育史</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>5</td><td>外国語教授法（1）</td><td>外国語教授法の理論と実践</td><td>資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、</td></tr> <tr> <td>6</td><td>外国語教授法（2）</td><td>外国語教授法の理論と実践</td><td>資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、</td></tr> <tr> <td>7</td><td>コースデザイン</td><td>コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価</td><td>資料熟読教授法理論のレポート作成、教材分析</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本語教育の目標</td><td>レベル別目標、日本語能力試験の目標</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教材・教具（1）</td><td>日本語教育の教科書</td><td>課題：初級日本語教材の分析 資料熟読</td></tr> <tr> <td>10</td><td>教材・教具（2）</td><td>日本語教育の教材・教具</td><td>課題：教材分析、資料熟読</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本語学の基礎知識：文法</td><td>日本語教育のための日本語文法とその指導方法</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>12</td><td>日本語学の基礎知識：語彙</td><td>日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本語学の基礎知識：文字</td><td>文字の種類と指導方法</td><td>資料熟読、演習問題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>外国人学習者の日本語</td><td>外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察</td><td>資料熟読、接触場面の観察レポート</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習・確認テスト</td><td>教科書の内容についての理解度確認</td><td>総復習、テストのフィードバック</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	資料熟読、日本語教育情報収集の課題	2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育、国内/海外の日本語教育	資料熟読、日本語教育情報収集の課題	3	日本語教師について	教師の資質・能力、ピリーフ、母語話者教師/非母語話者教師	資料熟読、演習問題	4	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	資料熟読、演習問題	5	外国語教授法（1）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、	6	外国語教授法（2）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、	7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	資料熟読教授法理論のレポート作成、教材分析	8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	資料熟読、演習問題	9	教材・教具（1）	日本語教育の教科書	課題：初級日本語教材の分析 資料熟読	10	教材・教具（2）	日本語教育の教材・教具	課題：教材分析、資料熟読	11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	資料熟読、演習問題	12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	資料熟読、演習問題	13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	資料熟読、演習問題	14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	資料熟読、接触場面の観察レポート	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	資料熟読、日本語教育情報収集の課題																																																																
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育、国内/海外の日本語教育	資料熟読、日本語教育情報収集の課題																																																																
3	日本語教師について	教師の資質・能力、ピリーフ、母語話者教師/非母語話者教師	資料熟読、演習問題																																																																
4	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	資料熟読、演習問題																																																																
5	外国語教授法（1）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、																																																																
6	外国語教授法（2）	外国語教授法の理論と実践	資料熟読、動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成、																																																																
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	資料熟読教授法理論のレポート作成、教材分析																																																																
8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	資料熟読、演習問題																																																																
9	教材・教具（1）	日本語教育の教科書	課題：初級日本語教材の分析 資料熟読																																																																
10	教材・教具（2）	日本語教育の教材・教具	課題：教材分析、資料熟読																																																																
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	資料熟読、演習問題																																																																
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	資料熟読、演習問題																																																																
13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	資料熟読、演習問題																																																																
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	資料熟読、接触場面の観察レポート																																																																
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程（副専攻相当）」配当の選択科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本語教育法概論</td><td>東海大学留学生教育センター編</td><td>東海大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本語教授法シリーズ</td><td>国際交流基金</td><td>国際交流基金</td></tr> <tr> <td>3</td><td>はじめての日本語教育</td><td>高見澤孟</td><td>アスク</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	2	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	国際交流基金	3	はじめての日本語教育	高見澤孟	アスク																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会																																																																
2	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	国際交流基金																																																																
3	はじめての日本語教育	高見澤孟	アスク																																																																
評価方法（基準）	確認テスト（60%）、課題及びレポート（30%）、授業への貢献度（10%）により総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。 海外及び国内の日本語教育機関において、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かし、理論と実践について具体的に解説します。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 門脇研究室																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回1.5時間。																																																																		

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2195a0		

授業概要・目的	初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析することを目的とする。また、第二言語習得についても概観する。基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。
到達目標	文法と第二言語習得に関する知識、分析方法を習得する。
授業方法と留意点	授業は講義、グループディスカッションおよび発表を中心に進める。 事前に課すワークシートがある場合は必ず取り組んでから授業に参加すること。 なお、発表ごとに、学生同士または教師からのフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界の中の日本語 学校文法と日本語教育文法	授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 学習者の日本語、学校文法との違いについて知る。	《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。
	2	日本語の音声について	日本語の音声について知る。	《予習》[ワークシート1]日本語の母音と子音、アクセントやイントネーションなどについて確認する。
	3	意味体系	日本語の類義語、多義語や言語間のずれについて知る。	《予習》[ワークシート2]日本語の類義語・多義語などの意味体系について確認する。
	4	動詞・形容詞・名詞	日本語教育における動詞、形容詞や名詞について知る。	《予習》[ワークシート3]動詞の活用、「い形容詞」「な形容詞」の活用などについて確認する。
	5	指示文と存在文	「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。 「います」「あります」の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート4]「これ・それ・あれ」「こ・そこ・あそこ」などの使い分け、「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなどについて確認する。
	6	第二言語習得①	誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
	7	第二言語習得②	習得順序、インプット仮説、アウトプット仮説について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
	8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート5] 「で」や「に」の使い分けや「は」と「が」の違いについて確認する。
	9	時に関わる表現	日本語のル形とタ形など、時に関わる表現について知る	《予習》[ワークシート6] 日本語の時に関わる表現について確認する
	10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	《予習》[ワークシート7]「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて確認する。
	11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	《予習》[ワークシート8]自動詞、他動詞にどのようなものがあるか調べてみる。
	12	受身文	日本語の受身文の分類について知る。	《予習》[ワークシート9]「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか確認する。
	13	待遇・敬意表現	日本語の敬語の体系について知る。	《予習》[ワークシート10]尊敬語・謙譲語・丁寧語について確認する。
	14	社会言語学	日本語のジェンダー差や方言などについて知る	《予習》ジェンダー差や方言についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。
	15	総括試験	授業で扱った内容の理解度を確認する総括試験を実施する。 試験後、本講義の総括を行う。	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。

関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅲ、日本語学、日本語教育実習等
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ワークシート 30%、総括試験 70%により総合的に評価する
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	普段、何気なく使っている日本語について分析的に考えてみましょう。学習者にとって何が難しいのかということも考えながら、新たな視点で捉えることで、多くの発見があるはずです。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	(1) 教科書は授業中にプリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。 (2) 質問・相談は Teams のチャットにて対応する。
----	---

	(3) 事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。
--	------------------------------

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮崎 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2196a0		

授業概要・目的	本授業は、以下の2点の受講生の日本語教育上の課題について、自ら具体的な対策を考案できるようになることを目的としています。 1つ目は、日本語学習において必要とされる4つの技能（読む、聞く、話す、書く）それぞれについて、どのような学習が効果的かということについて適切に説明できないという課題です。 2点目は、日本語学習者が実際に体験するであろう様々な状況についての対応が不的確だったり、不正確だったりするという課題です。 このような課題を解決するためには、日本語教育に関する知識が必要不可欠です。この授業では、基礎的な知識を確保しながら、それを活用できるようになる方法について考えることを目的としています。																																																																		
到達目標	本授業の目標は以下のようにまとめることができます。 1：日本語学習における各技能に関する学習がどのように起こるかを学術用語を用いながら説明できる。 2：日本語学習における各技能に関する学習について、与えられた学習者の状況に対する具体的な対処を提案できる。 3：日本語の学習者が遭遇するであろう異文化的、情意的問題について適切に分析し、対処を提案できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、小テスト、課題などを含みます。 授業前に必ず指定された箇所の資料を読んでくること。 また、授業後には課題をこなして授業で学んだことを確認してください。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td><td>【事前課題】 シラバスを読んでおく</td></tr> <tr> <td>2</td><td>読むことを教える (1)</td><td>「読む」技術について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読むことを教える (2)</td><td>聴解の指導について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>話すことを教える (1)</td><td>「話す」技術について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>話すことを教える (2)</td><td>会話やスピーキングの指導について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>聞くことを教える (1)</td><td>「聞く」技術について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>聞くことを教える (2)</td><td>読解の指導について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>書くことを教える (1)</td><td>「書く」技術について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>書くことを教える (2)</td><td>作文の指導について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本事情・日本文化を教える</td><td>日本事情の指導について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>学習を評価する 日本語教育と ICT 著作権</td><td>日本語教育の評価方法について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>日本語学習の情意的側面</td><td>日本語学習者の情意要因について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>異文化理解 (1)</td><td>異文化コミュニケーションと社会について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>異文化理解 (2)</td><td>異文化コミュニケーション教育について考える</td><td>【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習・確認テストおよび総括</td><td>教科書の内容についての理解度の確認 本講義の総括を行う</td><td>総復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】 シラバスを読んでおく	2	読むことを教える (1)	「読む」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する	3	読むことを教える (2)	聴解の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	4	話すことを教える (1)	「話す」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する	5	話すことを教える (2)	会話やスピーキングの指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	6	聞くことを教える (1)	「聞く」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する	7	聞くことを教える (2)	読解の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	8	書くことを教える (1)	「書く」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する	9	書くことを教える (2)	作文の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	10	日本事情・日本文化を教える	日本事情の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	11	学習を評価する 日本語教育と ICT 著作権	日本語教育の評価方法について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	12	日本語学習の情意的側面	日本語学習者の情意要因について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	13	異文化理解 (1)	異文化コミュニケーションと社会について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する	14	異文化理解 (2)	異文化コミュニケーション教育について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む	15	総復習・確認テストおよび総括	教科書の内容についての理解度の確認 本講義の総括を行う	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】 シラバスを読んでおく																																																																
2	読むことを教える (1)	「読む」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する																																																																
3	読むことを教える (2)	聴解の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
4	話すことを教える (1)	「話す」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する																																																																
5	話すことを教える (2)	会話やスピーキングの指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
6	聞くことを教える (1)	「聞く」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する																																																																
7	聞くことを教える (2)	読解の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
8	書くことを教える (1)	「書く」技術について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する																																																																
9	書くことを教える (2)	作文の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
10	日本事情・日本文化を教える	日本事情の指導について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
11	学習を評価する 日本語教育と ICT 著作権	日本語教育の評価方法について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
12	日本語学習の情意的側面	日本語学習者の情意要因について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
13	異文化理解 (1)	異文化コミュニケーションと社会について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習する																																																																
14	異文化理解 (2)	異文化コミュニケーション教育について考える	【事前課題】 資料購読 【事後課題】 学習内容を復習し、課題に取り組む																																																																
15	総復習・確認テストおよび総括	教科書の内容についての理解度の確認 本講義の総括を行う	総復習																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本語教育法概論</td><td>東海大学留学生教育センター編</td><td>東海大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新・はじめての日本語教育 2</td><td>高見澤孟</td><td>アスク</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本語教授法シリーズ</td><td>国際交流基金</td><td>ひつじ書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	2	新・はじめての日本語教育 2	高見澤孟	アスク	3	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	ひつじ書房																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会																																																																
2	新・はじめての日本語教育 2	高見澤孟	アスク																																																																
3	日本語教授法シリーズ	国際交流基金	ひつじ書房																																																																
評価方法（基準）	確認テスト（60%）、小テストおよび課題（30%）、授業への貢献度（10%）により総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	・前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、日本語学習者への具体的指導にまで踏み込んだ形で活動を行います。 ・授業中は素朴でもかまわないので質問、疑問等を大歓迎します。教授経験を踏まえてお答えできるところはお答えしますし、そうでないところは一緒に考えていきましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	・前期「日本語教授法Ⅰ」との関係、授業進度、もしくは受講生の学習状況により、各時限の目標を変更したり、予定を早めたり遅らせたり省略したりする可能性があります。変更の際は別途授業内でお知らせします。 ・事前、事後学習は総時間60時間を目安とします。

科目名	異文化ビジネス論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2198a0		

授業概要・目的	・本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目である。(※ただし、英語プロフェッショナルコースの学生も履修できる) ・世界の国や地域のビジネスや産業の特徴について、特に私たちの日常生活に密接な産業界に注目し、その最新の動向やSDGsの視点も交えて考察していく。
到達目標	社会・文化・歴史的背景、地理的条件、宗教などの要因がその国や地域のビジネスや産業に及ぼす影響について、ローカルとグローバル、SDGsの観点などから考察し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	・授業の大半はグループワークで、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う。 ・教科書は統計資料なので、データとして活用する。 ・本科目の内容は、高校時代に学んだ「地理」や「世界史」の知識が基礎になっていることも多いので、それらを復習しながら学んでほしい。 ・提出物や発表（プレゼン）については、授業中にフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・ニュースや新聞記事などを用いて、ビジネスの現状や現場について知る。	・授業の内容や進め方について確認し、計画を立てる（2時間）。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	2	「食」に関するビジネス	小麦・大豆などの作物から、飲食店やカフェチェーンのビジネスの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	3	「衣」（アパレル）に関するビジネス	綿・化学繊維などの素材から、ファストファッションのビジネスの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	4	プレゼンテーションのスキルについて プレゼンテーションの準備（グループ活動）の開始	・プレゼンテーションのスキルについて実例とともに学ぶ。 ・プレゼンテーションのグループおよびテーマを決定し、準備を始める。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	5	生活・文化（「住」を含む）に関するビジネス	生活雑貨や住宅関連などのトピックから、小売業界のビジネスの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	6	物流・貿易に関するビジネス	陸海空の物流や貿易に関するトピックから、商社などのビジネスの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	7	「ものづくり」（製造業）に関するビジネス	半導体などの素材・部品から、電気自動車（EV）のビジネスの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	8	SDGsからみたビジネスの展開について	環境や労働者の人権などに関する問題から、リサイクルやリユースの動向に至るまで、具体的なデータや事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる（4時間）。
	9	グループによるプレゼンテーション（1）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	10	グループによるプレゼンテーション（2）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	11	グループによるプレゼンテーション（3）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	12	グループによるプレゼンテーション（4）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	13	グループによるプレゼンテーション（5）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	14	グループによるプレゼンテーション（6）	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく（2時間）。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。
	15	総括（まとめ）	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルに	・これまでの授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 ・自分たちのプレゼンテーションについて講評に基

			ついて総評する。	ついて振り返り、改善すべき点などを確認する（2時間）。
関連科目	他の「国際ビジネス」プログラムの科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地理統計要覧 2022 (Vol.62)	二宮書店編集部（編）	二宮書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて授業内で紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	プレゼンテーション（研究発表）50%、授業における提出物 50% ※ただし、原則として授業への出席率が80%以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	・将来、ビジネスの世界でグローバルに活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。（よって、英語プロフェッショナルコースの学生も大歓迎です。） ・グループワークが中心となるため、くれぐれも「協調性」を大切にしてほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	・事前・事後学習総時間は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。			

科目名	ビジネス心理学	科目名 (英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2199a0		

授業概要・目的	ビジネスやマーケティングに関連する心理について解説していきます。 この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会におけるビジネスにおける心理と行動を解説していく。 ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。 SDGs-8, 9, 12
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。また、ビジネスに役立つ実践能力を身に付けることができる。 さらに、ビジネス心理における多様な諸問題に関心を寄せ、それらの問題に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートやメモを取る。 授業中にディスカッションやグループワークを行う(コロナが完全に終息していた場合)。 第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 毎回授業内で課題が出るので、回答すること。 ディスカッションやグループワークなどのアクティブ・ラーニングの要素を取り入れているので、積極的かつ主体的に課題に取り組むこと(コロナが完全に終息していた場合)。 授業内に課した課題については、授業中あるい
科目学習の効果 (資格)	ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。ビジネスに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ビジネス心理の位置づけ	授業内容、授業方法について説明します。 ビジネス心理とは？ 授業課題の提出方法と授業内テストの解答方法の説明	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費者心理とはどんな心理学だったかまとめておくこと(2 時間)
	2	オンライン授業ガイダンス ビジネス心理と心理学	オンライン授業の受け方、課題の提出の仕方 消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：ビジネスと心理について考えてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(2 時間)
	3	ビジネス心理におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(2 時間)
	4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(2 時間)
	5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(2 時間)
	6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1 時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(2 時間)
	7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(2 時間)
	8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	事前学習課題：インターネットの発展について、1990 年代から調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(2 時間)
	9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(2 時間)
	10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビ CM の歴史について調べる(1 時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(2 時間)
	11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業 CM について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(2 時間)
	12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(2 時間)
	13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておく(1 時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について

				具体例を含めてまとめておくこと(2時間)
	14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題:接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1時間) 事後学習課題:接客サービスの効果と問題点についてまとめておくこと(2時間)
	15	ビジネス心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか?	事前学習課題:今後求められるサービスについて、プランを練って行くこと(1時間) 事後学習課題:ビジネスにおける消費者心理の役割について総復習を行うこと(2時間)
関連科目	「グローバルマーケティング論」と関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者心理学	山田一成・池内裕美	勁草書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小テスト、授業内課題(上限10%)、定期テスト(90%)の割合で、総合的に判断する。 締切以降の小テストの受験、授業課題の提出はいっさい認めません。 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、不必要なスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。遅刻(10分まで)は減点の対象となります。			
学生への メッセージ	皆さんの身の回りの購買行動の中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょうか?なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか?値段だけでしょうか?消費者の心の動きについて、ビジネスの具体例を交えながら、解説していきます。 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、不必要なスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。遅刻(10分まで)は減点の対象となります。			
担当者の 研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)			
備考	事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上かけること。			

科目名	グローバル経済論	科目名 (英文)	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2200a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム対象科目である。 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとで、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとで、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉は TPP 交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとで、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。																																																																		
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>講義ガイダンス</td><td>講義概要、教科書紹介</td><td>—</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本の大企業のグローバル化と中小企業</td><td>教科書 第 1 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム</td><td>教科書 第 2 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制</td><td>教科書 第 3 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>アメリカ企業・政府によるグローバル化</td><td>教科書 第 4 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日本の流通の再編と寡占化</td><td>教科書 第 5 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地球環境問題</td><td>教科書 第 7 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>グローバル化のもとでの日本の労働者の状態</td><td>教科書 第 8 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本における外国人労働者</td><td>教科書 第 9 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>労使関係の日本—スウェーデン比較</td><td>教科書 第 13 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料</td><td>教科書 第 10 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域間格差の拡大と日本財政</td><td>教科書 第 11 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グローバル化と税制改革</td><td>教科書 第 12 章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代資本主義の特徴と日本社会</td><td>教科書 序章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—	2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第 1 章	事前・教科書予習	3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第 2 章	事前・教科書予習	4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第 3 章	事前・教科書予習	5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第 4 章	事前・教科書予習	6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第 5 章	事前・教科書予習	7	地球環境問題	教科書 第 7 章	事前・教科書予習	8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第 8 章	事前・教科書予習	9	日本における外国人労働者	教科書 第 9 章	事前・教科書予習	10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第 13 章	事前・教科書予習	11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第 10 章	事前・教科書予習	12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第 11 章	事前・教科書予習	13	グローバル化と税制改革	教科書 第 12 章	事前・教科書予習	14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—																																																																
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第 1 章	事前・教科書予習																																																																
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第 2 章	事前・教科書予習																																																																
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第 3 章	事前・教科書予習																																																																
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第 4 章	事前・教科書予習																																																																
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第 5 章	事前・教科書予習																																																																
7	地球環境問題	教科書 第 7 章	事前・教科書予習																																																																
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第 8 章	事前・教科書予習																																																																
9	日本における外国人労働者	教科書 第 9 章	事前・教科書予習																																																																
10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第 13 章	事前・教科書予習																																																																
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第 10 章	事前・教科書予習																																																																
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第 11 章	事前・教科書予習																																																																
13	グローバル化と税制改革	教科書 第 12 章	事前・教科書予習																																																																
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習																																																																
15	まとめ																																																																		
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響</td><td>豊福裕二編</td><td>文理閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 野口准教授室 (経済学部)																																																																		
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は 60 時間です。																																																																		

科目名	地域と国際ビジネス	科目名 (英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2201a0		

授業概要・目的	この授業は、パッケージプログラムの「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、海外直接投資と企業の立地戦略の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関係を、①国や地域の投資環境の分析、②企業の立地戦略、③途上国における貧困問題解決志向ビジネス（BOP ビジネス）の3つの側面から学ぶことを目的とする。この3点についてグループワークとプレゼンテーションを行う。			
到達目標	- 投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 - 投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 - グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 - グループ討論の結果を分かりやすく発表できる。			
授業方法と留意点	6 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。7 週目から対面授業とする。 - 統計データベース等を使った作業を行うため、パソコンを使用する。通信環境の良い場所で受講することが望ましい。 - 理論と事例の解説はレジュメを配布して講義形式で行う。またテーマに沿ってグループワークとプレゼンテーションを行う。 - 講義の回には内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 - 学期末には、投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。			
科目学習の効果（資格）	- 企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 - 経済や経営に関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	企業活動の世界への広がり	授業の概要説明および国際ビジネスの視座の解説	レジュメを読み直して、授業の目的と方法および国際ビジネスの視座をよく確認する。
	2	海外直接投資	国境を越えた企業活動を量的に把握するための海外直接投資を知る。	紹介する資料を読んで海外直接投資の役割の理解を深める。
	3	海外直接投資データベースの使い方	海外直接投資の統計データを用いて国の国際投資状況を調べる。	UNCTAD Stat の使い方を覚え、いくつかの国について調べて図表化する。
	4	Doing Business 指標による投資環境の分析	Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	Doing Business の各指標の意味を調べ、グループワークのための下調べをしておく。
	5	グループワーク (1) : 投資環境分析	海外直接投資と Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	6	プレゼンテーション (1)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
	7	国際分業、バリューチェーン、立地優位性	国際分業とバリューチェーンの概念を踏まえて、国の立地優位性と企業の立地戦略を学ぶ。	紹介する資料を読んで立地優位性の理解を深めておく。
	8	企業の立地選択の事例	インドの IT 産業から企業の立地戦略を考察する。	紹介する資料を読んで企業の立地戦略の理解を深めておく。
	9	グループワーク (2) : 海外進出の際の立地戦略	仮定の日本企業を考案し、国の立地優位性と国際分業を踏まえて、海外進出の計画を考える。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	10	プレゼンテーション (2)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
	11	途上国における BOP ビジネス	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	紹介する資料を読んで BOP ビジネスの概要について理解を深めておく。
	12	BOP ビジネスの事例	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例を紹介する。	グループワークに備えて情報収集をしておく。また期末レポートの作成に着手する。
	13	グループワーク (3) : BOP ビジネス	困りごとを解決するビジネスを立案する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	14	プレゼンテーション (3)	前週の討論内容の発表と講評（期末レポートの提出）	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。また、期末レポートを完成させる。
	15	まとめと期末レポートの講評	講義の要点の整理と期末レポートへのフィードバックを行う。	期末レポートを提出し、フィードバックを確認する。
関連科目	異文化ビジネス、グローバル企業論、グローバル経済論 その他の国際ビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての国際経営	中川功一ほか	有斐閣
	2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
	3	BOP ビジネス入門	菅原秀幸ほか	中央経済社
評価方法（基準）	期末レポート（40%）、グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容（40%）、リアクションペーパー（20%）で評価する。			
学生へのメッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えられるようになることを願っています。			
担当者の	7 号館 5 階 藤井研究室			

研究室等	
備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	グローバルマーケティング論	科目名 (英文)	Global Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3202a0		

授業概要・目的	マーケティングの基本的概念を説明し、マーケティング論の考え方を理解した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	①知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング的な視点を持つ。 ②グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	マーケティングの基礎	マーケティング論の基本を説明します。	【事前学習】 マーケティングに関連する記事をネットで探し読んでみましょう。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	2	グローバルマーケティングの発展	グローバルマーケティングの現状や発展段階について説明します。	【事前学習】 テキスト第 1、2 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	3	グローバルな文化環境	日本国内市場でビジネスを行う場合とグローバル展開をするときとは企業をとりまく環境にどのような違いがあるのか考えてみます。	【事前学習】 テキスト第 3 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	4	グローバル市場調査	海外市場での調査について説明します。	【事前学習】 テキスト第 4 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	5	グローバルな市場規模推定	海外における市場規模をどのようにとらえるかを説明します。	【事前学習】 テキスト第 5 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	6	グローバル市場のセグメンテーション	グローバル市場におけるセグメンテーションやポジショニングについて考えます。	【事前学習】 テキスト第 6 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	7	グローバルマーケティング戦略	グローバル展開を行う際のマーケティング戦略について考えます。	【事前学習】 テキスト第 7 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	8	グローバル市場参入戦略	海外市場への参入戦略について説明します。	【事前学習】 テキスト第 8 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	9	グローバル製品戦略	グローバルマーケティングにおける製品戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】 テキスト第 9 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	10	グローバル・ブランド戦略	グローバル・マーケティングにおけるブランド戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】 テキスト第 10 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	11	グローバル価格戦略	グローバル・マーケティングにおける価格戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】 テキスト第 11 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	12	グローバル・コミュニケーション戦略	グローバル・マーケティングにおけるコミュニケーション戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】 テキスト第 12 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	13	グローバル営業戦略	グローバル・マーケティングにおける営業戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】 テキスト第 13 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	14	グローバル小売の店舗戦略	グローバルに展開する小売業の店舗戦略について説明します。	【事前学習】 テキスト第 14 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。
	15	グローバル企業の日本市場参入	グローバルに展開している企業が日本市場にどのように参入し、どのような事業展開をしているか説明します。	【事前学習】 テキスト第 15 章を読んでくる。 【事後課題】 ミニツペーパーを仕上げましょう。 試験に備えて復習をしましょう。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1 からのグローバル・マーケティング	小田部正明、栗木契、太田一樹	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (提出物・小テスト等) 40%、期末試験 60%
学生への メッセージ	ビジネスパーソンとして必要な知識ですので、積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は、60時間です。

科目名	グローバル企業研究	科目名 (英文)	Studies on Multinational Corporations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3203a0		

授業概要・目的	・本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目である。 ・授業内容は2年次の「異文化ビジネス論」の延長線上にあるようなイメージで、各業界における最新動向とその背景について、海外と日本のグローバル企業の事業展開を参照しながら考察していく。
到達目標	グローバル企業の最新の動向や事業戦略について、SDG s の取り組みも交えて学び、理解できるようになる。
授業方法と留意点	・授業の大半はグループワークで、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う。 ・教科書は、参考資料やデータとして活用する。
科目学習の効果 (資格)	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・映像・資料からビジネスの現場を知る。	・授業の内容や進め方について確認し、計画を立てる (2 時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (2 時間)。
	2	食品・飲料関連企業の動向と SDGs の取り組み	食品・飲料関連企業の動向や事業戦略について、SDG s の取り組みも交えて、スターバックスやネスレなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	3	アパレル関連企業の動向と SDGs の取り組み	アパレル (ファストファッション) 関連企業の動向や事業戦略について、SDG s の取り組みも交えて、ZARA、H&M、ユニクロなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	4	プレゼンテーションのスキルについて プレゼンテーションの準備 (グループ活動) の開始	・プレゼンテーションのスキルについて事例とともに学ぶ。 ・プレゼンテーションのグループおよびテーマを決定し、準備を始める。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	5	生活雑貨・家具関連企業の動向と SDGs の取り組み	生活雑貨・家具関連企業の動向や事業戦略について、IKEA、無印良品、ニトリなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	6	化粧品・トイレタリー関連企業の動向と SDGs の取り組み	化粧品・トイレタリー関連企業の動向や事業戦略について、P&G、ユニリーバ、ロレアルなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	7	自動車関連企業の動向と SDGs の取り組み	自動車関連企業の動向や事業戦略について、半導体やバッテリーなどの部品メーカーにも目を向け、テスラやトヨタなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	8	流通・小売業界の企業の動向と SDGs の取り組み	流通・小売業界の企業の動向や事業戦略について、実店舗と EC (ネット通販) の両方に注目し、アマゾンやコストコなどの事例とともに考察する。	事前には授業テーマの下調べとして、事後には授業内容の理解を深めるため、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献等で詳しく調べてみる (4 時間)。
	9	グループによるプレゼンテーション (1)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	10	グループによるプレゼンテーション (2)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	11	グループによるプレゼンテーション (3)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	12	グループによるプレゼンテーション (4)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	13	グループによるプレゼンテーション (5)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	14	グループによるプレゼンテーション (6)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2 時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。
	15	総括 (まとめ)	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルについて総評する。	・これまでの授業で扱った内容について、さらに文献等で詳しく調べてみる (2 時間)。 ・自分たちのプレゼンテーションについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する (2 時間)。
関連科目	他の「国際ビジネス」プログラムの科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	会社四季報 業界地図 2022 年度版	東洋経済新報社[編]	東洋経済新報社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて授業内で紹介する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション(研究発表) 50%、授業における提出物 50% ※ただし、原則として授業への出席率が 80%以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	・将来、ビジネスの世界でグローバルに活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。 ・グループワークが中心となるため、くれぐれも「協調性」を大切にほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室			
備考	・事前・事後学習総時間は(2 単位の科目であるため) 60 時間を目安とする。 ・提出物や発表(プレゼン)については、授業中にフィードバックを行う。			

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名 (英文)	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LDL3204a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。 2 年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。
授業方法と留意点	配布したプリントならびにテキストを用いて講義をしたうえで、グループワーク、演習を行う。また、Teams に期限までに提出された提出物に関しては、Teams を通して返却する。QUIZ は Forms で行い、フィードバックは講義時間内に行う。 受講生には、第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本-あいさつ ・イニシャルテスト	・事前学修：シラバスを熟読すること (1 時間) ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成すること (3 時間)
	2	パーティ文化	・名刺交換・席順 ・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例	・事前学修：公式なパーティとは何か、調べる (1 時間) ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめること (3 時間)
	3	設営と慶弔含む贈答	・QUIZ① (第 1 回から第 2 回まで) ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営	・事前学修：「慶弔」について調べる (1 時間) ・事後学修：「設営」手順を作成すること (3 時間)
	4	会議等の設営	・会議の種類 ・会議に必要とされる書類 ・社内会議と社外会議	・事前学修：Minutes (議事録) 例を翻訳すること (2 時間) ・事後学修：社内会議の案内文を作成すること (2 時間)
	5	ビジネス対応-敬語	・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現 ・QUIZ② (敬語表現)	・事前学修：「敬語」プリントをすること (2 時間) ・事後学修：敬語表現を復習すること (2 時間)
	6	ビジネス対応-応対	・Expressions at Reception ・ロールプレイ	・事前学修：Expressions at Reception のロールプレイを練習すること (2 時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること (2 時間)
	7	ビジネス対応-電話	・Expression at Business Call ・ロールプレイ ・フォネティックコード	・事前学修：・Expression at Business Call のロールプレイを練習すること (2 時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること (2 時間)
	8	中間テスト	・Mid Quiz (正答率 60%で合格)	・事前学修：第 3 回から 7 回までの復習をすること (2 時間) ・事後学修：中間テストの解答を確認し、復習すること (2 時間)
	9	海外出張	・Y T T 方式の理解 ・外国語による日程表の作成	・事前学修：San Francisco に 1 週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくること (2 時間) ・事後学修：外国語による日程表を作成すること (2 時間)
	10	ビジネス文書 基礎編	・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング	・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をすること (2 時間) ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2 時間)
	11	ビジネス文書 応用編①	・社内文書と社会文書作成 ・日本語ビジネス文書と英文ビジネスレターとの比較	・事前学修：提示された条件で、文書を作成すること (2 時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2 時間)
	12	ビジネス文書 応用編②	・日本語と外国語による社交文書作成	・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認すること (2 時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2 時間)
	13	総合演習①	・復習：テキスト Lesson10-12 ・主にビジネス文書ルールを理解し、英語版と日本語版を比較する	・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習すること (2 時間) ・事後学修：テキストの復習、とくにビジネス文書 (2 時間)
	14	総合演習②	・復習：テキスト Lesson11-21 ・ビジネス文書の基本事項を復習 ・英語版の謝罪文など	・事前学修：テキストの復習 (2 時間) ・事後学修：テキストの復習 (2 時間)
	15	まとめ	・Final Quiz ・ビジネス英語を振り返る	・事前学修：テキストの復習 (2 時間) ・事後学修：ビジネス英語を学んで自身の弱点とその克服策をレポートにすること (2 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂
	2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイおよびプレゼンテーション (20%)、QUIZ/Mid Quiz/Final Quiz (60%)、レポート (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も見えてきました。社内を英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけでなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかりと学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	テキストは初回から使用するので、準備しておくことが好ましい。 必要に応じて資料を配布する。			

科目名	国際協力論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2205a0		

授業概要・目的	国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。 SDGs- 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td><td>_____</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際協力とは何か</td><td>国際協力の意味</td><td>国際協力がなぜ必要なのかを考える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本の国際協力</td><td>日本が行ってきた国際協力について</td><td>国際協力の意味と何だったのか、これからどうなるのかを考える</td></tr> <tr> <td>4</td><td>非政府組織（NGO）</td><td>NGO の得意な分野と苦手な分野</td><td>民間でできる国際協力はあるのかを探る</td></tr> <tr> <td>5</td><td>草の根組織・地方自治体</td><td>普通の人が出来る国際協力</td><td>様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際連合</td><td>様々な組織とその役割</td><td>国際機関の活動について調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際協力を受ける国々（1）</td><td>開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）</td><td>世界でアジア地域の問題とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際協力を受ける国々（2）</td><td>開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）</td><td>世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際協力を受ける国々（3）</td><td>開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）</td><td>アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際協力の仕組み</td><td>国際協力の仕組みを解明する</td><td>誰が・誰に・何を・どうするのか理解する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人・物・金</td><td>国際協力にまつわるキーワード</td><td>先進国にあって、開発途上国にないものを考察する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>国際協力の課題</td><td>主要援助国が抱える国際協力問題について</td><td>いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>開発教育</td><td>開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く</td><td>貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際協力の課題</td><td>今後、国際協力はどうあるべきかを考える</td><td>人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括的確認（必ず出席すること）</td><td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td><td>世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____	2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える	3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味と何だったのか、これからどうなるのかを考える	4	非政府組織（NGO）	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る	5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる	6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる	7	国際協力を受ける国々（1）	開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）	世界でアジア地域の問題とは何かを考える	8	国際協力を受ける国々（2）	開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える	9	国際協力を受ける国々（3）	開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える	10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する	12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する	13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する	14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える	15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____																																																																
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える																																																																
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味と何だったのか、これからどうなるのかを考える																																																																
4	非政府組織（NGO）	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る																																																																
5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる																																																																
6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる																																																																
7	国際協力を受ける国々（1）	開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）	世界でアジア地域の問題とは何かを考える																																																																
8	国際協力を受ける国々（2）	開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える																																																																
9	国際協力を受ける国々（3）	開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える																																																																
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する																																																																
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する																																																																
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する																																																																
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える																																																																
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3 週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階(浅野研究室)																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構（JICA）の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。																																																																		

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2206a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	国際政治経済学の理論的枠組み	第 1 章 国際政治経済の見方	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	3	国際経済体制の歴史（1）	第 2 章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	4	国際経済体制の歴史（2）	第 3 章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	5	国際政治経済体制の動態（1）	第 4 章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	6	国際政治経済体制の動態（2）	第 5 章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	7	国際政治経済体制の動態（3）	第 6 章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもちたらしめたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	8	国際政治経済体制の動態（4）	第 7 章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	9	国際政治経済体制の動態（5）	第 8 章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもちたらしめたか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	10	国際政治経済体制の動態（6）	第 9 章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	11	国際政治経済体制の動態（7）	第 10 章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	12	国際政治経済秩序の模索（1）	第 11 章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	13	国際政治経済秩序の模索（2）	第 12 章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	14	国際政治経済秩序の模索（3）	第 13 章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	15	まとめと補遺	終章 国際政治経済学の未来像	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと

			「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのように考え、何をを目指すべきか。	(目安時間：60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目	パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の各科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 (課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。)			
学生への メッセージ	毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。 ※この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。			

科目名	ボランティア論	科目名 (英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2207a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る</td><td>ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略</td></tr> <tr> <td>2</td><td>(起-1) ボランティアの基礎①</td><td>ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ</td><td>答えのない世界とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>(起-2) ボランティアの基礎②</td><td>貧困・災害とは何かを学ぶ</td><td>どこでなにが起きるかわからないということを理解する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>(起-3) 社会貢献</td><td>社会貢献やCSRとは何かを知る</td><td>個人・団体・企業など様々な取り組みを考える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>(承-1) 企業の社会的貢献</td><td>企業の社会的貢献の現状を知る</td><td>慈善なのか、企業倫理なのかを考える</td></tr> <tr> <td>6</td><td>(承-2) 国際協力の現状把握</td><td>どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る</td><td>偽善とは何なのかを考える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア</td><td>国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る</td><td>目的別のボランティアを考える</td></tr> <tr> <td>8</td><td>(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)</td><td>国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>チャレンジとは、何かを知る</td></tr> <tr> <td>9</td><td>(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)</td><td>国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>ステップアップする方法を考える①</td></tr> <tr> <td>10</td><td>(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)</td><td>国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>ステップアップする方法を考える②</td></tr> <tr> <td>11</td><td>(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって</td><td>国際ボランティアとしての自覚と次のステップ</td><td>自覚と義務とのギャップを巻く</td></tr> <tr> <td>12</td><td>(結-2) 自分に何ができるのか</td><td>ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする</td><td>他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える</td></tr> <tr> <td>13</td><td>(結-3) 更なる発展に向けて</td><td>ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない</td><td>ボランティアを受ける側の事情を考察する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>今後の課題</td><td>ボランティア活動の諸問題と克服について知る</td><td>ボランティア活動10ヶ条を考える</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括的確認 (必ず出席すること)</td><td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td><td>ボランティア活動を人生に生かす方法を考える</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略	2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える	3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する	4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える	5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える	6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える	7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える	8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る	9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①	10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②	11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次のステップ	自覚と義務とのギャップを巻く	12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える	13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する	14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える	15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略																																																																
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える																																																																
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する																																																																
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える																																																																
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える																																																																
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える																																																																
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える																																																																
8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る																																																																
9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①																																																																
10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②																																																																
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次のステップ	自覚と義務とのギャップを巻く																																																																
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える																																																																
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する																																																																
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える																																																																
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階 (浅野研究室)																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。 事前・事後学習は合計60時間を目安とする。																																																																		

科目名	国際平和論	科目名 (英文)	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3208a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目である。 本講義は、「国際平和」をめぐる現代世界の諸問題について、基本的には国際政治学の立場からアプローチし、問題の包括的な理解を通じて、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。				
到達目標	「国際平和」をめぐる取り上げられる様々な問題や議論に触れ、現代社会に対する理解を深める。				
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。				
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国際平和」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
		2	現代社会の前身—国際社会の誕生	第 1 章 国際社会の誕生とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		3	国際社会の分析視角（1）	第 2 章 覇権と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		4	国際社会の分析視角（2）	第 3 章 理想と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		5	国際社会の分析視角（3）	第 4 章 規範と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		6	国際社会の分析視角（4）	第 5 章 構造と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		7	冷戦の終結とは何だったのか	第 6 章 ソヴィエト崩壊と歴史の終わり	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		8	現代の紛争（1）	第 7 章 紛争と宗教・文化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		9	現代の紛争（2）	第 8 章 紛争と民族・領土	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		10	現代の紛争（3）	第 9 章 紛争と資源	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		11	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（1）	第 10 章 軍事介入と国際連合	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		12	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（2）	第 11 章 軍事介入の論理	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		13	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（3）	第 12 章 平和構築と権力分有	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		14	人間の安全保障とは何か	第 13 章 人間の安全保障	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
		15	まとめと補遺—地球社会の課題	第 14 章 Gゼロ世界と地球社会の課題	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
関連科目	パッケージプログラム（国際貢献）の各科目				
教科書					

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>国際平和論</td><td>福富満久</td><td>岩波書店</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際平和論	福富満久	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	国際平和論	福富満久	岩波書店														
2																	
3																	
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100％）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）																
学生への メッセージ	毎回の授業だけでなく、授業内で提示する課題への取り組みの際にも教科書は必携なので、必ず購入の上で受講すること。																
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室																
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。 ※この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。																

科目名	国際機構論	科目名 (英文)	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3209a0		

授業概要・目的	国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs- 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td><td>――</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際機構とは何か</td><td>国際機構の働きについて</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本と国際機構との関係</td><td>日本が行ってきた国際機構との協力関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際機関で働くには</td><td>国際機関でグローバルに生きる方法</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>5</td><td>国際援助</td><td>国際機構が行う国際援助について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際法</td><td>国際機関と国際法との関係</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域紛争</td><td>国際機関と地域紛争や危機管理との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>8</td><td>核の不拡散と輸出管理</td><td>大量破壊兵器と国際機関との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>9</td><td>テロリズム</td><td>9・11 事件以降のテロリズム対策について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際難民</td><td>国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人・物・金</td><td>国際協力にまつわるキーワード</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>12</td><td>貧困問題</td><td>開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>13</td><td>持続可能な発展</td><td>「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際機構の課題</td><td>今後、国際機構はどうあるべきかを考える</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>15</td><td>記述式総括確認（必ず出席すること）</td><td>これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う</td><td>――</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――	2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開	3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開	4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開	5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開	6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開	7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開	8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開	9	テロリズム	9・11 事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開	10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開	12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開	13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開	14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開	15	記述式総括確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	――
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――																																																																
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	テロリズム	9・11 事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	記述式総括確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	――																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	記述式小テストや記述式小レポートを合わせて (100%) 評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (浅野研究室)																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構（JICA）の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。 事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	社会開発論	科目名 (英文)	Social Development
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3210a0		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目となっています。 経済のグローバル化が進み、途上国への企業進出も盛んになる現代においては、それぞれの国や地域社会に対する理解力や思考力が重要です。特に、グローバルに展開される国際協力の場においては、開発援助の持つ理念やインパクト（メリット・デメリット）を理解することが必要になります。 本講義では、近年の経済成長により注目されているアフリカ・アジア諸国に関する基礎知識を学ぶとともに、開発の現代性や必要性、外部者の役割について検討していきます。また、社会開発のプロジェクトにおいて対象社会を理解するためのひとつの手段として、社会調査（フィールドワーク）を取り上げ、その方法論についても解説します。 SDGs-4, 9																																																																		
到達目標	1. 開発援助の対象であるアジア・アフリカ地域の歴史と現状を理解し、ステレオタイプの見方を変える 2. 開発に関わる諸概念・方法論の変遷と現状を理解し、社会開発の位置づけを説明することができる。 3. 社会開発の可能性と限界、対象社会に与える影響、対象社会の主体的な営み、を認識した上で、私たちに何ができるのか、どのように関わっていくべきなのかについて主体的・論理的に考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題（小テスト等）に対しては解説を行う。また、遠隔授業で実施する場合には Moodle を授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>アフリカを知る 1</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>アフリカを知る 2</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アフリカを知る 3</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>アジアを知る 1</td><td>開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>アジアを知る 2</td><td>開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>開発政策と地域社会</td><td>国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>開発と文化・価値・エンパワメント</td><td>文化やエンパワメントといった観点から開発を考える</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>社会開発の現状と課題 1：教育</td><td>教育に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>社会開発の現状と課題 2：農村開発</td><td>農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>社会開発の現状と課題 3：環境問題</td><td>環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 1</td><td>社会調査の方法論について理解する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 2</td><td>社会調査の方法論について理解する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>開発における外部者の役割</td><td>地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>全体のまとめ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	2	アフリカを知る 1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	3	アフリカを知る 2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	4	アフリカを知る 3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	5	アジアを知る 1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	6	アジアを知る 2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	8	開発と文化・価値・エンパワメント	文化やエンパワメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	9	社会開発の現状と課題 1：教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	10	社会開発の現状と課題 2：農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	11	社会開発の現状と課題 3：環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	12	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	13	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
2	アフリカを知る 1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
3	アフリカを知る 2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
4	アフリカを知る 3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
5	アジアを知る 1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
6	アジアを知る 2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
8	開発と文化・価値・エンパワメント	文化やエンパワメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
9	社会開発の現状と課題 1：教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
10	社会開発の現状と課題 2：農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
11	社会開発の現状と課題 3：環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
12	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
13	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法 2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
関連科目	国際貢献プログラム関連科目（国際協力論、国際関係論、国際平和論、国際機構論等）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			

	2																			
	3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60％）とレポート（40％）で評価します。																			
学生への メッセージ																				
担当者の 研究室等	7号館5階（手代木研究室）																			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。																			

科目名	ことばと意味	科目名 (英文)	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2211a0		

授業概要・目的	この科目は、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。 ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。ことばの意味について知るということは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることであります。そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がり深まることでしょう。 本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考えることを目指します。																																																																		
到達目標	言語学の様々な理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会学的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	毎回様々な言葉の意味のテーマを取り上げながら、講義を聞き、理解し、その内容を基に学生同士で議論しながら、自ら能動的に参加しながら授業を進めていきます。配布資料と辞書は忘れないで持参してください。 小テストは次の授業時間に返却し、ポイントなどの説明を行います。授業時間以外で質問などがある場合は、研究室にて対応します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方</td><td>「ことば」について予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「ことば」とは</td><td>音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など</td><td>言語学4分野について復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>音と意味</td><td>オノマトペ、自然的意味と恣意的意味</td><td>音が持つ意味について復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文字と意味</td><td>表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな</td><td>文字と意味の関係について復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>形態素と意味</td><td>接尾語と接頭語</td><td>形態素の役割を復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>語と意味</td><td>単語について 外延的意味と内包的意味</td><td>単語が持つ意味について復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文法と意味</td><td>時制・相</td><td>文法がどのように文の意味に関係しているかを復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文脈と意味</td><td>「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」</td><td>文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>役割語</td><td>役割を明示することば</td><td>役割語の機能について復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>結合語</td><td>日本語と英語の結合語</td><td>身近な結合語について復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>メタファー</td><td>メタファーの解釈</td><td>身近なメタファーについて復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>メトニミー</td><td>メトニミーの解釈</td><td>身近なメトニミーについて復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アイロニー</td><td>アイロニーの解釈</td><td>身近なアイロニーについて復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>含意</td><td>含意の解釈、ボライトネス</td><td>身近な含意について復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめのテスト</td><td>授業の復習</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習	2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習	3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習	4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな	文字と意味の関係について復習	5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習	6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習	7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習	8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習	9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習	10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習	11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習	12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習	13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習	14	含意	含意の解釈、ボライトネス	身近な含意について復習	15	まとめのテスト	授業の復習	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習																																																																
2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習																																																																
3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習																																																																
4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな	文字と意味の関係について復習																																																																
5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習																																																																
6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習																																																																
7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習																																																																
8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習																																																																
9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習																																																																
10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習																																																																
11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習																																																																
12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習																																																																
13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習																																																																
14	含意	含意の解釈、ボライトネス	身近な含意について復習																																																																
15	まとめのテスト	授業の復習																																																																	
関連科目	その他の外国語専門職プログラム科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業態度 30%、小テスト 30%、まとめのテスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前事後学習：60時間 小テストは次の授業時間に返却し、ポイントなどの説明を行う。 授業時間以外で質問などがある場合は、研究室にて対応する。																																																																		

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2212a0		

授業概要・目的	・この科目は、「外国語専門職プログラム」および「国際教養プログラム」対応科目です。 ・人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とどのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。
到達目標	・異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。 ・異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。 ・自分の意見を表現できる。
授業方法と留意点	・講義 プリント資料の内容は熟読する。 ・タスク 異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。ペアワーク、グループワーク、発表も含まれる。 (授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります)
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	2	異文化コミュニケーションとは (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	3	異文化コミュニケーションとは (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	4	異文化適応	講義、タスク	授業で出された課題 (1.5H)
	5	異文化摩擦・異文化コミュニケーションの障壁	講義、タスク	授業で出された課題 (1.5H)
	6	異文化に対する認識 (1)	講義、タスク	レポート作成 (1.5H)
	7	異文化に対する認識 (2)	講義、タスク	レポート作成 (1.5H)
	8	言語コミュニケーション (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	9	言語コミュニケーション (2)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で資料出された課題 (1.5H)
	11	外国語の学習	ゲストスピーカー (予定)、グループディスカッション	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	12	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	13	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)
	14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)
	15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り (1H)

関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント、資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社
	2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店
	3	その他は授業で指示する		

評価方法 (基準)	課題及びレポート (30%)・授業への参加度(10%)・テスト (60%)により総合的に評価する。
学生への メッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。 授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。 授業中は、ペアワーク、グループワーク、全体でのディスカッションをすることが多いので、積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階
備考	テスト終了後に、テスト内容についてのフィードバックを行う。 なお、事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	翻訳文化論	科目名 (英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2213a0		

授業概要・目的	文化は、その文化の言語を学べば理解できるものではない。文化の内容や背景をしっかりと捉え、それを理解し翻訳することの意義を考える必要がある。 ここで言う「翻訳」とは、単にある言語から別の言語に変換することではなく、「日本」を新しく問い直す観点を見出すことである。海外の文化人による日本文化論や、海外（とくに西洋）を体験した日本人による文化論などを幅広く読むことで、履修者各自が自身の所属する「日本」を捉えなおすきっかけになるよう、ともに考察していきたい。 なお本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。																																																																		
到達目標	①文化論を読解する力を身につける ②文化を理解・翻訳することの意義を問う ③自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に行う。ドキュメンタリーなどの映像資料を鑑賞する。教材はプリントで配布する。 毎回、授業内容についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方向的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。人数にもよるが、簡単なフィールドワークを行う予定である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「翻訳文化」をめぐる問題 (1)</td><td>ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「翻訳文化」をめぐる問題 (2)</td><td>日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム (ポストコロニアリズム) の問題について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「外」から見た「日本」(1)</td><td>明治以降の日本文化論の系譜を概説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「外」から見た「日本」(2)</td><td>ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「外」から見た「日本」(3)</td><td>ブルーノ・タウトについて解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「外」から見た「日本」(4)</td><td>バーナード・リーチについて解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>「外」から見た「日本」(5)</td><td>リービ秀雄について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>「外」を見た「日本 (人)」(1)</td><td>岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>「外」を見た「日本 (人)」(2)</td><td>森鷗外について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>「外」を見た「日本 (人)」(3)</td><td>夏目漱石について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>「外」を見た「日本 (人)」(4)</td><td>大正・昭和初期の西欧体験について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「外」を見た「日本 (人)」(5)</td><td>近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総括・試験の案内</td><td>授業内容全体を総括し、試験の案内をする</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>試験</td><td>レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)</td><td>授業全体の確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	2	「翻訳文化」をめぐる問題 (1)	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	3	「翻訳文化」をめぐる問題 (2)	日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム (ポストコロニアリズム) の問題について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	4	「外」から見た「日本」(1)	明治以降の日本文化論の系譜を概説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	5	「外」から見た「日本」(2)	ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	6	「外」から見た「日本」(3)	ブルーノ・タウトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	7	「外」から見た「日本」(4)	バーナード・リーチについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	8	「外」から見た「日本」(5)	リービ秀雄について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	9	「外」を見た「日本 (人)」(1)	岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	10	「外」を見た「日本 (人)」(2)	森鷗外について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	11	「外」を見た「日本 (人)」(3)	夏目漱石について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	12	「外」を見た「日本 (人)」(4)	大正・昭和初期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	13	「外」を見た「日本 (人)」(5)	近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認	15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)	授業全体の確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
2	「翻訳文化」をめぐる問題 (1)	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
3	「翻訳文化」をめぐる問題 (2)	日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム (ポストコロニアリズム) の問題について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
4	「外」から見た「日本」(1)	明治以降の日本文化論の系譜を概説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
5	「外」から見た「日本」(2)	ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
6	「外」から見た「日本」(3)	ブルーノ・タウトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
7	「外」から見た「日本」(4)	バーナード・リーチについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
8	「外」から見た「日本」(5)	リービ秀雄について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
9	「外」を見た「日本 (人)」(1)	岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
10	「外」を見た「日本 (人)」(2)	森鷗外について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
11	「外」を見た「日本 (人)」(3)	夏目漱石について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
12	「外」を見た「日本 (人)」(4)	大正・昭和初期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
13	「外」を見た「日本 (人)」(5)	近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
14	総括・試験の案内	授業内容全体を総括し、試験の案内をする	配布プリントの確認																																																																
15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)	授業全体の確認																																																																
関連科目	日本文学・文化に関する科目 (「日本文学」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の 研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室）
備考	事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。

科目名	日本語表現論	科目名 (英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2214a0		

授業概要・目的	※この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。 この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、他言語とも比較しつつ、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めます。 毎回、テーマに沿って講義し、最後に自分の考えをまとめたペーパーを提出します。 ペーパーに対するフィードバックは翌週に行います。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめの回を設け、そこでレポートのフィードバックとまとめテストをします。 コメントペーパー、レポートについては、次の回でフィードバックします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td><td>授業の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界の中の日本語</td><td>日本語は特殊な言語なのか考える</td><td>日本語の特徴について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本語の構造</td><td>日本語の構造を考える</td><td>日本語の構造について本をもとに考える</td></tr> <tr> <td>4</td><td>1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較</td><td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>1-2. 日本語のレトリック</td><td>様々なレトリックを学ぶ</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>1-3. 日本語のオノマトペ</td><td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>1-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第1節の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感</td><td>現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>2-2. 和歌に見る語感</td><td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>2-3. 俳句に見る語感</td><td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>2-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第2節の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称</td><td>小説を例に、人称表現について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>3-2. 時制</td><td>小説を例に、現在と過去の表現について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>3-3. 多様な表現方法</td><td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>3-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第3節の内容を整理する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える	4	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む	5	1-2. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む	6	1-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む	7	1-4. まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する	8	2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	9	2-2. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	10	2-3. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	11	2-4. まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する	12	3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む	13	3-2. 時制	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む	14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む	15	3-4. まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える																																																																
4	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
5	1-2. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む																																																																
6	1-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
7	1-4. まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する																																																																
8	2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
9	2-2. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
10	2-3. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
11	2-4. まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する																																																																
12	3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2. 時制	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4. まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポート (3 回) (6 0 %) 3 回すべての提出を必須とする。 まとめテスト (1 5 %) 授業参加度 (コメントペーパー) (2 5 %)																																																																		
学生へのメッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (橋本研究室)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は合計 60 時間。																																																																		

科目名	語学教育工学	科目名 (英文)	Technology in Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3215a0		

授業概要・目的	これまでに習得してきた ICT スキルをさらに発展させ、語学教育へどのように活用できるかを考える。Office ソフトの発展的な操作方法を学ぶ。また、簡単なプログラミングスキルを学習し、より効果的な授業活動や教材作成などの可能性も探る。なお、この科目は「外国語専門職プログラム」対応科目である。
到達目標	ICT 技術によって、どのようなことが可能になるか、あるいは効率化されるかを理解する。また、教育現場等で日常的に行われる書類作成、表計算、データ処理などを、自立的に行える ICT スキルを身につける。タッチタイピングを未取得の場合は、オンライン教材などを使用して習得する。
授業方法と留意点	高度な知識は不要だが、毎週、各自でコンピュータを使用した課題に取り組むため、最低限のコンピューターリテラシーは必要となる。タイピングがある程度スムーズに行えて、できればファイルやフォルダ、拡張子などの概念は理解しておいてほしい。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	3	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	4	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	5	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	6	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	7	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	8	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	9	表計算 課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	10	表計算 課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	11	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	12	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	13	プレゼンテーション作成 (1) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	14	プレゼンテーション作成 (2) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)
	15	授業の総括 プレゼンテーション	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の発表・評価を行う	授業内で指示された演習課題に取り組む (4 時間)

関連科目	外国語専門職プログラム対応科目など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極性・貢献度 30% 課題の達成度 50% ICT スキルの習熟度 20%
学生へのメッセージ	受身の姿勢で受講するのではなく、語学教育にこのように ICT を活用してはどうか、という皆さんからの積極的な提案を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (後藤研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は最新のトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。小テスト、提出物、暗記、プレゼンテーションなどとても課題が多い授業なので積極的かつ集中して授業に関わることが重要である。
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習
	2	Unit 1: Study Abroad	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習
	3	Unit 1: Study Abroad	日本語から英語 通訳練習	予習と復習
	4	Unit 2: Universal Design	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習
	5	Unit 2: Universal Design	日本語から英語 通訳練習	予習と復習
	6	Unit 3: Conversation (1) At Kimono Gallery	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習
	7	Unit 3: Conversation (1) At Kimono Gallery	英語から日本語・日本語から英語	予習と復習
	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
	9	Unit 4: Food and Cooking	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習
	10	Unit 4: Food and Cooking	日本語から英語 通訳練習	予習と復習
	11	Unit 5: Gender Issue	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習
	12	Unit 5: Gender Issue	日本語から英語 通訳練習	予習と復習
	13	Unit 6: Conversation (2) Interview with a figure skater	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習
	14	Unit 6: Conversation (2) Interview with a figure skater	英語から日本語・日本語から英語	復習とテスト準備
	15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interpreting Skills for the World Beyond Borders	水野真木子・Ashurava Umidahon	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。
-----------	---

学生へのメッセージ	毎回、多くの課題があることを念頭におき、履修してください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと (およそ 60 時間とする)。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため、授業計画の変更がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 スペイン語の文章を日本語にする練習を行う。 翻訳とは、単純な語句の置き換えではなく、解釈と表現の両面で熟考を要する作業である。 まず、スペイン語の文章を文法的・論理的に正しくとらえること、次に、それを機械翻訳のような逐語的な訳ではなく日本語らしく表現することを心がける。																																																																		
到達目標	スペイン語の様々なジャンル・スタイルの文章を、正確に読み解く力を養うこと。 新聞記事やエッセイ、小説や評論など、ジャンルや書き手による文体の相違（存在）に気づくこと。 日本語とスペイン語の違いを、文法や表現法のレベルで認識すること。 日本語について考えること（文法や言い回し、日本人の言語文化）。 言語が文化そのものであるという認識をもとに、文法的にも文化的にも適当な翻訳ができるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	ウェブフォルダをテキストや資料の配布に使用する。 予習・復習に相当の時間をかけること。 毎回、様々な文章を題材とする。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 課題提出については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	言語能力（文法および論理と表現の面）を鍛えること。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。</td><td>シラバスを読む 課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>試験</td><td>前半の学習内容について問う。</td><td>まとめ。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>読み物</td><td>日本の文学作品のスペイン語訳を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>読み物</td><td>日本の文学作品のスペイン語訳を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>試験</td><td>学習内容のすべて。</td><td>試験に準備して臨む。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>読み物</td><td>試験の返却・解説。今期の総括。</td><td>まとめ。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む	2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。	9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。	13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。	14	試験	学習内容のすべて。	試験に準備して臨む。	15	読み物	試験の返却・解説。今期の総括。	まとめ。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む																																																																
2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。																																																																
9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
14	試験	学習内容のすべて。	試験に準備して臨む。																																																																
15	読み物	試験の返却・解説。今期の総括。	まとめ。																																																																
関連科目	スペイン語通訳ガイド、外国語通訳法、その他スペイン語のすべての科目。 日本語に関する科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業中の発表内容（課題を含む）70% ＋ テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	自分の普段の言語活動についてよく考えよう。いつどこでも誰に対しても同じような話し方・書き方をするだろうか。どんな時にどのような言い方を工夫するだろう。この科目はスペイン語の科目であっても、ほとんど、問題は日本語にあることに気づくだろう。 日ごろから、とにかく、文字（書かれた言語）に触れること、本を読むこと。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																																																																		
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は 60 時間。																																																																		

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本と中国の文化は必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。																																																																		
到達目標	翻訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、翻訳能力を向上させることができる。 外国語専門職につくためのモチベーションを高めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。中国語から日本語、日本語から中国語の翻訳に関する基礎的な訓練を行う。予習を前提として、一つ一つ課題をこなして行く。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。 質問に対しては授業の中で口頭または文書の形式によって必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士 中国語検定 2 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>翻訳とはどういうものか 中国語と日本語の違い 辞書や参考書、アプリやツールについての説明</td><td>シラバスを読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>1. 同形語に注意する (中国語→日本語編)</td><td>①同形異義語に留意する ②同形近義語や多義語は慎重に訳す</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>2. 難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)</td><td>①難訳単語にどう対応するか</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)</td><td>②四字熟語 (慣用句・ことわざ) を的確に訳す ③一部の 4 文字構造の言葉</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>3. 省略する (中国語→日本語編)</td><td>①主語を適度に省略する ②一部の副詞を省略する</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>省略する (中国語→日本語編)</td><td>③複数形を適度に省略する ④重複部分を省略する</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>4. 文章記号と表記ルールを正しく理解し訳す (中国語→日本語編)</td><td>①中国語の文章記号の理解と処理 ②数字・固有名詞・ルビ・常用漢字</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>5. 適訳を採用する (中国語→日本語編)</td><td>①分野に適した訳語・定訳・用語を選択する ②外来語に訳す</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>適訳を採用する (中国語→日本語編)</td><td>③認知度の高い言葉、通りの良い表現</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>6. 補って訳す (中国語→日本語編)</td><td>①関連する言葉を補って訳す ②説明・注釈を補う</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>7. 日本語表現 (中国語→日本語編)</td><td>①原文に引きずられない——連語 ②原文に引きずられない——表現の工夫</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>日本語表現 (中国語→日本語編)</td><td>③代名詞・人称代名詞の処理 ④実務翻訳にそぐわない表現</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>8. 訳す順序 (中国語→日本語編)</td><td>①中国語の順に沿って訳す ②訳す順序を変えた方が良い場合——原文の要素から判断する</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>訳す順序 (中国語→日本語編)</td><td>③訳す順序を変えた方が良い場合——明快な日本語にするため</td><td>参考文献を読む 課題を取り込む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>復習</td><td>期末テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	翻訳とはどういうものか 中国語と日本語の違い 辞書や参考書、アプリやツールについての説明	シラバスを読む 課題を取り込む	2	1. 同形語に注意する (中国語→日本語編)	①同形異義語に留意する ②同形近義語や多義語は慎重に訳す	参考文献を読む 課題を取り込む	3	2. 難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)	①難訳単語にどう対応するか	参考文献を読む 課題を取り込む	4	難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)	②四字熟語 (慣用句・ことわざ) を的確に訳す ③一部の 4 文字構造の言葉	参考文献を読む 課題を取り込む	5	3. 省略する (中国語→日本語編)	①主語を適度に省略する ②一部の副詞を省略する	参考文献を読む 課題を取り込む	6	省略する (中国語→日本語編)	③複数形を適度に省略する ④重複部分を省略する	参考文献を読む 課題を取り込む	7	4. 文章記号と表記ルールを正しく理解し訳す (中国語→日本語編)	①中国語の文章記号の理解と処理 ②数字・固有名詞・ルビ・常用漢字	参考文献を読む 課題を取り込む	8	5. 適訳を採用する (中国語→日本語編)	①分野に適した訳語・定訳・用語を選択する ②外来語に訳す	参考文献を読む 課題を取り込む	9	適訳を採用する (中国語→日本語編)	③認知度の高い言葉、通りの良い表現	参考文献を読む 課題を取り込む	10	6. 補って訳す (中国語→日本語編)	①関連する言葉を補って訳す ②説明・注釈を補う	参考文献を読む 課題を取り込む	11	7. 日本語表現 (中国語→日本語編)	①原文に引きずられない——連語 ②原文に引きずられない——表現の工夫	参考文献を読む 課題を取り込む	12	日本語表現 (中国語→日本語編)	③代名詞・人称代名詞の処理 ④実務翻訳にそぐわない表現	参考文献を読む 課題を取り込む	13	8. 訳す順序 (中国語→日本語編)	①中国語の順に沿って訳す ②訳す順序を変えた方が良い場合——原文の要素から判断する	参考文献を読む 課題を取り込む	14	訳す順序 (中国語→日本語編)	③訳す順序を変えた方が良い場合——明快な日本語にするため	参考文献を読む 課題を取り込む	15	復習	期末テスト	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	翻訳とはどういうものか 中国語と日本語の違い 辞書や参考書、アプリやツールについての説明	シラバスを読む 課題を取り込む																																																																
2	1. 同形語に注意する (中国語→日本語編)	①同形異義語に留意する ②同形近義語や多義語は慎重に訳す	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
3	2. 難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)	①難訳単語にどう対応するか	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
4	難訳中国語の対応 (中国語→日本語編)	②四字熟語 (慣用句・ことわざ) を的確に訳す ③一部の 4 文字構造の言葉	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
5	3. 省略する (中国語→日本語編)	①主語を適度に省略する ②一部の副詞を省略する	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
6	省略する (中国語→日本語編)	③複数形を適度に省略する ④重複部分を省略する	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
7	4. 文章記号と表記ルールを正しく理解し訳す (中国語→日本語編)	①中国語の文章記号の理解と処理 ②数字・固有名詞・ルビ・常用漢字	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
8	5. 適訳を採用する (中国語→日本語編)	①分野に適した訳語・定訳・用語を選択する ②外来語に訳す	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
9	適訳を採用する (中国語→日本語編)	③認知度の高い言葉、通りの良い表現	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
10	6. 補って訳す (中国語→日本語編)	①関連する言葉を補って訳す ②説明・注釈を補う	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
11	7. 日本語表現 (中国語→日本語編)	①原文に引きずられない——連語 ②原文に引きずられない——表現の工夫	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
12	日本語表現 (中国語→日本語編)	③代名詞・人称代名詞の処理 ④実務翻訳にそぐわない表現	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
13	8. 訳す順序 (中国語→日本語編)	①中国語の順に沿って訳す ②訳す順序を変えた方が良い場合——原文の要素から判断する	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
14	訳す順序 (中国語→日本語編)	③訳す順序を変えた方が良い場合——明快な日本語にするため	参考文献を読む 課題を取り込む																																																																
15	復習	期末テスト																																																																	
関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プリント配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日中・中日翻訳トレーニングブック</td><td>高田裕子・毛燕</td><td>大修館書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日中・中日通訳トレーニングブック</td><td>高田裕子・毛燕</td><td>大修館書店</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日中辞典・中日辞典</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日中・中日翻訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店	2	日中・中日通訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店	3	日中辞典・中日辞典																																																		
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日中・中日翻訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店																																																																
2	日中・中日通訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店																																																																
3	日中辞典・中日辞典																																																																		
評価方法 (基準)	参加度と提出物：60% テスト：40%で評価する																																																																		
学生へのメッセージ	事前・事後学習にかかる時間は合計 60 時間以上のこと。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 あらゆる文体のインドネシア語の文章を日本語へ、または日本語文をインドネシア語へ翻訳する訓練を行う。 翻訳するに際しては、それぞれの言語をしっかりと理解し、自然な文章へ直すことに注意しなければならない。すなわち、インドネシア語と日本語の文法や文章構造をしっかりと把握し、さらにはそのトピックの背景を踏まえた上で翻訳文を作っていくこととなる。																																																																		
到達目標	高度なインドネシア語運用能力を高めるとともに、日本語をきちんと理解することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業で取り上げる文章はプリント教材を準備するので、予習や復習をしっかりとこなすこと。 授業で使用するプリント教材はできる限り、最新のものを使用したい。それゆえ、インドネシアや日本において、突発的な出来事が起きた際には、授業計画の順番が変更される場合があることを留意いただきたい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定の資格取得																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>翻訳するとは・・・</td><td>翻訳とはどういった作業なのかについて共通理解を深めることとする</td><td>「翻訳すること」の意味を考えてみましょう。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新聞記事①</td><td>新聞記事の翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>新聞記事②</td><td>新聞記事の翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>マンガ①</td><td>日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>マンガ②</td><td>日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>歌詞①</td><td>インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。</td><td>学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>歌詞②</td><td>インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。</td><td>学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習</td><td>これまでに学んだことを踏まえ、中間テストを行う。</td><td>これまでに学んだことの復習をすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>旅行ガイドブック①</td><td>旅行ガイドブックの翻訳を行う。</td><td>学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>旅行ガイドブック②</td><td>旅行ガイドブックの翻訳を行う。</td><td>学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>短編小説</td><td>インドネシア語の短編小説を翻訳する。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>取り扱い説明書</td><td>商品の取扱説明書の翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>広報チラシ</td><td>いろいろな広報チラシの翻訳を行う。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>広告</td><td>広告の表現についての翻訳を学ぶ。</td><td>プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総まとめ</td><td>これまでに学んだことを確認を行い、最終テストを実施する。</td><td>これまでに学んだことの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	翻訳するとは・・・	翻訳とはどういった作業なのかについて共通理解を深めることとする	「翻訳すること」の意味を考えてみましょう。	2	新聞記事①	新聞記事の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	3	新聞記事②	新聞記事の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	4	マンガ①	日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	5	マンガ②	日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	6	歌詞①	インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。	7	歌詞②	インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。	8	復習	これまでに学んだことを踏まえ、中間テストを行う。	これまでに学んだことの復習をすること。	9	旅行ガイドブック①	旅行ガイドブックの翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。	10	旅行ガイドブック②	旅行ガイドブックの翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。	11	短編小説	インドネシア語の短編小説を翻訳する。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	12	取り扱い説明書	商品の取扱説明書の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	13	広報チラシ	いろいろな広報チラシの翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	14	広告	広告の表現についての翻訳を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。	15	総まとめ	これまでに学んだことを確認を行い、最終テストを実施する。	これまでに学んだことの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	翻訳するとは・・・	翻訳とはどういった作業なのかについて共通理解を深めることとする	「翻訳すること」の意味を考えてみましょう。																																																																
2	新聞記事①	新聞記事の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
3	新聞記事②	新聞記事の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
4	マンガ①	日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
5	マンガ②	日本のマンガ作品を通じて、主に会話文の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
6	歌詞①	インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。																																																																
7	歌詞②	インドネシア語の歌を聴き、歌詞の翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。																																																																
8	復習	これまでに学んだことを踏まえ、中間テストを行う。	これまでに学んだことの復習をすること。																																																																
9	旅行ガイドブック①	旅行ガイドブックの翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。																																																																
10	旅行ガイドブック②	旅行ガイドブックの翻訳を行う。	学んだことについての復習をすること。																																																																
11	短編小説	インドネシア語の短編小説を翻訳する。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
12	取り扱い説明書	商品の取扱説明書の翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
13	広報チラシ	いろいろな広報チラシの翻訳を行う。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
14	広告	広告の表現についての翻訳を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること。																																																																
15	総まとめ	これまでに学んだことを確認を行い、最終テストを実施する。	これまでに学んだことの復習																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべておよび日本語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プログレッシブインドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup sanggar</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	2	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup sanggar	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
2	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup sanggar																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	2回の復習テスト [中間テスト・最終テスト] (80%)、授業への取り組み姿勢 (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	翻訳について学ぶということは、単に外国語を学ぶことではありません。わたしたちが普段使用している「日本語」を見つめ直してみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	浦野研究室 (7号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつちかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は最新のトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。小テスト、提出物、暗記、プレゼンテーションなどとても課題が多い授業なので積極的かつ集中して授業に関わることが重要である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Back to School</td><td>日本語から英語</td><td>来週の予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7: Environmental and SDGs</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7: Environmental and SDGs</td><td>日本語から英語 通訳練習</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8: AI and Technology</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8: AI and Technology</td><td>日本語から英語 通訳練習</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company</td><td>英語から日本語・日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>進度調整とテキスト以外の教材</td><td>実践的な学習訓練</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10: History</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10: History</td><td>日本語から英語 通訳練習</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11: Religion</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11: Religion</td><td>日本語から英語 通訳練習</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12: Conversation (4) At a medical examination</td><td>Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12: Conversation (4) At a medical examination</td><td>英語から日本語・日本語から英語</td><td>復習とテスト準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>後期まとめ</td><td>後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト</td><td>事前のテスト準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Back to School	日本語から英語	来週の予習	2	Unit 7: Environmental and SDGs	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習	3	Unit 7: Environmental and SDGs	日本語から英語 通訳練習	予習と復習	4	Unit 8: AI and Technology	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習	5	Unit 8: AI and Technology	日本語から英語 通訳練習	予習と復習	6	Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習	7	Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company	英語から日本語・日本語から英語	予習と復習	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習	9	Unit 10: History	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習	10	Unit 10: History	日本語から英語 通訳練習	予習と復習	11	Unit 11: Religion	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習	12	Unit 11: Religion	日本語から英語 通訳練習	予習と復習	13	Unit 12: Conversation (4) At a medical examination	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習	14	Unit 12: Conversation (4) At a medical examination	英語から日本語・日本語から英語	復習とテスト準備	15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Back to School	日本語から英語	来週の予習																																																																
2	Unit 7: Environmental and SDGs	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習																																																																
3	Unit 7: Environmental and SDGs	日本語から英語 通訳練習	予習と復習																																																																
4	Unit 8: AI and Technology	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習																																																																
5	Unit 8: AI and Technology	日本語から英語 通訳練習	予習と復習																																																																
6	Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習																																																																
7	Unit 9: Conversation (3) At a cutlery company	英語から日本語・日本語から英語	予習と復習																																																																
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習																																																																
9	Unit 10: History	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習																																																																
10	Unit 10: History	日本語から英語 通訳練習	予習と復習																																																																
11	Unit 11: Religion	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語	予習と復習																																																																
12	Unit 11: Religion	日本語から英語 通訳練習	予習と復習																																																																
13	Unit 12: Conversation (4) At a medical examination	Unit にでてくる単語や表現の確認 英語から日本語・日本語から英語	予習と復習																																																																
14	Unit 12: Conversation (4) At a medical examination	英語から日本語・日本語から英語	復習とテスト準備																																																																
15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Interpreting Skills for the World Beyond Borders</td><td>水野真木子・Ashurava Umidahon</td><td>松柏社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Interpreting Skills for the World Beyond Borders	水野真木子・Ashurava Umidahon	松柏社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Interpreting Skills for the World Beyond Borders	水野真木子・Ashurava Umidahon	松柏社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。																																																																		
学生へのメッセージ	毎回、多くの課題があることを念頭におき、履修してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 6 0 時間程度とする。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため、授業計画の変更がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本歴史、文化、地理を中国語で紹介するのに必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。
到達目標	翻訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、中国語の能力を向上させることができる。 外国語専門職につくためのモチベーションを高めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。中国語から日本語、日本語から中国語の翻訳に関する基礎的な訓練を行う。予習を前提として、一つ一つ課題をこなして行く。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。 質問に対しては授業の中で口頭または文書の形式によって必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士 中国語検定 2 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1. 拆訳/分訳 (区切って訳す) (日本語→中国語編)	①多くの要素が盛り込まれているセンテンスを区切る	シラバスを読む 課題を取り込む
	2	拆訳/分訳 (区切って訳す) (日本語→中国語編)	②長い修飾語を含むセンテンスを区切る ③センテンスの途中で主語が変わっている場合	参考文献を読む 課題を取り込む
	3	2. 反訳 (否定文を肯定文に、肯定文を否定文に訳す) (日本語→中国語編)	①否定文を肯定文に訳すケース	参考文献を読む 課題を取り込む
	4	反訳 (否定文を肯定文に、肯定文を否定文に訳す) (日本語→中国語編)	②肯定文を否定文に訳すケース	参考文献を読む 課題を取り込む
	5	3. 減訳 (省略する訳) (日本語→中国語編)	①実質的な意味を含まない部分は省略する	参考文献を読む 課題を取り込む
	6	減訳 (省略する訳) (日本語→中国語編)	②訳さなくてもよい接続詞を見極める	参考文献を読む 課題を取り込む
	7	4. 標点符号 (文章記号と表記ルール) (日本語→中国語編)	①文章記号の理解と処理 ②数字・固有名詞 (人名・地名) など	参考文献を読む 課題を取り込む
	8	5. 使令動詞「使」(使役文に訳すケース) (日本語→中国語編)	①因果関係を明確にする ②発想の違い	参考文献を読む 課題を取り込む
	9	6. 加訳 (補って訳す) (日本語→中国語編)	①主語・動詞・助数詞を補う ②類型を示す言葉「工作」「問題」「任務」を補う	参考文献を読む 課題を取り込む。
	10	加訳 (補って訳す) (日本語→中国語編)	③原文の意味・単語の意味を補う	参考文献を読む 課題を取り込む
	11	7. 巧用連詞、介詞 (効果的な接続詞・介詞) (日本語→中国語編)	①因果関係を表す接続詞・介詞 ②手段を表す接続詞・介詞	参考文献を読む 課題を取り込む
	12	巧用連詞、介詞 (効果的な接続詞・介詞) (日本語→中国語編)	③因果関係—状況と結果を表す接続詞・介詞	参考文献を読む 課題を取り込む
	13	8. 間違いやすい表現一より良い翻訳のために (日本語→中国語編)	①間違いやすい単語とフレーズ ②動詞と目的語の組み合わせ	参考文献を読む 課題を取り込む
	14	間違いやすい表現一より良い翻訳のために (日本語→中国語編)	③中国語らしい表現を心掛ける	参考文献を読む 課題を取り込む
	15	復習課	期末テスト	表現を復習すること。 配った参考文献を読むこと。

関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日翻訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店
	2	日中・中日通訳トレーニングブック	高田裕子・毛燕	大修館書店
	3	日中辞典・中日辞典		

評価方法 (基準)	参加度と提出物：60% テスト：40%で評価する
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	事前・事後学習にかかる時間は合計 60 時間以上のこと。
-----------	------------------------------

担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目であるが、「観光ホスピタリティ」プログラムを選んだ者も履修すればプログラムの対象科目となる。その他のプログラムを選んだ者も、履修し単位修得することが可能。通訳という専門的職業とはなにかを理解するために、その歴史、種類、求められる資質や能力、そのプロセス、翻訳との比較などの観点から、通訳という異言語間コミュニケーションの本質に迫る。その後、通訳トレーニングの紹介を通じて、言語コミュニケーションの本質を考える材料を提供し、導入的实践を行うことで履修者は外国語学習の新しい方法を体験する。																																																																		
到達目標	通訳という職業とは何かを理解するとともに、実践的トレーニングを通じて異言語間コミュニケーションの方法論を学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式と実習の両方の要素があり、どちらにも積極的に取り組み、チャレンジしてほしい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	語学力を証明できる唯一の国家資格である「通訳案内士」の資格取得をめざす動機づけとなる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>通訳とはなにか</td><td>通訳の歴史</td><td>シラバスを読んでおく</td></tr> <tr> <td>2</td><td>通訳とはなにか</td><td>通訳の種類 (技術上の分類 ; 分野別の分類)</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>通訳とはなにか</td><td>通訳者に求められるもの</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>通訳とはなにか</td><td>コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>通訳のプロセス</td><td>言語学、心理学の最新理論</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>通訳のプロセス</td><td>翻訳との比較</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>中間試験とこれまでのまとめ</td><td>通訳という職業の本質について</td><td>通訳理論について学んだことを復習し、次回からの実践トレーニングで用いる教材を読む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>通訳トレーニング</td><td>シャドウイング</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>通訳トレーニング</td><td>スラッシュ・リーディング</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>通訳トレーニング</td><td>サイト・トランスレーション</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>通訳トレーニング</td><td>同時通訳と逐次通訳</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>実践編</td><td>スペイン語による通訳実践の試み (1)</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>実践編</td><td>スペイン語による通訳実践の試み (2)</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>プロの通訳を迎えて (または授業担当者による通訳業の具体例紹介)</td><td>体験談を聴く</td><td>参考文献を読む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>臨時試験と総まとめ</td><td>国家資格「通訳案内士」についての説明</td><td>資格取得に向けて、準備を開始する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読んでおく	2	通訳とはなにか	通訳の種類 (技術上の分類 ; 分野別の分類)	参考文献を読む	3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む	4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む	5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む	6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む	7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	通訳理論について学んだことを復習し、次回からの実践トレーニングで用いる教材を読む。	8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む	9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む	10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む	11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む	12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み (1)	参考文献を読む	13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み (2)	参考文献を読む	14	プロの通訳を迎えて (または授業担当者による通訳業の具体例紹介)	体験談を聴く	参考文献を読む	15	臨時試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、準備を開始する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読んでおく																																																																
2	通訳とはなにか	通訳の種類 (技術上の分類 ; 分野別の分類)	参考文献を読む																																																																
3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む																																																																
4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む																																																																
5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む																																																																
6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む																																																																
7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	通訳理論について学んだことを復習し、次回からの実践トレーニングで用いる教材を読む。																																																																
8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む																																																																
9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む																																																																
10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む																																																																
11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む																																																																
12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み (1)	参考文献を読む																																																																
13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み (2)	参考文献を読む																																																																
14	プロの通訳を迎えて (または授業担当者による通訳業の具体例紹介)	体験談を聴く	参考文献を読む																																																																
15	臨時試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、準備を開始する																																																																
関連科目	外国語翻訳法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>不実な美女か貞淑な醜女か</td><td>米原万里</td><td>新潮文庫</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	講義内容に対する質問や提案、実習への積極的取り組み 80%、学期中の小テスト・臨時試験 20%																																																																		
学生へのメッセージ	通訳案内士や会議通訳として活躍する人物をお招きする機会をできれば設けます (時期は14回目とは限りません)。授業のなかで紹介する参考文献を読み進めてください。履修予定者は上記の参考書を開講前に読んでおいてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は60時間を目安とする。																																																																		

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この授業は通訳法に通じて様々な訓練を行って通訳能力をつける。 「外国語専門職」プログラムおよび「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。																																																																		
到達目標	様々な通訳が出来るようにする。																																																																		
授業方法と留意点	資料を音読・音声・英字を通じて通訳の訓練を行う。クラス活動ととても重要であります積極的に参加が必要です。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)	日常会話や案内やニュースの通訳出来る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業内容とやり方の説明。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>クイックリスポンス</td><td>日本語 (またははインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>シャドーイング</td><td>インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>リテンション</td><td>記憶を保持する訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>リプロダクション</td><td>辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>パラフレーシング</td><td>聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ノートテイキング&ディクテーション</td><td>リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>小テスト</td><td>第2回目～7回目の授業内容の復習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スラッシュリディング&スピードリディング</td><td>インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>語彙増強</td><td>単語取集訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ブラックボックスリディング</td><td>未知語への対応力強化訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>逐次通訳演習・通訳メモ①</td><td>スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>逐次通訳演習・通訳メモ②</td><td>スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>同時通訳演習</td><td>発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>同時通訳演習</td><td>発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業内容とやり方の説明。	授業内容の確認・復習。	2	クイックリスポンス	日本語 (またははインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。	授業内容の確認・復習。	3	シャドーイング	インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。	授業内容の確認・復習。	4	リテンション	記憶を保持する訓練。	授業内容の確認・復習。	5	リプロダクション	辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。	授業内容の確認・復習。	6	パラフレーシング	聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。	授業内容の確認・復習。	7	ノートテイキング&ディクテーション	リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。	授業内容の確認・復習。	8	小テスト	第2回目～7回目の授業内容の復習。	授業内容の確認・復習。	9	スラッシュリディング&スピードリディング	インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。	授業内容の確認・復習。	10	語彙増強	単語取集訓練。	授業内容の確認・復習。	11	ブラックボックスリディング	未知語への対応力強化訓練。	授業内容の確認・復習。	12	逐次通訳演習・通訳メモ①	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。	13	逐次通訳演習・通訳メモ②	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。	14	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。	15	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業内容とやり方の説明。	授業内容の確認・復習。																																																																
2	クイックリスポンス	日本語 (またははインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。	授業内容の確認・復習。																																																																
3	シャドーイング	インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
4	リテンション	記憶を保持する訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
5	リプロダクション	辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。	授業内容の確認・復習。																																																																
6	パラフレーシング	聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
7	ノートテイキング&ディクテーション	リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。	授業内容の確認・復習。																																																																
8	小テスト	第2回目～7回目の授業内容の復習。	授業内容の確認・復習。																																																																
9	スラッシュリディング&スピードリディング	インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
10	語彙増強	単語取集訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
11	ブラックボックスリディング	未知語への対応力強化訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
12	逐次通訳演習・通訳メモ①	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
13	逐次通訳演習・通訳メモ②	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
14	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
15	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English</td><td>板谷初子</td><td>Cook 2020</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2	通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English	板谷初子	Cook 2020	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2	通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English	板谷初子	Cook 2020																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の訓練 70% 小テスト 30%																																																																		
学生への メッセージ	出来る限り毎日インドネシア語のニュース・歌・画像など聞いて通訳演習してください。																																																																		
担当者の 研究室等	第7号館2階非常勤室																																																																		
備考	事前・事後学習は合計60時間を目安とする。																																																																		

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化、そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。 ※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。																																																																		
到達目標	・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上 ・ビジネスマナーの基本を学ぶ																																																																		
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていく。ディスカッションも取り入れる。授業内で毎回、資料を配布。授業の最後に、小レポートを課し提出。																																																																		
科目学習の効果（資格）	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。ビジネスマナーの基本も身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。</td><td>ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ホスピタリティとは</td><td>「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。</td><td>ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の感情とホスピタリティ</td><td>ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。</td><td>相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>事例研究 1「感動はこうして生まれる」</td><td>ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホスピタリティと文化</td><td>ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。</td><td>文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>産業の変化とホスピタリティ</td><td>サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。</td><td>サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例</td><td>ANAの事例を通してホスピタリティを考える。</td><td>ANAのニュースを読む（4 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>事例研究 2「顧客志向のホテル」</td><td>ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ホスピタリティとチームワーク</td><td>企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。</td><td>チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>コミュニケーションの重要性</td><td>ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。</td><td>自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>事例研究 3「地域に愛されるカフェ」</td><td>地域に溶け込むカフェの秘密を探る。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ホスピタリティマネジメント</td><td>ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。</td><td>新聞経済面を読む。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」</td><td>世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代社会におけるホスピタリティ</td><td>ユニバーサルサービスについて考える。</td><td>ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体のまとめ</td><td>1 5 回分の復習をする（4 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）	2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）	3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）	4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）	6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）	7	ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例	ANAの事例を通してホスピタリティを考える。	ANAのニュースを読む（4 時間）	8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）	10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）	11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。（4 時間）	13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）	14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）	15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする（4 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）																																																																
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）																																																																
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）																																																																
4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）																																																																
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）																																																																
7	ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例	ANAの事例を通してホスピタリティを考える。	ANAのニュースを読む（4 時間）																																																																
8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）																																																																
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）																																																																
11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。（4 時間）																																																																
13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）																																																																
14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする（4 時間）																																																																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度～入学生） エアラインビジネス論 ホテルビジネス論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。																																																																		

	・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化、そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。 ※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。																																																																		
到達目標	・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上 ・ビジネスマナーの基本を学ぶ																																																																		
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていく。ディスカッションも取り入れる。授業内で毎回、資料を配布。授業の最後に、小レポートを課し提出。																																																																		
科目学習の効果（資格）	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。ビジネスマナーの基本も身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。</td><td>ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ホスピタリティとは</td><td>「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。</td><td>ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の感情とホスピタリティ</td><td>ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。</td><td>相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>事例研究 1「感動はこうして生まれる」</td><td>ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホスピタリティと文化</td><td>ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。</td><td>文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>産業の変化とホスピタリティ</td><td>サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。</td><td>サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例</td><td>ANAの事例を通してホスピタリティを考える。</td><td>ANAのニュースを読む（4 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>事例研究 2「顧客志向のホテル」</td><td>ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ホスピタリティとチームワーク</td><td>企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。</td><td>チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>コミュニケーションの重要性</td><td>ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。</td><td>自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>事例研究 3「地域に愛されるカフェ」</td><td>地域に溶け込むカフェの秘密を探る。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ホスピタリティマネジメント</td><td>ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。</td><td>新聞経済面を読む。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」</td><td>世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代社会におけるホスピタリティ</td><td>ユニバーサルサービスについて考える。</td><td>ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体のまとめ</td><td>1 5 回分の復習をする（4 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）	2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）	3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）	4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）	6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）	7	ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例	ANAの事例を通してホスピタリティを考える。	ANAのニュースを読む（4 時間）	8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）	10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）	11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）	12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。（4 時間）	13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）	14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）	15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする（4 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む（4 時間）																																																																
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく（4 時間）																																																																
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。（4 時間）																																																																
4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。（4 時間）																																																																
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。（4 時間）																																																																
7	ANAにおけるホスピタリティ発揮の事例	ANAの事例を通してホスピタリティを考える。	ANAのニュースを読む（4 時間）																																																																
8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。（4 時間）																																																																
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。（4 時間）																																																																
11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する（4 時間）																																																																
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。（4 時間）																																																																
13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。（4 時間）																																																																
14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。（4 時間）																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする（4 時間）																																																																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度～入学生） エアラインビジネス論 ホテルビジネス論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。																																																																		

	・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	本来であれば訪日外国人の増加や、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック、2025年に開かれる大阪関西万博に向け、注目されるホテル産業であったが、今般の新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。ホテル・宿泊業は航空産業と同じく、在庫の出来ないサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業であるが故に、大きな影響を受けているその産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて学習し、将来展望を考察することができる。観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	・ホテル事業の基礎的な事業知識や、その実態について理解する。 ・在庫の出来ないサービス財、固定費比率の高い産業特性を理解し、その課題や将来展望を受講者自身の考えのもと説明できる知識を身につける。 ・様々なホテル経営方式の違いを学習し、チェーンビジネスの特性を理解する。 ・ホテル・宿泊産業に関心を持つ受講生については、この授業で得た知識を契機に業界や企業研究をふかめ、進路選択に積極的に活用することを目指す。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるため関連する動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となってる要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。日頃からホテル関連の報道等に関
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる。 (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
	2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点を説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。

	13	ホテルの組織と仕事（１）宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
	14	ホテルの組織と仕事（２）料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法（基準）	1 0 回以上の出席票をかねたレポート提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験 6 0 %、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢 4 0 %で総合的に評価する。 2 0 分以上の遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とする。 （定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる）			
学生へのメッセージ	新型コロナ終息後の訪日外国人の回復、2025 年大阪関西万博に向け業績の回復が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（塩崎・沖中研究室）			
備考				

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	本来であれば訪日外国人の増加や、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック、2025年に開かれる大阪関西万博に向け、注目されるホテル産業であったが、今般の新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。ホテル・宿泊業は航空産業と同じく、在庫の出来ないサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業であるが故に、大きな影響を受けているその産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて学習し、将来展望を考察することができる。観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	・ホテル事業の基礎的な事業知識や、その実態について理解する。 ・在庫の出来ないサービス財、固定費比率の高い産業特性を理解し、その課題や将来展望を受講者自身の考えのもと説明できる知識を身につける。 ・様々なホテル経営方式の違いを学習し、チェーンビジネスの特性を理解する。 ・ホテル・宿泊産業に関心を持つ受講生については、この授業で得た知識を契機に業界や企業研究をふかめ、進路選択に積極的に活用することを目指す。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるため関連する動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となってる要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。日頃からホテル関連の報道等に関
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる。 (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
	2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点を説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
	12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。

	13	ホテルの組織と仕事（１）宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
	14	ホテルの組織と仕事（２）料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める（2 時間）。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと（2 時間）。
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法（基準）	1 0 回以上の出席票をかねたレポート提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験 6 0 %、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢 4 0 %で総合的に評価する。 2 0 分以上の遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とする。 （定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる）			
学生へのメッセージ	新型コロナ終息後の訪日外国人の回復、2025 年大阪関西万博に向け業績の回復が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（塩崎・沖中研究室）			
備考				

科目名	エアラインビジネス論	科目名 (英文)	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2220a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で空港接客部門、整備管理部門、グランドハンドリング会社や予約販売会社で長年にわたり、人事、総務、経営部門を担った実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 固定費比率が高いが故に今般の新型コロナの影響を大きく受けている航空産業であるが、その辿った歴史、現状を正確に理解し、業界が抱える課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協力体制について、実務経験をとおして講義することにより、航空企業での業務実態を説明する。
到達目標	※この科目は、2015 年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。 航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしりがちな航空会社の公共交通機関としての社会的使命を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業をする。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるための動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次の授業時に解説する。プリントの空欄になっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。受講にあたっては、日ごろから航空業
科目学習の効果 (資格)	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する (特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和とまで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	4	我が国の航空自由化	4 5・4 7 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	6	ハブ&スポーク (自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	7	グローバル・アライアンス (自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社が実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足 (CS) を満たすには、まず従業員満足 (ES) を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理して

	13	機整備		おくこと(2時間)。
		航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
		航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多岐にわたる。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく機内サービスの努力と工夫について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
		航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
関連科目		観光ホスピタリティプログラム科目		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
	2	エアラインオペレーション入門改定新版	ANA 総合研究所	イカロス出版
	3	数字で見る航空(2020)	国土交通省航空局	航空振興財団
評価方法 (基準)	10回以上の出席票をかねたレポートの提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験60%、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢40%で総合的に評価する。 20分以上の遅刻・早退は3回で1回の欠席とする。 (定期試験は幅広い範囲の対応が求められるので、各回配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくひとが重要となる)			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。現在新型コロナの影響を大きく受けている航空産業ですが、終息後には必ずや回復が期待される業界です。 航空業界に関心を持っている学生には興味深い講義ですし、将来の進路と考えている学生諸君には大変参考になると思います。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考				

科目名	エコツーリズム論	科目名 (英文)	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2221a0		

授業概要・目的	エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。 本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。 なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。																																																																		
到達目標	1. エコツーリズムについて理解し、説明できる 2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	旅行業務取扱管理者等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マスツーリズムとエコツーリズム 1</td><td>オルタナティブツーリズムの概念を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>マスツーリズムとエコツーリズム 2</td><td>オルタナティブツーリズムの概念を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>地域の自然とエコツーリズム 1</td><td>地域の自然資源と観光の関係について知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地域の自然とエコツーリズム 2</td><td>地域の自然資源と観光の関係について知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 1</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 2</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 3</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>エコツーリズムを体験する 1</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>エコツーリズムを体験する 2</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>エコツーリズムを体験する 3</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>エコツーリズムを企画する 1</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>エコツーリズムを企画する 2</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>エコツーリズムを企画する 3</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・企画の発表</td><td>企画案を発表し、ディスカッションを行う</td><td>エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	2	マスツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	3	マスツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	4	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	5	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	6	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	7	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	8	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	9	エコツーリズムを体験する 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	10	エコツーリズムを体験する 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	11	エコツーリズムを体験する 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
2	マスツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
3	マスツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
4	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
5	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
6	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
7	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
8	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
9	エコツーリズムを体験する 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
10	エコツーリズムを体験する 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
11	エコツーリズムを体験する 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)																																																																
関連科目	観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の 研究室等	7 号館 5 階（手代木研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。

科目名	イベント企画論	科目名 (英文)	Event Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3222a0		

授業概要・目的	This course will examine tourism events in the leisure industry around the world. An overview of the history, reasons for holding the events, planning and organization of events will provide the focus of the course. ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」および「メディアビジネス」プログラムの対応科目です。
到達目標	Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourism events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event. Students will work collaboratively
授業方法と留意点	Students will research events in Japan. The lecture will then introduce similar events in other countries. The class will be interactive including a mini-lecture, readings on the topic in English, note-taking in English, group discussion, and a content quiz
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Leisure Behaviour and the Event Industry / Note taking / Research on Japanese events	An introduction to the course, This class is very important to attend.	Find out about 1 music festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	2	Iconic Music Events & Planning	Pair share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Research 1 event you would like to attend in Kansai.
	3	Event project plans	Project-based groups made Events decided. This is an important class to attend	Find out about 1 food festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	4	Food Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 religious festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	5	Religion-based Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 political event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	6	Political Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 beer or wine event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	7	Beer and Wine Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 flower event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	8	Flower Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 sporting event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	9	Sporting Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 comedy event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	10	Comedy Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 christmas event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	11	Christmas Market Events & Planning	Group share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Prepare information for your powerpoint presentation to discuss with your group / text in English / video / photos
	12	Event Project group - division of work - English check	Example of 2021 powerpoint presentations shown	Portfolio summaries collected (9 events at least 100 words each event) Event Presentations (1) to send powerpoint files
	13	Event Presentations (1)	Evaluations	Event Presentations (2) to send powerpoint files
	14	Event Presentations (2)	Evaluations	Event Presentations (3) to send powerpoint files
	15	Course summary and review	Discussion and review of the key concepts covered in the course	Overall examination of the information that has been learned during the course

関連科目	「観光ホスピタリティ」や「メディアビジネス」プログラムの他の科目など。
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	Group-based research about an event & Presentation about that event 30% In-lecture quizzes on class content 20% Portfolio of Research about events in Japan (Weekly notetaking and writing assignments for homework) 30% Class attitude - participating,			
学生への メッセージ	Enjoy finding out about events all over the world while using English in a meaningful way.			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階田浦研究室			
備考	事前・事後学習にかかる総時間は 60 時間です。			

科目名	アーバンツーリズム論	科目名 (英文)	Urban Tourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3223a0		

授業概要・目的	現代においてツーリズムは多くの人々が当たり前に行うものとなり、都市社会・都市経済もまた、過去数十年で、ツーリズムへの依存度を高めてきた。その一方で、気候変動や経済格差、パンデミックなどの諸問題が、ツーリズムと都市に大きな変革を迫っている。単に従来の観光業界や観光政策の仕組みを学ぶだけでなく、それらを批判的に見直すことができるような大局的・根本的な理解と思考力が必要な状況となっている。 この授業では、都市とツーリズムがともに持続可能な発展を目指すうえで重要と考えられる様々な基礎的知見について学び、都市とツーリズムの関係についての大局的な理解と批判的思考力を得ることを目的とする。 ※本授業は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。																																																																		
到達目標	現代の諸都市とツーリズムに関する基礎知識、それらが直面する諸問題についての基礎知識を習得し、具体的な対象事例・地域について分析したり、客観的なデータを提示しながら自らの考えを述べることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を聴き、理解度を問う小課題に取り組む。また、関連テーマについて学期末にレポートを作成・提出する。コメントシートやレポートへのフィードバック（提出物へのコメントや質問への回答）は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には、休み時間やオフィスアワー等に教員の研究室、またはメール等にて行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	ツーリズムと社会との関係について、距離を置いて考える視点を身に付けることができるのではないかと考えている。将来、観光にかかわる仕事にしたいという人や、観光に興味がある人にとってはもちろん、一人の都市住民として教養を深めたい人も歓迎する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション: ツーリズムと都市をめぐる諸問題</td><td>授業の進め方や評価について述べる。都市・地域とツーリズムの関係性を捉えるうえで重要な視点を理解する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ツーリズムの発達と変容</td><td>近現代ツーリズムが発達した過程とその条件、ツーリズムの性質の変化などについて学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>現代都市社会・経済のあゆみ（1）</td><td>都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>現代都市社会・経済のあゆみ（2）</td><td>都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代都市社会・経済のあゆみ（3）</td><td>都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ホテル産業の成長</td><td>観光産業を支えるホテルの成長過程や経営行動について検討する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>観光立国とインバウンドツーリズムの盛衰</td><td>日本におけるインバウンドがいかに成長したかについて学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ツーリズムが都市にもたらした諸問題（1）</td><td>ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ツーリズムが都市にもたらした諸問題（2）</td><td>ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>アーバンツーリズムの諸相（1）：DMO について</td><td>地域の観光マネジメントを行う DMO（観光地経営組織）について学ぶ。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>アーバンツーリズムの諸相（2）：伝統と真正性</td><td>アーバンツーリズムにおいて「伝統」が果たす役割や位置づけについて検討する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>アーバンツーリズムの諸相（3）：コンテンツ・ツーリズム</td><td>都市におけるコンテンツ・ツーリズムの展開について検討する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アーバンツーリズムの諸相（4）：ガストロノミー（美食）</td><td>アーバンツーリズムにおいて美食がどのような役割を果たすのかについて検討する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>アーバンツーリズムの諸相（5）：イベント</td><td>アーバンツーリズムとしてのイベントの開催とその効果や意味について検討する。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括：都市とツーリズムの持続的な発展に向けて</td><td>授業のまとめとして、都市とツーリズムの持続的な発展に向けて必要な知見を振り返る。</td><td>授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション: ツーリズムと都市をめぐる諸問題	授業の進め方や評価について述べる。都市・地域とツーリズムの関係性を捉えるうえで重要な視点を理解する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	2	ツーリズムの発達と変容	近現代ツーリズムが発達した過程とその条件、ツーリズムの性質の変化などについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	3	現代都市社会・経済のあゆみ（1）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	4	現代都市社会・経済のあゆみ（2）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	5	現代都市社会・経済のあゆみ（3）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	6	ホテル産業の成長	観光産業を支えるホテルの成長過程や経営行動について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	7	観光立国とインバウンドツーリズムの盛衰	日本におけるインバウンドがいかに成長したかについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	8	ツーリズムが都市にもたらした諸問題（1）	ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	9	ツーリズムが都市にもたらした諸問題（2）	ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	10	アーバンツーリズムの諸相（1）：DMO について	地域の観光マネジメントを行う DMO（観光地経営組織）について学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	11	アーバンツーリズムの諸相（2）：伝統と真正性	アーバンツーリズムにおいて「伝統」が果たす役割や位置づけについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	12	アーバンツーリズムの諸相（3）：コンテンツ・ツーリズム	都市におけるコンテンツ・ツーリズムの展開について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	13	アーバンツーリズムの諸相（4）：ガストロノミー（美食）	アーバンツーリズムにおいて美食がどのような役割を果たすのかについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	14	アーバンツーリズムの諸相（5）：イベント	アーバンツーリズムとしてのイベントの開催とその効果や意味について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）	15	総括：都市とツーリズムの持続的な発展に向けて	授業のまとめとして、都市とツーリズムの持続的な発展に向けて必要な知見を振り返る。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション: ツーリズムと都市をめぐる諸問題	授業の進め方や評価について述べる。都市・地域とツーリズムの関係性を捉えるうえで重要な視点を理解する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
2	ツーリズムの発達と変容	近現代ツーリズムが発達した過程とその条件、ツーリズムの性質の変化などについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
3	現代都市社会・経済のあゆみ（1）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
4	現代都市社会・経済のあゆみ（2）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
5	現代都市社会・経済のあゆみ（3）	都市社会経済が変化し、ツーリズムに親和的な空間へと変貌した過程を学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
6	ホテル産業の成長	観光産業を支えるホテルの成長過程や経営行動について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
7	観光立国とインバウンドツーリズムの盛衰	日本におけるインバウンドがいかに成長したかについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
8	ツーリズムが都市にもたらした諸問題（1）	ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
9	ツーリズムが都市にもたらした諸問題（2）	ツーリズムが都市にもたらした問題と解決への取り組みについて学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
10	アーバンツーリズムの諸相（1）：DMO について	地域の観光マネジメントを行う DMO（観光地経営組織）について学ぶ。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
11	アーバンツーリズムの諸相（2）：伝統と真正性	アーバンツーリズムにおいて「伝統」が果たす役割や位置づけについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
12	アーバンツーリズムの諸相（3）：コンテンツ・ツーリズム	都市におけるコンテンツ・ツーリズムの展開について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
13	アーバンツーリズムの諸相（4）：ガストロノミー（美食）	アーバンツーリズムにおいて美食がどのような役割を果たすのかについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
14	アーバンツーリズムの諸相（5）：イベント	アーバンツーリズムとしてのイベントの開催とその効果や意味について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
15	総括：都市とツーリズムの持続的な発展に向けて	授業のまとめとして、都市とツーリズムの持続的な発展に向けて必要な知見を振り返る。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する（事後学習、2 時間）																																																																
関連科目	「エコツーリズム論」「風土と地理」など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>観光学ガイドブック</td><td>大橋 昭一ほか</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観光学ガイドブック	大橋 昭一ほか	ナカニシヤ出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	観光学ガイドブック	大橋 昭一ほか	ナカニシヤ出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	学期末レポート 70%、小課題への取り組み（理解度の確認、質疑・コメント） 30%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の 研究室等	7号館5階小林特任講師室。 ※用事がある場合には、かならず事前にメールで連絡すること (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	メディア文化論	科目名 (英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2224a0		

授業概要・目的	私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。 なお、この科目は「メディアビジネスプログラム」関連科目です。		
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル (メディア技法) を身につけている		
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。また、授業および事前・事後の学習で教科書に指定されている2冊の本を通読します。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。 シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
	2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーについて学修します。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	3	ネットの炎上から考える情報倫理	SNS などインターネット上でのトラブルがあとを絶ちません。インターネット、SNS を使う以前に基本的な人権が何であるのかを理解し、私たちは何をどこまで行う自由があり、何を行ってはいけないのかということについて基本的な理解をしなければ、私たちは自覚がなくても誰かを傷つける加害者になったり、逆に誰かから傷つけられる被害者になったりする危険性があります。 こうしたトラブルを引き起こしたりそれに巻き込まれたりしないようにするためにはどうしたらよいのか、過去の事例を参考にしながら情報倫理について学修します。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	4	まわしよみ新聞を作る (1)	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作成し、新聞に触れるとともに情報を編集・加工・発信するとはどういうことなのかを学修します。 まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持参しましょう。
	5	まわしよみ新聞を作る (2)	前回の授業で作成したまわしよみ新聞を各編集グループごとに発表し、まわしよみ新聞を作ることに何を行ってきたのか、そこにどのような学びがあったのかを話し合います。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	6	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか? (1)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。 授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。

				授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	7	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (2)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014 年を読んでくること。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	8	中間のふり回り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
	9	映像を撮る——世界を切り取るということ (1)	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
	10	映像を撮る——世界を切り取るということ (2)	受講生が撮影した映像を鑑賞し、映像を撮るということの意味について話合います。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	11	映像を編集する——切り取った世界を加工するというこ	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいもののです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
関連科目		メディアビジネスプログラム科目 (2015 年度入学生)		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題（リフレクションシート）30%、中間レポート 30%、期末レポート 40%で評価します。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館 2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmrimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とします。

科目名	マスコミ論	科目名 (英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2225a0		

授業概要・目的	まだまだ、コロナ禍の影響がありますが、学びの歩みを止めてはいけません。コロナなんかに負けず頑張りましょう。 マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。 ※この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。
到達目標	マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づく、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。課題や発表に対してはそのつどフィードバックを行います。
科目学習の効果 (資格)	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
	2	マスコミって何だろう 1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNS はマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	3	マスコミって何だろう 2	新聞記事を基に 5 W1H を考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	4	マスコミって何だろう 3	ニュース記事を書いてみる 5 W1H を意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
	6	報道を考える 1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	7	報道を考える 2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	8	報道を考える 3	ジャーナリストはなぜ疑い深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
	10	報道と情報 1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	11	報道と情報 2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	12	報道と情報 3	information と intelligenen の違い 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	13	報道と情報 4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
	15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

関連科目	メディアビジネスプログラムの他の科目など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってくだ
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階） 学習支援センター
備考	事前・事後学習にかかる総時間は60時間です。

科目名	メディアリテラシー論	科目名 (英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2226a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
	2	新聞とニュースについて (1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
	3	新聞とニュースについて (2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
	4	新聞とニュースについて (3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
	5	テレビについて (1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
	6	テレビについて (2)	NHK と民放 NHK の受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHK と民放の違いについて考えてみる。 NHK の受信料問題についての各自の考えをまとめる。
	7	テレビについて (3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
	8	メディアと広告	広告・CM の影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビ CM が喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
	9	メディアと (権力)	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての (資本)	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
	10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
	11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
	12	ソーシャルメディアについて (1)	コミュニケーション空間としての SNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
	13	ソーシャルメディアについて (2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
	14	ソーシャルメディアについて (3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が大切について各自の考えをまとめる。
	15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
	2	池上彰に聞くどうなってるの? ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版
	3	信じてはいけない : 民主主義を壊すフェイクニュ	平和博	朝日新聞出版

		ースの正体		
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (有馬研究室)			
備考	事前事後学習 計 60 時間			

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名 (英文)	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2227a0		

授業概要・目的	本講義では、IT の急速な進展を背景として、今後高い成長が見込まれるコンテンツ（クリエイティブ）産業について学ぶ。コンテンツ産業とは、映像、音楽、ゲーム、書籍などのコンテンツの制作や流通に携わる産業の総称であり、近年、これらコンテンツ流通のグローバル化が加速する中で、その潜在力と波及効果の大きさから、我が国の主要な成長分野として強化・育成に取り組まれている。そこで、この講義では、代表的なコンテンツ業界（放送、映画、広告、出版、音楽）の産業構造、市場動向、関連法、ビジネスモデル、コンテンツ制作・流通、イノベーションについて解説する。また後半は、非コンテンツ業界（主にメーカー）によるコンテンツビジネスに向けた取り組みの最新情勢について取り上げる。
到達目標	- 代表的なコンテンツ（クリエイティブ）業界の構造とビジネスモデルを図解できる。 - 日米のコンテンツ産業政策の違いについて説明できる。 - 製造業、サービス業で取り組まれているコンテンツ開発の事例を取り上げ説明できる。 - 日々刻々と変化する国際社会の動向に関心を持ち、複眼的な観点から、客観的に事態を把握しようとする態度を身につける。 - 現代社会の諸問題に向き合う上で必要となる基礎的な知識を習得する。
授業方法と留意点	- 授業は、「講義中心」形式で進める。 - 教材は、配布資料を使用する。 - 教材は、講義開始 1 週間前に WebFolder にアップロードしておく。 - 授業は、以下のように進める予定である。 通常：対面開講（時間配分：解説 70 分、ディスカッション・質疑 20 分） 対面実施が困難な場合：Teams 上でのオンライン開講（同上） - オンライン授業に切り替える場合 連絡方法：WebFolder 上で配布する利用 その他：グループワーク時は Web カメラを On して下さい。 - レポート等については、提出確認
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・コンテンツ（クリエイティブ）ビジネスとは ・本講義で取り上げるコンテンツ（クリエイティブ）産業について	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	2	放送業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・放送法等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	3	放送業界（2）＋レポート	主に以下について取り上げる ・放送業界（1）の続き ・レポート	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	4	映画業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・映画製作等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	5	映画業界（2）＋レポート	主に以下について取り上げる ・映画業界（1）の続き ・レポート	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	6	広告業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・マス広告とインターネット広告 ・ネット広告の仕組み等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	7	広告業界（2）＋ディスカッション	主に以下について取り上げる ・広告業界（1）の続き ・グループディスカッション	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	8	出版業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・関連法 ・電子書籍流通等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	9	出版業界（2）＋レポート	主に以下について取り上げる ・出版業界（1）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。

			・グループディスカッション	復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	10	音楽業界（１）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・関連法 ・音楽 SNS 等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	11	音楽業界（２）＋レポート	主に以下について取り上げる ・音楽業界（１）の続き ・レポート	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	12	製造業界（１）	主に以下について取り上げる ・自動車業界を取り巻く IT 環境 ・日米中の自動車市場 ・MaaS ・スマートカー等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	13	製造業界（２）	主に以下について取り上げる ・時計業界を取り巻く IT 環境 ・時計のイノベーション史 ・スマートウォッチ等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	14	製造業界（３）	主に以下について取り上げる ・飲料食品業界を取り巻く IT 環境 ・飲料食品メーカーによるコンテンツ開発と目的等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
	15	総括	以下を行う ・全体のまとめ ・テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)	
関連科目	メディア戦略論（経営学部 3 回生担当科目）				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	配布資料			
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	初回講義にて指定			
	2				
	3				
評価方法（基準）	テスト（60%）、レポート（40%）で評価する。 講義中の質疑内容についても加点する場合もあり。				
学生へのメッセージ	ウィルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想がつきませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。				
担当者の研究室等	11 号館 7 階（針尾教授室）				
備考	講義で取り扱う業界と実施回については、受講生の関心や情勢にあわせて変更する場合があります。				

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名 (英文)	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3228a0		

授業概要・目的	この科目は「メディアビジネス」プログラム対応科目です。 商品のパッケージや広告、企業や行政によるポスター、SNS 上のプロモーションなど、わたしたちの身の回りにはビジュアルデザインが溢れています。これらの視覚情報は、見る者に対して直接的かつ簡潔にメッセージを伝えると同時に、巧みなイメージ操作によって人々の価値観にはたらきかけもします。ビジュアルデザインとは、真実や虚構、政治や欲望のないまぜになった複雑な領域なのです。この授業では、ビジュアルデザイン（視覚情報）を読み解くための理論と、おもに近代以降の視覚文化の諸相とその背景にある思想を学ぶことを通して、視覚情報を批判的に見るための知識と姿勢を身につけます。
到達目標	ビジュアルデザインをはじめとする作画的な視覚情報を批判的に見る力を養うとともに、視覚情報を言葉で説明できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	基本的には講義形式ですが積極的な参加を求めます。履修人数によっては、短い口頭発表等の機会を設けます。 フィードバックはその都度行います。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の概要と進め方について、ビジュアルデザインとは何か	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	2	ビジュアルデザインの構成と読解	イメージの原則 (1)	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	3	ビジュアルデザインの構成と読解	イメージの原則 (2)	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	4	ビジュアルデザインの構成と読解	記号学とロラン・バルトの広告論	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	5	ビジュアルデザインの構成と読解	アートと広告	事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
	6	写真とデザイン	写真前史と写真の誕生	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	7	写真とデザイン	初期写真と絵画の関係	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	8	写真とデザイン	写真の芸術性と真実性	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	9	写真とデザイン	芸術写真と報道写真	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
	10	情報とデザイン	インフォグラフィックスの歴史と手法 (1)	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	11	情報とデザイン	インフォグラフィックスの歴史と手法 (2)	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
	12	自己／他者とデザイン	肖像画とイメージの起源	事前：Teams から資料をダウンロードする。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料に

				アクセスする。(90 分) 事前: Moodle から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後: 授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)																
	13	自己／他者とデザイン	女性のセルフ・ポートレート	最事前: Teams から資料をダウンロードする。(30 分) 事後: 授業の内容を復習し、アンケートに答える。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分) 事前: Moodle から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後: 授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)																
	14	自己／他者とデザイン	人間の身体とデザイン	事前: Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後: 授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)																
	15	総括	授業内容の振り返りと補足、小レポートへのフィードバック	事前: Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後: 授業の内容を復習し、コメントシートを提出する。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。自身の小レポートを見直す。(200 分)																
関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>イメージと意味の本 記号を読み解くトレーニングブック</td><td>ショーン・ホール著、前田茂訳</td><td>フィルムアート社</td></tr><tr><td>2</td><td>絵には何が描かれているのか 絵本から学ぶイメージとデザインの基本原則</td><td>モリー・バング著、細谷由依子訳</td><td>フィルムアート社</td></tr><tr><td>3</td><td>インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史</td><td>永原康史著</td><td>誠文堂新光社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イメージと意味の本 記号を読み解くトレーニングブック	ショーン・ホール著、前田茂訳	フィルムアート社	2	絵には何が描かれているのか 絵本から学ぶイメージとデザインの基本原則	モリー・バング著、細谷由依子訳	フィルムアート社	3	インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史	永原康史著	誠文堂新光社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	イメージと意味の本 記号を読み解くトレーニングブック	ショーン・ホール著、前田茂訳	フィルムアート社																	
2	絵には何が描かれているのか 絵本から学ぶイメージとデザインの基本原則	モリー・バング著、細谷由依子訳	フィルムアート社																	
3	インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史	永原康史著	誠文堂新光社																	
評価方法 (基準)	毎回、コメントシートによって理解度を測ります。また、各テーマの最後に小レポートを課します。成績評価の内訳は、コメントシート 30%、小レポート 70%です。なお、出席回数が全体の 3 分の 2 (10 回) 以上の者を成績評価の対象とします。																			
学生への メッセージ																				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																			
備考																				

科目名	地域環境論	科目名 (英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2229a0		

授業概要・目的	環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身に付け、多角的な視野を獲得することを目指します。 この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。 SDGs-13																																																																		
到達目標	1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境を学ぶための基礎知識 1</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>環境を学ぶための基礎知識 2</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>環境を学ぶための基礎知識 3</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>環境を学ぶための基礎知識 4</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>環境と自然災害 1</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>環境と自然災害 2</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>環境と自然災害 3</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>環境と自然災害 4</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>地球環境問題 1</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>地球環境問題 2</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地球環境問題 3</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>身近な地域の環境 1</td><td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>身近な地域の環境 2</td><td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>身近な地域の環境 3・授業のまとめ</td><td>全体のまとめ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	2	環境を学ぶための基礎知識 1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	3	環境を学ぶための基礎知識 2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	4	環境を学ぶための基礎知識 3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	5	環境を学ぶための基礎知識 4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	6	環境と自然災害 1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	7	環境と自然災害 2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	8	環境と自然災害 3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	9	環境と自然災害 4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	10	地球環境問題 1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	11	地球環境問題 2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	12	地球環境問題 3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	13	身近な地域の環境 1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	14	身近な地域の環境 2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	15	身近な地域の環境 3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
2	環境を学ぶための基礎知識 1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
3	環境を学ぶための基礎知識 2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
4	環境を学ぶための基礎知識 3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
5	環境を学ぶための基礎知識 4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
6	環境と自然災害 1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
7	環境と自然災害 2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
8	環境と自然災害 3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
9	環境と自然災害 4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
10	地球環境問題 1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
11	地球環境問題 2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
12	地球環境問題 3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
13	身近な地域の環境 1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
14	身近な地域の環境 2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
15	身近な地域の環境 3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
関連科目	国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階（手代木研究室）																																																																		
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。																																																																		

科目名	暮らしの中の文化	科目名 (英文)	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2230a0		

授業概要・目的	【いかにイメージは「当たり前」を決めるのか】 西洋における「生活と芸術」の関係を考察する。ルネサンスの芸術というと「高級」な絵画や彫刻という印象が強く、意味が「難解」で理解しづらいと考える人は多い。しかし実際には多くの表現が、市井の人びとが日々生活していく時間に寄り添い、ときには人びとを厳しくしつけ、またあるときは人びとを癒やすように作用した。芸術作品と文字資料を対比することで浮かび上がるのは、かつて遠い異国の地に暮らした人びとが成長とともに向かい合った困難の記録である。その記録は、現代を生きるわたしたちが抱える困難の隠された側面に光を当て、それらと真摯に向かい合うヒントにもなるだろう。 ※ この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。																																																										
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 幼少期に触れる視覚イメージはいかに本人の成長と結びつくのか 2. 親子関係を表わす視覚イメージはいかに家族のかたちを整えていくのか 3. 結婚に関わる視覚イメージはいかに社会の制度を変えていくのか																																																										
授業方法と留意点	【講義に出席して、質問を考える】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習を進める。																																																										
科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>家族</td><td>「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>対象</td><td>「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>母親</td><td>「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>乳母</td><td>「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>男児</td><td>「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>女兒</td><td>「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親子</td><td>「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>結婚</td><td>「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>両家</td><td>「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>夫婦</td><td>「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>老年</td><td>「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展</td><td>事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60 分)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	2	家族	「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	3	対象	「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	4	母親	「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	5	乳母	「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	6	男児	「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	7	女兒	「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	8	親子	「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	9	結婚	「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	10	両家	「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	11	夫婦	「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	12	老年	「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60 分)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																								
1	導入	授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
2	家族	「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
3	対象	「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
4	母親	「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
5	乳母	「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
6	男児	「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
7	女兒	「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
8	親子	「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
9	結婚	「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
10	両家	「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
11	夫婦	「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
12	老年	「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																								
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60 分)。																																																								

			示については講義のなかで指示する。	事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する（60分）。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。
	15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への回答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。 事後：自分の家族観を構成したと思われる視覚イメージを振り返りつつ、あらためて当該イメージを再鑑賞する（240分）。
関連科目	芸能文化論／芸術論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	もうひとつのルネサンス	岡田温司	平凡社ライブラリー
	2	家族論	レオン・パッティスタ・アルベルティ	講談社
	3	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社
評価方法 (基準)	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室			
備考	【自分の質問に自分で応答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に回答を試みる。			

科目名	グローバル社会と日本	科目名 (英文)	Japan and Globalization
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3231a0		

授業概要・目的	この授業では、グローバル社会と日本が、初めて本当の意味でつながった時代のことを講義します。つまり、「歴史」と言う視点から見たグローバル社会と日本です。なお歴史を学ぶとは、単に過去を暗記することではなく、現在を知り未来を見通す知恵を磨くことです。必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。未知なもの（ふつう「異常」に見える）を否定したくなる感情に、理性でブレーキをかけ、自分を変えていくことです。よく学ぶことによって、単位だけではなく、単位以上のものを手に入れてほしいと思います。
到達目標	グローバル社会と日本の本格的な出会いを説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。
授業方法と留意点	教科書は使わず、プリントを使って授業する。課題（レスポンス・ペーパーとレポート）の提出はオンラインで行う。試験（学期末テスト）は対面で行うが、対面が不可能になったときはレポート（オンライン提出）に代える。 レスポンス・ペーパーのフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会と日本の本格的な出会いを説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／手で食べる文化は劣っている？／知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	2	歴史を学ぶにあたって	恋愛結婚が主流になったのは最近 200 年間のこと／赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常／女性にとっての出産と男性にとっての戦争	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	3	歴史を学ぶにあたって	さらに社会的圧力（嘲笑や非難）がかかる／親心が「なかった」のではなく「形が違っていった」／就活や通勤がない日常	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	4	歴史を学ぶにあたって	「優しい父母」というだけでは務まらなかった／家庭が職場だから結婚は仕事／恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	5	歴史を学ぶにあたって	童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難／構造的に生み出される男尊女卑の状況／それでも、一言で片づけられる人生などない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	6	歴史を学ぶにあたって	27 世紀の学生が 21 世紀の歴史を学んだら...／具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題／古来のマジカルナンバー 3	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	7	それは 16 世紀に	「三国」という日本古来の世界観／ヨーロッパ古来の世界観にも共通点が／互いに来るでファンタジーな異世界を想像していた	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	8	それは 16 世紀に	世界はグローブ（球）であることが証明された／西の果てが東の果てと出会う／ヨーロッパは「豊か」で「進んで」いた？	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	9	それは 16 世紀に	乱暴で強欲な日本人と言うアジアでのイメージ／礼儀正しく清貧な日本人というヨーロッパでのイメージ／鉄砲伝来とキリスト教伝来からグローバル社会との出会いが見えてくる	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	10	鉄砲と出会い	西洋の技術？／火薬と火器のはるかなる旅／ほとんど地球を一周するようにして日本へ	プリントの読み返しと先読み
	11	鉄砲と出会い	仲立ちしたのは中国人の海賊王／「倭寇」（日本人海賊）と呼ばれてはいたけれど／主人公はアジアの海	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	12	鉄砲と出会い	ヨーロッパと比べて遅れていたわけではない／もともと日本武士は飛び道具が大好き／中国に比べると遅れていたけれど	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	13	キリスト後と出会い	ザビエルをアシストした日本人がいた／ある意味、外国語学部生の大先輩／やはりここでもアジアの海が	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	14	キリスト後と出会い	ザビエルはインドや東南アジアでも布教していた／ファッションでアピールする布教戦略／当時の日本人は派手で大胆な服装が好きだった	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	15	都市を窓にヨーロッパ史を見る	自由な時代は過酷な時代でもある／宗教組織が社会的弱者の拠り所だった／17 世紀のいわゆる「鎖国」とは	プリントの読み返し／レスポンス・ペーパー
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	成績 (100%) は以下 3 種類の課題、テスト (40%)、レポート (30%)、レスポンス・ペーパー (30%) で評価する。テストは論述 1 問で持ち込み可。レポートについては「レポートの手引き」(つまりマニュアル) を配布する。レスポンス・ペーパーは (レポートも同様だが) オンライン提出。				
学生への メッセージ	毎回の授業後にレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。が、強制ではありません。つまりこのレスポンス・ペーパーを、「毎回だるい課題を押しつけられるピンチだ」と捉えて嫌そうな顔をするか、「毎回こつこつ点数を取れるチャンスだ」と捉えて目を輝かせるか、すべてはあなた次第。大学の授業と言うのは、良くも悪くも「大人の学び」、自分次第なものだ(「自由」とも「自己責任」とも言える)と思います。				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)				
備考	事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。				

科目名	共同体論	科目名 (英文)	Theory of Community
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3232a0		

授業概要・目的	この授業では様々な共同体のあり方を検討するために、ハプスブルク家の支配地域を題材とする。中世後期から第一次世界大戦までに多様な地域を支配したハプスブルク家の所領は、現在では、オーストリア、ハンガリー、スペイン、ベルギー、チェコ、スロヴァキアなどに相当し、言語、文化、法など様々な地域を内包している。このハプスブルクの歴史を通して、中世都市内の共同体、近世の政治的共同体と宗派による共同体、近代国家における少数民族のための共同体、さらにヨーロッパ連合など多様な共同体のあり方や、共同体間の繋がり、そして共同体とそこに属する人との関係を検討する。共同体の多様性と、そこに属することはどういうことなのかを見ていくことで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につける。
到達目標	共同体を、個人や地域・国家とのかかわり、さらにトランスナショナルなかかわりの中で多層的にとらえる視点を身につける。また、さまざまな共同体の仕組みを説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いて授業を行い、資料を配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	グローバル社会のなかで共同体 (コミュニティ) がもつ意味について広く学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	共同体 (コミュニティ) についての考察	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ意味」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事柄を列挙して くる。ハプスブルクと聞いて思いつくものを確認する。
	2	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家の歴史の概要	ハプスブルク家の人物について調べる。
	3	ハプスブルク家の拡大	・ハプスブルク家の支配領域の拡大 ・地域の自立性と国家的統合 ・国家間の紐帯	神聖ローマ皇帝カール 5 世について調べてくる。地図で所領を確認する。
	4	近世前半のオーストリア (宗派対立)	・ヨーロッパの宗派対立 ・オーストリアでの宗派争い	カトリックとプロテスタントの違いについて調べてくる。
	5	近世前半のネーデルラント (統一と分離)	・都市・領邦の自治とネーデルラントの統一 ・ネーデルラントの反乱と南北分離	オランダ独立戦争について調べてくる。カルヴァン派とイエズス会について調べてくる。
	6	近世前半のスペイン	・スペインにおける集権化 ・異端審問	フェリペ 2 世について調べてくる。スペインにおけるユダヤ人とイスラームについて確認する。
	7	近世後半の概要と啓蒙について	・17 世紀初めにおける所領の変化 ・近世の社団と啓蒙思想	これまでの授業のポイントを整理する。啓蒙という言葉について調べてくる。
	8	マリア・テレジア (1)	・マリア・テレジアの即位 ・マリア・テレジアの啓蒙に対する態度	オーストリア継承戦争とマリア・テレジアについて調べてくる。
	9	マリア・テレジア (2)	・マリア・テレジアの啓蒙改革 ・農村や教育への国家介入	啓蒙改革の一つの「脱宗教化」について、この時代宗教の影響が強かったと思われるものを書きだす。
	10	ヨーゼフ 2 世 (1)	・ヨーゼフ 2 世の改革 ・集権化と地方自治 ・自由と保護	ヨーゼフ 2 世について調べてくる。
	11	ヨーゼフ 2 世 (2)	・ヨーゼフ 2 世の改革 ・民族運動	ハンガリーの歴史について調べてくる。
	12	アウスグライヒ (1)	・フランツ・ヨーゼフの改革 ・オーストリアとハンガリー	フランツ・ヨーゼフについて調べてくる。民族の定義について考える。
	13	アウスグライヒ (2)	・多民族国家における試み	・サラエボ事件について調べてくる。
	14	ポスト・ハプスブルク	・現代社会における公用語の問題 ・国家におけるマイノリティ	・チェコとスロヴァキアの歴史について調べる。
	15	総括	・ハプスブルク家の支配のまとめと共同体について	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	社会文化史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂
	2	ハプスブルクの実験	大津留厚	春風社
	3			

評価方法 (基準)	授業中に課す課題 (20%)、期末テスト (80%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	ハプスブルク家はヨーロッパにおいて広大な領域を支配しました。その領域は、バラバラの文化や政治体制があり、最終的にはそうした伝統が維持され、今では様々な国ができています。そうしたできた国では、連邦制であったり、公用語が複数あったりと、さらに国内の地域に高い自立性が認められているケースが多いです。こうした多様性があり、多層な共同体がくっついたり、離れたりすることはどういうことなのかを、ハプスブルク家の歴史を通して考えていきます。
-----------	--

担当者の研究室等	初回の授業でお知らせする。
----------	---------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。
----	----------------------------

科目名	多文化共生論	科目名 (英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3233a0		

授業概要・目的	人類は共同生活をおくる集団の中で進化してきたといわれます。しかしながら、他の人と共に生きることは必ずしも容易ではなく、しばしば苦痛をとまいます。共生することはどうして難しいのでしょうか。その困難を克服する道はないのでしょうか。 この授業では、主に「暴力」をキーワードに、生物人類学や社会学をはじめ、さまざまな研究成果を学びつつ、人と人が共生することの難しさを考えます。また、現代社会において残存する暴力の具体的事例について向き合い、克服に向けて努力する方法を考えます。 ※本授業は、「国際教養」プログラム対応科目である。																																																																		
到達目標	・生物人類学や社会学における暴力の説明方法について理解し、自分なりに説明できる。 ・学んだ知識を具体的事例の解釈に応用することができる。 ・既往の科学的成果について批判的に考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を聴いて既往研究の知見を理解し、小テスト（理解度チェック）や小課題を通じて応用力と批判的思考を養います。また、学期末に関連テーマのレポートを提出してもらいます。 ・コメントシートやレポートへのフィードバック（提出物へのコメントや質問への回答）は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	この授業により、共生、暴力、理性、制度といった抽象的な概念について議論するための、一つのフレームワークを習得することができると考えます。 もちろんこの授業で紹介する考えは万能ではなく、欠陥さえもあるはずですが、しかし、今後の人生の中でこれを自分なりに磨き上げたり、場合によっては別のものと取り換えたりしながら、自分なりの「共生」観を育んでゆくためのきっかけとなるでしょう。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション: 多文化共生へのアプローチ</td><td>多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界の真理を求めて: 近代啓蒙主義</td><td>近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文化は客観的に記述できない?: 啓蒙主義批判</td><td>啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>自然主義的アプローチの紹介</td><td>自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>人類の進化史（1）</td><td>人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>人類の進化史（2）</td><td>人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>暴力の進化的起源（1）</td><td>ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>暴力の進化的起源（2）</td><td>ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>道徳の進化的起源</td><td>道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>理性の効力</td><td>理性が暴力の減少にいかに関与したかについて考える。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>信頼と安心: 制度の持つ力</td><td>信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>いじめの構造</td><td>いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本の女性差別</td><td>女性差別が温存される要因について検討する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>家族の地域的多様性と文化接触</td><td>家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括: 共生に向けて</td><td>授業の振り返りと総括を行う。</td><td>講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション: 多文化共生へのアプローチ	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	2	世界の真理を求めて: 近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	3	文化は客観的に記述できない?: 啓蒙主義批判	啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	4	自然主義的アプローチの紹介	自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	5	人類の進化史（1）	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	6	人類の進化史（2）	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	7	暴力の進化的起源（1）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	8	暴力の進化的起源（2）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	9	道徳の進化的起源	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	10	理性の効力	理性が暴力の減少にいかに関与したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	11	信頼と安心: 制度の持つ力	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	12	いじめの構造	いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	13	日本の女性差別	女性差別が温存される要因について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	14	家族の地域的多様性と文化接触	家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。	15	総括: 共生に向けて	授業の振り返りと総括を行う。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション: 多文化共生へのアプローチ	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
2	世界の真理を求めて: 近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
3	文化は客観的に記述できない?: 啓蒙主義批判	啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
4	自然主義的アプローチの紹介	自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
5	人類の進化史（1）	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
6	人類の進化史（2）	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
7	暴力の進化的起源（1）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
8	暴力の進化的起源（2）	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
9	道徳の進化的起源	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
10	理性の効力	理性が暴力の減少にいかに関与したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
11	信頼と安心: 制度の持つ力	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
12	いじめの構造	いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
13	日本の女性差別	女性差別が温存される要因について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
14	家族の地域的多様性と文化接触	家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
15	総括: 共生に向けて	授業の振り返りと総括を行う。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する（事後学習）。																																																																
関連科目	「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暴力の人類史 上・下</td><td>ピンカー、S.</td><td>青土社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界の多様性: 家族構造と近代性</td><td>トッド、E.</td><td>藤原書店</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暴力の人類史 上・下	ピンカー、S.	青土社	2	世界の多様性: 家族構造と近代性	トッド、E.	藤原書店	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暴力の人類史 上・下	ピンカー、S.	青土社																																																																
2	世界の多様性: 家族構造と近代性	トッド、E.	藤原書店																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	最終レポート 70%、授業への取り組み（課題、理解度チェック、コメント・質疑） 30%																																																																		

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林特任講師室。 ※用事がある場合には、事前に必ずメールで伝えること (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)
備考	・事前・事後学習は 60 時間を目安とする。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year SeminarⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵, フーバー トッド, 森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																																																																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																																																																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	このゼミでは、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住だけでなく、観光、アウトドア、映画、怪異、宗教、あるいは仕事などを、その日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいきます。
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。
授業方法と留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術書の購読のほか、博物館見学やかんたんなフィールドワークなどを行う。博物館見学やフィールドワークについては、所定の授業日とは異なる日程で振り替えて実施する。課題等のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ゼミの流れについて概観する。あわせて「草の根の視点 (grass-roots perspective)」、「フィールドワーク (fieldwork)」、「参与観察 (participate observation)」など、本ゼミの基礎となる学術的な概念を学ぶ。文献購読に関する各回の担当を決める。	事前に、自分が関心をもつテーマについて、400 字程度でまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な概念を活かして再度自分が関心をもつテーマについて考えてみる。
2	博物館見学 (1)	国立民族学博物館に訪問し、常設展示を主たる対象として、人々の生活にかかわる物質文化・精神文化を学ぶ。	事前に、物質文化に関する自分の関心をまとめる。 事後に、小レポートを作成・提出する。
3	博物館見学 (2)	国立民族学博物館に訪問し、常設展示を主たる対象として、人々の生活にかかわる物質文化・精神文化を学ぶ。	事前に、物質文化に関する自分の関心をまとめる。 事後に、小レポートを作成・提出する。
4	物質文化に関するディスカッション	博物館見学におけるきづきや発見をそれぞれ発表し、ディスカッションする。ディスカッションの内容から発展的に学術的な概念や視座を学ぶ。	事前に、見学時のメモを整理する。 事後に、学習内容を復習する。
5	文献購読 (1)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
6	文献購読 (2)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
7	文献購読 (3)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
8	文献購読 (4)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
9	文献購読 (5)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
10	都市の伝統文化をフィールドワーク (事前学習)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施するための、基礎的な手法や知識を学習する。	事前に、教科書の該当箇所を読む。 事後に、学習内容を復習する。
11	都市の伝統文化をフィールドワーク (1)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、対象とする都市についての概要を調べる。 事後に、フィールドワークで得られた知識や気づきについて整理する。
12	都市の伝統文化をフィールドワーク (2)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、フィールドワークで得られた知識や気づきに関する追加的な情報を調べる。 事後に、フィールドワークで得られたさらなる知識や気づきについて整理する。
13	都市の伝統文化をフィールドワーク (3)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、フィールドワークで得られた知事前に、フィールドワークで得られた知識や気づきに関する追加的な情報を調べる。 事後に、フィールドワークで得られたさらなる知識や気づきについて整理し、小レポートを提出する。
14	フィールドワークに関するディスカッション	フィールドワークにおいて得られた気づきについて、具体的な事例とともにディスカッションする。各受講生はそれぞれのテーマについて再検討する。	事前に、フィールドワークで得られた気づきや具体的な事例を整理する。 事後に、自分が関心をもつテーマについて発展的に考えてみる。
15	振り返り学習	前期の取組で得られた内容を振り返り学習する。後期に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、設定したテーマに関連する文献を検索し一覧表とする。

関連科目	文化演習 II		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	7 袋のポテトチップス：食べるを語る、胃袋の戦後史	湯澤規子 昌文社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出 70%、平常点 30% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」には、博物館見学やフィールドワークへの主体的な参加などを含みます。			
学生への メッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階金子研究室			
備考	フィールドワーク（1 日）をどこで行うかについては、受講生を交えて検討する。 事前事後学習時間の目安は計 6 0 時間。			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	ことばを使って何かを伝えたい、あるいは何かをしたいとき、我々はその目的にあった表現を使う。しかも興味深いのは同じ話者であっても、場面によってことばの使い方も表現も様ではなく、実に多様な「表情」を見せる。例えば相手と微笑みを交わすとき、そこで交わされることばもまた微笑ましい表情を見せると言えるだろう。ことばが担うこうした役割のことを「機能」という。本ゼミでは、この「機能」をキーワードとして、様々な角度からことばの多様性に迫ってみたい。 3 年次は、前後期をとおして 3 つの活動を柱として授業を行う。ひとつは教科書の精読である。毎回担当を決め、学生のプレゼンテーションと、その内容に関するディスカッションを中心にすすめる。2 つ目は研究に必要なスキルを身に着け、実践できるようにする。3 つ目は、学術的な文章の作成法を学ぶ。 本授業の取り組みを通じて学んだことは、4 年時の卒業研究につなげることになる。本授業の目的は、このゼミでの学びをとおして自分の関心事を見つめなおし、4 年時に進級するときには自ら研究テーマを決め、卒業研究に主体的に取り組むための基礎力を養うことである。																																																																		
到達目標	1. 言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 2. 日本語や英語における多様なテキストを機能的に分析することができる。 3. 言語に関する身近な例に関心を持ち、そこに畳み込まれたことばの意味・機能について分析的に読み取ることができる。 4. 教科書で扱われる主要な概念や用語について理解し、それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回担当を決め、教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し、それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため、積極的に参加することが求められる。課題等のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (外国語), TOEIC 等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。</td><td>教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語の分析とは①</td><td>ことばはいくつかのレベルから分析することが可能であることを見る。</td><td>音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>言語の分析とは②</td><td>個々の分析レベルから分かること、説明できることは何であるかを考える。</td><td>それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>リサーチスキル①</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。</td><td>自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>リサーチスキル②</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。</td><td>自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>作文技法①</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。</td><td>ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>作文技法②</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。</td><td>ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー①</td><td>文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。</td><td>単位は「まとまり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つければよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー②</td><td>文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。</td><td>自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>リサーチスキル③</td><td>9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。</td><td>図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等のリストをつくる。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>リサーチスキル④</td><td>9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。</td><td>図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等を読んでみる。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>作文技法③</td><td>9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、本文での言及・引用の仕方を学ぶ。</td><td>研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>作文技法④</td><td>9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、参考文献リストの書き方を学ぶ。</td><td>研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ワークショップ</td><td>これまでにこの授業で学んだ内容を総合し、主要なトピックについて議論する。</td><td>議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめテスト</td><td>これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。</td><td>これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。	教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)	2	言語の分析とは①	ことばはいくつかのレベルから分析することが可能であることを見る。	音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)	3	言語の分析とは②	個々の分析レベルから分かること、説明できることは何であるかを考える。	それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)	4	リサーチスキル①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)	5	リサーチスキル②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)	6	作文技法①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。	ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)	7	作文技法②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。	ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)	8	言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー①	文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。	単位は「まとまり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つければよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)	9	言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー②	文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。	自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)	10	リサーチスキル③	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。	図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等のリストをつくる。(2 時間)	11	リサーチスキル④	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。	図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等を読んでみる。(2 時間)	12	作文技法③	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、本文での言及・引用の仕方を学ぶ。	研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)	13	作文技法④	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、参考文献リストの書き方を学ぶ。	研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)	14	ワークショップ	これまでにこの授業で学んだ内容を総合し、主要なトピックについて議論する。	議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)	15	まとめテスト	これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。	これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。	教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)																																																																
2	言語の分析とは①	ことばはいくつかのレベルから分析することが可能であることを見る。	音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)																																																																
3	言語の分析とは②	個々の分析レベルから分かること、説明できることは何であるかを考える。	それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)																																																																
4	リサーチスキル①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)																																																																
5	リサーチスキル②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて議論を深めるためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。(2 時間)																																																																
6	作文技法①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。	ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)																																																																
7	作文技法②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて自分なりに議論を深め、文章にまとめる。	ことばの分析に必要な単位とは何か、これまでに英語や国語で学んだ知識を元に考えておく。(2 時間)																																																																
8	言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー①	文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。	単位は「まとまり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つければよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)																																																																
9	言葉はどのように使われるのかー談話の構造を考えるー②	文を超えた単位の仕組みについて学ぶ。	自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)																																																																
10	リサーチスキル③	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。	図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等のリストをつくる。(2 時間)																																																																
11	リサーチスキル④	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、先行研究の見方を学ぶ。	図書館で文献を検索し、関連する書籍や学術誌等を読んでみる。(2 時間)																																																																
12	作文技法③	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、本文での言及・引用の仕方を学ぶ。	研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)																																																																
13	作文技法④	9 回目、10 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて関連する文献を収集し、参考文献リストの書き方を学ぶ。	研究における不正行為にはどのようなものがあるか調べておく。(2 時間)																																																																
14	ワークショップ	これまでにこの授業で学んだ内容を総合し、主要なトピックについて議論する。	議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)																																																																
15	まとめテスト	これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。	これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)																																																																
関連科目	英語学, 言語学, 英語意味論・語用論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ</td><td>南雅彦</td><td>くろしお出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ	南雅彦	くろしお出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ	南雅彦	くろしお出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に指示・配布する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミ発表, 準備資料, 課題・提出物等 (60%) まとめテスト (40%)			
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに, 問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして, 授業では分からないことを分からないままにせず, 納得できるまでとことん調べ, 話し合うことが重要である。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 船本研究室			
備考	事前事後学修時間数の目安は 6 0 時間。			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies SeminarⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文化・歴史・国際関係など多様な視点から「コリア」（韓国・朝鮮・海外コリアンなど）を研究する。共同研究を通して対象を深く分析・考察していく。 本授業のメンバー（ゼミ生）全員で一つの研究課題に取り組む。3年生の1年間をかけて長期的計画を立てて進める。「文化演習Ⅰ」では、研究課題の設定と先行研究のリサーチなどを重点的に行うが、進捗度合いによってフィールドワークなども行う。・チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。なお、この共同研究を通して、個人研究に必要な基礎力（卒業研究のための基礎力）も養成する。先行研究のリサーチ方法、資料・データの収集と分析の方法論、論理構成力および文章表現力を授業を通して身につける。																																																																		
到達目標	1) 研究計画書（Research Proposal）が書けるようになる。 2) 先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 3) 研究課題について、チームで作業し、討論し、考察を深めていくことができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	1) 本授業は「共同研究」が柱となるが、チームプレーを通して個人の能力を伸ばすことにも配慮している。 2) ゲストスピーカーの招請やフィールドワーク、他大学との合同ゼミでの発表などの機会を盛り込みながら進める。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>1)ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。</td><td>4月～5月上旬 ・議論を積み重ねて研究テーマを決める。 ・基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有化を図る。 5月中旬～6月中旬 ・研究遂行のための役割を決める。 ・先行研究のリサーチ、資料の収集と分析の方法論を学ぶ。 ・研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを繰り返す。 6月中旬～7月 ・具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。 ・研究のための基礎的なスキル（論理の構成、文章作成力など）を養成する。</td><td>①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	1)ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。	4月～5月上旬 ・議論を積み重ねて研究テーマを決める。 ・基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有化を図る。 5月中旬～6月中旬 ・研究遂行のための役割を決める。 ・先行研究のリサーチ、資料の収集と分析の方法論を学ぶ。 ・研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを繰り返す。 6月中旬～7月 ・具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。 ・研究のための基礎的なスキル（論理の構成、文章作成力など）を養成する。	①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	1)ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。	4月～5月上旬 ・議論を積み重ねて研究テーマを決める。 ・基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有化を図る。 5月中旬～6月中旬 ・研究遂行のための役割を決める。 ・先行研究のリサーチ、資料の収集と分析の方法論を学ぶ。 ・研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを繰り返す。 6月中旬～7月 ・具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。 ・研究のための基礎的なスキル（論理の構成、文章作成力など）を養成する。	①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	文化演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>現代韓国を知るための60章【第2版】</td><td>石坂浩一・福島みのり編</td><td>明石書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>新版 北朝鮮入門</td><td>磯崎敦仁・澤田克己</td><td>東洋経済新報社</td></tr> <tr><td>3</td><td>新版 論文の教室 レポートから卒論まで</td><td>戸田山和久</td><td>NHK出版</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代韓国を知るための60章【第2版】	石坂浩一・福島みのり編	明石書店	2	新版 北朝鮮入門	磯崎敦仁・澤田克己	東洋経済新報社	3	新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代韓国を知るための60章【第2版】	石坂浩一・福島みのり編	明石書店																																																																
2	新版 北朝鮮入門	磯崎敦仁・澤田克己	東洋経済新報社																																																																
3	新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK出版																																																																
評価方法（基準）	共同研究への参加度：50% 発表および小レポート：50%																																																																		
学生へのメッセージ	・教員（森）は指導役を務めるが、研究を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。 ・授業は対面とする。ただし、受講生と教員のやりとり、レジュメや資料の保存・共有などのために Teams も使用する。Teams への登録をすること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 森研究室																																																																		
備考	・予習復習の総学修時間数は60時間とする。																																																																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	このゼミでは、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住だけでなく、観光、アウトドア、映画、怪異、音楽、宗教、コスプレ、ゲーム、美容、あるいは仕事などを、その日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいきます。																																																																		
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術論文の購読、博物館の特別展見学のほか、各受講生のテーマにそった個人発表を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。</td><td>事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>論文購読（1）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>論文購読（2）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>論文購読（3）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>論文購読（4）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>論文購読（5）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>博物館見学（1）</td><td>国立民族学博物館の特別展を見学する。</td><td>事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>博物館見学（2）</td><td>国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。</td><td>事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>受講生のテーマに基づく個別発表（1）</td><td>受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。</td><td>事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>受講生のテーマに基づく個別発表（2）</td><td>受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。</td><td>事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論文購読（6）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論文購読（7）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論文購読（8）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論文購読（9）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表</td><td>後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。</td><td>事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。	事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。	2	論文購読（1）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	3	論文購読（2）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	4	論文購読（3）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	5	論文購読（4）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	6	論文購読（5）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	7	博物館見学（1）	国立民族学博物館の特別展を見学する。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。	8	博物館見学（2）	国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。	9	受講生のテーマに基づく個別発表（1）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。	10	受講生のテーマに基づく個別発表（2）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。	11	論文購読（6）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	12	論文購読（7）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	13	論文購読（8）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	14	論文購読（9）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	15	振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表	後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。	事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。																																																																
2	論文購読（1）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
3	論文購読（2）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
4	論文購読（3）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
5	論文購読（4）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
6	論文購読（5）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
7	博物館見学（1）	国立民族学博物館の特別展を見学する。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。																																																																
8	博物館見学（2）	国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
9	受講生のテーマに基づく個別発表（1）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。																																																																
10	受講生のテーマに基づく個別発表（2）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。																																																																
11	論文購読（6）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
12	論文購読（7）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
13	論文購読（8）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
14	論文購読（9）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
15	振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表	後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。																																																																
関連科目	文化演習Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>フィールドワーカーズ・ハンドブック</td><td>日本文化人類学会（編）</td><td>世界思想社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	フィールドワーカーズ・ハンドブック	日本文化人類学会（編）	世界思想社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	フィールドワーカーズ・ハンドブック	日本文化人類学会（編）	世界思想社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題提出 70%、平常点 30% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」は、博物館見学やフィールドワークへの主体的な参加などを含みます。																																																																		
学生へのメッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	7 号館 5 階金子研究室
備考	論文購読で用いる学術論文については、文化演習Ⅰの最後に設定した各受講生のテーマや各回の内容のバランスに基づいて担当教員が指定する。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	ことばを使って何かを伝えたい、あるいは何かをしたいとき、我々はその目的にあった表現を使う。しかも興味深いのは同じ話者であっても、場面によってことばの使い方も表現も様々ではなく、実に多様な「表情」を見せる。例えば相手と微笑みを交わすとき、そこで交わされることばもまた微笑ましい表情を見せると言えるだろう。ことばが担うこうした役割のことを「機能」という。本ゼミでは、この「機能」をキーワードとして、様々な角度からことばの多様性に迫ってみたい。 3 年次は、前後期をとおして 3 つの活動を柱として授業を行う。ひとつは教科書の精読である。毎回担当を決め、学生のプレゼンテーションと、その内容に関するディスカッションを中心にすすめる。2 つ目は研究に必要なスキルを身に着け、実践できるようにする。3 つ目は、学術的な文章の作成法を学ぶ。 本授業の取り組みを通じて学んだことは、4 年時の卒業研究につなげることになる。本授業の目的は、このゼミでの学びをとおして自分の関心事を見つめなおし、4 年時に進級するときには自ら研究テーマを決め、卒業研究に主体的に取り組むための基礎力を養うことである。																																																																		
到達目標	1. 言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 2. 日本語や英語における多様なテキストを機能的に分析することができる。 3. 言語に関する身近な例に関心を持ち、そこに畳み込まれたことばの意味・機能について分析的に読み取ることができる。 4. 教科書で扱われる主要な概念や用語について理解し、それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回担当を決め、教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し、それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため、積極的に参加することが求められる。課題等のフィードバックは授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (外国語), TOEIC 等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。</td><td>教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー①</td><td>ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。</td><td>音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー②</td><td>ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。</td><td>それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>リサーチスキル①</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。</td><td>自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>リサーチスキル②</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。</td><td>自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>作文技法①</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックに関連するデータから表を作成し文章に盛り込むための方法を学ぶ。</td><td>教科書にある表を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>作文技法②</td><td>2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて図によって説明するための方法を学ぶ。</td><td>教科書にある図を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー①</td><td>言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。</td><td>単位は「まとめり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つけられればよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー②</td><td>言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。</td><td>自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>リサーチスキル③</td><td>8 回目、9 回目で扱った範囲から関心のあるトピックを題材とし、因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論する手法を学ぶ。</td><td>言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>作文技法③</td><td>因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論した考えを文章化する技法を学ぶ。</td><td>言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>言語はなぜ変化するのか</td><td>言語の変化と多様性あるいは同一性を包括的に扱うための枠組みを考察する。</td><td>言語のダイナミズムという概念について調べておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>リサーチスキル④</td><td>演繹法、帰納法、アブダクションという科学的手法について学ぶ。</td><td>科学研究の方法論をキーワードとして調査しておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>作文技法④</td><td>結論を導く方法を学び、構成された文章の結論部を書くための技法を学ぶ。</td><td>議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめテスト</td><td>これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。</td><td>これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。	教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)	2	言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー①	ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。	音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)	3	言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー②	ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。	それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)	4	リサーチスキル①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)	5	リサーチスキル②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)	6	作文技法①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックに関連するデータから表を作成し文章に盛り込むための方法を学ぶ。	教科書にある表を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)	7	作文技法②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて図によって説明するための方法を学ぶ。	教科書にある図を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)	8	実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー①	言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。	単位は「まとめり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つけられればよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)	9	実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー②	言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。	自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)	10	リサーチスキル③	8 回目、9 回目で扱った範囲から関心のあるトピックを題材とし、因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論する手法を学ぶ。	言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)	11	作文技法③	因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論した考えを文章化する技法を学ぶ。	言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)	12	言語はなぜ変化するのか	言語の変化と多様性あるいは同一性を包括的に扱うための枠組みを考察する。	言語のダイナミズムという概念について調べておく。(2 時間)	13	リサーチスキル④	演繹法、帰納法、アブダクションという科学的手法について学ぶ。	科学研究の方法論をキーワードとして調査しておく。(2 時間)	14	作文技法④	結論を導く方法を学び、構成された文章の結論部を書くための技法を学ぶ。	議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)	15	まとめテスト	これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。	これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。	教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)																																																																
2	言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー①	ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。	音声、語、句、文、意味などの意味の違いを理解しておく。(2 時間)																																																																
3	言語変化はどのように進むのかー地域方言と若者言葉 (1) ー②	ことばが変化し、多様化／同一化する要因を調べる。	それぞれのレベルで適切な概念を用いて実際の例文を分析してみる。(2 時間)																																																																
4	リサーチスキル①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)																																																																
5	リサーチスキル②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについてデータを収集し分析するためにはどのようにすればよいかを考える。	自分が説明したい事柄の例となる言語データを集めておく。(2 時間)																																																																
6	作文技法①	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックに関連するデータから表を作成し文章に盛り込むための方法を学ぶ。	教科書にある表を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)																																																																
7	作文技法②	2 回目、3 回目で扱った範囲から関心のあるトピックについて図によって説明するための方法を学ぶ。	教科書にある図を抜き出し、そこから読み取ることのできる情報を言えるようにしておく。(2 時間)																																																																
8	実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー①	言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。	単位は「まとめり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つけられればよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。(2 時間)																																																																
9	実際に調査してみてもわかることー地域方言と若者言葉 (2) ー②	言語を変種によって分けるための境界線として扱われる概念を整理し、理解する。	自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。(2 時間)																																																																
10	リサーチスキル③	8 回目、9 回目で扱った範囲から関心のあるトピックを題材とし、因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論する手法を学ぶ。	言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)																																																																
11	作文技法③	因果関係、相関関係、包摂関係などの論理関係によって立論した考えを文章化する技法を学ぶ。	言いたいことを組み立てるとはどういうことか考え、自分の意見をまとめておく。(2 時間)																																																																
12	言語はなぜ変化するのか	言語の変化と多様性あるいは同一性を包括的に扱うための枠組みを考察する。	言語のダイナミズムという概念について調べておく。(2 時間)																																																																
13	リサーチスキル④	演繹法、帰納法、アブダクションという科学的手法について学ぶ。	科学研究の方法論をキーワードとして調査しておく。(2 時間)																																																																
14	作文技法④	結論を導く方法を学び、構成された文章の結論部を書くための技法を学ぶ。	議論のために関心のあるトピックを選び、自分の意見をまとめておく。(2 時間)																																																																
15	まとめテスト	これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。	これまでのノートや成果を見直す。(2 時間)																																																																
関連科目	英語学, 言語学, 英語意味論・語用論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ</td><td>南雅彦</td><td>くろしお出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ	南雅彦	くろしお出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	社会志向の言語学 豊富な実例と実証研究から学ぶ	南雅彦	くろしお出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に指示・配布する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミ発表, 準備資料, 課題・提出物等 (60%) まとめテスト (40%)			
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに, 問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして, 授業では分からないことを分からないままにせず, 納得できるまでとことん調べ, 話し合うことが重要である。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 船本研究室			
備考	事前事後学修時間数の目安は 6 0 時間。			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文化・歴史・国際関係など多様な視点から「コリア」（韓国・朝鮮・海外コリアンなど）を研究する。共同研究を通して、対象を深く分析・考察していく。 本授業のメンバー（ゼミ生）全員で一つの研究課題に取り組む。3 年生の 1 年間をかけて長期的計画を立てて進める。「文化演習Ⅱ」では、「文化演習Ⅰ」で設定した研究課題について具体的に研究を進捗させていく。チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。なお、この共同研究を通して、個人研究に必要な基礎力（卒業研究のための基礎力）も養成する。先行研究のリサーチ方法、資料・データの収集と分析に関する方法論、論理構成力・文章表現力を、授業を通して身につける。																																																																		
到達目標	1) 先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 2) 研究の中間発表（研究課題の進捗状況についてのプレゼンテーション）ができるようになる。 3) 研究課題について、チームで作業し、討論し、考察を深めていくことができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業の柱は共同研究である。ゲストの招請や他大学との合同ゼミでの発表、フィールドワークなどの機会を盛り込みながら進める。 ・課題等のフィードバックは基本的に授業中に行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>1) ゼミ全体で一つの研究課題を設定し、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。</td><td>9 月～11 月 ・データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。 ・中間発表を行う。 12 月～2023 年 1 月 2021 年度の成果をまとめる。</td><td>①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。 ③中間発表の準備</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	1) ゼミ全体で一つの研究課題を設定し、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。	9 月～11 月 ・データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。 ・中間発表を行う。 12 月～2023 年 1 月 2021 年度の成果をまとめる。	①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。 ③中間発表の準備	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	1) ゼミ全体で一つの研究課題を設定し、チームワークで課題に取り組んでいく。 2) 卒業研究（卒業論文の完成）のための基礎的な力を、本授業で養成する。	9 月～11 月 ・データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。 ・中間発表を行う。 12 月～2023 年 1 月 2021 年度の成果をまとめる。	①文献の読解と要約発表の準備 ②研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。 ③中間発表の準備																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	文化演習Ⅰ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ソウルを歩く：韓国文化研究はじめての一步</td><td>平田由紀江・山中千恵編著</td><td>関西学院大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td>在日二世の記憶</td><td>小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）</td><td>集英社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>新・社会調査へのアプローチ：論理と方法</td><td>大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ソウルを歩く：韓国文化研究はじめての一步	平田由紀江・山中千恵編著	関西学院大学出版会	2	在日二世の記憶	小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）	集英社	3	新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋	ミネルヴァ書房																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ソウルを歩く：韓国文化研究はじめての一步	平田由紀江・山中千恵編著	関西学院大学出版会																																																																
2	在日二世の記憶	小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）	集英社																																																																
3	新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋	ミネルヴァ書房																																																																
評価方法（基準）	共同研究への参加度：50% 発表および小レポート：50%																																																																		
学生へのメッセージ	・教員（森）は指導役を務めるが、研究を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。 ・授業は対面とする。ただし、受講生と教員のやりとり、レジュメや資料の保存・共有などのために Teams も使用する。Teams への登録をすること。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 森研究室																																																																		
備考	・予習復習の総学修時間数は 60 時間とする。																																																																		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めることで、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) さえれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction オリエンテーション</td><td>Introduction オリエンテーション</td><td>No preparation required. 準備は必要ありません。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1 Lifestyles.</td><td>Asking people about themselves. Telling about yourself.</td><td>Pages 4 - 5.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 1 Lifestyles continued.</td><td>Exchanging personal information.</td><td>Pages 6 - 8.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 2 Student Life.</td><td>Describing your student life.</td><td>Pages 10 - 11.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2 Student Life continued.</td><td>Describing daily routines.</td><td>Pages 12 - 14.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3 Hobbies and interests.</td><td>Talking about people's interests.</td><td>Pages 16 - 17.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 3 Leisure time and abilities.</td><td>How you spend your free time.</td><td>Pages 18 - 20.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Test of units 1-3. Special topic.</td><td>Test of units 1-3. Special topic.</td><td>Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4 Neighborhoods.</td><td>Talking about your hometown.</td><td>Pages 24 - 25.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 4 Neighborhoods continued.</td><td>Neighborhood facilities.</td><td>Pages 26 - 28.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 5 Directions and travel</td><td>How to describe where things are.</td><td>Pages 30 - 31.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 5 Direction and travel continued.</td><td>Finding places when you travel.</td><td>Pages 32 - 34.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6 Shopping and money.</td><td>Expressions for money and travel.</td><td>Pages 36 - 37.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 6 Shopping and money continued.</td><td>Talking about shopping.</td><td>Pages 38 - 39.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Test of units 4 - 6. Summary of the term</td><td>Test of units 4 - 6.</td><td>Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション	Introduction オリエンテーション	No preparation required. 準備は必要ありません。	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.	3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.	4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.	5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.	6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.	7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.	8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.	9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.	10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.	11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.	12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.	13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.	14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.	15	Test of units 4 - 6. Summary of the term	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション	Introduction オリエンテーション	No preparation required. 準備は必要ありません。																																																																
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.																																																																
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.																																																																
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.																																																																
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.																																																																
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.																																																																
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.																																																																
8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.																																																																
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.																																																																
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.																																																																
11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.																																																																
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.																																																																
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.																																																																
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.																																																																
15	Test of units 4 - 6. Summary of the term	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Breakthrough Plus 1 (2nd edition)</td><td>Miles Craven</td><td>MacMillan</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。 This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to activ																																																																		
担当者の	非常勤講師室 7 号館 2 階																																																																		

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間数をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: life experiences, describing people, vacations, dreams, your future, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り。必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Special topic.</td><td>Special topic.</td><td>No preparation required. 1 hour</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7 Your Life.</td><td>Describing daily routines. Describing daily routines.</td><td>Pages 44 - 45. 1 hour</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7 Your Life continued.</td><td>Talking about what you do. Asking what others do.</td><td>Pages 46 - 48. 1 hour</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8 Describing People.</td><td>Words and expressions for describing people.</td><td>Pages 50 - 51. 1 hour</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8 Describing People continued.</td><td>Asking others about people in their lives.</td><td>Pages 52 - 54. 1 hour</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9 Future plans.</td><td>Talking about what you will do in the future.</td><td>Pages 56 - 57. 1 hour</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9 Future plans continued.</td><td>How you spend your free time.</td><td>Pages 58 - 60. 1 hour</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Test of units 7 - 9. Special topic.</td><td>Test of units 7 - 9. Special topic.</td><td>Review of words and grammar of units 7 - 9. 1 hour</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10 Vacations.</td><td>Words to describe travel.</td><td>Pages 64 - 65. 1 hour</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10 Vacations continued.</td><td>Where you like to go on vacation and what you like to do.</td><td>Pages 66 - 68. 1 hour</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11 Early Memories.</td><td>Describing events in your life.</td><td>Pages 70 - 71. 1 hour</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11 Early Memories continued.</td><td>Asking about people's lives.</td><td>Pages 72 - 74. 1 hour</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12 Hopes and Dreams.</td><td>What you would like to do in the future.</td><td>Pages 76 - 77. 1 hour</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12 Hopes and dreams continued.</td><td>Asking others about their dreams.</td><td>Pages 78 - 80. 1 hour</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Test of units 10 - 12. Summary of the term</td><td>Test of units 10 - 12.</td><td>Review of words and grammar of units 10 - 12. 1 hour</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Special topic.	Special topic.	No preparation required. 1 hour	2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45. 1 hour	3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48. 1 hour	4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51. 1 hour	5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54. 1 hour	6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57. 1 hour	7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60. 1 hour	8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9. 1 hour	9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65. 1 hour	10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68. 1 hour	11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71. 1 hour	12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74. 1 hour	13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77. 1 hour	14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80. 1 hour	15	Test of units 10 - 12. Summary of the term	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12. 1 hour
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Special topic.	Special topic.	No preparation required. 1 hour																																																																
2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45. 1 hour																																																																
3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48. 1 hour																																																																
4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51. 1 hour																																																																
5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54. 1 hour																																																																
6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57. 1 hour																																																																
7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60. 1 hour																																																																
8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9. 1 hour																																																																
9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65. 1 hour																																																																
10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68. 1 hour																																																																
11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71. 1 hour																																																																
12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74. 1 hour																																																																
13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77. 1 hour																																																																
14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80. 1 hour																																																																
15	Test of units 10 - 12. Summary of the term	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12. 1 hour																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Breakthrough Plus 1 (2nd edition)</td><td>Miles Craven</td><td>MacMillan</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。 This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to actively																																																																		

担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサント ^ロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2303c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course Outline & Ice Breaker Activities	Carefully read the syllabus and prepare the necessary materials for the course.
	2	Unit 1: Hometown	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	3	Unit 1: Hometown -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 1 presentation
	4	Unit 1 Presentations	1. Unit 1 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	5	Unit 2: Music	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	6	Unit 2: Music - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 2 presentation
	7	Unit 2 Presentations	1. Unit 2 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Midterm Short Review Test
	8	Midterm Short Review Test (中間小テスト) Units 1-2 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	9	Unit 3: Books	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	10	Unit 3: Books -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 3 presentation
	11	Unit 3 Presentations	1. Unit 3 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	12	Unit 4: Family	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	13	Unit 4: Family -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 4 presentation
	14	Unit 4: Presentations	1. Unit 4 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Final Short Review Test
	15	Final Short Review Test (期末小テスト) Units 3-4 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions.

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 中間小テスト 10% 期末小テスト 10%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to be prepared for class, participate actively and have			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スタンジュ アレサントロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2304c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course Outline & Ice Breaker Activities	Carefully read the syllabus and prepare the necessary materials for the course.
	2	Unit 5: Travel	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	3	Unit 5: Travel - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 5 presentation
	4	Unit 5 Presentations	1. Unit 5 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	5	Unit 6: School	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	6	Unit 6: School - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 6 presentation
	7	Unit 6 Presentations	1. Unit 6 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Midterm Short Review Test
	8	Midterm Short Review Test (中間小テスト) Units 5-6 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	9	Unit 7: Food	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	10	Unit 7: Food - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 7 presentation
	11	Unit 7 Presentations	1. Unit 7 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	12	Unit 8: Friends	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	13	Unit 8: Friends - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 8 presentation
	14	Unit 8 Presentations	1. Unit 8 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Final Short Review Test
	15	Final Short Review Test (期末小テスト) Units 7-8 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions.

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 中間小テスト 10% 期末小テスト 10%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to participate actively and have fun.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 30 時間の学習時間を必要とする。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	2	発音 2、発音 3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	3	発音 4、付録 1、付録 2	挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	4	発音編のまとめ 小テスト 1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
	5	第 1 課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	6	第 1 課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	7	第 2 課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第 2 課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト 2 第 3 課 今年いくつかですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第 3 課 今年いくつかですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	11	第 4 課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第 4 課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	14	第 5 課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅱ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法（基準）	テストと課題：80% 平常点：20%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に各 1 時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1</td><td>ピンイン、声調、単母音、複母音</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>発音 2、発音 3</td><td>子音、鼻母音</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>発音 4、付録 1、付録 2</td><td>挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>発音編のまとめ 小テスト 1</td><td>発音編までの内容を復習</td><td>次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 1 課 これは何ですか？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 1 課 これは何ですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 2 課 お名前は？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 2 課 お名前は？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>小テスト 2、 第 3 課 今年いくつか？</td><td>復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 3 課 今年いくつか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 4 課 何人家族ですか？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 4 課 何人家族ですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？</td><td>復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 5 課 家はどこですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 小テスト 4</td><td>復習、小テスト</td><td>テストの内容を準備する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	2	発音 2、発音 3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	3	発音 4、付録 1、付録 2	挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	4	発音編のまとめ 小テスト 1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。	5	第 1 課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	6	第 1 課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	7	第 2 課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	8	第 2 課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	9	小テスト 2、 第 3 課 今年いくつか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	10	第 3 課 今年いくつか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	11	第 4 課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	12	第 4 課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	13	小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	14	第 5 課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	発音 2、発音 3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	発音 4、付録 1、付録 2	挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	発音編のまとめ 小テスト 1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。																																																																
5	第 1 課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第 1 課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	第 2 課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	第 2 課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	小テスト 2、 第 3 課 今年いくつか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第 3 課 今年いくつか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第 4 課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第 4 課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	第 5 課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。																																																																
関連科目	中国語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語</td><td>張 軼欧</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中日辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>日中辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典			2	日中辞典			3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	中日辞典																																																																		
2	日中辞典																																																																		
3																																																																			
評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%																																																																		
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	毎回課題を提出すること。 テストを必ず受けること。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介 第6課 何をしていますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今日授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今日授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	第8課 今日また先生に注意された。	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 今日また先生に注意された。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	中間テスト 第9課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	第10課 学校の北側に何がありますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ	復習、テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法（基準）	出席・課題 40% テスト 60%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	文法を確認し、本文を声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。
----	----------------------------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321el		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行い、口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れさせてもらう。 学期中は事前及び事後に合計 30 時間の学習時間を必要とする。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介 第6課 何をしていますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今日の授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今日の授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	小テスト1 第8課 今日また先生に注意された	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 今日また先生に注意された	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	第9課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2 第10課 学校の北側に何がありますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3 第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ 小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	単元テスト： 80% 平常点： 20%
学生への	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に各1時間ずつ要します。

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅲ	科目名 (英文)	Chinese III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1322e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国への旅行や買い物などに困らないレベルの聞く力、話す力を身につけることができる。
授業方法と留意点	新出単語や文法を解説するとともに、対話文や例文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 課 キャンパスで (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 進行表現 2. 可能補語 1	会話をノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	2	第 1 課 キャンパスで (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	3. 可能補語 2 4. 「……, 好不好?」	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	3	第 2 課 アルバイト仲間 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 状態補語 2. 可能補語と状態補語	会話をノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	4	第 2 課 3 人で京劇を見終わって 対話文 2 ・文法 ・ 練習	3. 比較表現 1 4. 比較表現 2	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	5	☆単元テスト (第 1 ～ 2 課の習熟度確認)	第 1 ～ 2 課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	6	第 3 課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 状態持続 2. 「着」を用いた存現文 3. 「(正) 在 V……」 と 「V 着」の違い	会話をノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	7	第 3 課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	4. 「有点儿」 5. V 1 着 (+ 0 2) V 2 (+ 0 2)	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	8	第 4 課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 「把」構文 ① 「把」 0 + V + 方向補語 ② 「把」 0 + V + 結果補語	会話をノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	9	第 4 課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	③ 「把」 0 + V V 「把」 0 + 「一下」 ④ 「把」 0 + V + 「給」 + 人 「把」 0 + V + 「到」 + 場所 「把」 0 + V + 「在」 + 場所	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	10	☆単元テスト (第 3 ～ 4 課の習熟度確認)	第 3 ～ 4 課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	11	第 5 課 キャンパスで (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 名詞の重ね型 2. 「下来」の派生義 3. 受身文 1 4. 可能性の「会」	会話をノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	12	第 5 課 キャンパスで (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	5. 受身文 2	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	13	第 1 課～第 5 課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	14	第 1 課～第 5 課 総合復習と練習	3. 総合復習・練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
	15	☆単元テスト (前期第 1 ～ 5 課の習熟度確認)	第 1 ～ 5 課 日文中訳復習	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。

関連科目	「中国語 I」、「中国語 II」、「中国語 IV」
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法	授業への参加度と小テスト： 50%
------	-------------------

(基準)	単元テスト： 50%
学生への メッセージ	授業前の予習や授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修したうえ、「中国語Ⅲ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅳ	科目名 (英文)	Chinese IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1323e1		

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを目指す。				
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読める能力を身につけることができる。				
授業方法と留意点	新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。				
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	第 6 課 北京国際空港で (1) 対話文・文法・練習	1. 「不用」 + 述語フレーズ 2. 「.....的話, (就)～」 3. 「有 / 没 (有)」 + 名詞 + 動詞	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		2	第 6 課 北京国際空港で (2) 短文・文法・練習	4. 跟.....相比 5. 听说、听.....說 6. 「值得」 + 「一」 + V 7. 打算	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		3	第 7 課 キャンパスで (1) 対話文・文法・練習	1. 「這 那」と量詞 2. 動詞フレーズ + 「的」 3. 「起来」の派生義	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		4	第 7 課 キャンパスで (2) 短文・文法・練習	4. ～極了 5. 终于 6. 一边..... 一边..... 7. 雖然..... 但是.....	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		5	☆単元テスト (第 6 ～ 7 課の習熟度確認)	第 6 ～ 7 課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		6	第 8 課 中華料理店で (1) 対話文・文法・練習	1. 「怪不得」 2. 「要」 3. 「愛」 + 動詞フレーズ	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		7	第 8 課 中華料理店で (2) 短文・文法・練習	4. 又..... 又..... 5. 不僅..... 還..... 6. 只好 7. 向	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		8	第 9 課 チャイナドレス店で (1) 対話文・文法・練習	1. 主述述語文 2. 疑問詞 + 「也 / 都」..... 3. 「是」を用いた譲歩構文	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。 本日（11/08（月））から対面授業に切り替えた。
		9	第 9 課 チャイナドレス店で (2) 短文・文法・練習	4. V 成..... 5. 对.....來說 6. 越来越.....	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		10	☆単元テスト (第 8 ～ 9 課の習熟度確認)	第 8 ～ 9 課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		11	第 10 課 帰国のあいさつ (1) 対話文・文法・練習	1. 「就」 2. 「才」 3. 「就」と「才」	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		12	第 10 課 帰国のあいさつ (2) 短文・文法・練習	4. 戴上 / 穿上 5. 準備 6. 需要 7. 像.....這樣 / 那樣	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		13	第 6 ～ 10 課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		14	第 6 ～ 10 課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		15	☆単元テスト (後期第 6 ～ 10 課の習熟度確認)	第 6 ～ 10 課 日文中訳復習	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
関連科目	「中国語Ⅲ」				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2		成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	中日辞典			
	2				
	3				
評価方法	授業への参加度・課題提出： 50%				

(基準)	単元テスト： 50%
学生への メッセージ	授業前の予習と授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1324e1		

授業概要・目的	スペイン語の文法の基礎を学び、練習問題を通して、文法知識を使えるようにします。 基本的な単語を覚え、聴く・話すことにも重点をおいて授業を進めます。																																																																		
到達目標	英語と似たところもありながら、全く違う特徴も少なくないラテン系の外国語を知る。 スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第5課まで学習する予定。 最初は教科書とは別にプリントを配布し、それに基づいてアルファベットの読み方などを学ぶが、できるだけ早いうちに教科書を購入すること。辞書については授業が始まってから説明する。 以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。</td><td>挨拶表現を練習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>イントロ:文法のポイントと基本練習</td><td>アルファベットと発音の解説。</td><td>授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数 1 ～ 1 0 を覚える。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>イントロ:アルファベットの読み方 正しいアクセント</td><td>アルファベットと発音の徹底。 音節分けとアクセント</td><td>単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第1課:スペイン語の挨拶</td><td>be 動詞に相当する ser と estar</td><td>授業後、動詞の活用形を覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第1課:職業、国籍を聞く、答える</td><td>ser と estar の練習</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ここまでの理解度確認テスト (1) 第2課:名詞の性と数</td><td>発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 国名形容詞、親族</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>理解度確認テスト (1) の確認 第2課:基本的な動詞</td><td>これまでの復習 規則動詞の活用</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第2課:疑問詞と疑問文</td><td>規則動詞の活用 名詞の性と数</td><td>授業後、動詞の活用を確認する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第3課:動詞 tener, ir, hacer</td><td>日常生活でよく使う 3 つの動詞の活用と使い方</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第3課:形容詞</td><td>形容詞の語尾変化</td><td>辞書の使い方に慣れる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>理解度確認テスト (2): 第3課まで 第4課: ser, estar, hay</td><td>これまでの復習 be 動詞の使い分け</td><td>基本単語を覚える</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第4課:場所を表す表現</td><td>場所を表す副詞、前置詞など</td><td>動詞活用の練習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第5課:動詞 gustar と tener</td><td>gustar 動詞の使い方 tener 熟語</td><td>作文練習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第5課:天気、気候の表現</td><td>hacer の使い方</td><td>会話文を声に出して読んでみる。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>理解度確認テスト (3)</td><td>前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。</td><td>授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。	2	イントロ:文法のポイントと基本練習	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数 1 ～ 1 0 を覚える。	3	イントロ:アルファベットの読み方 正しいアクセント	アルファベットと発音の徹底。 音節分けとアクセント	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。	4	第1課:スペイン語の挨拶	be 動詞に相当する ser と estar	授業後、動詞の活用形を覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	5	第1課:職業、国籍を聞く、答える	ser と estar の練習	会話文を声に出して繰り返し練習する。	6	ここまでの理解度確認テスト (1) 第2課:名詞の性と数	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 国名形容詞、親族	会話文を声に出して繰り返し練習する。	7	理解度確認テスト (1) の確認 第2課:基本的な動詞	これまでの復習 規則動詞の活用	会話文を声に出して繰り返し練習する。	8	第2課:疑問詞と疑問文	規則動詞の活用 名詞の性と数	授業後、動詞の活用を確認する。	9	第3課:動詞 tener, ir, hacer	日常生活でよく使う 3 つの動詞の活用と使い方	会話文を声に出して繰り返し練習する。	10	第3課:形容詞	形容詞の語尾変化	辞書の使い方に慣れる	11	理解度確認テスト (2): 第3課まで 第4課: ser, estar, hay	これまでの復習 be 動詞の使い分け	基本単語を覚える	12	第4課:場所を表す表現	場所を表す副詞、前置詞など	動詞活用の練習	13	第5課:動詞 gustar と tener	gustar 動詞の使い方 tener 熟語	作文練習	14	第5課:天気、気候の表現	hacer の使い方	会話文を声に出して読んでみる。	15	理解度確認テスト (3)	前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。																																																																
2	イントロ:文法のポイントと基本練習	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数 1 ～ 1 0 を覚える。																																																																
3	イントロ:アルファベットの読み方 正しいアクセント	アルファベットと発音の徹底。 音節分けとアクセント	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。																																																																
4	第1課:スペイン語の挨拶	be 動詞に相当する ser と estar	授業後、動詞の活用形を覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
5	第1課:職業、国籍を聞く、答える	ser と estar の練習	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
6	ここまでの理解度確認テスト (1) 第2課:名詞の性と数	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 国名形容詞、親族	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
7	理解度確認テスト (1) の確認 第2課:基本的な動詞	これまでの復習 規則動詞の活用	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
8	第2課:疑問詞と疑問文	規則動詞の活用 名詞の性と数	授業後、動詞の活用を確認する。																																																																
9	第3課:動詞 tener, ir, hacer	日常生活でよく使う 3 つの動詞の活用と使い方	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
10	第3課:形容詞	形容詞の語尾変化	辞書の使い方に慣れる																																																																
11	理解度確認テスト (2): 第3課まで 第4課: ser, estar, hay	これまでの復習 be 動詞の使い分け	基本単語を覚える																																																																
12	第4課:場所を表す表現	場所を表す副詞、前置詞など	動詞活用の練習																																																																
13	第5課:動詞 gustar と tener	gustar 動詞の使い方 tener 熟語	作文練習																																																																
14	第5課:天気、気候の表現	hacer の使い方	会話文を声に出して読んでみる。																																																																
15	理解度確認テスト (3)	前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語圏概論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Imaginate! (イラストで楽しもう、スペイン語)</td><td>浦、Partida</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Imaginate! (イラストで楽しもう、スペイン語)	浦、Partida	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Imaginate! (イラストで楽しもう、スペイン語)	浦、Partida	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	3 度の理解度確認テスト (25% + 25% + 30%) と提出物や時々行なう単語テスト (20%)																																																																		
学生へのメッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信することができるようになります。 ラテン語から派生したスペイン語はフランス語、イタリア語、ポルトガル語などと似た点がたくさんあります。どれか1つマスターすれば、ほかのラテン系の言語も学びやすくなります。この際、欲張ってみましょう。																																																																		
担当者の	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		

研究室等	
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 理解度確認テストに関するフィードバックはその次週、単語テストに関するフィードバックは当日、解答を示しながら解説する。

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1325e1		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、練習問題をととして身につけていきます。 基本的な単語を覚え、聴く・話すことにも重点をおいて授業を進めます。																																																																		
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	後期では第6課から第9課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)	スペイン語検定 6 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期の学習内容の確認 (1)</td><td>前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)</td><td>授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期の学習内容の確認 (2)</td><td>前期で学習したことの確認</td><td>授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第6課：語根母音変化動詞</td><td>querer, poder の使い方</td><td>授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第6課：ir</td><td>ir a + 不定詞 その他の語根母音変化動詞</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第7課：再帰動詞</td><td>再帰動詞の使い方</td><td>授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第7課：gustar 型動詞</td><td>gustar 型動詞の使い方</td><td>授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第7課：会話と文化</td><td>ラテンアメリカ</td><td>授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>理解度確認テスト (1)</td><td>第6課、7課の内容についての確認テスト</td><td>語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>理解度確認テストの復習 第8課：目的語</td><td>目的語「～を」「～に」の表し方 目的格の代名詞</td><td>授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第8課：目的格代名詞</td><td>目的格代名詞の練習問題 現在分詞と進行形</td><td>試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第8課：会話と文化</td><td>スペイン語圏のクリスマス</td><td>授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第9課：動詞 doler と pasar</td><td>gustar 型動詞の練習 tener que + 不定詞</td><td>授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第9課：命令文</td><td>規則的な命令形 (2 人称、肯定) 不規則な命令形</td><td>授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第9課：会話、文化</td><td>文章で確認</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>理解度確認テスト (2)</td><td>後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習</td><td>授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の学習内容の確認 (1)	前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。	2	前期の学習内容の確認 (2)	前期で学習したことの確認	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	3	第6課：語根母音変化動詞	querer, poder の使い方	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	4	第6課：ir	ir a + 不定詞 その他の語根母音変化動詞	会話文を声に出して繰り返し練習する。	5	第7課：再帰動詞	再帰動詞の使い方	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	6	第7課：gustar 型動詞	gustar 型動詞の使い方	授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	7	第7課：会話と文化	ラテンアメリカ	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	8	理解度確認テスト (1)	第6課、7課の内容についての確認テスト	語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること	9	理解度確認テストの復習 第8課：目的語	目的語「～を」「～に」の表し方 目的格の代名詞	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	10	第8課：目的格代名詞	目的格代名詞の練習問題 現在分詞と進行形	試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	11	第8課：会話と文化	スペイン語圏のクリスマス	授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	12	第9課：動詞 doler と pasar	gustar 型動詞の練習 tener que + 不定詞	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	13	第9課：命令文	規則的な命令形 (2 人称、肯定) 不規則な命令形	授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。	14	第9課：会話、文化	文章で確認	会話文を声に出して繰り返し練習する。	15	理解度確認テスト (2)	後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の学習内容の確認 (1)	前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。																																																																
2	前期の学習内容の確認 (2)	前期で学習したことの確認	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
3	第6課：語根母音変化動詞	querer, poder の使い方	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
4	第6課：ir	ir a + 不定詞 その他の語根母音変化動詞	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
5	第7課：再帰動詞	再帰動詞の使い方	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
6	第7課：gustar 型動詞	gustar 型動詞の使い方	授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
7	第7課：会話と文化	ラテンアメリカ	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
8	理解度確認テスト (1)	第6課、7課の内容についての確認テスト	語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること																																																																
9	理解度確認テストの復習 第8課：目的語	目的語「～を」「～に」の表し方 目的格の代名詞	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
10	第8課：目的格代名詞	目的格代名詞の練習問題 現在分詞と進行形	試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
11	第8課：会話と文化	スペイン語圏のクリスマス	授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
12	第9課：動詞 doler と pasar	gustar 型動詞の練習 tener que + 不定詞	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
13	第9課：命令文	規則的な命令形 (2 人称、肯定) 不規則な命令形	授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
14	第9課：会話、文化	文章で確認	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
15	理解度確認テスト (2)	後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。																																																																
関連科目	エリア・スタディーズ (ラテンアメリカ)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Imaginate! !</td><td>浦、Partida</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Imaginate! !	浦、Partida	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Imaginate! !	浦、Partida	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	2 度の到達度確認テスト 70 %、時々求める課題提出 15 %、時々行なう単語テスト 15 %																																																																		
学生への メッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。 外国語をマスターするコツは何といっても単語力です。若い今ならどんどん吸収できます。今のうちにたくさん覚えましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学修に各 1 時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																																																																		

科目名	スペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1326e1		

授業概要・目的	スペイン語Ⅰ・Ⅱで学習したテキスト『Accion!』を引き続き使い、文法、表現法を学習する。 読む、聴く、話すに重点を置き、会話演習も行う。 スペイン語圏の情報やニュースに接して多種多様な文化や習慣を学ぶ。																																																																		
到達目標	語彙を増やしてスペイン語の短文を読み、書き、理解する。 スペイン語で自分を表現し会話能力を高める。 スペイン語圏のニュースや情報に関心を持ち、知識や文化への関心を広げる。																																																																		
授業方法と留意点	前期では先ずこれまでのⅠ、Ⅱの復習から始め、忘れたことを思い出し、確認し理解度を深めた上で新たな内容に進む予定です。 授業では声に出すことを重視します。 授業に臨むにあたり指定の教科書、西和辞典および配布したプリントを必ず持参すること。 随時、語彙確認の小テストを実施します。 また受講生の理解度に応じて授業計画を修正する場合があります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(1)</td><td>授業の進め方の説明 自己紹介 スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習</td><td>事前に既習した内容を確認しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(2)</td><td>スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習</td><td>事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(3)</td><td>スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習</td><td>事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第9課 『ネットで繋がる』(1)</td><td>・情報のやりとりや操作で使われる語彙と表現 文法：語根母音変化動詞</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第9課 『ネットで繋がる』(2)</td><td>不定語・否定語の用法 練習問題</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第10課 『旅行の計画を立てる』(1)</td><td>旅行：交通手段、施設、建物、持つていくものに関連する語彙と表現法 序数 動詞：IR, VENIR, DECIR, OIR の活用と用法</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第10課 『旅行の計画を立てる』(2)</td><td>動詞と不定詞の組み合わせ： IR+a +不定詞、TENER +que +不定詞、HAY +que +不定詞の用法 文法：所有詞（後置形）</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第9課、10課の復習</td><td>語彙と表現法の確認 練習問題</td><td>事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第11課 『趣味について話す』(1)</td><td>趣味：音楽や映画のジャンル、スポーツに関する語彙と表現法。 文法：人称代名詞</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第11課 『趣味について話す』(2)</td><td>動詞：GUSTAR の用法 比較の表現</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第12課 『生活習慣と体調を述べる』(1)</td><td>生活習慣、体調や気分に関連する語彙と表現法 再帰動詞の用法</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第12課 『生活習慣と体調を述べる』(2)</td><td>再帰動詞の復習 再帰代名詞 se のその他の用法</td><td>授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第11課、12課の復習。</td><td>語彙と表現法の確認 練習問題</td><td>事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総復習</td><td>ここまで学習した内容についての復習</td><td>事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td>これまでに学習した内容についての理解度を計る。</td><td>総復習をしておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(1)	授業の進め方の説明 自己紹介 スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前に既習した内容を確認しておくこと。	2	スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(2)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。	3	スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(3)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。	4	第9課 『ネットで繋がる』(1)	・情報のやりとりや操作で使われる語彙と表現 文法：語根母音変化動詞	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	5	第9課 『ネットで繋がる』(2)	不定語・否定語の用法 練習問題	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	6	第10課 『旅行の計画を立てる』(1)	旅行：交通手段、施設、建物、持つていくものに関連する語彙と表現法 序数 動詞：IR, VENIR, DECIR, OIR の活用と用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	7	第10課 『旅行の計画を立てる』(2)	動詞と不定詞の組み合わせ： IR+a +不定詞、TENER +que +不定詞、HAY +que +不定詞の用法 文法：所有詞（後置形）	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	8	第9課、10課の復習	語彙と表現法の確認 練習問題	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	9	第11課 『趣味について話す』(1)	趣味：音楽や映画のジャンル、スポーツに関する語彙と表現法。 文法：人称代名詞	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	10	第11課 『趣味について話す』(2)	動詞：GUSTAR の用法 比較の表現	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	11	第12課 『生活習慣と体調を述べる』(1)	生活習慣、体調や気分に関連する語彙と表現法 再帰動詞の用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	12	第12課 『生活習慣と体調を述べる』(2)	再帰動詞の復習 再帰代名詞 se のその他の用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	13	第11課、12課の復習。	語彙と表現法の確認 練習問題	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。	14	総復習	ここまで学習した内容についての復習	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。	15	理解度確認テスト	これまでに学習した内容についての理解度を計る。	総復習をしておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(1)	授業の進め方の説明 自己紹介 スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前に既習した内容を確認しておくこと。																																																																
2	スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(2)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。																																																																
3	スペイン語Ⅰ・Ⅱの復習(3)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の復習	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直しておくこと。																																																																
4	第9課 『ネットで繋がる』(1)	・情報のやりとりや操作で使われる語彙と表現 文法：語根母音変化動詞	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
5	第9課 『ネットで繋がる』(2)	不定語・否定語の用法 練習問題	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
6	第10課 『旅行の計画を立てる』(1)	旅行：交通手段、施設、建物、持つていくものに関連する語彙と表現法 序数 動詞：IR, VENIR, DECIR, OIR の活用と用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
7	第10課 『旅行の計画を立てる』(2)	動詞と不定詞の組み合わせ： IR+a +不定詞、TENER +que +不定詞、HAY +que +不定詞の用法 文法：所有詞（後置形）	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
8	第9課、10課の復習	語彙と表現法の確認 練習問題	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
9	第11課 『趣味について話す』(1)	趣味：音楽や映画のジャンル、スポーツに関する語彙と表現法。 文法：人称代名詞	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
10	第11課 『趣味について話す』(2)	動詞：GUSTAR の用法 比較の表現	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
11	第12課 『生活習慣と体調を述べる』(1)	生活習慣、体調や気分に関連する語彙と表現法 再帰動詞の用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
12	第12課 『生活習慣と体調を述べる』(2)	再帰動詞の復習 再帰代名詞 se のその他の用法	授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
13	第11課、12課の復習。	語彙と表現法の確認 練習問題	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。 授業後、学習した語彙、表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
14	総復習	ここまで学習した内容についての復習	事前に内容を見直し疑問点があれば質問すること。																																																																
15	理解度確認テスト	これまでに学習した内容についての理解度を計る。	総復習をしておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ																																																																		
教科書																																																																			

	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Accion!</td><td>四宮、落合他</td><td>白水社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Accion!	四宮、落合他	白水社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Accion!	四宮、落合他	白水社														
2																	
3																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典</td><td>高垣敏博 他</td><td>小学館</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題提出・理解度確認テスト 40%、小テスト 40%、授業への取り組み 20%とします。																
学生への メッセージ	積極的な授業への参加を期待します。 語学は地道な努力が必要です。週一回の授業ですが、根気よく繰り返しているうちに身につきます。スペイン語を通じて異文化に触れて欲しいと思います。 どんなに些細な疑問も不安も残さないよういつでも、どんなことでも質問して解決して下さい。 使用するテキストにはスペイン語の映画や文化の情報も掲載されています。その都度興味のある話題についても紹介します。 一緒にがんばりましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																
備考	週1時間程度の予習・復習が必要。																

科目名	スペイン語Ⅳ	科目名 (英文)	Spanish IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1327el		

授業概要・目的	テキストは引き続き『Accion!』を用いる。 後期ではさらに自分自身を表現するための語彙と表現法を学習する。 読む、聴く、話すに重点を置き会話演習も行う。 スペイン語圏の情報やニュースに接して多種多様な文化や習慣を知る。
到達目標	語彙、表現法を増やし、スペイン語で自分を表現する。 会話力を高め、コミュニケーション能力をつける。 スペイン語圏に関わる文化・社会への知識と関心を広げる。
授業方法と留意点	授業に臨むにあたり指定の教科書、西和辞典および配布したプリントを持参すること。 授業中は声を出して繰り返し練習します。 今期はテキストで紹介されている映画等を鑑賞する時間を設けます。 随時語彙に関する小テストを実施します。 また受講生の理解度に応じて授業計画を修正することもあります。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の確認(1)	授業についての説明。 前期で習った文法事項や表現を復習する (第 9-10 課)	予習として、第 9-10 課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する (第 11-12 課)	予習として、第 11-12 課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	3	第 13 課 『地球市民として暮らす』 (1)	・ボランティア活動 ・環境保護運動 ・中古品に関連する語彙	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	4	第 13 課 『地球市民として暮らす』 (2)	文法：過去分詞、直説法現在完了、現在分詞 基本練習問題	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	5	第 14 課 『ルーツをたどる』 (1)	・人生の出来事 ・時の表現に関連する語彙	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	6	第 14 課 『ルーツをたどる』 (2)	文法：直説法過去過去 基本練習問題	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	7	第 13-14 課の復習と練習問題	応用練習問題に取り組む。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	8	第 15 課 『思い出を語る』 (1)	文法：直説法線過去、接続詞	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	9	第 15 課 『思い出を語る』 (2)	間接話法 基本練習問題	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	10	第 16 課 『将来について話す』 (1)	・学生生活のプラン ・時の表現 II ・社会の将来に関連する語彙	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	11	第 16 課 『将来について話す』 (2)	文法：直説法未来、直説法過去未来 基本練習問題	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	12	第 15-16 課の復習と練習問題	応用練習問題に取り組む	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	13	まとめと総復習(1)	これまでの学習内容の確認と復習。	これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	14	まとめと総復習(2)	これまでの学習内容の確認と復習。	これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	15	理解度確認テスト	後期で学習した内容の理解度を確認する。	これまでの総復習をしておくこと。

関連科目	スペイン語 I、II、III		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Action!	四宮・落合他
	2		
	3		
			出版社名
			白水社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出・理解度確認テスト 40%、小テスト 40%、授業への取り組み 20%とします。			
学生への メッセージ	積極的な授業への参加を期待します。 語学は地道な努力が必要です。週一回の授業ですが、根気よく繰り返しているうちに身につきます。またスペイン語を通じて異文化に触れて欲しいと思います。 そして、どんな疑問も不安も残さないよういつでも、どんなことでも質問して解決して下さい。 使用するテキストにはスペイン語の映画や文化の情報も掲載されています。その都度興味のある話題についても紹介します。 一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	毎回の事前・事後学習に1時間を要す。			

科目名	インドネシア語 I	科目名 (英文)	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1328e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語の基礎的な会話能力の修得を目的とする。 インドネシアの日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高める。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指す。 インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 インドネシア語の特徴を説明する。	授業で学んだことを復習しておくこと(1 時間)。
	2	文字と発音	アルファベットの読み方を説明したのち演習をおこなう。	インドネシア語のアルファベットを正確に読めるようにしておくこと(1 時間)。
	3	発音	基本単語の発音を説明したのち演習をおこなう。	配布された「発音」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 授業で習った基本単語を声に出して練習しておくこと(1 時間)。
	4	挨拶 (1)	挨拶表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「挨拶 (1)」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	5	挨拶 (2)	感謝表現・謝罪表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「挨拶 (2)」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	6	紹介 (1)	自己紹介の表現・人称代名詞を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「紹介 (1)」のプリントの会話部分、人称代名詞について復習すること(1 時間)。
	7	紹介 (2)	自己紹介の表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「紹介 (2)」のプリントの会話部分、疑問詞について復習すること(1 時間)。
	8	紹介 (3)	家族や友人を紹介をする表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (3)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)と。 「紹介 (3)」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	9	8 回までのまとめ	これまでに学んだことの復習をおこなう。 中間テストを実施したのち解説をおこなう。	これまでに配布された全てのプリントで学んだことを復習しておくこと(1 時間)。 中間テストで間違えたところを再確認しておくこと(1 時間)。
	10	数詞 (1)	数詞の仕組みを説明する。	配布された「数詞 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 数詞の仕組みを復習しておくこと(1 時間)。
	11	数詞 (2)	序数詞や分数を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 序数詞や分数の表現を復習しておくこと(1 時間)。
	12	数詞 (3)	電話番号の表現や数詞を用いた表現の演習をおこなう。	配布された「数詞 (3)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 電話番号の言い方と数詞の練習問題について復習しておくこと(1 時間)。
	13	数詞 (4)	日付の表現を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞 (4)」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 日付の言い表し方について復習しておくこと(1 時間)。
	14	10 回から 13 回までのまとめ	数詞を使った表現の復習と演習をおこなう。	10 回から 13 回までに配布された数詞のプリントを中心に復習しておくこと(1 時間)。 不明な点を明らかにしておくこと(1 時間)。
	15	総復習	これまでに学んだことの総復習として理解度確認テストを実施する。その後、解説をおこなう。	理解度確認テストに臨むため、これまでに学んできたことを振り返っておくこと(1 時間)。 理解度確認テストで間違えたところを再度復習しておくこと(1 時間)。

関連科目	インドネシア語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習と発表に対する取り組み 200%、 中間テスト 30%、理解度確認テスト 30%			
学生への メッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探してください。 3. シンガポールやマレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールへ旅行する際にもインドネシア語が役立つことがあります。積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	1 事前学習と事後学習は毎週少なくとも 2 時間以上おこなうこと。 2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。			

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名 (英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1329e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面で役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。 またインドネシアの人びとの日常的な習慣について理解を深めることもできる。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアだけではなく、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高めることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定に役立つ。 旅行に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと復習	1. 授業のすすめ方について説明する。 2. 前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習をおこなう。	・前期の項目を復習してから授業に臨むこと (1 時間)。 ・学習項目の復習 (1 時間)
	2	曜日 (1)	曜日と月の言い表し方を説明したのち、演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	3	曜日 (2)	季節の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	4	時間 (1)	時間と時刻の言い表し方を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	5	時間 (2)	時間と時間の表現を用いた会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	6	色 (1)	色および形容詞を使った表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	7	色 (2)	助数詞を用いた表現を説明する。 色と助数詞を用いた表現の会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	8	復習	1. これまでに学んだことの理解を確認するために中間試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認 (3 時間)
	9	ショッピング (1)	値段の尋ねる表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	10	ショッピング (2)	店での会話表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	11	ショッピング (3)	買い物の際に役に立つさまざまな表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	12	位置 (1)	位置の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	13	位置 ②	道を尋ねる表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	14	9 回～13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習をおこなう。	・9 回～13 回までに学んできたことの再確認 (2 時間) ・いまだに学んだ単語の綴りと意味を確認すること (2 時間)
	15	総復習	1. これまでに学んだことの理解度を確認するための総復習試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	これまでに学んだことの再確認 (2 時間)

関連科目	インドネシア語Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の会話演習と発表に対する取り組み 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 .
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	1 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習は毎週少なくとも2時間以上はこなうこと。 2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。

科目名	インドネシア語Ⅲ	科目名 (英文)	Indonesian III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ティク イティリ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1330e1		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の運用能力を育成する。 文法説明、講読練習、作文練習を行う。会話演習も行う。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高める。
到達目標	短文を読み書きできるとともに会話能力も発揮できるよう、文法力・読解力・作文力・会話能力のバランスが取れたインドネシア語運用能力の育成をめざす。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と会話演習、発表を課す。 3. 随時、小試験をおこなう。 4. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。 5. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 6. 随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。 7. 総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示し、解説も行う。 また理解が足りないところの復習方法も説明する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文法 1 ・会話 1	「これは何ですか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	2	文法 2 ・会話 2	「大阪は大きな町です」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	3	文法 3 ・会話 3	「私は日本人です」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 練習問題の復習。 3. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	4	文法 4 ・会話 4	「あなたの本はここに 있습니다」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	5	文法 5 ・会話 5	「どちらが大好きですか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	6	文法 6 ・会話 6	「彼女は妹です」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	7	文法 7 ・会話 7	「これはいくらですか？」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	8	文法 8 ・会話 8	「今何時ですか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	9	文法 9 ・会話 9	「あなたの趣味は何ですか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	10	文法 1 0 ・会話 1 0	本屋は駅の前にあります」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 会話練習の復習。 3. 練習問題の復習。
	11	文法 1 1 ・会話 1 1	「ナシゴレンをください」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	12	文法 1 2 ・会話 1 2	「バティックシャツがありますか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	13	文法 1 3 ・会話 1 3	「今日は何曜日ですか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	14	文法 1 4 ・会話 1 4	「毎日何時に起きますか」をテーマとした文法と会話練習	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。

				3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	15	総復習	いままでに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明する。	第 1 4 回までに学んだことの総復習。(合計 2 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習や発表に対する取り組み 20%、試験 30%、総復習試験 30%			
学生への メッセージ	1. 今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語能力を身につけると、必ず将来の役に立ちます。 2. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 3. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 4. シンガポールやマレーシア、ブルネイ、東ティモール、オランダへ旅行する際にもインドネシア語が役に立つことがあります。積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	1. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 2. 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習には毎週少なくとも 2 時間以上を充てること。			

科目名	インドネシア語Ⅳ	科目名 (英文)	Indonesian IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1331el		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 やや複雑な文法の説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話練習も随時おこなう。
到達目標	・中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。すなわち、 1. やや複雑な文章を理解できる。 2. やや複雑な文法を使った作文ができる。 3. やや複雑な文法を使った会話が理解できる。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習や課題を課す。 3. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 4. この授業では復習なども兼ねて、初級レベルの文法も毎回とりあげて説明する。 5. 随時課す課題の模範解答は授業中に提示する。 6. 理解が足りないところは授業中に再度説明する。 7. 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示して講評をおこなう。復習方法も説明する。
科目学習の効果 (資格)	1. インドネシア語能力の向上。 2. インドネシア語技能検定試験に役立つ。 3. インドネシアはもちろん、シンガポールやマレーシアへの旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	1. 授業の進め方を説明する。 2. 既習事項の確認と復習。	既習事項を復習すること。
	2	文法 1	接尾辞-an、接頭辞 pe-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	3	文法 2	同等・比較・最上級の表現を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 接頭辞 me-の復習。 (合計 3 時間)
	4	文法 3	接頭辞 di-を学習する。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	5	文法 4	接頭辞 ter-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 過去に学習した疑問詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)
	6	文法 5	疑問詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 練習問題の復習。 (合計 2 時間) 第 7 回の予習として今までに学んだ事項の総復習。 (合計 3 時間以上)
	7	復習 1	第 6 回までに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。試験後に理解の足りない事項の説明をおこなう。	第 6 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)
	8	文法 6	共接辞 ber--an, per--an を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	9	文法 7	共接辞 pe--an を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 第 10 回目への予習として、過去に学んだ接続詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)
	10	文法 8	接続詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	11	文法 9	共接辞 ke--an、接尾辞-nya を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	12	文法 10	接尾辞-i, -kan を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	13	文法 11	接頭辞 memper-を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。

				(合計 2 時間)
	14	1. 文法 12 2. 復習 2	1. 重複の形態と機能を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。 2. 第 14 回までに学んだ事項の復習	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間) 第 14 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)
	15	総復習	第 14 回までに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項を説明する。	今までに学んだ事項の総復習と練習問題に取り組むこと。 総復習試験をもういちど解くこと。(合計 3 時間)
関連科目	インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習や発表に対する取り組み 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%			
学生への メッセージ	1. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 2. 自分の関心分野にあわせて、日常でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。			

科目名	フランス語 I	科目名 (英文)	French I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1332e1		

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行ったとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	教科書『話したくなるフランス語』を使用するので購入すること。基本的なフランス語の表現を学んでいく。毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5 級へ向けた学力の準備をする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランス語会話 (基礎) の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
	2	『話したくなるフランス語』導入 (pp. 2-3)	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
	3	『話したくなるフランス語』第1課 (pp. 4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方 (1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題 1
	4	『話したくなるフランス語』第1課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音 (1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題 2
	5	『話したくなるフランス語』第2課 (pp. 10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題 3
	6	『話したくなるフランス語』第2課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音 (2)	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題 4、練習問題 5
	7	『話したくなるフランス語』第3課 (pp. 16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題 6、練習問題 7
	8	『話したくなるフランス語』第3課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズイオン・アンシェスマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題 8
	9	『話したくなるフランス語』第4課 (pp. 22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題 9、練習問題 10
	10	『話したくなるフランス語』第4課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
	11	『話したくなるフランス語』第5課 (pp. 28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
	12	『話したくなるフランス語』第5課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音 (3)	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
	13	『話したくなるフランス語』第6課 (pp. 34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題 18
	14	『話したくなるフランス語』第6課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
	15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フランス文法総まとめ	東郷雄二[著]	白水社
	2	フランス語 1 〈'18〉	バトリック・ドゥヴォス、桑田光平[著]	放送大学教育振興会
	3	フランス語 2 〈'18〉	バトリック・ドゥヴォス、森元庸介[著]	放送大学教育振興会

評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加の度合い、取り組む姿勢、発表、小テスト、課題・宿題の提出などに基づき総合的に評価) (100%)
-----------	---

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話することの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	連絡等は Moodle 上、および授業教室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。 毎回の授業について、最低 1 時間を目安とした事前・事後学習を求める。
----	---

科目名	フランス語Ⅱ	科目名（英文）	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1333e1		

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。																																																																		
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口について出るようになります。																																																																		
授業方法と留意点	教科書（『話したくなるフランス語』）を使用するので購入すること。 辞書も必要となります。 その他の教材などについては適宜連絡する。 基本的なフランス語の表現を学んでいく。 毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	仏検（実用フランス語技能検定試験）5級に相当する学力を目指す。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>後期オリエンテーション</td><td>後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明</td><td>テキストの後期学習範囲に目を通しておく</td></tr> <tr> <td>2</td><td>動詞活用表</td><td>さまざまな動詞の活用</td><td>『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表</td></tr> <tr> <td>3</td><td>『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）</td><td>人、物をたずねる表現 フランス人の名前</td><td>『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21</td></tr> <tr> <td>4</td><td>『話したくなるフランス語』第7課つづき</td><td>文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化</td><td>『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23</td></tr> <tr> <td>5</td><td>『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）</td><td>可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現</td><td>『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24</td></tr> <tr> <td>6</td><td>『話したくなるフランス語』第8課つづき</td><td>文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法</td><td>『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26</td></tr> <tr> <td>7</td><td>『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）</td><td>名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現</td><td>『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27</td></tr> <tr> <td>8</td><td>『話したくなるフランス語』第9課つづき</td><td>文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ</td><td>『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29</td></tr> <tr> <td>9</td><td>『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）</td><td>未来の予定 時刻の言い方</td><td>『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30</td></tr> <tr> <td>10</td><td>『話したくなるフランス語』第10課つづき</td><td>文法事項：代名動詞 未来の表わし方</td><td>『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31</td></tr> <tr> <td>11</td><td>『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）</td><td>過去の表現 月、曜日、日付の言い方</td><td>『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34</td></tr> <tr> <td>12</td><td>『話したくなるフランス語』第11課つづき</td><td>文法事項：複合過去 半過去</td><td>『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発展的学習（1）</td><td>役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）</td><td>『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発展的学習（2）</td><td>役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）</td><td>『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>総まとめ</td><td>学習内容の理解のチェック</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく	2	動詞活用表	さまざまな動詞の活用	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表	3	『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21	4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23	5	『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24	6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26	7	『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27	8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29	9	『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30	10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31	11	『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34	12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36	13	発展的学習（1）	役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習	14	発展的学習（2）	役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習	15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく																																																																
2	動詞活用表	さまざまな動詞の活用	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表																																																																
3	『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21																																																																
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23																																																																
5	『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24																																																																
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26																																																																
7	『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27																																																																
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29																																																																
9	『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30																																																																
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31																																																																
11	『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34																																																																
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36																																																																
13	発展的学習（1）	役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習																																																																
14	発展的学習（2）	役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習																																																																
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック																																																																
関連科目	前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>話したくなるフランス語</td><td>岩間直文</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>フランス文法総まとめ問題集</td><td>東郷雄二[著]</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>フランス語で読む八十日間世界一周</td><td>ジュール・ヴェルヌ[著]</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話</td><td>シャルル・ペロー[著]</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	フランス文法総まとめ問題集	東郷雄二[著]	白水社	2	フランス語で読む八十日間世界一周	ジュール・ヴェルヌ[著]	IBC パブリッシング	3	フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話	シャルル・ペロー[著]	IBC パブリッシング																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	フランス文法総まとめ問題集	東郷雄二[著]	白水社																																																																
2	フランス語で読む八十日間世界一周	ジュール・ヴェルヌ[著]	IBC パブリッシング																																																																
3	フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話	シャルル・ペロー[著]	IBC パブリッシング																																																																
評価方法（基準）	平常点（授業への参加の度合い、取り組み姿勢、発表、小テスト、課題・宿題の提出などに基づき総合的に評価）（100%）																																																																		
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をする楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）																																																																		
備考	連絡等は Teams 上、および授業教室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。 毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。 その他の教材などについては適宜連絡する。																																																																		

科目名	フランス語Ⅲ	科目名 (英文)	French III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1334e1		

授業概要・目的	芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しずつ身につけます。フランス語をはじめて学ぶ方も対象になります。
到達目標	辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。 フランス語の発音の基本を理解し、正しい発音で発話ができる。
授業方法と留意点	毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それらにまつわる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度配布します。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。
科目学習の効果 (資格)	フランス語検定 5 級～4 級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの諸文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
	2	フランスの食文化について (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	3	フランスの食文化について (2)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	4	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係 (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	5	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係 (2)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	6	フランスの歴史について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	7	フランスの歴史について (2)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	8	フランスの音楽について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	9	フランスの音楽について (2)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	11	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	13	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	15	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①期末試験は実施しません。 ②評価の内訳はつぎのとおりです： (1) フランス語の知識に関する評価：毎回の授業での取り組み・・・50% (2) フランス文化の理解に関する評価：授業で扱ったテーマの内容に関する簡単なコメントおよび各自が興味をもったフランス文化に関する課題・・・50%			
学生への メッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもつていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません。 なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (3号館2階)			
備考	個人的な質問等は、メール等を利用していつでも対応します。 事前・事後学習に各1時間程度を想定しています。 上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。			

科目名	フランス語Ⅳ	科目名 (英文)	French IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1335e1		

授業概要・目的	フランス語 III に引き続き、芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しずつ身につけます。
到達目標	辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。 フランス語の発音の知識を身につけ、正しい発音で発話や朗読ができる。
授業方法と留意点	毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それらにまつわる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度配布します。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。
科目学習の効果 (資格)	フランス語検定 5 級～4 級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの諸文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
	2	ココ・シャネルと服飾について (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	3	ココ・シャネルと服飾について (2)。	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	4	フランスの映画について (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	5	フランスの映画について (2)。	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	6	『レ・ミゼラブル』について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	7	『レ・ミゼラブル』について (2)	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	8	フランスの世界遺産について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	9	フランスの世界遺産について (2)	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	11	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	13	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語訳) または映像 (日本語字幕あり) の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	15	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①期末試験は実施しません。 ②評価はすべて平常点によって行います (授業中の取り組み)。 (1) 授業中の取り組み (会話等)・・・50% (2) 取り扱ったテーマや自分で選んだテーマに関するレポート・・・50%
-----------	---

学生へのメッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもつていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません。
-----------	--

	なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。 オンライン授業の特性を活かして、受講者個々のレベルに応じた授業内容とする予定です。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。 事前・事後学習に少なくとも各1時間をかけることを求めます。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。																																																																		
授業方法と留意点	授業中に多くの小テストや中規模程度の試験を実施し、学習した知識を定着させていく。 毎授業後、復習をしておくことが望ましい。 また授業は毎回既習事項を土台としながら進んでいくので、できるだけ休まないこと。 授業で出題した課題に対しては、その媒体に応じた方法でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>韓国語とは</td><td>文字の仕組み</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>母音 1</td><td>基本母音</td><td>教科書 第 1 課</td></tr> <tr><td>3</td><td>母音 2</td><td>合成母音</td><td>教科書 第 1 課</td></tr> <tr><td>4</td><td>子音 1</td><td>基本子音</td><td>教科書 第 2 課</td></tr> <tr><td>5</td><td>子音 2</td><td>子音 (濃音・激音)</td><td>教科書 第 2 課</td></tr> <tr><td>6</td><td>文字の確認</td><td>反切表の整理と文字の確認</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>パッチム</td><td>終声について</td><td>教科書 第 3 課</td></tr> <tr><td>8</td><td>発音の変化 1</td><td>発音の変化</td><td>教科書 第 4 課</td></tr> <tr><td>9</td><td>発音の変化 2</td><td>発音の変化</td><td>教科書 第 4 課</td></tr> <tr><td>10</td><td>発音の変化の確認</td><td>発音の変化の確認</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>体言文 1</td><td>体言文 (平叙文)</td><td>教科書 第 5 課</td></tr> <tr><td>12</td><td>体言文 2</td><td>体言文 (疑問文)</td><td>教科書 第 5 課</td></tr> <tr><td>13</td><td>体言文 3</td><td>体言文 (否定文)</td><td>教科書 第 6 課</td></tr> <tr><td>14</td><td>総確認</td><td>総確認</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>韓国語の実際</td><td>韓国のドラマのセリフを聞いてみる</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の仕組み		2	母音 1	基本母音	教科書 第 1 課	3	母音 2	合成母音	教科書 第 1 課	4	子音 1	基本子音	教科書 第 2 課	5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第 2 課	6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認		7	パッチム	終声について	教科書 第 3 課	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第 4 課	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第 4 課	10	発音の変化の確認	発音の変化の確認		11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第 5 課	12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第 5 課	13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第 6 課	14	総確認	総確認		15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の仕組み																																																																	
2	母音 1	基本母音	教科書 第 1 課																																																																
3	母音 2	合成母音	教科書 第 1 課																																																																
4	子音 1	基本子音	教科書 第 2 課																																																																
5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第 2 課																																																																
6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認																																																																	
7	パッチム	終声について	教科書 第 3 課																																																																
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第 4 課																																																																
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第 4 課																																																																
10	発音の変化の確認	発音の変化の確認																																																																	
11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第 5 課																																																																
12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第 5 課																																																																
13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第 6 課																																																																
14	総確認	総確認																																																																	
15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる																																																																	
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>おはよう韓国語 1</td><td>崔柄珠</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	規定の出席率をクリアすることは必須条件であり、学習態度、課題 (宿題) の出来、小テスト、中規模程度テストの出来を、総合的に判断して評価する。 授業内の小・中規模の試験の総合評価 (70%)、学習態度や課題 (30%)。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	学期中は授業外で計 30 時間以上の学習を求める。																																																																		

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めると、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなつてほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。 授業で出題した課題に対しては、その媒体に応じた方法でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
	2	ハングル 1	基本子音 5 つ、基本母音 6 つを組み合わせて出来る 30 文字を読み書きする。そして 30 文字でできる単語を学ぶ。	復習：テキスト p 16－19 (1 時間) 予習：p 25 (0.5 時間)
	3	ハングル 2	p 18 単語テスト (発音記号、意味) 重母音 4 つ、基本子音 5 つを学ぶ。これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて 100 文字を読み書きの練習 100 文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	復習：テキスト p 20－27 (1 時間) 予習：p 28 (0.5 時間)
	4	ハングル 3	p 25 単語テスト (発音記号、意味) 二重母音 5 つ、激音子音 4 つ、濃音子音 5 つを学び、単語を勉強する。	復習：テキスト p 35 (1 時間) 予習：p 30、p 36 (0.5 時間)
	5	ハングル 4	p 35 単語テスト (発音記号、意味) 複雑な二重母音 6 つ、濃音について学ぶ。 自分の名前と家族や友達の名 3 をハングルで書いてみる	復習：テキスト p 29 (1 時間) 予習：ひらがな表の発音をハングルに置き換えるプリントを完成する (0.5 時間)
	6	子音 19、母音 15 を覚えよう 1	p 29 単語テスト (発音記号、意味) 韓国で使っている外来語を読んで意味を推測してみる。 ハングルを使ってラインをする。	復習：テキスト p 36 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
	7	子音 19、母音 15 を覚えよう 2	p 36 単語テスト (発音記号、意味) ハングルで出来たアンケート用紙を完成しながら、ラインを行う。	復習：テキスト p 30 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
	8	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	復習：テキスト p 43 (0.5 時間) 予習：p 44 (0.5 時間)
	9	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 43 単語テスト (発音記号、意味) パッチムの難しい外来語を読みながら意味を調べる	復習：テキスト p 44 (0.5 時間) 予習：p 47、p 48 (0.5 時間)
	10	ハングル文字の総まとめ	p 44 単語テスト (発音記号、意味) これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめる。 特に難しい発音の二重母音の単語のプリントを読みながら練習する	復習：p18、p25、p29、p 30、p 35、p 36、 43、p 44 (2 時間) 予習：p 49 (0.5 時間)
	11	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	ハングル総合単語テスト 「カンナさん大成功です！」 p 49、p 50 単語を辞書で調べる	復習：p 49、p 50 単語を覚える (1 時間)
	12	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」 音読テスト用の文書を配布	予習：音読テスト用の文書を読む練習 (1 時間)
	13	第 6 課 こんにちは。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	復習：テキスト p 55－59 (1 時間) 予習：7 種類の助詞表を書く (0.5 時間)
	14	前期総合まとめ	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。 こんにちは。 お名前は？ 職業は何ですか？ 日本人です。 学生です。 お会い出来て嬉しいです。 前期定期試験の準備	復習：テキスト p 16－59 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える 自己紹介の会話 音読テストの準備 (3 時間)

	15	まとめ	前期定期試験	
関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1－1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、毎回の課題提出、小テスト 50% 音読試験 50%			
学生への メッセージ	語学の勉強において、毎回の授業を欠かさず参加することはとても重要です。したがって、出席のチェックは厳しく行います。 全 15 回の授業中、3 回以上欠席すると単位取得は不可能ですので、ご注意ください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	質問がある場合はメールしてください。 myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337el		

授業概要・目的	本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、さらに日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。																																																																		
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を身につけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業中に多くの小テストや中規模程度の試験を実施し、学習した知識を定着させていく。 毎授業後、復習をしておくことが望ましい。 また授業は毎回既習事項を土台としながら進んでいくので、できるだけ休まないこと。 授業で出題した課題に対しては、その媒体に応じた方法でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	韓国語を通して韓国の社会や文化への理解を深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習（1）</td><td>文字の復習</td><td>1、2 課</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習（2）</td><td>パッチム、発音ルールの復習</td><td>3、4 課</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習（3）</td><td>体言文の復習</td><td>5 課、6 課</td></tr> <tr><td>4</td><td>数詞</td><td>漢数詞と固有数詞</td><td>8、9 課</td></tr> <tr><td>5</td><td>助数詞、時制を表す表現</td><td>助数詞、時制を表す表現</td><td>8、9 課</td></tr> <tr><td>6</td><td>体言文と時制を表す表現の練習</td><td>体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>まとめ</td><td>前半のまとめと確認</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>用言の です・ます 形と助詞（1）</td><td>公的で固い表現の です・ます 形と助詞</td><td>7 課</td></tr> <tr><td>9</td><td>用言の です・ます 形と助詞（2）</td><td>公的で固い表現の です・ます 形と助詞</td><td>7 課</td></tr> <tr><td>10</td><td>用言の です・ます 形を使った作文</td><td>公的で固い表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>用言の です・ます 形（3）</td><td>日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（1）（基本編）</td><td>8 課</td></tr> <tr><td>12</td><td>用言の です・ます 形（4）</td><td>日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（2）（様々な縮約形）</td><td>9 課</td></tr> <tr><td>13</td><td>用言の です・ます 形（5）</td><td>日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（3）（様々な縮約形）</td><td>9 課</td></tr> <tr><td>14</td><td>用言の です・ます 形を使った作文</td><td>日常使いのやわらかい表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>後半のまとめと確認</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習（1）	文字の復習	1、2 課	2	前期の復習（2）	パッチム、発音ルールの復習	3、4 課	3	前期の復習（3）	体言文の復習	5 課、6 課	4	数詞	漢数詞と固有数詞	8、9 課	5	助数詞、時制を表す表現	助数詞、時制を表す表現	8、9 課	6	体言文と時制を表す表現の練習	体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文		7	まとめ	前半のまとめと確認		8	用言の です・ます 形と助詞（1）	公的で固い表現の です・ます 形と助詞	7 課	9	用言の です・ます 形と助詞（2）	公的で固い表現の です・ます 形と助詞	7 課	10	用言の です・ます 形を使った作文	公的で固い表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習		11	用言の です・ます 形（3）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（1）（基本編）	8 課	12	用言の です・ます 形（4）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（2）（様々な縮約形）	9 課	13	用言の です・ます 形（5）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（3）（様々な縮約形）	9 課	14	用言の です・ます 形を使った作文	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習		15	まとめ	後半のまとめと確認	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習（1）	文字の復習	1、2 課																																																																
2	前期の復習（2）	パッチム、発音ルールの復習	3、4 課																																																																
3	前期の復習（3）	体言文の復習	5 課、6 課																																																																
4	数詞	漢数詞と固有数詞	8、9 課																																																																
5	助数詞、時制を表す表現	助数詞、時制を表す表現	8、9 課																																																																
6	体言文と時制を表す表現の練習	体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文																																																																	
7	まとめ	前半のまとめと確認																																																																	
8	用言の です・ます 形と助詞（1）	公的で固い表現の です・ます 形と助詞	7 課																																																																
9	用言の です・ます 形と助詞（2）	公的で固い表現の です・ます 形と助詞	7 課																																																																
10	用言の です・ます 形を使った作文	公的で固い表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習																																																																	
11	用言の です・ます 形（3）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（1）（基本編）	8 課																																																																
12	用言の です・ます 形（4）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（2）（様々な縮約形）	9 課																																																																
13	用言の です・ます 形（5）	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形（3）（様々な縮約形）	9 課																																																																
14	用言の です・ます 形を使った作文	日常使いのやわらかい表現の です・ます 形と助詞を使った作文練習																																																																	
15	まとめ	後半のまとめと確認																																																																	
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>おはよう韓国語 1</td><td>崔柄珠</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	規定の出席率をクリアすることは必須条件であり、学習態度、課題（宿題）の出来、小テスト、中規模程度テストの出来を、総合的に判断して評価する。 授業内の小・中規模の試験の総合評価（70%）、学習態度や課題（30%）。																																																																		
学生へのメッセージ	基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などでもできるように、頑張って学んでいきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	学期中は授業外で計 30 時間以上の学習を求める。																																																																		

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337el		

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。 一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。 授業で出題した課題に対しては、その媒体に応じた方法でフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第6課 こんにちは。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。 助詞〜がについて練習。	予習：p 5 2、5 3 読む練習（0.5 時間）
	2	第6課 はじめまして。	p 5 2 会話文を読みながら練習。 「こんにちは」と「さようなら」を学ぶ。 名前はなんですか？ 職業はなんですか？ 何人ですか？	復習：国の名前、何人、何語を覚える。 6 章で学んだ単語を覚える（1 時間） 予習：p 5 5、単語の意味を調べる（0.5 時間）
	3	第7課 はじめまして。	6 章の単語テスト どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 ―はについて練習。	復習：テキスト p 5 8 （1 時間） 予習：p 6 2、6 3（0.5 時間）
	4	第7課 はじめまして。	初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。 P 6 7 自己紹介の作文を読んで読解	復習：第7課の単語テスト勉強 （1 時間） 予習：p 7 0（0.5 時間）
	5	第8課 これは何ですか？	第7課の単語テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 疑問詞を勉強する。 家族構成員について学ぶ。	復習：テキスト p 7 0-7 2 家計図を覚える（1 時間） 予習：p 7 4 単語の意味を調べる（0.5 時間）
	6	第8課 これは何ですか？	p 7 2 家族構成員の単語小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞ーのについて学ぶ。	復習：p 7 4-7 6（0.5 時間） 予習：p 7 9 読む（0.5 時間）
	7	第8課 これは何ですか？	テキスト p 7 6 会話練習をもう一度する。 「私の家族」の作文を読解し、問題に答える。 テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。 8 課ワークプリント	復習：8 課の単語を全て覚えてくる。（1 時間） 予習：テキスト p 8 2 読んでくる（0.5 時間）
	8	第9課 週末に何をしますか？	第8課の単語テスト 動詞、形容詞の終止形を勉強する。 助詞〜を、〜にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞、形容詞 25 個の終止形活用について学ぶ。	復習：動詞の活用の練習プリント（1 時間） 予習：p 8 3（0.5 時間）
	9	第9課 週末に何をしますか？	動詞の活用の練習プリントの小テスト p 8 2-8 5 “一と一緒に”という言い方を練習する。	復習：p 8 2-8 5（0.5 時間） 予習：p 8 6、8 7 読む（0.5 時間）
	10	第9課 週末に何をしますか？	動詞、形容詞の終止形を使った作文をする。 時を表す単語を覚える。 9 課ワークプリント	復習：9 課全体（1 時間） 予習：p 9 5 数字（0.5 時間）
	11	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	9 課単語テスト 5 桁の数字の読み書きが出来るように練習する。 位置関係の言葉覚える。	復習：p 9 6 単語を覚える（0.5 時間） 予習：p 9 4 読む（0.5 時間）
	12	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	位置関係の言葉小テスト 5 桁の漢数字を練習する。 p 9 4-p 9 6	復習：p 9 4-9 6（0.5 時間） 予習：p 9 7、p 9 8 読む（0.5 時間）
	13	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	前回の授業で新しく学んだ5桁の数字の小テスト。 位置関係の言葉を練習。 ここはどこですか？どこに何がありますか？	復習：p 9 4-9 6（0.5 時間） 予習：p 9 7、p 9 8 読む（0.5 時間）
	14	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	5 桁の数字の練習 p 9 8-101	復習：10 課全体単語テスト勉強（1 時間） 予習「自己紹介」200 文字作文（1 時間）
	15	第11課 電話番号は何番ですか？	10 課全体単語テスト 助詞ーは、ーも、ーのみの使い方を練習	復習：7 課～11 課まで 5 桁の漢数字

		後期総合まとめ	する。 200 文字の自己紹介をチェック 後期授業の内容整理し、復習をする。	200 文字の自己紹介 (3 時間)
関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1－1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、ワークプリント 50 % 授業中の小テスト 50%			
学生への メッセージ	前期同様、3 回以上の欠席は、単位取得が不可能です。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	メール アドレス： myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅲ	科目名 (英文)	Korean III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01338e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成することを目的とします。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ文法事項や単語の上に学習を積み重ねますので、基礎を学んでいることは必須です。 教科書は『改訂版 バランセ韓国語 中級』（金京子著、朝日出版社、2016 年）を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。																																																																		
到達目標	ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成する。 ①検定 4 級に必要な文法事項・単語力 ②検定 4 級に対応できる読解力と作文能力 ③検定 4 級に対応できるリスニング力 ④検定 4 級程度の発話力																																																																		
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねて下さい。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。 3) 適宜プリントを配布します。 4) フィードバックは基本的に授業内に行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、成績評価、学習方法</td><td>授業内容の復習 (60 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 1 課「卒業して留学するつもりです」</td><td>並列 逆説 意図</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 1 課「卒業して留学するつもりです」</td><td>並列 逆説 意図</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 2 課「自己紹介をします」</td><td>理由・前提動作 引用・伝聞 様態</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 2 課「自己紹介をします」</td><td>理由・前提動作 引用・伝聞 様態</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 3 課「小説家が夢ですって？」</td><td>反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 3 課「小説家が夢ですって？」</td><td>反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめと理解度確認テスト</td><td>第 1～3 課の内容</td><td>第 1～3 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 4 課「よく眠れませんでした」</td><td>不可能 根拠</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 4 課「よく眠れませんでした」</td><td>不可能 根拠</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」</td><td>仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」</td><td>仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 6 課「メールアドレスも教えてください」</td><td>連用形 ティグッ変則用言</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 6 課「メールアドレスも教えてください」</td><td>連用形 ティグッ変則用言</td><td>文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>期末のまとめと理解度確認テスト</td><td>第 4～6 課の内容</td><td>第 4～6 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)	2	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	3	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	4	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	5	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	6	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	7	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 1～3 課の内容	第 1～3 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)	9	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	10	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	11	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	12	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	13	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグッ変則用言	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	14	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグッ変則用言	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)	15	期末のまとめと理解度確認テスト	第 4～6 課の内容	第 4～6 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)																																																																
2	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
3	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
4	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
5	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
6	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
7	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 1～3 課の内容	第 1～3 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)																																																																
9	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
10	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
11	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
12	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
13	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグッ変則用言	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
14	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグッ変則用言	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)																																																																
15	期末のまとめと理解度確認テスト	第 4～6 課の内容	第 4～6 課の復習／理解度確認テストの準備 (120 分)																																																																
関連科目	「韓国語Ⅰ・Ⅱ」など韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版 バランセ韓国語 中級</td><td>金京子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版</td><td>油谷幸利 ほか編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利 ほか編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利 ほか編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	宿題の達成度 10% 小テスト 20% 中間の理解度確認テスト 35%																																																																		

	期末の理解度確認テスト 35%
学生への メッセージ	「韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ文法事項や単語を復習しながら授業を受けるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室
備考	質問は、授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付けます。Teams やメールで質問してくれてもかまいません。

科目名	韓国語Ⅳ	科目名 (英文)	Korean IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01339e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成することを目的としている。 「韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「韓国語Ⅲ」で学んだ文法事項や単語の上に学習を積み重ねていく。 教科書は『改訂版 バランセ韓国語 中級』（金京子著、朝日出版社、2016 年）を使用。																																																																		
到達目標	到達目標 ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成する。 ①検定 4 級に必要な文法事項・単語力 ②検定 4 級に対応できる読解力と作文能力 ③検定 4 級に対応できるリスニング力 ④検定 4 級程度の発話力																																																																		
授業方法と留意点	授業中に多くの小テストや中規模程度の試験を実施し、学習した知識を定着させていく。 毎授業後、復習をしておくことが望ましい。 また授業は毎回既習事項を土台としながら進んでいくので、できるだけ休まないこと。 授業で出題した課題に対しては、その媒体に応じた方法でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、成績評価、学習方法</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 7 課「休日は何をして過ごしますか」</td><td>連体形① ～でも (助詞)</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 7 課「休日は何をして過ごしますか」</td><td>連体形① ～でも (助詞)</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」</td><td>動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」</td><td>動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 9 課「遊びに行ってもいいですか」</td><td>連体形② ～(し)ても</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 9 課「遊びに行ってもいいですか」</td><td>連体形② ～(し)ても</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめと理解度確認テスト</td><td>第 7～9 課の内容</td><td>第 7～9 課の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」</td><td>未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」</td><td>未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課「私も運動をしなければなりません」</td><td>未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 11 課「私も運動をしなければなりません」</td><td>未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」</td><td>お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」</td><td>お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則</td><td>文法事項・語彙の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習した文法事項等のポイント整理と理解度確認</td><td>第 10 課～12 課の内容</td><td>10 課～12 課の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習	2	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習	3	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習	4	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習	5	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習	6	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習	7	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習	8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 7～9 課の内容	第 7～9 課の復習	9	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習	10	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習	11	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習	12	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習	13	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習	14	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習	15	学習した文法事項等のポイント整理と理解度確認	第 10 課～12 課の内容	10 課～12 課の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習																																																																
2	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習																																																																
3	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習																																																																
4	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習																																																																
5	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習																																																																
6	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習																																																																
7	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習																																																																
8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 7～9 課の内容	第 7～9 課の復習																																																																
9	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習																																																																
10	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習																																																																
11	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習																																																																
12	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習																																																																
13	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習																																																																
14	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習																																																																
15	学習した文法事項等のポイント整理と理解度確認	第 10 課～12 課の内容	10 課～12 課の復習																																																																
関連科目	「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」など韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版 バランセ韓国語 中級</td><td>金京子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版</td><td>油谷幸利ほか編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	規定の出席率をクリアすることは必須条件であり、学習態度、課題 (宿題) の出来、小テスト、中規模程度テストの出来を、総合的に判断して評価する。 授業内の小・中規模の試験の総合評価 (70%)、学習態度や課題 (30%)。																																																																		
学生への	「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ文法事項や単語を復習しながら授業を受けること。																																																																		

メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	学期中は授業外で計 3 0 時間以上の学習を求める。 質問は授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ意義を考える。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。
	2	ニュース検定 3 級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	ニュース検定 3 級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	ニュース検定 3 級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	ニュース検定 3 級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	ニュース検定 3 級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	ニュース検定 3 級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	ニュース検定 3 級対策⑦	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	・前回の確認小テスト ・中間確認テスト	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
	10	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受験する。	検定に向けて学習する。
	11	学生発表①	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	12	学生発表②	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	13	学生発表③	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	14	学生発表④	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編』		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。			

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	米沢 竜也
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を考える。	授業の進め方についての説明 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答（1時間）
	2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	8	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テスト（小テスト・授業内容にもとづく）を行う 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの復習（1時間）
	9	最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストの解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	「ニュース時事能力検定」受験に向けた準備学習を行う（2時間）
	11	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	12	学生による時事問題発表（1）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	13	学生による時事問題発表（2）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	14	学生による時事問題発表（3）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	15	最終確認テスト	最終確認テスト（これまでの小テスト・授業内容にもとづく）を行う	小テスト・授業内容を復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	2022 ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編	毎日新聞社
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		

	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。			

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法。 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	時事問題を学ぶ大切さを知る。 ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 テキスト、練習問題の復習。
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (4月27日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月4日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月11日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月18日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月25日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (6月1日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (6月8日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	9	中間確認テスト	オンライン授業の場合、中間確認テストにかえて中間確認課題を課す。	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	10	「ニュース時事能力検定」受験（予定）	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する。
	11	プレゼンテーションに向けて	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なレジユメの作成およびプレゼンテーションの実践方法を概説する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	12	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジユメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	13	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジユメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	14	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジユメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	15	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジユメを作成する。最終確認テストにかえてプレゼンテーション用のレジユメの提出を「最終確認課題」とする。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。

関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50％ 小テスト 10％ 中間・最終確認テスト 20％ ニュース時事能力検定成績 20％							
学生への メッセージ								
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）							
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。							

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト 復習	最終確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる これまでの復習をする
関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基		毎日新聞社

		礎編		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名 (英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。																																																																		
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。																																																																		
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。 受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィー																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 準2級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース</td><td>・時事問題を学ぶ意義を考える。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ニュース検定準2級対策①</td><td>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ニュース検定準2級対策②</td><td>・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ニュース検定準2級対策③</td><td>・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ニュース検定準2級対策④</td><td>・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ニュース検定準2級対策⑤</td><td>・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ニュース検定準2級対策⑥</td><td>・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間確認テスト</td><td>・中間確認テスト</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>「ニュース時事能力検定」受験</td><td>・「ニュース時事能力検定」を受験する。</td><td>・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>学生発表①</td><td>・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。</td><td>検定に向けて学習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>学生発表②</td><td>・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>学生発表③</td><td>・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>学生発表④</td><td>・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学生発表⑤</td><td>・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>最終確認テスト</td><td>・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。</td><td>・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ意義を考える。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。	2	ニュース検定準2級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	3	ニュース検定準2級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	4	ニュース検定準2級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	5	ニュース検定準2級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	6	ニュース検定準2級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	7	ニュース検定準2級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	8	中間確認テスト	・中間確認テスト	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	9	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受験する。	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。	10	学生発表①	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	検定に向けて学習する。	11	学生発表②	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。	12	学生発表③	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。	13	学生発表④	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。	14	学生発表⑤	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。	15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ意義を考える。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。																																																																
2	ニュース検定準2級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
3	ニュース検定準2級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
4	ニュース検定準2級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
5	ニュース検定準2級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
6	ニュース検定準2級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
7	ニュース検定準2級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
8	中間確認テスト	・中間確認テスト	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる																																																																
9	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受験する。	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。																																																																
10	学生発表①	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	検定に向けて学習する。																																																																
11	学生発表②	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。																																																																
12	学生発表③	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。																																																																
13	学生発表④	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。																																																																
14	学生発表⑤	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。																																																																
15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。																																																																
関連科目	時事問題Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『2022 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編』</td><td></td><td>毎日新聞社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『2022 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編』		毎日新聞社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『2022 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編』		毎日新聞社																																																																
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 メール等での対応方法については、授業中に指示する。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準 2 級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 準 2 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法。 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	時事問題を学ぶ大切さを知る。 ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 テキスト、練習問題の復習。
	2	授業の目的と方法（つづき）。 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	8	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。 検定に向けて学習する。
	9	「ニュース時事能力検定」受験（予定）	「ニュース時事能力検定」を受検する。	配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。 検定に向けて学習する。
	10	プレゼンテーションに向けて	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。 「最終確認テスト」は第 10 回から第 15 回におこなうプレゼンテーションおよびレジュメの提出をもって行うこととする。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成の準備。
	11	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ提出。
	12	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ提出。
	13	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ提出。
	14	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ提出。

	15	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジюмеを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジюме提出。
関連科目	時事問題Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2022 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加度（発言、発表など） 50％ 小テスト（オンライン授業の場合課題提出で代替する） 10％ 中間・最終確認テスト（オンライン授業の場合中間課題・最終課題の提出をもって代替する） 20％ ニュース時事能力検定成績 20％			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 メール等での対応方法については、授業中に指示する。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	米沢 竜也
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	授業の進め方についての説明 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答（1時間）
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	8	中間確認テスト	中間確認テスト（小テスト・授業内容にもとづく）を行う 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの回答・復習（1時間）
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	「ニュース時事能力検定」受験に向けた準備学習を行う（2時間）
	10	学生による時事問題発表	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	11	学生による時事問題発表	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	12	学生による時事問題発表	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	13	学生による時事問題発表	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	14	学生による時事問題発表	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	15	最終確認テスト 復習	最終確認テスト（これまでの小テスト・授業内容にもとづく）を行う	小テスト・授業内容を復習する

関連科目	時事問題Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	2022年度ニュース検定公式テキスト 発展編	毎日新聞社
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
			出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 メール等での対応方法については、授業中に指示する。			

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1351a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・軽運動</td><td>ストレッチ、軽度のエクササイズ</td><td>事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）	2	・軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	3	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）	4	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）	5	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）	6	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	7	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	8	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	9	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	10	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）																																																																
2	・軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
3	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）																																																																
4	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）																																																																
5	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）																																																																
6	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
7	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
8	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
9	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
10	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点50％、技能点25％、態度点25％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。																																																																		

	1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1352a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
	4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
----------	---

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	健康論	科目名 (英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LPH1331a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16
到達目標	(1) 現代社会における健康問題について理解できる。 (2) 健康づくりのための基礎知識を習得し、健康保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 (3) 持続可能な社会を実現するためにスポーツの効果や影響力を活用するための基本的な知識を身につけている。 (4) 身近な社会問題や健康づくりをテーマに議論することで、主体的に学び続ける態度を身につけている。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。また、テーマに沿った議題についてディスカッションを行ったり、自らの考えをプレゼンテーションする機会を取り入れる。小レポートを課す。授業内にフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康について	オリエンテーション スポーツと健康とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間以上)
	2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	3	運動習慣が身体機能にもたらす効果	動物としての人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が健康におよぼす影響について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	7	睡眠・休息・ストレス	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する。 またストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	8	人類と感染症	ウイルスや感染症に関する基礎知識を学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	9	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識	安全に運動をするための基礎知識を学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	10	スポーツの意義と社会的役割①	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツを通じた国際貢献や経済効果について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	11	スポーツの意義と社会的役割②	オリンピック、パラリンピックなどの国際大会を題材にスポーツを通じて多様性を理解し、共生社会のあり方について考える (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)
	12	スポーツと SDGs (1)	SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの価値や可能性について調べる (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)
	13	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性についてグループで発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	14	スポーツと SDGs (3)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性についてグループで発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	15	スポーツと健康まとめ	授業のまとめ 今後の健康づくりの取り組みや持続可能な社会実現に向けた	事前：指定されたテーマについて予習する (2 時間以上)

			取り組みへの関わり方について考える (レポート)	事後：生涯にわたり自身の健康づくりの取り組みを 実践する
関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
	2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子 他	道和書院
	3			
評価方法 (基準)	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）			
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けてスポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。グループディスカッションや発表 にも積極的に参加しましょう。			
担当者の 研究室等	総合体育館１F 瀬川研究室			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	人間の探求	科目名 (英文)	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1301a1		

授業概要・目的	人間は古来から、その時代や地域に特有の仕方では思想的な探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。 本授業の第一部（第1-8回）では、人間の思索活動の歴史の諸相を「宿命」を「選択」に変化させる傾向（cf. ピーター・バーガー著『異端の時代』）という観点から振り返る。その際、M・ハイデガーの近代論に着目し、近代以降の時代状況に「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、複雑化し、新たな「宿命」となる」という観点から追う。 第二部（第9-15回）では、上記の「宿命」を「選択」に変化させる傾向を日本という地理的な視点から捉え直す。																																																																		
到達目標	この授業を通して、 ① 過去との比較により、現代の時代状況、社会構造についての考察を深めること また、そうすることで、 ② 現代人が近代化の過程で何を失って何を得たのか、今後何を取り戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかを、各々が再考することを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用して、哲学、思想、宗教、近代性に関する講義原稿と課題読書を配布します（毎回、ある程度の読書量があるので、頑張ってください）。 授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題（選択問題 10-20 問）に答えてもらいます。 【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>世界の思想的変遷（1）：人類の5つの革命</td><td>・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』</td><td>予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界の思想的変遷（2）：古い神話、新しい神話</td><td>・マイケル・ヴィツェル ・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>世界の思想的変遷（3）：古代ギリシア、古代中国、古代インドの神話</td><td>・ヘシオドス、ホメロス ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>世界の思想的変遷（4）：「枢軸の時代」（1）：中国、インド哲学</td><td>・諸子百家 ・『ウパニシャッド』 ・「ブッダの開教」</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>5</td><td>世界の思想的変遷（5）：「枢軸の時代」（2）：古代ギリシア</td><td>・ヒポクラテス「神聖病について」 ・プラトン『ゴルギアス』</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>世界の思想的変遷（6）：「枢軸の時代」（3）：ユダヤ教（キリスト教）と終末論</td><td>・新約聖書 ・旧約聖書</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>7</td><td>世界の思想的変遷（7）：近代の開始（1）：ルネサンス、宗教改革、科学革命</td><td>・『自然に関する諸問題』 ・『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>8</td><td>世界の思想的変遷（8）：近代の開始（2）：17、18世紀</td><td>・モンテーニュ、ホッブズ、パスカル、デカルト、ルソー</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本の思想的変遷（1）：神以前のガミ、組織化された神話的世界、律令制</td><td>・『古事記』</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本の思想的変遷（2）：日本の仏教的世界観</td><td>・『無量寿経』、『歎二抄』、『正法眼蔵随聞記』</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本の思想的変遷（3）：儒教と日本</td><td>・孔子、朱熹、王陽明、中江藤樹、荻生徂徠</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>12</td><td>日本の思想的変遷（4）：西洋文明との邂逅</td><td>・西村茂樹、福沢諭吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本の思想的変遷（5）：1960年以前、以後</td><td>・宮本常一 ・内山節</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総論（1）：「交換価値」優位の社会の諸問題（1）</td><td>・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン</td><td>1に同じ</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総論（2）：「交換価値」優位の社会の諸問題（2）</td><td>・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン</td><td>1に同じ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	世界の思想的変遷（1）：人類の5つの革命	・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること	2	世界の思想的変遷（2）：古い神話、新しい神話	・マイケル・ヴィツェル ・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話	1に同じ	3	世界の思想的変遷（3）：古代ギリシア、古代中国、古代インドの神話	・ヘシオドス、ホメロス ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』	1に同じ	4	世界の思想的変遷（4）：「枢軸の時代」（1）：中国、インド哲学	・諸子百家 ・『ウパニシャッド』 ・「ブッダの開教」	1に同じ	5	世界の思想的変遷（5）：「枢軸の時代」（2）：古代ギリシア	・ヒポクラテス「神聖病について」 ・プラトン『ゴルギアス』	1に同じ	6	世界の思想的変遷（6）：「枢軸の時代」（3）：ユダヤ教（キリスト教）と終末論	・新約聖書 ・旧約聖書	1に同じ	7	世界の思想的変遷（7）：近代の開始（1）：ルネサンス、宗教改革、科学革命	・『自然に関する諸問題』 ・『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』	1に同じ	8	世界の思想的変遷（8）：近代の開始（2）：17、18世紀	・モンテーニュ、ホッブズ、パスカル、デカルト、ルソー	1に同じ	9	日本の思想的変遷（1）：神以前のガミ、組織化された神話的世界、律令制	・『古事記』	1に同じ	10	日本の思想的変遷（2）：日本の仏教的世界観	・『無量寿経』、『歎二抄』、『正法眼蔵随聞記』	1に同じ	11	日本の思想的変遷（3）：儒教と日本	・孔子、朱熹、王陽明、中江藤樹、荻生徂徠	1に同じ	12	日本の思想的変遷（4）：西洋文明との邂逅	・西村茂樹、福沢諭吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治	1に同じ	13	日本の思想的変遷（5）：1960年以前、以後	・宮本常一 ・内山節	1に同じ	14	総論（1）：「交換価値」優位の社会の諸問題（1）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	1に同じ	15	総論（2）：「交換価値」優位の社会の諸問題（2）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	1に同じ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	世界の思想的変遷（1）：人類の5つの革命	・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること																																																																
2	世界の思想的変遷（2）：古い神話、新しい神話	・マイケル・ヴィツェル ・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話	1に同じ																																																																
3	世界の思想的変遷（3）：古代ギリシア、古代中国、古代インドの神話	・ヘシオドス、ホメロス ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』	1に同じ																																																																
4	世界の思想的変遷（4）：「枢軸の時代」（1）：中国、インド哲学	・諸子百家 ・『ウパニシャッド』 ・「ブッダの開教」	1に同じ																																																																
5	世界の思想的変遷（5）：「枢軸の時代」（2）：古代ギリシア	・ヒポクラテス「神聖病について」 ・プラトン『ゴルギアス』	1に同じ																																																																
6	世界の思想的変遷（6）：「枢軸の時代」（3）：ユダヤ教（キリスト教）と終末論	・新約聖書 ・旧約聖書	1に同じ																																																																
7	世界の思想的変遷（7）：近代の開始（1）：ルネサンス、宗教改革、科学革命	・『自然に関する諸問題』 ・『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』	1に同じ																																																																
8	世界の思想的変遷（8）：近代の開始（2）：17、18世紀	・モンテーニュ、ホッブズ、パスカル、デカルト、ルソー	1に同じ																																																																
9	日本の思想的変遷（1）：神以前のガミ、組織化された神話的世界、律令制	・『古事記』	1に同じ																																																																
10	日本の思想的変遷（2）：日本の仏教的世界観	・『無量寿経』、『歎二抄』、『正法眼蔵随聞記』	1に同じ																																																																
11	日本の思想的変遷（3）：儒教と日本	・孔子、朱熹、王陽明、中江藤樹、荻生徂徠	1に同じ																																																																
12	日本の思想的変遷（4）：西洋文明との邂逅	・西村茂樹、福沢諭吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治	1に同じ																																																																
13	日本の思想的変遷（5）：1960年以前、以後	・宮本常一 ・内山節	1に同じ																																																																
14	総論（1）：「交換価値」優位の社会の諸問題（1）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	1に同じ																																																																
15	総論（2）：「交換価値」優位の社会の諸問題（2）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	1に同じ																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界哲学史	伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、 納富信留編	ちくま新書
	2	日本思想全史	清水正之著	ちくま新書
	3	時間の比較社会学	真木悠介著	岩波書店
評価方法 (基準)	Google Form によって提出してもらう各授業回の課題×15 回分で評価します。			
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1303a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するというのがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解できること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解できること。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とはどのような学問か？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	3	人類学の誕生 (2) : 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーと A・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ボアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
	10	構造主義 (1) : モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』と C・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	100%定期試験によって評価する（オンライン授業に変更された場合は定期試験に相当する「レポート課題」をもって代替する。レポート課題の内容は授業内で説明する）。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。			
学生への メッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください（対面状況を避けるべき際の質問に関しては Teams のチャットでお願いします）。 各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから 1 ページ程度で作ってみることを推奨します。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	事前事後の総学習時間の目安は 60 時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。 メール等での対応方法については、授業中に指示する。			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1304a1		

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、ことばの言語獲得、第二言語修得についても考察する。																																																																		
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心で行う。講義で用いる資料は、事前に moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。授業内で、ミニレポートのフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>言語とは何か 言語の機能</td><td>配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>こどもの言語発達 1</td><td>ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>こどもの言語発達 2</td><td>ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>単語の理解 1</td><td>単語の認知 心的辞書の構造</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>単語の理解 2</td><td>単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文の理解 1</td><td>文の理解とは 意味表象の形成</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文の理解 2</td><td>文理解の実験的研究</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文章理解 1</td><td>文章理解とは 一貫性の確立 照応解決</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文章理解 2</td><td>文章理解における推論 文章理解と知識</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>10</td><td>文章産出</td><td>作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>会話 1</td><td>会話の成立 対人配慮</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>12</td><td>会話 2</td><td>攻撃、皮肉 誤解</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>13</td><td>比喩の理解</td><td>比喩の理解と認知過程 比喩の機能</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第二言語習得 1</td><td>生活の中の学習</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第二言語修得 2</td><td>学校などでの学習</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備	2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備																																																																
2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回のミニレポート 50%, 期末レポート 50%																																																																		
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階																																																																		
備考	・各授業のはじめに、前回の「授業内レポート」から抜粋して紹介します。 ・事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。																																																																		

科目名	現代社会と法	科目名 (英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01405a2		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 法とは何か</td><td> ・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類 </td><td> ・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>2</td><td>憲法と法律（法令の種類）</td><td> ・法治国家と法の支配 ・国際社会と法 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>3</td><td>民法法①（不法行為法①）</td><td>学校における「いじめ」問題と法の役割</td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>4</td><td>労働法①</td><td> ・ブラック企業問題と労働者保護 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>5</td><td>刑事法①</td><td> ・裁判員裁判の仕組みとその問題点 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>6</td><td>刑事法②</td><td> ・犯罪の成立要件 ・スーパークー行為規制法の最前線 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>7</td><td>労働法②</td><td> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>8</td><td>民法法②（家族法①）</td><td> ・家族の範囲 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>9</td><td>民法法③（家族法②）</td><td> ・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>10</td><td>民法法④（家族法③）</td><td> ・離婚の法的効果 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>11</td><td>民法法⑤（家族法④）</td><td> ・離婚の手続き・親子関係と親権 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>12</td><td>民法法⑥（不法行為法②）</td><td> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>13</td><td>民法法⑦（財産法①）</td><td> ・賃貸住宅をめぐるトラブル敷金と敷引特約 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>14</td><td>民法法⑧（財産法②）</td><td> ・被災と住宅ローン減免の可否 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>15</td><td>刑事法②＋行政法＋民法法⑨</td><td> ・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・スーパークー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	9	民法法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	12	民法法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・スーパークー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
9	民法法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
12	民法法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新入生のためのリーガル・トピック 50</td><td>阿部昌樹・和田仁孝</td><td>法律文化社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。			
学生へのメッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考				

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01307a1		

授業概要・目的	憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。 この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。																																																						
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3点を達成することが期待されます。 (1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解し、分かりやすく説明できる。 (2) 具体的な事件について、裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討ができる。 (3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できる。																																																						
授業方法と留意点	・反転授業 予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません）。 ・その他 授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。																																																						
科目学習の効果（資格）	公務員試験ほか、資格試験各種で問われる憲法の基本的知識を習得できる。																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス・イントロダクション</td><td>授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) ＊ () 内は教科書該当箇所。</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>憲法の意義</td><td>・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統治機構総論</td><td>・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国会</td><td>国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>内閣</td><td>内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>裁判所</td><td>裁判所の地位と役割、組織 (Unit 9, 10)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>基本的人権各論 (1)</td><td>職業選択の自由と規制、公共の福祉 (Unit 21, 13)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>基本的人権各論 (2)</td><td>プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>基本的人権総論</td><td>人権の歴史、権利能力 (享有主体性)、人権の分類 (Unit 13)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>基本的人権各論 (3)</td><td>表現の自由の意義、二重の基準、名誉毀損 (Unit 17, 18)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>基本的人権各論 (4)</td><td>集会・結社の自由、公の施設、パブリック・フォーラム (Unit 20)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>基本的人権各論 (5)</td><td>信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)</td><td>事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) ＊ () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	2	憲法の意義	・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	3	統治機構総論	・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	4	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	5	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	6	裁判所	裁判所の地位と役割、組織 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	7	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制、公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	8	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	9	基本的人権総論	人権の歴史、権利能力 (享有主体性)、人権の分類 (Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準、名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由、公の施設、パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。	12	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) ＊ () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
2	憲法の意義	・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
3	統治機構総論	・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
4	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
5	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
6	裁判所	裁判所の地位と役割、組織 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
7	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制、公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
8	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
9	基本的人権総論	人権の歴史、権利能力 (享有主体性)、人権の分類 (Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準、名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由、公の施設、パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				
12	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。																																																				

				時間)。
	13	基本的人権各論 (6)	思想良心の自由, 日の丸・君が代訴訟 (Unit 14)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2時間)。
	14	基本的人権各論 (7)	生存権, 生活保護, 受給者の自動車利用 (Unit 24)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2時間)。
	15	平等原則	平等原則の意義, 合理的な差別, 差別 (Unit 27)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2時間)。
関連科目	行政法、民法、刑法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	START UP 憲法判例50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣
	2	授業中に適宜指示します。		
	3			
評価方法 (基準)	・毎回の授業で予習課題, 復習課題を課し, 授業の理解度 (課題の提出内容) を評価します (100%)。			
学生へのメッセージ	法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は, 憲法の条文, 原理や解釈がなぜそうなっているのか, という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また, 社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めています。			
担当者の研究室等	11号館9階 笛木講師室			
備考				

科目名	経済のしくみ	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01407a2		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10																																																																		
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大きな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>経済とは</td><td>経済の基本的な仕組みについて概説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦後日本経済の歩み (1)</td><td>終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>戦後日本経済の歩み (2)</td><td>高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>戦後日本経済の歩み (3)</td><td>高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>戦後日本経済の歩み (4)</td><td>安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>戦後日本経済の歩み (5)</td><td>バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>雇用のしくみ</td><td>企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>企業のしくみ</td><td>所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>授業内討論 (1) 日本の雇用問題</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>財政のしくみ (1)</td><td>日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>財政のしくみ (2)</td><td>日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会保障のしくみ</td><td>日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>授業内討論 (2) 日本の社会保障</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体の総括</td><td>講義内容の復習、期末レポートの作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本経済の常識</td><td>中原隆幸編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解雑学 資本主義のしくみ</td><td>八木紀一郎他</td><td>ナツメ社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版																																																																
2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (50%)、期末レポート (50%) で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートは Moodle 上で出題する。Moodle への登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。																																																																		
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質																																																																		

問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。
--

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01305a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信・課題等の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	社会科学の方法 (1)	第 1 章 比較政治学とは何か	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	社会科学の方法 (2)	第 1 章 比較政治学とは何か 第 2 章 制度論	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	社会科学の方法 (3)	第 2 章 制度論	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	政治制度 (1)	第 3 章 選挙制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	政治制度 (2)	第 4 章 執政制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	政治制度 (3)	第 5 章 政党制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	政治制度 (4)	第 6 章 議会制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	政治制度 (5)	第 7 章 官僚制	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	政治制度 (6)	第 8 章 司法制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	政治制度 (7)	第 9 章 中央銀行制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	政治制度 (8)	第 10 章 中央・地方関係制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	日本の政治制度 (1)	第 3 章 選挙制度 第 4 章 執政制度 第 5 章 政党制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	日本の政治制度 (2)	第 6 章 議会制度 第 7 章 官僚制 第 8 章 司法制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第 9 章 中央銀行制度 第 10 章 中央・地方関係制度	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・ 定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100％）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）			
学生への メッセージ	毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	組織と経営	科目名 (英文)	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01409a2		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。			
	[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。			
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる (DP2)。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる (DP2)。			
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。			
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。また、速やかに教科書の手配をしてください。
	2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題: 配付資料および教科書の第 1 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 1 章を 1 時間程度読むこと
	3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第 2 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 2 章を 1 時間程度読むこと
	4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと
	5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと
	6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと
	7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと
	8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを 1 対 1 で見る LMX とリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題: 配付資料を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料を 1 時間程度読むこと
	9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され (独立変数)、各々が何に影響を与えるのか (成果変数) について学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第 8 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 8 章を 1 時間程度読むこと
	10	小テスト①、解説	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題: これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習: 小テストの内容を 1 時間程度復習すること
	11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第 9 章を 1 時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第 9 章を 1 時間程度読むこと
	12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類がある	事前課題: 配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと

			のか等について学びます。	事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと																
	13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと																
	14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと																
	15	小テスト②、解説	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること																
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>人的資源管理</td><td>上林憲雄</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>経験から学ぶ人的資源管理</td><td>上林憲雄他</td><td>有斐閣ブックス</td></tr><tr><td>2</td><td>入門人的資源管理</td><td>奥林康司他</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス																	
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社																	
3																				
評価方法 (基準)	小テスト①40 点、小テスト②40 点、課題レポート 20 点、合計 100 点																			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(西之坊研究室)																			
備考																				

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付けることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に付けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜プリントを配布し、パワーポイント等映像資料を用いて理解の一助とする。授業終了後、授業内容に対する質問を提出すること。質問内容に応じて加点の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住まいの成り立ち 気候風土文化 花鳥風月 ～温暖で豊かな四季の国	日本の気候風土に適した木造住宅の特徴と発達を学び、日本人の心情や文化が住宅に反映する事例を知る。 全国の民家を概観する。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	2	日本の住まいの移り変わり (1) たてにあなを掘ると... ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	3	日本の住まいの移り変わり (2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	4	日本の住まいの移り変わり (3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	5	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活、および快適な生活を創る北欧デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	6	住まいのデザインを構成するもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	7	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリーの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	8	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活および厳しい環境下での快適な生活を創る工夫と持続可能な取り組みについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	10	住まいの成り立ち 気候風土文化 石積みの壁 ～自然を征服、永遠のモニュメント	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいの構造や特質について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	11	西洋の住まいの移り変わり (1) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅の建築、室内デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	12	西洋の住まいの移り変わり・世界 (2) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッション、グラスゴー派、モダニズム	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモダニズムについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	13	西洋の住まいの移り変わり	民衆のための合理的デザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		り・世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
関連科目	特になし																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」</td><td>コロナブックス編集部</td><td>平凡社</td></tr><tr><td>2</td><td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td><td>上田実・平地勲</td><td>平凡社</td></tr><tr><td>3</td><td>FURNITURE DESIGN 20 世紀の家具のデザイン</td><td>ゼンバツハ&ロイトホイザー＆ゲッセル</td><td>タッシェン・ジャパン</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20 世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー＆ゲッセル	タッシェン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20 世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー＆ゲッセル	タッシェン・ジャパン																	
評価方法 (基準)	定期試験 80% 授業への質問、授業への取り組み姿勢 20%																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみよう。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみよう。																			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																			
備考	試験は自筆ノート持ち込み可であるので、授業の板書、話の内容を毎回整理してまとめておくとうまい。 授業時間外への対応（メール等）については授業時に指示する。 事前事後の総学習時間の目安は 60 時間程度。																			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥川 あかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本講義では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学習し、基本的な知識を習得する。これらを基に、様々な時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	1. 日本と世界の住生活の多様性と歴史の変遷を生活文化に即して理解する 2. 住まいや居住地の環境と管理、防災の重要性について理解する 3. 住まいに関する基本的な知識を習得し、快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける 4. 日本の住宅や建築を踏まえて自国の文化について世界の人々とコミュニケーションがとれる 5. 良好なコミュニティの形成につながるまちづくりに参画する重要性を理解する 6. 持続可能な社会の構築を目指して真に豊かな住生活とは何かについて主体的に考えられる
授業方法と留意点	適宜プリントを配布し、教科書やスライド、映像資料、板書による講義を基本とする。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ひとの住まいについて	授業の進め方や受講上の留意点などのガイダンスを行う ひとの住まいとサステナブルな住まいについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	2	気候風土と住まい	気候や風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	3	世界の住まい(1)	世界の住まいの歴史や住生活文化について、原始から古代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	4	世界の住まい(2)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、中世から近世までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	5	世界の住まい(3)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、近代から現代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	6	日本の住まい(1)	住まいの歴史や住生活文化について、先史時代から奈良(堅穴住居、高床建物、平地住居)、平安貴族(寝殿造)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	7	日本の住まい(2)	住まいの歴史や住生活文化について、中世の支配階層(主殿造、書院造)から近世(武家住宅、町家、農家)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	8	日本の住まい(3)	近代(サラリーマン住宅、田園都市、集合住宅)の住まいの間取りや洋風化など、近代から現代の住生活文化を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	9	住まいと環境	温熱、光、音、空気、都市環境や色彩について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	10	住まいの管理	住まいの維持や管理として定期的なメンテナンス、管理と収納、家計や住居費について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	11	住まいの材料と構造	住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	12	住まいと福祉	高齢者や子どもを含む自立支援のための住まいづくりやユニバーサルデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	13	住まいの安全	住まいの安全と安心、住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	14	住まいのデザイン	住まいのインテリアやエクステリアと設計について学び、AI 化が進む情報化社会での暮らしやエコについて考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	15	総括	住まいとデザインのまとめと現代の住生活に関する課題や理解度の確認	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精選 住居学	後藤 久	実教出版

	2	図説 西洋建築史	陣内 秀信 他	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	試験：60%・課題の提出（小テストが行われる場合もある）：40% これらを合わせて総合的に評価を行う			
学生への メッセージ	建物や住宅に興味や関心をもち、街並みや空間にも目を向けてください。疑問があれば授業前後や授業中に質問してください。その他、参考文献や関連書籍は授業で適宜紹介します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。 教員との連絡方法（メール等）については授業中に指示する。			

科目名	食品機能学	科目名 (英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 貴生
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1311a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系（体調リズム）、神経系（精神の高揚や鎮静）などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。 SGDs-2, 3
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料に沿って、希望する学生は対面での受講可能な動画配信型授業（ハイフレックス方式）を行う。 中間試験および総合試験（筆記）に代わるまとめ課題を課す。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に Moodle 上で課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果（資格）	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能（栄養素）、二次機能（味、食感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物（糖）について、解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	8	難消化性食品成分	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	9	中間試験	第 1 回から第 8 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第 1 回から第 8 回までの内容を復習しておく。（1 時間）
	10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後に糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	15	総合試験（筆記）	第 10 回から第 14 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第 10 回から第 14 回までの内容を復習しておく。（1 時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 食品機能学	青柳 康夫 編	建帛社
	2	わかりやすい食品機能学第 2 版	森田英利・田辺創一 編著	東京化学同人
	3	食べ物と健康 食品の科学	太田英昭 他	南江堂

評価方法 (基準)	講義毎の課題 (30%)、中間試験 (35%) および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題 (35%) を総合的に判断して、評価を行う。
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席（またはオンラインによる受講）をしてください。
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科 1 号館 8 階 大橋講師室
備考	授業時の出席管理（出席および欠席）は、大学の規則に従って行います。 毎回必ず出席してください。 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけてください（総時間の目安は 30 時間）。

科目名	人体の構造と機能	科目名 (英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宇野 恭介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1312a1		

授業概要・目的	我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官（臓器）が出来ていること、さらにヒトという個体は 10 の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき（機能）について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。
到達目標	新聞・ニュース等にでてくるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。授業は対面で行う。小テストや教科書およびビデオ教材を参照に、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。小テストのフィードバックは授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約 60 兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
	8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	12	生殖器官・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器官の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	13	生殖器官系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器官のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	機能形態学	櫻田忍・櫻田司編	南江堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テストを 50%、習熟度試験を 50% で評価する
学生への	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

メッセージ	講義担当者<宇野恭介>は、薬剤師免許を有し臨床及び薬事行政の一端携わった経験がある。また、国立大学及び欧州研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。
担当者の研究室等	枚方学舎（薬学部）1号館3階 機能形態学研究室（宇野講師室）
備考	講義前の予習（教科書を読む1時間×15回）、復習（ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回）

科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1313a1		

授業概要・目的	地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる必要がある。このコースでは、自然科学に対しての知識の習得と、大局的な理解を目指す。国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。
到達目標	自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。プレゼンテーションや対話の技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビデオ教材を用いて講義を行う。 Moodle を使用するので、使えるようにしておくこと。 小テストのフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。Moodle を使った講義に違和感なく取り組めるようになる。アクティブラーニングを体験して、自ら学習できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自然科学とは何か 【入門編】	自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	2	天空の法則と地上での運動 【物理・1】	自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	3	ニュートンの法則 【物理・2】	ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	4	力学的エネルギー 【物理・3】	力学的エネルギーとは何かについて学習する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	5	光の性質と相互作用及び相対性理論 【物理・4】	相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	6	放射性物質と原子力 【物理・5】	原子核の中で起こる法則について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	7	基本的な化学の概念と化学結合 【化学・1】	化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (YouTube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	8	有機化学と化学反応 【化学・2】	有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニ

			自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	ツツペーパーを記入し、また予めMoodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	9	物質の性質と科学的新素材【化学・3】	物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	10	生命の発生と進化の戦略【生物・1】	生物の種類や成り立ち、生物進化の概略について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	11	生命の基本となる化学物質【生物・2】	生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	12	細胞と生体エネルギー【生物・3】	細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	13	i P S細胞と遺伝子治療【生物・4】	iPS 細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	14	なぜがんになるのかその 1【生物・5】	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	15	なぜがんになるのかその 2【生物・6】	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
関連科目	食品機能学、人体の構造と機能																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Moodle を利用し配布します。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moodle を利用し配布します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Moodle を利用し配布します。																			
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>やさしい基礎生物学</td><td>南雲保</td><td>羊土社</td></tr><tr><td>2</td><td>物理学入門 力と運動</td><td>武谷三男</td><td>ちくま文芸文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>はじめて学ぶ化学</td><td>野島 高彦</td><td>化学同人</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社	2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫	3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社																	
2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫																	
3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人																	
評価方法（基準）	毎回の小テスト（40%）、振り返りレポート（10%）、およびレポート、小論文、演習問題などの課題（50%）の総合点で評価する。ビデオ教材の視聴がされているかも確認し、成績評価（受講態度）に加える。																			
学生へのメッセージ	担当教員からのメッセージ： こんにちは！薬学部の大塚です。 自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。 毎回の授業の終わりに Moodle を用いて「ミニツツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間（5分間）を設け、理解の程度を把握すると同時に																			

	に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を
担当者の研究室等	枚方キャンパス 1 号館 5 階 大塚教授室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp
備考	詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。

科目名	ものづくり研究の世界	科目名 (英文)	Introduction to Manufacturing Technology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1314a1		

授業概要・目的	機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化、自動化を図る機械”の原理、性能、製作、利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は、機械力学、材料力学、熱力学、流体力学の4力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。 本講義は、機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより、機械工学の全体像を俯瞰しつつ、履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。
到達目標	・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り、機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・Web上で配布するテキスト (PDF) に目を通し、ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し、スライド資料を用いた講義を行う。(60分) ・講義メモと課題を作成し、指示に従って提出する。(30分) ・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。 ・切り替える日時や受講方法の連絡には Teams を使うので、注意しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・機械工学科の基本的な知識をを俯瞰的に知ることことができる。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき、受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機械工学の概要	・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割	M1 テキスト第1章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	2	道具と機械	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	M1 テキスト第2章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	3	いろいろな機械材料	・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会	M1 テキスト第3～5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	4	ものづくりの科学と技術	・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する	M1 テキスト第6～8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	5	作業を補助する機械	・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング	M1 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	6	機械をかしこくする	・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術	M1 テキスト第11章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	7	ミクロの機械	・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット	M1 テキスト第12～14章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	8	流れを利用する	・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用	M2 テキスト第2・3章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	9	陸上を移動する	・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送	M2 テキスト第4・5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	10	空間を移動する (1)	・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術	M2 テキスト第6章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	11	空間を移動する (2)	・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術	M2 テキスト第7・8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	12	計測する	・度量衡と政治 ・ものの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術	M2 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	13	制御する	・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術	M2 テキスト第11・12章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	14	生命・生体にならう	・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械 ・健康とスポーツのための機械 ・人間工学	M2 テキスト第13～15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
	15	工場見学 (バーチャル)	・Web上で公開されている国内外の工場の動画を視聴して、バーチャルな工場見	工場について事前に調べておく (2時間)、レポート作成 (1時間)、関連事項について調べる (1時間)

			学とする。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕			
備考	【フィードバック】採点済みの課題を確認することができます。			

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1315a1		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。 本講義では、生物（ヒトも含む）と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。																																																																		
到達目標	1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べるができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>2</td><td>地球環境史</td><td>人と環境の関わり方の歴史を知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文明と環境 1</td><td>人と環境の関わり方の歴史を知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文明と環境 2</td><td>人と環境の関わり方の歴史を知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>文明と環境 3</td><td>人と環境の関わり方の歴史を知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>6</td><td>食からみる環境 1</td><td>人と密接に関わる生物と環境について学ぶ</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>食からみる環境 2</td><td>人と密接に関わる生物と環境について学ぶ</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>8</td><td>食からみる環境 3</td><td>人と密接に関わる生物と環境について学ぶ</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>食からみる環境 4</td><td>人と密接に関わる生物と環境について学ぶ</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>10</td><td>生物と環境の多様な関係性 1</td><td>さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>生物と環境の多様な関係性 2</td><td>さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>12</td><td>生物と環境の多様な関係性 3</td><td>さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>13</td><td>生物と環境の多様な関係性 4</td><td>さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>14</td><td>生物と環境の多様な関係性 5</td><td>さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> <tr> <td>15</td><td>全体の総括</td><td>授業のまとめ</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	2	地球環境史	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	3	文明と環境 1	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	4	文明と環境 2	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	5	文明と環境 3	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	6	食からみる環境 1	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	7	食からみる環境 2	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	8	食からみる環境 3	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	9	食からみる環境 4	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	10	生物と環境の多様な関係性 1	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	11	生物と環境の多様な関係性 2	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	12	生物と環境の多様な関係性 3	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	13	生物と環境の多様な関係性 4	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	14	生物と環境の多様な関係性 5	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える	15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
2	地球環境史	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
3	文明と環境 1	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
4	文明と環境 2	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
5	文明と環境 3	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
6	食からみる環境 1	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
7	食からみる環境 2	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
8	食からみる環境 3	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
9	食からみる環境 4	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
10	生物と環境の多様な関係性 1	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
11	生物と環境の多様な関係性 2	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
12	生物と環境の多様な関係性 3	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
13	生物と環境の多様な関係性 4	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
14	生物と環境の多様な関係性 5	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			

	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（50%）、期末レポート（50%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1348a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション (教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点 (特に聴く態度) について	・事前学修: シラバスを熟読すること (1 時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	3	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	4	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	5	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ (社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	6	お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	7	働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！ (デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事に必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	8	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して (NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきたホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	9	【業務告白】フツターのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと (グループ広報)	・自身のキャリア・経験談など、2 社 3 職種から学んだことを中心にお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	10	中間まとめ	・ここまでの講義の中間まとめを行います。	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること (2 時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) ・中間レポートを作成すること (2 時間)
	11	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ (摂南大学 OB / 市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ (摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	13	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
	14	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)

			伝える、事例検討を行います。	
	15	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え (商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：講義の全体を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(1.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(石井) 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA2505a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることで期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること（1時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（2時間）
	2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと（3時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（1時間）
	3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（1時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること（3時間）
	4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること（1時間） ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること（3時間）
	5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（1時間）
	6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること（2時間） ・事後学修：配付されたテキストを精読すること（2時間）
	7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（2時間） ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（2時間）
	8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（2時間） ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること（2時間）
	9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと（2時間） ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと（2時間）
	10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること（2時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（2時間）
	11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること（2時間） ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること（2時間）
	12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる（2時間） ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること（2時間）
	13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（2時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（2時間）
	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（2時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（2時間）

				こと(2時間)																
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること (2時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(3時間)																
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%(企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%)を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定) ※インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)																			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。																			

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。

科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。
--------------	-------------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月18日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月18日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	10	事後学修① 9月17日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	11	事後学修② 9月17日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	12	事後学修③ 9月24日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	13	事後学修④ 9月24日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	14	事後学修⑤ 10月1日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してくること(1時間)
	15	事後学修⑥ 10月1日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書（20％）、体験報告書など提出物（40％）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40％）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。			
	なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。			
	※事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1507a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの 3 つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
	5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習
	7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
	8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
	11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
	12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
	13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する
	14	課題 2 のフィードバック	課題 2 の反省	課題 2 を見直す レポートを作成する
	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題、レポートがリ評価の場合、再提出となる。 課題とレポートの提出と再提出は、単位取得の必須条件。
学生への	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

メッセージ	日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	総学習時間の目安は 60 時間

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。D 評価は再提出。3回の課題提出、あるいは再提出は単位取得の必須条件。 語彙力・表現力を養成する小テストを行う。フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	――
	2	レポートの書き方 1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 1	前回の復習
	3	レポートの書き方 2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 2	前回の復習
	4	【課題 1】 レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	課題 1 フィードバック 8 回目以後の授業の説明 ディスカッション準備	課題 1 のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト 3	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題 1 を見直す
	7	ディスカッション 1	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト 4	ディスカッションの復習と予習
	8	ディスカッション 2	ディスカッションを行う 小テスト 5	ディスカッションの復習と予習
	9	課題 2 ディスカッションの 報告文 1	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト 6	報告文の準備
	10	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト 7	プレゼンテーション資料の準備
	11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
	12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
	13	【課題 3】 報告文 2	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
	14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
	15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題提出と課題 D 評価の再提出は単位取得の必須条件となる。
-----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。
----	--

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと																																																																		
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用問題</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>計数問題復習</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習②</td><td>論理問題復習</td><td>全ての問題を事前に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習																																																																
関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をおすすめします。																																																																		

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと																																																																		
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用問題</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>計数問題復習</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習②</td><td>論理問題復習</td><td>全ての問題を事前に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習																																																																
関連科目	キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をおすすめします。																																																																		

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Skills
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1510a3		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。																																																																		
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10																																																																		
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 基本はオンライン（同時双方向）、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>コミュニケーションとは</td><td>コミュニケーションの本質を考える。</td><td>シラバス熟読</td></tr> <tr> <td>2</td><td>傾聴力、質問力を高める</td><td>聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>論理的に会話するための基礎を学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>コミュニケーションの技法</td><td>相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>プレゼンテーション①</td><td>プレゼンテーションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>プレゼンテーション②</td><td>プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>プレゼンテーション③</td><td>プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2 時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>言語理解①</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。</td><td>今までの範囲を復習しておくこと（目安：30 分）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語理解②</td><td>社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語理解③</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>グループディスカッション①</td><td>グループディスカッションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グループディスカッション②</td><td>グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。チームで実践を行う（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>面接技術</td><td>面接技術を学ぶ。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。個人で実践を行う（目安：1 時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ダイバーシティ・コミュニケーション</td><td>多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：2 時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合演習</td><td>これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり</td><td>全ての範囲を確認しておくこと（目安：2 時間）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読	2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。	3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。	4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。	5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。	6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。	7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2 時間）。	8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと（目安：30 分）。	9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。	10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。	11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。	12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。チームで実践を行う（目安：1 時間）。	13	面接技術	面接技術を学ぶ。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。個人で実践を行う（目安：1 時間）。	14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：2 時間）。	15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと（目安：2 時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読																																																																
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。																																																																
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。																																																																
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。																																																																
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。																																																																
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。																																																																
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2 時間）。																																																																
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと（目安：30 分）。																																																																
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。																																																																
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：1 時間）。																																																																
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。																																																																
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。チームで実践を行う（目安：1 時間）。																																																																
13	面接技術	面接技術を学ぶ。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：30 分）。個人で実践を行う（目安：1 時間）。																																																																
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：2 時間）。																																																																
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと（目安：2 時間）。																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ, 数的能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習もしくはレポート 25 点																																																																		
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LCA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30 分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること (60 分)
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30 分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60 分)
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる (30 分) ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめること (60 分)
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成すること (30 分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60 分)
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をすること (30 分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること (60 分)
	6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをすること (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60 分)
	7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 来客応対プリント②をすること (60 分)
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60 分)
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること (60 分)
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること (60 分)
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30 分) ・事後学修: メール文書を作成すること (60 分)
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる (30 分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60 分)
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30 分) ・事後学修: 設営事例をまとめること (60 分)
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60 分)
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること (30 分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60 分)
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1																		
	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。																		
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。																		
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）																		
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。																		

科目名	海外留学特別研修 I a	科目名 (英文)	Special Overseas Studies I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP5△, DP6△, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2242e0		

授業概要・目的	The goal of this class is to recreate the environment of a course at an English language-medium university. To accomplish this, we will base our studies on the long-running "Justice" course taught by Harvard University professor Michael Sandel. In the "Justice" course, Professor Sandel moves between real-life issues and the principles we use to interpret those issues and make decisions.																																																																		
到達目標	Students will learn a different political principles (e.g. Utilitarianism, Libertarianism, Affirmative Action, Virtue-based Action) by analyzing case studies.																																																																		
授業方法と留意点	Regular presentations and assignments.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>What's the right thing to do?</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>2</td><td>Utilitarianism 1</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>3</td><td>Utilitarianism 2</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>4</td><td>Utilitarianism 3</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>5</td><td>Libertarianism 1</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>6</td><td>Libertarianism 2</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>7</td><td>Libertarianism 3</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>8</td><td>Midterm Evaluation</td><td></td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>9</td><td>Meritocracy vs Affirmative Action 1</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>10</td><td>Meritocracy vs Affirmative Action 2</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>11</td><td>Meritocracy vs Affirmative Action 3</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>12</td><td>Civic Virtues 1</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>13</td><td>Civic Virtues 2</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>14</td><td>Civic Virtues 3</td><td>Case Studies</td><td>Review class notes</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final Evaluation</td><td></td><td>Review class notes</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	What's the right thing to do?	Case Studies	Review class notes	2	Utilitarianism 1	Case Studies	Review class notes	3	Utilitarianism 2	Case Studies	Review class notes	4	Utilitarianism 3	Case Studies	Review class notes	5	Libertarianism 1	Case Studies	Review class notes	6	Libertarianism 2	Case Studies	Review class notes	7	Libertarianism 3	Case Studies	Review class notes	8	Midterm Evaluation		Review class notes	9	Meritocracy vs Affirmative Action 1	Case Studies	Review class notes	10	Meritocracy vs Affirmative Action 2	Case Studies	Review class notes	11	Meritocracy vs Affirmative Action 3	Case Studies	Review class notes	12	Civic Virtues 1	Case Studies	Review class notes	13	Civic Virtues 2	Case Studies	Review class notes	14	Civic Virtues 3	Case Studies	Review class notes	15	Final Evaluation		Review class notes
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	What's the right thing to do?	Case Studies	Review class notes																																																																
2	Utilitarianism 1	Case Studies	Review class notes																																																																
3	Utilitarianism 2	Case Studies	Review class notes																																																																
4	Utilitarianism 3	Case Studies	Review class notes																																																																
5	Libertarianism 1	Case Studies	Review class notes																																																																
6	Libertarianism 2	Case Studies	Review class notes																																																																
7	Libertarianism 3	Case Studies	Review class notes																																																																
8	Midterm Evaluation		Review class notes																																																																
9	Meritocracy vs Affirmative Action 1	Case Studies	Review class notes																																																																
10	Meritocracy vs Affirmative Action 2	Case Studies	Review class notes																																																																
11	Meritocracy vs Affirmative Action 3	Case Studies	Review class notes																																																																
12	Civic Virtues 1	Case Studies	Review class notes																																																																
13	Civic Virtues 2	Case Studies	Review class notes																																																																
14	Civic Virtues 3	Case Studies	Review class notes																																																																
15	Final Evaluation		Review class notes																																																																
関連科目	2, 4, 5.																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Assignments 60% Midterm 20% Final 20%																																																																		
学生へのメッセージ	This may be the most useful course you will take at university.																																																																		
担当者の研究室等備考	Herke 3F Building 7																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	この授業では、現代社会の様々な問題について、英語でデータを読み取って分析し、議論することを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 現代社会の問題について、英文を読んで理解できるようになる。 (2) 英語でデータを読み取って、分析できるようになる。 (3) データに基づき、現代社会の問題について、英語で議論できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は原則、すべて英語で行う。発言を多くするなど、積極的な参加を求める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction, Unit 1 Artificial Intelligence</td><td>Orientation, How will humans live with AI?</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1 Artificial Intelligence</td><td>How will humans live with AI?</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 2 Business</td><td>The sharing economy</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 3 Food Waste</td><td>Food loss and consumers</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 4 Environmental Problems</td><td>Plastic waste</td><td>今 Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 5 The Japanese Mentality</td><td>Do they have good manners?</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 6 Space Exploration</td><td>Will space benefit our future?</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 7 Immigration</td><td>Foreign residents in Japan</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 8 Education</td><td>Online learning</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 9 Culture</td><td>Entertainment</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 10 Science</td><td>The new agricultural revolution</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 12 DNA</td><td>Advances in DNA Technology</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 13 Relationship with Other Countries</td><td>Trade war</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 15 Right to be Forgotten</td><td>Privacy and freedom of expression</td><td>Review, Assignment (1 hour)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Final Project</td><td>Presentations and feedback</td><td>Review (1 hour)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction, Unit 1 Artificial Intelligence	Orientation, How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)	2	Unit 1 Artificial Intelligence	How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)	3	Unit 2 Business	The sharing economy	Review, Assignment (1 hour)	4	Unit 3 Food Waste	Food loss and consumers	Review, Assignment (1 hour)	5	Unit 4 Environmental Problems	Plastic waste	今 Review, Assignment (1 hour)	6	Unit 5 The Japanese Mentality	Do they have good manners?	Review, Assignment (1 hour)	7	Unit 6 Space Exploration	Will space benefit our future?	Review, Assignment (1 hour)	8	Unit 7 Immigration	Foreign residents in Japan	Review, Assignment (1 hour)	9	Unit 8 Education	Online learning	Review, Assignment (1 hour)	10	Unit 9 Culture	Entertainment	Review, Assignment (1 hour)	11	Unit 10 Science	The new agricultural revolution	Review, Assignment (1 hour)	12	Unit 12 DNA	Advances in DNA Technology	Review, Assignment (1 hour)	13	Unit 13 Relationship with Other Countries	Trade war	Review, Assignment (1 hour)	14	Unit 15 Right to be Forgotten	Privacy and freedom of expression	Review, Assignment (1 hour)	15	Final Project	Presentations and feedback	Review (1 hour)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction, Unit 1 Artificial Intelligence	Orientation, How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)																																																																
2	Unit 1 Artificial Intelligence	How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)																																																																
3	Unit 2 Business	The sharing economy	Review, Assignment (1 hour)																																																																
4	Unit 3 Food Waste	Food loss and consumers	Review, Assignment (1 hour)																																																																
5	Unit 4 Environmental Problems	Plastic waste	今 Review, Assignment (1 hour)																																																																
6	Unit 5 The Japanese Mentality	Do they have good manners?	Review, Assignment (1 hour)																																																																
7	Unit 6 Space Exploration	Will space benefit our future?	Review, Assignment (1 hour)																																																																
8	Unit 7 Immigration	Foreign residents in Japan	Review, Assignment (1 hour)																																																																
9	Unit 8 Education	Online learning	Review, Assignment (1 hour)																																																																
10	Unit 9 Culture	Entertainment	Review, Assignment (1 hour)																																																																
11	Unit 10 Science	The new agricultural revolution	Review, Assignment (1 hour)																																																																
12	Unit 12 DNA	Advances in DNA Technology	Review, Assignment (1 hour)																																																																
13	Unit 13 Relationship with Other Countries	Trade war	Review, Assignment (1 hour)																																																																
14	Unit 15 Right to be Forgotten	Privacy and freedom of expression	Review, Assignment (1 hour)																																																																
15	Final Project	Presentations and feedback	Review (1 hour)																																																																
関連科目	Speaking & Writing II b など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>CLIL: Discuss the Changing World</td><td>Miyako Nakaya, Miyuki Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CLIL: Discuss the Changing World	Miyako Nakaya, Miyuki Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	CLIL: Discuss the Changing World	Miyako Nakaya, Miyuki Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Participation 50% Assignments 25% Final project 25%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	2	Unit 1: Female Leaders Lead	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	3	Unit 2: Unexpected but Deserved	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	4	Unit 3: Strategic Benevolence	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	5	Unit 4: Almost Like Being There	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	6	Unit 5: Loss of Precious Life	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	7	Unit 6: Mosquitoes: Friends and Foes	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	8	Unit 7: Plastic-Eating Insects	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	9	Unit 8: Inspirational Journey	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	10	Unit 9: No Holding Her Back	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	11	Unit 10: Getting Prepared	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	12	Unit 11: Learning to Adapt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	13	Unit 12: Signs of Progress	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
	14	まとめ 1	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2時間）
	15	まとめ 2	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN：ビデオで見る世界のニュース（23）	関西大学 CNN 英語研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト 15%（14・15 の発表） 提出物 85%
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	This course will cover news stories. You will learn vocabulary, improve your listening and speaking skills, and deepen your understanding of global affairs.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044C0		

授業概要・目的	※英語プロフェッショナルコースの2年次の学生を対象とする。 日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネス英語の総合的なスキルを習得する。主に演習形式で、対象となる企業の経営方針や製品開発などにかかる内容の聴き取りと読解を中心に、問題を解きながら進めていく。また、教材で使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などもしっかりと学んでいくことで、TOEIC などにも活かせるようにする。
到達目標	ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そしてビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行う。 ・(小テストの代替課題として) 予習の内容について毎回レポートを提出する。 ・提出物(レポート)や発表については、授業中にフィードバックを行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容や方法などについて説明する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	2	マツダ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	3	ハウス食品	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	4	TOTO	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	5	シマノ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	6	UCC 上島珈琲	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	7	ダイフク	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	8	サクラクレパス	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	9	ヤンマー	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	10	オタフクソース	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	11	トンボ学生服	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	12	日東電工	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	13	モロゾフ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	14	ミュージアムとカフェ	企業が運営するミュージアムとカフェをトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	15	学習内容のまとめ(総括)	本授業で学んだ英語表現について、要点を整理しながら総括する。	授業内容の要点を整理する。これまでに学習した内容を振り返りながら、理解度を確認する。(1時間)
関連科目	他の英語科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Outstanding Monozukuri Companies in Japan (知られざる日本の「ものづくり」企業の世界)	井上 治, 吉野成美, Paul Leeming, Justin Harris	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート (70%), 授業中の発表・取り組む姿勢 (30%) ※ただし、原則として授業の出席率が 80%以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	これまでの英語科目で学んだ語彙・文法・発音なども復習しながら、英語の総合力を高めてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室			
備考	授業の事前・事後学習総時間の目安は (1 単位の科目なので) 15 時間程度です。			

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を読解するためのリーディングスキルを修得し、素早く、数多くの英語による文章を読むことで、英語力と教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	オリエンテーション	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	2	Food and Health	Sweet Love	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	3	Our Bond with Animals	Song of the Humpback	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	4	History Detectives	Was King Tut Murdered?	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	5	Traditions and Rituals	Bride of the Sahara	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	6	Urban Underworlds	Under Paris	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	7	Reef Encounters	Cities Beneath the Sea	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	8	Sweet Scents	The Flower Trade	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	9	Great Explorers	Macro Polo in China	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	10	Who We Are	The Teenage Brain	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	11	Global Warming	The Big Thaw	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	12	Incredible Insects	Army Ants	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	13	Going to Extremes	The Dream of Flight	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	14	振り返り	これまで扱ったトピックについて総括	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テスト	確認テスト	読書活動、単語学習、教科書の予習復習 (1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Explorer 2: Student Book	Paul MacIntyre	National Geographic
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	速読 ・多読 各 15% 平常点 40% まとめのテスト 30%
----------	--

学生へのメッセージ	英語力は日々の努力の積み重ねです。上達に近道はありませんので、コツコツと頑張ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面・トピックについて、自分の意図を論理的に的確に伝えられるスピーキング力・ライティング力を身につける。
授業方法と留意点	様々な場面・トピックに対応できるよう、スピーキングとライティングをバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1 Cashless Society	Orientation Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should Japan become cashless?	Review, Assignment (1 hour)
	2	Unit 2 Fast Fashion	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should the government ban fast fashion?	Review, Assignment (1 hour)
	3	Unit 3 Plastic Packaging	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should Japan be plastic free?	Review, Assignment (1 hour)
	4	Unit 4 Cell Phone Etiquette	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should cell phones be banned in such locations as schools, university classes, restaurants, cinemas?	Review, Assignment (1 hour)
	5	Unit 5 Vegetarianism	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should people eat meat?	今 Review, Assignment (1 hour)
	6	Unit 6 Social Media	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should the Japanese government require people to use their real names on social media?	Review, Assignment (1 hour)
	7	Unit 7 The Soda Tax	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should Japan introduce "a soda tax"?	Review, Assignment (1 hour)
	8	Unit 8 Overtourism	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Problems in the tourist industry	Review, Assignment (1 hour)
	9	Unit 9 Improving Education	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should Japanese schools stop using exams?	Review, Assignment (1 hour)
	10	Unit 10 Voting Age	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: What age should people be allowed to 1. vote 2. get married 3. drink alcohol 4. get a driver's license?	Review, Assignment (1 hour)
	11	Unit 11 Rethinking Zoos	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Are pet cafes good for animals? / Is It okay to keep pets in small apartments? / Which are better as pets, cats or dogs?	Review, Assignment (1 hour)
	12	Unit 12 Alternative Energy	Vocabulary check	Review, Assignment (1 hour)

			Listening comprehension questions Discussion Presentation: Pros and cons of alternative energies	
	13	Unit 13 Equal Pay in Sports	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: Should male and female sports players be paid equally?	Review, Assignment (1 hour)
	14	Unit 14 Gaming Addiction	Vocabulary check Listening comprehension questions Discussion Presentation: A video game curfew	Review, Assignment (1 hour)
	15	Final Presentation	Final Presentation	Review (1 hour)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skeritt, Adrian Francis, Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class participation, weekly presentation 50 % Final presentation 50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得試験範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
	2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
	3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
	4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組を設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
	5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
	6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
	7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回（60 分）視聴・テスト E-第 10 回（60 分）視聴・テスト
関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。			
担当者の	非常勤講師室（7 号館 2 階）			

研究室等	
備考	授業時間外での質問等： 本講義はMicrosoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
	2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
	3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
	4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
	5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
	6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
	7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
	8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

		名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
	9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
	10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
	11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
	12	データを扱う 【Excel 応用】 名前利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
	13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
	14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
	15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト & 問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト & 問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01306a1		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているのかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 法とは何か</td><td> ・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類 </td><td> ・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>2</td><td>憲法と法律（法令の種類）</td><td> ・法治国家と法の支配 ・国際社会と法 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>3</td><td>民法①（不法行為法①）</td><td>学校における「いじめ」問題と法の役割</td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>4</td><td>労働法①</td><td> ・ブラック企業問題と労働者保護 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>5</td><td>刑事法①</td><td> ・裁判員裁判の仕組みとその問題点 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>6</td><td>刑事法②</td><td> ・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>7</td><td>労働法②</td><td> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>8</td><td>民法②（家族法①）</td><td> ・家族の範囲 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>9</td><td>民法③（家族法②）</td><td> ・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>10</td><td>民法④（家族法③）</td><td> ・離婚の法的効果 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>11</td><td>民法⑤（家族法④）</td><td> ・離婚の手続き・親子関係と親権 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>12</td><td>民法⑥（不法行為法②）</td><td> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>13</td><td>民法⑦（財産法①）</td><td> ・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>14</td><td>民法⑧（財産法②）</td><td> ・被災と住宅ローン減免の可否 </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> <tr> <td>15</td><td>刑事法②＋行政法＋民法⑨</td><td> ・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV </td><td> 事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間） </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	3	民法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	8	民法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	9	民法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	10	民法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	11	民法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	12	民法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	13	民法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	14	民法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）	15	刑事法②＋行政法＋民法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
3	民法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
8	民法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
9	民法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
10	民法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
11	民法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
12	民法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
13	民法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
14	民法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
15	刑事法②＋行政法＋民法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）																																																																
関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新入生のためのリーガル・トピック 50</td><td>阿部昌樹・和田仁孝</td><td>法律文化社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。			
学生へのメッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考				

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には			
	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6			
	到達目標			
	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。			
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。			
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
	3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること (0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと (0.5 時間/継続)
	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
	9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)
	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
	12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
	15	講義のおさらい	・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動（30%）、グループ課題(20%)、最終レポート（50%）で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	1．2021年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3．ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021 年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前：1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後：0.5 時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後：2 時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後：0.5 時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
	6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
	7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
	8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後：0.5 時間)
	9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後：0.5 時間)
	10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
	11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
	12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
	13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前：1 時間)
	14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前：0.5 時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す
------	---

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（石井） 7号館3階 教育イノベーションセンター（水野・津村）
備考	

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021 年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前：1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後：0.5 時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後：2 時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後：0.5 時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
	6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
	7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
	8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後：0.5 時間)
	9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後：0.5 時間)
	10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
	11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
	12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
	13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前：1 時間)
	14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前：0.5 時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す
------	---

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（石井） 7号館3階 教育イノベーションセンター（水野・津村）
備考	

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサント ^ロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2318c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course Outline & Ice Breaker Activities	Carefully read the syllabus and prepare the necessary materials for the course.
	2	Unit 1: Hometown	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	3	Unit 1: Hometown -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 1 presentation
	4	Unit 1 Presentations	1. Unit 1 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	5	Unit 2: Music	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	6	Unit 2: Music - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 2 presentation
	7	Unit 2 Presentations	1. Unit 2 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Midterm Short Review Test
	8	Midterm Short Review Test (中間小テスト) Units 1-2 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	9	Unit 3: Books	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	10	Unit 3: Books -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 3 presentation
	11	Unit 3 Presentations	1. Unit 3 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	12	Unit 4: Family	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	13	Unit 4: Family -continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 4 presentation
	14	Unit 4: Presentations	1. Unit 4 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Final Short Review Test
	15	Final Short Review Test (期末小テスト) Units 3-4 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions.

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 中間小テスト 10% 期末小テスト 10%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to be prepared for class, participate actively and have			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱb	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スタンシュー アレサントロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2319c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course Outline & Ice Breaker Activities	Carefully read the syllabus and prepare the necessary materials for the course.
	2	Unit 5: Travel	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	3	Unit 5: Travel - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 5 presentation
	4	Unit 5 Presentations	1. Unit 5 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	5	Unit 6: School	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	6	Unit 6: School - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 6 presentation
	7	Unit 6 Presentations	1. Unit 6 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Midterm Short Review Test
	8	Midterm Short Review Test (中間小テスト) Units 5-6 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	9	Unit 7: Food	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	10	Unit 7: Food - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 7 presentation
	11	Unit 7 Presentations	1. Unit 7 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	12	Unit 8: Friends	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
	13	Unit 8: Friends - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Unit 8 presentation
	14	Unit 8 Presentations	1. Unit 8 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare for Final Short Review Test
	15	Final Short Review Test (期末小テスト) Units 7-8 Review Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions.

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 中間小テスト 10% 期末小テスト 10%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to participate actively and have fun.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Mathematical AbilityⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LKY1362a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと																																																																		
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用問題</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>計数問題復習</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習②</td><td>論理問題復習</td><td>全ての問題を事前に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習																																																																
関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をおすすめします。																																																																		

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LKY1362a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと																																																																		
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用問題</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>計数問題復習</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習②</td><td>論理問題復習</td><td>全ての問題を事前に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習																																																																
関連科目	キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をおすすめします。																																																																		

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LPH1353a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16
到達目標	(1) 現代社会における健康問題について理解できる。 (2) 健康づくりのための基礎知識を習得し、健康保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 (3) 持続可能な社会を実現するためにスポーツの効果や影響力を活用するための基本的な知識を身につけている。 (4) 身近な社会問題や健康づくりをテーマに議論することで、主体的に学び続ける態度を身につけている。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。また、テーマに沿った議題についてディスカッションを行ったり、自らの考えをプレゼンテーションする機会を取り入れる。小レポートを課す。授業内にフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康について	オリエンテーション スポーツと健康とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間以上)
	2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	3	運動習慣が身体機能にもたらす効果	動物としての人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が健康におよぼす影響について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	7	睡眠・休息・ストレス	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する。 またストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	8	人類と感染症	ウイルスや感染症に関する基礎知識を学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	9	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識	安全に運動をするための基礎知識を学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	10	スポーツの意義と社会的役割①	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツを通じた国際貢献や経済効果について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)
	11	スポーツの意義と社会的役割②	オリンピック、パラリンピックなどの国際大会を題材にスポーツを通じて多様性を理解し、共生社会のあり方について考える (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)
	12	スポーツと SDGs (1)	SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの価値や可能性について調べる (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)
	13	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性についてグループで発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	14	スポーツと SDGs (3)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性についてグループで発表する (発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)
	15	スポーツと健康まとめ	授業のまとめ 今後の健康づくりの取り組みや持続可能な社会実現に向けた	事前：指定されたテーマについて予習する (2 時間以上)

			取り組みへの関わり方について考える (レポート)	事後：生涯にわたり自身の健康づくりの取り組みを 実践する
関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
	2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子 他	道和書院
	3			
評価方法 (基準)	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）			
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けてスポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。グループディスカッションや発表 にも積極的に参加しましょう。			
担当者の 研究室等	総合体育館１F 瀬川研究室			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01309a1		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。			
	[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。			
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる (DP2)。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる (DP2)。			
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。			
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。また、速やかに教科書の手配をしてください。
	2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題: 配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと
	3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと
	4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと
	5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと
	6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと
	7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと
	8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを1対1で見る LMX とリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題: 配付資料を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料を1時間程度読むこと
	9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され (独立変数)、各々が何に影響を与えるのか (成果変数) について学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと
	10	小テスト①、解説	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題: これまでの配付資料および教科書を1時間程度読むこと 事後学習: 小テストの内容を1時間程度復習すること
	11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと
	12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類がある	事前課題: 配付資料および教科書の第11章を1時間程度読むこと

			のか等について学びます。	事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと																
	13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと																
	14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと																
	15	小テスト②、解説	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること																
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>人的資源管理</td><td>上林憲雄</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>経験から学ぶ人的資源管理</td><td>上林憲雄他</td><td>有斐閣ブックス</td></tr><tr><td>2</td><td>入門人的資源管理</td><td>奥林康司他</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス																	
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社																	
3																				
評価方法 (基準)	小テスト①40 点、小テスト②40 点、課題レポート 20 点、合計 100 点																			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(西之坊研究室)																			
備考																				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01308a1		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10																																																																		
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>経済とは</td><td>経済の基本的な仕組みについて概説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦後日本経済の歩み (1)</td><td>終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>戦後日本経済の歩み (2)</td><td>高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>戦後日本経済の歩み (3)</td><td>高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>戦後日本経済の歩み (4)</td><td>安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>戦後日本経済の歩み (5)</td><td>バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>雇用のしくみ</td><td>企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>企業のしくみ</td><td>所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>授業内討論 (1) 日本の雇用問題</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>財政のしくみ (1)</td><td>日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>財政のしくみ (2)</td><td>日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会保障のしくみ</td><td>日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>授業内討論 (2) 日本の社会保障</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体の総括</td><td>講義内容の復習、期末レポートの作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本経済の常識</td><td>中原隆幸編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解雑学 資本主義のしくみ</td><td>八木紀一郎他</td><td>ナツメ社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版																																																																
2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (50%)、期末レポート (50%) で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートは Moodle 上で出題する。Moodle への登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。																																																																		
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質																																																																		

問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。
--

科目名	コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	CommunicationⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1342a1		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の frontline で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。																																																																		
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10																																																																		
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 基本はオンライン（同時双方向）、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>コミュニケーションとは</td><td>コミュニケーションの本質を考える。</td><td>シラバス熟読</td></tr> <tr> <td>2</td><td>傾聴力、質問力を高める</td><td>聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>論理的に会話するための基礎を学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>コミュニケーションの技法</td><td>相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>プレゼンテーション①</td><td>プレゼンテーションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>プレゼンテーション②</td><td>プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>プレゼンテーション③</td><td>プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>言語理解①</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。</td><td>今までの範囲を復習しておくこと（目安：30分）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語理解②</td><td>社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語理解③</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>グループディスカッション①</td><td>グループディスカッションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グループディスカッション②</td><td>グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。チームで実践を行う（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>面接技術</td><td>面接技術を学ぶ。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。個人で実践を行う（目安：1時間）。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ダイバーシティ・コミュニケーション</td><td>多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること（目安：2時間）。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合演習</td><td>これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり</td><td>全ての範囲を確認しておくこと（目安：2時間）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読	2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。	3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。	4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。	5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。	6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。	7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2時間）。	8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと（目安：30分）。	9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。	10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。	11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。	12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。チームで実践を行う（目安：1時間）。	13	面接技術	面接技術を学ぶ。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。個人で実践を行う（目安：1時間）。	14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：2時間）。	15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと（目安：2時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読																																																																
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。																																																																
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。																																																																
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。																																																																
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。																																																																
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。																																																																
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと（目安：2時間）。																																																																
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと（目安：30分）。																																																																
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。																																																																
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：1時間）。																																																																
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。																																																																
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。チームで実践を行う（目安：1時間）。																																																																
13	面接技術	面接技術を学ぶ。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること（目安：30分）。個人で実践を行う（目安：1時間）。																																																																
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること（目安：2時間）。																																																																
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと（目安：2時間）。																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習もしくはレポート 25 点																																																																		
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ビジネス実務	科目名 (英文)	Practical Business Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA2350a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストは Web 上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること (30 分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめること (60 分)
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる (30 分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること (60 分)
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる (30 分) ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめること (60 分)
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成すること (30 分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること (60 分)
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をすること (30 分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること (60 分)
	6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをすること (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと (60 分)
	7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 来客応対プリント②をすること (60 分)
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる (30 分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること (60 分)
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること (60 分)
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をすること (30 分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること (60 分)
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること (30 分) ・事後学修: メール文書を作成すること (60 分)
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる (30 分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること (60 分)
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること (30 分) ・事後学修: 設営事例をまとめること (60 分)
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること (30 分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること (60 分)
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること (30 分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること (60 分)
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。				
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。				
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）				
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めることで、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) さえれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction オリエンテーション</td><td>Introduction オリエンテーション</td><td>No preparation required. 準備は必要ありません。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1 Lifestyles.</td><td>Asking people about themselves. Telling about yourself.</td><td>Pages 4 - 5.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 1 Lifestyles continued.</td><td>Exchanging personal information.</td><td>Pages 6 - 8.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 2 Student Life.</td><td>Describing your student life.</td><td>Pages 10 - 11.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2 Student Life continued.</td><td>Describing daily routines.</td><td>Pages 12 - 14.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3 Hobbies and interests.</td><td>Talking about people's interests.</td><td>Pages 16 - 17.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 3 Leisure time and abilities.</td><td>How you spend your free time.</td><td>Pages 18 - 20.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Test of units 1-3. Special topic.</td><td>Test of units 1-3. Special topic.</td><td>Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4 Neighborhoods.</td><td>Talking about your hometown.</td><td>Pages 24 - 25.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 4 Neighborhoods continued.</td><td>Neighborhood facilities.</td><td>Pages 26 - 28.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 5 Directions and travel</td><td>How to describe where things are.</td><td>Pages 30 - 31.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 5 Direction and travel continued.</td><td>Finding places when you travel.</td><td>Pages 32 - 34.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6 Shopping and money.</td><td>Expressions for money and travel.</td><td>Pages 36 - 37.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 6 Shopping and money continued.</td><td>Talking about shopping.</td><td>Pages 38 - 39.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Test of units 4 - 6. Summary of the term</td><td>Test of units 4 - 6.</td><td>Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション	Introduction オリエンテーション	No preparation required. 準備は必要ありません。	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.	3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.	4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.	5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.	6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.	7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.	8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.	9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.	10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.	11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.	12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.	13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.	14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.	15	Test of units 4 - 6. Summary of the term	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション	Introduction オリエンテーション	No preparation required. 準備は必要ありません。																																																																
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.																																																																
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.																																																																
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.																																																																
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.																																																																
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.																																																																
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.																																																																
8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.																																																																
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.																																																																
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.																																																																
11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.																																																																
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.																																																																
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.																																																																
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.																																																																
15	Test of units 4 - 6. Summary of the term	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Breakthrough Plus 1 (2nd edition)</td><td>Miles Craven</td><td>MacMillan</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。 This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to activ																																																																		
担当者の	非常勤講師室 7号館2階																																																																		

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間数をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: life experiences, describing people, vacations, dreams, your future, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Special topic.	Special topic.	No preparation required. 1 hour
	2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45. 1 hour
	3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48. 1 hour
	4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51. 1 hour
	5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54. 1 hour
	6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57. 1 hour
	7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60. 1 hour
	8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9. 1 hour
	9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65. 1 hour
	10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68. 1 hour
	11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71. 1 hour
	12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74. 1 hour
	13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77. 1 hour
	14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80. 1 hour
	15	Test of units 10 - 12. Summary of the term	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12. 1 hour

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。 This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to actively
-----------	--

担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの 3 つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
	5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習
	7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
	8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
	11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
	12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
	13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する
	14	課題 2 のフィードバック	課題 2 の反省	課題 2 を見直す レポートを作成する
	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題、レポートが D 評価の場合、再提出となる。 課題とレポートの提出と再提出は、単位取得の必須条件。
学生への	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

メッセージ	日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	総学習時間の目安は 60 時間

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。D 評価は再提出。3回の課題提出、あるいは再提出は単位取得の必須条件。 語彙力・表現力を養成する小テストを行う。フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	――
	2	レポートの書き方 1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 1	前回の復習
	3	レポートの書き方 2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 2	前回の復習
	4	【課題 1】 レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	課題 1 フィードバック 8 回目以後の授業の説明 ディスカッション準備	課題 1 のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト 3	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題 1 を見直す
	7	ディスカッション 1	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト 4	ディスカッションの復習と予習
	8	ディスカッション 2	ディスカッションを行う 小テスト 5	ディスカッションの復習と予習
	9	課題 2 ディスカッションの 報告文 1	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト 6	報告文の準備
	10	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト 7	プレゼンテーション資料の準備
	11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
	12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
	13	【課題 3】 報告文 2	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
	14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
	15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題提出と課題 D 評価の再提出は単位取得の必須条件となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。

科目名	日本語教育実習演習	科目名 (英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1oDP2△DP5△		
科目ナンバリング	LDL3197a0		

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。 初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。 外部の日本語教育機関での授業見学も可能な限り実施します。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。 この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。 授業で出された課題は、次の授業でフィードバックします。提出された実習ノートはコメントをつけて返却します。
科目学習の効果 (資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階 (初級・中級・上級レベル) について、実習運営について	配布資料 熟読
	2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
	3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
	4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	日本語初級のテキスト・教材分析
	5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
	6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 第1部 熟読
	7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 第1部 熟読
	8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 第2部 熟読
	9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 第2部 熟読
	10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	教科書 第2部 熟読
	11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
	12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
	13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
	14	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル)
	15	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル) 課題レポート作成
	16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
	17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
	18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
	19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
	20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
	21	日本語授業の実際 (1)	授業観察	授業観察レポート作成
	22	日本語授業の実際 (2)	授業観察	授業観察レポート作成
	23	日本語授業の実際 (3)	授業観察	授業観察レポート作成
	24	日本語授業の実際 (4)	授業観察	授業観察レポート作成
	25	実習準備 (1)	日本語教育実習実施概要と留意点	グループごとに課題
	26	実習準備 (2)	教案作成、教材作成、授業準備	グループごとに課題
	27	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
	28	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
	29	実習の振り返り 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
	30	作成教材発表、総括	発表	実習ノート完成

関連科目	日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての日本語教育2		アスク
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み(10%)から総合的に評価します。			
学生への メッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。 海外及び国内の日本語教育機関で、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かして、具体的な事例を挙げながら授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)			
備考	事前・事後学習は総時間120時間を目安とする。			

科目名	インターンシップ	科目名 (英文)	Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA2349a1		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える ※以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)
	2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)
	3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べる (0.5 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (0.5 時間)
	4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (0.5 時間)
	5	課題のプレゼンテーション①	・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (0.5 時間)
	6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (0.5 時間)
	7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる (0.5 時間)
	8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (0.5 時間)
	9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (0.5 時間)
	10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (0.5 時間)
	11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (0.5 時間)
	12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (0.5 時間)
	13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (0.5 時間)

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
	16	直前学修① 6月18日(土) 3限(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
	17	直前学修② 6月18日(土) 4限(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
	25	事後学修① 9月17日(土) 3限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導 ※この回以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	26	事後学修② 9月17日(土) 4限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	27	事後学修③ 9月24日(土) 3限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	28	事後学修④ 9月24日(土) 4限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	29	事後学修⑤ 10月1日(土) 3限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修：実習記録簿を見直してくること(0.5時間)
	30	事後学修⑥ 10月1日(土) 4限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%、を総合的に評価する。			

学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定） ※インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 また、COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 ※予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1o, E 科: Ao, C 科: II ◎, L 科: DP2◎, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP8△, J 科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TL01452a1, L 科: LL01354a1, D 科・S 科: IL01361a1, P 科: YL01417a2, J 科: JL01363a1, W 科: WL01342a1, N 科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。 SDGs—1, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 15, 17																		
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	< 4 月 9 日 (土) 1～3 限 > 第 1 回 「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第 2 回 地域との関わり方 ～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第 3 回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 < 4 月 23 日 (土) 1～3 限 > 第 4 回 インタビューにチャレンジ ～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第 5 回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第 6 回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション < 5 月 21 日 (土) 1, 2 限 > 第 7 回 地域に関するテーマを選定しよう 『『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第 8 回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 < 6 月 4 日 (土) 1, 2 限 > 第 9 回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域と防災」を例に考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える 第 10 回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える < 6 月 18 日 (土) 1, 2 限 > 第 11 回 グループワークの中間報告会 第 12 回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 < 7 月 16 日 (土) 1～3 限 > 第 13 回 最終報告会① 第 14 回 最終報告会② 第 15 回 講義のふりかえり																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	学びレポート (個人ワーク) 30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物 (個人ワーク) 20% 学びのグループワークレポート 30%																		

	最終報告会でのプレゼンテーション 20%（ルーブリック評価） なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	7号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武, 植杉 大, 上野山 裕士, 小野 晃正, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : A ◎, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL03457a1, L 科 : LL03366a1, D 科・S 科 : IL03366a1, P 科 : YL03422a2, J 科 : JL03368a1, W 科 : WL0347a1, N 科 : NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月まではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。6 月（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
	SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4 月・5 月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。 ※COVID-19 の感染拡大状況により活動に制限がかかることもある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4 月 20 日（水）6 限 ※ 2 回目以降の講義の日時は初回の講義にて提示する。なお開講曜日は水曜日 6 限になる。 2. 連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答（4 回目までに自身が希望する先を提出） 3. S 科 橋本先生 公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4. S 科 牧野先生 定量調査のためのアンケートフォームの作り方を学ぶ/マッチング結果の提示 5. W 科 植杉先生 オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 6. プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね 3 週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時には担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践勝つどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等備考	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（水野）																		

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教職フォーラム(育実習体験発表会)(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程 1 年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は 2 年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、3 年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																		
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																		
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第 1 回授業で案内します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 - 年間計画を作成する。 - 役割を決める。 - 地域等で活動を行う。 - 活動報告をまとめ、ふりかえる。 - スケジュール管理をする。 - 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第 1 回授業は 4 月 12 日 (火) 6 時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも 6 時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は 2 週間に 1 回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日にちは調整中ですので、第 1 回授業で案内します。 第 1 回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第 2 回「寝屋川市の現状を考える (1)」 第 3 回「寝屋川市の現状を考える (2)」 第 4 回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第 5 回「社会教育とは (1)」 第 6 回「社会教育とは (2)」 第 7 回「まちあるき報告会」 第 8 回「実習先挨拶」(学外) 第 9 回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います) 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり (1)」 第 20 回「実習ふりかえり (2)」 第 21 回「全体報告会」																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																		
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！																		
担当者の研究室等	朝田研究室 1 号館 7 階																		
備考																			

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, J 科: JT01374a1～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。																			
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。																			
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬 （9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 （11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上中旬 （2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬 （3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名												
番号	書籍名	著者名	出版社名																	

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一・村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～JT01378a1,W科:WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。 ①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所 SDGs ゴール:9・11・17																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野教授研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一・村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～JT01378a1,W科:WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。 ①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所 SDGs ゴール:9・11・17																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野教授研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a1～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」 概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。 目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoom を用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 基礎講座① オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー 3 ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 4 日越学生交流① Zoom でのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 5 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 6 基礎講座③ 情報発信力を磨く／事後学習：同上 7 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 8 日越学生交流② Zoom でのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 9 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：同上 10 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：同上 11 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 12 日越学生交流③ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 13 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 14 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 15 日越学生交流④ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 16 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 18 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：同上 19 ポスターセッション（摂大祭期間中） 20 ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 21 日越学生交流⑤ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 22 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 23 日越学生交流⑥ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 24 日越学生交流⑦ Zoom でのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 25 基礎講座⑧ 活動を内省する／事後学習：同上 26 基礎講座⑨ プレゼンの教室／事後学習：同上 27 日越学生交流⑧ Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 28 日越学生交流⑨ Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 29 日越学生交流⑩ Zoom でのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 30 最終報告会 PBL 科目報告会での発表																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td><td>小倉貞夫</td><td>中公新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td><td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td><td>情報センター出版局</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書	2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書																
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局																
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各 20%）で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。 (2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。 (3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。																		
担当者の	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）																		

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」 概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。 目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoom を用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 基礎講座① オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー 3 ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 4 日越学生交流① Zoom でのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 5 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 6 基礎講座③ 情報発信力を磨く／事後学習：同上 7 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 8 日越学生交流② Zoom でのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 9 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：同上 10 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：同上 11 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 12 日越学生交流③ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 13 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 14 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 15 日越学生交流④ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 16 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 18 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：同上 19 ポスターセッション（摂大祭期間中） 20 ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 21 日越学生交流⑤ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 22 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 23 日越学生交流⑥ Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 24 日越学生交流⑦ Zoom でのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 25 基礎講座⑧ 活動を内省する／事後学習：同上 26 基礎講座⑨ プレゼンの教室／事後学習：同上 27 日越学生交流⑧ Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 28 日越学生交流⑨ Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 29 日越学生交流⑩ Zoom でのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 30 最終報告会 PBL 科目報告会での発表																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td><td>小倉貞夫</td><td>中公新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td><td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td><td>情報センター出版局</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書	2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書																
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局																
3																			
評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各 20%）で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。 (2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。 (3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。																		
担当者の	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）																		

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～JT01378a1,W科:WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： - 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 - 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 - 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 - 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 - 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 - いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。																		
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C1、C2 教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60％） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40％）																		
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田裕子准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～JT01378a1,W科:WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： - 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 - 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 - 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 - 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 - 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 - いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。																		
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C1、C2 教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）																		
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田裕子准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	テーマ： 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する 概 要： 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3, 11, 17																		
到達目標	①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる ③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける																		
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考	7 号館 3 階 上野山研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	テーマ： 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する 概要： 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3, 11, 17																		
到達目標	①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる ③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける																		
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考	7号館3階 上野山研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。（プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。）																		
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てるうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																		
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。（プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。）																		
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てるうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																		
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022 年度は、観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。																		
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。																		
授業方法と留意点	連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 4 月 ご挨拶 5 月 企画会議 6 月 自主事業内容の決定および出演交渉 7 月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8 月 チラシのデザイン作業 9 月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月 ポスターセッション チケット発売開始 11 月 打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者） 12 月 最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全 9 回を受講すること これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。																		
関連科目	すべての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（吉田）																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022年度は、観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。																			
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。																			
授業方法と留意点	連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わる事が求められる。																			
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ（出演者、舞台スタッフ、学生関係者） 12月 最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全9回を受講すること これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。																			
関連科目	すべての科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。																			
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。																			
担当者の研究室等	7号館3階（吉田）																			
備考																				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 長田 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINE による情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となって LINE 等の SNS 活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4 月 オリエンテーション 5 月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7 月 説明会準備 8～9 月 説明会実施 10 月 ポスターセッション 11 月 最終報告会準備 12 月 最終報告会 説明会では、SNS の使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式で SNS の使い方に親しんでもらう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 長田 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINE による情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となって LINE 等の SNS 活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4 月 オリエンテーション 5 月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7 月 説明会準備 8～9 月 説明会実施 10 月 ポスターセッション 11 月 最終報告会準備 12 月 最終報告会 説明会では、SNS の使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式で SNS の使い方に親しんでもらう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	・本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とする。 ・設定されたテーマについての調査・分析、グループによる発表・ディスカッション、レポートの作成などを行い、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ・この科目（クラス）は、「国際ビジネス」プログラムに所属する学生が履修対象者となる。（※英語プロフェッショナルコースの学生も履修できるが、事前申請が必要である）																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーション（研究発表）やレポートなどを通して、問題発見・解決能力や高度な情報受発信能力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・第1回授業は オリエンテーションとして、2人の教員（天野、中島）が共同で担当する。 ・第2回以降は、履修者数が多いため、2つのグループ（AとB）に分け、次のような互い違いの型で授業を行う。 【グループAの学生】第2～8回：天野担当、第9～15回：中島担当 【グループBの学生】第2～8回：中島担当、第9～15回：天野担当 ・提出物や発表（プレゼン）については、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・天野担当の授業内容： 国際ビジネス・金融・経済をテーマにした小説を通して、働くことへの興味と関心を高める。 ・中島担当の授業内容： 毎回設定されるビジネスに関するテーマについてグループディスカッションを行う。さらに、各自で選んだテーマについてレポートを作成する。 ・設定したテーマに基づいて調査や分析を行い、その研究成果をレポートやプレゼンで発表する。 ・グループによるディスカッションを通じて、そのテーマに関する理解を深めていく。 【事前・事後学習課題】 ・研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行う。 ・レポートやプレゼン等の準備を進める。																		
関連科目	他のパッケージプログラム（国際ビジネス）の科目、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	天野担当分の成果物（50%）、中島担当分の成果物（50%） ※ただし、原則として授業への出席率が80%以上であることを条件とする。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げですので、主体的に取り組んでほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室 7号館4階 中島研究室																		
備考	・事前・事後学習総時間数は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際貢献」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。 提出物や発表（プレゼン）については、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 1. 演習を通じて、履修者は各人の関心に基づく調査・分析・発表（討論・プレゼン・レポート作成等）を行ない、適切な先行研究を踏まえた研究計画の作成を目指す。 2. 本演習は、①対面と Teams を組み合わせた演習、②Moodle を通じた資料の配信と課題の提出、という 2 つの手段を適宜組み合わせて行なう。 3. プレゼンテーションに関するフィードバックは、発表後に授業のなかで実施する。 【事前、事後学習課題】 ・調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（30%）、プレゼンテーションおよびレポート（70%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室 7 号館 5 階 手代木研究室																		
備考																			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのメディアビジネスプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。このプログラムを通じてこれまでに身につけてきた知識を体系化するとともに、自らメディアを企画、制作する活動を通してメディアについてより深く理解することを目指す。 ※この科目（クラス）は、メディアビジネスプログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、メディア制作の作業やプレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	1. 適当なパッケージプログラム科目を取り上げ、授業内容や担当教員を紹介するムービーを制作する。グループ単位で企画、準備、取材、編集を行う。 2. 新聞社、放送局などメディアの現場や、メディア関係のミュージアムを個人またはグループ単位で見学し、その内容を報告する。なお、その際の費用は自己負担とする。 報告や制作物に関するフィードバックは発表時に、学期を通した成果に関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 この授業のテーマはメディアの現場を「見ること」と自らメディアを「作ること」である。教室内での調査・討議・制作・発表に加えて、学内での取材（授業や研究室）および学外に出かけての見学も予定している。学年末には、他のプログラム演習のクラスと合同で成果発表会を行う。 【事前、事後学習課題】 事前学習として発表のための調査および資料の準備を行う。（1 時間） 事後には授業で学んだことを整理してノートにまとめる。（1 時間）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくは制作物（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（吉村研究室） 7 号館 4 階（古矢研究室）																		
備考																			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、航空会社の現業接客部門、人事・総務部門を担当した実務経験者の教員が、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とした授業である。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。																			
到達目標	・キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、課題発見・解決能力、高度な情報受信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。																			
授業方法と留意点	対面授業で実施する。 ・本演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに3回程度をかけて実施、1セメスターで4つ程度のテーマを選定する。 ・1つのテーマについて、1回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。2回目は発表資料の作成。3回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。 ・対面授業を予定。対面が困難となった場合はTeamsの各班別チャネルで討論、研究してもらう。 プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 本演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。 前年度のテーマ選定例（下記から3つ選定、本年度は別途提示） ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②訪日外国人6,000万人を目指すって!、オーバーツーリズムをどうやって解消する? ③新型コロナ! 訪日外国人は当面無理。宿泊産業はどうやって日本人客を呼び込むべきか? ④アフターコロナのFSC(フルサービスキャリア)はLCCとどうすみ分ける? ⑤大阪関西万博を成功させるためには? ⑥魅力ある旅行計画の作成。 4回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。 ⑦民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑧IR法案、日本にカジノは必要か。 【事前、事後学習課題】 選定テーマの調査、プレゼンテーション・発表資料作成等。各演習担当者の指示に従うこと。 【事前、事後学習時間】 資料収集、発表資料や原稿の作成等総時間数は60h																			
関連科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論等、観光ホスピタリティ・パッケージプログラム関連授業																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。																			
学生へのメッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。 パッケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取組んでください。																			
担当者の研究室等備考	7号館4階（エアライン・ホスピタリティールーム）																			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目（クラス）は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。 プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前・事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階（後藤研究室）																		
備考																			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際教養」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。 プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 オンラインもしくは教室で行う。初回の授業で指示する。 調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員の豊富な実務経験を生かしながら演習をすすめます。パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階） 加来研究室（7 号館 4 階）																		
備考																			

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名 (英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	濱岡 美衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3235a0		

授業概要・目的	ANA 総合研究所と連携し、観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する授業です。日本の主要航空会社のグループ航空会社で旅客サービス部門を長年にわたり担当してきた講師が、実務経験を踏まえた授業を実施します。ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実務の体験をすることにより、 ①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感する 以上のことを目的とします。 ※この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。																		
授業方法と留意点	6 月頃、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者は ES を提出。選考後、履修者発表。(希望者多数の場合は、機会均等の観点から 2 年時に「体験型特別実習 A」に参加していないものを優先する) 8 月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催。(参加者は必ず受講のこと) 8 月中下旬、各企業のインターンシップに参加。 9 月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。 受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものは本インターンシップへの参加を認めません。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔事前・事後授業〕 下記①は 39 時間、②は 14 時間 (1) 事前授業 前期授業終了後、本学内で 2～6 回の事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。 (2) インターンシップ (対象企業は確定していません。下記は 2022 年度の予定企業です) ① ANA 関西空港グランドスタッフ業務の体験 (2～3 名) ・ANA 関西空港実務見学 1 日 (通い) ・グランドスタッフ、インターンシップ 2 日 (通い) ・対象企業 : ANA 関西空港㈱、(株)ANA 総合研究所 ② ホテル業務訓練の体験 (2～3 名) ・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・2 週間程度で実際の訓練と実務を体験 (通い) ・対象企業 : ANA クラウンプラザホテル大阪 (3) 事後授業 後期授業開始前に事後授業とし 2 コマの報告会を実施する。																		
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	各インターンシップとも受入企業先評価 30%、事前・事後授業の参加姿勢 30%、体験報告の内容 40%																		
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を経験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会にチャレンジして、ホスピタリティ産業と自分との距離を縮めてみましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (エアライン・ホスピタリティルーム)																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。																		

科目名	海外インターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3236c0		

授業概要・目的	・この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。 ・この海外インターンシップは、将来、主に旅行・観光業界の仕事に関心がある学生に向いている。具体的には、海外（グアム）のホテルや旅行代理店での就業体験によって、ビジネスの現場の慣習、言葉遣いやマナー、そして働く人たちの職業意識などを学ぶことを主な目的とする。 ・メインのインターンシップは年度末の3月初旬ごろに（約8日間）実施されるが、その前後に4回分の授業がある。																		
到達目標	・海外インターンシップの体験を通して、仕事に対する興味・関心が高まるとともに、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解できるようになる。 ・日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に活かせるような素養を身につけることができる。 ・仕事の現場で必要とされるコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・海外インターンシップ（約8日間）およびその前後の授業（4回分）のすべてに参加しなければならない。 ・後期授業開始時に、「事前説明会」のお知らせがポータルサイトで周知されるので注意しておくこと。（※事前説明会に参加しなければ申し込みができない）																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<インターンシップ・プログラム> ・インターンシップの日程（予定）：2022年3月初旬の約8日間、グアムの近畿日本ツーリスト社の事務所または隣接するホテルのどちらか一方で（希望により事前選択）行う。 ・上記の他に、国内（近畿日本ツーリスト社の難波事務所）でのインターンシップ（2021年2月下旬の1日）、事前および事後授業（4回分）を行う。 ・2022年度の日程や参加費用などの詳細については、10月上旬に開催予定の「事前説明会」にて伝える。 - その後、参加希望者は申込（＝履修登録）をすることになる。（*通常の履修申請とは異なる） ・単位を取得するためには、事前説明会、事前・事後授業、インターンシップのすべてに参加しなければならない。 <事前・事後学習課題> ・事前：旅行・観光業界に関する記事やニュースを事前にチェックし、その概要や動向を把握しておくこと。 ・事後：就業体験に基づいて、レポートを作成するとともに、事後報告を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前・事後授業およびインターンシップの取り組み（70%）、レポート・提出物（30%）																		
学生へのメッセージ	特に観光ホスピタリティや旅行業界に関心のある学生にとって、実際の現場で仕事を体験できる魅力的なプログラムです。また、就業体験を通じて、働くことに対する価値観や考え方を自分自身に問いかける良い機会になることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	・実習・演習科目なので、授業、インターンシップ、事前・事後学習の総時間数は90時間を目安とする。 ・履修者に対するインターンシップの情報や連絡事項は、授業時間の他、メールやTeamsを利用して周知する。 ・本科目は、コロナ禍の影響のため、2020年度と2021年度は不開講となっている。																		

科目名	海外ワークキャンプ	科目名（英文）	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3237c0		

授業概要・目的	参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。																		
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体で活動ができる。																		
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4 回程度（生活環境・語学・習慣等について学ぶ） 現地活動 2022 年 2 月中旬～3 月上旬の 2 週間を予定している。 履修登録時の注意事項： 履修希望者は、説明会に参加し、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けないで、履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて評価する。																		
学生へのメッセージ	後期に説明会を行う。説明会の日時はポータルにて一斉に周知する。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階（上田研究室）																		
備考																			

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることができる。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を高めることができる。																		
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。 ・事前授業は演習形式で行う。 ・事前授業には必ず出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認する報告会を設ける。 （２）海外実習 他の国や他大学から集まった受講生と一緒に実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。それも中国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ	慣れない海外で実習をこなすのは色々と不安がありますが、しかし、それ以上に得る物が多いと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	・不開催の可能性が高いことを予め認識しておくこと。 ・不実施の可能性大であることを認識しておくこと。また、大学や国等の判断だけでなく、自分の身の安全を第一に考えるように。 ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・事前指導には必ず出席すること。 ・単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる（8・9月実施であれば後期、2・3月実施であれば前期）																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（1）事前授業 本学内での事前授業は数回行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明する。 （2）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室（スペイン語コース）																		
備考	参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。 ・事前指導には必ず出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（１）事前・事後授業 本学内での事前・事後授業は6回程度行う。スケジュールは受講者確定後に周知する。 渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認するための機会を設ける。 具体的には次のような項目について指導する。 ・事前準備と諸手続について（航空券、予防接種、etc.） ・マナーについて（誤解と理解） ・留学先事情①（インドネシアでの生活にかんする情報） ・留学先事情②（スラバヤやストモ博士大学について知る） ・ホームを離れる事（各種トラブルへの対応について） （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。 【実習先】 ・ストモ博士大学 (Universitas Dr. Soetomo) ・パハン大学 (Universiti Maslaysia Pahang) 【留意点】 インドネシア・マレー語圏では、海外実習については例年、インドネシアとマレーシアを隔年で実施している。今年度はコロナ禍のなかで、状況を見極めながら両大学それぞれの状況を見つ、実施の判断をすることとした。実施時期については、例年は「8月中旬～9月初旬」としているが、春休み（2月～3月）も検討候補に入れている。実施の可否については5月頃に周知する予定である。																		
関連科目	インドネシア・マレー語科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ	今年度の「海外実習」は、コロナウィルス感染拡大に伴い、実施時期・実施方法等が変更されたり、中止となったりする場合があります。【留意点】の項目をよく読んでおいてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階浦野研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後（後期）になります。したがって、4年次後期参加者は卒業時までに成績登録されません。																		

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3239a0		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際を目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。 なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、1 機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを抱いているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描く。																		
授業方法と留意点	・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（2 泊 3 日）による。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて） プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前事後授業と空港研修 3 9 時間から成る。 ・説明会 ・事前授業 2 日間 ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GS の仕事 ⑤グランドハンドリングとオペレーション ⑥CA の仕事 ・神戸・関空・伊丹の 3 空港について自主学習 ・中部空港研修（2 泊 3 日で GS の仕事を体験） ・研修報告会																		
関連科目	ホスピタリティ論 エアラインビジネス論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	小レポート 20%, 自主学習レポート 30%, 授業への参加態度 30%, プレゼンテーション 20%																		
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフや、CA がどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (エアライン・ホスピタリティプログラムルーム)																		
備考																			

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	檜山 和司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3239a0		

授業概要・目的	新型コロナウイルスの感染拡大と長期化により、日本におけるホテルビジネスを取り巻く環境が大きく変化し、生き残りをかけたホテルの運営と戦略が求められることを学生とともに考え学ぶ授業内容とする。 ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と各部門の役割を認識、また、実際のホテル内覧研修により各部門の特徴と業務内容を体験し、求められる知識、経験、技能等の素養を理解して、意識変容を図り、経営者視点での思考能力育成を目指す。 シティホテルやスモール・ラグジュアリー・ホテルでの長年の総支配人としての実務経験を生かし、ホテルでの実例を挙げながら実践的かつ具体的に講義を進行する。																		
到達目標	・ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と接遇の基本を習得する。 ・ホテル各部門の役割と業務内容を理解する。 ・顧客満足度を高めるための様々なマネジメント手法を理解する。 ・幅広い視野、察知力、観察力、分析力、問題解決能力の基本を習得する。																		
授業方法と留意点	本学内での事前・事後授業とホテル内覧及び研修 ホテル内覧、研修の際は、身嗜み基準に従うこと																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ホテルの経営特性と組織 接遇の基本と求められる各種素養 ホテル各部門の役割と業務内容 顧客満足度を高める様々なマネジメント手法 ホテルに於けるリスクマネジメント インターンシップマナー ホテル内覧と研修 報告会での学生によるプレゼンテーション 自主学習：授業に関連する事前課題やレポート作成、プレゼンテーション準備等																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加態度 50%、自主学習レポート 30%、プレゼンテーション 20%																		
学生へのメッセージ	ホスピタリティ産業の最前線であるホテルのなかでも高品質を誇るスモール・ラグジュアリーホテルの現状を視察し、ハイスペックな施設や高品質なアメニティー、顧客満足度の高い接遇を体験、理解する絶好の機会です。																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	体験型特別実習 B	科目名 (英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○		
科目ナンバリング	LDL3240e0		

授業概要・目的	本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。 この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。																		
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。 プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。 1. 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 2. 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 3. 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 4. 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 5. 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。																		
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	柏原 郁子, 船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	・2022 年度後期から英語圏（北米・オセアニア）の大学への留学が許可された学生向けの授業である。 ・留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。 ・また、発表（プレゼン）やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、留学に関する様々な手続きを行うため、出席と指示に従って行動することが極めて重要である。 ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者（先輩たち）の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に係る英語表現を習得すること：留学先（現地）での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <方法> 演習形式で、ディスカッションや発表（プレゼン）なども織り交ぜながら行う。 <事前、事後学習課題> 1. 留学準備に必要なことを主体的に調べ、手続きを着実に進めていく。 2. 次回の授業内容について下調べをし、提出物や発表等の準備をする。 ・事前・事後学習に必要とされる総時間数は15時間である。																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に対する取り組む姿勢 60% 留学に関する書類を含めた提出物や課題 40% ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを理解してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 柏原研究室 7号館5階 船本研究室																		
備考	発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	(現地の人々意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) - 留学準備の重要性について - 日本語メールの基本的な書き方指導 - 英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) 2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates) 3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms) 5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) 6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English) - 英文メールの構成 - 海外大学担当者あてに英文メールを作成 7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 9～10. 研修先事情:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) - 文化の差異 - マナーなど 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明) - 自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) - 日本社会・文化について 12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) - 留学先で受ける可能性のあるテストについて - 英語の様々なテストの種類について 13. 安全対策 (Measures of safety) - 保険会社からの説明 - 危機管理 14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表や授業への取り組み (50%)、提出物等 (50%)																		
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																		
担当者の	7号館5階 鈴木研究室																		

研究室等	
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	（現地の人々意思疎通を図る）コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) ・留学準備の重要性 ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定） 2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates) 3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms) 5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) 6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English) ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 9～10. 研修先事情：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) ・文化の差異 ・マナーなど 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表（物や写真を用いて説明） ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など） ・日本社会・文化 12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) ・留学先で受ける可能性のあるテスト ・英語の様々なテストの種類 13. 安全対策 (Measures of safety) ・保険会社からの説明 ・危機管理 14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発表や授業への取り組み（50%）、提出物等（50%）																		
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																		
担当者の	7号館5階 鈴木研究室																		

研究室等	
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3 回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 1 0 回目：安全対策（外務省の事例集） 1 1 回目：医療関連の用語の中国語指導。 1 2 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 1 3 回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 1 4 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 1 5 回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（兪研究室）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策（外務省の事例集）。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（プレゼンテーションなど）60％ 提出物・課題 40％																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（小都研究室）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3 回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 1 0 回目：安全対策（外務省の事例集） 1 1 回目：医療関連の用語の中国語指導。 1 2 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 1 3 回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 1 4 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 1 5 回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（兪研究室）																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策（外務省の事例集）。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（プレゼンテーションなど）60％ 提出物・課題 40％																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（小都研究室）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																		
到達目標	・留学アクション・プランを策定することができる。 ・海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 ・渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 ・渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき 1 時間の事前学習と 1 時間の事後学習が必要です。 プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の 4 つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。 1. 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まかな流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類や Web への記入を行います。 2. 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 3. 留学に係る中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 4. 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <方法> 講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。 <事前、事後学習課題> 1. 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1 時間） 2. 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1 時間）。																		
関連科目	エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40％ 留学アクション・プランの内容：60％																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！ プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	柏原 郁子, 船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	・2023 年度前期から英語圏（北米・オセアニア）の大学への留学が許可された学生向けの授業である。 ・留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。 ・また、発表（プレゼン）やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、留学に関する様々な手続きを行うため、出席と指示に従って行動することが極めて重要である。 ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者（先輩たち）の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に係る英語表現を習得すること：留学先（現地）での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <方法> 演習形式で、ディスカッションや発表（プレゼン）なども織り交ぜながら行う。 <事前、事後学習課題> 1. 留学準備に必要なことを主体的に調べ、手続きを着実に進めていく。 2. 次回の授業内容について下調べをし、提出物や発表等の準備をする。 ・事前・事後学習に必要とされる総時間数は15時間である。																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に対する取り組む姿勢 60% 留学に関する書類を含めた提出物や課題 40% ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを理解してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 柏原研究室																		
備考	7号館5階 船本研究室																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに値する責任と義務をはじめに確認し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等についての解説を受け、正確に理解する。そうすることで、ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うことができる。スペインの歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を修得する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ発給申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（サラゴサ大学において留学期間中に受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な文法用語を含めた語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の継続履修、スペイン語技能検定 3 級合格、スピーチコンテスト参加等） 各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。 授業時間外の課題として配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）を履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、自己紹介は言うに及ばず日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報を入手し、知識を得る努力を怠らないこと。 留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を理解し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ発給のための申請方法等についての解説を受け、正確に把握する。そうすることで、ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うことができる。スペインの生活習慣、歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を修得し、自分自身と日本文化についてスペイン語で紹介できるようになる。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、留学先での教室内外で、異文化圏の人びとと積極的に意見交換ができる基本姿勢を身につける。																		
授業方法と留意点	遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業内容は以下の通りである。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（留学期間中にサラゴサ大学において受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。 授業時間外の課題として配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、自己紹介は言うに及ばず日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報を入手し、知識を得る努力を怠らないこと。 留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧める。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されたことを次の行動に反映させること。現地留学の可否など流動性が極めて高い状況を常に認識しておくこと。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 ・ガイダンス（学部合同のものもある） ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（アリカンテの歴史・地理、両大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝100%） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。 留学は、現在の世界の状況、今後起こり得る予期せぬ事態に大きく左右されることを念頭に置いておくこと。																		
担当者の研究室等	安達研究室																		
備考	現地留学の可否など流動性が極めて高い状況を常に認識しておくこと。 留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個々人の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うサポートをする。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉強において必要となる基礎的な知識を得る。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	・すべて出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉強と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、メキシコに関する複数の文献を読み、留学先国の情報収集を行い、探究したいテーマを見つけレポートを作成すること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目	スペイン語科目、エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	異文化圏に順応することは容易なことではありませんが、留学先の国・地域の歴史と文化をよく知り、基礎的なスペイン語の文法力とコミュニケーション力を身につけておけば、早期に順応できます。重要なことは好奇心です。留学先の国のことをなんでも調べてみよう、吸収しようという姿勢を最も大切です。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ネイティブのオンライン研修に参加する場合がある。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	現地留学の可否など流動性が極めて高い状況を常に認識しておくこと。 毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。オンラインによる指導となるので、連絡（確認・報告・返答）を怠らないこと。留学が再開できるかについては、状況を注視する必要があるが、現時点で非常に厳しい状況にあることを充分に把握しておくこと（中止の可能性）。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 以下の点を扱う。 ・ガイダンス（学部合同のものもある） ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（アリカンテの歴史・地理、大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝100%） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。 留学は、現在の世界の状況、今後起こり得る予期せぬ事態に大きく左右されることを念頭に置いておくこと。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	現地留学の可否など流動性が極めて高い状況を常に認識しておくこと（危険性を自ら考慮のこと）。 留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個々人の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけていくことを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。																		
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイドンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。																		
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																		
学生へのメッセージ	留学生生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																		
担当者の研究室等	浦野研究室（7号館4階）																		
備考	予習・復習を15時間以上すること。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。																		
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイダンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。																		
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																		
学生へのメッセージ	留学生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考	予習・復習を15時間以上すること。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続などを行い、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。 プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義と演習を通して学修を進める。各テーマについて二回の授業を充てる。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュール等 etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況 (100%) から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続などを行い、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。 プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義と演習を通じて学修を進める。各テーマにつき二回の授業を充てる。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュール等 etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況 (100%) から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																		
到達目標	・留学アクション・プランを策定することができる。 ・海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 ・渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 ・渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき 1 時間の事前学習と 1 時間の事後学習が必要です。 プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の 4 つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。 1. 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まかな流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類や Web への記入を行います。 2. 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 3. 留学に係る中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 4. 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <方法> 講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。 <事前、事後学習課題> 1. 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1 時間） 2. 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1 時間）。																		
関連科目	エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40％ 留学アクション・プランの内容：60％																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！																		
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。またネイティブとのオンライン研修を活用して基礎的なコミュニケーション力を身につけ、スペイン語でのプレゼンテーションを行う。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉学において必要となる基礎的な知識を得る。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペイン語によるコミュニケーション力を高めるとともに、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	すべて参加し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） ・オンラインスペイン語研修による基礎的なコミュニケーション力を強化し、成果をプレゼンテーションする。 授業時間外の課題として、メキシコに関する複数の文献を読み、留学先国の情報収集を行い、探究したいテーマを見つけレポートを作成すること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目	スペイン語科目、エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	諸手続きの指示を正確に理解し、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	異文化圏に順応することは容易なことではありませんが、留学先の国・地域の歴史と文化をよく知り、基礎的なスペイン語の文法力とコミュニケーション力を身につけておけば、早期に順応できます。重要なことは好奇心です。留学先の国のことをなんでも調べてみよう、吸収しようという姿勢を最も大切に。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回：授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま？」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央, 上田 達, 金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹, 小都 晶子, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子, 中西 正樹, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹, 藤井 嘉祥, 北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史, 鈴木 大介, 田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子・天野 貴史・田浦 アマンド
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子, 高橋 真理子, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇, 齋藤 安以子, 高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史, 藤原 崇, フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーギー、鳥居 祐介、藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣, 鳥居 祐介, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド, 天野 貴史, 森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ, 齋藤 安以子, 鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	【授業テーマ】 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7 号館 4 階)		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	ヨーロッパの歴史に関する知識を深めながら、歴史学の方法を学び、自身の関心あるテーマについて調べ、発表を行う。																		
到達目標	歴史的な視点からヨーロッパの歴史を理解するとともに、文献などを通して適切に情報を集める方法を身につける。また、情報を整理し、自分の考えを表現する力を養う。																		
授業方法と留意点	主に学生の発表を中心に授業を行う。発表しない学生も、それに関して質問したり、意見を述べたりして、ディスカッションを行う。期末には授業中に行った発表をもとに、そこでの指摘を改善し、レポートを作成する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自自分の関心のあるヨーロッパの歴史について調べ学習をして、授業ではそれを発表しディスカッションする。適宜、共通のテーマの史料・文献なども読んで歴史の知識を深めて考える内容も行う。 【事前学修】 文献収集をし、自分のテーマについて知識を深める。 【事後学修】 授業中に指摘された点について、調べなおしたり、検討しなおしたりする。そうしたことを、次回の発表や期末レポートのために整理する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動参加 30%、授業中の発表や研究の進み具合 40%、期末レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	ゼミは、自分の好きなテーマを深めて考え、またゼミ生の仲間とともに高めあう場です。一つの共同体として、楽しく行うことも心掛けながら、しっかりと発表などは責任を持ち自分の役割を果たすことが求められます。できるだけリラックスして、いろいろな意見が言えるようなゼミを運営していきたいと思いますが、しっかり個人でやるべきことはやっていきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 加来研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	連絡がつく状態をいつも維持しておくこと（連絡を確認していないことで生じる不利益について自分で責任を負うこと）。日頃から、物事について思考を巡らせること。毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。メールおよび Webfolder、その他のツールを用いて課題の提出・添削や資料配布を行うこともある。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペイン語・英語・日本語について（文法、語彙、表現）の研究、社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思われるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代語の文法、語彙、地域変種（～の英語、ラテンアメリカのスペイン語、日本語の文法など） ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、ヨーロッパの複言語主義など。 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																		
関連科目	言語系の科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題および授業中の発表内容の精度 100%																		
学生へのメッセージ	メールでの連絡を見落とさず必ず応答すること。疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。3 分の 1 以上の欠席は落第となる。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	小説を読む習慣を身に着けるとともに、物語を通して身近な物事に興味を持つ。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く ――「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」―― 現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずかに四半世紀のことである。 時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット (BBS, SNS) である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。																		
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 今年度は基礎的文献として東浩紀『動物化するポストモダン』を取り上げる。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td><td>小笠原喜康</td><td>講談社現代新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td>動物化するポストモダン</td><td>東浩紀</td><td>講談社現代新書</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	動物化するポストモダン	東浩紀	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書																
2	動物化するポストモダン	東浩紀	講談社現代新書																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室																		
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。																		
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。																		
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。 後半はディスカッション等に当てる。 レポート等の提出課題は評価を記して返却する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、7 月に行われる 4 年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。 ②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。 【事前・事後学習課題】 自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2022―</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミの手引き―「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）―</td><td>浦野ゼミ</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2022―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミの手引き―「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）―	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2022―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミの手引き―「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）―	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況（50%）、レポートの内容（50%）により、総合的に判断します。 なお、1 回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。																		
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤めましょう。																		
担当者の研究室等	浦野研究室 (7 号館 4 階)																		
備考	事前事後学修時間数の目安は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。																		
到達目標	・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。																		
授業方法と留意点	・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発言することによって理解を深めていく。 ・学期後半には卒論の構想にも着手する。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。 ・学期末にレポート課題を課す。 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは 15 回目の授業のなかで実施する																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] ①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） [事前事後学習課題] 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中 1 回レポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開発経済学入門</td><td>戸堂康之</td><td>新世社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マイケル・ポーターの競争戦略</td><td>ジョアン・マグレッタ</td><td>早川書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社																
2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房																
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションと発表の質（討論の内容、発表の内容）50% ・発言等のゼミへの参加意欲 30% ・レポートの内容（論点の絞り込みと論の展開）20%																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言すること、他人の言葉をしっかり聞くことを強く意識してください。 2 年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから 2 年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7 号館 5 階)		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。																		
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。																		
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 課題などのフィードバックは授業中に行う。 昨年よりも攻めの姿勢で、自分にできることを探して過ごしましょう。日々、社会の情報を多角的に捉える練習ができます。まずは健康と安全な気持ちで。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 なんとなく観て聞いておもしろい、を超えた分析をできるように、時事ニュースや文学作品を出発点に文献を集めたり、ディスカッションしたりします。予習で映像をじっくり観ること、を指定する週もあります。 また、学期中に複数回、ビブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業にて紹介します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業にて紹介します																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	・授業での協働作業 30% ・プレゼンテーション 30% ・レポート 40%																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室																		
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか 事前事後の総学習時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。)		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙調査、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・(人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。																		
到達目標	*専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。																		
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4 年時の卒業研究につなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】（毎回 1.5H） 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。 学期末には、コメントを参考に再度レポートを加筆修正して提出する。																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文献資料、プリントを配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業で指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (10%)、発表及びその他課題 (30%)、レポート (60%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語や日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。課外ゼミでは、様々な日本語教育機関を訪問し、外国人学習者と交流します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	(1st term) Theme: Australian culture We will look at different cultural aspects in Australia, famous places to visit, multiculturalism and the differences in English in Australia compared to the UK, New Zealand, Canada and the US, as well the political system there for an overview of the country compared to Japan.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade. 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) We will concentrate on Australian culture topics, and building up reading skills in the first term. Youtube (Ted talks) will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged. Reading books in English for pleasure is a core part of the seminar class, to build up the 4 skills. Online reading, borrowing books from the library, and reading everyday is an essential part of your time outside class time. Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic including tourism, travel, hospitality, Australian culture, and World Englishes.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ON-TIME attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for thesis research will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to read, join t																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on tr																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 田浦研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習内では、学生自身が発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50％）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50％）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。																		
到達目標	前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。																		
授業方法と留意点	・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 ― グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいだと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。また、それに基づいて、後期の文化演習Ⅱにつながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。																		
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論・研究発表、レポートの作成などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。 ・提出物や発表（プレゼン）については、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・(国際) ビジネスや (グローバル) マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションや研究発表を行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前・事後学習課題】 ・各研究テーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容に基づいて、さらに調査・分析を行い、理解と考察を深める。																		
関連科目	文化演習Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢・発表 (50%)、 レポートなどの提出物 (50%)																		
学生へのメッセージ	卒業後、社会人として活躍できる人材の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室																		
備考	・事前・事後学習総時間は (2 単位の科目であるため) 60 時間を目安とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中 3 言語によるブログ掲載である。		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。		
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら、その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査、取材に出かける。現地へ行く前には事前調査、現地へ行ったあとには情報の整理、日本語文による記事の執筆、外国語への翻訳、ブログの編集などの作業を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	現地調査においては、調査先での解説板など文字資料の記録、写真撮影、インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前、授業後には計 1 時間程度をかけて調査報告の作成を行う。		
関連科目	専攻する言語の外国語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、ブログ執筆への貢献度 (40%) をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	総学修時間数は 60 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	4 技能の向上を目指し、さまざまな ICT 教材の教材研究を行いながら、実践的に ICT 英語学習に取り組み、効果的な学習方法を探ります。また学習継続するための教材に必要な要素・学習継続につながる動機付けについても考察する。																		
到達目標	(1) 4 技能を高める ICT 教材を知る (2) 自分の興味・英語力にあった ICT 教材を選択することができる (3) 目標とする資格試験に必要な英語学習量を把握できる																		
授業方法と留意点	さまざまな ICT 教材を紹介しながら、自身の興味・英語力にあったリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの教材に取り組み、教材内容・学習履歴について毎週検討を行います。課題に関するフィードバックは授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 4 技能を高めるさまざまな ICT 教材を実践的に活用し、学習継続するための必要な要素を考察する。 Reading・Listening・Speaking・Writing をテーマに、各テーマに特化した ICT 教材に取り組み、その学習履歴データと英語力の変化の変遷を記録する。個別コーチングも取り入れ、学習継続を実践する。授業期間内に、各自希望する資格試験を受験し、学習履歴と得点との関連を客観的に考察する。 【事前事後学習課題】 毎回紹介する ICT 教材を授業外で積極的に活用することが望まれる。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	教材への取り組み (50%)、プレゼン発表及びその他課題 (20%)、レポート (20%)、授業への貢献 (10%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	自分の苦手・得意な分野を ICT 教材を積極的に活用し、楽しみながら学習継続できる方法を探して下さい。目標とする資格試験の得点に届くよう伴走していきたいと思っています。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 柏原研究室																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。																		
到達目標	他人の意見に耳を傾け、それに対する意見を発信できる。 他者と強調しながら、課題解決に向けて議論できる。 自分の意見を述べ、考えを整理できる。																		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。 発表や提出物はすぐにフィードバックします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階																		
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material. 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Describing Characters Week 3: Describing Narrative Week 4: Lettering and Word Balloons Week 5: Use of Line Week 6: Use of Color Week 7: Symbols and Sound Effects Week 8: Panel Layout Week 9: Poster Project Week 10: Poster Project Week 11: Poster Project Week 12: Poster Project Week 13: Presentation Project Week 14: Presentation Project Week 15: Presentation Project																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Presentation 20% Poster 20% Short Writing 15% Weekly Quiz 15% Worksheets 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーバー研究室																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	マイノリティと人権をキーワードに、ジェンダー、移民、多様性などの観点から基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。																		
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを徐々に絞り込んでいく。																		
授業方法と留意点	・指定図書を入手し、指定された範囲についてのレポートを、指定された形式で期日までに提出すること。 ・さらに深く調べてわかったこと（レポートに書くべき事項に含む）や考察をもとに、議論の機会を設ける。そこでの積極的な発表を行うこと。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 マイノリティ、人権、多様性の包摂、グローバル市民社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。 学期に 2 冊、年間 4 冊は基本的な共通文献を読む。 【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから論点と疑問点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	レポートへの取り組み・提出状況 (40%)、レポートの内容と質 (30%)、議論への参加 (30%)																		
学生へのメッセージ	専攻言語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることが大切です。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること (総時間数は 60 時間)。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work. 課題などのフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office. 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は 6 0 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱い分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業参加 30%、課題準備 20%、発表 30%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。 ★Teams で連絡をします。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	対象とする国／地域の社会や文化について、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国／地域をとりあげてテーマを設定し、発表、討論する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 対象とする国／地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																		
到達目標	【以下の 2 つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマに関連するテキストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。 3. 学生へのフィードバックは slack もしくは対面で実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																		
学生へのメッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計 60 時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する。 「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む ・課題等のフィードバックは授業中に行う。 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性） 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室）																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力と関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	グローバル社会において、英語が様々な地域においてどのように学ばれ、どのように使われているかを理解する。 第二言語習得・英語教育の基礎理論について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。 身近な場所での英語の使用状況について、フィールドワークを通して情報を収集・分析し、理解する。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習 I では主に第二言語習得、世界での英語使用状況や英語教育の現状に焦点をあてる予定である。理論や実践について学ぶとともに、それに基づき、履修生自身の英語スキルが高められるよう、授業内で様々なアクティビティを行う。同時に、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。フィールドワークも実施する予定である。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。 授業外での学習時間は 60 時間程度である。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	主として人文地理学における研究方法を实践を通じて身に付けることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的スキルを習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・閲読・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな方法や手順について担当教員がレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆授業テーマ：都市圏における諸問題へのアプローチ ・授業前半（第1～9回）では、論文探索法、基本的な資料の紹介、文献講読を行う。 ・授業後半（第10～15回）では、現代の都市における諸問題について各自レポートを作成する。 ◆内容、方法 1) 研究とは何か……学術研究とはどういう営みかを理解する（第1回）。 2) 問いの設定……テーマ設定の過程・方法について理解し実践する（第1回）。 3) 文献講読……問いに関連する論文・書籍等の探索・収集・精読・情報整理の方法を学び、実践する（第2～9回）。 4) 情報収集……地域に関する資料の収集方法を学び、実践する（第10～15回）。 5) 文章作成……レポートの作成法を理解し実践する（第10～15回）。 ◆事前・事後学習課題 授業に出席するだけで研究に必要なスキルを身につけることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むほか、日頃から自主的に興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行うこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	提出された課題やレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階小林特任講師室																		
備考	※用事がある場合は必ず事前にメールで連絡すること（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	心理統計を使用して、様々なテーマについて分析します。 特に言語に関するテーマを扱います。																		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 ・心理統計の手法を利用したデータ分析能力の基礎を身につけることをめざします																		
授業方法と留意点	文献を読んで、内容を発表してもらいます この授業は対面形式で実施します 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	心理統計の手法を使って、データを分析します。 授業中に読んだ文献や教科書についての復習を通じて、ごく基礎的な心理統計の使い方を身につけるください																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方</td><td>白井 祐浩</td><td>創元社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies SeminarⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミ活動への取り組み（100％）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	ヨーロッパの歴史に関する知識を深めながら、歴史学の方法を学び、自身の関心あるテーマについて調べ、発表を行う。																		
到達目標	歴史的な視点からヨーロッパの歴史を理解するとともに、文献などを通して適切に情報を集める方法を身につける。また、情報を整理し、自分の考えを表現する力を養う。特に後期は、卒業論文に向けて、より専門的に文献を集めたり、報告をしたりする力を身につけます。																		
授業方法と留意点	主に学生の発表を中心に授業を行う。発表しない学生も、それに関して質問したり、意見を述べたりして、ディスカッションを行う。期末には授業中に行った発表をもとに、そこでの指摘を改善し、レポートを作成する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自自分の関心のあるヨーロッパの歴史について調べ学習をして、授業ではそれを発表しディスカッションする。適宜、共通のテーマの史料・文献なども読んで歴史の知識を深めて考える内容も行う。 【事前学修】 文献収集をし、自分のテーマについて知識を深める。 【事後学修】 授業中に指摘された点について、調べなおしたり、検討しなおしたりする。そうしたことを、次回の発表や期末レポートのために整理する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動参加 30%、授業中の発表や研究の進み具合 40%、期末レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	ゼミは、自分の好きなテーマを深めて考え、またゼミ生の仲間とともに高めあう場です。一つの共同体として、楽しく行うことも心掛けながら、しっかりと発表などは責任を持ち自分の役割を果たすことが求められます。できるだけリラックスして、いろいろな意見が言えるようなゼミを運営していきたいと思いますが、しっかり個人でやるべきことはやっていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 加来研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	連絡がつく状態をいつも維持しておくこと（連絡を確認していないことで生じる不利益について自分で責任を負うこと）。 日頃から、物事について思考を巡らせること。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 メールおよび Webfolder、その他のツールを用いて課題の提出・添削や資料配布を行うこともある。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペイン語・英語・日本語について（文法、語彙、表現）の研究、社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代語の文法、語彙、地域変種（～の英語、ラテンアメリカのスペイン語、日本語の文法など） ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、ヨーロッパの複言語主義など。 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																		
関連科目	言語系の科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題および授業中の発表内容の精度 100%																		
学生へのメッセージ	メールでの連絡を見落とさず必ず応答すること。 疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。 3 分の 1 以上の欠席は落第となる。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	前期に引き続き、読書の習慣を継続・発展させる。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3F 天野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く ―「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」― 現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずかに四半世紀のことである。 時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット（BBS、SNS）である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。																		
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td><td>小笠原喜康</td><td>講談社現代新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%）、レポート（40%）で評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室																		
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。																		
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。																		
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人 30 分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「3 年次レポート」を作成、提出する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気くばり」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、4 年ゼミ生との合同ゼミ合宿（秋）および 1 月に行われる 4 年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。 ※2022 年度はコロナ禍の状況次第では、ゼミ合宿が中止となる場合がある※ 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジュメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「3 年次レポート」を作成する。 ちなみに、2020 年度生が取り組んだテーマ（「3 年次レポート」のタイトル）は次の通り。 「LGBTQ の広まり」「サウナの存在意義」「セブンイレブンの商品開発」「100 円ショップにおける差別化戦略」「デパートコスメをめぐる総合的研究」「アニメ・マンガにおける先入観」 【事前、事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2022—</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2022—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2022—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ討論への積極的な参加状況 (50%)、「3 年次レポート」の成果 (50%) により、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（浦野研究室）																		
備考	事前事後学習時間数の目安は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。 卒論のテーマの絞り込みも進める予定である。																		
到達目標	・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 ・自身の研究に必要な資料・データを収集できる。 ・自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 ・随時、卒論の構想についての発表も行う。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） 【事前事後学習課題】 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期末にレポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開発経済学入門</td><td>戸堂康之</td><td>新世社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マイケル・ポーターの競争戦略</td><td>ジョアン・マグレッタ</td><td>早川書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社																
2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房																
3																			
評価方法（基準）	・討論とプレゼンの内容とスキル 50% ・輪読その他のゼミ活動への参加意欲 30% ・レポートの内容（各自の研究課題の進捗状況） 20%																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。 2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は 60 時間とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies SeminarⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。																		
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。																		
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてられるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と考察を行います。 （参考：2021 年度は、「多言語で、子どもたち向けの、記憶に残る 防災教育ビデオ（5 分程度）」を共同作成しました。すでに世界で制作されている防災教育用のオンライン動画を調査し、その表現方法・特徴・メリットの比較をしたのち、自分たちにしか作れない、新しい形式の伝え方を考えました。） 前期と比べて制作料の多いゼミになるでしょう。大量に考え、話して、作ります。また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接対象を調べて一次資料を得たり、立場の違う人にインタビューしたりなど、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業にて紹介します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業にて紹介します																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・授業での協働作業 30% ・プレゼンテーション 30% ・レポート 40%																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 （これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙調査、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 * 日本語学習者の言語習得 * 日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 * 外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション * 海外における日本語教育 * 在住外国人や留学生に関すること 等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。																		
到達目標	* 専門的な知識を得る。 * 文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 * テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 * アカデミックライティングのスキルを身につける。 * ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 * 卒業研究のテーマの設定を行う。																		
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4 年時の卒業研究につなげていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】（毎回 1.5H） 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文献資料、プリントを配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業で指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加度（10%）、発表及びその他課題（30%）、レポート（60%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 前期に引き続き、課外ゼミでは、日本語教育機関を訪問したり、外国人学習者と交流するプロジェクトを行います。																		
担当者の研究室等	門脇研究室（7 号館 4 階）																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	Theme: Tourism & Hospitality We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, practice tour-guiding and discuss the importance of good service. Traveling around some famous world locations will also be the focus of several classes.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, reading outside class, staying in English 100% is the key to a good grade. 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills using the online reading platform, xreading.com Youtube (Ted talks) will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis research will be carried out this term, ending with presentations on the study achieved. Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Attitude 20% (on time, enthusiastic, using English only, fully involved in the class), Notebook notes (TED comments, in-class notes about content 20%, One powerpoint presentation on a tourism-related topic 20%, xreading 20% 100,000 words, thesis re																		
学生へのメッセージ	Notebook & textbooks required. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, family and friends, benefitting from a mask-free environment if you take the class from home and English discussions to																		
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor 田浦研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習内では、学生自身が発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50％）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50％）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	事前事後の総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上の小さなレポートの集りを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポート群を卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。																		
到達目標	前期からの通算で、合計少なくとも 12000 字以上のレポートを提出すること。																		
授業方法と留意点	・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3 年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいだと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	3 年次前期までに培った学術的な知識やスキルに基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。また、それに基づいて、4 年次の卒業研究につながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。																		
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論・研究発表などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。 ・提出物や発表（プレゼン）については、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・（国際）ビジネスや（グローバル）マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前・事後学習課題】 ・各研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容に基づいて、調査・分析を行い、理解と考察を深める。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢・発表（50%）、レポート・プレゼンなどの成果物（50%）																		
学生へのメッセージ	卒業後、社会人として活躍できる人材の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室																		
備考	・事前・事後学習総時間は（2 単位の科目であるため）60 時間を目安とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中 3 言語によるブログ掲載である。		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。		
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら、その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査、取材に出かける。現地へ行く前には事前調査、現地へ行ったあとには情報の整理、日本語文による記事の執筆、外国語への翻訳、ブログの編集などの作業を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	現地調査においては、調査先での解説板など文字資料の記録、写真撮影、インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前、授業後には計 1 時間程度をかけて調査報告の作成を行う。		
関連科目	専攻する言語の外国語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%）、ブログ執筆への貢献度（40%）をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）		
備考	総学修時間数は 60 時間。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	4 技能の向上を目指し、さまざまな ICT 教材の教材研究を行いながら、実践的に ICT 英語学習に取り組み、効果的な学習方法を探ります。また学習継続するための教材に必要な要素・学習継続につながる動機付けについても考察する。																		
到達目標	(1) 4 技能を高める ICT 教材を知る (2) 自分の興味・英語力にあった ICT 教材を選択することができる (3) 目標とする資格試験に必要なとなる英語学習量を把握できる (4) 学習継続するための動機付けについて理解する																		
授業方法と留意点	さまざまな ICT 教材を紹介しながら、自身の興味・英語力にあったリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの教材に取り組み、教材内容・学習履歴について毎週検討を行います。課題に関するフィードバックは授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 4 技能を高めるさまざまな ICT 教材を実践的に活用し、学習継続するための必要な要素を考察する。 Reading・Listening・Speaking・Writing をテーマに、各テーマに特化した ICT 教材に取り組み、その学習履歴データと英語力の変化の変遷を記録する。個別コーチングも取り入れ、学習継続を実践する。授業期間内に、各自希望する資格試験を受験し、学習履歴と得点との関連を客観的に考察する。 【事前事後学習課題】 毎回紹介する ICT 教材を授業外で積極的に活用することが望まれる。																		
関連科目	文化演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	教材への取り組み(50%)、プレゼン発表及びその他課題（20%）、レポート（20%）、授業への貢献（10%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	自分の苦手・得意な分野を ICT 教材を積極的に活用し、楽しみながら学習継続できる方法を探して下さい。目標とする資格試験の得点に届くよう伴走していきたいと思っています。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 柏原研究室																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つけ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。		
到達目標	自分の意見を述べ、考えを整理できる。 上記について文章で論理的にまとめられる。 各自の関心あるテーマについて基本的な資料収集ができる。		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。 事前事後学習時間の目安は計60時間。 発表や提出物は、すぐにフィードバックします。		
関連科目	文化演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different social issue. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material. 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Writing: Planning and Outline Week 9: Writing: Body Week 10: Writing: Conclusion Week 11: Writing: Literature Review Week 12: Writing: Introduction Week 13: Paper Editing Week 14: Paper Presentation Week 15: Graduation Paper Preparation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Presentation 20% Academic Paper 35% Weekly Quiz 15% Worksheets 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	マイノリティをキーワードに、人権、ジェンダー、移民、多様性などの観点から基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなど研究の手法を指導する。																		
到達目標	文化演習Ⅰで得た基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマと構成を定めるまでに至る。																		
授業方法と留意点	毎回担当箇所を決め、全員が発表を行う。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養うよう意識して臨んでもらいたい。課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、各自のレポートはその都度添削し返却する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 マイノリティ、人権、多様性の包摂、グローバル市民社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。学期に2冊、年間4冊は基本的な共通文献を読む。各自の研究テーマに即した主要文献を薦め、卒業研究に着手しはじめる。 【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること（総時間数は60時間）。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work. 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱い分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業参加 30%、課題準備 20%、発表 30%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	対象とする国／地域の社会や文化に関する文献を輪読するとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国／地域をとりあげてテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 対象とする国／地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への貢献（50%）、発表・レポート（50%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																		
到達目標	【以下の2つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマの関連テキストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																		
学生へのメッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する。 「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む ・課題等のフィードバックは授業中に行う。 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性） 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室）																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	自らの関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、さらに知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。																		
到達目標	英語がどのように国際語として使われているかを理解する。 英語教育の基礎理論・手法について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。 自ら関心のあるトピックについて、適切な手法を検討し、データの収集を行う。																		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習Ⅱでは主に英語教育の手法、国際語としての英語の使用状況に焦点をあてる予定である。卒業研究に向けて、様々な理論やデータに対する知識をさらに深めるとともに、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。フィールドワークの実施も予定している。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べることなどが含まれる。参考文献は随時、授業内で紹介する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室																		
備考	授業外での学習時間は60時間程度である。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	人文地理学と関連分野の研究方法を、実践を通じて身に着けることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的スキルを習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・閲読・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな手順について担当教員が手短かにレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆授業テーマ：都市圏における諸問題へのアプローチ ・授業前半（第1～9回）では、統計データの収集、GISを用いた作図、アンケートの設計方法について、課題への取り組みを通じて学習する。 ・授業後半（第10～15回）では、特に自らが関心を持つ分野について独自に問いを設定し、それについて調べ、報告を行う。 ◆内容、方法 1) 公的統計の収集・整理・分析方法について学び、実践する（第1～4回）。 2) GISを用いて統計情報を地図化する方法を学び、実践する（第5～6回）。 3) アンケートの設計方法を学び、実践する（第7～9回）。 4) 有意義な研究テーマ・問いを独自に設定し、調査・報告する（第10～15回）。 ◆事前・事後学習課題 授業時間における作業に取り組むだけで研究に必要なスキルを身に着けることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むことのほか、自主的に興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行うこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ	授業外でも平日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、技能の磨き上げを行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階小林特任講師室																		
備考	※用事がある場合はかならず事前にメールで連絡すること（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。ごく初歩的な心理統計の方法について学びます。																		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。（これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）																		
授業方法と留意点	文献を読み、発表してもらいます 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 心理統計の手法について基礎的な知識を身につけることをめざします。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方</td><td>白井 祐浩</td><td>創元社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ここから始める言語学プラス統計分析</td><td>小泉政利</td><td>共立出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版																
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・研究計画書を作成する（卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む）。 ・調査に着手する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う（100%）。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	事前事後学習60時間																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。 前期末には規定量を執筆し提出する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3 年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。卒研指導に必ず出席すること。 文章を自分で推敲し、書き直しの「答え」を丸投げにしないこと。自分で修正案を考え、書き直すこと。 教員は、間違いや改善点を指摘はするが、考えることや執筆（内容）、書き直し作業の「代行」は決してしない。 メールおよびそのほかのツールを用いても、課題の提出・添削を行う。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、主にスペインや日本の言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、欧州の複言語主義など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究とそのための取り組み 100%																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等の際には、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。 必ず、指定された時間に参加すること（メールなど時間外での指導は基本的に行わない。駆け込みにならぬよう注意）。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。 就活やバイト本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くになって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業制作として発表する。		
到達目標	企画書を作成することができる。 明確な目標を立てることができる。 他のゼミ生と協力して作業を進めることができる。		
授業方法と留意点	卒業研究と就活を両立させること。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講生と相談しながら制作活動を進めていく。 作業日誌をつけること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み・・・100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第 1 章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う（7 月の予定）。 卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加態度・課題の達成 (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室		
備考	事前事後学習時間 計 60 時間。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成。																		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の関心に基づいて、調査主題を設定していく。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の授業への取り組み（20%）と発表内容（30%）、および期末レポート（50%）から総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、7月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。																		
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2022ー</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2022ー	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2022ー	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	毎月のレポート（50％）および積極的に研究を進めていくという受講態度（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	浦野研究室(7号館4階)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。																		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。																		
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。																		
関連科目																			
教科書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%																		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。																		
担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、および日本語圏と関わりを持つ言語と文化 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ゼミ担当者は英語圏の歴史・文化・文学や英語教育を主なテーマとするが、例年、学生が個々に関心をもつテーマを選ぶ。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	・授業中の討論、発表、および毎週提出するレポートを、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	・資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 ・就職活動中も、ゼミの授業課題を溜めずに順序よく仕上げていこう。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade. 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year. Academic writing skills will continue to be studied to help in the process. (Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7 号館 5 階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 （なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。） 2. 個人面談や研究相談については、対面・Teams・メール等、いずれの手段でも可とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等） 50% 卒業研究（研究計画・中間報告を含む） 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究をすすめ、論文を作成する。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が論文作成を進めることを中心としながら、研究内容や論文作成、文献講読の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文執筆の他に、研究計画書の作成、文献講読/発表、調査/調査報告等の執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	計 60 時間以上の事前事後学習を必要とする。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを完成に近づけます。																		
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば 4 章構成の卒研であれば、2 つの章の下書きを書き終え、残りの 2 章にどのような資料を使って何を書くかという用途が立っている状態にする。																		
授業方法と留意点	・週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方ない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。 ・課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポートの進行状況 (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	(国際) ビジネス論やマーケティング論の分野を中心に、各自でテーマを設定し、以下のような点に注目しながら研究を進めていく。 (1) 文献や資料の収集とその活用法 (2) 論文の書式や引用・参考文献等の表記法 (3) 客観的なデータ分析に基づく論文の展開法 など																		
到達目標	研究テーマを決定し、卒業研究レポートの骨子を構築できる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、レポートの作成などを行う。 ・提出物や発表(プレゼン)については、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・(国際) ビジネスやマーケティングなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていく。 ・4～5月： 前年度末の研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認する。 ・5～6月： 論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていく。 卒業研究レポートの骨子を作成し、提出する。 ・7月： 提出した研究レポートの骨子に基づいてプレゼンを行う。それに対してフィードバックを行う。 【事前・事後学習課題】 ・各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容や指導に基づいて、調査・分析を行い、理解と考察を深める。																		
関連科目	卒業研究Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業に取り組む姿勢・発表(50%)、レポートなどの成果物(50%)																		
学生へのメッセージ	卒業後、社会人として活躍できる人物の育成を目指します。 就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	・事前・事後学習総時間は(2単位の科目であるため)60時間を目安とする。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、文化演習で取り組んだテーマを継続的に研究する目的から、この科目の研究テーマも基本的に観光や翻訳と何らかの関わりを持つ内容が望ましい。例えば、「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」というテーマなら、研究の進め方は、英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し、2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	観光の内容を含む語学科目またはパッケージプログラム科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%		
学生への メッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の 研究室等	中西研究室(7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	1. 研究テーマの目的を、社会的背景や文化演習で学んだコミュニケーションの研究と関連付けて理解できること。 2. 研究目的に沿って参考文献や資料を読み、背景知識を身につけ、まとめることができること。 3. 得られた知見を基に、調査や分析を重ね、それらをまとめることができること。 4. まとめた調査内容を基に、自らの視点から考察を加えることができること。 5. 研究成果を取りまとめ、論理的に文章で記述することができること。またそれについて口頭で発表し、的確に受け答えができること。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。調査や分析に加え、独自の視点から考察を加えるようにする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。 事前事後学習は60時間。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次文化演習Ⅰ・Ⅱで各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。																		
到達目標	研究テーマについて、具体的に説明することができる。 研究テーマについて、必要な資料を集め、整理することができる。 研究テーマについて、資料をもとに問題点を見出すことができる。																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。 事前事後学習時間の目安は計60時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の報告・課題作成 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	7号館4階 橋本研究室																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマおよび章立てをもとにしながら、各自で個別研究を深めていく。																		
到達目標	先行研究等に基づきながら、前期中に卒業研究レポートの前半部分を完成させる。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自でスケジュールを立て、ステップごとの提出締め切りをきめる。できるだけ多くの文献を読んで議論のベースを築き、達成可能ではあるが独自性のある問い（問題）を設定すること。口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 基本的には文化人類学が対象とするような、人の暮らしと密接に関わる事例や問いを扱う。先行研究や二次資料に基づきながら分析するとともに、各受講生の問いに関する独自データ収集のために各種フィールドワークを課す。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30％）・レポート（70％）で評価する。																		
学生へのメッセージ	自分が設定した問いに関する、客観的な事実に基づく考察から一つのレポートをまとめていく過程で得られる経験は、すぐ何かのメリットがあるものではないにしても、今後の人生にとって得難いものとなるでしょう。ぜひ真摯に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 金子研究室																		
備考	事前事後学習は60時間。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Write at least 1500 words of your graduate thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Topic Selection Week 2: Research Question and Research Plan Week 3: Selecting Sources Week 4: Writing the Research Section Week 5: Writing the Research Section Week 6: Writing the Research Section Week 7: Writing the Research Section Week 8: Writing the Research Section Week 9: Writing the Research Section Week 10: Writing the Conclusion Week 11: Writing the Conclusion Week 12: Finalizing the Spring Paper Week 13: Research and Reading for the Literature Review Week 14: Research and Reading for the Literature Review Week 15: Research and Reading for the Literature Review																		
関連科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	Draft Submission 1 10% Draft Submission 2 10% Draft Submission 3 10% Draft Submission 4 10% Draft Submission 5 10% Research Portfolio 10% Spring Paper																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識と問題意識をもとに決定した卒業研究のテーマに取り組む。 論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことを重要視する。																		
到達目標	研究テーマをめぐって必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明確に持ち、執筆に取り組む。																		
授業方法と留意点	各自がゼミで発表する機会を設け、疑問点、批判、意見を出しあう。テーマによっては可能な限りフィールドワークや聞き取り調査の準備を進める。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】マイノリティ、人権、ジェンダー、移民、多様性の包摂 卒業研究レポートのテーマを決め、必要かつ的確な資料の収集と分析を進める。 原稿を段階的に提出し、教員が書き入れたコメントをもとに論点を整理したり深めたりすることの積み重ねが重要である。 アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備（成否は質問項目にかかっている）を進め、実施後は結果の分析をもとにテーマについて考察し、文章化する。 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を定期的に準備する。																		
関連科目	専攻言語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、歴史学・社会学・政治哲学系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	問題意識を深めるための取り組み（50%）、研究経過報告（50%）																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて提案しますが、先行研究を自主的・意欲的に読むことでテーマと分析視点とを絞り込んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper. 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 ハーキー研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。 4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。 最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成 前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施 夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表① 後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、（必要であれば）追加調査、分析 1月： 論文提出 1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。 ★Teamsで連絡をします。																		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。課題等に対し、授業中にフィードバックや添削指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ】 ・中国の新語について ・日英のことわざについて 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階（兪研究室）																		
備考	事前事後学習時間数の目安は60時間。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	各自が設定したテーマにもとづいて、卒業研究レポートを作成するための計画を立て、資料収集や調査を実施し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、検討を加える。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①対象とする地域について、各自の関心にしたがって研究テーマを設定する。 ②研究計画（卒業研究レポートの構成）をたてる。 ③計画にしたがって、資料分析や調査を実施する。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、各自の文章化につなげる。 【事前事後学習】 資料収集や調査を実施し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総学習時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で設定したテーマに沿って、各自、資料収集や現地調査を行い、卒業研究レポートの作成に取り組む。各自の研究課題に取り組むなかで、新たな知識を吸収し、思考を深める。																		
到達目標	社会的に意義のある研究課題を発見できる。 研究テーマに関する資料収集や現地調査ができる。 収集した資料を読解し、自身の研究に取り込むことができる。 章立てをつくり、論理的に卒業研究レポートの骨組みをつくることできる。																		
授業方法と留意点	- 論文作成方法のレクチャーを行い、各自のテーマの相談を受け、助言する。 - 最初にひとりひとりとテーマについて面談した後、卒業研究レポート提出までの作業についてガイダンスを行う。各自でスケジュールを立て、計画的に卒業研究を進める。随時、論文作成方法に関して解説する。 - 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、進捗を毎週報告する。 【事前事後学習課題】 先行研究を読解し、自身の研究課題を明確にし、論文の骨組みを作る。 序論として論文全体の構想をまとめる。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出を含む卒業研究の進捗 60% レジュメにもとづく口頭発表 40%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想と論理的に考えられるようになることを期待しています																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約 60 時間。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。																		
到達目標	*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員と大部分のゼミ生は、11月下旬から12月上旬は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																		
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)																		
備考	事前事後学習は60時間																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																		
到達目標	【以下の2つの技術を実践する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【学生主体で進める】 1. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 2. 卒業研究のレポートを随時作成する。 3. 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【論文の質が重視される】 1. 卒業論文 [70%] 2. 質問 [20%] 3. 研究姿勢 [10%]																		
学生へのメッセージ	【より良い論文をめざす】 1. やっつけ仕事ではなく、すこしずつでも日々積み上げていく。 2. 添削された箇所を自分なりにしっかり受け止めて消化する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。 担当教員によるチェックと指導を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階（古矢研究室）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、関連する文献を読み、資料・データを収集し、分析をして卒業研究レポートをまとめていく。																		
到達目標	研究テーマを発見できる。 研究計画を立てることができる。 関連する文献を読んで、まとめることができる。 資料・データを収集し、卒業研究レポートを書き始めることができる。																		
授業方法と留意点	作成した研究計画にあわせて各自で資料収集等をすすめ、授業時に発表・報告をおこなう。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自でテーマを設定し、担当教員と相談しながら研究計画を立て、それに沿って研究をすすめていく。授業時には主に発表・報告を行うため、授業外でしっかりと準備する必要がある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への積極的な参加(30%) 授業における報告・発表(30%) 資料収集・分析(40%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。 対面形式で実施する 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)		
学生への メッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究を遂行し、卒業論文を完成させることを通じて、主に学術的な調査研究を行うための基礎的な能力を身に付ける。																		
到達目標	・先行研究を精読し、検討する意義のある問いを立てることができる。 ・研究目的を達成するうえで適切と考えられる方法で、データを収集、分析できる。 ・確固たるデータまたは論拠に基づいて自らの主張を展開できる。 ・他の学生の研究を適切に評価し、建設的なディスカッションに貢献する力を身に付ける。																		
授業方法と留意点	授業時間内では原則として履修者全員の進捗報告とディスカッションを行う。文献の精読や現地調査、レジュメ作成などの作業は教員の助言や他の学生とのディスカッションを踏まえ、原則として個々人で進めること。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	・卒研のテーマ設定はある程度自由にしてよいが、検討する意義とオリジナリティについて説得的に説明を行えることを条件とする。 ・毎週の授業時間は原則として進捗の報告とディスカッションの場とする。作業を行う時間は個々人自らが確保し、提出期限に間に合うよう研究を進めること。 ・毎回の授業の内容・方法としては以下の通りである。 (1) 各自レジュメを作成・印刷・配布し、他の受講者全員と教員に対して発表する。 (2) 受講者は自分以外の発表に対して質問・コメントを行う。 (3) 教員はそれぞれの発表に対して質問・コメントを行う。 (4) 発表者は質問・コメント・ディスカッションを踏まえ、常に計画の修正を行いつつ研究を進める。 ・前期の学期末にそれまでの研究成果を総括する中間報告会を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業参加と研究への取り組みの積極性 (40%) と、成果物である卒業論文の完成度・水準 (60%) により評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階小林研究室。授業時間外の来室時には必ず事前にアポイントメントを取ることを。																		
備考	事前事後学習は 6 0 時間																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	各自の研究テーマに応じて適宜指示する	
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	研究テーマは必ず自分で決定し、主体的に取り組んでほしい。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 船本研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	本授業では、卒業研究レポート完成に向けて調査・分析・執筆に渡る全般的な能力を養う。各自が研究計画書（Research Proposal）を作成し、発表と議論を通して計画書を練り上げ完成させる。その後、研究レポートの執筆にとりかかる。 授業では、1) 研究分野の絞り込み 2) 先行研究の収集と分析／研究テーマの設定 3) 方法論の選択と一次資料の収集というプロセスを踏んでいくが、実際は各自 1)～3)を行きつ戻りつしながら試行錯誤して少しずつ進捗していくことになる。																		
到達目標	1) 課題発見能力を身に着ける。 様々な事象の中から、自らの関心と社会的な議論が要請されている問題をバランスよく検討・吟味して、課題を発見できる。 2) 調査能力を身に着ける。 先行研究（二次資料）とは何かを理解し、収集・分析することで最新研究の到達点を確認し、未踏部分はどこかを把握できる。 3) オリジナリティを認識できる。 自らの研究のオリジナリティは何であるのかを認識し、文章として表現できる。 4) 方法論を選定できる オリジナリティを生かすための方法論を選択することができる。 5) 一次資料を収集できる。 一次資料とは何かを理解し、様々なアプローチを使用して収集できる。 6) 論理的思考・批判的思考をすることができる。 1)～5)を通して論理的思考・批判的思考とは何かを理解し応用できる。																		
授業方法と留意点	1) 研究テーマによっては、フィールドワーク等の社会調査が必要となるだろう。その場合は、早めに担当教員に相談すること。 2) ゼミ生は各自の進捗状況を定期的に教員に報告すること。 3) フィードバックは、授業中および Teams 上で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず、次の過程をゼミ生それぞれが 2 回繰り返す。 ①研究計画書（Research Proposal）を作成し、発表をする。 ②教員・他のゼミ生からのコメントや批評を受け、議論する。 ③議論を踏まえて研究計画書を加筆修正する。 この過程を通して研究計画書を完成させる。 その後、実際の調査・分析にとりかかる。学期末には、調査・分析の進捗状況を発表する。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	研究計画書（Research Proposal）の発表 2 回 50% 学期末の発表 30% 研究の進捗状況の定期的な報告 20%																		
学生へのメッセージ	ゼミでの議論を通して成長することを期待します。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 森研究室																		
備考	事前・事後学習の総時間数は、目安として約 60 時間とする。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、指定されたスタイルに従った卒業論文を完成させます。																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。 2：それらの資料や文献をまとめ、分析し、論理的にまとめた上で、論文の形式に即した論文にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。 授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。 授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→ 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒論への取り組み（100%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室（7号館4階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50％）と、卒業研究の進捗状況（50％）に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	事前事後学習は 6 0 時間																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。 前期に執筆したレポートを推敲し、加筆修正を行う。																		
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3 年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究とそのための取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。 就活やバイト本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くになって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業制作として発表する。		
到達目標	企画書を作成することができる。 明確な目標を立てることができる。 他のゼミ生と協力して作業を進めることができる。		
授業方法と留意点	卒業研究と就活を両立させること。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講生と相談しながら制作活動を進めていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み・・・100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	11 月下旬までに卒業研究レポート第一稿を完成する。 12 月～1 月 卒業研究レポートの修正作業 原稿の完成とチェック。最終的な OK が出るまで。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への参加態度（30%）、卒業研究レポート（70%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室		
備考	事前事後学習 計 60 時間。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成。																		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	設定した主題およびその近接領域について書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテーターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の授業への取り組み（20%）と、発表内容（30%）、完成した卒業研究レポート（50%）から総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には3年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、1月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、2021年度のゼミ生が取り組んだテーマ（卒業研究レポート題目）は次の通りである。 「日本における音楽フェス」「『ひと』が輝くために―現代社会において求められるもの―」「帽子の表象」「オタクの境界線」「『個性』あふれる喜楽空間―北欧インテリアからみえるもの―」「美少女戦士セーラームーンの影響―戦後日本の変化を読み解く―」 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。																		
関連科目	文化演習Ⅰ・文化演習Ⅱ・卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td><td>浦野ゼミ</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「研究」を進めるために―研究資料ガイド2022―</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2022―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2022―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
評価方法（基準）	積極的に研究を進めていくという受講態度（50%）および卒業研究レポートの内容：完成度（50%）で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。 浦野ゼミではさまざまなイベントがありますが、コロナ禍の状況次第では延期や中止となることもあります。その点、ご注意ください。																		
担当者の研究室等	浦野研究室（7号館4階）																		
備考	事前事後学修時間数の目安は60時間。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階）		
備考	事前事後学習は60時間		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【テーマ】 専攻言語および自分の第1言語と関わりを持つ、言語と文化 【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。 授業の連絡・教材・制作過程の提出などに、Teams と Webfolder と Zoom を利用します。同級生同士、また、教員からの添削を Teams で共有するので、自分のレポート以外の進行状況もわかります。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当者は主に英語圏の歴史・文化・文学や英語教育を専攻範囲テーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	・同級生とのディスカッション 20% ・卒業研究レポート 80%																		
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to enthusiastically, continuous and careful research towards finishing the thesis, and reading outside class are the key to a good grade. 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Once again, oral presentations on thesis topics will take place at the end of the term. Students will continue to discuss different topics connected to TED talks and tourism, and will research a hospitality-related topic and present on that in class. Weekly attendance is recommended to improve students' 4 skills in English, and reading online using xreading.com will be encouraged (100,000 word goal)																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	20% attitude (on time, respectful, in contact, supporting classmates, using English, enthusiastic) 10% Note-taking from class including in-class content and new vocabulary & Ted talk comments 20% One tourism-related powerpoint presentation 10% extensiv																		
学生へのメッセージ	Notebook & textbooks required. Please prepare these. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, family and friends, benefitting from a mask-free environment when taking the class from home and Eng																		
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor, 田浦研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 （なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。） 2. 個人面談や研究相談については、対面・Teams・メール等、いずれの手段でも可とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等） 50% 卒業研究（研究計画・中間報告を含む） 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、論文を完成させる。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	個別に調査、文献講読、分析等を行うとともに、構成員で議論を深めながら論文を完成させる。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文を完成させるために、文献講読/発表、調査/調査報告などといった執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する（平常点：100%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	事前事後学習時間 計 60 時間。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成させます。																		
到達目標	自分自身、指導教員、査読や口頭試問等をしてくださる先生方の全員が満足できる卒業研究レポートを期限内に提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。																		
授業方法と留意点	・前期同様、週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。 ・課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポート (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張っていたらいいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	4年次前期の卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、(国際)ビジネス論やマーケティング論の分野を中心に研究を進め、各自で選んだテーマについて卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力を身につけることができる。 ・各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることができる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、レポートの作成などを行う。 ・提出物（レポート）などについては、授業中にフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 卒業研究レポートの作成を計画的に進めていく。 ・9月：前期の研究内容に基づいて、卒業研究レポートのタイトル（題目）を正式に決定する。 ・10～12月：卒業研究レポートを作成する。 12月の最終授業日に、同レポートを教員に提出し、最終チェックを行う。 ・1月：冬休みを利用し、卒業研究レポートを加筆修正する。 1月の第3月曜日までに同レポートを完成させ、教務課に提出する。 【事前・事後学習課題】 ・各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理する。 ・授業の内容や指導に基づいて、調査・分析を行い、理解と考察を深める。																		
関連科目	卒業研究Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究レポートの完成度（80%）、研究活動に取り組む姿勢（20%）																		
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	・事前・事後学習総時間は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、文化演習で取り組んだテーマを継続的に研究する目的から、この科目の研究テーマも基本的に観光や翻訳と何らかの関わりを持つ内容が望ましい。例えば、「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」というテーマなら、研究の進め方は、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	観光の内容を含む語学科目またはパッケージプログラム科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	1. 研究テーマの目的を、社会的背景や文化演習で学んだコミュニケーションの研究と関連付けて理解できること。 2. 研究目的に沿って参考文献や資料を読み、背景知識を身につけ、まとめることができること。 3. 得られた知見を基に、調査や分析を重ね、それらをまとめることができること。 4. まとめた調査内容を基に、自らの視点から考察を加えることができること。 5. 研究成果を取りまとめ、論理的に文章で記述することができること。またそれについて口頭で発表し、的確に受け答えができること。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。調査や分析に加え、独自の視点から考察を加えるようにする。課題等のフィードバックは授業中に行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰに引き続き、卒業研究を進める。		
到達目標	自分で調べ、考察したテーマについて、まとめて報告することができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。 事前事後学習時間の目安は計60時間。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	毎回の報告・課題 60% 卒業研究レポートの内容 40%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	事前事後学習は60時間		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	「卒業研究Ⅰ」における成果をもとにしながら、各自で定めたスケジュールを守りつつ、個別研究を深めていく。		
到達目標	4 年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自で後半部分を執筆する。論理的な考察と共に明瞭な文章を書くことに留意しつつ取り組んでほしい。口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 基本的には文化人類学が対象とするような、人の暮らしと密接に関わる事例や問いを扱う。先行研究や二次資料に基づきながら分析するとともに、各受講生の問いに関する独自データ収集のために各種フィールドワークを課す。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30%）・卒業研究レポート（70%）で評価する。		
学生へのメッセージ	自分が設定した問いに関する、客観的な事実に基づく考察から一つのレポートをまとめていく過程で得られる経験は、すぐ何かのメリットがあるものではないにしても、今後の人生にとって得難いものとなるでしょう。ぜひ真摯に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 金子研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Complete your thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Paper Planning Week 2: Writing the Literature Review Week 3: Writing the Literature Review Week 4: Writing the Literature Review Week 5: Writing the Literature Review Week 6: Writing the Literature Review Week 7: Writing the Literature Review Week 8: Writing the Introduction Week 9: Writing the Introduction Week 10: Finalizing the Graduation Paper Week 11: Finalizing the Graduation Paper Week 12: Graduation Paper Final Check and Submission Week 13: Thesis Feedback Week 14: Thesis Feedback Week 15: Thesis Feedback																		
関連科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	Draft Submission 1 10% Draft Submission 2 10% Draft Submission 3 10% Draft Submission 4 10% Draft Submission 5 10% Research Portfolio 10% Thesis																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。																		
到達目標	テーマに関して、日本語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし資料・文献を渉猟する。そうして先行研究を整理したうえで、その中に自分の論文の位置づけを見出し、オリジナリティのある論文を作成する。																		
授業方法と留意点	夏期休業中の成果を後期の始めにゼミで報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとに原稿を提出し、教員とゼミ仲間からのコメントを受け、11 月末までに原稿を書き上げる。課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、レポートは個別に添削し、やりとりする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】マイノリティ、人権、ジェンダー、移民、多様性の包摂 後期開講時にはすでに論文の構成は明確に組み立てており、導入部分を執筆していることが求められる。 以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を定期的に準備する。																		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学修に約 60 時間を要する。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper. 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 ハーギー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。 4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から 2 つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。 最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成 前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施 夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表① 後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、（必要であれば）追加調査、分析 1 月： 論文提出 1 月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。課題等に対し、フィードバックや添削指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ】 ・中国の新語について ・日英のことわざについて 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出50%、レポート50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階（兪研究室）																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポートの研究計画にしたがって、資料を収集し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、相互に検討を加え、卒業研究レポートを完成させる。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究計画にしたがって、資料を分析する。 ②発表、討論をふまえて、文章化する。 ③文章を推敲し、全体の構成を組み立てる。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、卒業研究レポートを完成させる。 【事前事後学習】 資料を収集し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への貢献、卒業研究レポートへの取り組み（50%）、卒業研究レポート（50%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総学習時間を60時間程度とする。あわせて、卒業研究レポートの作成を進める。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰで作成した論文の骨組みと序論を土台として、卒業研究レポートを執筆し完成させる。																		
到達目標	集大成としての卒業研究レポートを完成させる。 社会的に意義のある研究課題を設定し、先行研究を踏まえて、論理的に自身の議論を展開できる。																		
授業方法と留意点	・中間報告を交えながら、各自で自分の研究の進捗を随時確認し、スケジュールを立てて計画的に卒業研究レポートの執筆を進める。論文の構成や議論の展開の仕方について随時解説する ・課題等のフィードバックは執筆過程で随時行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、執筆を進め、進捗を毎週報告する。 【事前事後学習課題】 各自資料が集まった部分から執筆を進め、添削を受けて、修正しながら、完成させていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究レポートの内容 70% 卒業研究に取り組む態度 30%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想と論理的に考えられるようになることを期待しています																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約 60 時間。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。																		
到達目標	*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。課題等のフィードバックは執筆過程で随時行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)，論文の内容(80%)により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員と大部分のゼミ生は、11月下旬から12月上旬は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																		
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)																		
備考	事前事後学習は60時間																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																		
到達目標	【以下の2つの技術を実践する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【学生主体で進める】 1. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 2. 卒業研究のレポートを随時作成する。 3. 課題等のフィードバックは執筆過程で随時行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【論文の質が重視される】 1. 発表内容 [90%] 2. 研究姿勢 [10%]																		
学生へのメッセージ	【より良い論文をめざす】 1. やっつけ仕事ではなく、すこしずつでも日々積み上げていく。 2. 添削された箇所を自分なりにしっかり受け止めて消化する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。 担当教員によるチェックと指導を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階（古矢研究室）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいた設定したテーマについて、卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	卒業研究レポートを完成できる。 自らのテーマについて発表できる。 クラスメートとディスカッションし、互いの卒業研究レポートへフィードバックできる。																		
授業方法と留意点	各自で卒業研究レポートを作成していく。授業時は報告・発表を行い、クラスメートとディスカッションし、互いにフィードバックを行う。 課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	資料・データの分析に基づき、卒業研究レポートを完成させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への積極的な参加・取り組み（30%） 卒業研究レポート（70%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	高橋研究室（7号館4階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究を遂行し、卒業論文を完成させることを通じて、主に学術的な調査研究を行うための基礎的な能力を身に付ける。																		
到達目標	・先行研究を精読し、検討する意義のある問いを立てることができる。 ・研究目的を達成するうえで適切と考えられる方法で、データを収集、分析できる。 ・確固たるデータまたは論拠に基づいて自らの主張を展開できる。 ・他の学生の研究を適切に評価し、建設的なディスカッションに貢献する力を身に付ける。																		
授業方法と留意点	授業時間内では原則として履修者全員の進捗報告とディスカッションを行う。文献の精読や現地調査、レジュメ作成などの作業は教員の助言や他の学生とのディスカッションを踏まえ、原則として個々人で進めること。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・卒研のテーマ設定はある程度自由にしてよいが、検討する意義とオリジナリティについて説得的に説明を行えることを条件とする。 ・毎週の授業時間は原則として進捗の報告とディスカッションの場とする。作業を行う時間は個々人自らが確保し、提出期限に間に合うよう研究を進めること。 ・毎回の授業の内容・方法としては以下の通りである。 （１）各自レジュメを作成・印刷・配布し、他の受講者全員と教員に対して発表する。 （２）受講者は自分以外の発表に対して質問・コメントを行う。 （３）教員はそれぞれの発表に対して質問・コメントを行う。 （４）発表者は質問・コメント・ディスカッションを踏まえ、常に計画の修正を行いつつ研究を進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業参加と研究への取り組みの積極性（40%）と、成果物である卒業論文の完成度・水準（60%）により評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階小林研究室。授業時間外の来室時には必ず事前にアポイントメントを取ること。																		
備考	事前事後学習は 6 0 時間																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	各自の研究テーマに応じて適宜指示する	
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	研究テーマは必ず自分で決定し、主体的に取り組んでほしい。		
担当者の研究室等	7号館5階 船本研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	本授業では、前期「卒業研究Ⅰ」で完成させた研究計画書（Research Proposal）に基づいて、卒業研究レポートの執筆を進める。一次資料の収集と分析を繰り返して考察を深める。また、ゼミ内での発表と議論を通して自らの調査・分析を批判的にとらえ、研究としてのレベルアップを図る。集大成として卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	1) 分析能力が身に付く。 一次資料を収集しその分析を行うことで、論理的な帰結としてどういうことが言えるのかを自ら導き出せる。 2) 総合的な考察の結果を導き出せる。 一次資料の収集と分析を繰り返し、様々な検討を突き合わせることで、総合的な考察結果＝結論を出すことができる。 3) 論理的思考・批判的思考が身に付く。 1)～2)を通して論理的思考・批判的思考とは何かを理解し応用できる。																		
授業方法と留意点	研究テーマによっては、フィールドワーク等の社会調査が必要となるだろう。その場合は、早めに担当教員に相談すること。フィードバックは、授業中およびTeams上で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) ゼミ生は、研究の進捗状況についてゼミ内で2回発表する。発表について、教員・他のゼミ生からのコメントや批評を受け、議論する。そして、議論を踏まえて研究の軌道修正を図ったり記述に厚みを持たせたりしていく。 2) ゼミ生は、各自の研究の進捗状況を定期的に教員に報告すること。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	研究の進捗状況の発表2回 30% 研究の進捗状況の定期的な報告 20% 卒業研究レポートの完成度 50%																		
学生へのメッセージ	・ゼミでの活発な議論を通して研究をレベルアップさせ、成長しましょう！ ・卒業研究レポートは、皆さんの大学での学びの集大成です。全力で取り組んでください！																		
担当者の研究室等	7号館5階 森研究室																		
備考	事前・事後学習の総時間数は、目安として約60時間とする。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、指定されたスタイルに従った卒業論文を完成させます。																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。 2：それらの資料や文献をまとめ、分析し、論理的にまとめた上で、論文の形式に即した論文にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。 授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。 授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→ 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		